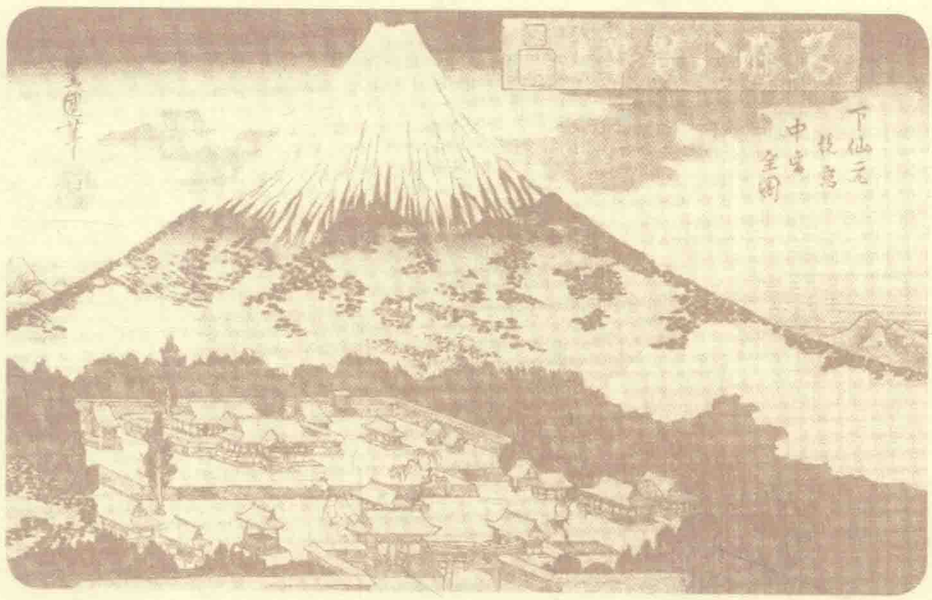
日本漢文史籍叢刊

第一輯

紀傳體

二



上海交通大學出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

圖書在版編目(CIP)數據

日本漢文史籍叢刊. 第1輯，紀傳體 / 孫錦泉，周斌，粟品孝主編 — 上海 ：上海交通大學出版社，2012(2014重印)

ISBN 978—7—313—08539—9

Ⅰ. ①日… Ⅱ. ①孫… ②周… ③粟… Ⅲ. 日本—歷史—史籍—叢刊②日本—歷史—紀傳體 Ⅳ. ①K313—55

中國版本圖書館CIP數據核字(2012)第104126號

日本漢文史籍叢刊　第一輯　紀傳體

主　編　孫錦泉　周　斌　粟品孝

副主編　陳小法　黎春林

上海交通大學出版社出版發行　北京人天書店有限公司經銷

(上海市番禺路951號 郵政編碼200030)

電話:64071208　出版人:韓建民

北京中獻拓方科技發展有限公司印刷

開本:889mm×1194mm 1/16

印張:595　字數:11900千字

2012年7月第1版　2014年1月第2次印刷

ISBN 978—7—313—08539—9/K311—55

定價:16150.00圓(全十九冊)

統　　籌　陳建華　施　維　劉邦權

責任編輯　姜津津　陳建華

營銷編輯　陳　鑫

裝幀設計　陳燕靜

本册目録

大日本史卷之三十五

本紀第三十五

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保　重校

冷泉天皇

冷泉天皇、諱憲平、村上帝第二子也、母皇后藤原氏、天曆四年五月二十四日辛酉、生于丹後守藤原遠規家、日本紀略、大鏡裏書、帝王編年記、○大鏡爲藤原在衡五條家、七月爲親王、居外祖右大臣師輔第、立爲皇太子、日本紀略、帝王編年記、十月入居桂芳坊、六年十二月著袴、八年四月徙凝華舍、日本紀略、十年四月始讀書、大鏡裏書、西宮鈔引小一條記、應和三年二月冠、日本紀略、扶桑略記、大鏡、愚管鈔、納昌子内親王爲妃、康保元年七月加封五百戶、九月上表辭封戶、不許、四年二月罹病、賜度者三十人、修法以禱祈之、五月二十五日癸丑、村上帝崩、即夜羣臣詣襲芳舍、奉劒璽於皇太子、皇太

子踐阼、日本紀略○按本書一說、扶桑略記、皇年代略記、襲芳作凝華、而毘沙門堂所藏記與本書合、今從之、左大臣藤原實頼、右大臣兼左近衛大將源高明、大納言兼右近衛大將藤原師尹並如故、公卿補任、六月戊午朔、日有食之、日本紀略、四日辛酉、葬村上天皇、日本紀略、醍醐寺雜事記引帝皇系圖、九日丙寅、使左右近衛植樹村上山陵、十日丁卯、修息災調伏法於弘徽殿、日本紀略、二十二日己卯、以左大臣藤原實頼爲關白、日本紀略、公卿補任、百錬鈔爲二十七日、○大藏卿源盛明爲親王、秋七月九日丙申、始班延喜式、日本紀略、九月丙戌朔、立皇弟守平親王爲皇太弟、日本紀略、扶桑略記、醍醐寺雜事記引帝皇系圖、大納言兼右近衛大將藤原師尹爲傅、公卿補任、榮華物語、四日己丑、立妃昌子内親王爲皇后、公卿補任、日本紀略、中右記嘉承二年、以藤原懷子爲女御、日本紀略、大鏡裏書、○按榮華物語爲明年二月朔入內、蓋誤、九日甲午、黑雲見西方、青虹暈月、有流星如月、日本紀略、衆星西流、終夜散錯、狀如刀劒、日本紀略、扶桑略記、十日乙未、黃雲見東方、十三日戊戌、以

星變大赦天下、常赦所不免者悉赦、十六日辛丑、大索、（日本紀略）十九日甲辰、奉幣伊勢已下諸社、禳天變、（日本紀略、爲奉幣告將即位、然園太暦文和二年、以告即位係二十二日、而以是日爲禳天變、今從之、）冬十月十一日丙寅、天皇即位於紫宸殿、時年十八、（日本紀略、大鏡裏書、帝王編年記、皇年代略記、○百錬鈔、源平盛衰記係十一月十一日、一代要記十一月朔、）自在東宮、罹病未愈、以故不御大極殿、（日本紀略、古事談、）即位於紫宸殿始于此、（百錬鈔、皇年代略記、）十一月七日辛卯、定諸國交替使、（日本紀略）二十九日癸丑、

追尊皇后曰皇太后、（大鏡裏書）十二月十三日丁卯、以左大臣實頼爲太政大臣、關白仍舊、右大臣源高明爲左大臣、大納言藤原師尹爲右大臣、（公卿補任、日本紀略、扶桑略記、）十七日辛未、修熾盛光法於麗景殿、七日、十九日癸酉、轉讀大般若經、三日、二十六日庚辰、遷御麗景殿、（日本紀略）

安和元年戊辰、春正月、以諒闇停諸節會、五日己丑、天皇始覽官奏、二月四日丁巳、大風雷、三月二十六日己酉、有狼自春宮坊西門入中院、瀧口射獲之、二十七日庚戌、有羽蟻起于敷政門、夏四月癸丑朔、有犬上殿嚙御座、三日乙卯、羽蟻如雲、起于麗景殿淑景舍敷政門陽明門、七日己未、地動、十五日丁卯、臨時奉幣、（○本書社名闕）五月二十日壬寅、洪水、二十六日戊申、河溢、六月五日丁巳、弗豫、命關白實頼覽官奏、十三日乙丑、省試、（日本紀略）秋七月壬午朔、卜定輔子内親王爲齋宮、尊子内親王爲齋院、（日本紀略、一代要記、）三日甲申、卜霖雨於

軒廊、十五日丙申、鞫問東大興福兩寺僧徒鬭爭、二十七日戊申、月與太白相犯、八月三日甲寅、地震、（日本紀略）十五日丙寅、改元、（扶桑略記、公卿補任、百錬鈔、愚管鈔、帝王編年記爲十三日、今據干支、從日本紀略、）十七日戊辰、省試、十九日庚午、白虹亘天、二十二日癸酉、詔以先帝忌月、廢五月五日節、正月十六日踏歌、十七日射禮、九月九日節會並復舊、九月八日戊子、奉幣十六社、十六日丙申、索捕近京山野姧盜、（日本紀略）冬十月八日戊午、徙

御清涼殿、日本紀略、百錬鈔、二十日庚午、發大神寶使、二十六日丙子、御禊、十一月二十四日癸卯、大嘗、十二月己酉朔、日有食之、七日乙卯、以藤原悠子超子並爲女御、二十日戊辰、中務省籍御倉火、二十二日庚午、以皇子師貞爲親王、日本紀略

二年己巳、春三月二十六日癸卯、左馬助源滿仲、前武藏介藤原善時、告中務少輔橘繁延等謀反、日本紀略、扶桑略記、○紀略爲二十五日貶左大臣兼

左近衛大將源高明爲太宰權帥、以右大臣藤原師尹爲左大臣、轉左近衛大將、大納言藤原在衡爲右大臣、大納言藤原伊尹兼右近衛大將、日本紀略、扶桑略記、公卿補任、師尹伊尹兼大將、據補任、是日戒嚴、左衛門陣墻無故而倒、二十九日丙午、大索、夏四月戊申朔、停旬宴、流橘繁延於土左、冷泉院南門倒、二日己酉、流前相模權介藤原千晴於隱岐、僧蓮茂於佐渡、○扶桑略記佐渡作伊豆、三日庚戌、命五畿七道、索捕繁延黨源連

平貞節、五月十四日庚寅、解嚴、二十一日丁酉、發八十島祭使、六月五日庚辰、祈雨丹生貴布禰、十九日甲午、卜旱、二十四日己亥、修請雨經法於神泉苑、五龍祭於北山、二十五日庚子、讀經大極殿、三日、秋七月十八日癸亥、奉幣十一社、二十二日丁卯、大風雨、宮門官舍多壞、八月三日戊寅、固關大索、日本紀略十三日戊子、天皇讓位於皇太弟、日本紀略、扶桑略記、大鏡裏書、百錬鈔、從御弘徽殿、日本紀略帝容止閑都、似村

上、然自爲儲貳多病、時或發狂、后妃嬪御近侍者、皆疑懼不自安、榮華物語一日欲視神璽、獨入臥內、方啓函、藏人頭藤原兼家排闥突入奪之、○江談鈔、兼家書藏人頭、據公卿補任、按續古事談、帝發狂啓神璽函、中白雲、帝驚棄去、紀內侍遽取納之、又欲觀寶劍、臥內閃閃有光、驚愕而止、事與江談鈔異、而古事談以此爲陽成帝事、故不取、爲讓位後疾遂不瘳、榮華物語、大鏡、遷居冷泉院、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、○按大鏡裏書云、八月十六日出家、參考諸書、帝未嘗出家、十六日出宮、遷冷泉院、家蓋宮之訛也、上尊號曰太上天皇、天祿元年四月、冷泉院火、徙居

朱雀院、（日本紀略、扶桑略記）河内前司重通家在西京、（○重通姓闕）門前泥濘、施板通路、有老翁露頂褰裳、將蹈板而過、重通尚幼、戲蹴撼其板、翁顛仆地、藏人二人自後來、扶起而去、問之則上皇也、（續古事談）寛弘五年十二月、還居冷泉南院、（日本紀略、大鏡）八年不豫、及至大漸、藤原道長入侍、上皇忽發聲而歌、道長大驚而去、三條帝屢欲侍疾、道長奏狀、以故而止、（榮華物語）十月二十四日癸亥、崩于南院、年六十二、（日本紀略、百鍊鈔、一代要記、）火葬櫻本寺前野、（日本紀略、大鏡裏書、○按一代要記、皇年代略記、帝王編年記、作櫻本乾原、）藏御骨於山側、（日本紀略）稱冷泉院、

大日本史卷之三十五終

大日本史卷之三十六

本紀第三十六

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

圓融天皇

圓融天皇諱守平、村上帝第五子、冷泉帝同母弟也、天德三年三月二日丁未生、十月爲親王、日本紀略、大鏡裏書、帝王編年記、應和元年八月著袴、日本紀略、皇年代略記、康保三年八月、始讀孝經、日本紀略、村上紀、大鏡裏書、四年五月、冷泉帝踐阼、九月立爲皇太弟、日本紀略、扶桑略記、安和二年八月十三日戊子、受禪於襲芳舍、立皇姪師貞親王爲皇太子、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、詔太政大臣實頼攝政、以左大臣兼左近衞大將藤原師尹爲皇太子傅、右大臣藤原在衡、大納言兼右近衞大將藤原伊尹如故、公卿補任、十六日辛卯、冷泉帝遷御冷泉院、日本紀略、扶桑略記、二十五日庚子、尊冷泉

帝曰太上天皇、追尊皇太后曰太皇太后、日本紀略、九月二十日甲子、遷御清涼殿、日本紀略、扶桑略記、二十一日乙丑、内教坊火、日本紀略、二十三日丁卯、天皇即位於大極殿、時年十一、日本紀略、扶桑略記、大鏡裏書、百錬鈔、二十四日戊辰、有黃牛入外記廳、百錬鈔、冬十月十五日己丑、左大臣兼左近衞大將皇太子傅藤原師尹薨、公卿補任、帝王編年記、爲十四日、今推干支、從日本紀略、扶桑略記、榮華物語、十一月十一日甲寅、權大納言藤原師氏兼皇太子傅、大納言兼右近衞大將藤原伊尹轉左近衞大將、中納言藤原賴忠兼右近衞大將、公卿補任、十四日丁巳、天皇始臨萬機、十六日己未、卜定隆子女王爲齋宮、日本紀略〇一代要記爲天祿元年卜定

天祿元年庚午、春正月二十七日己巳、以右大臣藤原在衡爲左大臣、大納言藤原伊尹爲右大臣、公卿補任、日本紀略、扶桑略記、二月二十八日己亥、左仗座鳴、三月十五日丙辰、詔減服御常膳四分之一、二十日辛酉、發大奉幣使、日本紀略

二十五日丙寅、改元、（日本紀略、扶桑略記、）大赦天下、復天下今年徭半、給老人僧尼穀有差、夏四月辛未朔、日有食之、（日本紀略、）二日壬申、冷泉院火、上皇從御朱雀院、（扶桑略記、百錬鈔、條三日、今從日本紀略、園太暦文和二年、）二十日庚寅、延暦寺總持院火、（扶桑略記、僧綱補任、係五月二十日、一代要記、四月晦、今從日本紀略、百錬鈔、帝王編年記、扶桑略記一說、）五月九日己酉、讀經清涼殿、三日、十八日戊午、以攝政太政大臣實頼疾、大赦天下、（日本紀略、）是日實頼薨、（扶桑略記、愚管鈔、係八日、今從日本紀略、公卿補任、百錬

鈔、）二十日庚申、以右大臣藤原伊尹攝政、（愚管鈔、係二十一日、扶桑略記十三日、今從日本紀略、公卿補任、一代要記、百錬鈔、）六月九日戊寅、有物如婦人、梳髮於式曹司庇上、秋七月十一日庚戌、試文章生、（日本紀略、）十四日癸丑、大納言兼皇太子傅藤原師氏薨、（日本紀略、公卿補任、）十八日丁巳、攝政伊尹罷左近衛大將、八月五日甲戌、大納言源兼明兼皇太子傅、中納言兼右近衛大將藤原頼忠轉左近衛大將、中納言藤原兼家兼右近衛大將、（公卿補任、）

二十一日庚寅、讀仁王經禳怪異、九月九日丁未、以皇妹緝子内親王薨、停重陽節、十三日辛亥、奉幣石清水、二十三日辛酉、遣使守佐告即位、（日本紀略、）冬十月十日戊寅、左大臣藤原在衡薨、（公卿補任、扶桑略記、一代要記、歷代皇紀、○按榮華物語爲正月二十七日、誤、）二十六日甲午、御禊、十一月十一日己酉、發大神寶使、十七日乙卯、大嘗、（日本紀略、）

二年辛未春二月四日己亥、鎮星入月、（日本紀略、）八日癸卯、石清水臨時祭、（朝野羣載爲元年事、今從日本紀略、）

（大鏡裏書、鳩嶺宮寺緣事鈔、）著爲永式、（公事根源、）二十八日癸亥、省試、夏四月六日辛未、地震、五月二日丙申、有虹見辨官東廳、占之、六月二十一日乙酉、奉幣十六社祈雨、秋七月甲午朔、誦經大極殿三日、六日己亥、地震、九月十日壬寅、三品兵部卿廣平親王薨、冬十月癸亥朔、日有食之、（日本紀略、）二十九日辛卯、召還太宰權帥源高明、（扶桑略記、帝王編年記、愚管鈔、爲三年五月、誤、）十一月二日甲午、以右大臣伊尹爲太政大臣、攝政如故、

大納言源兼明爲左大臣、權大納言藤原賴
忠爲右大臣、（公卿補任、日本紀略、）
三年壬申、春正月三日甲午、天皇加元服於
紫宸殿、（日本紀略、大鏡裏書、○按榮華物語爲二年、誤、）五日丙申、御
紫宸殿宴羣臣、七日戊戌、公卿上表賀元服、
詔赦天下、常赦所不免者咸赦除、（日本紀略）十四
日乙巳、彗星貫月、（一代要記、山槐記治承二年、）二月四日
乙丑、有狐百餘鳴于陣内、閏月十四日甲辰、
地大震、宜陽殿鳴、二十五日乙卯、結政所屋

上有足音、三月四日癸亥、宜陽殿西廂鳴、十
九日戊寅、有羽蟻起于宮中、二十九日戊子、
侍從所櫻樹無故折、筮占之、夏六月二十日
丁未、修請雨經法於神泉苑九日、二十八日
乙卯、神泉苑門無故自倒、是日大雨、秋九月
丁巳朔、日有食之、九日乙丑、以諸國耗損、停
重陽節、（日本紀略）冬十月二十三日己酉、太政大
臣伊尹罷攝政、（日本紀略、公卿補任、）二十七日癸丑、詔
權中納言藤原兼通參決庶務、（一代要記、歷代皇紀、）十
一月丁巳朔、以伊尹疾赦、（日本紀略）是日太政大
臣伊尹薨、二十七日癸未、以權中納言藤原
兼通爲内大臣、（日本紀略、公卿補任、大鏡裏書、○扶桑略記以二十六日、
誤、）
天延元年癸酉、春正月六日辛酉、始臨敍位、（中右記永久二年、六日據日本紀略、）二月二十七日壬子、藥師
寺火、（日本紀略、扶桑略記、百鍊鈔、）三月七日辛酉、雨雹、大
和雨物如水精、二十二日丙子、非常大赦、二
十四日戊寅、地震、（日本紀略）夏四月七日庚寅、以

藤原媓子爲女御、（大鏡裏書）二十四日丁未、盜火
前越前守源滿仲家、延燒三百餘宇、召材武
者、護衞禁内、五月三日丙辰、命大和伊賀等
十國、造藥師寺、十七日庚午、大風雨壞官舍、
二十三日丙子、奉幣伊勢已下諸社、（日本紀略）秋
七月壬子朔、尊冷泉皇后曰皇太后、立女御
藤原媓子爲皇后、（日本紀略、扶桑略記、）九日庚申、修請
雨經法于神泉苑、（東寺長者補任）二十七日戊寅、省
試、八月二日癸未、有羽蟻起於八省院東廊

修明門、九月十一日辛酉、以伊勢安濃郡充大神宮封、二十七日丁丑、地大震、日本紀略冬十一月二十七日丁丑、使百僧讀仁王經三日、西宮記十二月二十日庚子、改元、日本紀略、扶桑略記、愚管鈔、赦免調庸、賜老人穀、日本紀略

二年甲戌春二月二十八日丁未、以内大臣藤原兼通爲太政大臣、公卿補任、日本紀略、扶桑略記、三月二十六日乙亥、以兼通爲關白、歷代皇紀、日本紀略、○公卿補任、扶桑略記、百錬鈔、並係天祿三年、以代伊尹決庶務、誤爲關白也、夏五月七日甲寅、近江言、兵主三上二社、自三月有鼓鉦聲、卜之、十六日癸亥、奉幣十六社、二十一日戊辰、奉幣伊勢已下諸社、六月二日己卯、○本書作乙卯、今推干支訂之、左近衛陣鳴、秋七月六日壬子、震典藥寮、八月十一日丙戌、命雅樂寮左右近衛馬寮、差樂工馬騎、供石清水放生會、永爲例、二十八日癸卯、以皰瘡流行、貴賤多夭、大祓紫宸殿建禮門朱雀門、九月八日癸丑、奉幣伊勢已下十六社、冬閏十月二

十六日庚午、太白經天、月晝見、日本紀略十一月乙亥朔、日南至、御紫宸殿、公卿表賀、十八日壬辰、詔曰、古昔明聖之世、辰星不忒、律呂克調、月草三旬、暗知弦望晦朔之候、風條五日、長和七十餘二之聲、是則所以德達乾象、仁洽寰區之故也、朕謬以寡昧之身、託於王侯之上、萬機動違于月令、四海未化于時雝、常恐司天臺之空奏休祥、馮相氏之無候至否、適若公卿奏言、謹按曆曰、今月乙亥朔旦冬至、惟天之瑞、聖日符爰顯焉、乃聖之奉天時、感其徵矣、誠雖虛譽之過、抑是延祚之徵也、朕之不德焉、獨鍾之思、與我民同享斯福、其赦天下、但常赦所不免、及欠負官物之類、不在赦限、敍爵賜物、一準舊典、羨分一章履長之光、普聞兆民飽德之慶」日本紀略、政事要略、詔文據要略、

三年乙亥春正月二十九日壬寅、有童子登清涼殿御座、捕之、二月二十七日庚午、卜定規子内親王爲齋宮、日本紀略二十八日辛未、武

德殿火。扶桑略記、帝王編年記、係五月、今從日本紀略、百鍊鈔。三月七日己卯、夜羣鴿蔽天、聲如兒啼。日本紀略。夏四月癸卯朔、紫宸殿柱有聲如牛。日本紀略、百鍊鈔。五日丁未、雨中有物、赤如火、雨雹。八日庚戌、以三合厄、大赦天下。五月六日丁丑、讀經清涼殿七日。二十三日甲午、奉帛伊勢以下十六社。二十九日庚子、盜入大炊寮倉。六月四日乙巳、奉幣大神宮祈晴。十五日丙辰、遣使感神院、奉幣及走馬東遊樂、以賽禱炮瘡。十六日

丁巳、六衛府官人帶弓箭詣陽明門、訴諸國不給大粮米、命在京國司處斷之。日本紀略。二十二日癸亥、彗星見東北。日本紀略、百鍊鈔。二十三日甲子、月犯畢、客星見、如白虹。日本紀略。二十五日丙寅、卜定選子內親王爲齋院。日本紀略、齋院記。秋七月辛未朔、日有食之、既、衆星見。日本紀略、扶桑略記、百鍊鈔。詔大赦天下、大辟以下、常赦所不免者咸赦除。三日癸酉、朱雀門中央有聲。四日甲戌、又有聲。十二日壬午、修仁王會、禳天變。十三日癸未、停相撲節。己亥晦、東國大風、信濃御坂路頽。八月庚子朔、讀經七大寺。九日戊申、奉幣十三社。十日己酉、詔公卿已下各上封事。二十四日癸亥、上總言、兩月見。九月九日丁丑、停重陽節。十四日壬午、讀經清涼殿三日。冬十月九日丁未、盜入施藥院。十一月十四日壬午、朔平門右衞門陣火。十二月九日丙午、以災異奉幣十二社。十六日癸丑、熒惑犯房。二十一日戊午、外記局文書自焚。日本紀略。

貞元元年丙子、春正月戊辰朔、弗豫、不視朝。二日己巳、陸奥不動穀倉二十一所災。二月十二日己酉、大風雨、內藏寮舍倒、男女二人壓死。二十五日壬戌、但馬言、出石大社鳥鵲羣集、卜占之。二十六日癸亥、卜占水鳥集興福寺幢鳳形上。是月、有鬼物連夜見侍從所。三月二十八日乙未、索東西京盜。夏四月十一日丁未、地大震。日本紀略。五月十一日丁丑、禁

内火、天皇避之桂芳坊、徙御職曹司、日本紀略、扶桑略記、百練鈔、桂芳坊據紀略。十二日戊寅、戒嚴、廢務三日。十九日乙酉、使百僧讀經大極殿。三日。二十日丙戌、卜占火災。六月丙申朔、奉幣帛於伊勢・石清水・賀茂・松尾・平野。四日己亥、日旋動數變色。九日甲辰、詔減服御常膳、蠲除諸國天祿三年以前逋負、免天下徭半。十一日丙午、大風。日本紀略。十八日癸丑、地大震、宮城官舍佛寺多壞、壓死甚衆。日本紀略、扶桑略記、百練鈔。天皇出南庭避之、周幄爲御座。二十日乙卯、遣使山階・村上山陵、告禁中火。二十三日戊午、日薄蝕。二十五日庚申、又薄蝕。日本紀略。秋七月十三日戊寅、改元。日本紀略、扶桑略記、百練鈔。赦。二十六日辛卯、徽雪、日本紀略。遷自職曹司、御關白兼通堀河第。日本紀略、百練鈔、帝王編年記。自六月至是月、地數震。九月五日戊辰、大風。九日壬申、停重陽節。日本紀略。十日癸酉、二品常陸太守元長親王薨。尊卑分脈。二十三日丙戌、地大震。日本紀略。

二年丁丑春二月四日乙未、地震。九日庚子、奉幣帛於伊勢已下七社。二十四日乙卯、有彗星二、一見東南、一見東北。日本紀略。三月二十六日丁亥、行幸關白兼通閑院第。日本紀略、扶桑略記、百練鈔。夏四月二十一日辛亥、以左大臣兼皇太子傅源兼明・右兵衛督源昭平爲親王。日本紀略。二十四日甲寅、以右大臣藤原賴忠爲左大臣、大納言源雅信爲右大臣。公卿補任、日本紀略。五月二十三日癸未、詔免營造宮城諸國今年租半。日本紀略。秋七月二十九日戊子、宮成、徙御焉。日本紀略、扶桑略記、百練鈔。饗王卿以下。閏月二十三日壬子、奉幣伊勢以下十六社、祈晴。九月九日丙申、停重陽節。日本紀略。冬十月十一日戊辰、太政大臣兼通罷關白、以左大臣藤原賴忠爲關白。大納言藤原兼家罷右近衛大將、權中納言藤原濟時兼右近衛大將。公卿補任、日本紀略。十一月丁亥朔、日當食不食。日本紀略。三日己丑、關白賴忠罷左近衛大

將、○日本紀略、公卿補任、一代要記爲四日八日甲午、以太政大臣兼通疾、大赦天下、賜老人物、日本紀略是日兼通甍、公卿補任、日本紀略、山槐記治承二年、十二月九日乙丑、右大臣源雅信兼皇太子傅、公卿補任權大納言藤原朝光兼左近衞大將、日本紀略係十日、大鏡裏書爲二十日、今從公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十五日辛巳、公卿表賀日食不應、詔大赦天下、日本紀略

天元元年戊寅、春正月三日戊子、日薄蝕、三月七日辛卯、省試、是月、海賊殺備前介橘時

望、夏四月十九日癸酉、雨雹、五月二十二日丙午、以藤原遵子爲女御、秋七月九日壬辰、以太乙厄、奉幣十六社、日本紀略二十三日丙午、震右近衞陣、百錬鈔九月九日辛卯、停重陽節、日本紀略冬十月二日甲寅、以左大臣賴忠爲太政大臣、關白如故、右大臣源雅信爲左大臣、大納言藤原兼家爲右大臣、日本紀略、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、十一月四日乙酉、以藤原詮子爲女御、女院小傳爲貞元二年、今從日本紀略、大鏡裏書、二十日辛丑、地震、日本紀略以皇姪居貞爲親王、日本紀略三條紀、大鏡裏書、

二年己卯、春正月五日乙酉、停敍位、日本紀略三月二十七日丙午、謁石清水、日本紀略、西宮記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、石清水行幸始于此、日本紀略、一代要記、歷代皇紀、二十八日丁未、還宮、夏四月己酉朔、停旬宴、八日丙辰、大雨雹、二十一日己巳、備中言、都

宇郡箕島村雨物、形味如飯、人民食之、五月二十二日庚子、下野言、前武藏介藤原千常與源肥等、搆兵相鬬、日本紀略六月三日庚戌、皇后藤原氏崩、榮華物語、大鏡、一代要記、係二日、今從日本紀略、大鏡裏書、八日乙卯、葬堀河皇后、是日大雨、河溢、二十八日乙亥、村上山陵鳴動、日本紀略

三年庚辰、春二月二十六日甲午、奉幣伊勢以下十六社、三月十二日乙酉、雨雹、是月、京師疛實、夏五月癸卯朔、京師訛言、貴賤宜齋

居、道路行絶、七日己酉、有虹見于辨官東廳、九日辛亥、讀經清涼殿、五日、日本紀略十八日庚申、有虹見于春興宜陽二殿、及京師十六所、日本紀略、百錬鈔、秋七月九日庚戌、大風雨、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、折木發屋、日本紀略美福門皇嘉門達智門羅城門及諸司諸堂倒、扶桑略記十五日丙辰、大雨洪水、日本紀略、百錬鈔、東西京民舍多漂流、日本紀略八月辛未朔、洪水、扶桑略記以皇子懷仁爲親王、皇代略紀、皇年代略記、係十一日、皇代紀、帝王編年記、係晦、今從日本紀略、大鏡裏

書、十三日癸未、近江獻異鳥、九月十三日癸丑、溢入弘徽殿曹司、日本紀略冬十月十日庚辰、行幸賀茂社、榮華物語爲明年二月事、今從日本紀略、百錬鈔、帝王編年記、十一月二十二日辛酉、禁内火、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、殿舍悉燒、天皇避之中院、日本紀略從御職曹司、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、○按榮華物語爲從閑院第諸衞警固、二十三日壬戌、廢務三日、二十八日丁卯、詔減服御常膳、免五畿七道諸國調庸逋負、及天下徭半、修法兵衞府、十二月五日甲戌、停賀茂臨時祭、十三日壬午、遣使伊勢以下諸社、日本紀略十七日丙戌、遣使柏原村上二陵告火、日本紀略二十一日庚寅、從御太政官廳、日本紀略、百錬鈔、

四年辛巳、春正月庚子朔、停小朝拜、小右記天元五年十三日壬子、齋宮寮火、十八日丁巳、以前年火停賭射、日本紀略二月九日丁丑、采女司廳火、日本紀略、百錬鈔、十六日甲申、奉幣伊勢已下五社、二十日戊子、行幸平野社、加社司爵、日本紀略平野行幸始于此、一代要記、濫觴鈔、○按歷代皇紀、皇代紀、係二年四

月、三月十五日壬子、從大刀契於内侍所、二十三日庚申、詔免營造宮城諸國今年租半、夏四月二十五日壬辰、有鹿入太政官民部省、卜占之、秋七月七日壬寅、從御四條後院、日本紀略、○扶桑略記、係八日二十七日壬戌、天皇患瘧、歷代皇紀九月四日戊戌、宮中有鬼物、殺藏人藤原貞高、十三日丁未、從自後院、御職曹司、日本紀略、百錬鈔、冬十月二十七日辛卯、宮成、從御馬、日本紀略、百錬鈔、帝王編年記、

五年壬午春二月十八日辛巳織部司小屋
火、小右記十九日壬午皇太子加元服於紫宸
殿、日本紀略、扶桑略記、小右記詔賜六位已下爲父後者
爵一級、免天元三年以往調庸逋負、日本紀略是
夜盜露刃登弘徽殿、捕獲之、先是海賊大起、
調庸路梗、至是益熾、劫掠行旅、二十三日丙
戌、伊豫言獲賊魁能原兼信及黨與十五人、
是月京師多盜、放火劫人、二十七日庚寅、以
檢非違使懈怠、敕令修其職、小右記三月癸巳

朔、日有食之、日本紀略十一日癸卯、立女御藤原
遵子爲皇后、扶桑略記係五日、今從日本紀略、小右記、一代要記夏五
月三日甲午、奉幣於十六社、以禳天變怪異、
○按小右記、爲祈年穀奉幣六月五日乙丑、盜火式乾門、
十一日辛未、奉金銀幣神寶於大神宮、以賽
宿禱、十七日丁丑、奉幣帛走馬音樂於石清
水賀茂松尾平野大原野比叡春日稻荷社、
二十一日辛巳、弗豫、日本紀略二十六日丙戌、以
諸衛不敕、出入猥濫、令使廳伺察、小右記秋七

月庚寅朔、奉走馬音樂於住吉社、西宮記八日
丁酉、奉幣伊勢以下諸社、十六日乙巳、祈雨
丹生貴布禰、十八日丁未、修請雨經法於神
泉苑、七日、二十二日辛亥、大雨、八月四日癸
亥、有星貫月、日本紀略二十日己卯、大風、談天門
倒、日本紀略、百鍊鈔九月九日丁酉、停重陽節、日本紀略
冬十一月十七日乙巳、夜禁內火、遷御職曹
司、日本紀略、百鍊鈔十八日丙午、諸衛警固、廢務三
日、十二月八日乙丑、奉幣伊勢以下諸社、十

四日辛未、遣使柏原村上二陵告火、二十五
日壬午、還自職曹司、御堀河後院、日本紀略
永觀元年癸未春二月二十一日丁未、捕京
職私帶弓箭兵仗者案之、日本紀略三月二十二
日戊寅、慶圓融寺、百鍊鈔係二十三日、一代要記係二年、今從日本紀略、扶桑略記夏四月十五日庚子、改元、日本紀略、扶桑略記
百鍊鈔、歷管鈔、詔曰、唐堯之馭民也、敬授時而未號、
漢武之撫俗也、初建元而爲名、自爾以來、或
遇休祥以紀元、或依災變以革曆、朕以庸虛、

猥守神器、愼日是幾多日、計年只十五年、天之未忘、屢呈妖怪、而相誡德之是薄、雖致兢惕而不消、去年黍稷之遇炎旱、民戶殆無、天宮室之爲灰燼、皇居唯有地、欲修又作百姓之費、將廢素非一人之居、惻隱于懷、寤寐難忍、方今上玄之譴、便如是、中丹之謝、欲奈何、宜改正朔、以易率土之聽、施德政以解圜扉之寃、其改天元六年爲永觀元年、大赦天下、但常赦所不免者、不在赦限、老人及僧尼年

百歲已上、給穀四斛、九十已上三斛、八十已上二斛、七十已上一斛、庶幾禳餘妖於未萌、期弊俗於有截、(本朝文粹)六月十二日丙申、奉幣伊勢已下十六社、祈雨、十六日庚子、大雨、秋七月三日丙辰、以禁中屢火、停相撲節、五日戊午、省試、八月甲申朔、盜鑿式部省壁、竊省試詩、下史生以下四人於獄、九月九日辛酉、停重陽節、十三日乙丑、奉幣帛於伊勢賀茂松尾平野、冬十月癸未朔、盜入內膳司、竊平野庭火釜、(日本紀略)二十五日丁未、始修圓融寺般若會、准御齋會、(日本紀略、百鍊鈔、)十一月二十日辛未、(○本書爲二十四日、今推干支訂之、)讚岐圖進鬼怪、一頭二身八足、(日本紀略)

二年甲申春三月五日乙卯、奉幣石淸水賀茂、春日、夏五月二十六日乙亥、制非職帶兵者罪、當杖、二十八日丁丑、以年穀不豐、値三合厄、奉幣伊勢已下十四社、秋八月十三日庚寅、以三合厄、修仁王會、(日本紀略)二十七日甲

辰、天皇讓位於皇太子、(日本紀略、大鏡裏書、扶桑略記、帝王編年記、)九月、上尊號曰太上天皇、稱後太上天皇、以別冷泉上皇、(日本紀略)寬和元年八月、違豫、薙髮、法名金剛法、(日本紀略、百鍊鈔、帝王編年記、)九月、徙自堀河院、御圓融院、以十僧啓行、僧正寬朝從焉、(日本紀略、百鍊鈔、)二年三月、幸東大寺、受具足戒、(御受戒記、日本紀略、○扶桑略記係四月、)永延二年十月、幸延曆寺、灌頂受戒、(扶桑略記、百鍊鈔、○按日本紀略、爲二十八日登台山、二十九日受戒東大寺、今不取、)正曆二年二月十二日癸丑、法皇

崩于圓融院、年三十三、（日本紀略、扶桑略記、大鏡裏書、帝王編年記。○按愚管鈔爲三十四、百錬鈔三十二、並誤、）遺詔停素服舉哀、及置山陵國忌、（日本紀略）火葬圓融寺北原、藏御骨於村上山陵側、（日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、）是爲後村上陵、（小右記、立坊部類記、左經記、）稱圓融院、讓位之後、幸紫野爲子日遊、又幸大井河、（日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、）詩歌管絃三船分科、（古事談）風流文雅、後世稱焉、

大日本史卷之三十六終

大日本史卷之三十七

本紀第三十七

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

華山天皇

華山天皇、諱師貞、冷泉帝長子也、母贈皇太后藤原氏、安和元年十月二十六日丙子、生于外祖大納言伊尹一條第、（日本紀略、大鏡、帝王編年記、）十二月、爲親王、（日本紀略、大鏡裏書、一代要記、）二年八月、圓融帝受禪、立爲皇太子、十一月、入居凝華舍、（日本紀略、）天祿元年十二月、著袴、（日本紀略、玉葉承久二年、）貞元二年三月、始讀書、（日本紀略華山紀係四月、今從紀略圓融紀、大鏡裏書、皇年代略記、）天元五年二月、冠、（日本紀略、扶桑略記、小右記、）永觀二年八月二十七日甲辰、皇太子受禪于堀河院、是日從御新宮、（日本紀略、百錬鈔、）立圓融帝子懷仁親王爲皇太子、（日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、愚管鈔、）關白太政大臣頼忠、左大臣源雅信、右大臣

藤原兼家、權大納言兼左近衛大將藤原朝光、權大納言兼右近衛大將藤原濟時、並如故、雅信兼皇太子傅、（公卿補任、）九月九日丙辰、尊圓融帝曰太上天皇、（日本紀略、大鏡裏書、）冬十月十日丙戌、天皇卽位於大極殿、時年十七、（日本紀略、大鏡裏書、百錬鈔、）十三日己丑、天大鳴地震、（小右記、）十七日癸巳、天皇始臨萬機、十一月四日庚戌、卜定濟子女王爲齋宮、（日本紀略、小右記、貴女鈔、）七日癸丑、以藤原忯子爲女御、（日本紀略、小右記、）八日甲寅、地大震、（日本紀略、）十三日己未、奉幣伊勢以下十一社、禳天變、（日本紀略作祈晴、而前後不書雨、故今從小右記、）十八日甲子、侍從廚倉火、十二月十一日丙戌、御仁壽殿觀馬、（小右記、）十七日壬辰、追尊所生女御藤原氏曰皇太后、（日本紀略、大鏡裏書、）二十五日庚子、（○日本紀略作己亥、今推干支訂之、）以藤原諟子藤原姚子並爲女御、（小右記、一代要記、○按日本紀略、以諟子爲女御、係寬和元年十月、誤、）二十八日癸卯、詔曰、一人之耳、不能盡聽天下、一人之目、不得廣視域中、是以古之王者、

或問謗譽於途、有邪必正、或採曠言於市、有善則行、朕在東闈十餘年、猶當少日、臨北闕四五月、旣親萬機、朕粗聞前事、彌圖後治、頃年蒼蒼屢降水旱之災、元元動勞土木之役、倉廩已竭、田園自荒、遊手浮食者多、好儉處約者少、書曰、木從繩則正、后從諫則聖、夫人主者以納敢諫爲先、人臣者以進讜言爲任、彼廣德之戒樓船、終就其安、朱雲之折殿檻、永令無理、且夫國之將興也、上下聚唇、國之

將廢也、道路以目、至如破家爲國、面折尸諫者、是朕之願也、於戲莫道澆季之俗、試忘身而扶之、莫言疲極之民、強戮力而濟之、人和天且和、民足君可足、晉平公問叔向曰、國之患、孰爲大、對曰、大臣重祿不諫、小臣畏罪不言、下情不上通、此患之大者也、靖而思之、誠哉斯言、宜令公卿大夫、及京官外國五位以上職居官長、秀才明經課試及第名爲儒士者、各上封事、匡朕不逮、卿等自慮中心、廣詢衆庶、不失寡婦忘緯之說、莫遺匹夫炙背之談、凡厥國之利害、政之得失、盡露其膽、以沃朕心、旣容不諱之詞、欲聞無隱之議、（日本紀略、本朝文粹、詔文、續文粹、）是月、詔減服御常膳、（日本紀略）

寬和元年乙酉、春正月丙午朔、停小朝拜、（小右記）三月二十七日辛未、遣使宇佐、（日本紀略、小右記、）二十九日癸酉、置贈皇太后國忌於東寺、（中右記嘉承二年、東寺據日本紀略）夏四月、先是左兵衞尉藤原齊明傷彈正少弼大江匡衡而亡、（日本紀略、小右記、）

至是官符諸國捕之、（日本紀略）十日甲申、平野祭、奉舞人走馬、（日本紀略、百鍊鈔、小右記、）十一日乙酉、衞府官人奏追捕海賊、賜物賞功、（小右記）二十四日戊戌、有大蟹上承香殿、（日本紀略）二十七日辛丑、改元、（皇代紀、一代要記、百鍊鈔、係二十四日、今從日本紀略、小右記、愚管鈔、）有水鳥集宜秋門前櫻樹占之、（小右記）五月十七日辛酉、信濃獻白雉、（日本紀略○小右記係十六日）二十日甲子、藤原齊明伏誅、（日本紀略）六月二十八日辛丑、修請雨經法於神泉苑七日、（日本紀略、祈雨日記、）讀

經東大寺及龍穴、（小右記）二十九日壬寅、出羽言哾乳、卜之軒廊、秋七月六日己酉、讀經大極殿、十日癸丑、免左右獄輕囚疑罪、十三日丙辰、祈雨十六社、二十三日丙寅、以女御藤原忯子卒、停相撲節、八月二十七日己亥、奉幣伊勢已下諸社祈雨、（日本紀略）辛丑晦、後太上天皇落髮、（扶桑略記、愚管鈔、係三月、今從日本紀略、百錬鈔、帝王編年記、）閏月二十三日甲子、省試、九月十九日庚寅、宜陽殿鳴、（日本紀略）法皇徙自堀河院、御圓融院、（日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、）二十八日己亥、盜入齋王野宮、冬十月十一日辛亥、含嘉堂無故而倒、十五日乙卯、奉幣馬於石清水、十八日戊午、奉幣馬於賀茂、（日本紀略）二十五日乙丑、御禊、（一代要記係二十六日、今從日本紀略、皇代略紀、後愚昧記永德三年、）十一月十五日乙酉、發大神寶使、（日本紀略）二十一日辛卯、大嘗、以豐樂院壞、行禮於大極殿、（皇年代略記、皇代略紀、○一代要記係二十四日癸卯、按是月辛未朔、無癸卯、日本紀略係二十日庚寅、然大嘗例用卯日、二書並誤、）己亥晦、廢醍醐贈皇太后國忌、十二

月五日甲辰、源婉子爲女御、（日本紀略）二年丙戌、春正月十八日丁亥、東京火、（○扶桑略記係元年、）停賭射、（日本紀略）二月十六日甲寅、有虹見太政官廳戶內、（日本紀略、外記日記、）是日以延曆寺請、禁近江大津以北衣川鄉以南漁獵、（日本紀略）三月二十一日己丑、法皇幸東大寺、二十三日辛卯、奉幣伊勢已下十二社、二十七日乙未、地震、二十九日丁酉、議定沽買法、（日本紀略、外記日記、）夏五月八日乙亥、盛明親王薨、（扶桑略記、一代要記、尊卑分脈、）十八日乙酉、修大仁王會、（日本紀略、外記日記、）二十六日癸巳、武德殿成、（百錬鈔）天皇臨御焉、丁酉晦、御紫宸殿、觀打毬戲、六月戊戌朔、卜占霖雨、（日本紀略、外記日記、）二十三日庚申、夜、（○公卿補任、榮華物語、百錬鈔、歷代皇紀、爲二十二日夜、扶桑略記、一代要記、愚管鈔、爲二十二日庚申夜、按是月戊戌朔、二十二日己未也、略記等己爲二十二日、而係庚申者蓋誤、今從日本紀略、大鏡、古今著聞集、）潛出宮、入華山元慶寺、藏人藤原道兼、僧嚴久從之、道兼使左近衞少將藤原道綱奉劍璽於皇太子、翌日天皇披剃爲僧、法

名入覺、（日本紀略、參取扶桑略記、愚管鈔、百鍊鈔、）皇太子受禪、上太上天皇尊號不受、（扶桑略記、皇年代略記、）帝初親任權中納言藤原義懷、權左中辨藤原惟成、委決庶政、（大鏡、十訓鈔、古今著聞集、）以故紀綱振肅、（大鏡、）太宰府有私帶兵者、卽位僅十日、府中無敢帶者、（江談鈔、）然而淫佚輕佻、多納王卿女、恩眷無常、（榮華物語、）至納女御忯子、寵傾後宮、及其卒、悲不自勝、遇事感愴、有厭棄塵累之心、（榮華物語、十訓鈔、）適會所在男女無故多爲僧尼、帝聞之心益

動、（榮華物語、）又爲藤原道兼所誑、遂及于此、（大鏡、愚管鈔、十訓鈔、）常居元慶寺、持律精嚴、（榮華物語、大鏡、）幸書寫山、見僧性空、登比叡山、受廻心戒、（日本紀略、）徧歷名山古利、其幸熊野也、徒步抖擻、備極艱苦、至病臥海濱、作歌自嘆、（榮華物語、大鏡、○按、元亨釋書、載帝入那智山、不出三歲、蓋據源平盛衰記書之、然日本紀略、扶桑略記等書不載、大鏡亦無三年之文、故今闕疑、）數年之後入京、居外祖母家、稍近婦女、志操遂變、初不受尊號、故不得年官年爵封戶、及其居京東三條女院、與藤原道隆相

議、奏請置、法皇心愈安焉、常憚藤原道長、欲得其歡心、子賴通充春日祭使、會天大雪、道長念之作歌、法皇聞之、亦作歌慰藉之、道長嘗觀賴通賀茂祭使行裝、法皇駕塗金車、盛飾從奴、數過道長棚閣前、以見欵曲、道長大喜、（榮華物語、）以故奉承周密、其家設競馬遊、請法皇臨觀、（榮華物語、大鏡、）法皇性有巧思、宮室器翫、創意出奇、（大鏡、）好和歌、其所親撰有拾遺集、（八雲御鈔、拾芥鈔、並云、拾遺集、藤原公任所撰、而帝所撰拾遺鈔也、袋草紙、集鈔俱爲御撰、據

藤原定家論三代集、帝撰之、公任鈔之、今從其說、）寬弘五年二月八日己亥、崩于華山院、年四十一、（日本紀略、榮華物語、）遺詔停素服擧哀、葬於紙屋川上法音寺北、（日本紀略、○按、法成寺攝政記、爲葬大和寺東邊、）稱華山院、

大日本史卷之三十七終

大日本史卷之三十八

本紀第三十八

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

一條天皇

一條天皇、諱懷仁、圓融帝子也、母東三條院、天元三年六月壬申朔、生于外祖右大臣藤原兼家東三條第、八月爲親王、（日本紀略、帝王編年記、皇

年代略記、東三條第、據編年記、皇年代略記、）五年十二月著袴、（榮華物語、皇代略紀、）永觀二年八月、華山帝受禪、立爲皇太子、（日本紀略、扶桑略記、）入居凝華舍、（日本紀略、）寬和二年六月、華山帝遜位、傳劍璽於凝華舍、（日本紀略、扶桑略記、）二十四日辛酉、皇太子受禪、（日本紀略○按愚管鈔、百錬鈔、歷代皇紀等書、係二十三日、蓋以傳劍璽立爲受禪踐阼、紀略二十三日條曰、翌日行讓位禮、今從之、大鏡裏書爲二十六日誤、）以右大臣藤原兼家攝政、太政大臣賴忠、左大臣源雅信、權大納言兼左近衛大將藤原朝光、權大納言兼右近衛大將藤原濟時、竝如故、（公卿補任）秋七月五日辛未、尊皇太后曰太皇太后、所生女御藤原氏曰皇太后、（日本紀略、扶桑略記、）大赦天下、賜僧尼物、（日本紀略）六日壬申、地震、（日本紀略）十六日壬午、立華山帝弟居貞親王爲皇太子、（扶桑略記、日本紀略、大鏡裏書、立坊部類記引小右記、）左大臣源雅信爲傅、二十日丙戌、攝政兼家罷右大臣、以大納言藤原爲光爲右大臣、（公卿補任）二十二日戊子、天皇卽位于大極殿、時年七歲、（日本紀略、大鏡裏書、帝王編年記、）是日華山

法皇幸播磨書寫山、（日本紀略、扶桑略記、）二十五日辛卯、詔減服御常膳、八月八日甲辰、卜定恭子女王爲齋宮、二十七日癸亥、敕太宰府召還在宋僧奝然、（○扶桑略記係二十五日）九月五日庚午、發大奉幣使、冬十月二十三日戊午、御禊、二十五日庚申、遣使宇佐、二十六日辛酉、省試、十一月乙丑朔、奉幣伊勢石清水賀茂、（日本紀略）十日甲戌、春日社鳴動、終夜有光、三日、（日本紀略、扶桑略記、三日據略記、）十五日己卯、大嘗、（一代要記、帝王編年記、）二

十一日乙酉、復梅宮祭、年中行事〇按梅宮祭、廢置非一、據三代實錄、元慶三年廢之、八年復之、年中行事曰、寬平中又廢、而未知其在何年、故不書、宇多紀、而載于此、十二月八日壬寅、始讀書、大鏡裏書十七日辛亥、始修吉田祭、年中行事二十日甲寅、觀法皇于圓融院、日本紀略

永延元年丁亥、春正月二日乙丑、觀皇太后于東三條院、榮華物語癸巳晦、申禁私帶兵仗、日本紀略二月十一日甲辰、僧奝然還自宋、日本紀略、百鍊鈔、帝王編年記、〇扶桑略記係十六日十六日己酉、遷自凝華舍、御清涼殿、三月四日丙寅、定新制十三條、日本紀略、扶桑略記、夏四月五日丁酉、改元、日本紀略、一代要記、歷代皇紀、皇代記、皇代略記、〇百鍊鈔係九日、皇年代略記七日、十二日甲辰、盜入主稅寮文殿、扶桑略記五月五日丙寅、定新制五條、日本紀略、扶桑略記、二十一日壬午、祈雨、賀茂丹生貴布禰、修法宮中、二十四日乙酉、讀經大極殿、三日、日本紀略修請雨經法於神泉苑、日本紀略、祈雨日記、二十九日庚寅、詔減服御常膳、權停馬寮秣穀、日本紀略大赦天下、賑高年鰥逋負、

日本紀略、扶桑略記、六月壬辰朔、決神泉苑池、漑民田、三日甲午、大雨、日本紀略二十九日庚申、攝政兼家與公卿詣賀茂、奉競馬賽之、秋七月二十八日己丑、以亢旱詔公卿上封事、日本紀略、扶桑略記、庚寅晦、大風拔木發屋、八月二十一日辛亥、奉幣伊勢己下十八社、日本紀略九月七日丁卯、奉幣伊勢神人奉梓神木詣陽明門、訴國司清邦、百鍊鈔〇清邦姓闕二十六日丙戌、一品中務卿兼明親王薨、日本紀略、扶桑略記、〇一代要記係二十五日二十七日丁亥、納佛舍利於京畿七道神社、日本紀略冬十月十四日癸卯、行幸攝政兼家第、賦詩奏樂、試擬文章生、日本紀略、扶桑略記、百鍊鈔、奏樂據紀略二十六日乙卯、法皇幸南京諸寺、日本紀略、扶桑略記、十一月二日辛酉、使檢非違使廉察不用錢貨者、日本紀略、扶桑略記、百鍊鈔、八日丁卯、天皇與皇太后同輿謁石清水宮、日本紀略〇榮華物語爲三月十七日丙子、兵庫火、日本紀略、扶桑略記、百鍊鈔、十二月十二日庚子、奉幣伊勢石清水賀茂松尾平野春日大原野、告兵

庫火、日本紀略十五日癸卯、天皇與皇太后行幸賀茂社、日本紀略、扶桑略記、十六日甲辰、奉幣十九社、日本紀略二十八日丙辰、以兵庫火大赦天下、免徭半、給高年穀、日本紀略、扶桑略記、

二年戊子、春正月三日辛酉、觀法皇于圓融院、榮華物語三月二十日丁丑、法皇慶圓融寺塔、日本紀略、扶桑略記、夏五月十日丙寅、大和添上郡橋山自移西南四町許、百錬鈔二十四日庚辰、修臨時仁王會、日本紀略六月二日丁己、禁僧徒從

者踰制著奇服挾短兵、朝野群載十三日戊辰、諸陣戒嚴、索盜藤原保輔、捕獲下獄、秋七月二十八日壬子、禁奢僭、九月六日庚寅、熒惑犯太微右上將、冬十月十二日丙寅、四品兵部卿永平親王薨、○扶桑略記係十三日十一月七日庚寅、行幸攝政兼家第、日本紀略○榮華物語爲十月

永祚元年己丑、春二月六日丁己、廷議尾張百姓訴守藤原元命虐政、百錬鈔、日本紀略、十日辛酉、內藏寮權曹司火、十一日壬戌、以皇太后違豫、修法延暦寺、十六日丁卯、觀法皇于圓融院、小右記○日本紀略係二十六日、榮華物語爲正月、二十三日甲戌、以權大納言藤原道隆爲內大臣、小右記、公卿補任、日本紀略、三月二十二日癸卯、行幸春日社、日本紀略、小右記、春日行幸始于此、一代要記、歷代皇紀、二十三日甲辰、還宮、日本紀略夏五月十三日壬辰、原左右獄繫囚、小右記六月庚戌朔、彗星見東西、踰月不滅、日本紀略、百錬鈔、七日丙辰、奉幣伊勢以下十一社、日本紀略十九日戊辰、賀茂社大木自偃、

中有物如星、無數南飛、小右記、日本紀略、百錬鈔、二十四日癸酉、以皇太后疾、詔大赦天下、常赦所不免者咸赦除、日本紀略、小右記、賑廢疾、日本紀略二十五日甲戌、卜占賀茂社怪、小右記大納言藤原朝光罷左近衞大將、日本紀略○公卿補任係二十七日二十六日乙亥、太政大臣賴忠薨、小右記、公卿補任、日本紀略、是月癘疫流行、小右記秋七月十三日辛卯、內大臣藤原道隆兼左近衞大將、公卿補任、一代要記、八月三日辛亥、三日並見、合而爲一、百錬鈔八日丙

辰、改元、給老人僧尼穀、（日本紀略）十三日辛酉、京師諸國大風、宮城殿門社寺多壞、洪水海溢、漂沒田宅、人畜死傷、（日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、）十四日壬戌、課諸國修造殿門、（日本紀略）十七日乙丑、奉幣伊勢以下諸社、（日本紀略、西宮記、）九月七日乙酉、奉幣伊勢石清水賀茂松尾平野稻荷等社、二十三日辛丑、修百座仁王會於大極殿、（日本紀略）二十九日丁未、以僧餘慶爲延曆寺座主、（日本紀略、扶桑略記、○百錬鈔係十月朔、）僧徒不奉命、拒敕使、壞

宣命、（日本紀略、百錬鈔、）冬十月二日庚戌、敕賜前延曆寺座主尋禪封百戶、丁丑晦、遣使延曆寺、宥僧徒罪、十一月二十三日庚子、大原野祭、攝政兼家後騎私鬬傷官人、不畢禮而罷、二十六日癸卯、卜之軒廊、（日本紀略）十二月二十日丁卯、以兼家爲太政大臣、攝政如故、（日本紀略、公卿補任、）

正曆元年庚寅、春正月五日壬午、天皇加元服、（日本紀略、扶桑略記、大鏡裏書、百錬鈔、）七日甲申、詔大赦天下、常赦所不免者、咸赦除、賜爵鐲逋負、賜老人物、（日本紀略）十一日戊子、覲法皇于圓融院、（日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、玉蘂嘉禎元年、）二月二日戊申、西寺火、（日本紀略、一代要記、百錬鈔、山槐記治承二年、○扶桑略記作西大寺、）十一日丁巳、以藤原定子爲女御、（日本紀略、一代要記、）夏五月五日己卯、攝政太政大臣兼家罷、詔爲關白、（公卿補任、愚管鈔、一代要記、百錬鈔、帝王編年記、○日本紀略係四日、）八日壬午、關白兼家罷、以內大臣藤原道隆爲關白、（日本紀略、公卿補任、一代要記、帝王編年記、）十二日丙戌、以兼家

疾、大赦天下、常赦所不免者、咸赦除、免調庸、加賑給、（日本紀略）二十六日庚子、以關白道隆攝政、六月甲辰朔、攝政道隆罷左近衞大將、（公卿補任係五月晦、）右近衞大將藤原濟時轉左近衞大將、權大納言藤原道兼兼右近衞大將、（日本紀略、公卿補任、一代要記、帝王編年記、）二十八日辛未、天皇不豫、（日本紀略、百錬鈔、）秋七月二日乙亥、前關白兼家薨、（日本紀略、百錬鈔、公卿補任、）八月二日甲辰、異禽集紫宸殿、獲之、狀如水乞鳥、（日本紀略、外記日記、）六日戊申、

帝疾瘳、日本紀略十二日甲寅、雨雹、外記日記二十二日甲子、奉幣伊勢已下諸社、日本紀略、外記日記祈年穀、禳災異、日本紀略二十八日庚午、大風洪水、九月九日辛巳、停重陽節、十七日己丑、祈晴丹生貴布禰、日本紀略、外記日記二十一日甲午、二品彈正尹章明親王薨、日本紀略○一代要記爲二十三日冬十月五日丁未、立女御藤原定子爲中宮、日本紀略、外記日記、扶桑略記、一代要記、帝王編年記、榮華物語、大鏡、爲六月朔、二十五日丁卯、地震、日本紀略、外記日記、十一月七日戊寅、改元、

日本紀略、外記日記、扶桑略記、一代要記、帝王編年記、大赦天下、賜老人僧尼穀、日本紀略奉幣諸社、外記日記十六日丁亥、復阿波租一年、日本紀略、外記日記、

二年辛卯春二月十二日癸丑、法皇不豫、大赦天下、常赦所不免者皆赦除、日本紀略是日法皇崩、日本紀略、扶桑略記、榮華物語○按榮華物語、帝諱圓融院、侍法皇疾、不月、故姑附于此、十九日庚申、葬圓融天皇、日本紀略、扶桑略記、夏四月二日辛未、太皇太后三條宮火、日本紀略、百鍊鈔、二十五日甲午、祈雨丹生貴布禰、六月三日庚午、修請雨經法於神泉苑、二十七日、十三日庚辰、又奉幣丹生貴布禰使七大寺僧六百轉讀大般若經于東大寺、十四日辛巳、雩十八日乙酉、讀經龍穴、二十二日己丑、決神泉苑池、灌紀伊葛野二郡、二十四日辛卯、奉幣伊勢已下十九社、二十七日甲午、使百僧轉讀大般若經於大極殿、秋七月二十三日庚申、攝政道隆罷内大臣、日本紀略○公卿補任、愚管鈔、係二十四日、大鏡裏書、一代要記、歷代皇紀、二十二日、自六月至是月不

雨、日本紀略、扶桑略記、八月霖雨、日本紀略九月七日癸卯、以右大臣藤原爲光爲太政大臣、大納言源重信爲右大臣、權大納言藤原道兼爲内大臣、日本紀略、公卿補任、權記、八日甲辰、有龜入左兵衞陣、十日丙午、尾張獻白雉、日本紀略十六日壬子、行幸職曹司、問皇太后疾、日本紀略、百鍊鈔、是日皇太后剃髮、上號曰東三條院、日本紀略、扶桑略記、百鍊鈔、玉海建久三年、

三年壬辰、春正月、諒闇停諸節會、日本紀略、權記、四

日己亥、太白經天。權記二月二十七日辛卯、奉幣諸社。日本紀略夏四月二十七日庚寅、觀東三條院于權大納言藤原道長上東門第。日本紀略、權記、扶桑略記五月二十六日己未、東西京洪水。六月癸亥朔、洪水。二日甲子、大雨洪水。日本紀略十六日戊寅、太政大臣爲光薨。日本紀略、公卿補任、權記、秋七月二十一日壬子、奉幣諸社。冬十月二十六日丙戌、觀舞樂於清涼殿。十一月四日癸巳、盜入齋院。五日甲午、遣使奉幣伊勢已下

諸社。九日戊戌、卜齋院盜。二十六日乙卯、奉幣賀茂、謝盜入齋院。己未晦、從五位下源忠良討阿波海賊、俘獲頗多。十二月八日丁卯、遣使奉幣伊勢已下諸社。日本紀略十四日癸酉、行幸平野社。日本紀略、帝王編年記、權記、

四年癸巳、春正月三日壬辰、觀東三條院。日本紀略、權記、夏四月二十二日庚辰、攝政道隆爲關白。日本紀略、百鍊鈔、公卿補任、五月七日甲午、奉幣伊勢石清水賀茂平野稻荷北野。日本紀略二十日丁

未、詔遣使太宰府、贈故右大臣菅原道眞左大臣正一位。日本紀略、大鏡裏書、遣使太宰府據帝王編年記、○百鍊鈔係六月十五日、按古事談、北野緣起、爲八月十九日、蓋係使至之日也、六月十六日癸酉、始視內文及官奏。二十日丁丑、轉讀大般若經於清涼殿。五日、以禳疾疫。自五月至是月、咳逆流行。日本紀略秋七月二十日丙午、震美福門災。日本紀略、外記日記、二十六日壬子、左大臣兼皇太子傅源雅信罷。公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十七日癸丑、相撲召合。以雅信疾、徹樂。日本

紀略、外記日記、乙卯晦、前左大臣源雅信薨。日本紀略、公卿補任、外記日記、權記、八月丙辰朔、日有食之。日本紀略、外記日記、十一日丙寅、以三合厄及皰瘡流行、詔赦大辟以下罪、免調庸減徭半。日本紀略二十一日丙子、大祓紫宸殿建禮門朱雀門。日本紀略、外記日記、冬閏十月二十日甲辰、遣使太宰府、再贈菅原道眞太政大臣。日本紀略、外記日記、大鏡裏書、百鍊鈔、本朝文粹、遣使太宰府據帝王編年記、○按北野緣起一說、及古事談爲明年事、誤、十一月甲寅朔、日南至。公卿表賀。日本紀略、政事要略、外記日記、十五

日戊辰、詔曰、陰陽不測、寧之者明王、寒暑無愆、司之者哲后、故軒皇御曆、雙離之璧合光、漢徹乘時、五緯之珠連絲、朕嗣守昌基、丕承鴻業、七政未能在璿璣之數、四時唯恐失玉燭之和、迺者有司奏言、今年十一月朔旦冬至、履端於始、舉正於中、朕之素虛、雖鍾文質之澆季、天之玄應、茍遇章首之嘉期、斯乃宗祧祐福之効、臣佐燮理之功、已有舊典、何違新休、其赦天下、但常赦所不免者、及欠負官物之類、不在赦限、敘爵賜物、一準舊典、庶賀禎符於一陽、洽慶賚於萬姓、（政事要略）二十七日庚辰、行幸大原野社、大原野行幸始于此、（日本紀略、一代要記、歷代皇紀、）

五年甲午春正月三日乙卯、觀東三條院、（日本紀略、權記、）是月始視除目、（中右記永久二年）二月十日壬辰、盜火後涼殿、（百鍊鈔）十七日己亥、盜火弘徽殿飛香舍、（日本紀略、百鍊鈔、）三月二日甲寅、奉幣十七社、祈穫、行火盜、六日戊午、分差武士索盜、

（日本紀略、外記日記、）二十五日丁丑、奉幣伊勢以下諸社、祈穫盜、（日本紀略、祈獲盜據百鍊鈔、）二十六日戊寅、以怪異疾疫、詔大赦天下、常赦所不免者、咸赦除、免調庸、賜高年穀、賑恤有差、夏四月十日辛卯、大祓紫宸殿、建禮門、朱雀門、以禳疾疫、二十四日乙巳、敕撫視羅疫在街路者、二十七日戊申、奉幣伊勢以下諸社、二十八日己酉、讀經清涼殿、辛亥晦、有狐遺矢清涼殿、經案、占之、五月十一日壬戌、宮符天下、修仁王會、（日本紀略、）十三日甲子、停著鈦政、（西宮記、）二十日辛未、奉幣諸社、二十六日丁丑、大赦、敕諸司、每戶建石塔、以禳疾疫、六月十三日己巳、祈雨丹生貴布禰、十六日丙申、以京師訛言、公卿至庶人、閉門不出、道路行絕、（日本紀略、外記日記、）二十七日丁未、修御靈會于船岡上、（日本紀略、朝野羣載、）秋七月二十日庚午、大風、二十二日壬申、賑京師民、八月十日己丑、使二百僧轉讀大般若經於大極殿、二十一日庚子、奉幣諸社、禳

災異疾疫、日本紀略二十八日丁未、以右大臣源重信爲左大臣、内大臣藤原道兼爲右大臣、權大納言藤原伊周爲内大臣、日本紀略、公卿補任、九月七日丙辰、左大臣源重信兼皇太子傅、公卿補任八日丁巳、有虹見外記廳版位、卜之、冬十月二十四日壬寅、地大震、卜之、十二月戊寅朔、日有食之、十七日甲午、遣使奉幣伊勢已下諸社、日本紀略是歳正月、疾疫起於鎭西、彌漫天下、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔自夏至秋、轉熾、僵死盈路、百錬鈔

長德元年乙未、春正月二日己酉、覲東三條院、九日丙辰、鴨院火、太上皇從御東三條第、二月九日乙酉、修仁王會以禳疫、日本紀略二十二日戊戌、改元、日本紀略、扶桑略記、帝王編年記、○百錬鈔係二十六日詔大赦天下、大辟以下悉赦除、免調庸、日本紀略夏四月三日己卯、關白道隆罷、公卿補任十日丙戌、前關白道隆薨、日本紀略、百錬鈔、係十一日、今從小右記、公卿補任、榮華物語、愚管鈔、十八日甲午、雨雹大如栗、日本紀略二十三日己亥、大納言兼左近衛大將藤原濟時薨、公卿補任二十七日癸卯、以右大臣藤原道兼爲關白、權大納言藤原道長兼左近衛大將、日本紀略、公卿補任、大鏡裏書、○按一代要記、歷代皇紀、作右大將、誤、敕諸國寫大般若經、畫觀音像、以禳疫、日本紀略五月八日癸丑、關白右大臣道兼薨、左大臣兼皇太子傅源重信薨、十一日丙辰、敕權大納言藤原道長内覽太政官文書、日本紀略、公卿補任、百錬鈔、大鏡裏書、二十六日辛未、轉讀大般若經于十二門、

三日、日本紀略六月十九日甲午、以權大納言藤原道長爲右大臣、日本紀略、公卿補任、○一代要記爲二十九日二十一日丙申、大納言藤原顯光兼右近衛大將、小右記、一代要記、○公卿補任爲二十日、日本紀略二十二日、大鏡裏書二十九日、右近衛府廳東西倉火、日本紀略是夏疫氣盛行、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、○帝王編年記曰、是年夏秋間、人患赤斑瘡、而諸書係之四年、故不取、秋七月二十三日丁卯、免諸國貢賦四分之一、日本紀略八月二十一日乙未、奉幣諸社、日本紀略、百錬鈔、二十八日壬寅、内大臣藤原伊周

兼皇太子傳、(公卿補任)冬十月十五日戊子、大雨雷、二十一日甲午、謁石清水宮、二十二日乙未、還宮、十一月二十五日丁卯、卜雷、二十八日庚午、省試、十二月八日庚辰、遣使奉幣諸社、(日本紀略)

二年丙申、春正月壬寅朔、以物忌不御殿、五日丙午、觀東三條院、二月八日己卯、大原野祭、社樹僵牛馬死、三月二十八日戊辰、以東三條院不豫、大赦天下、夏四月二日壬申、地

震、(日本紀略)二十四日甲午、貶内大臣藤原伊周爲太宰權帥、權中納言藤原隆家爲出雲權守、(日本紀略、扶桑略記、公卿補任)其弟賴親周賴及黨與抵罪、(古事談)諸陣戒嚴、(日本紀略)五月五日甲辰、安置伊周于播磨、隆家于但馬、(古事談)二十日己未、解嚴、二十七日丙寅、使百僧讀經紫宸清涼二殿、六月二十五日甲午、省試、二十六日乙未、地大震、二十七日丙申、雨雹、(日本紀略)秋七月二十日戊午、以右大臣藤原道長爲左大臣、大納言藤原顯光爲右大臣、(日本紀略、公卿補任)二十八日丙寅、相撲召合、以饑饉徹樂、閏月九日丁丑、奉幣伊勢以下諸社、十日戊寅、鴨河溢損民屋、二十一日己丑、大風壞廬舍、二十四日壬辰、奉幣石清水賀茂大神貴布禰、(日本紀略)八月九日丁未、以藤原義子爲女御、(日本紀略、一代要記)左大臣藤原道長罷左近衞大將、(公卿補任、一代要記)九月八日乙亥、(○日本紀略作乙巳、今推干支訂之、)大納言藤原公季兼左近衞大將、(日本紀略、公卿補任、)是月藤

原伊周逃還、押送太宰府、(日本紀略○扶桑略記、百錬鈔、古事談、係十月、)冬十一月六日壬申、北野社火、(日本紀略、百錬鈔、)十二月二日戊戌、以藤原元子爲女御、(日本紀略)二十七日癸亥、右大臣藤原顯光罷右近衞大將、(公卿補任○一代要記係二十六日)乙丑晦、中納言藤原道綱兼右近衞大將、(日本紀略、公卿補任、)是歲米價騰貴、至冬京師屢火、(日本紀略)

三年丁酉、春正月二日丁卯、觀東三條院、是月至二月、京師屢火、三月十五日己卯、以東

三條院違豫、奉幣二十社、日本紀略二十五日己丑、大赦天下、常赦所不免者咸赦除、日本紀略、百錬鈔、夏四月五日己亥、召還藤原伊周藤原隆家、扶桑略記、百錬鈔、○公卿補任、大鏡裏書、以召還伊周係三月二十三日、日本紀略以隆家係本月十七日、二十一日乙卯、遣參議源俊明於伊勢、奉幣大神宮、遣使奉幣石清水賀茂平野春日、伊勢公卿勅使例五月甲子朔、日有食之、二十二日乙酉、地大震、日本紀略六月十三日丙午、高麗獻書、廷議不報、嚴警邊備、百錬鈔二十

二日甲寅、觀東三條院、二十三日乙卯、奉幣丹生貴布禰、春夏之交、京師多盜、日本紀略秋七月五日丁卯、以大納言藤原公季爲内大臣、公卿補任、日本紀略、壬辰晦、相撲召合、以東三條院疾徹樂、日本紀略冬十月壬辰朔、太宰府驛言、高麗劫掠邊陲、日本紀略、百錬鈔、○紀略高麗作南蠻、今據百錬鈔訂之、下倣此、十三日甲辰、遣使奉幣諸社禱之、十一月二日癸亥、太宰府言、獲高麗賊三十餘人、日本紀略

四年戊戌、春正月二十二日壬午、慶圓教寺、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、仁和寺諸堂記、○紀略曰天皇行幸、百錬鈔曰無行幸、未知孰是、二十六日丙戌、彗星見東方、一代要記夏四月十日戊戌、卜神祇官及齋院舍火、十五日癸卯、大祓建禮門、五月四日辛酉、奉幣伊勢以下諸社、六月三日庚寅、卜犬吠御座、日本紀略秋七月二日戊午、以東三條院違豫、大赦天下、二十日丙子、天皇患疱瘡、大赦天下、常赦所不免者咸赦除、日本紀略、患疱瘡據山槐記治承二年、八月二十日丙午、大風、武德殿御書所倒、九月十四

日庚午、太宰府上言、貴駕島人捕獲高麗賊、冬十月丙戌朔、日有食之、三日戊子、地大震、十一月十六日辛未、奉幣丹生貴布禰、十二月二日丁亥、盜入宣耀殿、日本紀略、○百錬鈔係三日、是歲自夏至冬、天下患赤斑瘡、夏秋之交殊甚、京師男女多死、日本紀略、扶桑略記、

長保元年己亥、春正月十三日丁卯、改元、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、大赦、二十七日辛巳、大膳進藤原中遠獻白雀、三月七日庚申、太宰府獻豐

前雨米、十六日己巳、覲東三條院、(日本紀略、外記日記、)夏五月五日丙戌、復丹波播磨讚岐、九日庚寅、觀陸奥交易馬、(外記日記、)六月十四日乙丑、禁中火、(日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、)天皇避之太政官、十六日丁卯、徙御一條大宮院、二十七日戊寅、卜火、二十八日己卯、奉幣伊勢以下九社、(日本紀略、外記日記、)秋七月十一日辛卯、太宰府言、產並頭蓮、(日本紀略、百錬鈔、)二十三日癸卯、遣使栢原後邑上陵告火、(小右記、)是月停相撲節、(日本紀略、)八月十

日庚申、奉幣二十二社、(小右記、)十九日己巳、太宰府言、擊高麗賊却之、(日本紀略、)九月八日丁亥、左大臣直盧有童子屍、(小右記、)冬十一月六日乙酉、以藤原彰子爲女御、(日本紀略、大鏡裏書、○扶桑略記、一代要記、爲七日、)十二月庚戌朔、太皇太后崩、(○百錬鈔、係二日、榮華物語、爲十一月朔、)五日甲寅、葬三條太皇太后、(日本紀略、扶桑略記、小右記、)十三日壬戌、頒新制十一條、(日本紀略、)二十七日丙子、先是散位平致頼與前下野守平維衡、構兵而戰、藤原致忠殺前相模

守橘輔政子、(今昔物語、)是日流致頼於隱岐、徙維衡於淡路、流致忠於佐渡、(日本紀略、小右記、)二年庚子、春正月、以國哀停諸節會、九日丁亥、大雪、(日本紀略、權記、)二月二十三日辛未、日薄蝕、(權記、)二十五日癸酉、尊圓融皇后曰皇太后、(大鏡裏書、)改中宮曰皇后、立女御藤原彰子爲中宮、(日本紀略、權記、大鏡裏書、○扶桑略記爲五日、公卿補任以立中宮爲二十七日、榮華物語、爲三月事、並誤、)三月戊寅朔、日有食之、(權記、)夏四月七日甲寅、震招俊堂災、(日本紀略、權記、扶桑略記、百錬鈔、)十

七日甲子、以皇子敦康爲親王、(日本紀略、權記、)二十三日庚午、卜災、(日本紀略、)五月三日己卯、紫雲見于北野社池、(百錬鈔、)四日庚辰、祈雨丹生貴布禰、六日壬午、以災奉幣二十一社、(日本紀略、)八日甲申、大和言、興福寺僧擾添下郡、敕令興福寺別當禁僧徒濫行、(權記、)十八日甲午、以東三條院違豫、大赦天下、(日本紀略、權記、)六月十六日辛酉、卜大神社鳴、(日本紀略、一代要記、)二十二日丁卯、祈雨丹生貴布禰、(權記、○日本紀略曰、二十一日丙寅、大雨、今不取、)秋

七月三日戊寅、減造宮諸國徭之半、十三日戊子、以大神社鳴、奉幣二十一社、八月十六日庚申、大水、日本紀略鴨河溢、壞京極以西人家、權記二十日甲子、以藤原尊子爲女御、日本紀略、權記、一代要記、二十三日丁卯、奉幣馬丹生貴布禰祈晴、權記冬十月十一日甲寅、宮成、徙御焉、日本紀略、百錬鈔、○扶桑略記係十一月二十七日庚午、奉幣伊勢以下八社、日本紀略十二月十六日己未、皇后崩、二十七日庚午、葬藤原皇后、日本紀略、大鏡裏書、是冬、疾

疫起自鎭西、流及京師、日本紀略、百錬鈔、帝王編年記、三年辛丑、春正月、以國哀停諸節會、日本紀略九日辛巳、東大寺大佛像遍身水出、日本紀略、西宮記裏書、卜占之、西宮記裏書二月十一日癸丑、祈雨丹生貴布禰、日本紀略三月十日壬午、以疾疫修百座仁王會於大極殿、天皇臨焉、日本紀略、百錬鈔、二十八日庚子、使千僧讀壽命經於大極殿、日本紀略、扶桑略記、夏四月十二日癸丑、大祓紫宸殿、建禮門、朱雀門、日本紀略五月九日庚辰、祭疫神于

紫野、建祠號今宮、日本紀略、帝王編年記、朝野羣載、○公事根源係二年庚子晦、轉讀大般若經於十二門、禳疫、日本紀略秋七月十三日壬午、大納言藤原道綱罷右近衞大將、公卿補任是月、遣參議源俊賢于伊勢、奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例自春至是月、天下大疫、死者相繼、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、八月二十五日甲子、權大納言藤原實資兼右近衞大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、冬十月三日庚子、賑給京師、日本紀略九日丙午、行幸上東門第、賀東三條院

壽四十、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、十一月十八日乙酉、禁内火、天皇避之職曹司、日本紀略、權記、百錬鈔、十九日丙戌、停大原野園韓神等祭、日本紀略二十二日己丑、遷御一條院、日本紀略、權記、百錬鈔、二十五日壬辰、敕造内裏限以明年秋冬、是日停新嘗會、權記、百錬鈔十二月二十七日甲子、奉幣伊勢以下七社、右衞門府獻白雉、日本紀略閏月三日庚午、修仁王會、十五日壬午、以東三條院違豫、大赦天下、常赦所不

免者、咸赦除、十六日癸未、覲東三條院、日本紀略、權記、二十二日己丑、東三條院崩、二十四日辛卯、葬東三條院、日本紀略、權記、扶桑略記、

四年壬寅、春正月、以諒闇停諸節會、七日癸卯、除服、三月十一日丁未、雷風雨雹、日本紀略、○扶桑略記係十日、夏五月七日壬寅、始修最勝講於清涼殿、江談鈔、年中行事、清涼殿據公事根源、○一代要記係五日、六月七日辛未、奉幣二十一社、禳天變祈雨、日本紀略、十三日丁丑、爲尊親王薨、日本紀略、一代要記、十三日據權記、十

九日癸未、敕造宮制度務從儉樸、百錬鈔、秋七月甲午朔、日有食之、日本紀略、扶桑略記、權記、五日戊戌、有大流星、扶桑略記、八月甲子朔、祈晴丹生貴布禰、九月六日戊戌、日月薄蝕、是夜有流星達旦、○日月薄蝕、扶桑略記係七月、七日己亥、夜半星流、至寅時而止、八日庚子、以天變大赦天下、左遷解官者復本官、日本紀略、二十一日癸丑、東大寺大佛像及鐘、沾濕如出水、二十六日戊午、奉幣二十一社、日本紀略、外記日記、冬十月壬戌朔、占東大寺怪異、日本紀略、西宮記、裏書、外記日記、六日丁卯、使百僧修仁王會於大極殿、日本紀略、十四日乙亥、右兵衛府火、日本紀略、百錬鈔、扶桑略記、十二月、始置內侍所神樂、一代要記、間歲擧之、年中行事、公事根源、

五年癸卯、春三月四日甲午、謁石清水宮、日本紀略、西宮記、太白晝見、日本紀略、五日乙未、還宮、七日丁酉、奉幣大神宮、日本紀略、權記、二十六日丙辰、行幸賀茂社、日本紀略、西宮記、權記、夏五月十九日戊申、京師大水、日本紀略、扶桑略記、秋八月戊午朔、日有食

之、日本紀略、冬十月八日甲子、宮成、徙御焉、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、帝王編年記、十一月十三日己亥、大風雷雨、○扶桑略記係十二日、十二月四日己未、遣使宇佐、七日壬戌、卜宇佐石清水怪異於軒廊、十二日丁卯、奉幣二十一社、日本紀略、是歲大有年、日本紀略、百錬鈔、

寬弘元年甲辰、春二月二十六日庚辰、住吉神人五十餘人詣闕、訴爲攝津守藤原說孝所毆傷、日本紀略、按說孝本書姓闕、據尊卑分脈補之、三月二十四

日戊申、宇佐宮命婦神人五百餘人守闕、訴太宰權帥平惟仲封閉神宮、日本紀略、五百餘人據百錬鈔、○扶桑略記係四月二十八日夏四月十七日庚午、卜鹿出大藏省入右衞門陣于軒廊、五月四日丁亥、以法皇皇子清仁昭登爲親王、○按榮華物語爲三年事、誤、秋七月二日甲申、祈雨、八日庚寅、讀經龍穴、十二日甲午、讀經二十一社及七大寺、日本紀略、[illegible]二十日壬寅、改元、日本紀略、扶桑略記、權記、公卿補任、○按百錬[illegible]爲十[illegible]誤、大赦、使二百僧讀經大極殿及七大

寺、二十四日丙午、祈雨、八月二日甲寅、卜旱于軒廊、四日丙辰、奉幣丹生貴布禰、六日戊午、令百僧讀仁王經於大極殿五日、十六日戊辰、奉幣七社及宇佐、日本紀略○七社、權記作十一社、冬十月十四日甲午、行幸松尾社、日本紀略、帝王編年記、二十一日辛丑、行幸平野北野二社、日本紀略、百錬鈔、松尾北野行幸始于此、一代要記、濫觴鈔、十二月庚辰朔、日有食之、十五日甲午、修仁王百講于大極殿、日本紀略、權記、二十八日丁未、以宇佐宮

司訴、罷平惟仲太宰權帥、日本紀略、公卿補任、百錬鈔、二年乙巳、春二月八日丙戌、大歌所大藏省西倉災、日本紀略、法成寺攝政記、小右記、權記、西倉據紀略權記、二十五日癸卯、修百座仁王會於大極殿、日本紀略、小右記、法成寺攝政記、以從二位藤原伊周班大臣下納言上、日本紀略、公卿補任、扶桑略記、法成寺攝政記、小右記、百錬鈔、二十八日丙午、盜殺大藏大輔平孝信、日本紀略、夏四月三日庚辰、大風雷雨、日本紀略、法成寺攝政記、二十六日癸卯、以天變怪異、赦免左右獄重囚、小右記、五月

二十三日庚午、震大炊寮廳、日本紀略、小右記、二十六日癸酉、祈年二十一社、日本紀略、秋七月十日丙辰、親試學生於弓場殿、法成寺攝政記、小右記、以中第者直御書所、日本紀略、小右記、百錬鈔、八月八日甲申、祈晴丹生貴布禰、日本紀略、法成寺攝政記、十三日己丑、東大寺鷺狐相鬪大佛殿、晝昏、佛像汗出、日本紀略、十四日庚寅、講最勝王經、小右記、百錬鈔、帝王編年記、○日本紀略係十六日二十一日丁酉、使百僧修仁王會於大極殿、日本紀略、小右記、九月九日甲寅、以天變

怪異、停重陽節、賜菊酒於宜陽殿、小右記十六日辛酉、卜東大寺怪異、日本紀略、西宮記裏書、冬十月四日己卯、以東大寺怪異、奉幣二十一社、東大寺要錄十三日戊子、有烏入朝餉几帳、過晝御座而去、小右記二十二日丁酉、慶新寫大般若經于清涼殿、日本紀略、法成寺攝政記、十一月二日丙午、大雷雨雹、日本紀略、小右記、百錬鈔、雨雹據法成寺攝政記、九日癸丑、卜之、十一日乙卯、非常赦、日本紀略十三日丁巳、以藤原伊周參預朝政、小右記、百錬鈔、公卿補任、歷代皇紀、

十五日己未、禁内火、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、神鏡大刀契焚、法成寺攝政記、小右記、百錬鈔、天皇避之神嘉殿、○法成寺攝政記作是皆舍遷職曹司、遂御太政官朝所、日本紀略、法成寺攝政記、小右記、十六日庚申、奉置神鏡於職曹司、諸衛護之、法成寺攝政記二十一日乙丑、停五節舞姬、日本紀略二十二日丙寅、卜占火災、小右記二十七日辛未、遷御左大臣藤原道長東三條第、日本紀略、扶桑略記、法成寺攝政記、權記、百錬鈔、是月、以火及穢、停吉田大原野祭、賀茂臨時祭、小右記十二

月九日癸未、奉移神鏡於東三條第、法成寺攝政記、小右記、百錬鈔、奉幣七社、日本紀略十日甲申、遣參議藤原行成於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、告神鏡罹災、日本紀略、伊勢公卿敕使例宸筆宣命始于此、古今著聞集自夏至冬、天變數見、神社佛寺多怪異、小右記

三年丙午、春二月二日乙亥、地震、十七日庚寅、營宮殿、日本紀略、法成寺攝政記、三月四日丙午、宴于東三條第、日本紀略、百錬鈔、法成寺攝政記、奏樂賦詩、法成寺攝

政記是日遷御一條院、日本紀略、百錬鈔、十四日丙辰、上皇徙自三條宮、御冷泉南院、日本紀略夏四月、客星見南方、明月記、寛喜二年○一代要記作二月戊子、按三月癸卯朔、無戊子、五月二日癸卯、修仁王百講於大極殿、日本紀略十日辛亥、讀經大内不斷聲、法成寺攝政記秋七月三日癸卯、召公卿議改鑄神鏡、有蛇上殿、走向神鏡所在、乃寢其議、法成寺攝政記、日本紀略、百錬鈔、十三日癸丑、大和守源賴親劾興福寺僧不法、僧二千餘入京訴之、左大臣藤原道長諭

還之、十九日己未、卜客星於軒廊、八月十九日己丑、奉幣二十一社、二十六日丙申、免輕囚、法成寺攝政記 九月四日癸卯、祈雨丹生貴布禰、日本紀略 二十二日辛酉、行幸藤原道長第、觀競馬、皇太子從焉、日本紀略、法成寺攝政記、百錬鈔 二十七日丙寅、盜入鴨院、權記 冬十月五日甲戌、冷泉院火、日本紀略、法成寺攝政記、百錬鈔、 十一日庚辰、山鷄入殿、日本紀略、法成寺攝政記 十一月二十六日乙丑、省試、日本紀略

四年丁未、春正月二十八日丙寅、大納言藤原道綱兼皇太子傅、公卿補任 二月八日乙亥、省試、夏六月四日戊戌、流星北行、日本紀略 八日壬寅、是夜流星向曙不止、九日癸卯、有大流星、法成寺攝政記 十六日庚戌、以星變大赦天下、常赦所不免者咸赦除、賜老人穀、日本紀略、權記、 二十一日乙卯、奉幣二十一社、二十六日庚申、祈雨丹生貴布禰、秋七月乙丑朔、筑前人大藏滿高殺大隅守菅野重忠於太宰府、日本紀略 三日丁卯、祈雨丹生貴布禰、權記 十四日戊寅、修仁王會、禳星變、八月十九日壬子、祈晴丹生貴布禰、日本紀略 冬十月二日乙未、三品太宰帥敦道親王薨、日本紀略、法成寺攝政記、權記、○一代要記係十二月 十二月二十一日癸丑、地震、日本紀略、法成寺攝政記、

五年戊申、春正月十六日戊寅、以藤原伊周准大臣、賜封一千戶、日本紀略、公卿補任、戶數據紀略大鏡裏書、 二月八日己亥、法皇崩、日本紀略、法成寺攝政記、榮華物語、大鏡裏書、○百錬鈔爲九日 十七日戊申、葬華山天皇、日本紀略、

法成寺攝政記 秋七月、以疾病災異、停相撲節、日本紀略 八月四日壬辰、祈晴丹生貴布禰、法成寺攝政記 八日丙申、卜霖于軒廊、日本紀略 冬十月十六日癸卯、行幸上東門第、法成寺攝政記、日本紀略、 以皇子敦成爲親王、日本紀略 十二月五日辛卯、冷泉南院成、上皇徙御焉、日本紀略、百錬鈔、

六年己酉、春二月五日辛卯、○百錬鈔係四日 僧圓能呪咀事發覺、捕訊鞫之、日本紀略、百錬鈔、 二十日丙午、圓能及其黨與處罪有差、日本紀略 停藤原

伊周朝參、日本紀略、百錬鈔、三月二十二日丁丑、雨雹、日本紀略、夏六月十九日壬寅、聽伊周朝、公卿補任、大鏡裏書、○日本紀略係十三日、百錬鈔二十三日、秋七月二十八日辛巳、二品中務卿具平親王薨、冬十月四日乙酉、雷、日本紀略、五日丙戌、一條院火、延喜天暦御記、累朝寶器多焚、天皇避之織部司、十九日庚子、徙御左大臣藤原道長枇杷第、日本紀略、百錬鈔、累朝寶器家百錬鈔十一月七日戊午、旬宴徹樂、十二月五日乙酉、雷、十五日乙未、大雷、是歲

冬燠、日本紀略、

七年庚戌、春正月十六日丙寅、以皇子敦良爲親王、二十一日辛未、大風、日本紀略、二十八日戊寅、准大臣藤原伊周薨、日本紀略、歷代皇紀、○公卿補任、榮華物語、大鏡裏書作二十九日、二月二十七日丁未、造一條院、左經記長元元年閏月九日己未、以明年値三合厄、特附祈年穀使、奉神寶東遊舞于伊勢、以下十二社、日本紀略、三月十八日丁酉、御紫宸殿、使百餘僧慶讚佛像法華經一千部、祈福禳災、日本紀略、百錬鈔、作餘僧、據紀略、秋七月六日癸未、大雨洪水、八月六日壬子、祈晴丹生貴布禰、十六日壬戌、地震、二十三日己巳、卜霖、九月二十一日丙申、地震、冬十月十日乙卯、奉幣二十一社、日本紀略、十一月七日壬午、爲平親王薨、公卿補任、大鏡裏書、尊卑分脈、二十八日癸卯、一條院成、自枇杷第徙御焉、日本紀略、百錬鈔、公卿補任、

八年辛亥、春正月五日己卯、雷、日本紀略、夏五月二十一日甲午、慶讚大藏經於紫宸殿、百錬鈔、爲二十八日、今據干支、從日本紀略、

二十二日乙未、弗豫、二十八日辛丑、大赦天下、六月十一日癸丑、奉金銀幣神寶于大神宮、日本紀略、十三日乙卯、天皇讓位於皇太子、日本紀略、百錬鈔、權記、榮華物語、上尊號曰太上天皇、皇代記、皇年代略記、一代要記、薙髮、日本紀略、百錬鈔、愚管鈔、法名精進覺、百錬鈔、皇代記、二十二日甲子、○百錬鈔係二十一日崩于一條院中殿、年三十二、日本紀略、榮華物語、皇代記、遺詔停山陵國忌及素服擧哀、日本紀略、小右記、火葬于北山長坂野、日本紀略、大鏡裏書、○小右記作巖陰長

坂東偁一條院、寛仁四年、藏御骨于圓融帝陵側、一代要記帝慈仁爲心、常憫民庶、寒夜嘗脫御衣、上東門院異而問之、帝曰、方今天寒、天下窮民其有不堪者、朕豈忍獨重襲哉、古事談、續古事談、好學崇文、詞藻過人、兼妙絲竹、藤原齊信語人曰、我嘗有所汲引、將私奏請、適聞玉音曰、凡事須要反淳素、我內甚愧、終不能請而止、時藤原道長日獻御膳、自聞此言、不復進御、續往生傳帝臨御日久、一時人才輩出、續往生傳、神皇正統記、自謂朕之得人、勝於延喜天曆之世、十訓鈔、神皇正統記、然遭道長專權、政不由己、意雖惡之、力不能制焉、古事談

大日本史卷之三十八終

大日本史卷之三十九

本紀第三十九

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

三條天皇

三條天皇、諱居貞、冷泉帝第二子也、母贈皇太后藤原氏、（日本紀略、大鏡裏書、一代要記、）貞元元年正月三日庚午、生于外祖大納言兼家東三條第、（帝王編年記、皇代記、東三條第據歷代皇紀、皇年代略記、○榮華物語作三月）天元元年十一月、爲親王、（日本紀略、大鏡裏書、帝王編年記、）永觀元年八月、始讀書、（日本紀略、大鏡裏書、）寬和二年六月、一條帝踐阼、七月冠于攝政兼家南院第、是日立爲皇太子、（日本紀略、皇代略紀、皇年代略記、○榮華物語云、十二月朔加元服、與諸書不合、今不取、）寬弘八年六月、一條帝弗豫、召入禁中、（日本紀略、榮華物語、）十三日乙卯、皇太子受禪於一條院、立一條帝第二子敦成親王爲皇太子、（日本紀略、百錬鈔、歷代皇紀、）左大臣藤原道長、右

大臣藤原顯光、內大臣兼左近衞大將藤原公季、大納言兼右近衞大將藤原實資、並如故、以顯光兼皇太子傅、（公卿補任）是夜天皇還御東三條第、（日本紀略）十八日庚申、尊一條帝曰太上天皇、（皇代略紀、皇年代略記、）十九日辛酉、上皇落髮、（日本紀略、皇年代略記、）二十二日甲子、法皇崩、（日本紀略、榮華物語、大鏡裏書、）秋七月八日己卯、葬一條天皇、八月十一日壬子夜、自東三條第徙御禁中、（日本紀略、小右記、）二十三日甲子、詔左大臣藤原道長、知太政官文書、（日本紀略、小右記、公卿補任、百錬鈔、○一代要記曰、道長關白如故、帝王編年記曰、是日爲關白、而按諸書、無道長爲關白之文、故不取、）以尚侍藤原妍子及藤原娀子爲女御、（日本紀略、小右記、一代要記、）冬十月五日甲辰、以皇子敦明敦儀敦平師明爲親王、（日本紀略、一代要記、）十六日乙卯、天皇卽位於大極殿、時年三十六、（日本紀略、大鏡裏書、皇年代略記、皇代略紀、）二十四日癸亥、以上皇不豫大赦、（日本紀略、）是日上皇崩、（日本紀略、大鏡裏書、一代要記、帝王編年記、）十一月四日癸酉、京師火、十六日乙酉、葬冷泉天皇、

二十七日丙申、除服御本殿、十二月十六日乙卯、始聽政、日本紀略二十七日丙寅、詔追尊所生女御藤原氏爲皇太后、置國忌列山陵、日本紀略、小右記、

長和元年壬子、春正月、以諒闇罷諸節會、日本紀略二月十四日壬子、尊皇太后曰太皇太后、中宮曰皇太后、立女御藤原妍子爲中宮、日本紀略、一代要記、夏四月二十七日甲子、立女御藤原娍子爲皇后、日本紀略、小右記、一代要記、○榮華物語爲二十八日秋

七月四日庚午、祈雨丹生貴布禰、日本紀略十二日戊寅、天皇患瘧、使僧讀經修法禱之、小右記二十六日壬辰、疾瘳、八月丙申朔、日有食之、日本紀略、小右記、冬閏十月二十七日辛卯、御禊、日本紀略、一代要記、歷代皇紀、十一月甲午朔、日南至、公卿表賀、日本紀略、醍醐報恩院所藏古記、左經記長元四年、十日癸卯、天皇始御紫宸殿、日本紀略二十二日乙卯、大嘗、日本紀略、一代要記、二十五日戊午、詔曰、古明聖之世、玉燭韋調、金鏡惟潔、濠梁波暖、及春仁於負氷之鱗、河漢雲晴、守秋信於隨陽之翅、故二耀合璧、五緯連珠、德動乾心、丘皇之風不墜、運當章甫、漢武之令長行、朕以眇身、忝膺寶命、涉道日猶淺、臨淵氷更危、垂衣之化、未被荒服之民、澆俗之弊、何反淳風之日、迺者有司奏言、今年十一月朔旦冬至、得天之紀、終而復始、誠是延祚之祥也、自顧菲虛、寧會休徵、嘉瑞不虛呈、必有其所應、顧非宗祧降祉、福輔佐兼親賢之所致乎、思與萬姓共此一陽、可

赦天下、但常赦所不免、不在赦限、敍爵賜物、一準舊典、庶施景福於地方之內、答靈貺於天度之端、醍醐報恩院所藏古記十二月四日丁卯、卜定當子內親王爲齋宮、十九日壬午、發大神寶使、日本紀略二十五日戊子、改元、日本紀略、百鍊鈔、皇代記、

二年癸丑、春正月、以贈皇太后忌月、元會及白馬節不御殿、日本紀略徹樂、年中行事廢踏歌節、年中行事、小右記、十六日戊申、東三條院火、日本紀略、法成寺攝政記、小右記、百練鈔、二月七日己巳、天皇與侍臣射、法成

（寺攝政記、小右記、）二十七日己丑、盜三十許人入故内大臣藤原伊周第掠物、使檢非違使索捕之、（法成寺攝政記）三月十一日壬寅、射禮、十四日乙巳、賭射、（日本紀略、小右記、）以國忌故延及之、歲以爲常、（小右記、年中行事、）二十四日乙卯、雪、京師大寒、（日本紀略、法成寺攝政記、）二十九日庚申、雷、雨雹、（日本紀略、小右記、）大如梅李、夏六月二十八日戊子、昭平親王薨、（日本紀略、）秋七月二十四日甲寅、天鳴地震、八月五日甲午、祈晴丹生貴布禰、（小右記、）八日丁

卯、地大震、（日本紀略、小右記、）十日己巳、又震、（小右記、）九月十六日乙巳、行幸左大臣藤原道長上東門第、（日本紀略、小右記、百錬鈔、）觀競馬、（百錬鈔、）二十五日甲寅、地震、（小右記、）冬十月己未朔、發大神寶使、二十三日辛巳、八十島祭、（日本紀略、）十一月二十八日丙辰、謁石清水宮、（日本紀略、西宮記、）丁巳晦、還宮、釆女町火、延及内膳司、十二月戊午朔、日有食之、（日本紀略、）十五日壬申、行幸賀茂社、（日本紀略、西宮記、）二十六日癸未、天皇患耳目疾、使僧修法

禱之、（百錬鈔、）

三年甲寅春正月二十七日甲寅、有彗星、（小右記、百錬鈔、一代要記、）出天船北卷舌南、（小右記、）二月九日乙丑夜、禁中火、天皇及中宮東宮、避之太政官朝所、二十日丙子、徙御松下曹司、（日本紀略、小右記、）三月十二日丁酉、以弓場殿罹災、停賭射、（小右記、）是日、内藏寮掃部寮火、（日本紀略、小右記、百錬鈔、）累代寶器藥物多亡、（小右記、百錬鈔、）夏四月九日甲子、徙自松下曹司、御左大臣藤原道長枇杷第、

（日本紀略、小右記、百錬鈔、）十一日丙寅、地震、（日本紀略、）五月十六日辛丑、行幸上東門第、觀競馬騎射、（日本紀略、小右記、百錬鈔、）二十四日己酉、定造宮諸司、符諸國司、嚴示賞罰限、以明年三月竣功、○（按、榮華物語曰、帝徙松下曹司、後三日敕修理大夫藤原通任、木工頭藤原周賴、造紫宸清涼二殿、其餘命之諸國司、始自今年賀茂祭日、至明年四月畢功、及期竣事者有賞、不則奪官停任、）六月、天寒、人襲綿衣、（小右記、）秋八月七日庚申、奉幣二十二社、二十一日甲戌、省試、大風壞廬舍、（日本紀略、）冬十一月十五日丁酉、御紫宸殿觀

馬、（小右記）二十四日丙午、雷大風、（日本紀略）十二月十一日癸亥、熒惑犯三公、（小右記）十七日己巳、華山院火、（日本紀略、小右記、百錬鈔、）四年乙卯、夏四月二十日己巳、地震、（日本紀略）五月庚辰朔、修七佛藥師法、禱不豫、（日本紀略、小右記、）九日戊子、修四角四界祭、（小右記）十五日甲午、修仁王會禳疫、（日本紀略、小右記、）二十六日乙巳、詔曰、朕旬日以來、霧露相侵、枕席無聊、仰護持於三寶、感神之力、猶遲、訪救療於十全、越人

之術未驗、矧時疫流行、間致夭折、衷襟不豫、雖責躬身於往圖、人俗宜濟、欲導黔首於壽域、刑罰者理亂之轡策也、雖不可空緩德化者興平之津梁也、猶不可暫忘、宜施凱風之仁、將期翌日之瘳、可大赦天下、常赦所不免者、咸赦除之、惠澤攸霑、不隔遐邇、陽光攸及、無別尊卑、庶添恩波於四海之中、以禳瘴氣於一天之下、二十八日丁未、地震、（小右記）六月己酉朔、日有食之、（日本紀略、小右記、）自三月至是月、

天下大疫、（日本紀略）死者盈道路、建疫神祠於紙屋川西、號花園今宮、奉神寶幣馬、修御靈會、（小右記）二十三日辛未、修仁王會、閏月十七日乙未、使二百僧轉讀仁王經於大極殿三日、秋七月、以不豫停相撲節、（日本紀略、小右記、）八月九日丙戌、大風、殷富門倒、（日本紀略）十日丁亥、以疫釋奠罷宴、十三日庚寅、敕今月以後諸衞官人、闕怠直衞、三日以上、嚴加督察、解其見任、九月七日甲寅、盜入西殿、十四日辛酉、遣權

中納言藤原懷平於伊勢、源經房於石清水、藤原行成於賀茂、藤原賴宗於松尾、藤原教通於大原野、並奉幣馬、以禱不豫、十七日甲子、視官奏、（小右記）二十日丁卯、宮成徙御馬、（日本紀略、小右記、百錬鈔、）冬十月二十一日戊戌、進造宮諸司位、但修理職木工寮、以稽緩過期不錄、二十七日甲辰、奉幣春日社、禱不豫、（日本紀略、小右記、）敕左大臣藤原道長、行京官除目於直廬、儀準攝政、（日本紀略、小右記、百錬鈔、）內大臣藤原公季、罷左

近衛大將、權大納言藤原賴通兼左近衛大將、（公卿補任）十一月六日壬子、地大震、十日丙辰、有虹見太政官廳前、（日本紀略）十七日癸亥夜、禁中火、天皇避之松下曹司、十九日乙丑、徙御枇杷第、（日本紀略、小右記、百錬鈔）十二月八日甲申、歲星經天、（小右記）十六日壬辰、小鳥羣飛蔽天、（日本紀略）二十七日癸卯、省試、（小右記）

五年丙辰春正月二十九日甲戌、天皇讓位於皇太子、立皇子敦明親王爲皇太子、以左

大臣藤原道長攝政、（日本紀略、小右記、百錬鈔）帝在位、頗惡道長專權、常慮爲其所忌、意不自安、嘗觀相撲、默禱大神宮寶祚永安則左得勝矣、既而左勝、帝悅、（小右記）後病失明、（小右記、大鏡○按小右記、或爲冷泉院所祟、或爲藤原元方、或爲僧賀靜陀觀、大鏡爲桓算、皆妄誕不經、故不取、）朝會少臨御、道長數諷去位、帝不懌、（小右記）至是欲親詣名寺以禱病、遂決意脫屣、（大鏡）二月、上太上天皇尊號、（日本紀略、小右記、大鏡裏書）仍居枇杷第、後徙三條院、（日本紀略、榮華物語）五月、登比叡山、修七壇法七日、（日本紀略、小右記、大鏡裏書）十二月、幸廣隆寺、駐蹕九日、寬仁元年四月、薙髮、（日本紀略、大鏡裏書）法名金剛淨、（皇胤紹運錄○皇年代略記作金剛行、誤、）五月九日丙午、法皇崩于三條院、年四十二、（日本紀略、榮華物語○大鏡裏書爲五日崩）遺詔停素服舉哀、（日本紀略）火葬于石蔭、（榮華物語○日本紀略、大鏡裏書並作石垣）藏御骨於北山、（皇代記、帝王編年記）稱三條院、

大日本史卷之三十九終

大日本史卷之四十

本紀第四十

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

後一條天皇

後一條天皇、諱敦成、一條帝第二子也。（日本紀略、百錬鈔、一代要記、大鏡、）母上東門院、寬弘五年九月十一日戊辰、生于外祖左大臣藤原道長上東門第、十月爲親王、（日本紀略、法成寺攝政記、大鏡裏書、）七年十月著袴、（日本紀略、皇代略記、）八年六月、三條帝踐祚、立爲皇太子、（日本紀略、百錬鈔、皇代記、）長和三年十一月、始讀書、（日本紀略、大鏡裏書、）五年正月二十九日甲戌、皇太子受禪於上東門第、（日本紀略、歷代皇紀、毘沙門堂所藏記、）立三條帝皇子敦明親王爲皇太子、（日本紀略、小右記、）以左大臣藤原道長攝政、（日本紀略、小右記、公卿補任、）右大臣藤原顯光、内大臣藤原公季、權大納言兼左近衛大將藤原賴通、大納言兼右近

衛大將藤原實資並如故、（公卿補任）二月七日壬午、天皇卽位於大極殿、時年九歲、（日本紀略、一代要記、皇代記、）十三日戊子、尊三條帝曰太上天皇、（日本紀略、小右記、）十七日壬辰、試瀧口射於左近衛府、（小右記）十九日甲午、卜定媞子女王爲齋宮、（日本紀略、小右記、）二十六日辛丑、以右大臣藤原顯光爲藏人所別當、左大辨源道方爲修理職別當、左中辨藤原經通爲木工寮別當、領造宮事、（小右記）三月八日壬子、發大奉幣使、（日本紀略、小右記、）十六日庚申、以右大臣藤原顯光爲皇太子傅、（公卿補任）二十日甲子、令外衛舍人帶弓箭、警行陣中、二十三日丁卯、試帶刀騎射於右近馬場、（小右記）癸酉晦、地震、（日本紀略）夏四月七日庚辰、始造宮、（日本紀略、小右記、）二十七日庚子、遣使宇佐告卽位、（日本紀略）五月甲辰朔、上皇幸比叡山、八日辛亥、還宮、壬申晦、以諸國旱、奉幣丹生貴布禰、（日本紀略、小右記、）六月二日甲戌、從自上東門第、御一條院、（日本紀略、小右記、百錬鈔、）八日庚辰、令

祭主大中臣輔親雩、（小右記）九日辛巳、修請雨經法於神泉苑、是日大雨、（日本紀略、小右記、祈雨日記、東寺長者補任、）秋七月、停相撲節、（日本紀略）二十日壬戌、京師火、（日本紀略、百錬鈔、）九月、不豫、十六日丁巳、使僧修法、疾瘳、（日本紀略）二十三日甲子、枇杷第火、上皇徙御攝政道長高倉第、（日本紀略、百錬鈔、）二十八日己巳、盜入穀倉院、冬十月三日甲戌、論諸衛官人闕直者、停釐務、二十日辛卯、上皇徙御三條院、（日本紀略）二十三日甲午、御禊、（日本紀略、一代要記、皇代記、帝王編年記、）十一月七日丁未、（○按紀略是月干支錯誤、今據本書前後干支訂之、）攝政道長罷左大臣、（日本紀略、公卿補任、）十五日乙卯、大嘗、（日本紀略、一代要記、皇代記、帝王編年記、）二十三日癸亥、卜鹿入禁中、十二月二十九日己亥、播磨獻白雉、（日本紀略）

寛仁元年丁巳、春正月、復踏歌節、行射禮、（日本紀略、年中行事、）二十二日壬戌、盜入禁中、捕下獄、（日本紀略、）三月庚子朔、大安寺火、（日本紀略、百錬鈔、僧綱補任、○一代要記係二年二月、）四日癸卯、以右大臣藤原顯光爲

左大臣、內大臣藤原公季爲右大臣、權大納言藤原賴通爲內大臣、（日本紀略、公卿補任、）八日丁未、謁石清水宮、（日本紀略、西宮記、玉蘂、嘉禎元年、）奉封百戶、（日本紀略、）十六日乙卯、攝政道長罷、以內大臣藤原賴通攝政、（日本紀略、公卿補任、一代要記、百錬鈔、○榮華物語爲十七日、）二十二日辛酉、攝政賴通罷左近衛大將、班左右大臣上、夏四月三日辛未、權中納言藤原教通兼左近衛大將、（日本紀略、公卿補任、）二十三日辛卯、改元、（日本紀略、百錬鈔、皇代記、一代要記、）丁酉晦、上皇薙髮、（日本紀略、大鏡裏書、）五月九日丙午、法皇崩、（日本紀略、榮華物語、愚管鈔、○大鏡裏書爲五日）十二日己酉、葬三條天皇、（日本紀略、大鏡裏書、皇代記、）六月戊辰朔、太皇太后藤原氏崩、（日本紀略、大鏡裏書、）五日壬申、葬東北院、太皇太后、（日本紀略、院號據貴女鈔、）十四日辛巳、轉讀仁王經、禳天下疾疫、（日本紀略）二十二日己丑、震興福寺塔、東金堂災、（日本紀略、百錬鈔、）二十三日庚寅、使千僧慶讚壽命經於大極殿、禱疾疫、（日本紀略）秋七月丁酉朔、卜霖于軒廊、（日本紀略、左經記、）鴨河溢、漂流悲

田院病者三百餘人、盜入齋院、左經記、五日辛丑、祈晴丹生貴布禰、日本紀略、左經記、八月、山城攝津近江丹波蝗、日本紀略、攝津據小右記、三日戊辰、官符諸國讀仁王經最勝王經禳之、左經記、七日壬申、奉幣二十一社、小右記、左經記、九日甲戌、皇太子辭位、聽之、立皇弟敦良親王爲皇太弟、日本紀略、小右記、百錬鈔、以右大臣藤原公季爲傳、公卿補任、十八日癸未、地震、二十五日庚寅、以前皇太子準太上天皇、稱小一條院、日本紀略、冬十月二日丁卯、發大神寶使、日本紀略、小右記、左經記、十二日丁丑、有牛入東宮、十五日庚辰、有鹿上後涼殿、小右記、十六日辛巳、占之、日本紀略、二十日乙酉、有狐上御座、占之、二十六日辛卯、鹿又入宮、小右記、十一月九日癸卯、奉伊勢朝明郡於大神宮、小右記、左經記、十五日己酉、命石清水已下八社神官禳火災、左經記、二十五日己未、天皇與皇太后同輿、行幸賀茂社、加奉郡邑、日本紀略、小右記、授神官爵、小右記○玉蘂嘉禎元年爲二十二日丙辰、十二月四日戊

辰、以前攝政道長爲太政大臣、日本紀略、公卿補任、小右記、左經記、五日己巳、觀陸奧交易馬、左經記、十二日丙子、發八十島祭使、小右記、左經記、十三日丁丑、近江國分二寺災、二十二日丙戌、詔曰、節儉者上德富國之表儀也、損益者前賢安民之治要也、寔是皇道之彝訓、寧非史冊之明文、故南面雖尊、唐葛之衣膚冷、中心是鈞、漢蒲之膳味疎、況淳風隔時、澆波臨世、四海已謝有截之日、百姓豈望以贍之秋、在彼重華之大聖、當此季葉而少功、朕以弱齡、謬繼丕緒、帝跡廣而勞化俗之道、政績紛而迷利世之方、施何德化、期其康寧、只考恒典於列代、欲均節用於普天、其朕服御常膳等物、宜準累朝之例、以減四分之一、庶幾省毫毛於鳳扆之下、導黎元於鴻休之間、小右記、甲午晦、雷、左經記、

二年戊午、春正月三日丁酉、天皇加元服于紫宸殿、日本紀略、百錬鈔、紫宸殿據左經記、恩賜有差、左經記、日本紀略、七日辛丑、尊皇太后曰太皇太后、日本紀略、二

月九日癸酉、太政大臣道長罷、（左經記、公卿補任、）夏四月二十八日辛卯、宮成從御、（日本紀略、小右記、左經記、百鍊鈔、）以尚侍藤原威子爲女御、（日本紀略、小右記、一代要記、）閏月十二日甲辰、圓教寺火、（日本紀略、小右記、百鍊鈔、）二十三日乙卯、大風雨雹、（日本紀略、）有狼死綾綺殿牀下、（○日本紀略作內侍所）是月神鏡鳴、並占之、五月十九日庚辰、雩于神祇官、三日、（小右記、）二十四日乙酉、祈雨丹生貴布禰、（日本紀略、小右記、）讀經延曆寺七大寺及龍穴、（小右記、）辛卯晦、又祈丹

生貴布禰、（日本紀略、小右記、）六月三日甲午、卜旱軒廊、（日本紀略、）令百僧讀仁王經於大極殿五日、（日本紀略、小右記、左經記、）四日乙未、修請雨經法於神泉苑九日、（日本紀略、小右記、左經記、祈雨日記、）修五龍祭、（日本紀略、小右記、）免左右獄輕囚、（小右記、）八日己亥、使延曆興福二寺僧五百讀仁王經三日、（小右記、三日據日本紀略、）十四日乙巳、奉幣伊勢以下諸社、（日本紀略、諸社據小右記、左經記、）十九日庚戌、彗星見西北、（小右記、一代要記、○左經記云、自十八日見、）二十七日戊午、修百座仁王會於

大極殿、禳九旱天變、庚申晦、暴雨震宣陽門、職曹司大藏省大膳職、（小右記、宣陽門職曹司據左經記、）秋七月霖雨、十九日己卯、祈晴丹生貴布禰、九月二十五日甲申、地震、（日本紀略、）冬十月十六日乙巳、尊三條中宮曰皇太后、立女御藤原威子爲皇后、（小右記、）二十二日辛亥、天皇與太皇太后皇太后皇后皇太弟幸前太政大臣道長上東門第、二十八日丁巳、試擬文章生詩、及第者十四人、（日本紀略、小右記、左經記、）十一月十日戊

辰、敕賜東西獄及悲田院衣物酒食、（左經記、）十二月十七日乙巳、敦康親王薨、（○按一代要記、榮華物語作十一月薨、誤、）二十七日乙卯、造大安寺、（日本紀略、小右記、左經記、）

三年己未、春正月己未朔、元會不御殿、徹樂、（日本紀略、小右記、徹樂據紀略、）二月二十三日辛亥、日華門倒、（日本紀略、小右記、）三月戊午朔、日有食之、四日辛酉、以小一條院子敦貞爲親王、（○小右記係五日、）十四日辛未、盜行火凝華舍、撲滅之、（日本紀略、）十七

日甲戌、穀倉院火、(百錬鈔係朔、今從日本紀略、小右記)是月刀伊賊船五十餘寇對馬、(朝野群載)夏四月三日庚寅、以前太政大臣道長病、詔大赦天下、常赦所不免者咸赦除、(日本紀略、小右記)十二日己亥、盜火襲芳舍及藍園、撲滅之、十三日庚子、京師多盜、數放火劫掠、敕立賞格購索捕之、(小右記)十七日甲辰、太宰府驛奏刀伊賊入壹岐島、殺守藤原理忠、虜掠人民、遂侵筑前怡土郡、十八日乙巳、敕太宰府守禦要害、禱祈神社

佛寺、(日本紀略)廷議命北陸山陰山陽南海四道警備、(小右記)二十一日戊申、奉幣伊勢以下十社、(日本紀略)二十五日壬子、太宰府言刀伊賊寇筑前那珂郡、肥前松浦郡、遣前少監大藏種材・藤原明範等擊卻之、(朝野群載○按本書所載太宰府解、卯四月十六日之文、今以上言係此日、據日本紀略、小右記、)二十七日甲寅、重命太宰府防禦賊虜、(日本紀略、小右記)五月十二日戊辰、中務省監物局火、(小右記)二十四日庚辰、祈雨丹生貴布禰、二十六日壬午、修仁王

會於大極殿、(日本紀略、小右記)是日雨、(日本紀略)六月四日己丑、星月晝見、(小右記)十九日甲辰、丹波百姓相帥守陽明門、訴國守不法、二十日乙巳、丹波守藤原賴任差吏卒捕之、(日本紀略、小右記)命檢非違使逮其爲首者十餘人、(小右記)秋八月六日庚寅、使百僧轉讀仁王經於大極殿三日、(日本紀略、百僧大極殿據小右記、)十一日乙未、有人私闌露刀入禁中、太皇太后宮大進源賴國佐渡守有孝捕獲之、(小右記、左經記○有孝姓闕)二十八日壬

子、皇太弟加元服於紫宸殿、(日本紀略、小右記、左經記、年代略記)詔曰、皇太弟敦良、周誦養材、漢莊讓德、龍樓之月、添其明、牛漢之星、揚其耀、是以仲秋景宿、日月嘉辰、備首服而應三加之禮、修容儀而從四行之文、宜尋徽章於曩日、以均慶賜於普天、其天下爲父後者、六位以下敍爵一級、寬仁元年以往調庸未進、咸從免除、(小右記)九月、太宰府言新羅送還刀伊所掠壹岐對馬男女二百餘人、(小右記、左經記)是月課諸國

修皇嘉門及諸門垣、小右記 十二月二十二日甲辰、以攝政賴通爲關白、日本紀略、公卿補任、左經記、小右記、○一代要記爲二十一日、百錬鈔二十三日、

四年庚申、夏四月十三日甲午、天皇患疱瘡、日本紀略 二十二日癸卯、詔大赦天下、免調庸逋負、復天下今年田租之半、其疾病者、使長吏躬親周視、特加優恤、使僧讀大般若經、不斷聲五日、左經記 二十三日甲辰、修仁王會、自春疱瘡流行、是月殊甚、日本紀略 五月十一日辛酉、

天皇疾瘳、課防河役於畿内及近江丹波六月十六日丙申、藏一條帝御骨於圓融寺、二十二日壬寅、讀大般若經於大極殿三日、以禳疾疫、秋七月、以疾疫停相撲節、左經記 二十二日辛未、大風、宮殿門廊多倒、日本紀略 八月十一日庚寅、定考、以疱瘡流行撤樂、左經記 二十二日辛丑、大風雨、日本紀略 九月十日戊午、天皇患瘧疾、小右記 十三日辛酉、轉讀大般若經、日本紀略 二十五日癸酉、讀法華經於淸涼殿、不斷聲、小右記 二十八日丙子、讀經二十一寺、左經記 冬十月七日甲申、占雉集安福殿、日本紀略、○安福殿、左經記作校書殿 十一月二日己酉、祈晴丹生貴布禰、日本紀略 十一日戊午、奉神寶於宇佐、十二月十八日甲午、以疾疫修仁王會於大極殿、免輕囚、日本紀略、左經記、 官符諸國、每月六齋日禁殺生、閏月二十五日辛未、又修仁王會三日、是月、太宰府言南蠻賊掠薩摩人、詔討之、左經記

治安元年辛酉、春正月、天皇始視除目、中右記、永久二年 二十八日甲辰、修仁王會、禳疾疫、日本紀略 二月丙午朔、納藤原嬉子爲皇太弟妃、一代要記 二日丁未、改元、大赦天下、給老人僧尼穀、二十五日庚午、奉幣二十一社、三月七日壬午、使公卿諸司寫壽命經一千僧轉讀之大極殿、夏四月五日庚戌、高松殿火、二十三日戊辰、奉幣二十一社、祈雨禳疾疫、二十六日辛未、轉讀仁王經於石淸水以下十六社三日、

日本紀略五月二十五日己亥、左大臣藤原顯光薨、日本紀略、公卿補任、二十七日辛丑、轉讀大般若經于大極殿、六月十六日庚申、奉幣二十一社、秋七月甲戌朔、日有食之、十日癸未、修仁王會于大極殿、以禳疾疫、日本紀略二十五日戊戌、以右大臣藤原公季爲太政大臣、內大臣賴通爲左大臣、關白仍舊、大納言藤原實資爲右大臣、權大納言藤原教通爲內大臣、八月壬申晦、右大臣藤原實資兼皇太弟傅、公卿補任、

小右記、九月四日丙子、祈雨丹生貴布禰、日本紀略冬十月十四日丙辰、天皇與太皇太后同輿、幸春日社、奉添上郡於春日社、日本紀略、大鏡裏書、賜社司位、榮華物語十五日丁巳、還宮、是月觀童舞於清涼殿、十二月十四日甲寅、又觀童舞、日本紀略二十三日癸亥、宇佐宮災、日本紀略、百錬鈔、是歲旱、大饑、一代要記春夏疾疫、死亡相繼、日本紀略

二年壬戌、春二月二日壬寅、卜宇佐災、後愚昧記應安四年十九日己未、奉幣石清水、告宇佐災、日本紀略、扶桑略記、二十六日丙寅、以宇佐災輟朝五日、○百錬鈔爲二十四日二十七日丁卯、遣使宇佐、夏六月四日壬寅、以不豫讀大般若經法華經於禁中及東大興福二寺、秋七月十一日己卯、奉幣七社、日本紀略十四日壬午、行幸法成寺、觀前太政大臣道長慶金堂、大赦天下、日本紀略、扶桑略記、常赦所不免者咸皆赦除、冬十月二十三日己未、地震、日本紀略二十五日辛酉、行幸平野、十一月二十八日甲午、行幸大原野、日本紀略、西宮

記、帝王編年記、

三年癸亥、春正月二日丁卯、觀太皇太后、日本紀略、扶桑略記、玉蘂嘉禎元年、二月二十五日己未、盜火麗景殿、撲滅之、日本紀略秋七月四日丙寅、地大震、五日丁卯、又大震、八月二十一日壬子、祈雨丹生貴布禰、小右記

萬壽元年甲子、春三月十七日甲辰、地震、日本紀略、扶桑略記、十八日乙巳、又震、扶桑略記夏四月十一日戊辰、祈雨石清水賀茂貴布禰春日、小右記

二十七日甲申、又祈丹生貴布禰、五月丁亥朔、日有食之、日本紀略秋七月十三日戊戌、改元、詔大赦天下、日本紀略、小右記、賑給高年、日本紀略九月十一日丙申、有白雲如布二道、自西南亘東北、小右記十九日甲辰、行幸關白賴通賀陽院第、觀競馬、日本紀略、扶桑略記、小右記令舍人及東宮帶刀等騎射、榮華物語冬十一月二十三日丁未、行幸松尾社、日本紀略○西宮記係二十七日勢多橋火、日本紀略、小右記十二月二日丙辰、雷、日本紀略二十六日庚辰、行幸北野社、日本紀略、西宮記、

二年乙丑春二月十九日壬申、奉幣大神宮、日本紀略三月二十五日丁未、三條皇后藤原氏崩、日本紀略、大鏡裏書夏四月十四日乙丑、葬皇后藤原氏、日本紀略秋七月、諸國旱、和泉淡路殊甚、小右記九日己丑、祈雨丹生貴布禰、日本紀略、小右記、左經記、十六日丙申、以小一條院妃薨、停相撲節、日本紀略、小右記、二十一日辛丑、使七大寺僧讀經東大寺、小右記、左經記、又讀經室生龍穴、二十二日壬

寅、大炊寮廳火、小右記八月十一日庚申、天皇患赤斑瘡、十五日甲子、疾瘳、小右記、左經記、九月二日辛巳、有白雲如布、亘東西山、小右記二十四日癸卯、改葬皇后藤原氏、日本紀略、小右記、自夏赤斑瘡流行、至是月不止、日本紀略、扶桑略記、○紀略赤斑瘡作疱瘡、今從小右記冬十月、天皇受仁王經於僧院源、左經記十二月五日癸丑、地震、日本紀略

三年丙寅春正月二日庚辰、覲太皇太后、左經記十九日丁酉、上太皇太后號曰上東門院、日本紀略、左經記、百鍊鈔、二十八日丙午、卜御廚子所有

光、左經記三月二十五日壬寅、修百座仁王會、日本紀略、左經記、二十六日癸卯、省試、夏四月二十八日甲戌朔、餉御座及臺盤所有光、是月京師井生蟲如蛭、飲者患腫、五月弗豫、七日壬午、使僧修不動法、祭主禱于神祇官、九日甲申、卜宇佐宮柞樹暴枯復榮、鴨集南樓于軒廊、十三日戊子、官符諸國、禳宇佐怪異、閏月、令僧讀經修法、又修七瀨禊、禱弗豫、左經記秋

八月十七日庚寅、大風、左衛門陣樹倒、官舍多壞、二十八日辛丑、卜賀茂社檜樹一時枯、日本紀略冬十月癸酉朔、日有食之、日本紀略、扶桑略記、二十二日甲午、修仁王會於大極殿、禳今年日月三蝕、日本紀略

四年丁卯、春正月三日乙巳、覲上東門院、京師火、延燒千餘家、日本紀略、扶桑略記、千餘家據紀略、二月二十七日戊戌、右近衛府圖書寮火、累代寶器罹災、日本紀略、百錬鈔、是月盜數刧路人、小右記又入

禁中、奪女官衣物、三月二日癸卯、地大震、日本紀略二十三日甲子、納禎子內親王爲皇太弟妃、夏四月十二日壬午、敕禁賀茂禊祭車服華侈、日本紀略、小右記、五月十四日癸丑、大風、二十四日癸亥、京師風雨洪水、屋舍多壞、震豐樂院觀德堂、日本紀略、觀德堂據扶桑略記、六月十日己卯、東大寺塔上有小蟲怪、占之、日本紀略、占之據西宮記裏書、○按西宮記云、東大寺塔上怪云云、五月五日宣旨云、簡寺中僧五十口、始自今月十一日、七箇日轉讀仁王經、而月日舛差、今不取、秋七月十日戊申、占宇佐宮怪、小右記九月十三日庚戌、京師大風、舍屋多倒、日本紀略十四日辛亥、皇太后藤原氏崩、日本紀略、扶桑略記、十六日癸丑、葬枇杷皇太后、日本紀略、小右記、冬十一月二日戊戌、卜宇佐宮怪異於軒廊、日本紀略、軒廊據西宮記、十三日己酉、以前太政大臣道長疾、大赦天下、常赦所不免者咸赦除、免調庸、加賑恤、十八日甲寅、停親試、日本紀略二十六日壬戌、行幸法成寺、視道長疾、日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、二十九日乙丑、盜入勸學院、是月敕

造宇佐宮、小右記十二月四日庚午、前太政大臣道長薨、小右記、公卿補任、扶桑略記、百錬鈔、○日本紀略係朔、誤、

長元元年戊辰、春正月、以道長薨、停諸節會敍位、二月十八日癸未、虹見清涼殿、日本紀略、扶桑略記、三月丙辰朔、日有食之、日本紀略、左經記、扶桑略記、是月有氣四塞如雲霞、訛言海潮溢、日本紀略、扶桑略記、夏四月、祈雨神泉苑、祈雨日記五月三日丁酉、轉讀大般若經於大極殿、禳旱疫、日本紀略、扶桑略記、二十三日丁巳、糾察非武官帶弓箭往來街路

者、左經記六月七日庚午、奉幣二十一社、祈豐年、禳疾疫、鎭騷擾、日本紀略、扶桑略記、祈豐年禳疾疫據左經記、二十一日甲申、先是前上總介平忠常反、燒殺安房守惟忠、姓闕詔檢非違使右衞門少尉平直方、少志中原成道等討之、日本紀略、左經記、燒殺惟忠據編年殘編、〇編年殘編前上總介作下總權介官符東海東山二道同討、日本紀略秋七月三日丙申、祈雨丹生貴布禰、日本紀略、左經記、扶桑略記、九日壬寅、讀仁王經於七大寺、十日癸卯、讀經龍穴、十三日丙午、讀仁

王經於東大寺、侍從所鳴、左經記十八日辛亥、使百僧讀仁王經於大極殿、日本紀略、左經記、扶桑略記、〇百僧、紀略、略記共作僧百十二口、二十五日戊午、改元、大赦天下、日本紀略、左經記、八月四日丙寅、震左大史小槻貞行家、一婢震死、小右記、左經記、按本書貞行姓闕、據小槻系圖補之、五日丁卯、平直方中原成道等發京師、日本紀略、左經記、編年殘編、二十八日庚寅、以霖雨大風、使百僧讀仁王經於大極殿、日本紀略、扶桑略記、是月備前大風、寺社官舍悉壞、小右記九月二日癸巳、

京師諸國大風雨洪水、日本紀略、左經記、扶桑略記、屋舍多倒、左經記冬十月十三日甲戌、金峯山僧百餘詣陽明門、訴大和守藤原保昌苛政、二十一日壬午、京師火、日本紀略、左經記、扶桑略記、延燒五百餘家、日本紀略、扶桑略記、二十五日丙戌、策試、小右記十一月四日甲午、雷、是月天暖、左經記九日己亥、京師火、日本紀略、小右記、左經記、扶桑略記、十四日甲辰、禁五節奢靡、小右記十五日乙巳、省試、左經記二十九日己未、夜盜刼女子於殿上奪衣、小右記、左經記、瀧

口射殺之、日本紀略、小右記、左經記、扶桑略記、

二年己巳、春二月二日辛酉、彗星見、一代要記、中右記長承元年、山槐記治承二年、五日甲子、官符追討使平直方、及東海東山北陸三道、討平忠常、日本紀略、扶桑略記、參取小右記、二十三日壬午、盜入禁中曹司、取女子衣物、小右記閏月二十九日戊午、奉幣二十二社、三月十八日丁丑、使百僧讀仁王經於大極殿、夏五月二日庚申、奉幣伊勢已下十六社、十三日辛未、修仁王八講於清涼殿、

日本紀略、扶桑略記、六月七日甲午、以小一條院子敦元敦昌、並爲親王、十三日庚子、遣檢非違使搜索平忠常家僮在京師者、二十六日癸丑、卜石清水宮有尸骸於軒廊、秋七月二日己未、奉幣石清水、日本紀略八日乙丑、出雲飯石郡須佐鄉雪、損田畝、殺草木、小右記、朝野羣載、古事談、二十日丁丑、前太宰大貳藤原惟憲獻白鹿、放之神泉苑、小右記○日本紀略、編年殘編、係十日、扶桑略記二十三日、百錬鈔十三日、二十一日戊寅、修仁王會、禳三合厄、日本紀略

八月丁亥朔、日有食之、日本紀略、小右記、二十七日癸丑、奉幣二十一社、九月十六日辛未、以關白賴通疾、大赦天下、常赦所不免者皆赦除、是月京師人多病腫、謂之福來病、踰月不止、日本紀略冬十月十七日壬寅、太政大臣公季薨、日本紀略、扶桑略記、公卿補任、十一月二十八日壬午、謁石清水宮、日本紀略、帝王編年記、二十九日癸未、還宮、十二月八日壬辰、檢非違使中原成道坐在軍不奏狀奪官、日本紀略

三年庚午、春正月十七日辛未、盜殺女子於豐樂院壇上、三月八日辛酉、上東門院所居三條第火、二十七日庚辰、安房守藤原光業畏平忠常、棄印鎰還京師、壬午晦、以平正輔爲安房守、夏四月二十三日乙巳、禁諸國吏營宅過制、其及方一町者、減爲四分之一、又禁六位已下板築作垣、檜皮葺屋、二十七日己酉、讀大般若經於大極殿、禳疫、五月八日庚申、奉幣二十二社、祈甘雨、鎭賊亂、十三日

乙丑、祈雨丹生貴布禰、十九日辛未、會千僧於大極殿、讀壽命經、禳疫、二十四日丙子、命諸國畫丈六觀音像、讀觀音經、日本紀略是月京畿飢、給貧民米鹽、西宮記、六月八日庚寅、卜宇佐宮神馬焚死於軒廊、二十日壬寅、修仁王會於大極殿、禳疾疫、秋七月六日丁巳、彈正尹清仁親王薨、日本紀略八月十六日丁酉、祈晴丹生貴布禰、日本紀略作祈雨、朝野羣載載宣命作止雨、今從之、九月二日壬子、敕甲斐守源賴信率坂東諸國兵、

討平忠常、召還追討使平直方、（日本紀略）二十三日癸酉、遣權中納言藤原經通於伊勢、奉神寶幣帛於大神宮、禳天變怪異、（日本紀略、伊勢公卿敕使例、）冬十二月二十九日丁未、伊賀守源光清坐殺伊勢神民、流于伊豆、（日本紀略、百鍊鈔、）

四年辛未春正月三日辛亥、覲上東門院于京極院、皇太弟從焉、（日本紀略、小右記、）二月十日丁亥、多武峯鳴動、二十六日癸卯、先是耽羅人漂來、至是給糧放還、（小右記）三月十四日辛酉、

式部卿敦平親王坐事停釐務、是日命法官論安房守平正輔、前右衞門尉平致經私鬪罪、（日本紀略、小右記、左經記、）夏四月二十八日乙巳、甲斐守源賴信言、賊平忠常降、（日本紀略、左經記、）丙午晦、東三條院火、（日本紀略、扶桑略記、）六月十六日壬辰、賴信斬忠常傳首京師、（扶桑略記○左經記、百鍊鈔、係二十六日、日本紀略、係五月、）秋七月二十二日丁卯、祈雨丹生貴布禰、（日本紀略、小右記、左經記、）二十五日庚午、震豐樂院西南堂、（小右記）八月四日己卯、卜羣雀巢宇佐宮殿上於軒廊、（左經記係十二月十七日○日本紀略）七日壬午、奉幣帛及馬十匹於石清水宮、（日本紀略、小右記、）八日讀經石清水賀茂等七社、賽宿禱、（小右記）癸未、先是齋宮頭藤原相通妻作大神宮寶殿於私室、誑惑庶民、至是流相通於佐渡、妻於隱岐、十三日戊子、祈晴丹生貴布禰、奉幣帛馬十匹於賀茂社、賽宿禱、（日本紀略、小右記、左經記、）十四日己丑、奉幣帛馬十匹於松尾大原野、（日本紀略、十匹據小右記、）十七日壬辰、奉馬平野祇園北野

各十匹、（小右記、左經記、）二十三日戊戌、卜霖軒廊、（小右記）改流藤原相通於伊豆、二十五日庚子、遣參議源經賴於大神宮、奉幣帛神寶、（日本紀略、小右記、進禰宜爵一級、以謝相通事、兼祈晴、（小右記、伊勢公卿敕使例、）二十八日癸卯、奉馬稻荷春日各十匹、又祈晴丹生貴布禰、是月天皇每夜密御內侍所拜禱、（小右記）九月五日庚戌、復式部卿敦平親王釐務、（日本紀略、小右記、○左經記係四日、）六日辛亥、以天變霖雨免輕囚、（左經記）二十五日庚午、上

東門院詣石清水住吉天王寺、關白賴通從焉、（日本紀略、小右記、左經記、）二十六日辛未、先是卜霖、有葬人祇園境内之祟、是日奉幣祇園謝之、（小右記〇按本書及左經記、卜霖不日、日本紀略作是日軒廊卜霖雨洪水、疑有脫誤、）是秋修東大寺敕封庫、（小右記、左經記、）冬十月乙亥朔、雷、（左經記、榮華物語、）十七日辛卯、出雲言、杵築社無故而倒、（日本紀略、左經記、百鍊鈔、）二十四日戊戌、官廚倉火、（左經記）閏月三日丁未、卜杵築社倒于軒廊、十五日己未、奉幣杵築社、（日本紀略、左經記、）癸酉晦、

雷、（左經記）十一月甲戌朔、日南至、御紫宸殿、公卿表賀、（日本紀略）四日丁丑、雷、（左經記）十九日壬辰、詔曰、聖皇觀象、玉燭和四時之光、哲后宣風、瑞篆遺千年之美、故詢鳳曆之遐算、上元無差、叶龜策之宏圖、大中有用、朕以眇身、謬承丕業、亭育未洽于黔首、居諸動變于蒼穹、逦者公卿奏言、今日朔旦、推得冬至、終而復始、理任自然、朕德既凉、豈敢鍾之、若非宗祧之靈睠、定是輔佐之勲功、思與天下共斯休祥、

可赦天下、但八虐故殺謀殺強竊二盜私鑄錢、常赦所不免、及欠負官物之類、不在赦限、授爵賜物、一準舊典、庶施愷澤於四海、答嘉貺於九垓、（醍醐報恩院所藏賀表）癸卯晦、修齋會於大極殿、（左經記）十二月三日丙午、上東門院所居京極院火、（日本紀略、扶桑略記、百鍊鈔、左經記、）十六日己未、卜定馨子内親王爲齋院、（日本紀略、左經記、）

五年壬申、春正月三日乙亥、覲上東門院於賀陽院、二月二十三日甲子、有鹿入左近衛

府、三月二日癸酉、天皇從上東門院、幸關白賴通白河第、觀花、五日丙子、以地震雷、詔大赦天下、常赦所不免、咸赦除免、調庸、給老人僧尼穀、夏四月二十八日戊辰、祈雨、（日本紀略）五月辛未朔、修請雨經法於神泉苑、（東寺長者補任、祈雨日記、）十日庚辰、占旱、（小右記）二十日庚寅、使三百僧讀經大極殿、祈雨禳疫、二十四日甲午、又使三百僧修仁王講、六月二日辛丑、奉幣大神宮、二十七日丙寅、使千僧讀觀音經於大

極殿、自二月不雨至是月、宇治川涸、秋七月、停相撲節、十日己卯、卜石清水怪於軒廊、十四日癸未、敦元親王薨、二十日己丑、卜大風宇佐宮倒於軒廊、(日本紀略)二十五日甲午、(○本書作二十六日、今據干支訂之、)星月晝見、(平戸記延應二年)九月二十七日乙未、出雲守橘俊孝坐造爲杵築社神託、授人官位、流于佐渡、(百錬鈔○按本書係二十日、編年殘編二十五日、今從日本紀略、扶桑略記、)冬十二月八日乙巳、九條御殿火、(日本紀略、扶桑略記、百錬鈔、)十六日癸丑、富士山焚、(日本紀略)

六年癸酉、春正月二十六日癸巳、盜入東宮及御息所、取衣物、(日本紀略)二月三日己亥、彗星見東方、(一代要記、山槐記、治承二年、)十日丙午、以盜入禁中、奪左衞門官人闕宿直者職、三月八日癸酉、修仁王講於清涼殿、三日、夏四月二十五日庚申、祈雨丹生貴布禰、(日本紀略)五月十四日戊寅、修請雨經法于神泉苑、(日本紀略、祈雨日記、東寺長者補任、)十八日壬午、卜旱、(日本紀略)十九日癸未、使五

百僧修仁王會於大極殿、(日本紀略、祈雨日記、)修五龍祭於神泉苑、秋八月二十七日庚申、奉幣丹生貴布禰、九月十五日丁丑、又奉幣、(日本紀略)冬十二月二十一日癸丑、藏人藤原經衡坐凌辱左近衞少將藤原資房除籍、(日本紀略、扶桑略記、)

七年甲戌、春正月五日丙寅、覲上東門院、(日本紀略、編年殘編、)夏五月九日戊辰、近江獻白烏、(日本紀略、扶桑略記、)秋七月十五日壬寅、卜東大寺有鷺怪、自正月至是月、數雨、水田疇多損、(左經記)八月

九日丙寅、大風、(日本紀略、左經記、扶桑略記、百錬鈔、)殿舍門廊寺社民屋多倒、人畜壓死、洪水、淀河溢、濱河民舍被害、(左經記)十三日庚午、彗星見東方、(日本紀略、左經記、)十九日丙子、命修理職木工寮及諸國司、修繕殿舍門廊、二十八日乙酉、使祭主大中臣輔親齎宸筆宣命、奉神寶幣帛於大神宮、(左經記、按日本紀略或係二十七日、今從本書及伊勢公卿敕使例、)九月丙辰晦、輔親獻大神宮前所得碧珠、(日本紀略、左經記、百錬鈔、)冬十月十一日丁卯、卜安碧珠處于軒

廊、置之內殿、(左經記) 十七日癸酉、慶圓教寺佛堂、(左經記、扶桑略記) 二十一日丁丑、刑部少輔藤原經平坐與侍從良貞(闕姓)私鬪除籍、二十五日辛巳、卜賀茂別雷社有狼嚙殺鹿于軒廊、(左經記) 十一月五日辛卯、奉幣大神宮、謝得瑞、授大中臣輔親從三位、(日本紀略、左經記、扶桑略記) 賜初見瑞者位、十三日己亥、卜虹見外記廳、十九日乙巳、有采女稱伊勢大神憑己曰、不出三日、宮中當火、因令諸陣警備、二十日丙午、省試

二十四日庚戌、雷、十二月二日戊午、課試醫得業生、八日甲子、課試明經得業生、(左經記)

八年乙亥、春正月丙戌朔、以雨停小朝拜、(左經記) 二日丁亥、觀上東門院、(日本紀略、左經記、扶桑略記) 三月東大寺佛像水出、夏四月七日庚申、雨雹、(左經記) 十四日丁卯、中務卿昭登親王薨、(日本紀略) 五月二十八日辛亥、祈雨丹生貴布禰、六月十四日丙寅、集七大寺僧於東大寺、讀經三日、又祈龍穴、免輕繫、二十一日癸酉、讀經大極殿、(左經記) 秋八月九日庚申、奉幣二十一社、(日本紀略) 九月十一日辛卯、有流星、(日本紀略、扶桑略記) 十四日甲午、澍雨、(日本紀略) 二十日庚子、以星變大赦天下、(日本紀略、扶桑略記) 常赦所不免者咸赦除、賜老人僧尼穀賑給貧民、二十三日癸卯、奉幣二十一社、二十六日丙午、修仁王會、冬十月辛亥朔、日有食之、十一月十一日辛卯、卜宇佐宮怪于軒廊、二十八日戊申、以吉田社神殿有死人改造之、(日本紀略) 十二月二十五日乙

亥、遣右少史高橋文俊推問但馬守源則理射殺石清水神民、(日本紀略、扶桑略記、)

九年丙子、春正月三日壬午、藏人頭左近衞中將藤原俊家坐使人毆藏人頭藤原經輔除籍、(日本紀略、扶桑略記、職事補任、○古事談爲寬德二年事、誤、) 三月六日乙酉、夜天皇拜內侍所、(日本紀略) 是月弗豫、(日本紀略、左經記、扶桑略記、○按、編年殘編以爲自去年冬不豫、) 夏四月六日甲寅、復藤原俊家職、(日本紀略、扶桑略記、) 十三日辛酉、奉幣伊勢以下十二社、禱疾、十六日甲子、分

遣侍臣、奉馬十社、（日本紀略）免輕囚、（日本紀略、扶桑略記、）十七日乙丑、天皇薙髮、（日本紀略、大鏡裏書、歷代皇紀、皇年代略記、）是日崩于清涼殿、年二十九、（日本紀略、左經記、扶桑略記、百錬鈔、）臨崩、將讓位於皇太弟、使關白賴通詣昭陽舍傳旨、歸則已崩、（左經記）遺詔秘不發喪、奉劒璽於皇太弟、（日本紀略、百錬鈔、）數日移梓宮於上東門第、又遺詔停素服擧哀喪司國忌山陵、（日本紀略、左經記、）火葬於淨土寺西原、（日本紀略）安聖容於菩提樹院、（今鏡、帝王編年記、○按扶桑略記爲葬菩提樹院、誤、）藏御

骨於淨土寺、（日本紀略、左經記、）長久元年移於菩提樹院、（百錬鈔）稱後一條院、帝頗有文藻、（今鏡）受史記文選於大江擧周、（小右記長元四年）其在位重勞民、及葬、役夫相語曰、二十年間令我息肩、今而可不效力哉、（帝王編年記、引經信記）

大日本史卷之四十終

大日本史卷之四十一

本紀第四十一

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

後朱雀天皇

後朱雀天皇、諱敦良、後一條帝同母弟也、扶桑略記、百練鈔、今鏡、寬弘六年十一月二十五日丙子、生于外祖左大臣藤原道長上東門第、日本紀略、

百練鈔、帝王編年記、七年正月、爲親王、日本紀略、今鏡、一代要記、帝王編年記、八年十一月著袴、皇年代略記、長和四年十二月、始讀書、日本紀略、皇年代略記、寬仁元年八月、立爲皇太弟、三年八月冠、日本紀略、小右記、長元九年四月十七日乙丑、後一條帝崩、羣臣就昭陽舍、奉劒璽於皇太弟、皇太弟踐阼、左經記、百練鈔、毘沙門堂所藏記、關白左大臣賴通、右大臣兼右近衛大將藤原實資、內大臣兼左近衛大將藤原教通並如故、公卿補任、五月十九日丙申、葬後一條天皇、左經記、一代要記、秋七月十日丙戌、天皇卽位於大極殿、時年二十八、扶桑略記、一代要記、按本書並以丙戌爲十四日、今推干支、從百練鈔、天作禮祀職掌錄、九月六日辛巳、後一條皇后藤原氏崩、大鏡裏書、扶桑略記、十九日甲午、葬皇后、大鏡裏書、冬十月二十九日癸酉、御禊、十一月十七日辛卯、大嘗、扶桑略記、一代要記、帝王編年記、二十八日壬寅、卜定皇女良子爲齋宮、娟子爲齋院、扶桑略記、一代要記、十二月二十二日丙寅、以皇子親仁、尊仁並爲親王、帝王編年記、皇年代略記、皇代記、是

歲、自夏至秋、疱瘡流行、榮華物語、

長曆元年丁丑、春正月二十九日壬寅、以藤原嫄子爲女御、編年殘編、一代要記、二月十三日丙辰、立禎子內親王爲中宮、扶桑略記、公卿補任、○一代要記、編年殘編、係三日、三月甲戌朔、改中宮爲皇后、一代要記、公卿補任、立女御嫄子爲中宮、扶桑略記、公卿補任、榮華物語、夏四月十三日乙卯、攝津能勢郡始貢銅、百練鈔○扶桑略記、係三月廿日、帝王編年記、係四月十一日、二十一日癸亥、改元、扶桑略記、百練鈔、帝王編年記、公卿補任、閏月八日庚辰、雨雹、扶桑略記、

（百錬鈔、）五月十五日丙辰、以安樂寺訴、遣左衛門權佐藤原隆佐於太宰府、推問權帥藤原實成、二十日辛酉、流但馬守源則理於土左、刑部大輔相奉（姓闕）於伊豆、（扶桑略記、實成據百錬鈔、）秋八月三日壬申、奉攝津貢銅於七社、（扶桑略記、濫觴鈔、）十一日庚辰、行幸賀茂社、（玉蘂嘉禎元年、）十七日丙戌、立皇子親仁爲皇太子、（扶桑略記、百錬鈔、今鏡、）以内大臣藤原教通爲傅、（公卿補任、）九月三日壬寅、有流星亂墜、（百錬鈔、）十三日壬子、遣參議藤原良

賴於伊勢、奉幣大神宮、又分使奉幣二十一社、（伊勢公卿敕使例、）冬十月二十三日辛卯、覲上東門院於賀陽院、（今鏡、玉蘂嘉禎元年、賀陽院據今鏡、）十一月、奉封百戶於大神宮、（扶桑略記、）十二月八日乙亥、謁石清水宮、（帝王編年記係三月九日、今從玉蘂嘉禎元年、）九日丙子、召還源則理等、（扶桑略記、）十三日庚辰、納章子内親王爲皇太子妃、（扶桑略記、女院小傳、）

二年戊寅、春正月二日己亥、覲上東門院、（今鏡、）夏五月、中納言兼太宰權帥藤原實成除名、（公卿補任、一代要記、尊卑分脈、○扶桑略記、百錬鈔、係二月、）六月十四日己卯、修請雨經法七日、（祈雨日記、）冬十二月二十日壬午、行幸春日社、（一代要記、帝王編年記、）

三年己卯、春二月十八日己卯、延暦寺僧徒聞朝廷將以園城寺僧明尊爲座主、（百錬鈔、）詣關白賴通第訴之者三千餘人、守門不去、使兵士驅之、捕首惡下獄、（扶桑略記、百錬鈔、）三月十六日丁未、延暦寺僧徒火賀陽院、索捕下獄、（扶桑略記、）夏五月十九日己酉、遣參議藤原經任於

伊勢、奉宸筆宣命金銀獅子狛犬於大神宮、告祭主大中臣佐國有罪、（伊勢公卿敕使例、金銀獅子狛犬據皇代記、）六月二十六日乙酉、流前祭主大中臣佐國于伊豆、（百錬鈔、古今著聞集、扶桑略記係四月晦、）○二十七日丙戌、禁内火、天皇避之太政官朝所、秋七月十三日壬寅、徙御京極院、（扶桑略記、百錬鈔、）十九日戊申、召還大中臣佐國、（扶桑略記、百錬鈔、古今著聞集、）二十三日壬子、弗豫、（扶桑略記○古今著聞集、爲二十四日、）○二十六日乙卯、大赦天下、（扶桑略記、）八月二十八日丁

亥、中宮藤原氏崩、扶桑略記、百錬鈔、水左記承暦元年、○諸書葬闕十二月十三日己巳、以藤原生子爲女御、編年殘編長久元年庚辰、春正月丙辰朔、日有食之、扶桑略記、百錬鈔、二條紀、二十七日壬午、覲上東門院於東北院、扶桑略記夏四月三日丁亥、卜賀茂社靈木仆於軒廊、五日己丑、奉幣二十一社、禳旱災、十日甲午、盜殺前肥後守藤原定任、敕閉關搜索、下符諸國購之、二十七日辛亥、卜伊勢

怪異于軒廊、五月二日丙辰、京師盜賊帶弓箭往來、連夜行火、又有羣僧、殺掠行人、設賞捕之、二十二日丙子、盜入宮中、竊御衣、春記是月京師多暴死者、久之不止、扶桑略記秋七月二十六日己卯、京師大風、八省院含嘉堂倒、是日豐受大神宮正殿寶殿悉倒、百錬鈔○古事談係二十七日天皇有幸伊勢之志、而未果、會有此災、憂懼殊甚、親書宣命、每夜拜且讀之、百錬鈔引資房記九月八日庚申、地大震、扶桑略記九日辛酉、京極

院火、天皇避之法成寺、百錬鈔引資房記○扶桑略記係十日遷御故正三位藤原惟憲家、扶桑略記神鏡罹災、收其燼餘、百錬鈔引資房記、中右記寛治八年、神皇正統記、古今著聞集、十二日甲子、召諸卿議神鏡事、百錬鈔二十七日己卯、遣參議藤原良頼于伊勢、奉幣大神宮、又奉幣石清水賀茂松尾平野、伊勢公卿敕使例冬十月二十二日甲辰、徙御內大臣藤原教通二條第、春記、扶桑略記、○百錬鈔係十二日宇佐宮神人犯蹕上訴、是日初營新宮、辛亥晦、地大震、春記○扶桑略

記係十一月朔十一月十日辛酉、改元、扶桑略記、百錬鈔、帝王編年記十八日己巳、左兵衛佐定長坐凌辱藏人典藥助信房削籍、定長信房並姓闕十二月十三日甲午、慶園城寺圓滿院、十六日丁酉、卜齋宮寮倉火於軒廊、春記二十五日丙午、行幸平野、扶桑略記及還宮、和泉民闌訴于路、二十八日己酉、左近衛陣火、瀧口清原定清撲滅之、二十九日庚戌、敕外記詰問荷前諸使、多稱事故、不從事者、春記是歲、復藤原實成位、公卿補任、尊卑分脈、

一代要記、○扶桑略記、係長暦三年七月二十六日、

二年辛巳、春二月二十日己亥、致平親王薨、二十一日庚子、行幸北野、扶桑略記三月四日癸丑、花宴、親試擬文章生、扶桑略記、百鍊鈔、今鏡、夏五月十一日己未、廷議使諸宗僧論園城寺請建戒壇、扶桑略記、百鍊鈔秋七月二十日丁卯、地震、八月三日庚辰、行幸大原野、二十七日甲辰、行幸松尾、九月十三日己未、大安寺火、扶桑略記冬十月十四日庚寅、祇園社火、一代要記十一月九

日甲寅、以天變大赦天下、十二月十九日甲午、宮成、徙御、是日、攝津始獻紺青、扶桑略記、○濫觴鈔以獻紺青爲十一月事

三年壬午、春正月二十四日己巳、圖書寮火、百鍊鈔夏五月十四日丙辰、卜東大寺大佛像無故而濕、六月癸酉朔、日有食之、雨不見、秋七月以上東門院邉豫亭相樸節、扶桑略記八月二十日辛卯、宴清涼殿、百鍊鈔九月二十一日辛酉、行幸關白賴通賀陽院第、觀競馬、扶桑略記百鍊鈔閏月九日己卯、宴清涼殿、百鍊鈔冬十月九日己酉、以藤原延子爲女御、扶桑略記十二月八日丁未、禁中火、天皇避之太政官朝所、扶桑略記、百鍊鈔

四年癸未、春正月、行諸節會于太政官廳、百鍊鈔三月二十三日庚寅、徙御一條院、扶桑略記、百鍊鈔夏五月丁卯朔、日有食之、扶桑略記天下大旱、八日甲戌、修請雨經法于神泉苑、七日、十三日己卯、雨、扶桑略記、七日據祈雨日記、請雨經法記、六月八日癸

卯、始奉官幣於日吉社、年中行事九月九日癸酉、試文章生學生於弓場殿、扶桑略記、百鍊鈔、○今鏡係三月十一月二日丙寅、右大臣藤原實資罷右近衛大將、二十七日辛卯、權大納言藤原通房兼右近衛大將、公卿補任、一代要記十二月甲午朔、一條院火、天皇避之關白賴通賀陽院第、二十一日甲寅、徙御東三條院、扶桑略記、百鍊鈔是歲甘露降、皇年代略記、歴代皇紀、牛產兩頭犢、扶桑略記

寬德元年甲申、春三月四日丙寅、卜賀茂社

怪於軒廊、（中右記、天仁元年）夏四月二十七日戊午、權大納言兼右近衛大將藤原通房薨、（扶桑略記、一代要記、帝王編年記、尊卑分脈、公卿補任爲二十四日）五月八日己巳、以關白賴通疾、大赦天下、二十五日丙戌、弗豫、六月三日癸巳、以京師訛言、坊巷居人閉門不出、（扶桑略記）四日甲午、讀大般若經於大極殿、（吉記、養和元年）自正月至是月、天下疾疫、死者盈路、秋八月七日丙申、宋商張守隆等至但馬、遣使存問之、○（百錬鈔係六日、今鏡以爲高麗人、）二十七日

丙辰、奉幣二十二社、祈旱疫、冬十月九日丁酉、以上東門院違豫、大赦天下、十六日甲辰、視上東門院疾、二十七日乙卯、供養一萬僧、禱上東門院疾、（扶桑略記）十一月二十四日壬午、改元、（百錬鈔、皇代略紀、一代要記、公卿補任、○扶桑略記係十二月）十二月二十日丁未、弗豫、（扶桑略記）

二年乙酉、春正月五日壬戌、停敘位、十日丁卯、大赦天下、（扶桑略記）先是天皇視除目、見大人於四季屏風上、驚悸得疾、（古今著聞集）十六日癸酉、大漸、讓位於皇太子、（扶桑略記、百錬鈔、榮華物語、大漸據榮華物語、古事談、）上尊號曰太上天皇、（皇年代略記、皇代略紀、）十八日乙亥、薙髮、（百錬鈔、皇年代略記、）法名精進行、（皇年代略記）崩于東三條院、年三十七、（扶桑略記、百錬鈔、）火葬于香隆寺、藏御骨于圓教寺、（扶桑略記、百錬鈔、皇代記、）稱後朱雀院、天皇頗睿明、然關白賴通專權、以故垂拱仰成、無所施爲、世以爲憾焉、（神皇正統記）

大日本史卷之四十一終

大日本史卷之四十二

本紀第四十二

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

後冷泉天皇

後冷泉天皇、諱親仁、後朱雀帝長子也、母贈皇太后藤原氏萬壽二年八月三日壬子、生于外祖前太政大臣道長京極第、（扶桑略記、道長第據）

（皇代記、皇代略紀、小右記）未幾喪侍、後朱雀帝尚在東宮、以故養于上東門院、（榮華物語）四年四月、著袴、（榮華物語、歷代皇紀、）長元五年、入居東宮、（榮華物語）七年十月、始讀書、（皇年代略記、皇代記、）九年四月、後朱雀帝踐阼、出居高陽院、（榮華物語）十二月、爲親王、（皇年代略記、帝王編年記、）長曆元年七月、冠于禁中、（扶桑略記○榮華物語係八月）授三品、（今鏡、皇代記、皇年代略記、）八月、立爲皇太子、（扶桑略記、今鏡、愚管鈔、一代要記、）明年正月、徙凝華舍、（扶桑略記）寬德二年、正月十六日癸酉、皇太子自京極第入

東三條院受禪、（扶桑略記、愚管鈔、百鍊鈔、榮華物語、自京極第入、據百鍊鈔、）尊後朱雀帝曰太上天皇、（皇年代略記）立尊仁親王爲皇太弟、（皇年代略記、編年殘編、）關白左大臣賴通、右大臣藤原實資、內大臣兼左近衛大將藤原教通並如故、（公卿補任、一代要記、）是日還京極第、（百鍊鈔、毘沙門堂所藏記、園太曆貞和四年、）十八日乙亥、上皇崩、（扶桑略記、皇年代略記、百鍊鈔、今鏡、）二月二十一日戊申、葬後朱雀天皇、（皇年代略記、皇代略記、）是月有大白鳥集西七條侍從池、鳴如曰有飯無菜、（古事談）夏四月

八日甲午、天皇卽位於大極殿、時年二十一、（扶桑略記、今鏡、歷代皇紀、皇代略記、○百鍊鈔係十日）六月十三日丁卯、行幸太政官朝所、（百鍊鈔）秋七月、以旱修請雨經法、二七日、（祈雨日記、請雨經法記、）八月十日癸亥、廷議、但馬守源章任奪宋人張守隆貨物、（百鍊鈔、○本書章任姓闕、今據扶桑略記補之、）十一日甲子、追尊所生尚侍藤原氏曰皇太后、（今鏡、大鏡裏書、中右記嘉承二年、）二十七日庚辰、還御京極院、冬十月六日戊午、以太宰府管國訴、遣右衛門權佐藤原實綱、

推問權帥藤原重尹罪狀、百錬鈔、太宰府管國訴據、扶桑略記、公卿補任、十一月二十三日甲辰、以權大納言藤原賴宗兼右近衞大將、公卿補任、尊卑分脈、○一代要記、帝王編年記係十月、十二月十三日甲子、置贈皇太后國忌、今鏡、中右記嘉承二年、十六日丁卯、徙御太政官朝所、扶桑略記、百錬鈔、一代要記、

永承元年丙戌、春正月十八日己亥、右大臣藤原實資薨、扶桑略記、公卿補任、二月二十日辛未、罷太宰權帥藤原重尹、扶桑略記○公卿補任、前年書停任、不月日、

二十四日乙亥、大織冠像破裂、多武峯縁起、二十八日己卯、太政官朝所火、天皇避之大膳職、扶桑略記、中右記寛治八年、○百錬鈔係十八日、榮華物語爲三月、三月辛巳朔、日有食之、扶桑略記、十日庚寅、卜定嘉子内親王爲齋宮、尊卑分脈、皇胤紹運錄、二十四日甲辰、卜定禖子内親王爲齋院、一代要記、編年殘編、夏四月四日甲寅、遷自大膳職、御内大臣藤原教通二條第、扶桑略記、百錬鈔、十四日甲子、改元、扶桑略記、愚管鈔、百錬鈔、是月、殿上歌合、帝王編年記、五月二十七日丙午、京師洪水、扶桑略記、秋七月十日戊子、立章子内親王爲中宮、扶桑略記、今鏡、榮華物語、中右記大治五年、八月四日辛亥、以北野祭當贈皇太后國忌、改用是日、百錬鈔、年中行事秘鈔、冬十月八日甲寅、宮成、遷御焉、二十五日辛未、御禊、十一月十五日辛卯、大嘗、扶桑略記、一代要記、二十七日癸卯、以内大臣藤原教通爲皇太弟傅、公卿補任、一代要記、十二月十九日甲子、皇太弟加元服、扶桑略記、百錬鈔、皇代記、皇年代略記、二十四日己巳、興福寺火、扶桑略記、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、

二年丁亥、春正月、以後朱雀帝忌月、罷踏歌節、今鏡、三月八日壬午、謁后清水宮、玉蘂嘉禎元年、夏四月二十三日丁卯、行幸賀茂社、帝王編年記、玉蘂嘉禎元年、是日、御祖社幣殿火、帝王編年記、六月、旱踰月、扶桑略記、秋八月癸卯朔、以内大臣藤原教通爲右大臣、權大納言藤原賴宗爲内大臣、公卿補任、一代要記、○扶桑略記爲七月二十一日、九月八日己卯、大風、扶桑略記、冬十二月二十四日甲子、筑前人清原

守武坐私往宋、流于佐渡、扶桑略記、西宮記引宗金記、筑前人據百錬鈔、是歲、補造興福寺長官己下、歷代皇紀

三年戊子、春三月二日庚子、慶興福寺、夏五月二日己亥、太宰府獻新羅曆、扶桑略記、百錬鈔、秋、七月十日丙午、以藤原歡子爲女御、一代要記、冬、十一月二日丙申、禁内火、天皇避之太政官朝所、扶桑略記、百錬鈔、帝王編年記、安神鏡於松下曹司、扶桑略記、帝王編年記、十日甲辰、徙御京極院、百錬鈔、十六日庚戌、太宰府獻宋曆、扶桑略記、

四年己丑、春正月甲午朔、日有食之、扶桑略記、百錬鈔、二條記、二月十四日丁丑、釋奠、以脩子内親王薨、罷講論宴座、園太曆、貞和四年、十八日辛巳、興福寺北圓堂唐院傳法院火、扶桑略記、百錬鈔、皇年代略記、三月十九日辛亥、敦平親王薨、扶桑略記、○一代要記、皇胤紹運錄爲十八日、肥後阿蘇社火、夏六月二十三日甲申、皇后皇太弟所居閑院火、秋九月十七日丁未、奉幣賀茂、謝神主成貞前年遭害社中、百錬鈔、冬十一月九日戊戌、殿上歌合、扶桑略記、百錬鈔、帝王編年記、今鏡、○古今著聞集爲十月、榮華物語係二年、○一代要記曰、是月二十七日、行幸春日、然諸書無所見、故不書、

五年庚寅、春正月二十五日癸丑、以興福寺訴、流大和守源頼親於土佐、扶桑略記、百錬鈔、其子前加賀守頼房于隱岐、扶桑略記、三月、太宰府安樂寺火、扶桑略記、百錬鈔、皇年代略記、夏六月十六日辛未、創中山社、祭冷泉院石神、百錬鈔、參取古事談、公事根源、秋、七月三日戊子、冷泉院火、撲滅之、九月安置歸化宋人張守隆於但馬、百錬鈔、冬十月七日

辛酉、地震、扶桑略記、十三日丁卯、覲上東門院於東北院、扶桑略記、百錬鈔、○玉蘂嘉禎元年云、永承二年四月十二日、覲上東門院、而他書無所見、且百錬鈔以此爲踐祚後始覲、故不取、十八日壬申、以天地多變、妖怪數見、天皇親作文、祭泰山府君、朝野羣載、十一月癸丑朔、日南至、扶桑略記、羣臣表賀、十六日戊辰、詔曰、玄德之動、天道者明聖之絳也、蒼穹之應、帝念者古今之常也、是以依不言之化、而璇衡以正、協有道之政、而玉燭爰和、朕謬以庸璅、忝纂洪基、徒切日愼之

誠難致時雍之教。迺者公卿奏言、今年十一月朔旦冬至、得天之紀、終而復始、雖慙菲薄、適遭禎祥。倩思眇身之受天祐、亦因忠臣之助皇猷也。須與衆庶享斯休徵。可大赦天下、但常赦所不免及欠負官物之類、不在赦限、授爵賜物、一遵舊典。廣分四海無偏之惠澤、益一章不違之冥符。醍醐報恩院所藏賀表○按長曆十一月甲申朔大盡、癸丑晦冬至、而閏月甲寅朔、考本書表賀下注癸丑、赦詔下注戊辰、併考扶桑略記、百錬鈔、蓋當時從曆博士賀茂道平議、移閏在十月、仍爲小盡、故今從本書、以癸丑爲

十一月朔冬至、戊辰爲十六日。十二月二十七日己酉、以藤原寬子爲女御。中右記、大治二年

六年辛卯春正月八日庚申、小一條院薨。扶桑略記、大鏡裏書、百錬鈔有鹿入禁中。扶桑略記、帝王編年記二月十三日甲午、尊皇后曰皇太后、公卿補任、一代要記立女御藤原寬子爲皇后。扶桑略記、公卿補任、一代要記、○今鏡係十日誤三月二十四日乙亥、作木雞較製造優劣爲戲、謂之雞合。夏四月十六日丙申、法成寺五大堂無故而壞。百錬鈔五月五日甲寅、菖蒲根合。扶桑略記、百錬鈔、榮華物語宴樂終日、帝親吹笛。百錬鈔、古今著聞集六月五日甲申、筑前彌勒寺火。扶桑略記、百錬鈔、帝王編年記秋七月七日乙卯、大風。百錬鈔十九日丁卯、冷泉院成、徙御焉。扶桑略記、百錬鈔、○略記曰、是月十一日、自太政官朝所徙大膳職、然併考百錬鈔、榮華物語、天皇自京極院徙冷泉院、其御太政官朝所及徙大膳職、他無所見、故不取冬十月七日乙酉、卜定敬子女王爲齋宮。皇胤紹運錄、○按齋宮記爲四年誤是冬疾疫流行、踰年不止。扶桑略記、帝王編年記

七年壬辰春正月二十六日癸酉、使千僧讀

觀音經於大極殿、禳疫。扶桑略記、帝王編年記三月十九日甲子、藏人玄蕃助藤原隆成坐傷藏人右衛門少尉藤原定俊削籍。夏四月五日庚辰、修仁王會于豐樂院。五月六日庚戌、視上東門院疾於六條第、大赦天下。扶桑略記癸酉晦、創神祠於天安寺東、修御靈會、以禳疫疾。百錬鈔六月十七日庚寅、使一千僧讀金剛壽命經于大極殿、癸卯晦、不豫。扶桑略記秋八月二十五日丁酉、長谷寺火。扶桑略記、百錬鈔、帝王編年記冬、十月

十九日辛卯、宴羣臣於冷泉院釣臺、百鍊鈔、今鏡、十一月壬寅朔、日有食之、扶桑略記二十九日庚午、遣參議源經成于伊勢、奉幣大神宮、禳天變、又奉幣二十一社、伊勢公卿勅使例是歲、天下疾疫、百鍊鈔

天喜元年癸巳、春正月十一日壬子、改元、扶桑略記、公卿補任、百鍊鈔、帝王編年記、二月十日庚辰、住吉社火、百鍊鈔夏四月、始奉幣中山社、年中行事、公事根源、秋七月不豫、二十日丁巳、以皇居有忌、徙御關白

賴通賀陽院第、扶桑略記、榮華物語、○按略記、丁巳作丙辰、今推干支訂之、又按百鍊鈔爲八月二十日、是年閏在七月、八月二十日適當丙辰、而榮華物語、略記並爲七月、今從之、八月十四日庚戌、大赦天下、禳天變、禱不豫、冬十月丙申朔、日有食之、十一月六日辛未、皇太弟所居藤原能長三條第火、扶桑略記

二年甲午、春正月八日癸酉、賀陽院火、徙御冷泉院、扶桑略記、百鍊鈔、榮華物語、○寺社雜事記爲七日、二月十六日庚戌、又徙御關白賴通四條第、扶桑略記、百鍊鈔、

夏四月、客星出觜參、孛于天關、大如歲星、一代要記、明月記寬喜二年、秋七月十一日壬申、敦儀親王薨、一代要記、九月二十一日辛巳、遷御京極院、扶桑略記○百鍊鈔爲二十二日、冬十二月八日丁酉、京極院火、天皇避之民部卿藤原長家三條第、扶桑略記、榮華物語、百鍊鈔、二十八日丁巳、徙御四條第、扶桑略記、百鍊鈔、

三年乙未、春三月十八日丙子、左近衛少將藤原忠俊雜色入禁中、挺刃逼御座、藏人源

齊頼等捕獲之、夏四月二十六日甲寅、改造貴布禰社、百鍊鈔六月七日甲午、毀冷泉院、運其材造一條院、扶桑略記、百鍊鈔、皇年代略記、秋八月二十一日丙午、震東寺塔、災、扶桑略記、東寺長者補任、皇年代略記、冬十月二十五日己酉、慶圓乘寺、扶桑略記、百鍊鈔、皇年代略記、

四年丙申、春二月二十二日甲辰、一條院成、天皇自四條第徙御焉、扶桑略記、百鍊鈔、皇年代略記、閏三月二十七日己酉、召羣臣於清涼殿、作歌奏

樂、中殿御會部類記秋七月二十八日戊申、彗星見東方、一代要記、山槐記治承二年、○百鍊鈔爲八月四日八月三日壬子、先是陸奥俘囚安倍賴時作亂、命前陸奥守兼鎭守府將軍源賴義討之、帝王編年記二十八日丁丑、星月晝見、平戸記延應二年九月十九日戊戌、卜有鹿入大内、扶桑略記冬十一月二十八日丙午、謁石清水宮、鳩嶺年代記

五年丁酉夏四月十四日庚申、大極殿鴟尾墮、扶桑略記、百鍊鈔、十六日壬戌、有鹿上修明門陣

屋棟、扶桑略記、帝王編年記、秋八月乙巳朔、日有食之、四日戊申、彗星見東方、長丈餘、十日甲寅、宮符東山東海二道、運糧陸奥、九月二日乙亥、鎭守府將軍源賴義奏言、安倍賴時伏誅、餘黨未平、請徵諸國兵、幷輸糧穀、冬十一月賴義與賴時子貞任戰敗績、扶桑略記壬寅晦、慶崇福寺、扶桑略記、百鍊鈔、一代要記、十二月二十五日丁卯、以源賴義復爲陸奥守、源齊賴爲出羽守討安倍貞任、扶桑略記、陸奥話記、○百鍊鈔以賴義爲陸奥守、係前年十二月二十九日、以齊賴爲出羽守、係明年四月二十五日、

康平元年戊戌春二月二十三日甲子、省試、二十六日丁卯、禁内火、延及大極殿中院朝集堂、扶桑略記、百鍊鈔、是後京師數火、百鍊鈔三月七日丁丑、卜中院災於軒廊、十三日癸未、以災奉幣大神宮、十五日乙酉、奉幣石清水已下七社、二十日庚寅、修仁王會於豐樂院、二十一日辛卯、遣使山陵、玉海治承元年夏六月二十七日丙寅、卜定正子内親王爲齋院、齋院記、一代要記、

秋七月二十五日癸巳、法琳寺大元堂前地陷長三十餘丈廣三丈餘、扶桑略記、百鍊鈔、八月二十九日丁卯、改元、扶桑略記、百鍊鈔、玉海治承元年、冬十一月二十八日乙未、遣參議藤原經季於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例、扶桑略記、禳天變地震、伊勢公卿敕使例十二月十六日壬子、信濃言、霖雨、神御坂頽、扶桑略記

二年己亥春正月丙申朔、日有食之、扶桑略記、百鍊鈔、二條記、八日癸卯、一條院火、扶桑略記、百鍊鈔、帝王編年記、中右

記、嘉保元年、壺切劒焚、百錬鈔天皇避火上東門院室町第、二月八日癸酉、遷御關白賴通三條第、扶桑略記、百錬鈔、三月八日壬寅、以賴通疾、大赦天下、夏五月二日乙未、大雨洪水、秋七月十日壬寅、慶讃宸筆仁王經、修八講、扶桑略記十二日甲辰、大風、官舍民屋多壞、是歲、盜累行火皇居、百錬鈔

三年庚子、春三月二十五日甲寅、覲上東門院于白河院、扶桑略記、百錬鈔、參取康平記、夏五月四日辛

卯、興福寺火、百錬鈔、康平記、帝王編年記、歷代皇紀、六月二日己未、河內言、盜發磯長山田陵、十八日乙亥、地震、二十二日己卯、以旱赦、扶桑略記秋七月十七日癸卯、關白賴通罷左大臣、以右大臣藤原教通爲左大臣、內大臣藤原賴宗爲右大臣、權大納言藤原師實爲內大臣、公卿補任是月越前言、宋商林表侯改至敦賀津、依請安置本國、扶桑略記○百錬鈔、林表作林養、侯改作俊政、八月二日戊午、伊勢守藤原義孝坐燒大神宮御廚、流于土佐、百錬鈔、土左據扶桑略記、十一日丁卯、賀陽院成、徙御焉、扶桑略記、百錬鈔、康平記、行類鈔、冬十月十九日甲戌、以不豫、大赦天下、扶桑略記十一月二十七日壬子彗星見南方、山槐記治承二年、一代要記作東方○

四年辛丑、春二月八日壬戌、式部卿敦貞親王薨、山槐記治承二年、尊卑分脈夏五月六日戊子、地震、七日己丑、又震、八日庚寅、赦、二十二日甲辰、使一千僧轉讀仁王經於豐樂院、六月壬子朔、日有食之、扶桑略記秋七月二十一日壬寅、慶

東北院、扶桑略記、康平記、大赦天下、扶桑略記冬十一月二十五日甲戌、備中吉備津彥社火、扶桑略記、百錬鈔、二十九日戊寅、出雲杵築社倒、百錬鈔十二月二十日己亥、以賴通爲太政大臣、關白仍舊、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、○扶桑略記爲十三日

五年壬寅、夏四月十一日戊子、左大臣藤原教通罷左近衛大將、二十二日己亥、內大臣藤原師實兼左近衛大將、公卿補任、康平記、二十七日甲辰、謁石清水宮、康平記、僧綱補任、二十八日乙

己、還宮、（康平記）五月二十二日戊辰、觀競馬騎射、（扶桑略記、百鍊鈔、騎射據百鍊鈔、）秋七月十三日戊午、行幸賀茂社、（康平記）九月二日丙午、關白賴通罷太政大臣、（公卿補任）是月、安倍貞任伏誅、（扶桑略記、百鍊鈔、陸奥話記、）其弟宗任等率族降、賊徒悉平、（扶桑略記、陸奥話記、）冬十二月二十八日辛丑、復前加賀守源賴房位、（扶桑略記）

六年癸卯、春二月十六日戊子、梟安倍貞任等首于京師西獄門、（水左記、扶桑略記、）二十七日己亥、賞源賴義及子義家義綱清原武則等軍功、進官爵有差、（扶桑略記、百鍊鈔、）二十八日庚子、地震、壬寅晦、又震、三月十一日癸丑、又震、（扶桑略記）二十二日甲子、豐樂院火、（扶桑略記、百鍊鈔、中右記嘉保元年、寺社雜事記、）是月、興福寺僧靜範發狹城盾列池後陵、盜寶物、（百鍊鈔、係是月據扶桑略記、）夏五月十三日甲寅、遣使檢之、庚午晦、卜深草陵鳴于軒廊、冬十月十七日甲申、流僧靜範于伊豆、其黨十六人于諸國、（扶桑略記、百鍊鈔、）是月、創實相院於

延暦寺、（扶桑略記、百鍊鈔、僧綱補任、殘闕、岳安記、係五年）十二月十五日壬午、修狹城盾列池後陵、還藏寶物、廢朝三日、（[illegible]三日據[illegible]）是歲旱、（百鍊鈔）

七年甲辰、春三月、伊豫守源賴義以降虜至自陸奥、朝議不許降虜入京、（扶桑略記、百鍊鈔、）二十九日乙丑、官符降虜安倍宗任正任眞任家任等并家屬、安置伊豫、（朝野羣載〇扶桑略記係閏月）僧良昭太宰府、（扶桑略記、百鍊鈔、）是月、太宰府言、大風、筑前筥崎宮寶殿倒、有壓死者、（扶桑略記〇百鍊鈔係二月）夏四月十九日乙酉、雨雹大如梅李、二十三日己丑、卜之軒廊、（扶桑略記）五月十三日戊申、太宰府觀世音寺火、（扶桑略記、一代要記、）秋九月十三日乙亥、行幸東北院、十六日戊寅、前下野守源賴資坐與上野介橘惟行私鬭、燒宅殺人、流于佐渡、冬十二月五日丙申、改流源賴資于土佐、（扶桑略記）十九日庚戌、右大臣藤原賴宗罷右近衛大將、二十六日丁巳、權大納言源師房、兼右近衛大將、（公卿補任、一代要記、）

治曆元年乙巳、春正月五日乙丑、右大臣藤原賴宗罷、（扶桑略記、公卿補任、帝王編年記、）二月三日癸巳、前右大臣賴宗薨、（公卿補任、一代要記、）十九日己酉、慶金光明經一千部於延曆寺中堂、三月二十四日甲申、地震、（扶桑略記、）夏四月十四日癸卯、遣參議源隆俊于伊勢、奉幣大神宮、禳災異、（伊勢公卿勅使例、）是月旱、五月七日丙寅、地大震、十二日辛未、讀大般若經於禁中、祈雨、禳三合厄、（扶桑略記、）十三日壬申、修請雨經法七日、（祈雨日記、請雨法記、）十七日丙子、奉幣二十一社、二十三日壬午、讀孔雀經于神泉苑、讀大般若經于東大興福二寺及龍穴、（扶桑略記、）六月三日辛卯、以内大臣藤原師實爲右大臣、權大納言源師房爲内大臣、（扶桑略記、公卿補任、）二十四日壬子、大和十市高市二郡雨雹、大寸餘、（扶桑略記、）秋八月二日己丑、改元、（水左記、扶桑略記、百鍊鈔、公卿補任、）二十八日乙卯、卜伊勢怪於軒廊、（中右記天仁元年）九月二十五日壬午、天皇親書金字法華經、修八講於禁中、

（扶桑略記、今鏡、）薦後朱雀帝冥福、（扶桑略記、）冬十月十八日丙午、行幸法成寺、觀慶佛堂、（扶桑略記、百鍊鈔、）大赦天下、但爲神社所訴、及放火者、不在赦限。（扶桑略記、）

二年丙午、春三月六日庚申、彗星見東方、（扶桑略記、百鍊鈔、一代要記、）二十八日壬午、春日社大鳴、（扶桑略記、）是夜、惠我藥伏山岡陵震動有光、（扶桑略記、一代要記、）夏四月甲申朔、彗星見西方、（扶桑略記、百鍊鈔、）八日辛卯、地震、五月十三日丙寅、伊勢神宮及齋宮寮雨雹、大如雞子、秋七月二日甲寅、赦流人源賴資僧靜範等、十八日庚午、白雲二道、東西亘天、冬十月十六日丁酉、御釣臺泛船奏樂、（扶桑略記、）十一月二十日庚午、遣參議藤原泰憲于伊勢、奉幣大神宮、（伊勢公卿勅使例、）二十八日戊寅、慶太宰府觀世音寺、（扶桑略記、百鍊鈔、）十二月二十七日丁未、主殿寮火、（扶桑略記、百鍊鈔爲十〇七日）

三年丁未、春正月十日己未、日吉社火、（扶桑略記、）

百錬鈔、山槐記治承二年、○一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、永昌記嘉承元年並爲二十九日、二月二十五日癸酉、慶興福寺金堂、水左記、扶桑略記、秋八月九日乙卯、主計寮火、扶桑略記、百錬鈔、十六日壬戌、參河圖進犢四牙七足肩尻尾各二、扶桑略記、冬十月五日庚戌、行幸宇治平等院、讌于關白賴通別業、扶桑略記、百錬鈔、公卿補任、一代要記、○榮華物語爲九日、今鏡、帝王編年記、十五日、七日壬子、還宮、○今鏡、帝王編年記、並係十七日、二十二日丁卯、觀童舞於清涼殿、扶桑略記、百錬鈔、十二月五日己酉、賴通罷關

白、特敕咨詢政事、公卿補任、一代要記、十二日丙辰、以不豫、奉幣二十二社、扶桑略記、今鏡、四年戊申春正月甲戌朔、日有食之、扶桑略記、百錬鈔、二條記、今鏡、二月二十三日丙寅、使仁和寺性信親王修孔雀明王法於禁中三七日、以禱不豫、扶桑略記○本書爲三月、今推干支、從仁和寺御傳、三月二十八日庚子、大赦天下、扶桑略記、夏四月十四日乙卯、奉幣馬於諸社、扶桑略記、史官記、十六日丁巳、以左大臣藤原教通爲關白、公卿補任、扶桑略記、○百錬鈔、補任一說、史官記、並係十七日、十七日戊午、尊皇太后曰太皇太后、改中宮曰皇太后、皇后曰中宮、立準三宮藤原歡子爲皇后、公卿補任、一代要記、十九日庚申、天皇崩於賀陽院、年四十四、水左記、扶桑略記、百錬鈔、火葬于船岡西野、藏御骨于圓教寺、稱後冷泉院、扶桑略記、百錬鈔、一代要記、皇年代略記、

大日本史卷之四十二終

大日本史卷之四十三

本紀第四十三

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

後三條天皇

後三條天皇、諱尊仁、後朱雀帝第二子也、母陽明門院、（扶桑略記、百錬鈔、今鏡、）長元七年、七月十八日乙巳、生于春宮亮源行任第、（日本紀略、後一條紀）九

年十二月、為親王、（皇年代略記、皇代記、帝王編年記、）長暦二年十一月、著袴、（皇年代略記）長久元年十二月、入宮謁帝、甫七歲、進退有度、觀者莫不嗟歎焉、（春記）三年十一月、始讀書、（榮華物語、今鏡、皇年代略記、）寛德二年正月、後冷泉帝受禪、立為皇太弟、永承元年十二月、冠、治暦四年四月十九日庚申、後冷泉帝崩、關白教通率公卿侍臣、奉劒璽於閑院、皇太弟踐祚、（扶桑略記、百錬鈔、○按天皇先是在閑院、諸書不載年月、今無所考、）關白左大臣教通、右大臣兼左近衛大將藤原師實、内大臣兼右近衛大將源師房並如故、（公卿補任）五月五日丙子、葬後冷泉天皇、（扶桑略記、皇年代略記、帝王編年記、）六月二十一日辛酉、有鼠出於乘輿、卜占之、（扶桑略記）二十四日甲子、肥後阿蘇山雨雪、二十六日丙寅、從自閑院、御大納言藤原信長大宮第、（扶桑略記、百錬鈔、）秋七月二十一日辛卯、天皇即位於太政官廳、時年三十五、（後三條帝即位記、扶桑略記、百錬鈔、）即位官廳、始于此、（一代要記）八月十四日甲寅、造大極殿、（扶桑略記）以

皇子貞仁為親王、（扶桑略記、百錬鈔、皇代記、中右記、大治四年、）九月四日癸酉、遷御關白教通二條第、（扶桑略記、百錬鈔、）冬十月二十八日丁卯、御禊、（扶桑略記、經信記、）是月、土佐言、有僵樹自起立、出羽言、浪井涌、（扶桑略記、百錬鈔、）十一月二十二日辛卯、大嘗、（扶桑略記、經信記、）十二月十一日己酉、二條第火、避之閑院、（扶桑略記、百錬鈔、）二十八日丙寅、遷御大宮第、（扶桑略記、百錬鈔、經信記、）延久元年己酉、春正月己巳朔、以日忌停四

方拜小朝拜、圓太曆貞和五年二月九日丙午、卜定俊子內親王爲齋宮、一代要記〇帝王編年記係四月二十八日十七日甲寅、上太皇太后號曰陽明門院、扶桑略記、水左記、女院小傳、二十三日庚申、敕寬德二年以後新置莊園一切罷之、雖在二年前、券契不明、妨國務者宜停止焉、扶桑略記、百鍊鈔、〇一代要記係正月三月十五日壬午、謁石清水宮、扶桑略記、圓太曆文和二年、在道乘輿損壞、十六日癸未、還宮、乘輿又壞、扶桑略記夏四月七日癸卯、鑄內印、扶桑略記、歷代皇紀、

十三日己酉、改元、扶桑略記、百鍊鈔、一代要記、皇代記、二十八日甲子、立貞仁親王爲皇太子、扶桑略記、百鍊鈔、一代要記、皇代記、中右記、大治四年、以右大臣藤原師實爲傳、公卿補任六月五日庚子、以乘輿壞、奉幣二十一社、百鍊鈔二十一日丙辰、從自大宮第御賀陽院、扶桑略記、百鍊鈔、秋七月乙丑朔、日有食之、扶桑略記三日丁卯、尊皇太后爲太皇太后、中宮爲皇太后、公卿補任、一代要記、帝王編年記、立馨子內親王爲中宮、公卿補任、帝王編年記、〇扶桑略記係六月十五日十八日壬午、停諸

國御廚贄後院御贄、扶桑略記二十二日丙戌、始令御廚子所進菜蔬、扶桑略記、百鍊鈔、八月乙未朔、遣前駿河守平維盛、檢非違使源家宗等於大和、捕金摩多山賊、致親、姓闕九日癸卯、行幸賀茂社、扶桑略記十三日丁未、關白教通罷左大臣、公卿補任、一代要記、十六日庚戌、觀陽明門院、扶桑略記二十二日丙辰、右大臣藤原師實爲左大臣、內大臣源師房爲右大臣、大納言藤原信長爲內大臣、公卿補任九月七日庚午、大風雨壞廬

舍、扶桑略記、東寺長者補任、〇歷代皇紀爲九日冬十月二十八日辛酉、卜定佳子內親王爲齋院、帝王編年記、編年殘編、是月、發大神寶使、閏月四日丁卯、致親伏誅、扶桑略記十一日甲戌、始置記錄所於太政官朝所、百鍊鈔十一月癸巳朔、日南至、公卿表賀、醍醐報恩院所藏賀表八日庚子、以豐受宮戶鎖不開、遣參議藤原良基於伊勢、奉幣大神宮、朝野羣載、伊勢公卿敕使例、二十四日丙辰、詔曰、二曜合璧、則居諸無愆運行之度、五緯連珠、則陰陽不失推

步之期、故寰海風暖、潛鱗躍於春水之波、邊塞雲晴、賓鴻翥於秋日之影、星序廻環、發斂相應者也、朕嗣守昌基、謬登大位、日愼一日、年及二年、朝晡忘湌、恐璇璣之未洽、夜分輟寢、思玉燭之難調、迺者公卿奏言、當寶曆改元之年、迎朔旦冬至之日、得天之紀、終而復始、忝臨曆籙之初、適有嘉瑞之至、雖慙薄德之運、猶慶布代之祥、誠是王者延祚之義、非唯宗祧之降祉、福抑在人臣之致扶持、思與

兆民、共斯休徵、可大赦天下、敍爵賜物、一準舊典、庶施靈貺於九有、答禎符於一章、（醍醐報恩院所藏詔書）十二月二十八日庚寅、太宰府言、宇佐宮鳴、（扶桑略記）

二年庚戌春正月二十五日丁巳、地震、（扶桑略記）是月遣檢非違使逮捕狩獵、剪伐於盾列南北陵域者、（扶桑略記、百鍊鈔、）二月七日戊辰、定絹布制、占宇佐宮鳴、十二日癸酉、禁中火、主殿寮屬撲滅之、十四日乙亥、停近江今年日次御贄、癈筑摩御廚、令高砂御廚進菜蔬、停獻魚、二十六日丁亥、觀陽明門院於閑院、（扶桑略記）是日延曆寺總持院火、（扶桑略記、帝王編年記、○按百鍊鈔係三月二十六日、略記一說、爲三月二十七日、）三月二十三日甲寅、以關白敎通爲太政大臣、職仍舊、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）是月太宰府言、天南有聲如鼓、夏四月十二日壬申、遣使備前檢察銅金青綠青、（扶桑略記）秋八月十四日壬申、敕遣權大納言源隆國、參議源經信、及辨外記史已下、修石清水放生

會、（扶桑略記、百鍊鈔、○歷代皇紀爲十五日、）著爲恒典、（扶桑略記、帝王編年記、公事根源、）二十二日庚辰、行幸春日社、（園太曆文和二年）冬十月十四日辛未、感神院火、（扶桑略記、百鍊鈔、小朝熊神鏡沙汰文、○按榮華物語在祇園行幸之後、恐非）二十日丁丑、地大震、（扶桑略記、百鍊鈔、）二十三日庚辰、又震、（扶桑略記）十一月四日辛卯、卜感神院火於軒廊、（小朝熊神鏡沙汰文）七日甲午、以上東門院疾、大赦天下、（扶桑略記、朝野羣載、）二十一日戊辰、地震、（扶桑略記）十二月二十六日壬午、慶圓明寺、車駕臨幸、（扶桑

（略記、百鍊鈔、帝王編年記）皇太子從馬（扶桑略記、帝王編年記）

三年辛亥春正月十六日壬寅使一千僧轉讀觀音經於太政官、以禳疾疫、二月四日庚申、有流星入紫宮、大如罌、有星似雲、有光、三月五日庚寅、造宮（扶桑略記）九日甲午、納藤原賢子爲皇太子妃（今鏡、榮華物語）十七日壬子、置修理左右宮城使（百鍊鈔）以源基子爲女御（扶桑略記）夏如月、自東亘西（扶桑略記）二十七日壬寅、有光氣六月三日丙辰、改圓明寺爲圓宗寺（百鍊鈔）二

十九日壬午、慶圓宗寺常行堂灌頂堂、車駕臨幸（扶桑略記、百鍊鈔）秋七月十二日乙未、親試侍臣詩（百鍊鈔）八月十日壬戌、關白教通罷太政大臣（公卿補任、一代要記、歷代皇紀）十七日己巳、以皇子實仁爲親王（扶桑略記係十二日、今推干支、從編年殘編）二十一日癸酉、行幸春日社（一代要記）二十八日庚辰、宮成徙御焉（扶桑略記、百鍊鈔）冬十月二十九日庚辰、行幸日吉社（百鍊鈔、一代要記、扶桑略記○按帝王編年記、歷代皇紀爲二年十一月、誤、）日吉社行幸始于此（百鍊鈔、一代要記）十二月

六日丙辰、宴清涼殿（百鍊鈔）

四年壬子春二月二十日庚午、天皇下東庭、遙拜大神宮、三日而止（百鍊鈔）三月二十六日丙午、行幸稻荷祇園、稻荷祇園行幸始于此（扶桑略記、百鍊鈔、帝王編年記、一代要記、皇代記）夏四月、大極殿成、十五日甲子、臨御設宴作樂（扶桑略記、百鍊鈔、歷代皇紀）賦詩（今鏡）王公以下賜物有差（扶桑略記）二十三日壬申、始修日吉祭（公事根源）秋七月、自六月至是月、疱瘡流行（扶桑略記○按百鍊鈔係九月）八月十日丙戌

定沽價法（百鍊鈔）九月二十九日甲戌、定斗升法、用長保例（扶桑略記、東寺長者補任○帝王編年紀爲二年事、今不取、又按長保例無所考究、故一條紀不書、）冬十月二十五日庚子、行幸圓宗寺、始修法華最勝二會（扶桑略記、百鍊鈔）二十七日壬寅、又幸圓宗寺（扶桑略記）十一月九日甲寅、官符戢內禁私養鷹鸇縱獵近郊（朝野群載）甲戌晦、創御願寺一宇於延曆寺及園城寺東寺、是月、鹿入禁中、放之西山、十二月七日辛巳、供養一萬僧（扶桑略記）八日壬午、不豫（榮華物語）

讓位於皇太子、徙御飛香舍、扶桑略記、百鍊鈔、一代要記、○飛香舍、榮華物語作弘徽殿、上尊號曰太上天皇、扶桑略記、一代要記、皇年代略記、太上天皇辭尊號、白河帝不從、一代要記、出居二條第、扶桑略記、百鍊鈔、榮華物語、世稱一院、榮華物語五年二月、與陽明門院聰子內親王、幸石清水住吉天王寺、百鍊鈔、一代要記、愚管鈔、關白教通已下多扈從焉、愚管鈔、榮華物語、四月病劇、欲御圓宗寺而終焉、不果、榮華物語從御但馬守源高房大炊御門第、扶桑略記、百鍊鈔、是月薙髮、扶桑略記、百鍊鈔、榮華物語、法名金剛行、百鍊鈔、帝王編年記、皇胤紹運錄、台記久安三年、初園城寺奏請建戒壇、而以延曆寺沮之、不可其奏、又以大僧都勝範爲天台座主、以故園城寺僧徒不平之、法皇以爲新羅明神祟致疾、自作祭文禱之、無驗、扶桑略記五月七日庚戌、法皇崩于大炊御門第、年四十、扶桑略記、百鍊鈔、歷代皇紀、皇年代略記、火葬于神樂岡南、一代要記藏御骨于禪林寺、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、置國忌于圓宗寺、中右記永久二年稱後三條院、初後朱雀帝遺詔、欲傳

位於後冷泉帝、以次及帝、而帝無外戚之援、事殆寢、賴大納言藤原能信言、得立爲東宮、愚管鈔、今鏡、尚方有劔、名壺切、必傳東宮、及帝爲皇太弟、關白賴通不肯上、曰、縱雖正位青闈、自非藤氏出、則不可得、帝聞之曰、一劔何用、我不欲焉、江談鈔及卽位後、教通上之、續古事談、○按百鍊鈔曰、康平二年正月八日、一條院火、壺切亦焚、而續古事談所載如此、蓋其後改節獻之也、其在東宮、孤立無援、一日有罪人、逃匿宮側、別當源經成率檢非違使等逮捕、恐其逸入宮中、合圍及宮、經成親執兵在中門廊、宮臣驚愕、帝起更衣、少時事定、撤圍而去、世疑儲位有變、帝亦不安、時有行親者、善相、嘗曰、皇太弟必踐大位、誰得動搖、果如其言、今鏡僧成尊問曰、殿下常拜北斗乎、帝曰、月必一拜、非敢祈踐祚、而有時或念卽位、則欲云云、自省此念萠于不忠、因拜之以悔過、成尊感泣而去、御府藏應神帝玉冠、歷世天子每卽位必冠之、而其制不適、唯帝冠之、宛如爲制、

帝常喜焉、古事談○按本書即位作大嘗會、今從東齋隨筆、在儲位二十餘年、見藤原氏擅權、心甚不平、又數緣事積怨頼通、而含忍不發、及即位痛抑其權、奪之政柄、頼通退居宇治、憚帝威嚴、斂藏蹤跡、教通雖居台輔、備員而已、參取榮華物語、愚管鈔、是時權貴多占莊園、爲民蠹害、帝命其家各上契券、置記錄所、檢覈虛實、愚管鈔、神皇正統記、欲審量制命新作器、使藏人頭藤原資仲督之、帝自抽簟竹、截爲之準、及成、資仲等率藏人出納小

舍人、量殿庭沙試之、而取穀倉院米量之、東齋隨筆、後世遵用、謂之延久宣旨升、愚管鈔、又造方櫃、容壹斛、以石爲錘、衡其輕重、其器傳在穀倉院、東齋隨筆、後冷泉帝末年、風俗華侈、雖下吏車、飾之以金、帝欲革其弊、古事談、即位初幸石清水、都人士女出觀鹵簿、車有金飾者、帝爲駐鑾輿、命盡剔去、唯乳母所乘、得請而僅免、後幸賀茂、絕無金飾車者、今鏡、專尚儉素、御扇用檜柄藍紙、炙青魚頭、塗胡椒以充御膳、古事

談、其造圓宗寺、慮損國用、務從質朴、今鏡、性惡犬、宮中有一犬、命放之外、京師諸國傳聞、或有殺犬迎合者、帝聞大驚、下令禁止、古事談、自少好學、才能絕倫、續往生傳、續古事談、著禁秘記鈔、仁和寺書籍目錄、旁通佛乘、續往生傳、續古事談、又好吹笙、禁秘鈔、或問大江匡房曰、主上文才誰比、對曰、殆與江佐國抗衡、續古事談、一條帝以來、政歸相門、朝憲稍弛、續往生傳、帝剛健嚴明、不受牽制、榮華物語、勵精圖治、躬親機務、俗反淳素、規模大定、續往生傳、

公道是從、請託不行、理苟不合、則雖太后所言、猶不肯從、自是皇綱再張、羣下肅然、榮華物語、帝欲傳位東宮、居院決政、然去位未幾而崩、愚管鈔、頼通嘆曰、帝而早崩、邦家不幸莫甚於斯、古事談、續往生傳、大江匡房謂、教化被世、可比隆於承和延喜也、續往生傳、

大日本史卷之四十三終

大日本史卷之四十四

本紀第四十四

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保　重校

白河天皇

白河天皇諱貞仁、後三條帝長子也、母贈皇太后藤原氏、扶桑略記、百錬鈔、天喜元年六月十九日丁亥生、一代要記、中右記大治四年、○百錬鈔爲二十九日、今鏡、帝王編年

記、二十日、康平六年十二月、始讀書、皇代記、治暦元年十二月、冠于閑院、四年八月、爲親王、一代要記、中右記、大治四年、延久元年四月、立爲皇太子、扶桑略記、百錬鈔、中右記大治四年、四年十二月八日壬午、受禪于昭陽舍、一代要記、百錬鈔、中右記大治四年、○按愚管鈔、或作十月六日受禪、誤、立皇弟實仁親王爲皇太弟、扶桑略記、百錬鈔、關白教通、左大臣兼左近衞大將藤原師實、右大臣兼右近衞大將源師房、內大臣藤原信長、並如故、以師實爲皇太弟傅、公卿補任十二日丙戌、尊後三條帝曰太上天皇、扶桑略記、皇代記、一代要記、二十九日癸卯、天皇卽位於大極殿、時年二十、扶桑略記、百錬鈔、一代要記、中右記大治四年、延久五年癸丑、春二月十六日庚寅、卜定淳子女王爲齋宮、帝王編年記二十日甲午、上皇幸石清水宮、住吉社、四天王寺、二十七日辛丑、還宮、扶桑略記、百錬鈔、三月十一日甲寅、卜定篤子內親王爲齋院、一代要記、中右記永久二年、十八日辛酉、上皇不豫、大赦、夏四月甲戌朔、日有食之、二

日乙亥、怪雲亙東西、扶桑略記七日庚辰、覲上皇、侍醫藥、扶桑略記、百錬鈔、玉海建久三年、二十一日甲午、上皇落髮、扶桑略記、百錬鈔、一代要記、古事談、○東寺長者補任爲二十八日癸卯晦、覲法皇、扶桑略記、古事談、玉海建久三年、五月甲辰朔、召五百僧於院內、轉讀法華經千部、以禱法皇病、扶桑略記六日己酉、追尊所生藤原氏曰皇太后、扶桑略記、中右記嘉承二年、七日庚戌、法皇崩、扶桑略記、百錬鈔、十七日庚申、葬後三條天皇、扶桑略記、皇代記、是月、大水、百錬鈔秋七月二十三日甲子、以藤

原賢子、藤原道子爲女御、今鏡、一代要記、九月十六日丙辰、以將造豐樂院、遷御前關白賴通高倉第、扶桑略記冬十月、宋主趙頊附僧成尋獻金字法華經大藏經及錦二十段、百錬鈔

承保元年甲寅春正月二十日戊午、地震、二十二日庚申、又震、二月二日庚午、前關白賴通薨、十二日庚申地震、三月二日己亥、雨雪、九日丙午、怪雲亘天、扶桑略記夏六月九日乙亥、延曆寺僧徒率衆焚園城寺堂宇、帝王編年記十

六日壬午、天皇自高倉第、還御凝華舍、扶桑略記、凝華舍據百錬鈔、上太皇太后號曰二條院、扶桑略記、女院小傳、二十日丙戌、冊女御藤原賢子爲中宮、扶桑略記、一代要記、帝王編年記、尊皇太后曰太皇太后、皇后曰皇太后、中宮馨子内親王曰皇后、帝王編年記、公卿補任、〇一代要記爲二十二日二十八日甲午、遣參議源經信于伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、祈禳厄災、伊勢公卿敕使例秋七月十六日壬子、自凝華舍徙御清涼殿、百錬鈔八月二十三日戊子、改元、

冬十月三日丁卯、上東門院崩、扶桑略記、百錬鈔、六日庚午、葬上東門院、扶桑略記、大鏡裏書、甲午晦、御禊、十一月二十一日乙卯、大嘗、扶桑略記、一代要記、皇代記、十二月八日辛未、卜定齋子女王爲齋院、帝王編年記

二年乙卯春正月十九日壬子、行幸左大臣藤原師實東三條第、以皇子敦文爲親王、扶桑略記二月延曆寺僧與園城寺僧爭建戒壇相鬪、一代要記三月八日庚子、遣中納言藤原實季

於伊勢、奉幣大神宮、禳災異、伊勢公卿敕使例十四日丙午、謁石清水宮、鳩嶺年代記、玉蘂嘉禎元年、夏四月二十三日甲申、行幸賀茂社、玉海承安三年〇帝王編年記保三月不日、玉蘂嘉禎元年爲二十二日癸未、閏月召諸宗僧於弘徽殿、轉讀大藏經、二十八日己未、散位源基宗有罪、除名流於佐渡、扶桑略記五月二十四日甲申、廢後冷泉贈皇太后藤原氏陵、置贈皇太后藤原氏陵、百錬鈔六月置贈皇太后國忌、中右記嘉承二年秋七月十一日辛未、慶讚金字大

般若經於石清水、八月庚寅朔、日有食之、○按後拾遺往生傳、帝預敕仁和寺性信、祈消日食、及變、此日晴天、忽雨而不見、仁和寺御傳、孔雀經御修法記並云、修孔雀經法於飛香舍、附以備參考、十一日庚子、少內記藤原爲定、坐恣發播磨官倉、炮殺百姓、余右流於常陸、扶桑略記十三日壬寅、創法勝寺於白河、扶桑略記、古事談、一代要記、○百鍊鈔係六月十四日癸卯、還御賀陽院、扶桑略記、百鍊鈔、二十八日丁巳、觀競馬、百鍊鈔、古今著聞集、九月二十五日甲申、關白教通薨、水左記、扶桑略記、百鍊鈔、公卿補任、冬十月九日丁酉、彗

星見、一代要記、中右記、長承元年、十五日癸卯、以左大臣藤原師實爲關白、扶桑略記、公卿補任、百鍊鈔、十九日丁未、召百僧於大極殿、轉讀大般若經三日、以禳民庶暴死、水左記、扶桑略記、二十一日己酉、大赦、扶桑略記二十七日乙卯、關白師實罷左近衛大將、水左記、公卿補任、一代要記、十二月七日甲午、行幸春日社、一代要記、庭槐鈔、○辨官補任爲八日十五日壬寅、以右大臣源師房、兼皇太弟傅、轉左近衛大將、內大臣藤原信長兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、十

六日癸卯、以皇弟輔仁爲親王、一代要記、是月、關白師實罷皇太弟傅、公卿補任、一代要記、○二書日蝕、他無所攷、三年丙辰、春正月戊午朔、日有食之、百鍊鈔、應保二年七日甲子、節會舞姬上殿、舞殿無故而倒、水左記、九日丙寅、地震、三月四日己未、謁石清水宮、扶桑略記、夏四月九日甲午、卜伊勢神宮百枝松倒於軒廊、水左記、二十三日戊申、行幸賀茂社、扶桑略記、園太曆貞和四年、○百鍊鈔爲二十六日、自是每年三月謁石清水、四月幸賀茂、以爲定式、扶桑略記六

月十三日丁酉、慶金剛壽院、水左記、扶桑略記、百鍊鈔、秋七月二十三日丁丑、造六條宮、八月癸丑晦、宮成、車駕臨幸、園太曆貞和二年、冬十月二十日癸卯、行幸松尾北野、辨官補任、二十四日丁未、行幸大井河、扶桑略記、百鍊鈔、今鏡、獵于嵯峨野、今鏡、公卿侍臣皆從、扶桑略記、十二月二十一日癸卯、自賀陽院徙御六條宮、百鍊鈔、園太曆貞和二年、承曆元年丁巳、春二月五日丙戌、香椎廟火、扶桑略記、百鍊鈔、帝王編年記、十一日壬辰、覲陽明門院、玉蘂

嘉禎元年十七日戊戌、右大臣兼左近衛大將皇太弟傅源師房薨、公卿補任、扶桑略記、二十六日丁未、行幸日吉社、玉海別記、公卿補任、三月九日己未、謁石清水宮、加封五十戶、扶桑略記○按源平盛衰記云、是春有盛婆鬼、充滿京師、捉人家小兒、因停子日會、事涉怪誕、故不取、夏四月九日戊子、以參議藤原師通兼左近衛大將、公卿補任、扶桑略記、二十一日庚子、遣權中納言源資綱于伊勢、奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例五月四日癸丑、詔曰、近者乾坤屢呈變動之異、華夷間有疾疫

之憂、消其災沴、不如肆眚、可大赦天下、常赦所不免者、咸赦除之、蓋除刑法于三木之下、拂禍殃於萬柳之外也、而所司懈緩、頒下稽留、方違明恩之心、已非昧爽之義、宜不待施行之符、早隨厚免之例、朝野羣載五日甲寅、郗書宋主贈物、百鍊鈔秋七月十七日乙丑、以香椎廟火、廢朝五日、帝王編年記、百鍊鈔、二十三日辛未、遣右中辨藤原正家于宇佐、丁丑晦、修百座仁王講於大極殿三日、是月旱、○按百鍊鈔、一代要記、帝王編年記云、是歲旱、而不書月、水左記、八月四日條曰、六月十四日以後、天久不雨、今夜雖雨、無益稼穡、故繫是月、八月九日丙戌、修孔雀經法於禁內、十六日癸巳、非常赦、十七日甲午、式部卿敦賢親王薨、○扶桑略記係七月十九日丙申、以天皇不豫、及痘瘡流行、奉幣二十二社、九月六日癸丑、敦文親王薨、○扶桑略記、一代要記、榮華物語、為八月事、十六日癸亥、陽明門院三條東洞院宮火、水左記、冬十月九日丙戌、自六條宮徙御賀陽院、水左記、扶桑略記、百鍊鈔、十一月十一日戊午、卜盜入梅

宮於軒廊、水左記十七日甲子、改元、水左記、扶桑略記、百鍊鈔、一代要記、二十三日庚午、行幸六條宮、避方忌、水左記十二月丁丑朔、行幸祇園稻荷、水左記、扶桑略記、六日壬午、奉幣梅宮、水左記十八日甲午、應法勝寺、車駕臨幸焉、扶桑略記、水左記、百鍊鈔、仁和寺御傳、二十四日庚子、給封一千五百戶於法勝寺、閏月天皇自賀陽院還御大內、水左記○按本書閏十二月二十三日條曰、主上當以二十五日還御內裏、而其後無還御明文、故不取、百鍊鈔爲十一月二十八日、蓋脫閏字、是歲、痘瘡流行、榮華物語、百鍊鈔、帝王編年記、

二年戊午、夏四月二十八日辛未、御清涼殿歌合、扶桑略記、今鏡、一代要記、○按百鍊鈔係悔、榮華物語爲三月事、歷代皇紀爲承保二年事、疏漏、五月五日戊寅、雨水、扶桑略記、百鍊鈔、六月十八日庚申、以流人源基宗、藤原爲定、逃歸京師、再流基宗于下野、爲定于常陸、扶桑略記、秋八月二日癸卯、卜定媞子内親王爲齋宮、一代要記、玉海治承二年、二十七日戊辰、自大内徙御賀陽院、二十八日己巳、觀競馬、扶桑略記、百鍊鈔、冬十月三日甲辰、始修大乘會於法勝寺、扶桑略記、百鍊鈔、後拾遺往生傳、六日丁未、行幸法勝寺、授僧官位有差、扶桑略記、十六日丁巳、以咒詛故、敕檢非違使、捕威儀師恩紹、奉膳高橋信季、鞫問之、百鍊鈔、十一月二十五日乙未、還御大内、扶桑略記、三年己未、春二月二日辛丑、京師火、十八日丁巳、伊勢内宮外院火、扶桑略記、百鍊鈔、印鑰及累代文簿蕩盡、二十五日甲子、遣右中辨藤原通俊于伊勢檢察之、扶桑略記、廢朝五日、扶桑略記、百鍊鈔、三月八日丁丑、遣參議藤原伊房于伊勢、

奉幣大神宮、扶桑略記、伊勢公卿敕使例、夏五月二十九日丙申、遣權中納言藤原實季于伊勢、奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例、六月二日己亥、延曆寺僧數百人、○百鍊鈔作千餘人、擐甲執兵、入感神院、訴祇園別當讓補事、敕令諸衛檢非違使等拒之、還山、扶桑略記、百鍊鈔、二十七日甲子、洪水、漂伊勢外院屋五區、扶桑略記、○百鍊鈔係五月、秋八月、先是、右兵衛尉源重宗、與散位源國房構兵、戰於美濃、扶桑略記、十七日壬子、敕前下野守源義家討之、扶桑略記、百鍊鈔、是月、相模國人權大夫爲季、殺押領使景平、景平族發兵攻爲季、水左記、[illegible]闕、冬十月十四日己酉、修七佛藥師法於仁壽殿、後愚昧記、永德元年、十一月三日丁卯、以皇子善仁爲親王、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、十二月二十四日戊午、太皇太后四條宮火、扶桑略記、百鍊鈔、甲子晦、大赦、扶桑略記、四年庚申、春正月二十四日戊子、遣權大納言源顯房于伊勢、奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例、二

月六日庚子、賀陽院火、還御大內、扶桑略記、百鍊抄、○按帝王編年記、係三月六日、又按扶桑略記、二年十一月還御大內、其後不書幸賀陽院、未詳在何年月、九日癸卯、高倉殿火、水左記、十四日戊申、三條宮火、扶桑略記、百鍊抄、是春京師數火、扶桑略記、夏四月二十三日丙辰、行幸關白師實堀川第、二十八日辛酉、還御西洞院宮、百鍊抄、五月十一日癸酉、還御堀川第、經信記、百鍊抄、六月十九日庚戌、洪水、扶桑略記、二十日辛亥、使六十僧讀大般若經於紫宸殿、秋八月六日丙申、以盜

竊神宮衣服、遣使伊勢、奉幣大神宮、經信記、十四日甲辰、以內大臣藤原信長為太政大臣、權大納言藤原俊家為右大臣、權大納言藤原能長為內大臣、兼皇太弟傅、扶桑略記、水左記、公卿補任、○補任以能長兼傅係二十二日、二十二日壬子、以權大納言源顯房兼右近衛大將、公卿補任、閏月五日甲子、高麗王牒太宰府、獻方物、求醫、朝議以牒狀失禮却之、經信記、續本朝文粹、二十日己卯、越前言、宋商孫忠賚明州牒、至敦賀津、遣使取其牒、扶桑略記○按百鍊抄、孫忠或作孫忠達、本書作孫吉忠、今從經信記、朝野羣載、是月、月犯心星、經信記、九月九日戊戌、宋牒至、扶桑略記、冬十月二十三日辛巳、閑院火、百鍊抄、寺社雜事記、十一月己丑朔、日有食之、十二月二十四日壬午、大赦、扶桑略記、

永保元年辛酉春二月戊午朔、遣權中納言源師忠于伊勢、奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例、十日丁卯、改元、水左記、扶桑略記、赦、給老人僧尼穀、水左記○按本書云、用治安元年例、今據之、三月三日庚寅、修孔雀經

法於弘徽殿、孔雀經御修法記、五日壬辰、興福寺僧數千入多武峯、燒民家三百餘區、扶桑略記○百鍊抄係六日、多武峯僧負大織冠像、逃匿僅免、扶桑略記、百鍊抄、經信記、因罷興福寺別當公範、逮捕首惡繫獄、扶桑略記、是月、大織冠像破裂、墓鳴、經信記、夏四月十五日壬申、園城寺僧徒率兵數百、淩辱日吉祭使、不遂祭事、扶桑略記、水左記、兵數百據略記、二十八日乙酉、延曆寺僧徒率兵赴園城寺、園城寺僧徒出拒之、兵各數千、列陣未戰、及晚延

曆寺僧徒引去、(扶桑略記)五月十八日甲辰、奉幣丹生貴布禰、祈晴、(經信記)六月五日庚申、遣使修日吉祭、(扶桑略記、水左記、)園城寺僧徒率衆邀之、(扶桑略記)九日甲子、延曆寺僧數千入園城寺、燒堂社房宇二千餘區、(參取扶桑略記、百鍊鈔、古事談、○愚管鈔係四日)十八日癸酉、遣使園城寺檢察、(扶桑略記)秋七月二十一日丙午、遣參議源俊明于伊勢、奉幣大神宮、(伊勢公卿敕使例)八月乙卯朔、園城寺僧數千將燒延曆寺、敕檢非違使禁之、(水左記)六日庚申、遣使奉幣日吉、告僧徒戰爭、山僧以爲園城寺僧、邀而射之、官使不能畢禮、僅免而還、(扶桑略記)十日甲子、造三條宮、十二日丙寅、使一千僧讀仁王經於大極殿、十八日壬申、修日吉祭、二十日甲戌、敕延曆寺園城寺、捕僧徒兇魁、(水左記)二十一日乙亥、皇太弟加元服、(水左記、扶桑略記、百鍊鈔、○一代要記爲十五日)九月十三日丙申、園城寺僧可三百、乘夜攻延曆寺、延曆寺僧擊殲之、(扶桑略記、水左記、)十四日丁酉、敕檢非違

使、率武士警衞禁內、(水左記)又敕遣檢非違使及前下野守源義家於園城寺、逮捕凶徒、(扶桑略記)十五日戊戌、延曆寺僧徒燒園城寺、(扶桑略記、水左記、一代要記、)二十日癸卯、奉幣九社、告僧徒擾亂、先是園城寺兇魁走保牛尾山、二十四日丁未、遣前陸奧守源賴俊捕之、(水左記)冬十月四日丁卯、謁石清水宮、(水左記、經信記、百鍊鈔、)敕源義家源義綱、扈從乘輿、以備僧徒、(水左記)十九日壬申、行幸賀茂社、(水左記、經信記、)十一月十八日辛未、始以日吉社列二十二社、(百鍊鈔、建內記嘉吉元年、)十二月四日丙辰、行幸春日社、(水左記、經信記、○一代要記爲五月四日)源義家率家兵候朱雀門西、(水左記)十九日辛未、省試、(經信記)二年壬戌、春二月十九日辛未、修最勝會於圓宗寺、以爲永式、(年中行事、元亨釋書、)三月二十八日己酉、修仁王百講、(續本朝文粹)夏五月二十日庚子、以狹城盾列池上陵樹焚、奉幣石清水告之、(扶桑略記)廢朝三日、(百鍊鈔)秋七月、自四月不雨

至是月、（扶桑略記）十一日庚寅、修孔雀經法於神泉苑、（祈雨日記、東寺長者補任、）十六日乙未、修請雨經法於神泉苑、（扶桑略記、祈雨日記、○帝王編年記係二十六日）二十八日丁未、修孔雀經法於東寺、二七日、（永昌記、嘉承元年、祈雨日記、東寺長者補任、）二十九日戊申、大內火起、內膳司大炊屋、延及神嘉殿、天皇避之太政官朝所、遂徙六條宮、（扶桑略記）八月三日壬子、還御關白師實堀河第、（百鍊鈔）七日丙辰大雨、（東寺長者補任、祈雨日記、元亨釋書、）冬十月廿日己酉、右大臣藤原

俊家薨、（公卿補任、扶桑略記、）九日丙辰、彗星見、（山槐記治承二年）十七日甲子、熊野僧徒三百餘人、奉神輿至京師、訴尾張人殺其徒、（扶桑略記、帝王編年記、）十一月十四日辛卯、內大臣兼皇太弟傅藤原能長薨、（公卿補任、扶桑略記、）二十一日戊戌、附孫忠報牒于宋、（百鍊鈔○按本書承曆四年閏八月、朝議不宜報牒、然經信記、去年十月二十五日條、載議此事、蓋改前議也、）二十七日甲辰、行幸仁和寺、（扶桑略記、後拾遺往生傳、）慶喜多院、（百鍊鈔、後拾遺往生傳、）十二月九日乙卯、以大納言源俊房爲右大臣、（公卿補任、）

（歷代皇紀、○扶桑略記、爲八日甲寅、一代要記、帝王編年記十九日、）十日丙辰、遣權中納言源俊明于伊勢、奉幣大神宮、（伊勢公卿敕使例、）是歲大旱、天下饑饉、（扶桑略記、百鍊鈔、）停營造宮室、（百鍊鈔）

三年癸亥、春正月七日癸未、幸六條院、十一日丁亥、還宮、（江家次第）二十六日壬寅、以右大臣源俊房爲左大臣、權大納言源顯房爲右大臣、權大納言藤原師通爲內大臣、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、○扶桑略記、爲十九日、）二月十三日己未、敕仁和

寺性信親王、修孔雀經法于六條宮、（後拾遺往生傳○仁和寺御傳、爲三月）二十八日癸卯、富士山焚、（扶桑略記）冬十月癸酉朔、行幸法勝寺、（扶桑略記、百鍊鈔、）慶九層浮圖、（扶桑略記、一代要記、）非常赦、（吉部秘訓鈔）

應德元年甲子、春二月七日丙子、改元、（扶桑略記、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、）詔曰、朕夙受玄珪、嗣膺寶籙、小量而膺域中之大、陋質而處天下之尊、履春氷於深淵、負重失步、被秋霧於連山、革故傳蹤、方今青祇施仁、漸及三陽之半、甲子開

曆宜愼一元之初、與夫廢寢忘食、豈如修德防妖、須尋漢策於建元之徽號、又解殷網於宥過之洪慈、其改永保四年爲應德元年、大赦天下、常赦所不免者、不在此限、又高年及鰥寡孤獨篤癃、不能自存者、量加賑給、庶降渥澤於圓蒼之下、將扇薰風於淳素之基、（改元記）十一日庚辰、自六條宮徙御三條宮、（百錬鈔、行類鈔、○按公卿補任、載先是自堀河第遷六條宮、然其年月不可考、故不書、又按承曆四年、三條宮火、其後營造、諸書無所考、）夏四月十日己卯、遣權中

納言源雅實於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（伊勢公卿敕使例）十一日庚辰、造圓城寺金堂、（扶桑略記、一代要記、）秋八月二十六日癸巳、大風、平野社樹折、神殿損壞、（除目大成鈔）九月二十二日己未、中宮藤原氏崩、（扶桑略記、百錬鈔、榮華物語、○今鏡爲二十三日）冬十月丁卯朔、葬中宮、（今鏡）

二年乙丑、春二月二十一日乙酉、高良社火、（百錬鈔、）二十六日庚寅、慶勝樂院、（歷代皇紀、百錬鈔、）三月十五日戊申、雨雹、夏四月二十七日庚寅、日薄蝕如血、（扶桑略記）秋七月、京師民每街建小祠、榜曰福德神、或曰長福神、白朱社、貴賤競集、置酒縱飲、敕檢非違使毀之、（百錬鈔）八月二十九日庚寅、慶圓光院及法勝寺常行堂、（扶桑略記、百錬鈔、）是月太宰府言、高良社石硯及高座生金花、（百錬鈔）是秋太宰府言、阿蘇宮雪、（朝野群載）冬十一月八日戊戌、皇太弟薨、（扶桑略記、一代要記、歷代皇紀、）十四日甲辰、占高良社恠異、（百錬鈔）十二月二十二日壬午、慶圓城寺常行堂、（扶桑略記）

三年丙寅、春正月十九日戊申、日赤無光、（扶桑略記）夏六月二十六日壬子、敕檢非違使刈西京田稻三百餘町、以食牛馬、（扶桑略記、百錬鈔、）秋七月規九條以南鳥羽山莊百餘町、造離宮、近臣以下至庶人賜宅地、課五畿七道徭役、穿池築山宏敞鉅麗、營構極巧、（扶桑略記）九月十六日辛未、參議藤原通俊上後拾遺和歌集、（本集序、拾芥鈔、）冬十月十日甲午、慶圓城寺金堂、（扶桑略記、一代要記、）二十日甲辰、慶東寺五層浮圖、（扶桑略記、後二

條閣白記、十一月七日辛酉、遣權中納言源雅實於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、祈弭災異、伊勢公卿敕使例二十六日庚辰、立善仁親王爲皇太子、即日讓位于皇太子、百錬鈔、扶桑略記、十二月、上尊號曰太上天皇、續本朝文粹自中宮崩、悲悼特甚、應德元年至是歲、節會宴會、不復臨御、榮華物語、百錬鈔、寛治元年二月、鳥羽宮成、遷御、儀衞如在位時、中右記、百錬鈔、五月、幸宇治平等院、淹留三日、中右記、扶桑略記、百錬鈔、攝政以下公卿從焉、扶桑略記

二年二月、幸高野山、中右記、扶桑略記、百錬鈔、路經柰良、供張甚盛、徧禮佛塔寺院、遂至高野、觀釋空海像、使僧講經、敕置阿闍梨、營造大塔、賜僧粟帛有差、扶桑略記、十一月、幸延曆寺、留三日、三年五月、又幸淹留七日、使一千僧讀經、中右記十二月、幸近江彦根西寺、扶桑略記、百錬鈔、禮觀音像、扶桑略記、四年正月、幸熊野、中右記、扶桑略記、百錬鈔、付近郡田園百餘町、百錬鈔、十月、幸清水寺、留十五日、中右記、六年七月、幸金峯山、扶桑略記、百錬鈔、藏法

華經一百部、金字五部大乘經、宸筆金字法華經等、賜袈裟於一百僧、置阿闍梨、扶桑略記、嘉保二年、造閑院、六月、宮成、上皇與郁芳門院徙居之、是後屢徙御鳥羽宮、六條宮、泉殿、大炊殿、中右記、百錬鈔、八月、前栽合於鳥羽宮、百錬鈔、古今著聞集、以權中納言藤原基忠爲左隊長、參議藤原宗通爲右隊長、各上和歌、使左大臣源俊房判其優劣、古今著聞集、永長元年八月、郁芳門院崩、上皇哀悼殊甚、遂落髮、中右記、大治四年、百錬鈔、今鏡、

帝王編年記、○元亨釋書曰、天皇受沙彌戒於隆命、皇胤紹運錄曰、法名融觀、而古記、今鏡並云、不受戒、無法名、故不取、康和三年三月、慶鳥羽證金剛院、百錬鈔、天仁元年九月、修百座仁王講於法勝寺金堂、十月、幸法勝寺、使一千僧讀經、中右記二年四月、藏金字佛經於賀茂石清水、春日、稻荷、日吉、祇園、北野、住吉八社、帝王編年記是歲、慶法勝寺曼陀羅堂、及鳥羽塔、百錬鈔、天永元年三月、幸法勝寺、慶金字大藏經、永昌記○百錬鈔、帝王編年記、係五月、二年五月、修三十講於法勝

寺、中右記 永久二年十一月、慶白河蓮華藏院、安大像九軀、中右記、百錬鈔、蓮華藏院據百錬鈔、 元永元年八月、閲鳥羽倉廩、振贍京師飢民、閏九月、幸熊野、慶大藏經於本宮、中右記、百錬鈔、 保安三年四月、造小塔三十萬、大各五寸、置於法勝寺、舞樂慶之、百錬鈔、一代要記、 大治四年五月、端午午時、敕鑄護斂、取諸重午之義、百錬鈔 七月幸二條東洞院第、慶佛像三十軀、還宮不豫、中右記 七日癸未、法皇崩于三條烏丸第、年七十七、中右記、愚管鈔、百錬鈔、 稱白河院、○年中行事七月條云、上號鳥羽院、後改白河院、據中右記、法皇常御鳥羽宮、故往往稱鳥羽院、臨崩遺詔曰白河院、蓋非改之也、扶桑略記、或稱六條天皇、以時御六條宮故也、 火葬于衣笠山東麓、安御骨于香隆寺、中右記 天承元年七月、以遺詔藏鳥羽塔中、百錬鈔○按皇年代略記云、葬神樂岡山陵、今從中右記、 置國忌于法勝寺、仁和寺諸記鈔 帝性嚴而溫雅、頗有後三條帝之風、今鏡 信賞必罰、剛斷果決、政出宸衷、相門斂手、而愛惡任意、授官任職、率不遵舊典、中右記 源俊明藤原顯隆等、最被親幸、雖

攝籙臣皆憚之、愚管鈔、今鏡、 初鳥羽帝之未生也、堀河帝有病、人皆屬望輔仁親王、帝聞之曰、朕雖出家、未嘗受戒制法名、主上若有不諱、朕當再踐位、既而鳥羽帝生、其志遂寢、暨堀河帝崩、乃立鳥羽帝、台記康治元年○按愚管鈔載堀河帝崩、帝有再登極之志、以其落飾故、立鳥羽帝、今從台記、 而機務一出於院中、至崇德帝即位、四十餘年間、刑賞黜陟、莫不與聞、凡以院宣號令天下、置別當北面、始自此焉、中右記、今鏡、神皇正統記、置別當北面、據愚管鈔、 嘗曰、天下不如意者、惟鴨河水、雙陸采、山法師而已、源平盛衰記 善射、好詩歌、敕撰後拾遺和歌集、金葉和歌集、續本朝秀句、篤信佛法、自書金字大藏經、今鏡、 受法華經於釋增譽、元亨釋書 玄義文句止觀於釋良眞、今鏡 屢幸法勝寺、使千僧讀經、慶大藏經、常燃百燈、扶桑略記、百錬鈔、中右記、今鏡、 其慶金字大藏經於法勝寺、數遭雨不果、帝震怒盛雨於器而下獄、古事談、源平盛衰記 時人謂之雨禁獄、源平盛衰記 帝前後四幸高野、八幸熊野、扶桑略記、百錬鈔、中

(右記)所慶畫佛五千四百七十餘幅、丈六佛像一百二十七軀、等身佛像三千一百五十軀、三尺以下佛像二千九百三十餘軀、七寶塔二十一基、小塔四十四萬六千六百三十餘基。(中右記○按百錬鈔、一代要記、保安三年供養小塔三十萬基、而要記又云、大治三年供養十八萬基、然則前後四十八萬基、與此不合、)嚴禁天下殺生、(中右記、百錬鈔、)放鷹隼鶻鷂諸籠鳥、(百錬鈔)燒漁網八千八百餘張。(○百錬鈔、歷代皇紀、竝云、收諸國羅網五千餘張、燒紀伊所上漁網於宮判前、)停式條所載諸國貢魚、(續本朝文粹一所載藤原敦光切經供養願文)

雖殿上臺盤、殆如六齋日、釋奠亦用素饌、惟神廚僅存舊式、(今鏡、釋奠用素饌、據百錬鈔大治二年、)屢事營造、國用凋喪、國司遷替、頗乖舊典、定任者三十餘國、上萬石萬匹者、輒得爲國司、至有父子三四人同時竝任、童稚者亦得任焉、是時競尚華麗、如賤女子、亦服文繡、侈靡之風至此而極矣、(中右記)

大日本史卷之四十四終

大日本史卷之四十五

本紀第四十五

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保　重校

堀河天皇

堀河天皇諱善仁、白河帝第二子也、○一代要記爲第一子誤 母中宮藤原氏、扶桑略記、愚管鈔、百鍊鈔、今鏡、皇代記、皇年代略記、承曆三年七月九日乙亥、生于但馬守橘

俊綱第、扶桑略記、皇年代略記、○今鏡爲二月十日、八坂本平家物語、十二月二十九日、拾芥鈔曰、生于鴨院、十一月爲親王、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、永保三年二月著袴、皇年代略記、歷代皇紀、先是居關白師實大炊第、應德三年十一月二十六日庚辰、徙堀河院、扶桑略記 立爲皇太子、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、即日受禪於堀河院、毘沙門堂所藏記、扶桑略記、後二條關白記、愚管鈔、以關白師實攝政、公卿補任、扶桑略記、百鍊鈔、太政大臣信長左大臣源俊房右大臣兼右近衞大將源顯房、內大臣兼左近衞大將藤原師通並如故、公卿補任、一代要記、十二月二日丙戌、尊白河帝曰太上天皇、詔曰、朕以幼沖、濫膺神器、受龜圖於羣嬀之水、謬乘時龍、承駿命於黃軒之丘、如馭秋駕、懋從叡託之旨、未決童蒙之情、太上天皇德侔蒼昊、仁洽黔黎、照六合於胷襟、置八荒於掌握、長垂有截之化、遂盛無窮之基、赫哉聖猷、冠於萬古、爰比大統於纖芥、同寶籙於錙銖、不顧濟川之重浪、逐虛舟而鼓檝、窒指射山之片雲、冀

屣而尋跡、將聖之德、功成不居者歟、抑國玄風道傳、粉澤宜率、崇敬之舊章、用殊稱謂之新聽、謹上尊號、爲太上天皇、續本朝文粹 十九日癸卯、天皇即位於大極殿、時年八歲、扶桑略記、帝王編年記、○榮華物語爲十六日、歷代皇紀、一代要記、長門本平家物語二十九日、即日還堀河院、後二條關白記 寬治元年丁卯春二月十一日甲午、卜定善子內親王爲齋宮、中右記、帝王編年記、十二日乙未、京師火、三月六日戊午、御清涼殿觀馬、中右記 夏

四月七日戊子、改元、中右記、愚管鈔、○扶桑略記爲九日、一代要記十四日、歷代皇紀、帝王編年記並十七日、十九日庚子、遣使宇佐、二十三日甲辰、始臨萬機、中右記五月庚辰晦、詔賑三條四條隱居高年篤癃貧窮者鹽穀、朝野羣載秋七月旱、十六日乙丑、奉幣丹生貴布禰、十七日丙寅、讀經龍穴、二十九日戊寅、讀經神泉苑九日、八月七日丙戌、卜旱、九日戊子、奉幣五社、祈雨日記十日己丑、修請雨經法於神泉苑三日、祈雨日記、東寺長者補任、冬十月二十二日

庚子、御禊、十一月十九日丁卯、大嘗、中右記、扶桑略記、一代要記、帝王編年記、十二月二十四日壬寅、始讀書、中右記、扶桑略記、皇年代略記、二十六日甲辰、省試、中右記是日陸奥守源義家上言、俘囚清原武衡伏誅、中右記、百錬鈔、○按奥州後三年軍記係寬治五年、二十八日丙午、雷、中右記、扶桑略記、追尊中宮曰皇太后、二十九日丁未、大風、京師火、中右記

二年戊辰、春正月十九日丁卯、覲上皇于大炊殿、中右記、榮華物語、續古事談、作樂、中右記天皇親吹笛、續古事談進院別當以下二十人位、賜伶人物有差、中右記二月戊寅朔、宇佐神人訴大貳藤原實政射宇佐神輿、百錬鈔二十二日己亥、上皇幸高野、中右記、扶桑略記、百錬鈔、三月戊申朔、上皇還宮、中右記十日丁巳、覲上皇于鳥羽宮、中右記、榮華物語、夏五月十三日戊午、遣使疏神泉苑池祈雨、讀孔雀經七日、東寺長者補任二十日乙丑、遣使太宰府推問藤原實政、百錬鈔六月二十六日辛丑、大學寮請修孔廟祭器祭服、許之、朝野羣載二

十七日壬寅、延一千僧於大極殿、讀經祈雨、秋八月七日庚辰、覲上皇于大炊殿、中右記觀相撲、後二條關白記、中右記、冬十月八日庚辰、發大神寶使、後二條關白記十一月癸酉朔日南至、公卿表賀、後二條關白記、中右記、二十日壬辰、詔曰、古明王之世、仰瞻次舍、俯察晷儀、照三照九之道、上元無愆、允文允武之基、中正宜舉、故漢武帝之受圖、辛巳之年、堪賀、唐太宗之嗣歷、甲子之運不差、蓋是所以皇天呈瑞聖人則之也、朕

謬以眇齡、忝膺寶命、七政未能在璇衡之數、四序定恐失銅管之和、廼者有司奏云、今年十一月朔旦冬至、得天之紀、終而復始、倩顧眇身、寧會章首、若非宗祧之靈貺、是依臣佐之攝行、思與天下共斯休徵、可大赦天下、但常赦所不免、及欠負官物之類、不在赦限、授爵賜物、一準舊典、庶洽惠澤於四海、咨嘉貺於八埏、醍醐報恩院所藏記二十三日乙未、太政大臣信長龍、中右記、一代要記、○公卿補任、爲二十日、扶桑略記十二月十六日、二

十八日庚子、上皇幸延曆寺、後二條關白記、中右記、扶桑略記、壬寅晦、流前太宰大貳藤原實政於伊豆、前肥後守時綱於安房、時綱姓闕、○扶桑略記作前筑前守、大貳廳官等八人於土佐、中右記、○百錬鈔係二十九日、扶桑略記十二月朔、是日上皇還宮、後二條關白記、中右記、十二月十四日丙辰、以師實爲太政大臣、攝政如故、後二條關白記、中右記、公卿補任、○扶桑略記係十六日誤是日發八十島使、十七日己未、遣使石清水、謝射宇佐神輿、中右記

三年己巳、春正月五日丙子、天皇加元服、扶桑略記、中右記、愚管鈔、皇年代略記、○長門本平家物語爲二年正月二十日誤十一日壬午、覲上皇、二十五日丙申、式部省正廳火、是月住吉社鳴動、中右記三月十一日壬午、行幸春日社、中右記、扶桑略記、○園太曆文和二年作二十一日十二日癸未、還宮、中右記二十六日丁酉、殿上小弓合、中右記、百錬鈔、夏四月二十四日甲子、奉幣石清水、中右記二十五日乙丑、攝政師實罷太政大臣、中右記、公卿補任、一代要記、五月八日丁丑、祈雨丹生

貴布禰、中右記十三日壬午、修孔雀經法於神泉苑九日、祈雨日記十九日戊子、奉幣二十二社、中右記、祈雨日記、二十日己丑、修五龍祭、祈雨日記二十一日庚寅、使一千僧讀經東大寺、中右記、祈雨日記、修孔雀經法於東寺、祈雨日記是日上皇幸延曆寺、二十八日丁酉、上皇還宮、中右記、百錬鈔、六月二十八日丁卯、卜定令子内親王爲齋院、中右記、帝王編年記、秋七月九日丁丑、修孔雀經法祈雨、祈雨日記冬十月以外祖母源隆子薨、廢朝三日、十

二月二十二日戊午、上皇幸近江彥根山西寺、民間浮言、西寺觀音靈驗、限于是年、都鄙人士羣集、（中右記、百錬鈔、西寺據扶桑略記、○百錬鈔作二十一日）二十四日庚申、上皇還宮、（中右記）是歲旱、（中右記、百錬鈔、）

四年庚午春正月丁卯朔、天皇始行四方拜、三日己巳、覲上皇、（中右記）二十二日戊子、上皇幸熊野、（中右記、扶桑略記、百錬鈔、熊野略記、）二月十七日壬子、行幸平野社、二十三日戊午、行幸大原野社、二十六日辛酉、上皇至自熊野、二十八日癸

亥、司天臺言、容星見、三月二十六日辛卯、遣參議藤原保實於賀茂上下社、（中右記）始奠神饌、（中右記、百錬鈔、帝王編年記、）自是每日供、以爲永式、（中右記）夏四月十九日甲寅、詣鳥羽宮、（中右記、扶桑略記、百錬鈔、）召文人賦詩試擬文章生、（扶桑略記、百錬鈔、）天皇從上皇御船宴樂、（扶桑略記、）二十日乙卯、觀競馬騎射、（扶桑略記、百錬鈔、○中右記係二十六日）二十一日丙辰、還宮、（扶桑略記）五月六日庚午、祈雨丹生貴布禰、六月九日壬寅、召參議大江匡房、讀漢書、（中右記）

十五日戊申、京師女子一產三子、（一代要記、歷代皇紀、）二十一日甲寅、地震、（中右記）秋七月十三日丙子、奉神供田六百町於賀茂上下社、（百錬鈔、帝王編年記、）九月二十五日丙戌、以天皇厄年及天下疾疫、非常赦、冬十月六日丁酉、使一千僧讀經大極殿、（中右記）二十七日戊午、行幸松尾社、（中右記、園太曆文和二年、）十一月四日甲子、遣權大納言源雅實於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（中右記、伊勢公卿敕使例、）七日丁卯、行幸北野社、（中右記、園太曆文和二年、）

十二月二十日庚戌、師實罷攝政爲關白、（中右記、公卿補任、○扶桑略記爲二十六日）

五年辛未春正月六日丙寅、地震、（後二條關白記、中右記、）十二日壬申、大風、八省院西廊倒、（中右記、扶桑略記、一代要記、歷代皇紀、百錬鈔、）春日社神木多偃、（中右記）十三日癸酉、觀上皇於大炊殿、（後二條關白記、中右記、）二十二日壬午、尊準母媞子內親王曰皇后、（後二條關白記、○扶桑略記作中宮誤）二月十一日庚子、上皇幸日吉社、（後二條關白記、中右記、）十七日丙午、上皇幸高野、

（中右記、扶桑略記、一代要記、百錬鈔、）是日大風、十八日丁未、又風、（後二條關白記）二十三日壬子、上皇還六條宮、（中右記）三月五日甲子、地震、（後二條關白記、中右記、）八日丁卯、行幸日吉社、（後二條關白記、中右記、扶桑略記、）是日清水寺火、（中右記、一代要記、歷代皇紀、百錬鈔、）夏五月己未朔、日有食之、十二日庚午、使一千僧讀經大極殿、（中右記）六月、前陸奧守源義家與弟義綱構兵、詔五畿七道禁義家家兵入京師、及諸國百姓附私田公驗于義家、（百錬鈔）秋七月九日丙寅、

修百座仁王會於紫宸殿、八月四日庚申、以齋宮疾、奉幣大神宮、（中右記）七日癸亥、地震、（中右記、扶桑略記、）八日甲子、上皇自土御門亭徙御六條院、（中右記）冬十月三日戊午、行幸稻荷祇園二社、（中右記、園太曆文和二年、）六日辛酉、殿上小鳥合、（中右記、古今著聞集、○百錬鈔係九月、一代要記、歷代皇紀十一月、）二十五日庚辰、以準三宮篤子內親王爲女御、（中右記、一代要記、）十二月十日甲子、奉幣大神宮、謝例幣違期、（中右記）十三日丁卯、大隅八幡宮火、（百錬鈔、帝王編年記、）

（後愚昧記、應安四年、○一代要記、歷代皇紀竝係六年四月、誤、）六年壬申、春正月甲申朔、以日忌停小朝拜、節會不御殿、（後二條關白記、中右記、）二十三日丙午、始視除目、（後二條關白記、中右記、百錬鈔、○歷代皇紀係十二月、誤、）二月二十九日壬午、覲上皇於六條殿、（後二條關白記、中右記、）三月六日己丑、京師火、延燒十餘町、（中右記、扶桑略記、）是日興福寺僧與山城相樂郡賀茂邑人相惡、燒其邑二百餘戶、（扶桑略記）夏四月八日庚申、以石清水日吉二社有怪異、奉幣、六月七

日己未、有虹見禁中、（中右記）辛巳晦、太宰府言、香椎廟神殿有血、（百錬鈔）秋七月二日癸未、上皇幸金峯山、（扶桑略記、百錬鈔、帝王編年記、）八月三日甲寅、諸國大風、伊勢內外神宮殿廊倒、大水海溢、損田壞廬、民多死、（扶桑略記）二十一日壬申、遣權大納言源雅實於伊勢、奉宸筆宣命神寶於大神宮、（伊勢公卿敕使例）二十八日己卯、日暈如虹、（扶桑略記）九月二十八日戊申、以延曆寺訴、貶左少辨兼加賀守藤原爲房爲阿波權守、（百錬鈔、辨

官補任、流宮內少輔高階仲實于安藝、冬十一月十日己丑、地大震、扶桑略記七年癸酉春正月三日辛巳、覲上皇於六條殿、後二條關白記、扶桑略記、十九日丁酉、上准母皇后號曰郁芳門院、帝王編年記、一代要記、女院小傳、貴女鈔、二月十四日辛酉、地大震、後二條關白記、扶桑略記、二十日丁卯、因幡言、儷樹自起、百錬鈔二十二日己巳、立女御篤子內親王爲中宮、扶桑略記、公卿補任、三月二十日丁酉、上皇幸春日社、關白師實以下公卿悉

從、扶桑略記、後二條關白記、夏五月八日甲申、卜尾張火上姉子社儷樹自起于軒廊、後二條關白記、十四日庚寅、春日山震動、百錬鈔二十六日壬寅、修百座仁王會於大極殿、後二條關白記、六月二十七日癸酉、上皇慶丈六佛像于法勝寺、免左右獄徒六十人、扶桑略記、召還阿波權守藤原爲房、扶桑略記、阿波權守據百錬鈔、秋八月六日辛亥、延曆寺僧徒數千、攻座主良眞、壞其宅、十八日癸亥、大雨洪水、十九日甲子、良眞率兵數百、毀東塔房

舍、將及西塔、西塔橫川僧徒擊而走之、遂毀良眞弟子房舍、焚坂下民家八十餘戶、扶桑略記二十六日辛未、興福寺僧徒數千、奉神木入京、訴近江守高階爲家侵掠蒲生郡市莊神人、扶桑略記、奉神木據百錬鈔、〇一代要記係十月誤二十八日癸酉、流高階爲家於土佐、緣坐者解任贖銅有差、百錬鈔〇扶桑略記爲二十七日九月四日戊寅、西院皇后崩、扶桑略記、一代要記、西院據貴女鈔、〇諸書葬闕冬十月三日丁未、上皇及郁芳門院幸日吉社、關白師實以

下扈從、中右記、扶桑略記、二十三日丁卯、右大臣源顯房罷右近衛大將、一代要記、歷代皇紀、〇公卿補任係六年十二月二十七日辛未、卜北野牛斃於軒廊、中右記二十八日壬申、春日御笠山屢有光、百錬鈔二十九日癸酉、遣權大納言源師忠於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例、宸筆據中右記、又奉幣二十二社、告南北僧徒凶暴、百錬鈔十一月三日丁丑、興福寺僧徒與金峯山僧鬪、四日戊寅、地震、五日己卯、以右大臣源顯房疾、免

輕囚、十七日辛卯、以顯房疾及僧徒鬪、停觀童女、是夜春日社大鳴、屢有光、深草山陵鳴、中右記二十日甲午、權大納言源雅實兼右近衛大將、公卿補任、中右記、扶桑略記、是夜地震、中右記二十一日乙未、興福寺僧又與金峯山僧鬪、百錬鈔二十七日辛丑、卜深草山陵鳴於軒廊、二十八日壬寅、使一千僧讀經延曆寺、十二月十二日乙卯、奉幣二十二社、禳疱瘡、中右記二十一日甲子、內大臣藤原師通罷左近衛大將、

中右記、一代要記、歷代皇紀、○公卿補任係六年十二月二十四日丁卯、遣參議藤原公定謝深草山陵、中右記二十七日庚午、左大臣源俊房兼左近衛大將、中右記、扶桑略記、公卿補任、是年出羽賊平師妙平師季等、燒守信明館、剽掠資財、信明姓闕敕陸奧守源義綱討之、是冬疱瘡盛行、踰年不止、中右記

嘉保元年甲戌、春正月三日乙亥、覲上皇於六條殿、中右記、扶桑略記、古事談、十六日戊子、陽明門院崩、扶桑略記、中右記、百錬鈔、是月大雪、扶桑略記、中右記、二月五日丁未、葬陽明門院、是月有大鳥三、集鳥羽宮池、辛未晦、修熾盛光法、禳日食、中右記三月壬申朔、日有食之、中右記、扶桑略記、八日己卯、先是平師妙平師季伏誅、是日源義綱持其首入京師、梟之西獄門樹、中右記九日庚辰、關白師實罷、中右記、百錬鈔、○公卿補任、歷代皇紀、一代要記爲八日、以內大臣藤原師通爲關白、中右記、百錬鈔、公卿補任、二十三日甲午、左大臣源俊房罷左近衛大將、中右記○一代要記爲二十二日二十八日己亥、權中納言藤原忠

實兼左近衛大將、中右記、公卿補任、閏月十二日癸丑、以旱奉幣丹生貴布禰、二十日辛酉、祈雨神祇官七日、二十三日甲子、雨、是日詔原輕囚、夏四月七日丁丑、卜大神宮有猪矢於軒廊、遣使奉幣、十五日乙酉、左衛門府火、十九日己丑、大雨、中右記五月二十五日乙丑、前太宰權帥權中納言藤原伊房、前對馬守敦輔、敦輔姓闕坐私遣僧契丹交關、百錬鈔、敦輔據中右記、伊房貶位奪官、百錬鈔、中右記、公卿補任、敦輔削籍、六月五日

甲戌、非常赦、但安樂寺彌勒寺彦山鬭亂者、不在赦限、是夜星入月、地震、六日乙亥、策試、八日丁丑、省試、二十五日甲午、以旱疏神泉苑池、二十九日戊戌、祈雨神祇官、秋七月二日辛丑、奉幣丹生貴布禰、八日丁未、讀經龍穴五日、十九日戊午、大雨連日不止、二十六日乙丑、祈晴丹生貴布禰、（中右記）八月三日壬申、觀賭射於大極殿、（古今著聞集）十日己卯、祈晴神祇官、十七日丙戌、參河守源惟清坐咒詛

上皇、流於伊豆、父仲季周防、弟顯清越前、仲清阿波、盛清信濃、（中右記○百鍊鈔仲季作仲宗、今從本書、）九月三日辛丑、前太政大臣信長薨、五日癸卯、右大臣源顯房薨、（中右記、公卿補任、）二十三日辛酉、以疱瘡流行、讀孔雀經大般若經於御前、修仁王講聖觀音法於宮中、讀大般若經於祇園社、冬十月二十四日壬辰、夜內侍所鈴大鳴、（中右記）堀河院火、天皇避之於大炊殿東對、（中右記、百鍊鈔、東對據中右記、）十一月十二日己酉、遷御西對、

（中右記）十二日庚戌、大隅八幡宮火、（百鍊鈔、帝王編年記、）十三日辛亥、天皇患疱瘡、十七日乙卯、禱于神祇官、七日、十八日丙辰、修七瀨祓四界祭、二十日戊午、奉幣二十二社、二十三日辛酉、卜內侍所數鳴、二十四日壬戌、卜稻荷社鳴、出雲國社怪異於軒廊、二十六日甲子、使一千僧讀經延曆寺中堂、二十七日乙丑、修三萬六千神祭、（中右記）十二月十五日壬午、改元、（中右記、愚管鈔、百鍊鈔、歷代皇紀、按一代要記爲六日誤、）十九日丙戌、

天皇疾瘳、始御紫宸殿、二十八日乙未、從四位下大江公仲坐焚散位資俊家殺人竊財、流于隱岐、（資俊姓闕）是歲秋冬、天下疱瘡流行、（中右記）

二年乙亥、春正月二日己亥、覲于上皇、（公卿補任）五日壬寅、始拜天照大神于石灰壇、（禁秘鈔）夏六月二十日甲申、奉幣丹生貴布禰、疏神泉苑池、祈雨、（中右記）二十六日庚寅、閑院成、上皇徙御焉、（中右記、百鍊鈔、）秋八月八日辛未、覲上皇於

閑院、觀相撲舞樂、十二日乙亥、使近臣捕嵯峨野草蟲獻之、設宴作歌、(古今著聞集)冬十月十八日庚辰、以天變地震、遣權大納言源雅實於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、(伊勢公卿敕使例)二十四日丙戌、延暦寺僧徒、奉神輿詣闕訴、美濃守源義綱殺其徒中務丞源頼治拒之、(○百錬鈔頼治作頼經誤)射殺神人、(百錬鈔、源平盛衰記)十一月、僧徒奉神輿于中堂、(愚管鈔)修五壇法詛國家、敕奉神輿還山、(百錬鈔、歷代皇紀)

永長元年丙子、春正月十一日壬寅、覲上皇於六條殿、(中右記)十二日癸卯、敕五畿七道、修神社破壞、(朝野羣載)十八日己酉、修觀音供於清涼殿、(中右記、元亨釋書)承暦以後廢絶、至是復之、(元亨釋書)二十八日己未、使六十僧讀經紫宸殿、(中右記)二月十五日丙子、梅宮第一神殿火、(永昌記、嘉承元年)十七日戊寅、卜石清水宮釜鳴於軒廊、三月七日丁酉、免輕囚、(中右記)十日庚子、熊野本宮火、(百錬鈔、歷代皇紀)十一日辛丑、召羣臣於禁內、作歌奏樂、(中右記、中殿御會部類記)二十四日甲寅、觀殿上賭射、(中右記)秋七月十二日己亥、使侍臣爲田樂、十三日庚子、上皇觀田樂、自是朝野田樂盛行、(古事談)是月、有星見西北、如貫珠、(歷代皇紀、皇年代略記)八月七日甲子、郁芳門院崩、(○諸書葬闕)九日丙寅、上皇薙髮、(中右記、大治四年)九月二十五日辛亥、興福寺火、(百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、興福寺略年代記)冬十一月二十四日庚戌、地大震、御船避之、(長秋記○百錬鈔係十月、誤)十二月十五日辛未、造興福寺、(興福寺略年代記)十七日癸酉、改元、(愚管鈔、百錬鈔、一代要記)

承德元年丁丑、春三月十八日壬申、行幸春日社、(一代要記)夏四月二十六日己酉、行幸祇園社、(長秋記)秋八月五日丙戌、風壞孔廟屋舍、(朝野羣載)九月辛亥朔、彗星見、(百錬鈔、一代要記、山槐記、治承二年)十七日丁卯、大神宮正殿戸鑽不開、不能納幣、(朝野羣載)二十三日癸酉、行幸關白師通二條第、(園太暦、文和二年)冬十月十日庚寅、卜大神宮戸鑽

不開於軒廊、（朝野羣載）十一日辛卯、自二條第遷賀陽院、（園太曆文和二年、行類鈔）十一月二十一日辛未、改元、（愚管鈔、歷代皇紀、帝王編年記、○百鍊鈔爲十月十七日、一代要記、山槐記十二月、）二十五日乙亥、遣權大納言源師忠於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（伊勢公卿勅使例）

二年戊寅、秋八月三日戊寅、欲觀相撲於馬場殿、法皇止之、夜竊觀之、（古今著聞集）九月二十日乙丑、慶祇園塔、（百鍊鈔、○一代要記係十一月）二十六日辛未、法皇毀閑院、運其材於鳥羽、營構焉、（百鍊

鈔）冬十二月八日壬午、以藤原苡子爲女御、（一代要記）

康和元年己卯、春正月三日丙午、覲于法皇、（長秋記）四日丁未、六條院火、（百鍊鈔）十三日丙辰、以仁和寺覺行爲親王、法親王始于此、（仁和寺御傳、元亨釋書、○外記日記係三日丙午）二十一日甲子、大學寮請修孔廟祭器、許之、（朝野羣載）二十四日丁卯、遣權大納言源俊明于伊勢、奉幣大神宮、（外記日記、伊勢公卿勅使例、）是日地震、（長秋記）二月京師不雨、井

水皆涸、三月四日丁未、太白貫月、二十七日庚午、以疫旱免輕囚、（外記日記）夏四月六日戊寅、上皇慶尊勝陀羅尼於鳥羽南殿、（一代要記○按年中行事曰、院尊勝陀羅尼始于此、後世以正月爲恒式、附以備考、）壬寅晦、深草陵鳴動、五月二十三日乙丑、加賀國牡牛生兩頭犢、（外記日記）六月二十三日甲午、使六十僧讀經紫宸殿、（長秋記、外記日記、）是日法皇自鳥羽殿遷御法勝寺、（外記日記）二十八日己亥、關白內大臣師通薨、（長秋記、公卿補任、愚管鈔、百鍊鈔、）秋八月二十三

日癸巳、奉幣二十二社、（長秋記）二十八日戊戌、改元、（愚管鈔、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、）冬十月二十日戊午、卜定禛子內親王爲齋院、（長秋記、帝王編年記、外記日記、）二十六日甲子、地震、（外記日記）

二年庚辰、春正月二日己巳、覲法皇、（公卿補任）夏四月丁酉朔、日有食之、（朝野羣載、中右記保安元年、）六月十九日甲寅、大內成、遷御焉、（百鍊鈔、行類鈔、歷代皇紀、）秋七月十七日壬午、以權大納言藤原忠實爲右大臣、權大納言源雅實爲內大臣、（大府記、公卿補任、）

任、一代要記、八月十六日庚戌、遷于賀陽院、百鍊鈔、九月流中務丞源頼治于佐渡、歷代皇紀○尊卑分脉、佐渡作土佐、冬十月慶東寺塔、一代要記、三年辛巳、春正月二日癸亥、覲法皇于鳥羽宮、長秋記、公卿補任、十日辛未、行幸鳥羽宮、二十五日丙戌、又幸、二月壬辰朔、又幸、長秋記、十三日甲辰、前關白師實薨、公卿補任、長秋記、百鍊鈔、三月十日辛未、行幸鳥羽、庚寅晦、法皇慶證金剛院、百鍊鈔、夏四月辛卯朔、日有食之、長秋記、二十四日

甲寅、行幸鳥羽、二十五日乙卯、朝法皇觀證金剛院、長秋記、百鍊鈔、○帝王編年記曰、五月四日興福寺火、據興福寺略年代記、皇年代略記、歷代皇紀、永長元年九月興福寺火、十二月營造、而不載是歲又火、故不取、六月二十五日甲寅、卜賀茂下社戸鎖不開于軒廊、秋七月二日辛酉、奉幣賀茂、朝野群載、七日丙寅、對馬守源義親劫剽鎮西、敕討之、百鍊鈔、二十九日戊子、修孔雀經法於東寺祈雨、祈雨日記、東寺長者補任、九月二十七日乙酉、行幸鳥羽避方忌、長秋記○按此前後行幸鳥羽、本書無方違文、惟此日書方違、四年行幸鳥羽、本書亦無方違文、而中右記皆書方違、以此推之、是歲前後行幸者蓋皆方違也、冬十月十日丁酉、遣大納言源俊明於伊勢奉幣大神宮、長秋記、伊勢公卿敕使例、十一月二日己未、卜賀茂下社西寶殿戸鎖不開于軒廊、朝野群載、五日壬戌、行幸鳥羽、十二月二十日丙午、又幸、長秋記、是歲京師有狐妖、陳設食具於朱雀門東掖、如行饗狀、世謂狐大饗、歷代皇紀、係三月五日、據續本朝文粹所載大江匡房狐媚記、其妖非一日、故不係月日、四年壬午、春正月二日戊午、覲法皇於鳥羽

宮、七日癸亥、行幸鳥羽宮避方忌、十日丙寅、還宮、十九日乙亥、又幸、中右記、長秋記、二十六日壬午、慶等身五大尊像於清涼殿南榮、二月丙戌朔、行幸鳥羽宮避方忌、二日丁亥、觀舞樂、是夜還宮、中右記、十五日庚子、行幸鳥羽宮避方忌、十六日辛丑、還宮、十九日甲辰、使六十僧讀大般若經於清涼殿、中右記、長秋記、二十六日辛亥、行幸法勝寺避方忌、○長秋記係二十五日、三月七日壬戌、行幸鳥羽宮避方忌、中右記、十八日

癸酉、朝鳥羽宮、賀法皇五十筭、設宴舞樂、（中右記、長秋記、今鏡、一代要記、）二十日乙亥、御船宴樂、是日還宮、（中右記）夏五月二日丙辰、行幸鳥羽宮、（長秋記）閏月二日丙戌、令宮中男女善和歌者作書判其優劣、謂之艷書合、（長秋記、今鏡、）十四日戊戌、行幸鳥羽宮觀競馬、（長秋記○百錬鈔係十五日）二十五日己酉、觀競馬騎射于賀陽院、（長秋記、百錬鈔、）六月甲寅朔、觀競馬、（長秋記）秋七月十六日己亥、豐受大神宮火、（百錬鈔作伊勢離宮院、今併考大中臣系圖訂之、）十八

日辛丑、遣大納言源俊明於伊勢、奉幣大神宮、（二所大神宮例文）二十一日甲辰、慶尊勝寺、（百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、）車駕臨幸、詔曰、洛陽城東法勝寺西、占吉土而建伽藍、撰良辰而展齋筵、雲構甫就、忽促翠華之幸臨、風化徧覃、宜宥黃砂之刑法、其大赦天下、常赦所不免者、咸赦除、但觸伊勢大神宮并筥崎宮詐之輩、不在赦限、而所司懈緩、若致稽留、縱令施春澤之仁惠、猶恐困秋霜之嚴科、抑有司不得施行、宜

録舍赦之徒、且從肆眚之例、（朝野羣載）八月十六日戊辰、修三萬六千神祭于大極殿、（長秋記）十八日庚午、小野皇太后崩、（百錬鈔、一代要記、帝王編年記、○諸書闕葬）九月二十五日丁未、天皇遷自高陽院御內裏、（長秋記）冬十月二十八日己卯、流前對馬守源義親于隱岐、（百錬鈔○古事談係明年）十一月二十五日丙午、右大臣藤原忠實罷左近衞大將、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）十二月二十九日己卯、風壞日華門、（長秋記）

五年癸未、春正月二日壬午、覲法皇于鳥羽宮、（公卿補任、外記日記、）是夜仁和寺火、二十一日大風、日華門傾頽、三月十五日甲午、朝法皇于高陽院、（外記日記）二十六日乙巳、興福寺僧徒奉春日神木入京、訴罷講師信永湛秀、（百錬鈔、一代要記、外記日記、）夏四月十六日甲子、遣權大納言藤原家忠於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（伊勢公卿勅使例、外記日記、）二十二日庚午、地大震、二十四日壬申、又震、五月己卯朔、又震、（百錬鈔、外記日記、）六月三

日庚戌、非常赦、(外記日記)七日甲寅、神祇官請修造南海道諸國神社、許之、(朝野群載)九日丙辰、以皇子宗仁爲親王、(大府記、百錬鈔、一代要記、歴代皇紀、外記日記、)秋八月十三日庚申、神祇權大副大中臣輔弘坐行火、豐受大神宮流于佐渡、(大中臣系圖、外記日記、)禰宜荒木田延綱坐行火神館流于伊豆、(禰宜補任、百錬鈔、○外記日記延綱作宣綱)十七日甲子、立皇子宗仁親王爲皇太子、(外記日記、今鏡、立太子考、玉海治承二年、)以右大臣藤原忠實爲傅、(公卿補任、外記日記、)丙子晦、祈晴

丹生貴布禰、(中右記、大治二年)九月六日壬午、遣參議源基綱於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、告流輔弘、(伊勢公卿敕使例、外記日記、)八日甲申、祈晴丹生貴布禰、十三日己丑、卜霖、十八日甲午、又祈晴丹生貴布禰、(中右記、大治二年、外記日記、)冬十月三日己酉、慶吉塔、(百錬鈔)十一月五日庚辰、謁石清水宮、(鳩嶺年代記、紀氏系圖、外記日記、)七日壬午、以霖奉幣伊勢平野稻荷祇園北野、(中右記、大治二年、外記日記、)二十五日庚子、慶高野山大塔、(百錬鈔、外記日記、)十

二月二十一日丙寅、內大臣兼右近衛大將源雅實轉左近衛大將、權大納言藤原家忠兼右近衛大將、(公卿補任、一代要記、歴代皇紀、外記日記、)長治元年甲申、春二月十日甲寅、改元、(公卿補任、)(愚管鈔、百錬鈔、)大赦、(一代要記、)三月二十四日丁酉、行幸尊勝寺修灌頂、車駕臨之、尊勝寺灌頂始于此、(百錬鈔、仁和寺御傳、)秋七月二十日辛卯、以有神託遣使齋宮、(百錬鈔、)八月壬寅朔、修宸筆法華八講於弘徽殿、薦皇太后冥福、(百錬鈔、續本朝文粹、)冬十

二月五日甲辰、天皇自內裏遷御堀河院、(百錬鈔、行類鈔、)十六日乙卯、遣權中納言源國信於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、(伊勢公卿敕使例)二年乙酉、春正月庚午朔、延暦寺僧徒數千奉祇園神輿詣闕、訴園城寺僧證觀、二日辛未、敕許僧徒所請、僧徒奉神輿而還、(永昌記、百錬鈔、)(一代要記、)五日甲戌、朝法皇于大炊殿、皇太子從焉、(中右記、永昌記、古今著聞集、)三月五日壬寅、宴羣臣於清涼殿詠和歌、(百錬鈔、中殿御會部類記、)二十四日辛酉、

遣使奉幣鹿島香取社、（朝野群載）夏六月八日癸酉、自堀河院還内裏、十四日己卯、御靈會檢非違使中原範政兵士與祇園神人鬪、神人詣闕訴之、（百錬鈔）秋八月十三日丁丑、遣内大臣源雅實奉宸筆宣命於大神宮、（伊勢公卿敕使例）二十九日癸巳、先是太宰權帥藤原季仲與石清水別當光清射竈門神輿、殺日吉神人、是日延暦寺僧徒日吉神人詣陽明門訴之、九月十六日庚戌、二條院崩、（百錬鈔○女院小傳、帝王編年記係十七日、諸書葬闕、）冬十月甲午晦、日吉祇園神人延暦寺僧徒奉神輿又詣陽明門、請速斷季仲範政光清等罪、（百錬鈔、一代要記○帝王編年記曰、以三井寺證觀事、神輿入洛、）石清水神人詣待賢門、請宥光清、（百錬鈔）十一月乙未朔、奪權中納言兼太宰權帥藤原季仲官、（公卿補任）罷光清職、諭僧徒還山、三日丁酉、復光清職、（愚管鈔、百錬鈔）奪檢非違使中原範政官、（百錬鈔）十二月二十五日戊子、以右大臣藤原忠實爲關白、二十八日辛卯、流藤原

季仲于周防、（公卿補任、一代要記、○百錬鈔作二十九日）

嘉承元年丙戌、春正月四日丁酉、彗星見西南、（百錬鈔、中右記長承元年、山槐記治承二年、）二月十七日庚辰、改流藤原季仲於常陸、奪其子刑部少輔懷季少納言實明官、二十八日辛卯、遣參議藤原宗忠於後田邑山陵、謝犯陵土、（百錬鈔）三月十一日癸卯、關白忠實罷皇太子傅、以内大臣源雅實爲皇太子傅、（公卿補任）夏四月九日庚午、改元、赦、（永昌記、公卿補任、一代要記、山槐記治承二年、）十二日癸酉、修四角四界祭禳疫、（永昌記）是日賀茂別雷社火、廢朝三日、（永昌記、山槐記治承二年、一代要記、百錬鈔、）二十三日甲戌、奉幣賀茂上下社、秋七月庚寅朔、日有蝕之、（永昌記）五日甲午、修孔雀經法於東寺祈雨、（永昌記、祈雨日記、東寺長者補任、）十九日戊申、卜石清水宮鼠齧帳、蛇見、賀茂社樹僵、梅宮盜竊神衣帳、感神院鳴動及炎旱于軒廊、二十三日壬子、奉幣伊勢已下七社及丹生貴布禰、二十七日丙辰、法皇謁石清水宮、（永昌記）九月十

九日丁未，不豫。冬十月三日辛酉，奉幣伊勢已下十社。六日甲子，原輕囚。十一月三日辛卯，遣使宇佐，謝竈門神。四日壬辰，天皇疾瘳。中右記。十二月二十五日壬午，徙御堀河院。中右記、永昌記。丁亥晦，免輕囚。是歲，停仁王會、季御讀經。中右記。天下疾疫。中右記、永昌記。

二年丁亥春正月三日庚寅，朝法皇于內大臣源雅實土御門第。十日丁酉，策試。中右記。二月十一日戊辰，地震，遣內大臣源雅實於伊

勢，奉宸筆宣命及神寶神馬於大神宮。中右記、伊勢公卿勅使例。二十六日癸未，省試。中右記。三月五日辛卯，朝法皇於鳥羽宮。中右記、百錬鈔。六日壬辰，宴樂詠和歌。八日甲午，御船歌舞飲宴，是日還堀河院。十一日丁酉，卜鴨御祖社狐鳴竈門社震動、高良社蛇見于軒廊。是春，癘疫流行。比年京師訛言，神來借舍宅，人多遷居，至是未止。中右記。夏四月七日癸亥，地大震。中右記、永昌記。十日丙寅，又震。永昌記。二十二日戊寅，以天下患咳，讀經石清水、賀茂以下十社及七大寺、延暦寺、園城寺。三日，諸國諸寺一日。罷相撲使。二十八日甲申，卜賀茂御祖社狐鳴于軒廊。是日，免輕囚。五月十一日丙申，以疾疫奉幣二十二社。十九日甲辰，使一千僧讀經延暦寺中堂。中右記。二十三日戊申，頃聞都下庶人飛礫相擊於街，至是使檢非違使禁之。二十六日辛亥，使一千僧讀經東大寺。二十九日甲寅，修百座仁王會於紫宸殿。六月二十

一日丙子，雷震十餘所，京極殿佛堂災。中右記、百錬鈔。堀河院大木折，感神院鳥居壞。百錬鈔。二十二日丁丑，感神院樹無故而折。二十五日庚辰，卜感神院災異于軒廊。中右記。秋七月十日甲午，不豫。一代要記、歷代皇紀。修孔雀經法於宮中七日。仁和寺御傳、孔雀經御修法記。十二日丙申，散位賴貞姓闕坐射香椎神輿殺神人，流于佐渡。百錬鈔。十九日癸卯，天皇崩于堀河院，年二十九。百錬鈔、一代要記、歷代皇紀。火葬香隆寺，稱堀河院。一代要記、歷代皇紀、帝王

編年記、皇代紀、皇年代略記、永久元年奉安御骨于仁和寺圓融院、長秋記○皇代紀作醍醐寺置國忌齋於尊勝寺、仁和寺諸記抄、中右記永久二年、天皇臨御日久、而天下之事皆決上皇、不復攬乾綱、今鏡然留心政事、諸司奏案、夜必覆視、有可疑者御批、再令商議、有公卿當追儺稱疾而參小朝拜者、乃勒使歸家曰、彼何病而愈之速也、上皇聞之以爲過察矣、續古事談嘗謂左右曰、普天之下皆王民也、遠民何疎、近民何親、一人之耳不得周

聞四海之事、是大患也、卿等有聞告而無隱、一宮女奏曰、有所衆其貧寠將遁世、天皇爲愍然、乃敕僧良眞修臨時禱曰、其修法及日時、他日命之、豫賜兵衞尉一人、師宜告有司而任之、當時爲兵衞尉者出功錢五萬匹、良眞旣任其人、收功錢入請修法日時、天皇曰、聞所衆其貧不能立、朕不忍之、王者可私人以財、不可以官、宜以師意私給功錢於某如其祈禱、自有長日之修、良眞感泣曰、何大法秘法過此功德、況良眞之微力、何及百分之一、遂以功錢給之、源平盛衰記、長門本平家物語、一日命隨身清房姓闕走馬、清房誤墜死、天皇憫之、賜食邑於其父、源平盛衰記天皇頗好文學、能和歌、今鏡、神皇正統記、當是時源俊房、藤原通俊、大江匡房、藤原季仲等在朝、天皇以爲得人不愧古也、今鏡尤精音律、善笙笛、後以笙損氣、惟吹笛、續教訓抄當時無及其妙者、源俊房曰、式部卿宮薨後五十餘年、再聞上霧、續教訓抄、體源抄、嘗受神樂

曲於伶人助忠、續古事談後世神樂之說、自天皇傳云、神皇正統記、續古事談、

大日本史卷之四十五終

大日本史卷之四十六

本紀第四十六

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保　重校

鳥羽天皇

鳥羽天皇諱宗仁、堀河帝長子也、母贈皇太后藤原氏、康和五年正月十六日丙申、生于左少辨藤原顯隆五條第、（本朝世紀、外記日記、皇年代略記、百鍊鈔、）未幾失恃、白河法皇迎入宮、（本朝世紀、外記日記、）六月爲親王、八月立爲皇太子、（百鍊鈔、一代要記、）長治二年十月、著袴於内大臣源雅實土御門第、（歷代皇紀、皇年代略記、土御門第據玉葉、）嘉承二年七月十九日癸卯、堀河帝崩、法皇詔皇太子嗣位、（中右記、皇年代略記、）以關白右大臣忠實攝政、公卿奉劍璽於大炊殿、（中右記、）是日皇太子踐祚、（中右記、百鍊鈔、皇年代略記、）左大臣源俊房、内大臣兼左近衛大將源雅實、權大納言兼右近衛大將藤原家忠、並

如故、（公卿補任、一代要記、）二十四日戊申、葬堀河天皇、（一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、）冬十月十八日庚午、卜石清水宮怪異、北野社樹僵于軒廊、二十一日癸酉、敕課諸國修八省、法皇使僧修千日講、是月炎旱井涸、閏月十六日戊戌、卜感神院釜鳴于軒廊、十一月壬子朔、日南至、當食、陰雲不見、三日甲寅、公卿表賀、十七日戊辰、罷豐明節會、（中右記、）二十九日庚辰、赦詔曰、珠緯連輝、明王受延祚之祥、銅管正律、哲后顯履長之慶、是以圓丘迎日、賀南至於一隅、靈臺觀雲、懷子來於萬國、誠是上協天符、下從人望者也、朕以小量、嗣承大統、齡在幼年、邈謝徇齊之德、政委姬旦、更思成周之風、延者公卿奏言、謹按曆日、十一月壬子朔旦冬至、經列聖而難值、鍾治世而偶來、又或替翌日之舊儀、或議陰曀之新瑞、童蒙之心、少未有識、庸昧之質、獨何當仁、豈非祖宗靈貺、臣佐保持之所致乎、抑孝行存誼、禮制難踰、縱

停飫宴於蒸蒸之誠、何忘福應於蒼蒼之眖、須與兆庶享斯休徵、可赦天下、但常赦所不免、及欠負官物之類、不在赦限、叙爵賜物、一準恒典、庶感中黃之達萌陽、以答上玄之降嘉祉、（續本朝文粹）十二月壬午朔、天皇卽位于大極殿、時年五歲、（中右記、一代要記、歷代皇紀、）禮畢還大炊殿、是日尊準母令子內親王曰皇后、九日庚寅、徙御六條殿、（中右記）十三日甲午、追尊所生女御藤原氏曰皇太后、（中右記、百錬鈔、）十七日戊戌、

卜大神宮怪異於軒廊、二十八日己酉、又卜日吉社怪異、先是隱岐流人源義親逃至出雲、殺目代掠官物、（中右記）至是敕因幡守平正盛討之、（中右記、東鑑、治承四年、）

天仁元年戊子春正月、以諒闇停諸節會、（中右記）源義親伏誅、二十九日庚辰、但馬守平正盛、持義親首入京師、（中右記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、）二月十一日壬辰、卜賀茂下社狐鳴於軒廊、十七日戊戌、又卜太宰府怪、及日吉八王子神殿鳴動、犬屢登神殿、（中右記）二十二日癸卯、遣使山階柏原嵯峨深草後田邑後山階村上香隆寺宇治諸陵及後宇治墓、告卽位、（中右記、朝野群載、）三月二日壬子、奉幣日吉社、十六日丙寅、卜賀茂社樹枝墜川合住吉二社狐鳴於軒廊、二十三日癸酉、延暦寺園城寺僧徒數千、訴以東寺僧爲尊勝寺灌頂阿闍梨、○（一代要記、歷代皇紀、作賜尊勝寺灌頂於仁和寺、）二十四日甲戌、震六條堀河一奴、震死、二十九日己卯、發大奉

幣使、庚辰晦、奉幣二十二社、夏四月辛巳朔、延暦寺僧徒數千擐甲、奉日吉神輿入京、敕遣檢非違使及源平兵士數萬禦之、二日壬午、法皇遣使諭之、僧徒奉神輿還山、○（百錬鈔、一代要記、係三月晦、）十一日辛卯、遣使宇佐、二十四日甲辰、卜伊勢豐受宮鹿死、及賀茂社感神院高良社怪異於軒廊、二十八日戊申、奉幣伊勢石淸水賀茂住吉日吉祇園、是月京師多盜、五月庚戌朔、日有食之、七日丙辰、免輕囚、六

月庚辰朔、有白雲二道亘天、十二日辛卯、卜賀茂社震動、及住吉感神院怪異於軒廊、十四日癸巳、雨雹震延曆寺、十七日丙申、奉幣賀茂住吉祇園、二十三日壬寅、慶金字法華經仁王經於賀茂社、中右記秋七月七日乙卯、廢醍醐皇后藤原氏國忌、置贈皇太后國忌、中右記、百錬鈔、○年中行事係六月十八日丙寅、修不動法於仁壽殿七日、中右記○仁和寺御傳作二七日八月二日己卯、祈晴丹生貴布禰、中右記、朝野羣載三日庚辰、改元、中右記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀十五日壬辰、卜盾列池後陵池上陵鳴於軒廊、中右記、歷代皇紀免輕囚百餘人、二十日丁酉、遣使盾列二陵卜諸所鳴動於軒廊、中右記二十一日戊戌、自小六條殿從御大內、行類鈔九月十日丁巳、興福寺僧徒登多武峯燒堂塔民舍、○百錬鈔作十二日、談峯記十一日二十三日庚午、多武峯鳴動、先是上野言、自七月至是月、麻間峯焚沙礫灰燼埋沒田園、是日卜之軒廊、冬十月四日庚辰、天皇始拜于

石灰壇、六日壬午、以災異屢見、非常赦、但伊勢石清水所訴者不在赦限、中右記二十一日丁酉、御禊、中右記、一代要記二十八日甲辰、卜定恂子內親王爲齋宮、中右記、歷代皇紀、皇胤紹運錄十一月四日庚戌、詔減服御常膳、中右記八日甲寅、卜定官子內親王爲齋院、二十一日丁卯、大嘗、中右記、一代要記、歷代皇紀二十八日甲戌、自大內還御大炊殿、十二月十九日甲午、覲法皇于六條殿、二十日乙未、還宮、中右記

二年己丑春正月、以贈皇太后忌月、廢踏歌節會、百錬鈔二月二十五日庚子、修法華八講於吉祥院、著爲恒典、年中行事公事根源是月、左衞門尉源義忠爲其從者所殺、廷議疑美濃守源義綱男義明及瀧口藤原季方所爲、敕檢非違使源重時誅義明等、百錬鈔、帝王編年記、尊卑分脈○歷代皇紀、一代要記、並係元年、義綱亡據近江甲賀山、遣源爲義討之、義綱降、流之佐渡、百錬鈔、尊卑分脈三月八日壬子、以天變地妖、遣權中納言藤原宗通

於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例夏四月二十七日辛丑、覲法皇、體源鈔秋七月甲辰朔、自大炊殿遷御内裏、百錬鈔九月二十一日壬戌、還大炊殿、百錬鈔、園太曆文和二年、天永元年庚寅春正月、豐受大神宮心柱倒、百錬鈔二月三日壬申、遣權中納言藤原宗通於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例二十二日辛卯、覲法皇于六條殿、體源鈔○公卿補任爲二十五日三月四日壬寅、雨雪尺餘、寒如冬、○百錬鈔

爲五日十九日丁巳、省試、永昌記夏五月十三日辛亥、彗星見東方、百錬鈔○中右記長承元年、作十二日、六月四日辛未、修孔雀經法於鳥羽宮、禳彗星、仁和寺御傳、東寺長者補任、丁酉晦、修七佛藥師法於禁内、後愚昧記元德元年秋七月十三日庚戌、改元、公卿補任、百錬鈔、帝王編年記、東寺長者補任、○一代要記、歷代皇紀、爲十五日、愚管鈔十六日、丁卯晦、以僧靜實埋蠱藤杜社、咒詛朝廷、處流、冬十一月乙丑朔、伊勢内宮心柱倒、百錬鈔十二月七日辛丑、遣大納言源俊明於伊勢、奉

宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例十七日辛亥、最勝寺成、拾芥鈔是歲、夏秋之交、洪水飢饉、山槐記治承二年二年辛卯春正月十九日、壬午、法皇使一千僧讀經法勝寺、○本書長承元年正月二十一日條云、此每年常例也、而不載其肇於何年、考年中行事、正月載法勝寺千僧御讀經、亦無原始、蓋白河帝在位之日、既爲恒式乎、檢諸舊記、此後至崇德近衛朝、春聞必有此事、其爲恒例可知、故此後不書、二十一日甲申、卜石清水宮有死人於軒廊、中右記二月甲午朔、覲法皇于六條殿、中右記、長

秋記五日戊戌、白雲二道亘天、中右記十一日甲辰、行幸春日社、中右記、長秋記、一代要記、十二日乙巳、還御鳥羽宮、十四日丁未、還宮、中右記二十一日甲寅、怪雲亘東西、二十三日丙辰、以大炊殿有怪、遷御内裏、壬戌晦、按本書作辛酉、今推干支訂之、法皇謁石清水宮、三月十三日乙亥、白雲二道亘天、中右記十五日丁丑、賭射、中右記、長秋記、卜齋院有死蛇於軒廊、二十七日己丑、地震、夏四月九日辛丑、大風雨、伊勢外宮門垣、及賀茂齋院

館舍倒、春日社樹七十餘株僵、十二日甲辰、
卜之軒廊、二十七日己未、從御內大臣源雅
實土御門第、五月壬戌朔、免輕囚百人、九日
庚午、奉幣二十二社、二十五日丙戌、再卜伊
勢怪異、及齋院有死蛇於軒廊、六月五日丙
申、奉幣大神宮、中右記、秋七月十六日丁丑、雩
于神泉苑、永昌記、二十七日戊子、祈雨丹生貴
布禰、永昌記、中右記、八月十八日戊申、祈晴丹生貴
布禰、二十八日戊午、修百座仁王會於紫宸

殿、九月三日癸亥、興福寺僧與東大寺僧鬭、
四日甲子、興福寺僧燒東大寺民戶、十五日
乙亥、修放生會、以石清水神人與賀茂神人
鬭延及于此、中右記、二十日庚辰、自土御門第
從御賀陽院、中右記、園太曆、文和二年、二十三日癸未、非
常赦、但伊勢石清水所訴者、不在赦限、冬十
月六日乙未、卜賀茂社、出雲杵築社、太宰府
竈門社怪異於軒廊、十一月十九日戊寅、下
野守源明國坐殺人、流于佐渡、中右記、十二月

十四日壬寅、始讀書、中右記、長秋記、皇年代略記、戊午晦、
免輕囚六十餘人、中右記、
三年壬辰、春二月十一日戊戌、覲法皇于六
條殿、十二日己亥、還宮、中右記、十七日甲辰、慶
石清水塔、中右記、百鍊鈔、三月十六日癸酉、詣六條
殿、賀法皇壽六十、中右記、百鍊鈔、一代要記、十八日乙亥、
還宮、中右記、夏五月十三日己巳、賀陽院火、百鍊
鈔、吉部祕訓鈔、從御六條殿、百鍊鈔、六月十九日甲辰、
造大炊殿、園太曆、貞和二年、冬十月十九日癸卯、大

炊殿成、從御焉、中右記、百鍊鈔、園太曆、貞和二年、是月、伊豆
海上有火光、鳴如雷聲、聞京師、踰月不止、十
一月二日乙卯、卜豐受大神宮怪異於軒廊、
七日庚申、卜川合社火、八日辛酉、奉幣賀茂
社、十二日乙丑、卜川合社有光于軒廊、中右記、
十八日辛未、攝政忠實罷右大臣、中右記、公卿補任、
二十七日庚辰、修百座仁王會於紫宸殿、卜
伊豆海火於軒廊、中右記、十二月十四日丁酉、
以忠實爲太政大臣、攝政如故、中右記、公卿補任、一代要

記、十九日壬寅、車駕從法皇幸鳥羽、慶多寶塔、（[illegible]百錬鈔、[illegible]羽堂）二十五日戊申、免輕囚、二十七日庚戌、自大炊殿徙御內裏、（中右記）

永久元年癸巳、春正月甲寅朔、天皇加元服於紫宸殿、（長秋記、紫宸殿記、百錬鈔、據長秋記、一代要記）八日辛酉、覲法皇於六條殿、（長秋記、體源鈔）還御大炊殿、（長秋記）二月、痘瘡大行、（歷代皇紀、百錬鈔作赤斑瘡）○三月四日乙卯、以武藏人橫山隆兼殺愛甲某、敕常陸相模上野下總上總國司、討其黨二十餘人、（長秋記、按本書隆兼書橫山黨、不載其名、愛甲某書內記太郎、今據小野系圖）二十二

日癸酉、移藏堀河帝御骨於仁和寺圓融院、（仁和寺御傳）十六日丁酉、以怪異疾疫、遣權大納言藤原宗通於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（長秋記、伊勢公卿敕使例）二十日辛丑、興福寺僧徒五千、奉春日神木、抵勸學院、訴佛匠圓勢補清水寺別當、二十二日癸卯、敕以僧永緣爲別當、諭僧徒還寺、（長秋記、外記日記）夏四月辛亥朔、延曆寺僧徒二千餘、毀清水寺堂宇、奉祇園北野神輿、詣大炊殿、訴興福寺僧陵辱祇園神人、（參取中右記、長秋記、百錬鈔、歷代皇紀）使檢非違使源光國、平正盛、左衛門尉源爲義、率兵禦之、法皇諭僧徒還山、（長秋記）自是二寺仇視、將構兵相攻、京師騷擾、十二日壬戌、敕二寺和解之、僧徒不奉詔、（中右記）十四日甲子、攝政忠實罷太政大臣、（公卿補任、一代要記）十五日乙丑、奉幣伊勢以下七社、（中右記）二十五日乙亥、奉幣春日大原野吉田、二

十七日丁丑、奉幣石清水、並禱弭僧徒鬬亂、（中右記、外記日記）己卯晦、興福寺僧數千將攻延曆寺、遣檢非違使平正盛、平忠盛、源重時於宇治邀之、戰于栗前山、破走之、遣檢非違使源光國、左衛門尉平盛重於西坂下、邀延曆寺僧徒、（中右記、栗前山據百錬鈔、歷代皇紀）僧徒既入京、屯於祇園、（中右記、百錬鈔）是日卜日吉社怪異於軒廊、（中右記）五月庚辰朔、僧徒還山、（一代要記、歷代皇紀）六月十日己未、春日山鳴、社有光、十八日丁卯、奉幣春

日社、（中右記）秋七月十三日辛卯、改元、（長秋記、愚管鈔、百錬鈔、公卿補任、一代要記、）赦天下、八月四日壬子、大風雨、伊勢内宮殿舍門垣倒、月讀宮伊雜宮壞、（長秋記）十八日丙寅、修孔雀經法於内裏、（仁和寺御傳）二十日戊辰、大風、平野社樹僵、九月七日乙酉、以不豫大赦、法皇遣使石清水賀茂、獻神寶於大神宮、修法禱之、冬十月五日癸丑、疾瘳、臨弓場始、十一日己未、行幸松尾社、十七日乙丑、行幸北野社、（長秋記）十二月二十二

日己巳、僧仁寬坐謀不軌、流于伊豆、（百錬鈔、源平盛衰記、一代要記、）二十六日癸酉、忠實改攝政爲關白、（一代要記、百錬鈔、公卿補任、）

二年甲午、春正月戊寅朔、天皇初行四方拜、以物忌停小朝拜、五日壬午、始臨敍位、（中右記）二十七日甲辰、遣權中納言藤原宗忠于伊勢、奉宸筆宣命神寶於大神宮、（中右記、伊勢公卿敕使例、）二月三日己酉、大風、春日社樹三百餘株僵、十日丙辰、覲法皇于六條殿、置酒燕樂、帝親吹笛、十一日丁巳、還宮、十四日庚申、禁京師民間服褶衣及博弈、（中右記）二十一日丁卯、始修法於蓮華藏院、著爲永式、（年中行事）二十七日癸酉、以盜賊公行、修仁王講于左右獄、（中右記）夏五月八日壬午、修孔雀經法於土御門内裏、（仁和寺御傳、孔雀經御修法記、）十六日庚寅、免輕囚、十七日辛卯、重敕檢非違使、逮捕服褶衣者、及盜賊博徒、六月八日辛亥、奉幣祈晴、十三日丙辰、卜賀茂社有死蛇於軒廊、十九日壬戌、地

震、秋七月六日己卯、院宣延曆寺、禁僧徒帶兵仗、八月癸卯朔、奉幣稻荷社、（中右記）是日伊勢大風、豐受宮千木折、門垣倒、（中右記、百錬鈔、）二日甲辰、内宮荒祭宮千木折、（中右記）三日乙巳、大炊殿火、（中右記、百錬鈔、帝王編年記、寺社雜事記、）天皇避之從四位上藤原長實萬里小路第、（中右記、百錬鈔、）八日庚戌、遷御六條殿、十四日丙辰、卜伊勢風災於軒廊、二十二日甲子、奉幣八社、（中右記）冬十月壬寅朔、中宮崩、（中右記、百錬鈔、一代要記、○諸書華闕）十一月

五日丙子、遣權中納言源能俊於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、中右記、伊勢公卿敕使例十四日乙酉、謁石清水宮、二十三日甲午、行幸賀茂社、中右記二十九日庚子、車駕從法皇幸白河慶蓮華藏院、中右記、百鍊鈔、吉記承安三年、蓮華藏院據百鍊鈔、非常赦、十二月八日己酉、始臨內侍所神樂、二十九日庚午、卜伊勢賀茂怪異於軒廊、是歲京師盜起、公行劫掠、南海道海賊剽竊貢調、都鄙騷擾、中右記

三年乙未、春二月十一日辛亥、覲法皇於白河殿、續教訓鈔夏四月二十八日丁卯、以內大臣源雅實爲右大臣、公卿補任、一代要記、大納言藤原忠通爲內大臣、公卿補任○一代要記係十六日五月十四日癸未、鷹司洞院東大路地陷、百鍊鈔二十一日庚寅、卜豐受宮千木折於軒廊、中右記長承元年上卿故實、秋八月二十五日壬戌、自六條殿遷御土御門內裏、百鍊鈔冬十一月二十六日辛卯、大炊殿成、徙御焉、百鍊鈔、園太曆文和二年、

四年丙申、春二月十九日癸未、覲法皇、體源鈔三月十三日丁未、大學助源高行坐傷人、流於安藝、夏五月十六日己酉、廷議宋牒至、及阿蘇社火、六月二十日壬午、慶賀茂社多寶塔、賽宿禱、百鍊鈔秋七月十二日癸卯、下新制七條、朝野羣載八月十七日戊寅、大炊殿火、遷御土御門第、百鍊鈔○寺社雜事記爲十六日冬十月二十八日戊子、法皇幸熊野、百鍊鈔、熊野略記○中右記大治二年條、爲二十六日、諸書還宮日闕、

五年丁酉、春正月八日丁酉、法成寺東西塔南大門及證菩提院火、十三日壬寅、祇園少將井神殿火、百鍊鈔三月二日庚寅、造土御門殿、園太曆貞和二年七日乙未、覲法皇、體源鈔十五日癸卯、遣右大臣源雅實於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例夏四月二十日戊寅、遷御三條室町、園太曆文和二年五月五日壬辰、先是有僧詐稱源義親、依越後人平永基、是日敕永基捕送之、朝野羣載二十九日丙辰、觀鬪雞鬪

草、（百錬鈔）是月法皇幸熊野、（一代要記、還宮日闕）○秋八月二十九日甲申、謁石清水宮、（園太曆文和二年）九月丙戌朔、大風拔木發屋、十四日己亥、二條堀河皇后宮火、（百錬鈔）冬十月二十日丙子、法皇幸熊野、（中右記、大治二年○按百錬鈔曰、十一月六日、法皇於熊野山供養御願塔、蓋至十一月、猶在熊野、而還京月日、諸書無所考、）二十九日癸未、慶白河塔、（百錬鈔）十一月十日甲午、土御門殿成、徙御焉、（百錬鈔、園太曆貞和二年、）二十一日乙巳、省試、（朝野羣載）十二月十七日庚午、以藤原璋子為女

御、（女院小傳）元永元年戊戌、春正月二十三日丙午、修百座仁王會於紫宸殿、（中右記）二十六日己酉、立女御藤原璋子為中宮、（中右記、一代要記、）二月九日辛酉、大和社火、（中右記、百錬鈔、）十日壬戌、覲法皇于白河殿、二十一日癸酉、使一千僧讀經法勝寺、三月十九日辛丑、以三合厄、（按本書三合厄作四年、今據伊勢公卿敕使例、）非常赦、但伊勢石清水所訴者不在赦限、二十七日己酉、策試、二十九日辛亥、

省試、（中右記）是月、宋主趙佶付海商送書、（歷代皇紀、帝王編年記、付海商據善隣國寶記、）夏四月三日乙卯、改元、（中右記、百錬鈔、公卿補任、歷代皇紀、）赦、（中右記）九日辛酉、以三合星變疾疫、遣中納言源顯通於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（伊勢公卿敕使例）十二日甲子、祈晴丹生貴布禰、二十八日庚辰、卜高良宮有蛇、鏡宮寺門鏡見、杵築社鳴動於軒廊、五月二十四日乙巳、卜大和社火于軒廊、（中右記）六月霖雨、河水泛溢、人多溺死、（百錬鈔）秋八月九日己

未、京師飢、法皇賑給之、（中右記、百錬鈔、）十二日壬戌、卜豐受宮忌屋殿蟲生于軒廊、二十三日癸酉、使一千僧讀經法勝寺、二十七日丁丑、以蟲怪奉幣大神宮、九月二十二日辛丑、奉金銀幣於大神宮、閏月六日乙卯、以法皇將幸熊野、免輕囚九十餘人、七日丙辰、法皇幸熊野、十九日戊申、卜賀茂社狐鳴于軒廊、二十三日壬申、七條火、延燒十餘町、冬十月五日癸未、法皇至自熊野、（中右記）十二月十七日甲

午、慶最勝寺、車駕臨幸、百錬鈔、帝王編年記、元亨釋書、
二年己亥、春二月二日戊寅、右大臣源雅實
罷左近衛大將、○公卿補任爲正月二十八日六日壬午、内
大臣藤原忠通兼左近衛大將、中右記、公卿補任、一代要記、
十一日丁亥、觀法皇于白河殿、三月八日
甲寅、卜伊勢内外宮有穢于軒廊、是春天下
飢饉、民多死亡、京師盜起、殺人行火、夏四月
九日甲申、祈雨丹生貴布禰、中右記、十四日己
丑、仁和寺火、中右記、長秋記、一代要記、○百錬鈔爲十三日五月六
日辛亥、使備前守平正盛索捕盜賊、九日甲
寅、卜豐受宮御臼殿忌屋殿生異蟲于軒廊、
十四日己未、使一千僧讀經延曆寺禳疾疫、
二十日乙丑、卜豐受宮井臭于軒廊、二十七
日壬申、疏神泉苑池祈雨、中右記、六月十九日
甲午、以皇子顯仁爲親王、中右記、長秋記、百錬鈔、一代要記、
是夏旱、中右記、長秋記、秋七月十日甲寅、澍雨、十八
日壬戌、卜豐受宮蟲怪、平野社鳴于軒廊、八
月霖、中右記、長秋記、二十七

日辛丑、祈晴丹生貴布禰、九月二十七日庚
午、法皇幸熊野、冬十月十五日戊子、法皇至
自熊野、中右記、十一月癸卯朔、賀茂社火、廢朝
三日、中右記、長秋記、百錬鈔、帝王編年記、二日甲辰、夜大風雨、
北方有光、中右記、○本書作庚辰、今推于支訂之、十六日戊午、
奉幣賀茂、中右記、長秋記、二十八日庚午、輔仁親王
薨、中右記、長秋記、歷代皇紀、
保安元年庚子、春二月二日癸酉、覲法皇於
三條烏丸亭、二十日辛卯、謁石清水宮、二十
六日丁酉、行幸賀茂社、三月十五日乙卯、使
一千僧讀經法勝寺、中右記、夏四月十日庚辰、
改元、中右記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、十九日己丑、堀河院
火、中右記、百錬鈔、二十一日辛卯、遣大納言藤原家
忠于伊勢、奉宸筆宣命神寶於大神宮、中右記、伊
勢公卿勅使例、是月、園城寺與延曆寺爭大津地界、
毀日吉鳥居、中右記、百錬鈔、法皇使公卿議其曲直、
諭僧徒建鳥居、六月八日丁丑、奉幣石清水
賀茂平野稻荷、十六日乙酉、奉幣大神宮、二

十八日丁酉、非常赦、秋七月十七日乙卯、修孔雀經法於神泉苑祈雨、（中右記）二十一日己未、左近衛少將藤原實衡毆兵部大輔藤原資信於殿上、除實衡籍、譴責資信、八月二十三日辛卯、興福寺僧徒舂日神人奉神木、抵勸學院、訴和泉守雅隆、（○姓闕）陵辱神人、（中右記、百錬鈔、參取一代要記、○要記係四月）法皇敕罷雅隆、諭僧徒還寺、戊戌晦、卜宇佐宮怪異於軒廊、冬十月戊辰朔、日有食之、使一千僧讀經延曆寺、三日

庚午、法皇幸熊野、二十二日己丑、至自熊野、十一月七日甲辰、卜大神宮有死穢於軒廊、（中右記）十二日己酉、法皇罷關白忠實內覽文書、（中右記、公卿補任、○愚管鈔、百錬鈔、並係十三日、）十四日辛亥、有鹿入北野社、十二月丁卯朔、石清水宮鳴動有光、二日戊辰、卜北野怪於軒廊、十四日庚辰、奉幣北野、二十日丙戌、夜大風雨有光、是月木幡山陵鳴、（中右記）二年辛丑、春正月十七日癸丑、復關白忠實內覽文書、（公卿補任）十九日乙卯、左大臣源俊房罷、（一代要記）二十二日戊午、關白忠實罷、（公卿補任）敕內大臣藤原忠通內覽文書、（公卿補任、一代要記、百錬鈔、）二月二十九日甲午、覲法皇、（公卿補任、體源鈔、）三月五日庚子、以內大臣藤原忠通爲關白、（公卿補任、一代要記、百錬鈔、）十一日丙午、關白忠通罷左近衛大將、十二日丁未、大納言兼右近衛大將藤原家忠轉左近衛大將、權大納言源有仁兼右近衛大將、（公卿補任）二十六日己未、廷議報牒

于宋、夏五月二十七日庚申、延曆寺僧徒燒觀音院一乘寺、閏月三日丙寅、又燒園城寺堂宇蕩盡、（百錬鈔、○一代要記、帝王編年記、係二日、）秋八月二十九日辛酉、遣權中納言源能俊于伊勢、奉幣於大神宮、（二所大神宮例文）九月六日戊辰、廷議伊勢洪水漂豐受宮正殿下天平甍、（百錬鈔）冬十月二十八日己未、行幸春日社、（一代要記）十一月十二日癸酉、前左大臣源俊房薨、（公卿補任、一代要記、帝王編年記、）

三年壬寅、春二月十日己亥、覲法皇、（體源鈔）夏五月十四日辛未、白河善勝寺有蛇生足、秋七月二十二日戊寅、大學寮孔廟壞、（百鍊鈔）冬十二月六日辛卯、遣參議藤原實行於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（二所大神宮例文○伊勢公卿敕使例係二年）二十五日庚子、置灌頂于最勝寺、（百鍊鈔、一代要記、元亨釋書、）十七日壬寅、以右大臣源雅實爲太政大臣、關白內大臣忠通爲左大臣、大納言兼左近衛大將藤原家忠爲右大臣、權大納言兼右近衛大將源有仁爲內大臣、（永昌記、公卿補任、一代要記、）

四年己卯、春正月五日己未、覲法皇、（體源鈔）二十八日壬午、立顯仁親王爲皇太子、是日天皇禪位於皇太子、（百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、）二月上尊號曰太上天皇、（一代要記、歷代皇紀、）徙御三條烏丸、尋遷白河殿、六月、遷于二條東洞院新宮、（百鍊鈔）是後或御白河殿三條西殿、又御白河北殿、（中右記、百鍊鈔、）每遊幸、與法皇同車、（今鏡、神皇正統記、）舊例法皇車無隨身、而以同車故、儀衛如式、（今鏡）天治元年二月、從法皇幸白河、觀郊外雪、內大臣源有仁以下騎馬扈從、（百鍊鈔）上皇烏帽直衣、御馬前行、嵯峨上皇遷于嵯峨院、御馬而出、爾後始有此擧、（神皇正統記）閏月、從法皇幸法勝寺觀花、後宮嬪御悉乘飾車、攝政忠通太政大臣雅實以下公卿扈從前驅、後乘衣服綺靡、盡美競華、（今鏡、百鍊鈔、帝王編年記、）還過白河殿飲宴、命羣臣作和歌、盡歡而罷、（今鏡、百鍊鈔、古今著聞集、）十

月、幸高野山、（百鍊鈔、高野御幸記、）大治元年十一月、從法皇幸熊野、十二月、又與法皇同車觀雪、攝政以下從馬、（百鍊鈔）出歷西山舟岡、上皇衷深紅、被直衣、騎馬而前、（今鏡）二年二月、從法皇幸熊野、（中右記）十月、從法皇幸高野山、（百鍊鈔）四年七月、法皇崩、上皇居喪、哀容過節、（台記、天養元年）其後上皇專理萬機、一效法皇、（今鏡、保元物語、）天承元年二月、幸熊野、（兩院熊野御詣記）長承元年、創得長壽院、置觀音像一千軀、三月、臨幸慶之、賜導

師天台座主忠尋穀一千石、錢一千貫、沙金一十兩、施物無算、（源平盛衰記）保延二年三月、幸熊野、九月、慶金字五部大乘經於石清水、（百錬鈔）三年七月、致書崇德帝、辭尊號封戶隨身、（續本朝文粹○一代要記係元年十二月）六年十月、慶春日社五層塔、儀準御齋會、（百錬鈔）永治元年三月、薙髮、法名空覺、（今鏡、百錬鈔、一代要記、帝王編年記）修佛事五十日、多嚫僧徒、施食鳥獸、（今鏡）及崇德帝禪位、稱曰一院、崇德帝曰新院、（保元物語）康治元年五月、幸奈良、受戒於東大寺、又受戒於延暦寺、（台記、百錬鈔、○元亨釋書係二年）屢與新院御樓船、遊于宇治、或同車遊幸京外、天養元年三月、幸熊野、十月幸延暦寺、令一千僧讀經、久安二年九月、幸四天王寺、修舍利會、三年三月、幸熊野、九月、幸四天王寺、修萬燈會、四年二月、幸熊野、（台記）九月、幸四天王寺、念阿彌陀佛名一百萬遍、（台記、續教訓鈔）歲以為常、（續教訓鈔）六年三月、與美福門院幸熊野、（台記）仁平三年二月、幸熊野、慶金字

大藏經、（百錬鈔）久壽元年七月、徙御鳥羽新宮、前太政大臣忠實獻紙一千帖、布一千端、米一千斛、二年八月、不豫、（台記）保元元年七月二日辛丑、法皇崩于鳥羽安樂壽院、年五十四、是夜葬于安樂壽院塔、以擬山陵、（百錬鈔、一代要記、帝王編年記、皇代記、是夜據編年記、皇代記）置國忌、（仁和寺諸記鈔）稱鳥羽院、（帝王編年記○按保元物語曰、久壽二年冬、法皇幸熊野、拜本宮證誠殿、恍惚見神自帳中出手、反覆示之、法皇不悟、命巫降神、神憑之曰、帝壽不可過明年之秋、而後天下反覆、當如此手、及期果得病、遂不命醫療而崩、愚管鈔亦載此事、據台記、久壽二年八月不豫、冬間不載幸熊野、且事涉怪誕、故不取、）天皇嘗受帝範於菅原在良、又通天文、（台記）善歌催馬樂、精于音律、最善吹笛、（參取台記、禁秘鈔、今鏡、）其幸四天王寺、羣臣奏管絃、天皇親吹笛、謂侍臣曰、沙門吹笛、恐取嘲笑、因以障子蔽座、（台記、古今著聞集、）人感其音調、（台記）嘗定樂十曲、讚極樂土、每月奏之、名十樂講、（續教訓鈔）平生供佛施僧、其費不可勝計、涉覽古記、博通典故、（台記）嘗曰、任檢非違使別當者、當兼備重代才幹成敗容儀進退富有六

事、不則不得與職、（古事談）好修容儀、源有仁亦好修飾、一時化風、凡朝服嚴稜烏帽有額、皆始于此時、（神皇正統記）然戒臣庶奢侈、嘗御鳥羽南院修法會、見童子服貼金衣、謂攝政忠通曰、美服朕所不喜、忠通請下檢非違使罪之、天皇曰、釋之勿問、第遍告羣下、使知此意、好色多內嬖、又耽男寵、（台記）前後有三女院、美福門院最被幸、以所出體仁親王、爲崇德帝儲貳、逼使讓位、是爲近衛帝、及近衛帝升遐、崇

德上皇有復位之志、天皇與美福門院關白忠通謀、立後白河帝、以其子守仁親王爲皇太子、於是崇德上皇大失望、陵土未乾、遂致保元之亂、（參取今鏡、愚管鈔、保元物語）讓位之後、凡三十四年、決政院中二十八年、（保元物語、今鏡）故後世舉仙院典章、稱白河鳥羽二帝、（神皇正統記）

大日本史卷之四十六終

大日本史卷之四十七

本紀第四十七

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

崇德天皇

崇德天皇諱顯仁、鳥羽帝長子也、母待賢門院、（中右記、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）元永二年五月二十八日癸酉、生於三條烏丸亭、（長秋記、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、烏丸亭據中右記、○百鍊鈔、鳥羽紀、爲二十四日、今鏡十八日、）六月爲親王、（中右記、長秋記、百鍊鈔、一代要記、）保安四年正月、著袴、（歷代皇紀、體源鈔、皇年代略記、）二十八日壬午、立爲皇太子、（一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）即日受禪於土御門殿、（百鍊鈔、今鏡、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、）以關白左大臣忠通攝政、太政大臣雅實、右大臣兼左近衛大將藤原家忠、內大臣兼右近衛大將源有仁並如故、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）二月二日丙戌、尊鳥羽帝曰太上天皇、（一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）上

皇遷三條烏丸、十三日丁酉、上皇遷白河殿、（百鍊鈔、）十九日癸卯、天皇即位于大極殿、時年五歲、（崇德帝即位記、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、）夏六月九日庚寅、卜定守子女王爲齋宮、（帝王編年記、）十日辛卯、上皇遷二條東洞院新宮、是月、太宰府獻嘉禾、一莖三穗、（百鍊鈔、）秋七月三日甲寅、修孔雀經法于神泉苑祈雨、（東寺長者補任、）十八日己巳、延曆寺僧徒奉日吉神輿入京、（百鍊鈔、一代要記、源平盛衰記、）詔越前守平忠盛殺神人、（源平盛衰記、○一代要記、殺作捕、）遣兵邀之、僧徒棄神輿據祇園、忠盛及左衛門尉源爲義擊走之、（百鍊鈔、一代要記、源平盛衰記、）送神輿于赤山、（一代要記、）八月二十日庚子、卜定悰子內親王爲齋院、（帝王編年記、）九月二日壬子、法皇敕修神輿、還日吉、（一代要記、）改造祇園神殿、（百鍊鈔、一代要記、）冬十月十五日甲午、御禊、（一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）十一月庚戌朔、前下野守源仲正捕僞稱源義親者入京師、（百鍊鈔、）十八日丁卯、大嘗、（帝王編年記、皇代略記、皇年代略記、○一代要記、歷代皇紀、爲十九日、誤、）二十

七日丙子、敕太宰府、檢神寶、愼祭祀、修官舍、朝野群載

天治元年甲辰、春正月五日甲寅、觀法皇上皇、長秋記、公卿補任、古今著聞集、○長秋記日、朝覲二條殿、參考諸書、上皇御三條殿、無御二條殿之文、疑轉寫訛、故不取、二月六日甲申、賀茂社火、一代要記閏月己酉朔、地大震、百鍊鈔夏四月三日庚戌、改元、百鍊鈔、愚管鈔、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十二日己巳、以皇弟道仁爲親王、歷代皇紀六月十五日庚申、始修祇園臨時祭、著爲永式、百鍊鈔、年中行事、公事根源、秋七月七日壬午、太政大臣雅實罷、公卿補任、一代要記、冬十月二十三日丙寅、上皇幸高野、高野御幸記、百鍊鈔、帝王編年記、十一月二日乙亥、上皇還御三條殿、高野御幸記二十四日丁酉、上中宮藤原氏號曰待賢門院、一代要記、歷代皇紀、女院小傳、是月勢田橋火、歷代皇紀是歲法皇敕前木工頭源俊頼撰金葉和歌集、八雲御鈔、敕撰次第、拾芥鈔、

二年乙巳、春正月三日乙亥、觀法皇、續教訓鈔二月、京師女子產兒、耳目各一、無上唇、有牙齒、

夏六月、以皇弟君仁爲親王、歷代皇紀冬十月九日丙午、謁石清水宮、公卿補任、嫣嶺年代記、二十一日戊午、行幸賀茂社、公卿補任十二月五日壬寅、京師火、百鍊鈔、續古事談、二十七日甲子、修鬼氣祭於內裏諸門、百鍊鈔是歲申禁天下殺生、百鍊鈔、帝王編年記、

大治元年丙午、春正月十七日癸未、非常赦、中右記大治二年二十二日戊子、改元、百鍊鈔、愚管鈔、公卿補任、一代要記、帝王編年記、二月二日戊戌、法皇遷三條烏丸新宮、百鍊鈔秋七月乙丑朔、彗星見北方、中右記、長承元年、百鍊鈔、一代要記、八月十日癸卯、法皇遷室町殿、百鍊鈔冬十一月壬辰朔、日南至、公卿表賀、續本朝文粹七日戊戌、僧承玄妙心坐咒詛待賢門院、處流、百鍊鈔九日庚子、法皇上皇待賢門院幸熊野、百鍊鈔、熊野略記、○還宮日闕十二月二十七日戊子、法皇上皇待賢門院遷春日殿、是歲大有年、百鍊鈔

二年丁未、春正月三日癸巳、觀法皇上皇待

賢門院于三條東洞院第、十二日壬寅、法皇上皇待賢門院幸白河、慶五層塔、二十一日辛亥、有流星北行、二十四日甲寅、卜鼠齧大神宮柱纏布於軒廊、二月三日癸亥、法皇上皇待賢門院幸熊野、中右記十四日甲戌、大內醫司火、延及陰陽寮、勘解由使廳、宮內省、園韓神社、神祇官八神殿、郁芳門、大炊寮南門、主水司、陰陽寮鐘樓悉焚、累代古器多亡、參取中右記、百錬鈔二十七日丁亥、法皇上皇待賢門院

還自熊野、三月二日壬辰、卜神祇官及園韓神社火于軒廊、十二日壬寅、法皇上皇幸法勝寺、慶愛染像百餘軀、七寶塔及小塔一萬基、中右記十三日癸卯、東寺寶藏火、東寺長者補任○百錬鈔爲九日十九日己酉、法皇上皇幸法勝寺金堂、慶三層塔及大威德像百餘軀、中右記、三層塔據百錬鈔、二十四日甲寅、以神祇官火廢朝三日、夏四月六日乙丑、卜定恂子內親王爲齋院、二十三日壬午、奉馬七社、法皇上皇幸法勝寺、

慶觀音像百餘軀、五月四日癸巳、大雨霖、河水泛溢、中右記二十六日乙卯、肥前神崎莊獻鯨珠一顆、中原師遠鯨珠記、百錬鈔、六月七日乙丑、兇輕因、中右記是夏赤斑瘡流行、山槐記治承二年秋七月八日丙申、卜鼠齧石清水神殿帳於軒廊、十二日庚子、○本書作十三日、今推干支訂之、奉幣石清水、十四日壬寅、法皇上皇待賢門院御東殿、慶不動像一百軀畫像一千鋪、十九日丁未、大風雨河溢、二十四日壬子、奉幣祈晴、八月五日

壬戌、卜霖軒廊、七日甲子、奉帳石清水、祈晴丹生貴布禰、中右記、百錬鈔十四日辛未、太皇太后崩、中右記、百錬鈔、○一代要記、歷代皇紀、爲十一日、帝王編年記十七日、二十一日戊寅、葬四條大皇太后、中右記九月十一日戊戌、以中宮臨產兇輕因五十餘人、源平盛衰記○八坂本平家物語爲七日、誤、冬十月十二日戊辰、卜石清水璽匣損壞於軒廊、十四日庚午、奉幣石清水、謝璽匣損壞、先是賀茂神人與石清水神人鬭、是日奉幣

賀茂、告斷神人罪、二十日丙子、祈晴丹生貴布禰、中右記、丙戌晦、法皇上皇幸高野、中右記、百錬鈔、帝王編年記、○一代要記、歷代皇紀、竝係元年、誤、十一月三日己丑、遣使宇佐、中右記、六日壬辰、修鴨河隄、百錬鈔、以霖雨水災、奉幣伊勢平野稻荷祇園北野、法皇上皇至自高野、中右記、十四日庚子、以皇弟雅仁爲親王、中右記、長秋記、百錬鈔、十二月五日庚申、卜賀茂社烏不棲於軒廊、二十二日丁丑、免輕囚八十餘人、中右記、二十五日庚辰、始讀書、中右記、長秋記、是歲、京畿諸國霖雨傷稼、中右記、金葉和歌集成上之、八雲御鈔、拾芥鈔、

三年戊申、春三月十三日丁酉、待賢門院慶圓勝寺、車駕臨幸、百錬鈔、一代要記、拾芥鈔、二十二日丙午、法皇幸攝津有馬温泉、百錬鈔○還宮日闕、夏四月二十七日庚辰、行幸春日社、園太曆延文五年、秋七月、陽明門有怪鳥、八月二日甲寅、大風雨、陽明門倒、百錬鈔、冬十二月十七日丁卯、以左大臣忠通爲太政大臣、攝政如故、公卿補任、一代要記、二

十八日戊寅、免輕囚、中右記、比年天下竹實、皇年代略記、

四年己酉、春正月庚辰朔、天皇加元服於土御門南殿、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、南殿據中右記、長秋記、十六日乙未、以藤原聖子爲女御、中右記、一代要記、長秋記、二十日己亥、覲法皇上皇待賢門院于三條東洞院第、中右記、長秋記、三月十六日甲午、最勝寺五大堂火、長秋記、百錬鈔○長秋記曰、是夜月犯紫微宮、疑有錯誤、故不取、是月、山陽南海二道海賊起、法皇敕備前守平忠盛捕之、朝野羣載、夏四月十日戊午、攝政忠通罷太政大臣、中右記、公卿補任、五月十八日乙未、以伊豫土佐加賀稼穡不登、給復一年、中右記、長秋記、六月七日甲寅、非常赦、○長秋記係十日、十二日己未、以國家多事、怪異頻見、奉幣伊勢石清水、十三日庚申、祈晴丹生貴布禰、中右記、十九日丙寅、以星變竹實、三合年後有閏、修百座仁王會、長秋記、二十五日壬申、赦流人源明國源高行、僧仁寬還京師、中右記、秋七月丁丑朔、忠通

攺攝政爲關白、(中右記、歷代皇紀、○公卿補任係六月不日)三日己卯、有雙頭蓮生鳥羽宮池、(百錬鈔)六日壬午、法皇違豫、(中右記)七日癸未、法皇崩、(中右記、愚管鈔、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、)十五日辛卯、葬白河天皇、十九日乙未、非常赦、(中右記)閏月十日丙辰、無品道仁親王薨、(中右記、百錬鈔、)十二日戊午、霖雨河溢、十九日乙丑、祈晴丹生貴布禰、乙亥晦、又祈晴、八月二十八日癸卯、卜石清水北野怪異於軒廊、(中右記)九月丙午朔、日有食之、(中右記、長秋記、)七

日壬子、卜石清水西寶殿璽匣損壞、遣使謝之、十日乙卯、召還流人十九人、冬十月十九日甲午、行幸平野、(中右記)二十二日丁酉、以皇弟本仁爲親王、(中右記、歷代皇紀、仁和寺御傳、)二十六日辛丑、卜伊勢內宮寶殿戶鎖不開於軒廊、十一月七日辛亥、行幸大原野、十二日丙辰、上皇以佛匠長圓爲興福寺大佛師、興福寺僧徒毆長圓於奈良坂傷之、遣檢非違使、捕首惡僧徒、(中右記、長秋記、)二十九日癸酉、放還興福寺首惡僧等於本國舊寺、(中右記)甲戌晦、地震、(中右記、長秋記、)十二月八日壬午、天皇自土御門烏丸殿徙御三條京極第、十一日乙酉、奉幣大神宮、告新鑄東寶殿鏁、(中右記)

五年庚戌春正月六日己酉、天皇始臨敘位、十九日壬戌、行幸白河避方忌、二十四日丁卯、卜山科陵鳴於軒廊、二十六日己巳、始視除目、(中右記)二月二十一日甲午、立女御藤原聖子爲中宮、(中右記、帝王編年記、○愚管鈔爲天承元年二月九日、誤、)三

月四日丙午、天皇自京極第還御土御門殿、(中右記、百錬鈔、)十九日辛酉、賑恤山城大和和泉石見長門豐後等國、(中右記)二十五日丁卯、卜比叡天下竹枯於軒廊、夏四月二十五日丙申、行幸松尾、(中右記、長秋記、)二十八日己亥、行幸北野、五月九日庚戌、遣權大納言源能俊於山科陵、謝平忠盛奴伐陵樹、十五日丙辰、卜賀茂社樹僵於軒廊、六月三日癸酉、祈雨丹生貴布禰、十日庚辰、卜旱於軒廊、十六日丙戌、又

卜山科陵鳴、二十六日丙申、祈雨二十二社、中右記秋七月二日壬寅、非常赦、中右記、長秋記、但伊勢神人所訴及伐山科陵樹者、不在赦限、四日甲辰、讀經神泉苑祈雨、三日、中右記十日庚戌、大炊御門萬里小路殿火、中右記、百錬鈔、○按園太暦文和二年、載院御所春日殿火、據百錬鈔、元年十二月、上皇遷春日殿、萬里小路殿蓋其別稱也、十一日辛亥、使一千僧讀經延暦寺祈雨、中右記又讀經醍醐寺、中右記、祈雨御讀經記、○長秋記係十二日十五日乙卯、祈雨東寺、中右記、長秋記、東寺長者補任、十六

日丙辰、卜日吉社樹僵於軒廊、中右記十九日己未、雨、長秋記八月六日丙子、奉新修璽匣於石清水、中右記、百錬鈔、長秋記作七日○九月四日癸卯、祈晴丹生貴布禰、冬十月庚午朔、覲上皇于三條東洞院第、四日癸酉、上皇幸法勝寺、慶愛染像一百軀、中右記七日丙子、敕彈正臺左右京職檢非違使曰、狩獵之誡、嚴制重疊、而近日恣違制令、私飼鷹鷂、競馳郊野、致屠猪鹿、諮之憲章、理不可然、宜令禁遏、朝野羣載十六日

乙酉、卜豐受宮有穢於軒廊、二十五日甲午、以待賢門院慶法金剛院、赦、但伊勢神人所訴及伐山科陵樹者、不在赦限、中右記十一月四日癸卯、行幸日吉、中右記、長秋記、十二日辛亥、先是有男子、稱源義親入京、上皇處之前太政大臣忠實鴨院、眞僞未決、是日檢非違使源光信以私怨發兵擊殺之及其從者二十三日壬戌、流源光信及其黨、中右記、百錬鈔、長秋記、奪其弟右兵衛尉光保官、二十八日丁卯、上皇幸

熊野、十二日庚辰、卜豐受宮假殿遷宮以穢遲滯於軒廊、中右記、長秋記、十六日甲申、奉幣大神宮、二十一日己丑、上皇待賢門院還自熊野、中右記二十六日甲午、上皇自白河殿徙御三條西殿、中右記、百錬鈔、長秋記、

天承元年辛亥、春正月二日庚子、覲上皇於三條西殿、長秋記丁卯晦、改元、長秋記、百錬鈔、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二月三日庚午、上皇幸熊野、兩院熊野御詣記、○還宮日闕二十一日戊子、遣權中納言藤原實

能于伊勢奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例二十二日己丑、晝御座劍失、百鍊鈔三月十九日丙辰、行幸稻荷祇園、長秋記夏六月十七日壬午、上皇使五百僧讀金字大藏經于法勝寺、薦白河天皇冥福、長秋記百鍊鈔秋七月三日丁酉、上皇始置法華八講于法勝寺、長秋記、年中行事、一代要記係朔日○八日壬寅、上皇慶鳥羽堂赦、長秋記九日癸卯、移藏白河天皇御骨於鳥羽塔、長秋記百鍊鈔冬十月二十八日辛卯、祇園少將井神殿火、百鍊鈔

十二月二十二日乙酉、以右大臣藤原家忠爲左大臣、內大臣源有仁爲右大臣、權大納言藤原宗忠爲內大臣、公卿補任、一代要記

長承元年壬子、春正月二日甲午、覲上皇于三條東洞院、第二十七日己未、卜秋篠山陵鳴、八幡愚童訓以秋篠爲神功皇后陵、附以備考、春日社有穢、於軒廊、三月十一日壬寅、卜晝御座有白骨及齋院怪異於軒廊、中右記十三日甲辰、得長壽院成、中右記、百鍊鈔、一代要記上皇臨幸慶之、百鍊鈔、源平盛衰記、詔曰、太上天皇、鳳城之左、鴨水之東、建三十間之精舍、安一千軀之觀音、殊擇良辰、新設齋會、爰爲增白業之勝因、忽宥金科之禁憲、可大赦天下、常赦所不免者皆悉赦除、而所司稽留、不速施行、恐令秋官之囚徒、遲知春澤之洪化、不待施行之符、宜從原免之例、朝野羣載夏四月十日辛未、遣權中納言源雅兼于伊勢、奉宸筆宣命及神寶於大神宮、十七日戊寅、卜伊勢松尾有怪異於軒廊、閏月十六

日丙午、敕頃者疾疫蔓延、華夷不靜、自非法力、何助黎民、宜令五畿七道、每國圖丈六觀音像、寫經六卷、使僧六人如法轉讀、十七日丁未、使一千僧讀經法勝寺、十八日戊申、卜豐受宮蟲生於軒廊、五月九日戊辰、以災異疾疫、奉幣二十二社、十九日戊寅、震東三條殿、中右記二十五日甲申、卜大神宮有死鼠、松尾社鳴動有光於軒廊、中右記、長秋記六月庚寅朔、以旱疏神泉苑池、三日壬辰、祈雨丹生貴布

禰、（中右記）二十三日壬子、太宰府言、八幡宮生石二、各有文曰八幡、（百錬鈔、歷代皇紀）二十四日癸丑、奉幣伊勢松尾稻荷、（中右記）是月、清水寺側有兒六耳四臂四足、（長秋記）秋七月二十三日辛巳、三條烏丸姉小路室町三宮火、（百錬鈔、園太暦文和二年、）八月十一日戊戌、改元、（百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、公卿補任、）二十五日壬子、彗星出北方、（中右記、百錬鈔、○一代要記爲二十二日）二十七日甲寅、轉出東南、（中右記、山槐記、治承二年、○山槐記云、九月天皇不豫、而中右記所不載、故不書、）九月七日

甲子、修孔雀經法於禁内、以禳之、（孔雀經御修法記）八日乙丑、地震、十日丁卯、上皇召關白忠通、權中納言藤原忠宗、源雅兼、參議藤原顯頼等、定新制十四條、十一日戊辰、筑前宗像社火、二十日丁丑、卜伊勢荒祭宮千木折、伊佐奈岐宮千木傾、松尾社樹僵鳥居損於軒廊、（中右記）冬十月七日甲午、天皇幸白河慶寳莊嚴院、（百錬鈔、一代要記、）非常赦、（中右記）十四日辛丑、上皇幸高野、（中右記、百錬鈔、）十七日甲辰、奉幣大神宮、

二十日丁未、上皇自高野還御三條烏丸、（中右記）十一月戊午朔、奉幣松尾、（中右記）二十五日壬午、卜定禧子内親王爲齋院、（中右記、一代要記、）是歳天下癘疫、（百錬鈔）

二年癸丑、春正月二日戊午、覲上皇、二月二十日丙午、卜大神宮有死鹿于軒廊、夏五月六日庚申、又卜大神宮楠木枝折、豐受宮供米遺失、二十四日戊寅、又卜賀茂社樹折、六月甲申朔、奉幣賀茂、二日乙酉、卜豐受宮樹

僵、鳥居寮南門櫻僵于軒廊、八日辛卯、奉幣大神宮、十五日戊戌、震太政官東廳、秋七月十日癸亥、夜有光怪、十四日丁卯、震一條北街、震死二人、十八日辛未、奉幣賀茂、（中右記）二十一日甲戌、延暦寺西塔學徒與中堂僧鬭、二十三日丙子、敕遣撿非違使於坂本、捕僧徒首惡、（中右記、長秋記、）八月七日己丑、卜豐受宮損壞於軒廊、（中右記）十六日戊戌、日月無光、（百錬鈔）二十五日丁未、奉幣大神宮、卜伊雜宮有穢

於軒廊、中右記二十八日庚戌、地震、中右記、長秋記、是月、霖雨傷稼、百鍊鈔九月八日己未、祈晴丹生貴布禰、十五日丙寅、又祈晴、中右記冬十二月、天皇自土御門殿還御二條殿、百鍊鈔是歲、卜定怡子女王爲齋院、貴女鈔、齋院記、○皇胤紹運錄、尊卑分脈、爲壽永二年誤、

三年甲寅、春正月辛亥朔、以雨停小朝拜、五日乙卯、覲上皇于六條殿、十三日癸亥、上皇待賢門院幸熊野、中右記二月六日丙戌、上皇

自熊野還御鳥羽殿、中右記、長秋記、十七日丁酉、天皇從上皇幸法勝寺、慶讚金字大藏經、中右記、長秋記、百鍊鈔、一代要記、○帝王編年記係十二月、誤、非常赦、中右記、長秋記、是月六條殿火、中右記、長秋記、百鍊鈔、三月十九日己巳、尊上皇女御藤原泰子曰皇后、上皇准母令子內親王曰太皇太后、中右記、長秋記、一代要記、是月、修京師條路、決水平途、百鍊鈔夏五月四日癸丑、免輕囚、十日己未、謁石清水宮、中右記十五日甲子、行幸賀茂社、中右記、長秋記、十七日丙寅、京師

大水、二十八日丁丑、祈晴丹生貴布禰、六月四日壬午、卜霖雨洪水於軒廊、中右記七日乙酉、行幸二條萬里小路殿、中右記、長秋記、九日丁亥、奉幣丹生貴布禰、十四日壬辰、奉幣伊勢稻荷平野祇園北野祈晴、十八日丙申、卜興福寺金堂佛像白毫墜於軒廊、二十三日辛丑、又卜金峯山感神院怪異、二十六日甲辰、奉幣祇園、秋七月二日己酉、夜天有光、三日庚戌、卜伊勢內宮松枝折及建豐受別宮鳥居

于軒廊、中右記九月十二日戊午、大風拔樹發屋、中右記、百鍊鈔、二十四日庚午、卜伊勢荒祭宮有穢於軒廊、祈晴丹生貴布禰、中右記冬十月二十日乙未、上皇待賢門院幸熊野、中右記、長秋記、二十五日庚子、使一千僧讀經延曆寺禳疫疾、中右記十一月十一日丙辰、上皇待賢門院自熊野還御鳥羽殿、十二月十九日甲午、上皇遷三條烏丸新宮、中右記、長秋記、閏月乙巳朔、日有食之、甲戌晦、免輕囚、是歲、風水疾疫、天下饑

鑵、中右記
保延元年乙卯春正月乙亥朔、以日忌停小
朝拜、中右記四日戊寅、覲上皇于二條萬里小
路殿、中右記、長秋記七日辛巳、以日忌不御殿、中右記
二十日甲午、待賢門院三條京極第火、中右記、長
秋記、百鍊鈔、二月八日壬子、左大臣藤原家忠罷
左近衛大將、公卿補任右大臣兼右近衛大將源
有仁轉左近衛大將、權大納言藤原賴長兼
右近衛大將、中右記、公卿補任、是日省試、十日甲寅、

卜大神宮有穢於軒廊、十五日己未、又卜豐
受宮馬斃、中右記二十七日辛未、上皇幸春日、
中右記、長秋記、○按一代要記作天皇行幸誤、三月十日癸未、祈雨
丹生貴布禰、卜大神宮數有穢於軒廊、十一
日甲申、雨、中右記十七日庚寅、上皇賑穀一千
石於窮民、中右記、百鍊鈔、千石據百鍊鈔、一十八日辛卯、地
震、中右記二十七日庚子、上皇待賢門院幸仁
和寺慶北斗堂、中右記、仁和寺御傳、夏四月八日辛亥、
以西國海賊頻起、貢調多滯、敕備前守平忠
盛討海賊、中右記、長秋記、百鍊鈔、二十一日甲子、奉幣
二十二社、禳疫祈晴、中右記二十二日乙丑、非
常赦、但海賊黨與、及傷母者中原廣景、不在
赦限、卜霖軒廊、二十三日丙寅、上皇修百座
如法仁王會于法勝寺、中右記、長秋記、二十六日己
巳、祈晴丹生貴布禰、長秋記二十七日庚午、攺
元、中右記、長秋記、一代要記、百鍊鈔、非常赦、中右記是月、上皇
賑穀三千石於東西京貧民、百鍊鈔五月五日
丁丑、卜法成寺金堂佛像白毫墜、中右記上皇

幸法勝寺、慶讚一日書寫大般若經、中右記、長秋記、
六月六日戊申、行幸二條萬里小路殿、中右記、○
長秋記作自二條殿幸東洞院七日己酉、有虹見二條東洞
院、長秋記是夜還宮、中右記、長秋記、十四日丙辰、卜平
野社有穢於軒廊、二十六日戊辰、以災異疾
疫霖雨、奉幣伊勢稻荷祇園丹生貴布禰、秋
七月九日庚辰、震京師數所、辛丑晦、奉幣祈
晴、八月六日丁未、釋奠、以疫停宴、卜霖雨及
豐受宮寶殿千木折於軒廊、十二日癸丑、以

霖雨、奉幣伊勢以下十社及丹生貴布禰、（中右記）十九日庚申、平忠盛獲海賊三十餘人入京、（長秋記、百練鈔、○中右記作二十六人）是歲春夏飢饉盜賊連起、（中右記、百練鈔、續本朝文粹、）

二年丙辰、春正月己巳朔、以物忌停小朝拜、五日癸酉、覲上皇于二條萬里小路殿、二十八日丙申、地震、二月二十一日己未、上皇幸熊野、二十三日辛酉、月犯鎮星、三月十三日庚辰、上皇自熊野還御鳥羽殿、（中右記）二十三日庚寅、上皇慶勝光明院、天皇臨幸、（中右記、宇槐雜鈔、百錬鈔、）非常赦、（中右記）是日伊勢麻績機殿火、（百錬鈔）是春天下大飢、道殣相望、多棄兒者、（中右記）夏五月十二日己卯、左大臣藤原家忠罷、（公卿補任、一代要記、）十四日辛巳、前左大臣藤原家忠薨、（公卿補任○一代要記爲二十四日）秋八月二十一日丙辰、以天變風水飢疫、遣中納言源雅定於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（伊勢公卿敕使例）九月十七日壬午、始修春日若宮祭、（一代要記）冬十月十五日

己酉、天皇從上皇幸法金剛院、觀待賢門院慶三層塔及金字大藏經、（百錬鈔）十二月九日壬寅、以右大臣源有仁爲左大臣、內大臣藤原宗忠爲右大臣、權大納言藤原賴長爲內大臣、（公卿補任、一代要記、）

三年丁巳、春正月癸亥朔、以雨停小朝拜、（中右記）四日丙寅、覲上皇、（中右記、續教訓鈔、古今著聞集、）七日己巳、行幸法勝寺、（中右記、園太曆、貞和三年、）二月十日壬寅、興福寺僧徒七千餘、奉春日神木入勸學院、訴僧定海超權僧正玄覺任僧正、（百錬鈔、一代要記、）使兵士警衛禁內院中、（百錬鈔）十一日癸卯、罷僧正定海、以玄覺爲僧正、（中右記）十六日戊申、僧徒還寺、（百錬鈔）十九日辛亥、行幸法勝寺、避方忌、三月二十七日己丑、又幸、夏四月六日丁酉、非常赦、十日辛丑、不豫、十五日丙午、疾愈、十七日戊申、奉幣九社、五月九日庚午、行幸白河、避方忌、六月六日丙申、行幸二條萬里小路殿、七日丁酉、還宮、二十四日甲寅、卜

虹見西河原宮、石清水宮鳴動有光於軒廊、秋七月辛酉朔、祈雨丹生貴布禰、二日壬戌、雨、（中右記）十五日乙亥、地大震、（中右記、百錬鈔、）十六日丙子、又震、（百錬鈔）八月二十二日壬子、上皇幸日吉、二十三日癸丑、還宮、九月十三日壬申、行幸白河、避方忌、（中右記）二十三日壬午、天皇從上皇待賢門院幸仁和寺、觀競馬、（中右記、百錬鈔、）（古今著聞集、待賢門院據百錬鈔、）張宴奏樂、（百錬鈔、古今著聞集、）詠和歌、（中右記、宇槐雜鈔、百錬鈔、古今著聞集、○帝王編年記爲八月二十二日、誤、）二十五日甲申、還宮、閏月戊午晦、卜大神宮戸鎖不開於軒廊、（中右記）冬十月十五日癸酉、上皇慶鳥羽安樂壽院、（中右記、安樂壽院據百錬鈔、）非常赦、但伊勢石清水日吉社所訴者、不在赦限、十九日丁丑、上皇幸熊野、（中右記○還宮日闕）十二月十二日己巳、以伊勢神人訴、流前主殿助平季盛於佐渡、（參取中右記、百錬鈔、）十七日甲戌、行幸法勝寺、避方忌、二十二日己卯、奉幣大神宮、（中右記）

四年戊午、春正月丁亥朔、以物忌停小朝拜、（中右記）二日戊子、覲上皇於六條殿、（中右記、公卿補任、）二十日丙午、卜伊勢外院火於軒廊、二十六日壬子、上皇待賢門院幸熊野、（○還宮日闕）是日、行幸法勝寺、避方忌、（中右記）二月二十三日己卯、賀茂社神館神宮寺西塔及待賢門院四條西洞院第火、（百錬鈔）二十四日庚辰、二條東洞院内裏火、（百錬鈔、寺社雜事記、）是日、深草僵樹自起、（百錬鈔○歷代皇紀、皇年代略記、係三月、）二十六日壬午、右大臣藤原宗忠罷、（公卿補任）三月五日庚寅、京師大火、（百錬鈔）十二日丁酉、修孔雀經法于鳥羽宮、（孔雀經御修法記○元亨釋書爲十五日）十九日甲辰、天雨物、狀如胡麻、（○孔雀經御修法記、元亨釋書並云、是日天雨秬、）二十一日丙午、蝦蟇鬪于神泉苑、夏四月十九日甲戌、天皇自小六條殿遷御土御門殿、（○按前此徙于小六條殿、諸書無所考、蓋在二條内裏罹災之後乎、）二十七日壬午、行幸法金剛院、觀競馬、六月二日丙辰、園城寺僧徒燒別當禪仁房、禪仁發兵鬪爭、二十四日戊寅、有雙頭蓮生勝光明院池、（百錬鈔）秋七月十

日甲午、上皇命修孔雀經法於押小路殿、禳雙頭蛇怪、孔雀經御修法記○按元亨釋書、以此爲三月所修孔雀經法効二十日甲辰彗星見西北、百錬鈔○一代要記係明年冬十月壬午晦、殿上一種物、百錬鈔、歷代皇紀、十一月二十四日丙午、土御門殿火、百錬鈔、續教訓鈔、○寺社雜事記爲二十八日累代御笏○按笏蓋物字之訛象繪蝶丸焚、○續教訓鈔蝶作蟬天皇遷小六條殿、百錬鈔

五年己未、春正月十五日丙申、昏霧四塞、百錬鈔二月二十一日壬申、遣權大納言藤原實

能於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例○按松苔實能作定能、今據公卿補任訂之三月九日己丑、興福寺僧徒燒別當隆覺坊、百錬鈔夏五月庚辰朔、奉幣祈雨、古今著聞集秋七月十六日甲午、以皇弟體仁爲親王、守槐雜鈔、一代要記、歷代皇紀、二十八日丙午、上上皇皇后藤原氏號曰高陽院、一代要記、女院小傳、八月七日甲寅、造土御門殿、園太曆貞和二年十七日甲子、立體仁親王爲皇太子、百錬鈔、歷代皇紀、一代要記、玉海治承二年○立坊次第爲皇太弟以內大臣藤原賴長爲傳、公卿補任冬十月二十六日癸酉、慶成勝寺、車駕臨幸、百錬鈔、帝王編年記、元亨釋書、○拾芥鈔爲六日十一月九日丙戌、興福寺僧徒與別當隆覺鬩、古今著聞集十二月二日戊申、遣檢非違使于奈良、捕隆覺黨與、百錬鈔十四日庚申、左大臣源有仁罷左近衞大將、十六日壬戌、內大臣兼右近衞大將藤原賴長轉左近衞大將、權大納言藤原實能兼右近衞大將、公卿補任○賴長轉左近衞大將、一代要記爲二十六日、有仁罷左近衞大將、歷代皇紀爲十六日、

六年庚申、春正月二十三日己亥、石清水宮火、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、寶器悉焚、後愚昧記、百錬鈔、二十六日壬寅、卜石清水宮火于軒廊、後愚昧記應安四年二月二十二日丁卯、內大臣藤原賴長罷左近衞大將、公卿補任、一代要記、○歷代皇紀爲十二月二十三日三月五日庚辰、遣使于宇佐、後愚昧記應安四年十三日戊子、日無光、天雨物、狀如胡麻、百錬鈔二十八日癸卯、日吉二宮十禪師神殿火、百錬鈔、一代要記、皇年代略記、○歷代皇紀爲二十七日夏五月二十七日庚子、

謁石清水宮、園太曆文和二年、愚昧記應安四年、後閏月甲辰朔、行幸賀茂社、園太曆文和二年五日戊申、大山香椎筥崎等僧徒神人燒太宰府數千家、十六日己未、震法成寺行願寺塔、災、百鍊鈔二十五日戊辰、延曆寺僧徒與園城寺僧徒鬭、燒園城寺、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、○帝王編年記爲四月四日冬十月十二日癸未、觀上皇于白河殿、古今著聞集十一月四日甲辰、土御門殿成、自小六條殿徙御、百鍊鈔、園太曆貞和二年十二月七日丁丑、權大納言源雅定兼左近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、

永治元年辛酉春二月庚午朔、日有食之、三條內府記三月八日丁未、遣參議藤原公能於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例十日己酉、上皇薙髮、百鍊鈔、今鏡、一代要記、帝王編年記、東寺長者補任、夏四月二十日戊子、前右大臣藤原宗忠薨、公卿補任五月七日甲辰、杵築神殿無故而倒、○一代要記爲二十二日、歷代皇紀二十三日、二十一日戊午、法成寺新堂倒、百鍊鈔秋七月十日丙午、改元、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、公卿補任、○愚管鈔爲二十八日八月二十日乙酉、霖雨洪水、九月二十五日庚申、京師雨物、狀如胡麻、百鍊鈔冬十二月二日丙寅、以皇子重仁爲親王、一代要記、歷代皇紀、七日辛未、天皇禪位于皇太弟、百鍊鈔、今鏡、愚管鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、天皇雅無去位之意、法皇寵美福門院、欲立其所生、故速禪位、今鏡、保元物語、法皇諭旨書詔者、改皇太子爲皇太弟、天皇大愕曰、何遽如此也、須明日審議、參取愚管鈔、今鏡、是日百官就班、待詔書出、天皇奉

書法皇、中使相繼、法皇不從、及昏始傳劍璽於昭陽舍、今鏡以故二宮不協、愚管鈔、保元物語、徙御三條西洞院、上尊號曰太上天皇、今鏡、歷代皇紀、稱新院、今鏡、保元物語、後遷鳥羽田中殿、愚管鈔、保元物語、久壽二年、近衛帝崩無嗣、上皇以爲重仁親王當承統、輿議亦歸親王、美福門院意疑上皇呪詛近衛帝、故不欲使其胤息得位、屢告法皇、欲立雅仁親王、保元物語關白忠通亦從慂之、古事談法皇納其言、遂立雅仁、是爲後白河帝、

上皇益不平之、（愚管鈔、保元物語）保元元年七月法皇崩于鳥羽宮、上皇入臨、及門右衛門權佐藤原惟方奉遺詔、拒而不納、上皇大恚而還、（古事談、參取愚管鈔）謂左大臣藤原賴長曰、以古揆今、雖孝德有皇子、承統者天智也、雖淳和有皇子、踐阼者仁明也、華山先於一條、三條先於後朱雀、朕雖菲德、先帝之嫡子也、忝萬乘之位、居上皇之尊、皇統所係、非重仁而誰、先帝舍之、立匪文匪武之小子、父子抱憂、徒經歲

月、今也先帝昇遐、朕舉大事、何憚之有、賴長贊成之、謀頗外泄、後白河帝徵兵警備、時鳥羽帝崩僅七日、修法會於田中殿、上皇不親臨之、佯爲齋院行啓、潛入居白河前齋院第、（○據古記、壽永三年立帝廟文、前齋院者、上西門院也、按愚管鈔、白河中御門河原有佛堂、安一千軀阿彌陀像、號棧敷殿、上皇出居之、未知孰是、）參議藤原教長、右馬權頭藤原實清、前山城守藤原賴輔、左衛門尉平家弘父子從焉、賴長自宇治取間道而至、左近衛中將源成雅、少納言藤原成

隆、能登守藤原家長、藏人源賴憲、右馬助平忠正、前檢非違使源爲義等、將士一千餘人來赴崇闕、亦潛徵兵警衛、京師騷然、上皇自齋院第入北殿、使平忠正源賴憲守東門、源爲義守西門、源爲朝守西河原門、平家弘守春日河原門、爲朝陳策、欲夜襲高松殿、賴長不從、後白河帝使下野守源義朝安藝守平清盛以兵庫頭源賴政等來攻、時夜未明、義朝縱火上風、會西風揚沙、煙焰掩宮、義朝等乘

火奮擊、守兵不能拒、平家弘子光弘馳呼曰、火勢甚熾、不可復支、乘輿宜速出避之、上皇倉皇上馬、而不勝騎、藏人平信實重騎扶掖、爲義忠正家弘光弘等從焉、至如意山、山路嶮難、下馬徒步、上皇疲頓、絕而復蘇、有僧攜瓶而過、家弘乞水進之、心神稍安、上皇謂從者曰、朕神耗力屈、不得復行、追兵及此、亦不至加害、汝輩速去、衆固請從、上皇不許曰、汝輩不去、祗爲朕累、諸將不得已、涕泣而去、唯

家弘光弘不肯去、扶掖下谷、潛匿待暮、入夜遮負上皇、至東光寺傍、覓輿奉之、請所幸、曰、欲往阿波局家、至則門閉矣、去而赴左京大夫藤原教長家、亦無人、夜深入知足院僧坊、進湯粥、上皇薙髮、（○一代要記、帝王編年記並云、於仁和寺薙髮、未知孰是、）往仁和寺、覺性法親王居上皇於法務寬遍坊、以狀聞、後白河帝使式部丞源重成守之、（○本書作式部大丞、今據尊卑分脈、）遂徙上皇於讚岐、使重成警衛道路、過鳥羽、欲拜陵、重成不奉命、帝遣人檢上皇東洞院書庫、有一匣、封縢甚牢、發視之、盡記夢也、屢夢復位、每夢必禱焉、（保元物語）八月抵讚岐松山、造宮直島、後徙于志度、（鼓岡、保元物語、源平盛衰記、）潛刺血親書五部大乘經、（京師本、杉原本保元物語、吉記壽永二年、○半井本保元物語、長門本平家物語、並作墨書、）三年而畢功、送于覺性法親王、請藏安樂壽院、（保元物語）親王及關白忠通爲奏請、帝不許、卻還之、上皇大恚曰、朕親書佛經、非爲今生、而不許藏之、非但今生之仇、實爲地下之怨、乃

自齧舌出血、每軸書曰、願爲大魔王、惱亂天下、謹以五部大乘經、廻向惡道、自是不復剃髮剪爪、褐衣垢膩、長頭巾、慘悴骨立、居常忿怨、（保元物語、源平盛衰記、○按二書並云、沈經于海、然吉記壽永二年文云、上皇血書大乘經、傳在元性法印所、沈海之說恐誤、）長寬二年八月二十六日己卯、崩于志度、年四十六、（百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、長門本平家物語、）火葬於白峯、（保元物語）世稱讚岐院、治承元年七月、詔更稱崇德院、（玉海、保元物語、紹運要略、）天皇崩後、逆亂相繼、災變荐至、世以爲怨魂之所祟、（保元物語）壽永三年四月、後白河帝敕立廟春日河原、（吉記）謂之粟田宮、建久四年敕、每歲八月遣使祀焉、（帝王編年記）

大日本史卷之四十七終

大日本史卷之四十八

本紀第四十八

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

近衞天皇

近衞天皇諱體仁、鳥羽帝第八子也、（愚管鈔、神皇正統記、一代要記、歷代皇紀、○百錬鈔、皇胤紹運錄、帝王編年記爲第六子、）母美福門院、保延五年五月十八日丁酉生、（今鏡、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、）七月爲親王、八月立爲皇太子、（一代要記、歷代皇紀、）居昭陽舍、（今鏡、）永治元年十月著袴、（玉蘂、承久五年○歷代皇紀爲十一月、）十二月七日辛未、以上皇旨改稱皇太弟、（愚管鈔、今鏡、）受禪于土御門殿、（百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、）以關白忠通攝政、左大臣源有仁、內大臣藤原賴長、權大納言兼左近衞大將源雅定、權大納言兼右近衞大將藤原實能、竝如故、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）九日癸酉、尊崇德帝曰太上天皇、（皇代記、皇年代略記、○一代要記係七日、）

二十七日辛卯、天皇卽位于大極殿、時年三歲、（百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、）尊中宮曰皇太后、所生女御藤原得子曰皇后、（公卿補任、一代要記、）

康治元年壬戌、春正月十九日癸丑、法皇以散位源盛行及妻津守島子呪詛皇后、流之于土佐、（台記、百錬鈔、）巫朱雀于上總、是月罷賭射、（台記、）二月二十四日戊子、遣使諸山陵告卽位、（台記、）二十六日庚寅、卜定姸子內親王爲齋宮、（台記、帝王編年記、）三月十六日己酉、園城寺僧徒燒延曆寺堂坊、延曆寺僧徒擊卻之、（台記、○百錬鈔係十七日、一代要記爲永治元年事、）十七日庚戌、延曆寺僧徒燒大津民家、園城寺僧徒拒之、殺傷頗多、（百錬鈔、）夏四月二十八日辛卯、改元、（台記、愚管鈔、百錬鈔、一代要記、）五月四日丙申、法皇幸柰良、六日戊戌、至自柰良、十一日癸卯、法皇幸延曆寺、十九日辛亥、法皇自延曆寺還御白河殿、（台記、）六月二十二日癸未、天皇自土御門殿遷御小六條殿、（外記日記、）秋七月五日丙申、避方忌於土御門殿、十

五日丙午、星晝見、八月三日癸亥、鞫問興福寺惡僧十五人於勸學院、逐之陸奧、九月二日辛卯、大風雨水、發屋壞廬、台記 二十日己酉、自小六條殿還土御門殿、冬十月十九日戊寅、徙御一本御書所、台記、園太曆、文和二年、 二十六日乙酉、御禊、台記、一代要記、歷代皇紀、 十一月十五日癸卯、大嘗、一代要記 十九日丁未、還土御門殿、台記、園太曆、文和二年、 十二月十五日癸酉、天皇始御紫宸殿、台記

二年癸亥、春正月三日辛卯、覲法皇上皇于小六條殿、十四日壬寅、右近衞少將源成雅坐傷山城前司藤原賴輔于鳥羽宮中、削籍、二十一日己酉、省試、台記 二月十六日甲戌、慶賀茂神宮寺、百鍊鈔 閏月五日壬辰、法皇上皇幸熊野、三月四日辛酉、法皇上皇還自熊野、台記 夏五月五日辛酉、大水入禁中、百鍊鈔 七日癸亥、上皇患痘瘡、十四日庚午、非常赦、二十五日辛巳、列見、以上皇不豫、天下痘瘡、徹樂、

是日天皇患痘瘡、六月六日辛卯、奉幣二十二社、天皇疾愈、台記 二十一日丙午、太宰府觀世音寺火、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、 秋九月癸未晦、待賢門院所居室町三條宮火、冬十月十日癸巳、地震、十一日甲午又震、台記 十四日丁酉、始修舍利會於仁和寺、台記、一代要記、仁和寺御傳、 十九日壬寅、君仁親王薨、十一月二十四日丙子、地震、二十八日庚辰、發八十島使、台記 十二月九日辛卯、遣權中納言藤原成通於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、台記、伊勢公卿敕使例、

天養元年甲子、春正月五日丁巳、覲法皇于白河殿、台記 二月二十三日甲辰、改元、台記、公卿補任、百鍊鈔、一代要記、○愚管鈔爲二十二日、 三月二十二日癸酉、修大仁王會、二十七日戊寅、法皇至自熊野、○本書幸日闕、 夏四月二十一日壬寅、太皇太后崩、庚戌晦、葬太皇太后、台記 五月九日己未、白河北殿火、台記、百鍊鈔、 二十六日丙子、東三條大樗無風而折、台記 六月、上皇敕左京大夫藤原顯輔、

撰詞花和歌集、袋草子、拾芥鈔、秋七月庚戌朔、有雙頭蓮生法勝寺池、百錬鈔是月彗星見、山槐記八月不豫、十九日戊戌、非常赦、台記二十三日壬寅、修孔雀經法於禁中、仁和寺御傳、孔雀經御修法記、二十五日甲辰、有蛇墜石灰壇、卜之、戊申晦、奉幣伊勢以下九社、九月八日丙辰、興福寺南圓堂有光如電、多武峯墓鳴、台記冬十月十七日甲午、法皇上皇幸仁和寺、慶孔雀明王堂、台記、百錬鈔、法皇上皇據台記、二十六日癸卯、白河離宮成、法

皇自四條殿徙御焉、十一月二十一日戊辰、天皇始觀五節儀、台記

久安元年乙丑、春正月四日庚戌、覲法皇皇后于六條烏丸新宮、五日辛亥、大風發屋、台記二月六日壬午、遣大納言源雅定於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例三月、興福寺僧與東大寺僧鬪、燒坊舍、夏四月四日己卯、彗星見東方、○百錬鈔、一代要記、竝爲五日、十日乙酉、有星孛于奎、台記修孔雀經法於仁和寺、禳彗星、仁和寺御傳、孔雀經御修法記、二十三日戊戌、彗星見西方、二十五日庚子、奉幣二十二社、台記敕左大臣源有仁、內大臣藤原賴長、權大納言藤原實行、源雅定、藤原伊通、權中納言藤原宗能、前中納言藤原顯賴、參議藤原顯業、言政事得失、台記、百錬鈔五月六日辛亥、使一千僧讀仁王經於法勝寺、八日癸丑、使六十僧讀大般若經於紫宸殿、一千僧讀觀世音經於東大延曆二寺、禳除星變、六月二日丙子、洪水、台記十一

日乙酉、詔月次神今食奠復舊式、百錬鈔二十七日辛丑、修百座仁王講於得長壽院、帝王編年記、元亨釋書、秋七月十日甲寅、詔權大納言藤原實行等議諸社祭儀幣物、各復舊典、百錬鈔二十二日丙寅、改元、台記、公卿補任、愚管鈔、百錬鈔、一代要記、二十六日庚午、興福寺僧徒攻金峯山、金峯山僧拒而破之、台記○一代要記、歷代皇紀、係前年、二十七日辛未、以星變停相撲節、八月十四日丁亥、大風拔樹發屋、台記二十二日乙未、待賢門院崩、台記、百錬

鈔、歷代皇紀、二十三日丙申、葬待賢門院、九月十
三日丙辰、興福寺僧徒又攻金峯山、冬閏十
月三日甲辰、地震、八日己酉、法皇幸四天王
寺、二十日辛酉、還宮、十一月壬申朔、日南至、
羣臣表賀、御紫宸殿宴百僚、台記 九日庚辰、謁
石清水宮、台記、園太暦、文和二年、 還過鳥羽宮、十一日
壬午、還宮、二十二日癸巳、法皇不豫、台記 十二
月三日癸卯、修孔雀經法於鳥羽北殿、孔雀經御
修法記 四日甲辰、謁賀茂社、七日丁未、非常赦、
台記

二年丙寅、春二月庚子朔、朝法皇于小六條
殿、五日甲辰、遣使伊勢禳災異、三月八日丁
丑、震前齋院東洞院第、災、故下野守源明國
兒震死、百鍊鈔 是月園城寺僧燒延暦寺僧房、
夏四月十四日癸丑、清水寺火、百鍊鈔、○一代要記爲十一
日、帝王編年記、四年四月、 五月九日丁丑、修百座仁王
講於大極殿、十日戊寅、法皇幸延暦寺、台記 十
二日庚辰、洪水漂河尾明神社、百鍊鈔 十九日

丁亥、法皇至自延暦寺、秋九月十三日庚辰、
法皇幸四天王寺、十六日癸未、還御桂殿、冬
十一月四日庚午、遣使宇佐、十六日壬午、大
雷、台記 十二月丙申朔、彗星見西方、台記、百鍊鈔、一代要
記、

三年丁卯、春正月二日丙寅、朝法皇、八日壬
申、有星孛于東方、十二日丙子、彗星見西南、
台記○百鍊鈔、一代要記、西南作東方、 十八日壬午、修孔雀經
法於仁和寺以禳之、仁和寺御傳、孔雀經御修法記、 甲午晦、

左大臣源有仁罷、二月十三日丁未、前左大
臣源有仁薨、台記、公卿補任、 二十二日丙辰、行幸春
日社、○一代要記係三月 二十三日丁巳、還宮、三月二
十八日辛卯、省試、台記○本書是月七日條有法皇未還自熊野文、而
其幸熊野及還宮、皆無所見、今不可考、 夏四月七日庚子、延暦
寺僧綱詣法皇宮、請領越前國白山、事寢不
省、台記、百鍊鈔、 十四日丁未、法皇耀兵東河、備延
暦寺僧徒、台記 五月四日丙寅、法皇敕以白山
屬延暦寺、台記、百鍊鈔、 六月十五日丁未、播磨守

平忠盛及其子中務大輔清盛從者與祇園神人鬭、矢注神殿、台記○一代要記、歷代皇紀、爲十六日、十七日己酉、法皇上皇幸延曆寺、二十四日丙辰、還宮、台記、百錬鈔、二十八日庚申、延曆寺僧徒奉日吉神輿入京、訴平忠盛父子、法皇諭之、僧徒乃還、台記、百錬鈔、源平盛衰記、壬戌晦、有龍見勸修寺池、秋七月九日辛未、卜豐受大神宮庫鑰折于軒廊、十八日庚辰、法皇又耀兵東河、備延曆寺僧徒、二十日壬午、祈雨丹生貴布禰、台記

二十四日丙戌、法皇敕公卿議平清盛罪、台記、百錬鈔、二十七日己丑、奉幣祇園社、八月十日辛丑、行幸鳥羽南院、台記十一日壬寅、從法皇慶鳥羽佛堂、台記、百錬鈔、元亨釋書、樂人補任、非常赦、但大神宮所訴及京師盜賊殺右兵衞尉源重俊者、不在赦限、十二日癸卯、還宮、延曆寺僧徒欲以平忠盛父子處流刑、怒座主行玄不力請其事遂之、遂毀其房、九月十二日癸酉、法皇修萬燈會、十六日丁丑、法皇還御鳥羽北殿、冬十月辛卯朔、日有食之、十七日丁未、法皇命延曆寺所司率兵捕僧徒首惡、僧徒拒之、焚其器仗、毀所司坊、庚申晦、法皇敕延曆寺僧綱諭僧徒迎行玄、十二月十二日壬寅、始讀孝經、台記

四年戊辰、春正月二十八日丁亥、定左右衞門左右兵衞尉左右馬允內舍人員、百錬鈔、己丑晦、火雷、台記二月十七日丙午、京師火、台記、百錬鈔、二十三日壬子、法皇幸熊野、三月二十四

日壬午、還宮、台記丁亥晦、感神院火、台記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、夏四月三日庚寅、卜感神院火于軒廊、台記二十八日乙卯、遣權中納言藤原公教於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、台記、伊勢公卿敕使例、五月京師訛言、法勝寺九層塔上每夜有唱歌聲、台記、古今著聞集、六月二十六日壬子、禁內火、台記、百錬鈔、寺社雜事記、○一代要記、歷代皇紀、係二十四日、天皇避之攝政忠通近衞第、夜遷四條東洞院第、台記、百錬鈔、閏月五日辛酉、前太政大臣忠實獻西

海所產綠毛龜於法皇、台記、百錬鈔、古今著聞集、九日乙丑、避方忌於皇后白河離宮、台記秋七月十七日壬寅、從法皇上皇幸法勝寺、觀攝政忠通慶佛堂、台記、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、非常赦、但放火禁內、神社所訴及殺右兵衛尉源重俊、大炊允清光姓闕者不在赦限、八月十六日辛未、行幸平野社、二十二日丁丑、行幸大原野社、二十六日辛巳、興福寺僧徒將入京訴事、法皇遣兵拒之宇治川、二十七日壬午、法皇使前太政大臣忠實諭僧徒、僧徒還寺、九月十日乙未、法皇幸四天王寺、二十三日戊申、還宮、台記冬十二月八日壬戌、大織冠像破裂、多武峯緣起、台記、久安六年、

五年己巳、春二月十三日丙寅、觀法皇於小六條殿、外記日記、三月二十日壬寅、慶延勝寺、車駕臨幸、愚管鈔、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、元亨釋書、拾芥抄、外記日記、夏六月六日丙辰、幸八條殿、避祇園神輿、七日丁巳、還宮、外記日記、秋七月、興福寺僧發佐保南陵、百錬鈔、二十八日丁未、以內大臣藤原賴長爲左大臣、大納言藤原實行爲右大臣、大納言源雅定爲內大臣、公卿補任、一代要記、八月三日壬子、上所生皇后藤原氏號曰美福門院、一代要記、歷代皇紀、貴女抄、女院小傳、二十日己巳、謁松尾社、二十二日辛未、謁北野社、外記日記、冬十月十一日己未、行幸日吉社、十二日庚申、還宮、台記別記、兵範記、二十五日癸酉、以攝政忠通復爲太政大臣、職仍舊、台記別記、公卿補任、戊寅晦、遣使南都檢察佐保南陵、百錬鈔、十一月九日丁亥、美福門院幸熊野、台記別記、二十五日癸卯、行幸稻荷祇園社、台記別記、兵範記、戊申晦、美福門院至自熊野、台記別記、十二月十一日己未、法皇幸四天王寺、慶念佛堂、百錬鈔○還宮日闕、二十二日庚午、遷御東三條宮、台記別記、園太曆文和二年、是日軒廊卜陰陽頭賀茂憲榮與少外記三善成重鬭爭、成重奪官、百錬鈔

六年庚午、春正月四日壬午、天皇加元服於

東三條南殿、台記別記、愚管鈔、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、六日甲
申、雷雨雹、十九日丁酉、以藤原多子爲女御、
台記、廣隆寺火、台記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、二十日戊戌、
觀法皇于六條殿、二十二日庚子、徙自東三
條宮御四條東洞院宮、台記、二月二十七日甲
戌、上皇太后號曰皇嘉門院、台記、一代要記、歷代皇紀、貴女
鈔、女院小傳、丁丑晦、大雨、賀茂河泛溢、三月五日
壬午、法皇美福門院幸熊野、台記、十三日庚寅、
攝政忠通罷太政大臣、公卿補任、台記、○一代要記、歷代皇紀、竝

係二月、十四日辛卯、立女御藤原多子爲皇后、
台記、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、夏四月丁未朔、法皇美
福門院至自熊野、二十八日甲戌、省試、台記、以
藤原呈子爲女御、台記、女院小傳、五月十日乙酉、遣
中納言藤原公教於伊勢、奉宸筆宣命於大
神宮、台記、伊勢公卿敕使例、十八日癸巳、使一千僧讀
經法勝寺、二十七日壬寅、天皇從法皇幸法
勝寺、觀美福門院慶讚金字大藏經、雨不能
修法會、○百錬鈔爲十日、六月六日辛亥、行幸美福

門院八條離宮、避祇園神輿、八日癸丑、還宮、
台記、二十二日丁卯、立女御藤原呈子爲中宮、
台記、一代要記、歷代皇紀、女院小傳、秋七月京師訛言、近江國
及美濃國山中怪獸食人、百錬鈔、八月四日丁
未、大風雨、台記、百錬鈔、仁壽殿大學寮孔廟前舍
倒、百錬鈔、五日戊申、興福寺僧徒數千春日神
人二百餘奉神木入京師、抵勸學院、訴別當
久闕、敕檢非違使源光保率兵警衛禁門左
衛門尉源賴賢護法皇宮、檢非違使平家弘

護上皇宮、十日癸丑、僧徒委神木于勸學院
而還、十六日己未、以僧隆覺爲興福寺別當、
台記、百錬鈔、二十日癸亥、大風雨、台記、二十一日甲
子、以右大臣藤原實行爲太政大臣、內大臣
源雅定爲右大臣、大納言藤原實能爲內大
臣、台記、公卿補任、春日神木還社、台記、百錬鈔、二十八日
辛未、雨水、九月二十五日戊戌、月入太微犯
太白、台記、冬十月二日甲辰、從法皇幸法勝寺、
觀慶讚金字大藏經、台記、百錬鈔、一代要記、非常赦、但

神社所訴、及威儀師覺仁不在赦限、○按東大寺上座仁覺先是與衆僧鬩、據此覺仁疑當作仁覺、歷代皇紀、元亨釋書、當時有仁和寺僧覺仁、爲權少僧都、屢入宮修法、無他事故、恐非此人、十一月十四日丙戌、地震、二十八日庚子、修百座仁王講於法勝寺、台記十二月九日辛亥、攝政忠通爲關白、台記、公卿補任、愚管鈔、一代要記、二十八日庚午、大雷、台記是歲風水、近江安藝等十一國稼穡不登、台記、百錬鈔、

仁平元年辛未、春正月二日甲戌、朝法皇、台記

二十六日戊戌、改元、台記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、詔大赦天下、老人僧尼百歲已上賜穀四斛、九十已上三斛、八十已上二斛、七十已上一斛、二月二十一日壬戌、震木工權頭李兼姓闕家災、台記三月二日癸酉、卜定喜子内親王爲齋宮、台記、一代要記、帝王編年記、貴女鈔、五日丙子、法皇美福門院幸熊野、台記○還宮日闕九日庚辰、遣右大臣源雅定於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、台記、伊勢公卿敕使例、夏六月七日丙子、四條東洞院宮火、歷代皇紀、

一代要記、東寺長者補任、帝王編年記、皇年代略記、源平盛衰記、○百錬鈔、寺社雜事記、爲六日、天皇御腰輿、幸關白忠通第、源平盛衰記秋七月八日丙午、大水、百錬鈔九月七日甲辰、謁賀茂社、古今著聞集冬十月十八日甲申、小六條殿火、百錬鈔、帝王編年記、○按一代要記東寺長者補任爲七月十九日、本書竝云皇居、然自忠通第徙小六條殿、諸書不載、無所考、十一月二日戊戌、八條殿火、百錬鈔、園太曆文和二年、上皇避之、徙御三條烏丸第、百錬鈔十二月十五日辛巳、慶尊勝寺塔、仁和寺御傳

二年壬申、春正月二十二日戊午、遣權中納言藤原清隆於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、台記、山槐記、伊勢公卿敕使例、三月七日壬寅、詣鳥羽宮賀法皇五十算、百錬鈔、今鏡、一代要記、歷代皇紀、○古今著聞集爲正月造等身佛像、寫金字壽命經一百卷、使六十僧慶讚之、歌舞宴樂、公卿悉陪、今鏡夏五月二日丙申、謁賀茂社、園太曆貞和三年秋九月十日辛丑、法皇高陽院美福門院幸四天王寺、○還宮日闕冬十月壬戌朔、避方忌於泉殿、山槐記○百錬鈔爲十一

月朔

三年癸酉、春正月辛卯朔、日有食之、百錬鈔二日壬辰、朝法皇、兵範記、公卿補任、二月法皇幸熊野、百錬鈔、帝王編年記、○還宮日闕夏四月十五日甲戌、因幡堂祇園大政所法家書庫火、書數萬卷焚、兵範記、百錬鈔、五月二十一日己酉、試學生於東三條、百錬鈔、古今著聞集、六月六日甲子、左大臣藤原頼長遣兵賀茂捕南都僧玄忠、血汚社中門、百錬鈔是月天皇不豫、兵範記秋七月二十日丁未、祈雨丹生貴布禰、二十五日壬子、奉幣石清水、謝源勝不敬、台記奉幣賀茂、謝藤原頼長不敬、告改造中門廻廊、百錬鈔八月二日己未、證金剛院池生雙頭蓮、十日丁卯、釋奠用晴儀、有三省政寬仁以後久廢、至是復行、台記、百錬鈔是月天皇疾瘳、兵範記九月六日壬辰、月犯斗第五星、七日癸巳、太白犯心前星、九日乙未、又犯心大星、台記二十日丙午、大風雨折木發屋、土御門南殿齋宮野宮倒、台記、百錬鈔、○按台記云、新造內裏南殿、百錬鈔云、新造內裏南殿、據此文、土御門殿、當時爲皇居可知、而其宮成徙御、諸書闕無所考、

二十一日丁未、占風災、是日地震、二十三日己酉、以法皇不豫、非常赦、但神人所訴者、不在赦限、台記、兵範記、是月天皇患目疾、台記

久壽元年甲戌、春正月甲寅朔、以目疾不御殿、十一日甲子、雷、台記夏四月京師兒女吹笛擊鼓詣紫野社、號夜巡禮、敕禁之、百錬鈔、○帝王編年記係三月五月癸丑朔、日有食之、二十三日乙亥、以去年稼穡不登、免美作備前備中備後紀伊淡路阿波土佐八國租半、二十八日庚辰、右大臣兼左近衛大將源雅定罷、公卿補任、台記、一代要記、六月二十日壬寅、省試、二十四日丙午、震土御門殿、秋七月二十九日庚辰、法皇徙御鳥羽新宮、八月二日癸未、卜平野日吉社怪異于軒廊、三日甲申、雨水、祈晴丹生貴布禰、台記九日庚寅、法皇慶鳥羽金剛心院、儀準御齋會、台記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、非常赦、但殺院藏人宗清姓闕、監物仲盛姓闕者、不在赦限、台記十

八日己亥、內大臣兼右近衞大將藤原實能轉左近衞大將、權中納言藤原兼長兼右近衞大將。公卿補任、歷代皇紀。九月十日庚申、法皇高陽院美福門院幸四天王寺、○還宮日闕。冬十月十二日辛卯、卜大神宮怪異于軒廊。台記。二十八日丁未、改元。台記、愚管鈔、百鍊鈔、公卿補任、一代要記、歷代皇紀。赦、但神人所訴者、不在赦限。台記。十一月七日丙辰、遣權中納言藤原重通於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮。台記、伊勢公卿敕使例。十六日乙丑、皇后宮

大炊御門火。二十六日乙亥、右衞門尉源爲義坐其子爲朝在鎭西橫暴奪官。台記。

二年乙亥、夏四月三日己卯、敕太宰府捕源爲朝。百鍊鈔。○保元物語以罷爲義係是日。五月丁未朔、日有食之。十五日辛酉、左衞門尉源賴賢以春日神人訴奪官。台記。六月大飢。百鍊鈔。秋七月先是天皇不豫、至是大漸。三日戊申、非常赦。台記。二十三日戊辰、天皇崩于近衞殿、年十七。台記、愚管鈔、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、毘沙門堂所藏記。○京師本鎌倉本保元物語係八月十六日。火葬船岡山西野、權藏御骨于知足院常行堂、稱近衞院。一代要記、歷代皇紀、帝王編年記。置國忌齋于延勝寺。仁和寺諸記。長寬元年十一月、奉安御骨於鳥羽東殿美福門院塔。百鍊鈔。天皇美姿儀、自幼好和歌、嘗題法華二十八品作歌、頗有古作者之風。今鏡。在位之日、政事悉出法皇、左大臣賴長嫉攝政忠通、而譖於法皇、天皇惡之、親信忠通、然憚法皇、不能如志、居常鬱鬱、積久成疾。愚管鈔。天皇幸石淸水、中路有

葬車過近衞陣前、又幸賀茂、天皇髮髭無故而墮、時人以爲不祥。台記。無幾而崩。

大日本史卷之四十八終

大日本史卷之四十九

本紀第四十九

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保重校

後白河天皇

後白河天皇諱雅仁、鳥羽帝第四子、崇德帝同母弟也、中右記、百錬鈔、今鏡、愚管鈔、一代要記、○源平盛衰記、皇代略紀作第三子、大治二年九月十一日戊戌生於三條殿、中右記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、三條殿據中右記十一月爲親王、中右記、長秋記、一代要記天承元年正月著袴、皇年代略記、皇代略紀、保延三年十二月始讀孝經、中右記、今鏡、皇代略紀、五年十二月冠、百錬鈔、今鏡、愚管鈔、一代要記、歷代皇紀、久壽二年七月二十三日戊辰近衛帝崩、法皇與美福門院關白忠通議立天皇、參取今鏡、愚管鈔、保元物語、二十四日己巳踐阼於高松殿、台記、百錬鈔、公卿補任、毘沙門堂所藏記、園大曆貞和四年、○愚管鈔、一代要記、歷代皇紀、竝作受禪、今鏡爲二十五日、關白忠通、太政大臣實行、左大臣藤原

賴長、內大臣兼左近衛大將藤原實能、權中納言兼右近衛大將藤原兼長竝如故、公卿補任、一代要記、二十六日辛未、月犯太白、台記八月丙子朔、葬近衛天皇、台記、一代要記、歷代皇紀、五日庚辰、地震、二十五日庚子、法皇不豫、二十六日辛丑、六條坊門油小路有物、人首犬身、台記九月二十三日丁卯、以皇子守仁爲親王、是日立爲皇太子、台記、百錬鈔、立坊次第、帝王編年記、以內大臣兼左近衛大將藤原實能爲傅、公卿補任冬十月二十六日庚子、天皇卽位於大極殿、時年二十九、台記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、二十九日癸卯、御禊、十一月二十三日丁卯、大嘗、台記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、二十五日己巳、雷雨暴風、十二月甲戌朔、天皇始御紫宸殿、台記九日壬午、皇太子加元服、台記、愚管鈔、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、十六日己丑、高陽院崩、台記、百錬鈔、女院小傳、○諸書葬闕

保元元年丙子春正月二十六日戊戌、內大臣藤原實能罷左近衛大將、三月四日乙巳、

大納言藤原公教兼左近衞大將、公卿補任、山槐記、五日丙午、以妹子内親王爲皇太子妃、百錬鈔、女院小傳、山槐記、十六日丁巳、偉鑒門災、山槐記、夏四月十九日庚寅、卜定亮子内親王爲齋宮、一代要記、女院小傳、二十七日戊戌、改元、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、皇代略記、〇百錬鈔、帝王編年記、爲二十三日、愚管鈔二十四日、皇年代略記二十八日、秋七月二日辛丑、法皇崩、百錬鈔、愚管鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、是夜葬鳥羽天皇、帝王編年記、玉海安元二年、三日壬寅、京師流言、上皇集兵東三條殿、窺高松殿、敕下野守源義朝、收東三條殿留守少監物藤原光貞等鞠之、五日甲辰、彗星見東方、〇一代要記十一日、見行本爲八日、將軍塚鳴、五日據諸異本保元物語〇見行本爲八日是日以上皇徵兵、道路騷擾、敕源義朝及檢非違使源義康警衞禁内、遣檢非違使平基盛于宇治、源季實于淀、平維繁于栗田口、平實俊于苦集滅道、藤原助經于大江山、捕諸國兵士齎甲入京者、六日乙巳、平基盛獲大和人源親治繫西獄、八日丁未、以左

大臣藤原賴長使僧勝尊修法於東三條殿呪咀國家、使源義朝捕勝尊、廷議處賴長流、九日戊申、上皇徙御白河前齋院第、保元物語、九日據京師杉原鎌倉等諸異本、〇見行本作十一日、十日己酉、遷白河北殿、一代要記、歷代皇紀、京師杉原鎌倉半井本保元物語、天皇使左衞門尉平信兼要藤原賴長於櫃河、愚管鈔、賴長間行入白河、天皇遣左近衞大將藤原公教參議藤原光賴報狀美福門院、美福門院召安藝守平清盛警衞禁内、十一日庚戌、以皇居湫隘、還東三條殿、天皇親執劍璽御腰輿、日據百錬鈔、皇年代略記、從半井本、〇本書不日、關白忠通内大臣藤原實能以下、文武諸臣從焉、黎明源義朝、平清盛、兵庫頭源賴政、式部丞源重成、檢非違使源義康、源光信、源季實、平維繁、平實俊、藤原助經、平信兼、率兵一千七百餘騎、圍白河北殿、〇京師本杉原本作四千五百餘騎、鎌倉本二千三百騎、縱火急攻、大敗之、上皇與親臣數人潛出宮、敕檢非違使燒上皇三條烏丸宮藤原賴長壬生

第及黨與十二家、遣源季實於宇治、備奈良僧徒、保元物語天皇還御高松殿、京師本半井本保元物語復關白忠通氏長者、保元物語、公卿補任、愚管鈔、以安藝守平清盛爲播磨守、下野守源義朝爲左馬頭、檢非違使源義康爲藏人、保元物語十二日辛亥、上皇薙髮、百鍊鈔、一代要記、皇年代略記、使式部丞源重成守上皇於仁和寺、使源季實捕藤原教長源成雅於廣隆、獲之、藤原成隆藤原實清以下將士剃髮相繼出降、保元物語十四日癸丑、藤原

賴長死、公卿補任、百鍊鈔、帝王編年記、保元物語、十五日甲寅、彗星犯五諸侯三公、一代要記使藏人右少辨藤原資長、權右少辨藤原惟方、大外記中原師業、鞫問源師光俊通姓闕藤原家長於東三條、〇京師本保元物語無師光俊通、載教長成隆、藤原成憲及弟經憲泰佐康於勒負廳、〇佐康或作助安、又作資泰、今據台記訂之、按京師杉原二本保元物語竝云、使瀧口泰助安推鞫盛憲經憲、考台記、泰佐康左近府生公春之子、所賜賴長瀧口十人之一也、據此則佐康賴長之黨也、二本誤、今不取、使檢非違使平實俊幽重仁親王於東洞院、十九日

戊午、斬平家弘源爲義平忠正及子弟黨類七十餘人、〇百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、皇代略記、竝爲二十九日、二十一日庚申、遣左史生中原師信等於奈良、發藤原賴長墓、檢其屍、保元物語〇按京師本保元物語、師信作維範、半井本維俊、又按京師本杉原本係二十五日、一代要記、帝王編年記十一日、二十三日壬戌、遷上皇於讚岐、保元物語、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、〇百鍊鈔爲二十四日、京師流言、平清盛源義朝將戰、朝野騷擾、保元物語八月三日壬申、流藤原賴長子兼長師長隆長及黨與十三人、帝王編年記

〇保元物語作十四人九月二日辛丑、捕源爲朝流于伊豆大島、保元物語八日丁未、中納言藤原公能兼右近衛大將、十三日壬子、以內大臣藤原實能爲左大臣、大納言藤原宗輔爲右大臣、大納言藤原伊通爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、冬十月二十日戊午、復置記錄所、百鍊鈔、帝王編年記、參決庶務、今鏡、平治物語、二十六日甲子、勅改定今年曆日、百鍊鈔、帝王編年記、二十七日乙丑、尊皇后曰皇太后、帝王編年記中宮曰皇后、帝王編年記、女院小傳、立女

御藤原忻子爲中宮、（一代要記、帝王編年記、）十一月十八日乙酉、禁京師道路執兵仗、（帝王編年記、參取百錬鈔、今鏡、）是歲敕五畿七道造大內、（愚管鈔、平治物語、）

二年丁丑、春二月六日壬寅、慶讚尊勝陀羅尼於禁內、夏四月二十八日癸亥、試直講經義、五月十四日戊寅、慶七寶塔于禁內、修懺法、（百錬鈔）甲午晦、左大臣兼皇太子傅藤原實能罷、（公卿補任、一代要記、）秋七月甲子朔、大織冠像破裂、（談峯略記）八月九日壬寅、太政大臣實行罷、十

九日壬子、以右大臣藤原宗輔爲太政大臣、內大臣藤原伊通爲左大臣、權大納言藤原基實爲右大臣、權大納言藤原公教爲內大臣、（公卿補任、一代要記、）冬十月八日庚子、大內成、徙御焉、（百錬鈔、帝王編年記、園大曆文和二年、）二十二日甲寅、進造宮諸國司七十二人位、（帝王編年記、參取今鏡、）十一月十三日乙亥、置漏刻、（○按大治二年陰陽寮漏刻燒、蓋至此造之、）十二月二十二日甲寅、敕自今以後、勿拘金神方忌、（百錬鈔）

三年戊寅、春正月、覲美福門院、（今鏡）十日辛未、行幸法勝寺修正、（百錬鈔、帝王編年記、）二十二日癸未、復內宴、（百錬鈔、帝王編年記、古今著聞集、○今鏡係二十日、）二月三日甲午、尊皇太后曰太皇太后、（公卿補任、○帝王編年記係二年、）皇后曰皇太后、（帝王編年記、女院小傳、）準母前齋院統子內親王曰皇后、（女院小傳、後宮略傳、）十三日甲辰、御弘徽殿觀鬬雞、（百錬鈔）十四日乙巳、覲美福門院、（玉蘂、嘉禎元年、）二十八日己未、行幸春日社、（一代要記、月日據園太曆文和二年、）三月十九日己卯、遣權大納

言藤原經宗於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（伊勢公卿敕使例）夏四月二十一日庚戌、以關白忠通家奴淩辱參議藤原信賴、其家司平信範奪官、藤原邦綱除籍、下隨身七人於檢非違使、忠通就第杜門、二十六日乙卯、行幸鳥羽離宮、二十九日戊午、觀競馬於鳥羽、（○帝王編年記爲二十九日行幸鳥羽觀競馬、諸書還宮日闕、）五月戊子晦、觀內教坊舞姬、（百錬鈔）六月二十七日乙卯、修孔雀經法於仁壽殿、（仁和寺御傳）丁巳晦、復相撲節、（百錬鈔、○

(帝王編年記、系二十七日)秋八月十一日戊戌、天皇讓位於皇太子、(今鏡、愚管鈔、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、)上尊號曰太上天皇、(一代要記、歷代皇紀、)遷御高松殿、平治元年五月、修五十講於高松殿、(百錬鈔)先是上皇欲聽政院中如鳥羽法皇故事、(今鏡、玉海養和元年)嬖臣權中納言藤原信賴與前少納言藤原通憲每相傾軋、圖去通憲而專權、引左馬頭源義朝爲黨、十二月信賴與大納言藤原經宗右近衛中將藤原成親檢非違使別當藤原惟

方等作亂、(平治物語)信賴義朝舉兵、夜犯上皇三條殿、(百錬鈔、一代要記、帝王編年記、平治物語、○按八月高松殿火、蓋其後徙御三條殿、然諸書無所考、)上皇大驚、權中納言源師仲進車、上皇倉皇、與上西門院同載出宮、(愚管鈔、平治物語、)信賴使式部丞源重成檢非違使源光基源季實等擁上皇入大內、幽於一本御書所、(愚管鈔○平治物語云、信賴義朝光泰光基季實等擁上皇車、按信賴義朝未知通憲出奔、以爲其在三條殿而火攻、則不應遂入大內、故今不取、)重成季實護之、義朝等放火三條殿、烟焰蔽天、左兵衛尉大江家仲右衛門尉平康忠力戰而死、(平治物語)朝臣宮女赴火陷井、死傷者多、(一代要記、歷代皇紀、平治物語、)信賴入居大內、分命將士、嚴守諸門、徙二條帝於黑戶御所、令藤原經宗藤原惟方護之、自爲大臣大將、遂殺通憲、(平治物語)既而經宗惟方悔黨賊、勸帝潛幸太宰大貳平清盛六波羅第、(愚管鈔、平治物語、)藏人右少辨藤原成賴入奏上皇曰、天皇既幸六波羅、宜速出宮、上皇乃使左衛門尉平泰賴入居寢室、而變服乘馬、幸

仁和寺、(平治物語)既而清盛討信賴義朝、皆伏誅、(百錬鈔、帝王編年記、平治物語、)永曆元年正月、自仁和寺還御參議藤原顯長八條第、(○按山槐記、是後遷御大炊御門殿、而其年月諸書無所考、)時登棚閣以眺望、經宗惟方矯詔以板蔽之、上皇不悅、經宗惟方謂帝當親政事、不宜使上皇知焉、上皇聞之震怒、召清盛曰、朕之抑鬱、由是二人、令朕得甘心、清盛捕之、(愚管鈔、平治物語、參取)將處死、前關白忠通請減一等流之、(平治物語、今鏡、)自是清盛威權漸熾、顯官

美職、咸出其門、(神皇正統記)三月、幸日吉社、十月建熊野日吉社於東山、(百鍊鈔○按建新熊野社、帝王編年記係應保二年、據公事根源、是歲十月建新日吉社、應保二年四月始修祭、蓋二社同時建之、編年記誤、)應保元年將慶平等院、延曆寺疑建戒壇、僧徒蜂起、遂不果、四月諭延曆寺臨慶之、(山槐記、百鍊鈔)僧徒猶疑、戎服陳於東坂下、(山槐記)長寬二年使清盛造蓮華王院、(愚管鈔)安觀世音像一千軀、(帝王編年記、愚管鈔)十二月臨慶焉、(愚管鈔、百鍊鈔、一代要記、帝)永萬元年七月二條帝崩、皇太

子即位、是爲六條帝、(愚管鈔、帝王編年記、百鍊鈔、一代要記、源平盛衰記、)當是時清盛權勢赫奕、上皇厭之、及葬二條帝、延曆寺僧與興福寺僧爭鬪、延曆寺發兵燒清水寺、京師訛言、上皇使延曆寺僧徒討清盛、上皇幸六波羅第親諭之、清盛稱疾不拜謁、(源平盛衰記)仁安元年十月上皇立皇子憲仁親王爲六條帝皇太子、(百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、源平盛衰記、)皇太子於帝實爲皇叔、帝年僅三歲、太子六歲、時人議其彝倫失敘、(源平盛衰記)

十一月從御鳥羽殿、(兵範記)二年正月從御法住寺殿、(百鍊鈔)三年二月六條帝傳位皇太子、是爲高倉帝、(玉海、愚管鈔、百練鈔、一代要記、源平盛衰記、)稱上皇曰一院、(平家物語、源平盛衰記、)初二條帝在位、上皇不得與政、及高倉帝立、上皇在院專決機務、近習以下至北面、遷官加恩、莫不如意、然是時清盛以積威弄朝權、上皇雖嫉其橫暴、而不得制、(源平盛衰記)嘉應元年三月上皇幸高野、(百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、)太政大臣忠雅、內大臣源雅通

以下扈從、(百鍊鈔、一代要記、)還過清盛福原別莊、(百鍊鈔)是後屢臨焉、(玉海、百鍊鈔、)六月上皇薙髮、法名行眞、(百鍊鈔、一代要記、源氏盛衰記、)受戒于園城寺長吏覺忠、(玉海、百鍊鈔、源平盛衰記、)二年幸熊野、(玉海)巡行三山、建率堵婆於瀧本、書曰智證門院阿闍梨瀧雲坊行眞、(源平盛衰記)四月幸奈良、受戒于東大寺、(玉海、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、○東寺長者補任爲三月、)會一千僧供養之、(百鍊鈔)承安元年十月幸福原、淹留數日、二年七月三條室町宮成、從御焉、三年五月

鴨合於院内、權大納言平重盛爲左長、權中納言藤原邦綱爲右長、重盛邦綱據玉海 十月從御法住寺殿新堂、觀建春門院慶最勝光院、玉海、百錬鈔 四年三月幸福原、遂幸嚴島、玉海、百錬鈔、源平盛衰記、九月令樣合、玉海、百錬鈔、歷代皇紀、選善謡者三十人、限十五夜、使大納言藤原師長權中納言源資賢判其優劣、至十三夜、法皇親唱一曲、世傳稱之、百錬鈔 安元二年三月法皇壽五十、高倉帝行慶壽禮於法住寺殿、宴樂歌舞、帝自吹笛、玉海、百錬鈔、帝王編年記、安元御賀記、 四月造堂於法住寺殿、安觀世音像一千一軀、百錬鈔 幸延曆寺、受戒於座主明雲、治承元年四月慶七條殿佛堂、修法華八講於長講寺、限百日、玉海、百錬鈔、 是時權大納言藤原成親有寵於法皇、藤原師光亦爲法皇所親近、頗張威福、成親有憾于清盛、與師光相結引樹黨友、圖滅平氏、數會議于法勝寺執行俊寛鹿谷別莊、源平盛衰記、平家物語、 法皇聞其謀、欲寄往而臨之、僧靜賢諫而止、源平盛衰記○按平家物語云、法皇時幸山莊、愚管鈔亦云、前法勝寺執行靜賢時爲蓮華王院執行、構山莊於鹿谷、法皇屢遊幸焉、成親師光俊寛等就謀寄事、與此大異、未知孰是、既而事覺、清盛收成親師光等、或流或殺、將幽法皇於鳥羽、其子重盛切諫而止、自是法皇與清盛益相猜忌、源平盛衰記、平家物語、

十二月幸蓮華王院、慶五重木塔、玉海、百錬鈔、帝王編年記、 二年六月角合於院内、百錬鈔 十二月修往生講、玉海、百錬鈔、 自是月修、玉海 三年十一月清盛憾法皇收重盛舊領、率兵入京師、人情恟恟、法皇憂懼、玉海、源平盛衰記、 遣僧靜賢於六波羅、慰諭清盛、源平盛衰記、 清盛猶不釋然、幽法皇於鳥羽殿、百錬鈔、源平盛衰記、 四年二月高倉帝傳位於皇太子、是爲安德帝、時清盛子宗盛爲法皇屬說清盛、源平盛衰記、 因從法皇于八條烏丸第、稍緩防衛、山槐記、源平盛衰記、○按玉海作内藏頭季能家、百錬鈔俊盛亭、未知孰是、 會以仁王起兵討清盛、事敗、玉海、源平盛衰記、 六月清盛遂遷法皇於福原新京、玉海、百錬鈔、 幽于板屋、源平盛衰記、平家物語、 八月源賴朝起兵伊豆、九

月源義仲起兵信濃、(東鑑、源平盛衰記、)十一月清盛還京師、法皇御平重盛六波羅舊第、(玉海○源平盛衰記作法住寺)十二月徙御權中納言平賴盛第、與上皇同居、(玉海、百鍊鈔、)清盛從此不復禁近臣入侍、獻美濃讚岐、請聽政如故、(玉海、)養和元年正月上皇崩、安德帝尚幼、法皇又聽斷萬機、(百鍊鈔、)閏二月清盛薨、法皇還法住寺殿、(玉海、百鍊鈔、帝王編年記、平家物語、)十二月移法住寺殿於蓮華王院側、徙御焉、(源平盛衰記、)壽永元年四月幸延曆寺、

慶金泥如法經於日吉社、(金泥據百鍊鈔、)京師訛言、法皇敕僧徒討平氏、(玉海、源平盛衰記、平家物語、)兵士警衞內裏、(源平盛衰記、平家物語、)平重衡迎法皇而還、(百鍊鈔、源平盛衰記、平家物語、)二年七月平宗盛等聞源義仲迫京師、將奔西海、(吉記、源平盛衰記、平家物語、)法皇夜出宮、間道幸延曆寺、(玉海、吉記、百鍊鈔、源平盛衰記、平家物語、)左馬頭源資時檢非違使平知康等從、(吉記、源平盛衰記、長門本平家物語、)以圓融房爲行宮、(吉記、一代要記、源平盛衰記、平家物語、)宗盛遂挾帝及建禮門院西奔、(玉海、吉記、百鍊鈔、源平盛衰記、長門本平家物語、)法皇還御法住寺殿、源義仲源行家等入京師、法皇敕討平氏、以義仲爲左馬頭、兼越後守、行家爲備後守、法皇憂京師無主、將有所立、而以無三種神器疑之、遂卜決之、(玉海、百鍊鈔、源平盛衰記、)源義仲稱故以仁王功、欲立其子北陸宮、(玉海、源平盛衰記、)法皇與攝政基通前關白基房左大臣藤原經宗右大臣藤原兼實議、立皇孫尊成親王、是爲後鳥羽帝、(玉海、)源義仲縱士卒侵掠輦下、(玉海、源平盛衰記、)十一

月法皇徵延曆寺園城寺僧徒、備義仲橫暴、(源平盛衰記、)義仲遂反、襲法住寺殿、遷法皇于攝政基通五條第、(玉海、百鍊鈔、源平盛衰記、)十二月徙御左馬權頭大江業忠六條西洞院第、(源平盛衰記、左馬權頭據吉記、大江據長門本平家物語、○本書及保曆間記並作大膳大夫、)義仲逼請院宣討源賴朝、法皇不得已而許之、(百鍊鈔、)元曆元年正月源賴朝遣弟範賴義經討義仲、義仲敗走、義經等入京師、護六條第、(東鑑、源平盛衰記、)法皇遂敕賴朝討平氏、(玉海、源平盛衰記、)四月

徙御白河押小路殿、玉海、吉記、文治元年八月幸東大寺、慶大像、親點眼、玉海、山槐記、百錬鈔、一代要記、源平盛衰記、○帝王編年記係二年誤、是時源義經護衛京師、與兄賴朝有隙、叔父行家亦爲賴朝所疎斥、每怨之、義經遂與之合、十月詣法皇宮、請下追討賴朝宣旨、法皇又不得已許之、賴朝遣兵擊走義經、以故賴朝憾法皇、不肯入朝、十一月法皇遣使於鎌倉、告諭賴朝、且下院宣於諸國、捕行家義經、以悅其意、玉海、東鑑、賴朝遣北條

時政於京師、請置守護地頭於諸國、東鑑、源平盛衰記、十二月賴朝上書、黜陟公卿、悉奪黨行家義經者官職、法皇曲意、皆從其請、玉海、東鑑、三年八月受灌頂於園城寺、玉海、一代要記、建久元年十一月源賴朝入朝、屢謁法皇、陽陳誠款、法皇大悅、遇之極厚、玉海、東鑑、愚管鈔、二年十二月不豫、玉海、東鑑、先是源賴朝爲法皇復造法住寺殿、至是成、從御焉、一代要記、東鑑、三年三月十三日乙酉崩于六條殿、玉海、百錬鈔、年六十六、玉海、帝王編年記、○一代要記、東鑑竝作六十七誤、葬于蓮華王院法華堂、玉海、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、稱後白河院、卽位之初、專任藤原通憲、造營大內、置記錄所、復內宴相撲之儀、世傳稱之、今鏡、平治物語、法皇素好佛、玉海、去位之後、數幸石清水熊野日吉四天王寺等、修法讀經、殆無虛歲、參取玉海、百錬鈔、在院三十餘年、擁立五帝、而皆幼冲、擧措黜陟、如白河鳥羽二帝、神皇正統記、然自是亂逆相踵、武臣專制、大權一去、不可復收焉、愚管鈔、

大日本史卷之四十九終

大日本史卷之五十

本紀第五十

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

二條天皇

二條天皇諱守仁、後白河帝長子也、母贈皇太后藤原氏、今鏡、愚管鈔、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、神皇正統記、康治二年六月十七日壬寅、生於三條東洞院第、一代要記、皇年代略記、皇未幾失恃、美福門院鞠之宮中、今鏡久安六年十二月著袴、皇年代略記仁平元年十月、就仁和寺覺性法親王學、年月據一代要記、皇年代略記、幼而敏慧、略曉俱舍大義、久壽二年七月、後白河帝卽位、美福門院謂天皇長子宜居儲宮、廼遣使仁和寺、迎入宮中、今鏡九月爲親王、卽日立爲皇太子、台記、一代要記、帝王編年記、立坊次第、皇年代略記、十二月冠於高松殿、台記、一代要記、高松殿據皇年代略記、保元三年八月十一日戊戌、皇太子受禪

於昭陽舍、愚管鈔、一代要記、歷代皇紀、昭陽舍據百鍊鈔、毘沙門堂所藏記、關白忠通罷、以右大臣藤原基實爲關白、太政大臣宗輔、左大臣藤原伊通、內大臣兼左近衞大將藤原公教、權大納言兼右近衞大將藤原公能竝如故、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、十七日甲辰、尊後白河帝曰太上天皇、一代要記、帝王編年記、皇年代略記、二十日丁未、自昭陽舍徙御清涼殿、皇年代略記冬十二月二十日丙午、天皇卽位於大極殿、時年十六、今鏡、歷代皇紀、天祖禮祀職掌錄、大極殿據帝王編年記、

皇年代略記、二十五日辛亥、卜定好子內親王爲齋宮、一代要記、帝王編年記、平治元年己卯、春正月三日戊午、覲上皇于高松殿、山槐記、帝王編年記、九日甲子、行幸押小路第、避方忌、還御一本御書所、十一日丙寅、還宮、山槐記十二日丁卯、觀舞妓於清涼殿東庭、山槐記、百鍊鈔、十六日辛未、右近衞少將源通家坐與藏人尹頼相毆殿上罷、尹頼除籍、山槐記○尹頼姓闕二月十三日戊戌、上上皇準母皇后號曰上

西門院、（山槐記、今鏡、後宮略傳、）十九日甲辰、行幸押小路第、避方忌、（山槐記）二十一日丙午、改上皇中宮曰皇后、（公卿補任、○按帝王編年記爲四月、誤、）立妃妹子内親王爲中宮、（山槐記、公卿補任、帝王編年記、女院小傳、○按今鏡爲二十四日、後宮略傳永曆元年正月、竝誤、）夏四月二十日甲辰、改元、（愚管鈔、百鍊鈔、公卿補任、一代要記、帝王編年記、）五月二十九日壬午、廷議國忌廢置、（百鍊鈔）閏月三日丙戌、使千僧讀經東大寺祈雨、（東大寺雜錄）六月二十四日丙子、置贈皇太后國忌於東寺、（年中行事、所生藤原懿子贈皇太后、蓋在即位後、然檢諸書、年月無所考、故不書、）秋七月十九日庚子、置堀河天皇國忌、（百鍊鈔）八月十六日丁卯、高松殿火、（百鍊鈔、園大曆文和二年、○帝王編年記作十五日、）是秋太宰府竈門宮、播磨伊和社火、（百鍊鈔）冬十月二十一日辛未、御禊、（一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）二十五日乙亥、卜定式子内親王爲齋院、（帝王編年記、兵範記、嘉應元年、）十一月二十三日癸卯、大嘗、（一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、）二十六日丙午、六條院河原院崇親院火、（百鍊鈔）十二月九日己未、白虹貫

日、（平治物語）權中納言藤原信賴、左馬頭源義朝反、率兵夜襲三條殿、放火燒宮、（平治物語、愚管鈔、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、）幽上皇於一本御書所、（平治物語、愚管鈔、百鍊鈔、帝王編年記、）左兵衛尉大江家仲、右衛門尉平康忠死之、（平治物語）信賴遂入宮中、遷天皇於黑戸御所、（平治物語、愚管鈔、）十三日癸亥、藤原信賴殺前少納言藤原通憲、（平治物語）二十二日壬申、流參議藤原俊憲於越後、（公卿補任）二十五日乙亥、夜天皇潛出宮、行幸太宰大貳平清盛六波羅第、（平治物語、愚管鈔、百鍊鈔、帝王編年記、）上皇幸仁和寺、（百鍊鈔、○平治物語爲二十六日、）二十六日丙子、左衛門佐平重盛與藤原信賴源義朝戰于六條河原、大敗之、（參取百鍊鈔、愚管鈔、帝王編年記、平治物語、）二十七日丁丑、藤原信賴伏誅、（公卿補任、帝王編年記、○百鍊鈔係二十六日、）二十八日戊寅、賞平清盛平重盛等功、授官進爵、黜藤原信賴黨與七十餘人官職、（平治物語）己卯晦、天皇遷御美福門院八條第、（百鍊鈔、愚管鈔、）

永曆元年庚辰、春正月庚辰朔、不受朝、（帝王編年

（記、平治物語、）四日癸未、源義朝伏誅、（帝王編年記、○平治物語）（爲三日）六日乙酉、上皇自仁和寺遷御皇后宮大夫藤原顯長八條第、（平治物語）十日己丑、改元、（愚管鈔、百錬鈔、公卿補任、一代要記、帝王編年記、）二十六日乙巳、迎藤原多子入宮、（帝王編年記）二月、召還流人藤原俊憲、（公卿補任）三月十一日庚寅、流前權大納言藤原經宗於阿波、（源平盛衰記、愚管鈔、○公卿補任、一代要記、係十二日、）前權中納言源師仲於下野、（公卿補任、一代要記、）前參議藤原惟方於長門、（源平盛衰記、愚管鈔、○公卿補任、一代要

記、係十二日、）源義朝子頼朝於伊豆、（公卿補任、愚管鈔、○帝王編年記、係二十日、）其餘黨藤原信頼者、處流有差、（帝王編年記）二十五日甲辰、上皇幸日吉社、夏四月十九日丁卯、以兵革故、改造内侍所神鏡韓櫃、奉安温明殿、奏神樂三日、（百錬鈔）五月十五日壬辰、先是肥前人日向太郎通良反、平清盛爲太宰大貳、奉敕討平之、是日傳首京師、上皇幸鳥羽殿觀之、（源平盛衰記）六月十四日辛酉、前出雲守源光保、及子備前守光宗坐謀

不利于上皇、流於薩摩、（參取今鏡、百錬鈔、帝王編年記、源平盛衰記、○今鏡不日、編年記爲十六日、盛衰記十五日、不載光保、）十九日丙寅、修孔雀經法於押小路第、（孔雀經御修法記）二十二日己巳、洪水、壞日吉二宮十禪師神殿、（百錬鈔）秋七月七日癸未、内大臣藤原公教罷左近衞大將、九日乙酉薨、（山槐記、公卿補任、）二十日丙申、大政大臣宗輔罷、（公卿補任、一代要記、）二十二日戊戌、修七佛藥師法於禁内七日、八月丙午朔、日有食之、（山槐記）十一日丙辰、以左大臣藤原伊

通爲太政大臣、右大臣基實爲左大臣、關白仍舊、權大納言藤原公能爲右大臣、權大納言藤原基房爲内大臣、（山槐記、公卿補任、一代要記、）十四日己未、内大臣藤原基房兼左近衞大將、（公卿補任、一代要記、）二十日乙丑、謁石清水宮、（山槐記、嶋嶺年代記、）二十一日丙寅、車駕還過鳥羽殿、二十二日丁卯、還御大炊御門第、（山槐記○按、先是遷御八條第、其後遷于大炊御門、月日、諸書無所考、）二十七日壬申、行幸賀茂社、觀騎馬、（山槐記）冬十月十二日丙辰、延暦寺僧

徒以訴事、奉日吉神輿入京、十七日辛酉、以僧徒訴、流菅原資成、○資成官職無所考奪治部權少輔菅原貞衡官、二十三日丁卯、上皇幸熊野、百鍊鈔十一月二十三日丁酉、至自熊野、美福門院崩、二十四日戊戌、葬美福門院、十二月十五日己未、發八十島使、山槐記十七日辛酉、廷議高麗拘留對馬商、山槐記、百鍊鈔二十七日辛未、御大内、山槐記

應保元年辛巳、春二月七日庚戌、鳥羽北殿

火、園太暦文和二年夏四月七日己酉、上皇慶平等院、山槐記、百鍊鈔二十二日甲子、以變異遣參議平清盛於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例、山槐記六月旱、辛未晦、讀經神泉苑五日、秋七月三日甲戌雨、六日丙午、修七佛藥師法於禁中、山槐記八月十一日辛亥、右大臣兼右近衛大將藤原公能薨、山槐記、公卿補任、一代要記十九日己未、權中納言藤原兼實爲右近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀二十日庚申、行幸平野社、二十五日乙丑、行幸大原野社、山槐記九月四日癸酉、改元、山槐記、愚管鈔、百鍊鈔、一代要記、顯廣王記、天皇患疱瘡、八日丁丑、奉幣二十一社禱之、山槐記十三日壬午、以内大臣藤原基房爲右大臣、大納言藤原宗能爲内大臣、公卿補任、一代要記十五日甲申、左馬權頭平教盛、○源平盛衰記作賴盛誤右少辨平時忠坐謀立皇弟憲仁爲皇太子奪官、山槐記、源平盛衰記二十八日丁酉、上皇親臣右馬頭藤原信隆、左近衛中將藤原成親等坐事奪官、百鍊鈔○

本書信隆作伊隆、今據公卿補任訂之、冬十二月五日癸卯、遣權大納言藤原光賴于伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例二十七日乙丑、以藤原育子爲女御、尊卑分脈

二年壬午、春正月戊辰朔、日有食之、百鍊鈔十六日癸未、節會、以月蝕不御殿、園太暦延文元年二十八日乙未、重仁親王薨、一代要記丁酉晦、前太政大臣宗輔薨、公卿補任二月五日壬寅、號中宮妹子曰高松院、公卿補任、貴女鈔、女院小傳、○今鏡爲十三日、後宮略傳

爲三年七月九日、十九日丙辰、立女御藤原育子爲中宮、公卿補任、帝王編年記、達幸故實鈔、○尊卑分脈爲二十九日、一代要記扶桑略記竝爲元年十二月十七日、閏月十四日辛亥、修孔雀經法於高倉殿、孔雀經御修法記、仁和寺御傳、○按二書竝云、土御門內裏、御修法記註云、高倉前關白亭、百錬鈔云、三月二十八日遷幸新造里內、本御關白第高倉殿、未知以何年月遷御高倉殿、諸書無所考、三月七日甲戌、召還流人藤原經宗、百錬鈔、公卿補任、十日丁丑、遣權中納言平清盛于熊野、帝王編年記、二十八日乙未、二條院成、自高倉殿還御、百錬鈔、帝王編年記、夏四月

丙申晦、始修新日吉祭、公事根源、五月八日甲辰、能登守藤原重家坐造言除籍、百錬鈔、二十七日癸亥、前右大臣源雅定薨、公卿補任、尊卑分脈、六月二日丁卯、上皇親臣上總介源雅賢坐事奪官、帝王編年記、○本書介作守、今訂之、十八日癸未、前太政大臣忠實薨、百錬鈔、公卿補任、二十三日戊子、以咒詛國家、流上皇親臣修理大夫源資賢及子右近衞少將通家于信濃、刑部大輔平時忠于出雲、北面藤原範忠于周防、參取百錬鈔、愚管鈔、帝王編年

記、源平盛衰記、公卿補任、尊卑分脈、秋七月二十八日癸亥、前太政大臣實行薨、公卿補任、尊卑分脈、八月十四日戊寅、行幸稻荷社、祇園社、先是祇園廊屋倒、廷議臨幸謝之、始奏神樂、冬十月九日壬申、避方忌於勘解由小路殿、百錬鈔、十七日庚辰、修孔雀經法於禁內、孔雀經御修法記、

長寬元年癸未、春正月二日癸巳、覲上皇于法住寺殿、二月十九日庚辰、上皇幸熊野、三月十一日壬寅、皇后大炊御門第火、十四日

乙巳、行幸賀茂社、十五日丙午、上皇至自熊野、庚申晦、廷議小朝熊神殿鏡神寶失、百錬鈔、是日改元、百錬鈔、愚管鈔、帝王編年記、一代要記、公卿補任、○歷代皇紀爲二十八日、夏五月七日丁酉、春日高倉及梅小路烏丸女子一產四子、九日己亥、以延曆寺興福寺爭訟、罷最勝講、百錬鈔、六月八日丁卯、遣權中納言平清盛于伊勢、奉宸筆宣命神寶於大神宮、伊勢公卿勅使例、九日戊辰、延曆寺僧徒攻園城寺、燒堂塔房舍、一代要記、歷代皇紀、百錬鈔、帝王編年記、

皇年代略記、秋七月十三日壬寅、修孔雀經法於禁內、祈國家安靖、孔雀經御修法記、仁和寺御傳、冬十月二十三日庚辰、謁石清水宮、鳩嶺年代記、百鍊鈔、二十七日甲申、行幸賀茂社、百鍊鈔、十一月十日丁酉、遣權中納言平清盛于伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例、二十七日甲寅、地大震、顯廣王記○本書此條在三月下、而直接十二月、按三月壬辰朔、二十七日則己未也、十一月戊午朔、是日干支與本書合、蓋此條十一月事、而中間有脫簡也、故今書於此、十二月二十八日乙卯、移藏近衛帝御骨于鳥羽塔、百鍊鈔

十二月十三日己巳、西京火、延燒左馬寮眞言院中和院木工寮、顯廣王記、參取百鍊鈔、十四日庚午、上皇幸熊野、顯廣王記○諸書還宮日闕、二十六日壬午、慶延勝寺阿彌陀堂、百鍊鈔

二年甲申春正月二十八日己未、紀伊日前國懸社火、百鍊鈔○帝王編年記係二十六日、二月十九日甲戌、前關白太政大臣忠通薨、百鍊鈔、公卿補任、歷代皇紀、二十六日辛巳、地大震、一代要記、三月二十二日丁未、以日前國懸社火廢朝、百鍊鈔、夏四月二十六日庚辰、上皇幸延曆寺、百鍊鈔、帝王編年記、使一千僧讀經中堂、百鍊鈔、留七日、帝王編年記、六月二十七日庚辰、召還流人藤原師長源資賢及子通家菅原資成等、百鍊鈔、二十九日壬午、奉幣二十二社、山槐記、秋八月五日戊午、以天變修孔雀經法於北院、孔雀經御修法記、仁和寺御傳、十九日壬申、謁石清水宮、鳩嶺年代記、二十六日己卯、新院崩於讚岐、百鍊鈔、愚管鈔、歷代皇紀、帝王編年記、一代要記、九月二十一日甲辰、興福寺僧徒修萬僧讀經於

東大寺、祈國家治安、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、冬閏十月七日戊子、關白基實罷左大臣、一代要記○愚管鈔作十七日、十三日甲午、內大臣藤原宗能罷、二十三日甲辰、以右大臣藤原基房爲左大臣、權大納言藤原經宗爲右大臣、權大納言藤原兼實爲內大臣、公卿補任○玉海以經宗兼實任官係十七日、十一月辛亥朔、日南至、公卿表賀、朔旦冬至記、引光長記、十二月十七日丁酉、上皇慶蓮華王院、百鍊鈔、愚管鈔、一代要記、帝王編年記、

永萬元年乙酉、春正月二日壬子、覲上皇于法住寺殿、(山槐記、顯廣王記、達幸故實鈔)二月三日壬午、太政大臣伊通罷、十五日甲午、前太政大臣伊通薨、(顯廣王記、公卿補任、一代要記、歷代皇紀)是春不豫、(源平盛衰記)夏四月十二日庚寅、近衛河原有兒、二頭四手、(百錬鈔○顯廣王記作二頭三足)二十二日庚子、上皇幸延曆寺、留七日、(山槐記、顯廣王記、帝王編年記)二十四日壬寅、以不豫大赦、二十七日乙巳、奉幣祈晴、戊申晦、奉幣伊勢以下十社禱疾、(山槐記、顯廣王記)五月己酉朔、修孔雀經法於禁內、(仁和寺御傳、孔雀經御修法記、一代要記)四日壬子、祭主大中臣師親坐祭祀不敬奪官、(百錬鈔)丁丑晦、遣參議平重盛于伊勢、奉宸筆宣命神寶於大神宮、禱弗豫、(顯廣王記、伊勢公卿勅使例)六月四日辛巳、地震、(山槐記、顯廣王記)五日壬午、改元、(顯廣王記、百錬鈔、愚管鈔、公卿補任、一代要記)七日甲申、蓮華王院醴泉涌出、(帝王編年記、年代記殘編、○百錬鈔爲八日)十三日庚寅、慶廣隆寺、(顯廣王記、一代要記)是夏京師多杜鵑、鬪墜殿上、天皇惡之、捕入之獄、(源平

盛衰記、古事談)二十五日壬寅、大漸、以皇子順仁爲親王、(百錬鈔、顯廣王記、源平盛衰記)是夜立爲皇太子、(百錬鈔)天皇讓位於皇太子、(今鏡、顯廣王記、百錬鈔、愚管鈔、源平盛衰記)上尊號曰太上天皇、(一代要記、歷代皇紀、皇年代略記)稱新院、(百錬鈔、源平盛衰記)七月二十八日乙亥、崩于二條院、年二十三、(顯廣王記、百錬鈔、帝王編年記、公卿補任、源平盛衰記、皇年代略記、○愚管鈔爲二十二日、平家物語二十七日)火葬於香隆寺、(顯廣王記、百錬鈔、平家物語、源平盛衰記)稱二條院、(百錬鈔、皇年代略記)嘉應二年五月藏御骨於三昧堂、(百錬鈔)帝性沈重不發、(今鏡)信任藤原經宗藤原惟方、(愚管鈔)政事一諮關白、不使上皇與知焉、(百錬鈔)由是二宮不協、近臣用事者、上皇逐之、上皇嬖臣、帝貶黜之、放流相踵、人懷危懼、上皇嘗請進平信範平時忠官爵、帝不聽曰、天子無私親、雖上皇言、而政豈可私乎、反奪信範時忠官、授其所請官於藤原長方藤原重方、(源平盛衰記)上皇慶蓮華王院、欲帝臨之、而帝不省、上皇使藏人平親範請賞造寺功、又不肯從、上皇灑泣

曰、何所惡而至此、（愚管鈔、長門本平家物語）時論謂帝長於政事、短於孝道、（源平盛衰記）

大日本史卷之五十終

大日本史卷之五十一

本紀第五十一

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保重校

六條天皇

六條天皇諱順仁、二條帝第二子也、百鍊鈔、今鏡、○帝王編年記、一代要記、皇代記、皇年代略記、作第一子、母伊岐氏、皇胤紹運錄、顯廣王記、神皇正統記、皇年代略記、○源平盛衰記作紀氏、長寬二年十

一月十四日乙未生、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、皇年代略記、皇胤紹運錄、中宮藤原氏子養之、皇胤紹運錄、皇年代略記、今鏡、永萬元年二條帝不豫、六月二十五日壬寅、詔爲親王、百鍊鈔、源平盛衰記、其夜立爲皇太子、百鍊鈔、受禪於高倉殿、百鍊鈔、愚管鈔、今鏡、源平盛衰記、高倉殿據顯廣王記、毘沙門堂所藏記、皇年代略記、以關白基實攝政、左大臣兼左近衞大將藤原基房、右大臣藤原經宗、內大臣兼右近衞大將藤原兼實並如故、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十九日丙午、尊二條帝曰太上天

皇、顯廣王記、皇年代略記、秋七月二十七日甲戌、天皇卽位於大極殿、時年二歲、顯廣王記、公卿補任、一代要記、皇代記、○百鍊鈔、皇年代略記、天祚禮祀職掌錄爲二十六日、源平盛衰記係六月誤、二十八日乙亥、上皇崩、公卿補任、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、源平盛衰記、八月丁丑朔、大風、會昌門壞、顯廣王記、百鍊鈔、七日癸未、葬二條天皇、顯廣王記、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、諸寺僧徒會葬、揭榜爲班、延曆寺班於興福寺上、興福寺僧怒、斫延曆寺榜以辱之、顯廣王記、平家物語、源平盛衰記、九日乙酉、延曆寺僧徒戎服

至清水寺、火其堂宇、以報興福寺、顯廣王記、百鍊鈔、帝王編年記、源平盛衰記、京師流言、上皇敕僧徒討平清盛、清盛子弟會議六波羅、聚兵自衞、廷議使兵庫頭源賴政、檢非違使平信兼等陣郊外、內藏頭平教盛、若狹守平經盛等衞護大內、上皇幸清盛第、親慰諭之、源平盛衰記、參取平家物語、二十八日甲辰、行幸六條烏丸第、避僧徒擾亂、丙午晦、遣右中辨藤原俊經于興福寺、諭僧徒、僧徒不奉詔、顯廣王記、九月十四日庚申、召還

流人平時忠、百錬鈔、公卿補任、二十八日甲戌、遣兵粟子山、人以備興福寺僧徒、百錬鈔、是月八條宮火、東寺長者補任、冬十月二十七日癸卯、興福寺僧徒奉神木神輿入京、請流延暦寺座主俊圓、二十八日甲辰、敕許其請、僧徒還奈良、京師解嚴、百錬鈔、十一月四日己酉、上皇幸日吉社、十三日戊午、上皇幸熊野、○本書還宮日闕、二十六日辛未、遣使諸山陵告即位、顯廣王記、十二月二十五日庚子、人以皇叔憲仁為親王、顯廣王記、百錬鈔、一

代要記、皇年代略記、

仁安元年丙戌、春二月十六日庚寅、慶行顯寺、百錬鈔、三月二十二日乙丑、彗星見大微右掖門、貫右執法、一代要記、二十九日壬申、召還流人源師仲藤原惟方、夏六月旱、秋七月五日丙午、修孔雀經法於神泉苑、是日大雨、二十五日丙寅、應天門廊無故而倒、百錬鈔、二十六日丁卯、攝政基實薨、百錬鈔、公卿補任、一代要記、二十七日戊辰、人以左大臣藤原基房攝政、公卿補任、百錬鈔、○一代要記、歷代皇紀為二十六日、八月十七日戊子、攝政基房罷左近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十七日戊戌、改元、百錬鈔、公卿補任、一代要記、帝王編年記、皇年代略記、內大臣兼右近衛大將藤原兼實轉左近衛大將、大納言藤原忠雅兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、冬十月辛未朔、日有食之、兵範記、十日庚辰、立皇叔憲仁親王為皇太子、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、今鏡、○愚管鈔為二年十一月七日、平家物語八日、竝誤、人以內大臣藤原兼實為傅、公卿補任、歷代皇紀、二十日庚寅、行

幸參議藤原成賴土御門東洞院第、避方忌、二十一日辛卯、還宮、兵範記○按愚昧記立太子條、皇居五條內裏云云、據此還宮者蓋五條內裏也、然還御年月、諸書無所考、藤原兼實罷左近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、二十七日丁酉、御禊、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、右大臣藤原經宗兼左近衛大將、公卿補任、一代要記、十一月三日癸卯、上皇從御鳥羽殿、兵範記、四日甲辰、攝政基房罷左大臣、十一日辛亥、人以右大臣藤原經宗為左大臣、內大臣藤原兼實為右大臣、權大納

言平清盛爲内大臣、（公卿補任、歷代皇紀、）十五日乙卯、大嘗、（一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、）十二月八日丁丑、卜定休子内親王爲齋宮、（一代要記、）二十四日癸巳、皇太子所居東三條第火、（百錬鈔、帝王編年記、）

二年丁亥春正月十九日戊午、上皇徙御法住寺殿、（愚昧記、顯廣王記、百錬鈔、）二十三日壬戌、車駕還五條内裏、（顯廣王記○按本書先是不載遷幸其所、諸書無所考、）二十八日丁卯、覲上皇、（玉海、愚昧記、顯廣王記、百錬鈔、）二月十一日庚辰、以内大臣平清盛爲太政大臣、大納言藤原忠雅爲内大臣、（玉海、山槐記、愚昧記、公卿補任、一代要記、）十五日甲申、上西門院所居松殿火、（山槐記、）十九日戊子、上皇幸熊野、三月十三日辛亥、上皇還宮、（山槐記、顯廣王記、愚昧記、）十六日甲寅、卜豐受宮怪於軒廊、（山槐記、）夏四月戊辰朔、日有食之、（山槐記、顯廣王記、愚昧記云不蝕、）○六日癸酉、卜平野社怪於軒廊、二十三日庚寅、避方忌於鳥羽北殿、五月戊戌朔、上皇幸日吉社、（山槐記、）十七日甲寅、太政大臣清盛罷、（公卿補任、山槐記、）十九日丙辰、以五

條内裏有怪、遷御藤原邦綱土御門第、（愚昧記、顯廣王記、）二十八日乙丑、蚯蚓聚於齋宮、濶三尺、長一丈、皆死、六月五日辛未、卜之軒廊、十九日乙酉、奉幣二十二社禳之、（顯廣王記、）二十三日己丑、延暦寺所司三綱日吉社司等詣上皇宮、訴座主快修燒山上房舍、（百錬鈔、）秋七月九日甲辰、軒廊無故而倒、（愚昧記、顯廣王記、百錬鈔○玉海爲十一日、）十三日戊申、不豫、十六日辛亥、以天變怪異荐見、修北斗法禳之、（玉海、）十七日壬子、祈雨丹生貴布禰、（顯廣王記、）二十日乙卯、卜軒廊倒、（愚昧記、顯廣王記、）二十四日己未、怪雲亘天、（顯廣王記、）八月二十七日辛酉、自大内徙御五條内裏、（愚昧記○按先是遷御大内、諸書無所考、）九月十五日己卯、祈晴丹生貴布禰、（顯廣王記、）二十一日乙酉、上皇幸熊野、（玉海、顯廣王記、）二十七日辛卯、五條内裏火、天皇避之高倉殿、甲午晦、徙御大内、（玉海、愚昧記、顯廣王記、百錬鈔、）冬十月九日癸卯、卜五條内裏火于軒廊、（兵範記、）十一日乙巳、上皇至自熊野、二十五日己未、

上皇幸日吉社、留三日、玉海、愚昧記、十一月十一日乙亥、發大奉幣使、十二月十六日己酉、發八十島使、顯廣王記、二十二日乙卯、修仁王大會、愚昧記○一代要記作二十三日、三年戊子春正月二十八日辛卯、行幸攝政基房第、玉海、二月十三日丙午、京師火、延燒三千餘家、十六日己酉、以前太政大臣清盛疾非常赦、百錬鈔、吉部祕訓鈔、十九日壬子、天皇讓位於皇太子、玉海、百錬鈔、愚管鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、○源平盛衰記係

二年誤、上尊號曰太上天皇、玉海、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、○併攷毘沙門堂所藏記、愚昧記四月九日條、讓位後仍御土御門里亭、然自大内還里亭、年月無所考、稱新院、未加元服而稱太上天皇者、以帝爲始、愚昧記、平家物語、源平盛衰記、安元二年七月患痢、出御藤原邦綱東山第、十七日庚申、崩于東山第、顯廣王記、百錬鈔、參取一代要記、帝王編年記、年十三、葬于清閑寺、明月記○一代要記爲栖霞寺、稱六條院、一代要記、帝王編年記、

大日本史卷之五十一終

大日本史卷之五十二

本紀第五十二

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

高倉天皇

高倉天皇諱憲仁、後白河帝第四子也、二代要記○按本書一說及皇代記六代勝事記、爲第二子、蓋以母爲皇后、故序二條帝之次也、顯廣王記、百錬鈔等諸書爲第三者、以第二子守覺薙髮、列之諸皇子之後、故以四爲三也、

今推生年書之、愚管鈔神皇正統記等爲第五子者誤、母建春門院、應保元年九月三日壬申生、山槐記、一代要記、帝王編年記、○百錬鈔爲六日誤永萬元年十二月爲親王、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、仁安元年十月立爲皇太子、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、愚昧記、十二月著袴、玉海、皇年代略記、玉蘂承久二年、○皇代紀係二年誤二年十二月始讀孝經、玉海、愚昧記、皇年代略記、三年二月十九日壬子、皇太子自七條殿入閑院受禪、玉海、百錬鈔、愚管鈔、一代要記、歷代皇紀、七條殿據毘沙門堂所藏記、攝政基房、左大臣兼左近衞大將藤原經宗、右大臣藤原兼實內大臣兼右近衞大將藤原忠雅、竝如故、公卿補任、一代要記、二十八日辛酉尊六條帝曰太上天皇、詔曰、朕以幼沖、忝承叡託、皇統之寄不輕、雖委朝政於賢佐、童蒙之心未決、何忘夕惕於眇身、上欽祖宗、下恤黎元、太上天皇德法三才、道光四表、諸夏皆致就日之望、率土旁通霑風之跡、而忽抽脫屣之思、更謝守文之尊、辭宸居於帝宮、富春秋而養志、訪仙遊於姑射、尋水石

而開心、至矣將聖之道、纖芥大緣者歟、抑禮有恒法、國存舊規、列代彝範、何不率由、宜上尊號爲太上天皇、玉海三月十一日癸酉、御大門、玉海、行類鈔、十四日丙子、上皇太后號曰九條院、玉海○按女院小傳作癸酉誤、二十日壬午、天皇卽位于大極殿、時年八歲、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、天祚禮祀職掌錄、尊所生女御平滋子曰皇太后、百錬鈔、一代要記、夏四月七日戊戌、始臨萬機、辛酉晦、遣使諸山陵告卽位、愚昧記六月三日癸巳、上皇幸延曆

寺、留七日、愚昧記、百鍊鈔、秋七月十六日乙亥、車駕自大内還閑院、〇按愚昧記曰、六月二十六日自大内還幸閑院、據兵範記七月六日條、天皇仍御大内、故不取、十七日丙子、卜伊勢月讀宮有穢賀茂平野二社有怪異于軒廊、兵範記、八月四日癸巳、覲一院於法住寺殿、王海、續教訓鈔、九日戊戌、左大臣藤原經宗罷左近衞大將、十日己亥、以内大臣藤原忠雅爲太政大臣、大納言源雅通爲内大臣、十二日辛丑、内大臣源雅通兼右近衞大將、公卿補任、二十七日

丙辰、卜定惇子内親王爲齋宮、一代要記、帝王編年記、九月四日壬戌、大納言藤原師長兼左近衞大將、公卿補任、一代要記、五日癸亥、一院幸熊野、七日乙丑、發大奉幣使、十九日丁丑、修孔雀經法于禁内七日、冬十月三日辛卯、以天變及諸社有怪奉幣二十二社、六日甲午、一院還自熊野、十五日癸卯、御大内、兵範記、二十一日己酉、御禊、二十七日乙卯、還閑院、十一月十三日庚午、御大内、兵範記、愚昧記、是夜中宮所居土御門東洞院火、百鍊鈔、二十一日戊寅、内大臣源雅通罷右近衞大將、大納言藤原師長罷左近衞大將、百鍊鈔、愚昧記、兵範記、公卿補任、二十二日己卯、大嘗、一代要記、愚昧記、兵範記、十二月十六日癸卯、源雅通藤原師長復職、公卿補任、二十一日戊申、大神宮火、百鍊鈔、愚昧記、兵範記、二十九日丙辰、卜占之、兵範記、

嘉應元年己丑、春正月戊午朔、以大神宮火、元會徹樂、愚昧記、日忌罷小朝拜、園太曆、貞和五年、十

三日庚午、覲一院於法住寺殿、愚昧記、還御閑院、百鍊鈔、二十六日癸未、以大神宮火、遣權中納言平時忠於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例、占部秘訓鈔、二月九日丙申、大風折木發屋、百鍊鈔、賀茂上下社館舍倒、愚昧記〇兵範記云、是日上皇還自熊野、然幸日闕、故不書、十三日庚子、皇太后幸日吉社、愚昧記、兵範記、十七日甲辰、卜大神宮怪異於軒廊、兵範記、二十七日甲寅、卜賀茂風災及蚯蚓出於軒廊、愚昧記〇兵範記爲伊勢事、三月十三日己巳、

一院幸高野、(愚昧記、百錬鈔、吉部秘訓鈔、○皇帝紀鈔、東寺長者補任、並爲十四日、)二十三日己卯、還宮、(百錬鈔○本書曰、高野歸路幸平清盛福原第、是日還自福原、而幸福原日闕、今無所考、)夏四月八日甲午、改元、(愚管鈔、百錬鈔、一代要記、公卿補任、○皇年代略記、○帝王編年記爲九日)十二日戊戌、上皇太后號曰建春門院、(公卿補任、帝王編年記、女院小傳、院號定部類記引成頼記及爲親記、)二十六日壬子、謁石清水宮、(鳩嶺年代記、吉部秘訓鈔、)二十八日甲寅、觀一院、五月十九日乙亥、御大内、(百錬鈔)六月九日甲午、以伊勢遷宮、遣使奉神寶、(兵範記)十七

日壬寅、一院薙髮、(玉海、兵範記、百錬鈔、)祈雨丹生貴布禰、十八日癸卯、蹴神泉苑、二十一日丙午、又祈雨丹生貴布禰、二十三日戊申、非常赦詔曰、述父志者孝子之道也、朕雖幼稚仰慕之、崇佛教者哲后之政也、朕雖庸昧庶幾之、禪定仙院宿福内催、明信外潔、機縁有時、新湛定水於汾陽、五十箇日、殊殖善根於茨岫、推其歸法之叡慮、定有解寃之慈心、宜施肆青之深仁、以添十力之加護、其大赦天下、常赦

所不免者、咸皆赦除、抑陽光遍照于遠近、霈澤豈別于薰蕕、仍須未得解由徒、不論僧俗、同以原免、庶依蒼生之懽忻、必彰白業之感應、(兵範記)召返流人十五人、而係興福寺訴者僧惠信宗覺等不在赦限、(百錬鈔)是日還閑院、(兵範記、百錬鈔、)讀經室生龍穴、二十五日庚戌、讀經神泉苑、三日、甲寅晦、卜旱軒廊、祭五龍於神泉苑、又祈雨丹生貴布禰、秋九月九日壬戌、卜感神院鏡二十一無故而墮于軒廊、二十

日癸酉、雨水、祈晴丹生貴布禰、冬十月十日壬辰、御大内避方忌、十一日癸巳、還閑院、十五日丁酉、法皇建春門院幸熊野、(兵範記)二十日壬寅、卜定僐子内親王爲齋院、(愚昧記、兵範記、帝王編年記、)二十二日甲辰、卜荒祭宮怪異于軒廊、(兵範記)二十六日戊申、發大神寶使、(兵範記)十一月五日丁巳、法皇建春門院至自熊野、(愚昧記)十二日甲子、御大内、震法勝寺塔、(百錬鈔)二十五日丁丑、發八十島祭使、(愚昧記)十二月二十

三日甲辰、延曆寺僧徒奉日吉神輿、鼓譟八宮城、安神輿於建禮門壇上、玉海、愚昧記、許權中納言藤原成親、法皇慰諭僧徒、不奉詔、二十四日乙巳、流成親於備後、僧徒乃還、玉海、百錬鈔、皇帝紀鈔、一代要記、備後據公卿補任、○本書竝作備中二十八日己酉、以奏藤原成親罪狀不實、流權中納言平時忠于出雲、藏人頭藤原信範于備後、召還成親、玉海、愚昧記、百錬鈔、

二年庚寅春正月壬子朔、以日忌罷小朝拜、園太曆貞和五年三日甲寅、觀法皇于法住寺殿、玉海、愚昧記、四日乙卯、日吉社有光如虹、百錬鈔十四日乙丑、地震、愚昧記二十三日甲戌、還閑院、愚昧記、百錬鈔、二月六日丁亥、以延曆寺僧徒再訴、奪藤原成親官、召還平時忠藤原信範、玉海、百錬鈔、公卿補任、十一日壬辰、前內大臣藤原宗能薨、是月法皇幸熊野、三月十四日乙丑、至自熊野、玉海○和漢合符曰、是月十三日法皇幸高野、宿留百日、諸書無所見、故不取、二十二日癸酉、行幸春日社、二十三日甲戌、還宮、

玉海、愚昧記、夏四月二十八日戊申、復藤原成親官、公卿補任是月命伊豆介狩野茂光、誅源爲朝于大島、保元物語○尊卑分脈、爲安元二年閏月十三日癸亥、大織冠像破裂、源平盛衰記、月日據多武峯略記、五月十七日丙申、移藏二條帝御骨於三昧堂、十九日戊戌、御大內、百錬鈔二十七日丙午、以陸奧人藤原秀衡爲鎮守府將軍、玉海二十八日丁未、修孔雀經法於神泉苑祈雨、二十九日戊申雨、玉海、東寺長者補任、○百錬鈔係晦六月六日乙卯、太政大臣忠雅罷、玉海、公卿補任、一代要記、十九日戊辰、還閑院、百錬鈔秋七月己卯朔、日有食之、二十二日庚子、中務權大輔藤原經家、周防守信章、○姓闕坐相毆殿上除籍、玉海○百錬鈔係二十一日、爲信章奪官、經家除籍、八月六日癸丑、修孔雀經法於閑院、禳天變、孔雀經御修法記八日乙卯、大風、鳥羽北門樓倒、百錬鈔九月二十日丁酉、宋人來、法皇幸福原覽之、○還宮日闕二十七日甲辰、御大內、玉海、百錬鈔、是月京師櫻梅桃李華、百錬鈔冬十月九日乙卯、

奉幣二十二社、玉海、二十七日癸酉、赤氣見西方、百錬鈔 十二月五日庚戌、石清水宮鳴動三、聲如鐘、鳩嶺宮寺緣事鈔 十日乙卯、以天變怪異及明年値厄、遣權中納言藤原邦綱於伊勢、奉幣大神宮、玉海、伊勢公卿敕使例、 十四日己未、以攝政基房爲太政大臣、攝政仍舊、玉海、公卿補任、吉部祕訓鈔、○一代要記爲十七日、或爲明年正月十五日、誤、

承安元年辛卯、春正月三日戊寅、天皇加元服於紫宸殿、玉海、愚昧記、公卿補任、百錬鈔、歷代皇紀、○一代要記爲十五日、和漢合符、平家物語五日、 十三日戊子、覲法皇于法住寺殿、玉海、愚昧記、源平盛衰記、 二十二日丁酉、赤光見南方、二十八日癸卯、還閑院、百錬鈔 二月二十七日壬申、熒惑犯東井、夏四月五日己酉、熒惑入輿鬼、玉海、 二十日甲子、攝政基房罷太政大臣、玉海、公卿補任、 二十一日乙丑、改元、玉海、百錬鈔、一代要記、公卿補任、 二十三日丁卯、行幸平野社、二十七日辛未、行幸大原野社、五月癸卯晦、法皇幸熊野、六月二十一日甲子、至自熊野、玉海、 二十八

日辛未、卜定頌子內親王爲齋院、玉海、帝王編年記、秋九月十三日甲申、奉神樂於石清水宮、鳩嶺宮寺緣事鈔 冬十月十日辛亥、多武峯墓鳴動、十九日庚申、行幸松尾社、玉海、 二十三日甲子、法皇建春門院幸平清盛福原第、玉海、百錬鈔、 庚午晦、卜伊勢別宮有死鹿于軒廊、是月太白入太微、玉海、 十一月辛未朔、法皇建春門院至自福原、百錬鈔 七日丁丑、行幸北野社、吉記、養和元年 十三日癸巳、中宮所居高倉殿火、清獬眼鈔引後清錄記 十二月二十六日丙寅、以平德子爲女御、玉海、帝王編年記、女院小傳、 是月法皇幸熊野、玉海○年代記殘篇曰、是年九月十八日有光怪飛過諸國、然他無所見、附以備考、

二年壬辰、春正月六日乙亥、法皇至自熊野、 十九日戊子、覲法皇於法住寺殿、玉海、 二月五日甲辰、自大內還御閑院、玉海、百錬鈔、○按去年正月自大內還閑院、其後幸大內、月日無所考、 十日己酉、尊皇后曰皇太后、中宮曰皇后、玉海、 立女御平德子爲中宮、玉海、女院小傳、後宮略傳、○帝王編年記係去年十一月、誤、 三月十五日癸

未、法皇幸清盛福原第、（百錬鈔）二十日戊子、至自福原、二十六日甲午、行幸日吉社、二十七日乙未、還宮、（玉海）二十九日丁酉、法皇遣使慶清水寺、（百錬鈔○和漢合符爲明年三月二十六日）夏五月十三日辛巳、御大内、二十日戊子、雨水壞廬舍、（玉海）六月七日甲辰、以天變及神宮諸社有怪異、遣内大臣源雅通於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（玉海、伊勢公卿敕使例、○百錬鈔爲五日、而云以齋宮惇子内親王薨遣使、）十七日甲寅、還閑院、（玉海、百錬鈔、）秋七月九日丙

子、伊豆國司奏、有番舶泊嚴島、形如夜叉者五六人、登島傷殺十餘人、衆欲殺之、腋下發火燒禾稼、遂逃去、（玉海○百錬鈔嚴島作隱岐島）二十一日戊子、三條殿成、法皇徙御、二十三日庚寅、如三條殿、二十四日辛卯、還宮、八月十七日癸丑、有蚋集閑院南殿丈餘、二十日丙辰、徙御三條殿避蚋怪、九月不豫、（玉海、百錬鈔、）閑院櫻華、（百錬鈔）是月宋明州刺史奉書及信物於法皇、廷臣以爲書辭無禮、當卻、不聽、（玉海）冬十月五

日庚子、修孔雀經法於三條殿七日、以禱不豫、（玉海、孔雀經御修法記、仁和寺御傳、）八日癸卯、卜豐受宮怪異於軒廊、（玉海）十三日戊申、法皇幸福原、（玉海、百錬鈔、）十九日甲寅、至自福原、二十三日戊午、行幸稻荷祇園、（玉海）十一月二十七日壬辰、還閑院、（百錬鈔）甲午晦、藻壁門火、（玉海、百錬鈔、）十二月八日壬寅、卜伊勢怪異於軒廊、（玉海）二十七日辛酉、興福寺僧徒奉神木入京師訴事、遣兵防之、（百錬鈔）攝政基房爲關白、（玉海、公卿補任、）閏月乙丑

朔、疾疫、（玉海）十日甲戌、雷、（百錬鈔）十二日丙子、奉幣伊勢以下十二社、賽疾疫、十四日戊寅、如法住寺殿避方忌、十六日庚辰、還宮、（玉海）是月諸國訛言、改元泰平、敕禁遏之、（百錬鈔）

三年癸巳、春正月十三日丙午、觀法皇于法住寺殿、（玉海、愚昧記、）癸亥晦、法皇幸熊野、二月二十四日丁亥、至自熊野、（玉海）三月二十日壬子、謁石清水宮、（玉海、愚昧記、鳩嶺年代記、）壬戌晦、熒惑犯歲星、是月法皇贈書及染革沙金于宋、宋復遣

使來、（玉海）夏四月十二日甲戌、法住寺北殿火（玉海、百錬鈔、園太暦文和二年、）十三日乙亥、謁賀茂社、六月十日辛未、白虹見、（玉海、愚昧記、）二十二日癸未、祈雨醍醐寺、（祈雨御讀經記）二十五日丙戌、興福寺僧徒燒多武峯堂舍、（玉海、吉記、百錬鈔、）二十九日庚寅、罷興福寺別當尋範、（玉海、百錬鈔、）辛卯晦、以三合厄及天變奉幣二十二社、（玉海）秋七月三日甲午、讀經神泉苑祈雨、（玉海、祈雨御讀經記、）六日丁酉、多武峯墓鳴動、是月月犯房及建星、（玉海）八月七日丁卯、釋奠、以多武峯火罷宴座、（玉海、百錬鈔、）十五日乙亥、皇后崩、（玉海、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、）十六日丙子、葬皇后、二十二日壬午、歲星犯太微上將、月犯東井、（玉海）九月二十五日乙卯、觀童舞於法住寺殿、（百錬鈔）冬十月四日癸亥、月犯建星、（玉海）五日壬子、法住寺新堂成、法皇徙御焉、九日戊辰、以放火多武峯、流興福寺僧覺興于播磨、（百錬鈔）十一日庚午、歲星犯太微右執法、（玉海）二十一日庚辰、車駕從建春門院慶最

勝光院、（玉海、百錬鈔）是月平清盛築經島於福原輪田泊、（帝王編年記○按長門本平家物語、和漢合符、如是院年代記、並係是年、無月、見行本平家物語、應保元年二月始築、八月風水大至壞之、蓋誤、）十一月四日癸巳、興福寺僧徒奉春日神輿至古津、將入京請召還覺興、流延暦寺座主、下首乞沒七大寺莊園者於獄、遣兵於宇治備之、（玉海、百錬鈔）七日丙申、法皇遣右大辨藤原俊經於宇治宣諭、僧徒不奉命、（○百錬鈔係六日）十一日庚子、法皇幸熊野、（玉海○百錬鈔係十二日）是日敕興福寺僧徒從其請、僧徒奉敕還奈良、（百錬鈔、參取玉海○玉海以敕下係十二日）十八日丁未、清水寺火、（百錬鈔）十二月二日庚申、法皇至自熊野、二十五日癸未、如法住寺殿避方忌、二十六日甲申、還宮、（玉海）四年甲午春正月十一日己亥、覲法皇于法住寺殿、（顯廣王記）十九日丁未、始臨除目、（顯廣王記、百錬鈔、）二十三日辛亥、法皇幸日吉社、（顯廣王記）二月六日癸亥、如法住寺殿避方忌、觀鬪雞、（玉海、吉記、○顯廣王記、百錬鈔係五日、）從法皇建春門院、御船幸最

勝光院、吉記七日甲子、還宮、玉海、吉記、顯廣王記、百錬鈔、二十一日戊寅、卜豐受宮住吉社怪異於軒廊、吉記二十五日壬午、皇嘉門院所居九條殿火、○顯廣王記係二十四日、百錬鈔二十六日、三月七日甲午、如法住寺殿避方忌、十日丁酉、還宮、玉海、吉記、十三日庚子、使一千僧讀經延曆寺、吉記十六日癸卯、法皇建春門院幸福原、十九日丙午、遂幸嚴島、玉海○幸嚴島、顯廣王記、吉記、百錬鈔、源平盛衰記竝係十六日、夏四月九日乙丑、法皇建春門院至自嚴島、顯廣王記、百錬

鈔、十九日乙亥、設藤花宴於勸學院、使學生賦詩、百錬鈔二十二日戊寅、如法住寺殿、玉海、顯廣王記、避方忌、二十三日己卯、還宮、玉海五月十一日丁酉、法皇幸日吉社、淹留十日、顯廣王記十二日戊戌、卜豐受宮怪異於軒廊、二十一日丁未、如法住寺殿避方忌、玉海○避方忌、顯廣王記爲二十二日、二十三日己酉、還宮、玉海、顯廣王記、是月大旱、玉海○源平盛衰記曰、自春至夏大旱、祈雨諸寺、東寺長者補任、祈雨御讀經記、二十四日壬戌、清涼殿最勝講、令僧澄憲祈雨、

二十六日壬子、澍雨、玉海○顯廣王記、百錬鈔、源平盛衰記書修法及雨日、小有異同、今不盡註、六月五日庚申、奉幣二十二社、顯廣王記、清獬眼鈔、引後清錄記、十三日戊辰、行幸權中納言藤原邦綱正親町第、玉海、顯廣王記、避祇園神輿、玉海十六日辛未、還宮、十七日壬申、奉幣二社祈雨、顯廣王記二十一日丙子、讀經神泉苑、玉海、顯廣王記二十七日壬午、奉幣五社祈雨、○玉海作七社、然本書詳載社名、今從之、秋七月丙戌朔、如法住寺殿避方忌、顯廣王記八日癸巳、内大臣源雅通罷右近

衛大將、權大納言平重盛兼右近衛大將、玉海、公卿補任、一代要記、二十日乙巳、震法勝寺塔、百錬鈔二十二日丁未、御大内、顯廣王記二十七日壬子、復相撲節、玉海、百錬鈔○按後白河帝復相撲節、其後廢之、諸書無所見、而至此謂復相撲節、則保元以後再廢明矣、然諸書不載、今無所攷、八月乙卯朔、如法住寺殿、二日丙辰、觀相撲、玉海、愚昧記、顯廣王記、百錬鈔、園太曆貞和四年、還御大内、吉記、顯廣王記、十一日乙丑、車駕還閑院、吉記冬十一月九日壬辰、御大内、玉海、顯廣記、十一日甲午、遣權大納言藤原實國於

伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（玉海、顯廣王記、伊勢公卿敕使例、）癸丑晦、還閑院、（顯廣王記）

安元元年乙未、春正月四日丙戌、觀法皇于法住寺殿、（玉海、百錬鈔、）二月二十二日甲戌、地震、（玉海）二十七日己卯、内大臣源雅通薨、（公卿補任）三月壬午朔、不豫、（玉海○按百錬鈔曰、患疱瘡、攷本書非疱瘡、故不取、）五日丙戌、怪雲見、（百錬鈔）十一日壬辰、疾瘳、十三日甲午、法皇幸熊野、（○還宮日闕）二十八日己酉、謁石清水宮、夏四月十六日丁卯、謁賀茂社、

（玉海）五月二十七日丁未、以建春門院修百日懺法、免輕囚、（百錬鈔）六月十二日辛酉、行幸正親町第、避祇園神輿、十七日丙寅、法皇幸日吉社、淹留十日、是月霖雨、洪水傷稼、秋七月五日甲申、卜大神宮有穢于軒廊、（玉海）十六日乙未、敕諸道勘安樂寺東南嶺獲銅鉾、（百錬鈔○玉海、係十九日）二十八日丁未、改元、（玉海、百錬鈔、公卿補任、一代要記、帝王編年記、）詔曰、建元者聖代之芳猷也、芸緗垂露、革故者明時之彝典也、竹簡經霜、是以握契提衡之君、繼體守文之主、無不因祥瑞以開基、謝災異以改號、朕以庸昧、忝受丕圖、雖以四海爲家、滂流之化不遍、雖以萬民如子、撫育之恩難施、仁風未扇、八年于茲、去春以來、天下不靖、疱瘡流行、老幼尼困、眇身之不德也、黔首有何辜哉、宜易赤縣之聽、以除請室之寃、其改承安五年爲安元元年、大赦天下、但常赦所不免及觸神社訴者、不在赦限、復天下徭半、給老人僧尼穀、庶施惠化於金

商之初、特期凱樂於華夏之際、（玉海）八月伊勢宮河水逆流、（顯廣王記、明年二月條）九月二日庚辰、大風、（玉海、山槐記）夜天有光、（山槐記）十二日庚寅、大風壞廬舍、（玉海、山槐記、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、）閏月六日甲寅、月犯建星、七日乙卯、法皇建春門院至自熊野、（○幸日闕）九日丁巳、太白犯心大星、冬十月八日乙酉、奉幣七社、告安樂寺獲鉾、十一日戊子、法皇幸福原、十五日壬辰、法皇至自福原、十一月二十五日壬申、遣使宇佐、（玉海）二十

八日乙亥、以大納言藤原師長爲内大臣、（玉海、公卿補任、）十二月二十四日辛丑、地震、（玉海、）是歲自春涉夏、痘瘡流行、（參取百鍊鈔、及玉海改元詔文、）

二年丙申、春正月三日己酉、覲法皇于法住寺殿、六日壬子、月犯鎭星、七日癸丑、月犯畢、二月十一日丁亥、如三條殿試慶壽禮、十八日甲午、還閑院、（玉海、）是月盜入大極殿、捕殺之、（顯廣王記、）三月丙午朔、日有食之、（玉海、顯廣王記、）震法勝寺塔、二男子震死、（玉海、百鍊鈔、）四日己酉、詣法住

寺殿、慶法皇壽五十、六日辛亥、還宮、（玉海、顯廣王記、）（百鍊鈔、）九日甲寅、法皇建春門院幸有馬温泉、（玉海、顯廣王記、百鍊鈔、○本書還宮日闕、按帝王編年記、皇帝紀鈔竝係四月二十七日誤、）十九日甲子、上西門院藏人平盛方、坐殺中務少輔藤原爲綱流于佐渡、夏四月二日丁丑、以法皇慶法住寺佛堂、免輕繫、（百鍊鈔、）八日癸未、地大震、十九日甲午、如法住寺殿避方忌、（玉海、吉記、法住寺殿據吉記、）二十七日壬寅、法皇幸延暦寺、（玉海、吉記、百鍊鈔、帝王編年記、皇帝紀鈔、）受戒、留四日、（玉海、吉記、）五月十二日丙辰、奉幣二十二社、祈國家平安、二十七日辛未、如法住寺殿、二十八日壬申、還宮、癸酉、晦、修仁王會、禳地震癘疫、（吉記、）六月四日丁丑、祈雨丹生貴布禰、（顯廣王記、）十二日乙酉、高松院崩、（玉海、一代要記、歷代皇紀、皇帝紀鈔、帝王編年記、○吉記、顯廣王記、百鍊鈔、女院小傳爲十三日、東寺長者補任十四日、）十八日辛卯、以建春門院病、大赦天下、（玉海、吉記、顯廣王記、百鍊鈔、）詔曰、肆眚者延齡之嘉謨也、徧三呼於中岳、宥刑者除病之秘術也、伴十全於上池、母儀

仙院、旬日以來、枕席靡寧、碧洞之裏、霧露之氣未晴、青帳之前、金玉之質不豫、雖仰護持於大雄、寘助遲及、雖訪救療於扁鵲、效驗難呈、宜作此雷雨之解、以獻彼松栢之齡、可大赦天下、常赦所不免者、咸赦除之、但觸伊勢大神宮訴者、不在赦限、抑太陽之照、何嫌窪窿、滂沛之霑、豈分林薄、仍須未得解由者、不論僧俗、同以原免、庶依上天之感孚、不待翌日、須得忽瘳、（吉記、）是日葬高松院、○（玉海、吉記、顯廣王記、）

記爲十九日二十三日丙申、暴風、玉海、百鍊鈔二十八日辛丑、使一千僧讀經法勝寺、禱建春門院病、玉海、顯廣王記、秋七月八日辛亥、建春門院崩、玉海、顯廣王記、百鍊鈔、皇帝紀鈔、後宮略傳、○長門本平家物語爲七日十日癸丑、葬建春門院、玉海、顯廣王記、十七日庚申、上皇崩、玉海、顯廣王記、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、皇帝紀鈔、二十二日乙丑、葬六條天皇、帝王編年記、皇代紀、○按一代要記、歷代皇紀爲即日葬、帝王編年記爲二十日葬、未知孰是、八月二十七日己亥、太白犯右執法、九月八日庚戌、月犯牽牛中央星、玉海

十三日乙卯、法皇幸四天王寺、留七日、顯廣王記、百鍊鈔、十九日辛酉、九條院崩、玉海、百鍊鈔、東寺長者補任、○顯廣王記爲十八日、一代要記、女院小傳七月八日、後宮略傳八月二十八日、諸書葬闕、月犯東井、冬十月、熒惑犯太微上將、又犯右執法、玉海、○按本書犯上將爲五日、又爲六日、犯右執法爲二十三日、又爲二十五日、故不日、十一月三日甲辰、法皇幸笠置寺、玉海、一代要記、留三日、玉海八日己酉、右馬寮廳廄火、百鍊鈔十日辛亥、熒惑犯左執法、十二月辛丑晦、前兵衛尉源義經坐殺延曆寺僧、流于佐渡、玉海

是歲貴賤多夭死、歷代皇紀治承元年丁酉、春正月、以諒闇廢朝、玉海二十四日乙丑、內大臣藤原師長罷左近衛大將、玉海、公卿補任、一代要記、右近衛大將平重盛轉左近衛大將、權中納言平宗盛兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、庚午晦、朱雀院鎮守石神社火、百鍊鈔二月十九日己丑、天皇患疱瘡、玉海二十四日甲午、奉幣伊勢以下九社禱之、玉海、顯廣王記是月熒惑入太微、玉海、疱瘡流行、百鍊鈔三月五日乙巳、

以內大臣藤原師長爲太政大臣、大納言平重盛爲內大臣、玉海、顯廣王記、公卿補任、一代要記、十四日庚申、法皇幸福原、十七日丁巳、天皇疾瘳、玉海十八日戊午、法皇供養一千僧於福原三日、玉海、顯廣王記、資建春門院冥福、二十一日辛酉、熒惑守犯左執法、法皇至自福原、○顯廣王記係二十二日二十五日乙丑、熒惑犯右執法、玉海二十七日丁卯、皇嘉門院九條宮火、玉海、百鍊鈔、先是白山僧徒奉神輿至延曆寺、訴加賀目代藤原師經

燒涌泉寺、法皇諭座主止之、僧徒不奉命、又請罪加賀守藤原師高及師經、源平盛衰記、平家物語、○按涌泉見行本平家物語作鵜川、長門本作温泉、蓋一音之轉、今從盛衰記、乙巳晦、流師經于備後、玉海、○百鍊鈔爲二十八日夏四月六日乙亥、皇嘉門院所居冷泉高倉第火、百鍊鈔八日丁丑、以法皇慶七條殿佛堂釋輕繫、玉海、百鍊鈔、十二日辛巳、軒廊倒、顯廣王記、仲資王記、十三日壬午、延暦寺僧徒奏日吉白山神輿犯闕、又請流師高、廷議命内大臣平重盛、兵庫頭源

頼政、禦之、僧徒棄神輿於陽明門而去、敕安神輿於祇園、源平盛衰記十四日癸未、都下諠言、僧徒又起、民庶騷擾、玉海、源平盛衰記、天皇駕腰輿如法住寺殿避之、玉海、顯廣王記、百鍊鈔、源平盛衰記、十五日甲申、車駕還宮、玉海、百鍊鈔、十八日丁亥、飇風起神泉苑、三條大宮人家多倒、顯廣王記、百鍊鈔、二十日己丑、流加賀守藤原師高于尾張、下射神輿者六人于獄、玉海、仲資王記、百鍊鈔、源平盛衰記、二十八日丁酉、京師火、延及大内、大極殿、八省院、會昌

門、應天門、朱雀門、神祇官、民部省、主計寮、主税寮、式部省、眞言院、主水司、大膳職、大學寮、勸學院、玉海、仲資王記、○長門本平家物語、爲二十四日誤、百鍊鈔、源平盛衰記、長門本平家物語、宮省官舍各有異同、故不取、燒邸第坊市二萬餘家、一代要記、燒死數千、方丈記、天皇駕腰輿、自閑院徙權大納言藤原邦綱正親町第避之、二十九日戊戌、還閑院、玉海、百鍊鈔、己亥晦、夜盜入假太政官中廳放火、玉海、吉記、顯廣王記、仲資王記、百鍊鈔、掠資財、傷宿衛士、玉海、顯廣王記、五月五日甲辰、卜大内

火及織限于軒廊、玉海、六日乙巳、中院火、玉海、百鍊鈔、十二日辛亥、延暦寺僧徒聞座主明雲將處流、羣起擾亂、宮城戒嚴、顯廣王記、二十一日庚申、流明雲于伊豆、玉海、顯廣王記、仲資王記、百鍊鈔、源平盛衰記、平家物語、○皇帝紀鈔係五日二十三日壬戌、明雲至粟津、僧徒奪之而還、玉海、顯廣王記、百鍊鈔、源平盛衰記、○一代要記、歴代皇紀並爲二十二日、六月己巳朔、平清盛殺前左衞門尉藤原師光、玉海、百鍊鈔、皇帝紀鈔、二日庚午、平清盛流權大納言藤原成親於備前、玉海、百鍊鈔、源平盛衰記、平家

（物語、）五日癸酉、内大臣平重盛罷左近衛大將、（玉海、公卿補任、一代要記爲六日、）○十二日庚辰、如八條殿、（玉海、顯廣王記、百鍊鈔、）十五日癸未、奉幣伊勢以下十社、告大極殿火、二十二日庚寅、日薄蝕、（顯廣王記、）二十六日甲午、還閑院、（百鍊鈔、）是月平清盛流右近衛少將藤原成經、檢非違使平康頼、法勝寺執行俊寛於鬼界島、及其黨蓮淨於佐渡、山城守中原基兼於伯耆、式部大輔章綱於播磨、（○章綱姓闕、）檢非違使惟宗信房於阿波、平

佐行於美作、（平家物語、○源平盛衰記、諸本平家物語竝有異同、故不取、）殺藤原師高、右衛門尉藤原師親、左兵衛尉藤原師平、（百鍊鈔、源平盛衰記、）秋七月五日壬寅、修宸筆八講於閑院、（百鍊鈔、一代要記、）薦建春門院冥福、（顯廣王記、）九日丙午、平清盛殺藤原成親、（顯廣王記、百鍊鈔、○公卿補任爲十三日、平家物語十九日、）二十九日丙寅、奉謚讚岐院曰崇德天皇、（玉海、顯廣王記、百鍊鈔、源平盛衰記、）置國忌、（顯廣王記、○保暦間記爲八月三日、）贈故左大臣藤原頼長太政大臣正一位、（玉海、顯廣王記、百鍊鈔、○長門本平家物語爲三日、）

（源平盛衰記、八月三日、）八月四日辛未、改元、（玉海、吉記、顯廣王記、仲資王記、百鍊鈔、○歴代皇紀爲九日、誤、）詔曰、朕以昧菲、嗣握乾符、馭俗道疎、遥隔三五之歩驟、經世慮淺、未致寰海之粛清、爰揄躔之變荐示、梓慎之奏寔繁、況鐘去中呂律、火于大極殿、百辟朝享之舊基、灰燼空積、一人夕惕之凝念、丹府無聊、政李之訛也、上懼祖宗之靈德、華之薄也、下慙民庶之聽、毎顧其治、惻隱于懷、方今式考帝載、旁訪皇猷、依咎徵以建元、驚尻會

以革故、是皆克己復禮、與物更始之義也、其改安元三年爲治承元年、大赦天下、但常赦所不免者、不在此限、承安二年以往、調庸未進在民身者免除之、賜穀給物、一準舊典、庶先蒼蠅告市之聲、將來彩鳳巣閣之趐、（玉海、）十日丁丑、以大學寮未成、釋奠於官廳、（玉海、百鍊鈔、）二十四日辛巳、以修閑院、徙御八條院、（玉海、）二十二日己丑、法皇修八講於成勝寺、資崇德天皇冥福、（玉海、百鍊鈔、）是月熒惑犯房、（玉海、）九月丁酉

朔、日當食、陰雲不見、玉海、愚昧記、十日丙午、以天變怪異、遣權大納言藤原實房奉宸筆宣命於大神宮、奉金銀幣神寶於諸社、伊勢公卿勅使例十三日己酉、法皇幸熊野、顯廣王記、仲資王記、二十六日壬戌、避方忌于權大納言藤原邦綱土御門第、廷槐鈔冬十月三日己巳、祈晴丹生貴布禰、顯廣王記五日辛未、謁石清水宮、玉海、愚昧記、顯廣王記、仲資王記、鳩嶺年代記、六日壬申、還自石清水、幸土御門第、玉海、愚昧記、顯廣王記、七日癸酉、法皇至自熊野、仲資王記八日甲戌、經始大極殿、玉海車駕還八條院、玉海、愚昧記、十四日庚辰、謁賀茂社、玉海、愚昧記、顯廣王記、仲資王記、二十七日癸巳、地大震、玉海、愚昧記、顯廣王記、百錬鈔、〇一代要記爲十一月七日二十八日甲午、卜定功子內親王爲齋宮、愚昧記、顯廣王記、帝王編年記、〇玉海係二十七日、一代要記爲明年事誤、十一月七日壬寅、卜地震于軒廊、玉海十二日丁未、自八條院還御閑院、玉海、顯廣王記、百錬鈔、二十四日乙未、以地震奉幣伊勢以下九社、玉海、顯廣王記、十二月十七日壬午、車駕從法皇

幸蓮華王院、慶五層塔、玉海、顯廣王記、皇帝紀鈔、〇百錬鈔爲十四日非常赦、玉海二十四日己丑、彗星見東南、玉海、山槐記、百錬鈔、二十七日壬辰、大納言藤原實定兼左近衛大將、玉海、顯廣王記、公卿補任、

二年戊戌春正月四日己亥、覲法皇于法住寺殿、玉海、山槐記、顯廣王記、七日壬寅、彗星見東南、山槐記、百錬鈔、〇長門本平家物語作東方十八日癸丑、修孔雀經法於閑院、禳彗星、醍醐雜鈔、東寺長者補任、〇孔雀經御修法記爲十六日三月五日己亥、法皇幸熊野、玉海二十二日丙辰、行幸春日社、〇一代要記係七日二十三日丁巳、還宮、玉海、庭槐鈔、二十八日壬戌、法皇至自熊野、玉海夏四月癸巳晦、如法住寺殿避方忌、庭槐鈔六月十二日乙亥、行幸土御門第、避祇園神輿、有星晝隕、山槐記十七日庚辰、御清涼殿、宴侍臣、令賦詩、山槐記、顯廣王記、百錬鈔、古今著聞集、以中宮有身奉幣嚴島社、山槐記二十三日丙戌、將軍塚鳴如鼓、山槐記、顯廣王記、二十七日庚寅、卜定範子內親王爲齋院、山槐記、顯廣王記、女院小傳、閏月十一日

癸卯、如三條殿、山槐記、庭槐鈔、顯廣王記、二十一日癸丑、祈雨丹生貴布禰、顯廣王記、二十七日己未、還閑院、山槐記、庭槐鈔、秋七月大赦、長門本平家物語、三日甲子、召還流人藤原成經平康賴、長門本平家物語、源平盛衰記、八月十日辛丑、法皇幸四天王寺、顯廣王記、○還宮日闕　二十四日乙卯、遣權大納言藤原邦綱奉宸筆宣命大神宮、顯廣王記、伊勢公卿勅使例、九月三日癸亥、熒惑犯太微上將、十六日丙子、犯右執法、醍醐雜鈔、二十日庚辰、修孔雀經法於閑院、禳

之、孔雀經御修法記、醍醐雜鈔、先是延曆寺堂衆聚羣盜與學生戰、學生屢敗、奏請討之、冬十月四日甲午、法皇命平清盛遣兵援學生討堂衆、不利、源平盛衰記、八日戊申、以天變免輕繫、召還流人多多良盛保等、二十一日辛亥、如法住寺殿、玉海、○顯廣王記曰、行幸六波羅殿、避方忌、未知孰是、二十三日癸丑、還宮、玉海、顯廣王記、十一月十二日辛未、以中宮臨產免輕囚、玉海、山槐記、十三日壬申、月掩畢大星、十六日乙亥、太白犯哭星、十八日丁丑、月

掩犯軒轅右角星、二十一日庚辰、月犯太微右執法、二十九日戊子、熒惑犯亢、十二月三日壬辰、塡星犯五車卿星、玉海、八日丁酉、以皇子言仁爲親王、玉海、愚昧記、顯廣王記、○百鍊鈔係七日、十五日甲辰、立言仁親王爲皇太子、玉海、愚昧記、百鍊鈔、○顯廣王記作知仁誤、以左大臣藤原經宗爲傅、玉海、公卿補任、二十日己酉、如法住寺殿避方忌、二十一日庚戌、還宮、玉海、是歲京師多盜、顯廣王記、

三年己亥、春正月二日辛酉、覲法皇于法住

寺殿、玉海、山槐記、二十三日壬午、如法住寺殿避方忌、山槐記、二十六日乙酉、還宮、玉海、山槐記、庭槐鈔、二月五日癸巳、法皇幸熊野、山槐記、二十六日甲寅、權大納言兼右近衛大將平宗盛罷、玉海、公卿補任、三月己未朔、法皇至自熊野、玉海、二日庚申、夜有光怪飛過京師、玉海、百鍊鈔、多武峯墓鳴動、山槐記、五日癸亥、避方忌於七條殿、七日乙丑、還宮、玉海、山槐記、庭槐鈔、十一日己巳、內大臣平重盛罷、玉海、山槐記、公卿補任、十三日辛未、奉幣祈晴、玉海、十

五日癸酉、行幸平野社、（玉海、山槐記、庭槐鈔、）二十二日庚辰、如七條殿避方忌、（夕拜要鈔）至二十六日甲申、奉幣嚴島社、賽中宮平產、（玉海、山槐記、）齋院卜定所火、（玉海、山槐記、百鍊鈔、）二十七日乙酉、卜之軒廊、（玉海、山槐記、）夏四月三日辛卯、以卜定所火奉幣賀茂、（玉海）十七日乙巳、如法住寺殿避方忌、（玉海、山槐記、）五月三日庚申、前左衛門尉源忠清坐殺弟流于佐渡、十四日辛未、祇園僧與清水寺僧鬭、燒八坂塔、（○一代要記爲四月十四日）二十五日

壬午、使一千僧讀經法勝寺、（玉海、山槐記、百鍊鈔、）二十八日乙酉、如七條殿避方忌、六月十二日己亥、行幸土御門第、避祇園神輿、（玉海、山槐記、庭槐鈔、）十四日辛丑、颱風壞廬舍、（源平盛衰記、長門本平家物語、○見行本平家物語爲五月十二日）二十八日乙卯、車駕還宮、（玉海）秋七月六日壬戌、如法住寺殿避方忌、（庭槐鈔）七日癸亥、晝晦、將軍塚鳴動、是夜地大震、（源平盛衰記）二十五日辛巳、敕遣兵討延曆寺堂衆據山谷者、其逃入京師者、使檢非違使搜索、竄

於諸國者、宰吏捕之、乙酉晦、前內大臣平重盛薨、（玉海、○按公卿補任、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、平家物語、源平盛衰記共爲八月朔、蓋諸書書薨奏日、而本書得其實也、故從之、）是月癘疫流行、（百鍊鈔）八月二十三日戊申、雨水、（玉海）二十七日壬子、謁石清水宮、（玉海、庭槐鈔、鳩嶺年代記、）乙卯晦、下新制三十二條、（玉海、百鍊鈔、）以法皇逆修冥福原輕繫、（百鍊鈔）九月五日庚申、謁賀茂社、（玉海、庭槐鈔、）十日乙丑、法皇上西門院八條院幸四天王寺、二十一日丙子、三院還宮、二十二日丁丑、遣

權大納言藤原實國奉宸筆宣命於大神宮、（玉海○伊勢公卿敕使例作十二日）冬十月五日丁亥、敕參議平教盛遣兵討堂衆、堂衆走保橫川、（山槐記、百鍊鈔、）十一日乙未、如法住寺殿避方忌、十二日丙申、還宮、（玉海、山槐記、）二十五日己酉、遣藏人頭平經房於延曆寺、宣諭堂衆與學生講和、（山槐記）十一月二日丙辰、堂衆焚西塔房舍、（山槐記、百鍊鈔、）五日己未、令諸社諸寺祈靖僧徒鬭亂、（百鍊鈔）七日辛酉、奉幣七社祈之、（玉海、百鍊鈔、）是夜地大

震、（玉海、百鍊鈔、山槐記、源平盛衰記、平家物語、）十五日己巳、平清盛罷關白基房、以右近衛中將藤原基通爲內大臣關白、（玉海、○山槐記係十六日、公卿補任以基通爲關白係十七日、）十七日辛未、清盛奪太政大臣師長、權大納言源資賢以下至北面、親近法皇者三十九人官職、（玉海、百鍊鈔、皇帝紀鈔、○保曆間記、源平盛衰記作四十二人、平家物語四十三人、山槐記載四十人姓名、）十八日壬申、清盛貶前關白基房爲太宰權帥、（玉海、山槐記、百鍊鈔、）流前太政大臣師長于尾張、（公卿補任、○本書係十七日、）源資賢于丹

波、（山槐記、）二十日甲戌、清盛幽法皇于鳥羽殿、（玉海、山槐記、愚管鈔、百鍊鈔、源平盛衰記、○歷代皇記、帝王編年記爲十八日、）權中納言藤原良通兼右近衛大將、（玉海、公卿補任、）是月五條河原有棄兒、手足各四、（山槐記、）

四年庚子、春正月十日癸亥、從御前權大納言藤原邦綱五條東洞院第、中宮皇太子從焉、（玉海、山槐記、百鍊鈔、）二月五日丁亥、不豫、（玉海、山槐記、）七日己丑、內侍所鈴無故而墜、（山槐記、）十六日戊戌、車駕還閑院、（玉海、山槐記、）中宮皇太子留焉、（山槐記、）二十一日癸卯、天皇讓位於皇太子、（玉海、山槐記、吉記、百鍊鈔、愚管鈔、）上尊號曰太上天皇、（玉海、山槐記、）稱新院、（玉海、山槐記、源平盛衰記、）自清盛跋扈、法皇幽閉、皇威不振、朝野多事、上皇常憂之、久欲遜位、嘗奉書法皇、竊道其意、法皇慰諭懇止、至是遂內禪、（源平盛衰記、）三月從御正親町第、（玉海、山槐記、）上皇欲悅清盛意、以爲法皇紓難、以謂清盛崇信嚴島神、若車駕臨幸、則清盛當歡喜、至是將幸嚴島、諭旨清盛、清盛果大悅、（平家物語、源平盛衰

記、）園城寺僧徒聞之、與延曆寺興福寺僧徒議曰、讓位之後、先幸石清水賀茂或熊野日吉、今幸嚴島何也、（源平盛衰記、平家物語、園城寺延曆寺興福寺據長門本平家物語、）欲入京挾兩皇去、京師騷擾、（玉海、山槐記、）清盛遣使諭之、（平家物語、）其夜幸清盛西八條第、過鳥羽殿、覲法皇、相視悲泣、遂幸嚴島、（源平盛衰記、平家物語、）四月至清盛福原第、（源通親嚴島御幸記、源平盛衰記、平家物語、）還御八條坊門櫛笥第、（山槐記、）六月清盛遷都福原、（玉海、百鍊鈔、源平盛衰記、平家物語、）上皇悒悒不

樂、平家物語七月不豫、敕天下事務一切勿上聞、百錬鈔九月又幸嚴島、玉海、百錬鈔、長門本平家物語、清盛及子宗盛等從駕、迫上皇作誓書、源平盛衰記、長門本平家物語、十一月還京師、御權中納言平頼盛六波羅第、山槐記、平家物語、自法皇被幽、積憂成疾、及聞平氏燒東大寺興福寺、驚嘆、遂至大漸、參取源平盛衰記、平家物語、養和元年正月十四日辛酉、上皇崩于六波羅第、年二十一、火葬東山清閑寺、稱高倉院、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、皇帝紀鈔、源平盛衰記、平家物語、

帝賢明仁孝、參取源平盛衰記、平家物語、神皇正統記、愠不形色、源通親高倉帝升遐記建春門院崩、悲慕特甚、至廢寢膳、玉海、源平盛衰記、當除服、侍臣藤原泰通進御衣、帝不忍釋服、泫然泣下、泰通亦悲不自勝、左右近侍無能仰視者、源平盛衰記、長門本平家物語、初受學清原頼業、才藻英發、禁秘鈔治承中宴侍臣于清涼殿、帝賦詩、世傳稱焉、古今著聞集兼善音樂、神皇正統記學笛藤原實國、長門本平家物語、禁秘鈔、特造其妙、玉海帝幼時有獻紅樹者、帝極愛之、命藤原信成守之、一日仕丁乘信成不在、斫枝爲薪以燰酒、信成歸見而大驚、縛仕丁、會帝使信成上其樹、信成具奏其狀、叩頭請罪、帝從容曰、唐詩有云、林間燰酒燒紅葉、誰教仕丁作此風流、無復所問、源平盛衰記帝嘗避方忌、夜聞女子哭聲、使人問之、曰、妾事女官某氏、某氏素貧、嘗一衣極艱、今新製朝服、而妾今在途、爲盜所刼奪、欲再製之、某氏力不能辦、妾無辭以反命、是以泣、其人還報、帝惻然曰、朕聞

堯民以堯心爲心、今朕不德、令人作姦盜、是朕之恥也、乃召女子問其色樣、賜中宮御衣而遣之、其寬惠如此、源平盛衰記、平家物語、○長門本平家物語爲堀河帝事及崩、朝野莫不哀惜、法皇歎曰、使帝久在大位、則延喜天曆之治、可以復見、遽然早世、非特朕之不幸、國家衰弊、百姓何憑、長門本平家物語

大日本史卷之五十二終

大日本史卷之五十三

本紀第五十三

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保　重校

安德天皇

安德天皇、諱言仁、高倉帝第一子也、母建禮門院、愚昧記、神皇正統記、愚管鈔、百錬鈔、歷代皇紀、治承二年十一月十二日辛未、生于內大臣平重盛六波羅第、玉海、山槐記、歷代皇紀、重盛第據歷代皇紀、○愚昧記係二十七日十二月爲親王、立爲皇太子、玉海、愚昧記、百錬鈔、皇代記、歷代皇紀、帝王編年記、一代要記、四年正月著袴、玉海、歷代皇紀、二月二十一日癸卯、皇太子受禪於前權大納言藤原邦綱五條東洞院第、玉海、山槐記、有犬嚙書御座茵、鵂入夜御殿御帳、源平盛衰記、長門本平家物語、○山槐記爲三月十四日以關白內大臣基通攝政、左大臣藤原經宗、右大臣藤原兼實、大納言兼左近衛大將藤原實定、權中納言兼右近衛大將藤原良通、竝如故、公卿補任二十七日己酉、尊高倉帝曰太上天皇、詔曰、朕以童稚、辱纂皇基、承叡託以傳玉鏡、似臨春冰之薄、在幼沖以撫龍圖、如馭雯駕之危、太上天皇澤覃四海、化被八埏、研聖智於胸襟、底鑒帝典於掌握中、爰撝謙無撓、謝明德於禁闈之月、遜讓惟深、伴浮遊於汾水之波、大矣哲后、功成身退者、抑禮有彝則、國有舊章、列代所照、可以率由、謹上尊號爲太上天皇、山槐記三月十六日戊辰、賀茂上社及海橋立池蝦蟇與蛇鬭嚙、殺蛇、百錬鈔十九日辛未、上皇幸嚴島、玉海、山槐記、百錬鈔、○源平盛衰記爲十七日夏四月九日辛卯、自東洞院第徙御大內、玉海、山槐記、明月記、吉記、百錬鈔、是日上皇還自嚴島、玉海、山槐記、○源平盛衰記爲七日二十二日甲辰、天皇卽位於紫宸殿、時年三歲、玉海、山槐記、明月記、百錬鈔、天祚禮祀職掌錄、是日宮人暴死高御廚子後、源平盛衰記、長門本平家物語、辛亥晦、飇風壞廬舍、雷雨雹、玉海、明月記、百錬鈔、五月十四日乙丑、卜伊勢賀茂平野怪異及飇風

於軒廊、(山槐記)平清盛請法皇徙於八條烏丸第、(玉海、山槐記、百錬鈔、平家物語、源平盛衰記。○平家物語係十三日)十五日丙寅、先是前兵庫頭源賴政奉以仁王起兵、討清盛、下令旨於諸國、(源平盛衰記、平家物語)是日朝議流以仁王於土佐、遣檢非違使源兼綱源光長圍以仁王高倉邸、以仁王奔園城寺、虜右兵衛尉長谷部信連、(參取玉海、山槐記、百錬鈔、平家物語、東鑑)十八日己巳、園城寺僧徒牒延曆寺興福寺請援、(平家物語。○源平盛衰記以牒興福寺係二十日、延曆寺係二十一日、)二

十二日癸酉、源賴政自火其家、率兵據園城寺、(山槐記、明月記、百錬鈔。○東鑑係十九日、歷代皇紀二十日、)天皇徙御清盛八條坊門第、(山槐記、明月記、百錬鈔、)二十三日甲戌、源賴政縱火法皇山科宮、(山槐記、百錬鈔)興福寺僧徒應園城寺、(源平盛衰記。○平家物語爲二十一日)二十五日丙子、以清盛請下院宣于延曆寺、不援園城寺、(源平盛衰記、長門本平家物語)二十六日丁丑、以仁王源賴政奔奈良、(玉海、明月記、山槐記、百錬鈔、○平家物語爲二十三日、源平盛衰記二十五日、)遣藏人頭平重衡右近衛權少將平維盛等將二萬餘騎追擊之、(玉海、山槐記、兵數據東鑑)(源平盛衰記、○東鑑爲知盛維盛等、源平盛衰記爲知盛、重衡、通盛、忠度、行盛、清房、)戰于宇治河、以仁王源賴政敗死、(玉海、山槐記、東鑑、百錬鈔、)(源平盛衰記、)二十七日戊寅、修百座仁王會於大政官廳、(玉海)辛巳晦、賞戰功、敘任有差、(玉海、山槐記、百錬鈔、)六月二日癸未、清盛奏遷都攝津福原、(玉海、)(平家物語、)三日甲申、車駕至福原、以權中納言平賴盛第爲宮、法皇御參議平教盛第、上皇御清盛別第、四日乙酉、天皇徙御清盛別第、上

皇徙平賴盛第、(玉海)九日庚寅、以將營宮殿、遣大納言藤原實定參議源通親等於輪田相地、(百錬鈔、源平盛衰記、平家物語、)二十日辛丑、收園城寺莊園、罷圓惠法親王天王寺檢校、解僧綱等見任、(玉海、百錬鈔。○長門本平家物語係二十一日、保曆間記八月二十一日、)二十一日壬寅、有雙頭蓮生法勝寺池、(山槐記、百錬鈔、)二十三日甲辰、使前權大納言藤原邦綱課周防、營宮城於福原、(源平盛衰記、長門本平家物語。○見行本平家物語爲九日、伊藤本八坂本平家物語竝二十一日、)秋七月八日戊午、召

還流人源資賢及子資時、信賢孫雅賢、高階經仲、平親宗、玉海、參取山槐記、公卿補任、○源平盛衰記曰、治承四年召還前太政大臣師長、疑此時也、然不月日、平家物語曰、養和元年七月十四日、召還師長資賢、今無所考、姑附于此、十九日己巳、有流星光如炬火、百錬鈔、二十一日辛未、遣使諸山陵告即位、山槐記、二十二日壬申、大織冠像破裂、多武峯略記、二十五日乙亥、祈雨十三社、八月六日丙戌、雨、十七日丁酉、○百錬鈔爲十六日、解興福寺僧綱見任、收莊園、山槐記、流人源頼朝奉以仁王令旨、起

兵伊豆、殺前檢非違使平兼隆等、源平盛衰記、東鑑、○按盛衰記、平家物語曰、僧文覺滑齋院宣與頼朝、神皇正統記亦曰、頼朝奉以仁王令旨、院亦密諭之起兵、然玉海東鑑所載頼朝上書曰、不待平家追討之詔、愚管鈔亦曰、文覺察人心矯詔旨、實有之、今不取、十八日戊戌、復園城寺僧徒職任莊園、山槐記、百錬鈔、二十三日癸卯、發大奉幣使、二十七日丁未、遣使宇佐宮、山槐記、相模人大庭景親與源頼朝戰于石橋山敗之、東鑑、九月五日甲寅、敕右近衛權少將平維盛、薩摩守平忠度、參河守平知度等、將兵五千餘騎發東海道東山道兵、討源頼朝、玉海、山槐記、○平家物語不載知度、五日作十八日、兵三萬餘、源平盛衰記係六日、兵五萬餘、七日丙辰、源義仲奉以仁王令旨、起兵信濃應頼朝、東鑑、參取源平盛衰記、二十一日庚午、上皇幸嚴島、玉海、百錬鈔、冬十月六日乙酉、以熊野前別當湛增燒掠莊園、敕別當範智執之、百錬鈔、範智據仁和寺諸記鈔、上皇至自嚴島、玉海、山槐記、源平盛衰記、七日丙戌、有流星隕于福原東北、山槐記、百錬鈔、十三日壬辰、行幸右近衛大將平宗盛第避方忌、山槐記、二十日

己亥、平維盛等進軍富士川、源頼朝逆至黃瀨川、維盛等不戰而走、參取玉海、平家物語、山槐記、東鑑、○山槐記爲十九日、平家物語、源平盛衰記二十三日、二十七日丙午、奉幣諸社祈年穀、山槐記、戊申晦、雷雨雹、玉海、山槐記、是月、先是武田信義舉兵應源頼朝、吉記、駿河目代橘遠茂發兵三千赴甲斐、遂與信義兵戰敗死、參取玉海、東鑑、十一月五日癸丑、平維盛等還京師、玉海、歷代皇紀、○山槐記係六日、百錬鈔三日、源平盛衰記十五日、平家物語八日、近江以東諸源蠭起、歷代皇紀、七日乙卯、敕東

海東山北陸三道討源賴朝、吉記十一日己未、新都宮成、徙御焉、玉海、百鍊鈔、源平盛衰記、○見行本平家物語爲十三日、長門本平家物語二十二日、十八日丙寅、修法仁和寺、禱上皇不豫、仁和寺諸記抄二十三日辛未、清盛奏復舊都、車駕發福原、至藤原邦綱宇治第、吉記、山槐記、百鍊鈔、二十四日壬申、至邦綱寺江第、玉海、山槐記、吉記、二十五日癸酉、至唐崎、吉記、山槐記、二十六日甲戌、入京師、天皇御藤原邦綱五條東洞院第、玉海、山槐記、百鍊鈔、源平盛衰記、歷代皇紀、法皇御平重盛

六波羅故第、上皇御平賴盛第、玉海、山槐記、吉記、歷代皇紀、○源平盛衰記曰、法皇御法住寺殿、上皇御賴盛第、平家物語曰、兩院御賴盛第、熊野那智地震、三日不止、山槐記戊寅晦、修仁王會于太政官廳、禱亂平、吉記、山槐記、十二月二日庚辰、京師戒嚴、山槐記、百鍊鈔、分遣將士討東國諸源、左兵衛督平知盛自近江、右近衛權少將平資盛自伊賀、伊勢守平清綱自伊勢、○源平盛衰記係十一日、長門本平家物語爲三日、清綱作清經、明月記爲清經、資盛、通盛、經正、忠度、而不載清綱、知盛與前右兵衛尉山本義經柏木義兼等戰於近江敗之、玉海○東鑑係朔誤矣、本書及源平盛衰記作十三日、據東鑑十日義經等至鎌倉、則係十三日亦誤矣、南都本平家物語作三日、長門本作四日、未知孰是、姑係于此、奉幣伊勢以下十七社、禱弭兵革、○玉海作十六社、四日壬午、召還前關白基房、山槐記○源平盛衰記爲十一月二十三日、平家物語爲養和元年七月十四日、八日丙戌、法皇徙御平賴盛第、山槐記、百鍊鈔、十一日己丑、以延曆寺園城寺僧徒黨義經、遣淡路守平清房等討之、玉海、百鍊鈔、十九日丁酉、修孔雀經法於東寺、祈上皇不豫、山槐記、孔雀經御修法記、

地震、玉海、二十五日癸卯、遣藏人頭平重衡將兵數千討興福寺東大寺僧徒、玉海、山槐記、東鑑、百鍊鈔、○按源平盛衰記作三萬餘騎、平家物語四萬餘騎、今從山槐記、東鑑、二十八日丙午、重衡放火燒東大寺興福寺、玉海、山槐記、東鑑、源平盛衰記、平家物語、百鍊鈔、

養和元年辛丑春正月戊申朔、以兵革及東大寺興福寺火廢朝、百鍊鈔、平家物語、源平盛衰記、園太曆貞和三年、敕大和捕興福寺僧徒、諸衞官人以下戎衣、園太曆貞和三年、四日辛亥、解東大寺興福寺僧

綱以下見任、收莊園、百錬鈔、源平盛衰記、○平家物語係五日、八日乙卯、以前權大納言平宗盛爲畿內伊賀伊勢近江丹波等總管、百錬鈔○源平盛衰記係二十五日、長門本平家物語二十九日、十四日辛酉、上皇崩、是夜葬高倉天皇、百錬鈔、帝王編年記、增鏡、平家物語、源平盛衰記、○按一代要記爲二月二十七日葬者誤、二十八日乙亥、尾張驛言、源行家將兵數千入尾張、源平盛衰記、日據長門本平家物語、保曆間記、○本書爲二十四日、兵數千、玉海作數萬、二月平知盛、平通盛、平清經、平忠度、擊源行家於美濃板倉破之、源平盛衰記、長門本平家物語、○盛衰記云、是月朝知盛等發兵赴東國、先討山本柏木、至板倉擊行家、然去年十二月知盛等赴東國未回師、且討山本柏木在去年、則自去年至此、尚在美濃尾張間、而非特發京師討之矣、七日甲申、敕公卿及五畿七道神社佛寺、圖不動明王像、寫尊勝陀羅尼、禳兵禍、玉海、源平盛衰記、長門本平家物語、敕左右京諸司注京師戶口、遣使美濃、點檢渡船、玉海、九日丙戌、先是前武藏權守源義基據河內石川城、應源賴朝、是日遣源季貞等討斬之、平家物語、傳首京師、虜義基弟義資義廣下左獄、玉海、東鑑、○源平盛衰記、平家物語作義基、及子義兼、不載義資義廣、十二日己丑、平知盛、平清經還京、源平盛衰記、保曆間記、十三日庚寅、宇佐大宮司宇佐公通奏、菊池緒方臼杵戶次松浦黨應源賴朝、燒太宰府、源平盛衰記、參取玉海、平家物語、○盛衰記原田種直亦應賴朝、據東鑑、種直募兵伐菊池隆直緒方惟能、故不取、十六日癸巳、伊豫奏河野通信殺額西寂、國人多附之者、源平盛衰記、平家物語、○長門本平家物語爲十七日、十七日甲午、遷御權中納言平賴盛八條第、玉海、百錬鈔、是月肥後人原田種直募西海兵二千擊菊池隆直、緒方惟能、東鑑、閏月四日庚戌、前太政大臣清盛薨、玉海、明月記、東鑑、百錬鈔、公卿補任、帝王編年記、源平盛衰記、平家物語、先是平宗盛奏院宣將赴東國、以清盛疾、遂不果、源平盛衰記、十五日辛酉、平重衡平維盛將一萬三千餘騎、玉海○保曆間記作六千餘騎、齎院宣、諭東國、討源賴朝、玉海、百錬鈔、東鑑、源平盛衰記、○保曆間記爲二十五日、盛衰記作東海南海西海三道、二十五日辛未、法皇自鳥羽宮徙御法住寺殿、玉海、百錬鈔、帝王編年記、丙子晦、有犬嚙晝御座劒裝具、百錬鈔、是月熒惑守

南斗、玉海三月丁丑朔、復東大寺興福寺莊園僧綱官、源平盛衰記、平家物語三日己卯、皇嘉門院所居火、吉記、百鍊鈔、玉海係四日○七日癸未、地震、月犯鎮星、吉記十日丙戌、平重衡平通盛平維盛平忠度等與源行家戰于洲股河、大敗之、斬卿公義圓、十八日甲午、遣使檢東大寺興福寺遺火處所、玉海二十一日丁酉、皇嘉門院所居右大臣藤原兼實第火、玉海、吉記、百鍊鈔夏四月三日戊申、鎮星犯輿鬼、玉海十日乙卯、還自八條第

御閑院、十四日己未、敕平宗盛討菊池隆直、五月四日己酉、春日社第四殿神鏡自墜壞、吉記、百鍊鈔六日辛巳、吉野僧徒蜂起、有稱以仁王子者、法皇敕宗良僧徒索捕之、玉海十九日甲午、以明年値三合厄、奉幣二十二社禳之、吉記二十一日丙申、法金剛院火、吉記、百鍊鈔二十六日辛丑、卜伊勢神宮日吉社怪異於軒廊、吉記六月三日戊申、法皇幸園城寺、長門本平家物語十日乙卯、祈雨、吉記是夜行幸八條第、玉海、吉記避

祇園神輿、玉海十五日庚申、還御閑院、敕課三十五國修造興福寺、讀經龍穴、玉海、吉記十六日辛酉、祈雨神泉苑、七日、吉記、東寺長者補任十八日癸亥、京師有光怪、修鎮魂祭於禁中、二十日乙丑、奉幣石清水、吉記二十二日丁卯、雨、玉海、吉記卜賀茂御祖社竈鳴、春日社鏡破及炎旱於軒廊、吉記二十五日庚午、客星守傳舍、明月記、寬喜二年二十六日辛未、下詔造東大寺、吉記、百鍊鈔、一代要記、有雙頭蓮生法勝寺池、吉記、百鍊鈔二十九日甲

戌、修玄宮北極祭、吉記是月、越後人城長茂與源義仲戰于信濃、敗走、玉海、吉記、一代要記、皇帝紀抄、○長茂兄弟事蹟、諸書互有異同、說見本傳、秋七月十四日戊子、改元、玉海、百鍊鈔、公卿補任、一代要記、平家物語、○保曆閒記作十七日非常赦、玉海、源平盛衰記、平家物語八月三日丁未、太白辰星相犯、玉海以前筑前守平貞能爲肥後守、討鎮西叛者、源平盛衰記、長門本平家物語、爲肥後守據平家物語、○保曆閒記係是月不日、一代要記作是年冬、見行本平家物語係七月十四日、五日己酉、卜犬矢畫御座、吉記九日癸丑、修仁王會於太政官廳、

吉記、源平盛衰記、禳天變兵革、源平盛衰記○平家物語係七日十日甲寅、以天變兵禍及諸社有怪、奉幣伊勢以下二十二社、吉記十四日戊午、詔中宮亮平通盛但馬守平經正討源義仲、吉記、東鑑、本書竝爲十五日經正發京、十六日通盛發京、今從百鍊鈔係詔下日、○源平盛衰記、保曆間記、經正作教經、蓋誤、十五日己未、以藤原秀衡爲陸奧守、平親房爲越前守、城長茂爲越後守、討源頼朝源義仲、玉海、吉記、參取百鍊鈔、○源平盛衰記係二十五日、平家物語二月朔、東鑑係十三日、長茂作資永、十六日庚申、信濃以亂故不貢

馬、吉記、百鍊鈔、遣伊勢守平清綱、上總介藤原忠清等討源頼朝、東鑑二十日甲子、月犯天關、玉海○本書又曰、十八日犯畢火星、疑有脫誤、故不取、九月六日己卯、平通盛與源義仲兵戰于越前而敗、吉記、百鍊鈔、○長門本平家物語、源平盛衰記係九日、越前作越後、退據敦賀城、玉海、吉記、奏請益兵、玉海十四日丁亥、遣使奉金鎧於大神宮、玉海、吉記、○百鍊鈔係十三日、東鑑十九日、平家物語朔、源平盛衰記十一日、十八日辛卯、熒惑犯哭星、玉海二十日癸卯、城長茂奏言、北國悉屬源義仲、無應募者、源平盛衰記

二十八日辛丑、遣左馬頭平行盛、薩摩守平忠度、率數千騎援平通盛、參取百鍊鈔、源平盛衰記、○玉海係二十七日熊野僧徒塞鹿春山、應源頼朝、遣權中納言平頼盛討之、是月三笠山有光怪、玉海冬十月十六日己未、遣加賀守平爲盛討熊野僧徒、百鍊鈔十一月六日戊寅、雨而井涸、二十日壬辰、平通盛還京師、吉記○東鑑係二十一日二十五日丁酉、上高倉中宮號曰建禮門院、玉海、吉記、公卿補任、女院小傳、帝王編年記、源平盛衰記、○平家物語爲十二月二十四日、保曆間記八

月二九日、十十二月五日丁未、皇嘉門院崩、玉海、百鍊鈔、女院小傳、一代要記、歷代皇紀、○源平盛衰記、保曆間記、長門本平家物語係三日、是夜葬皇嘉門院、玉海十三日乙卯、法皇徙御新造法住寺殿、源平盛衰記、長門本平家物語、是年天下大飢、百鍊鈔、皇帝紀抄、源平盛衰記、長門本平家物語、

壽永元年壬寅、春正月壬申朔、以諒闇停諸節會、長門本平家物語二日癸巳、雷、百鍊鈔十日辛巳、月入東井、十三日甲申、月犯鎮星、養和二年記二十六日丁亥、罷踏歌節、百鍊鈔二十三日甲午、歲

星熒惑相犯、(養和二年記)是月京師飢疫盜行火、百姓棄嬰兒、死者盈巷、(百鍊鈔、參取吉記、養和二年記、)二月五日丙午、月犯畢、(養和二年記)二十七日戊午、卜日前宮怪異於軒廊、二十一日壬戌、太白犯歲星、(○平家物語、保曆間記、作太白犯昴、)三月四日甲戌、太白犯熒惑、(吉記○養和二年記係朔、)十三日癸未、月入太微、(養和二年記)二十日庚寅、夜盜竊晝御座劍、(吉記、百鍊鈔、)夏四月十四日甲寅、法皇幸延曆寺、(玉海、百鍊鈔、長門本平家物語、)十五日乙卯、還宮、(百鍊鈔、長門本平家物語、)二十四日癸巳、奉幣二十二社、禳飢疫、(平家物語○長門本平家物語爲五月二十四日)五月十九日戊子、以延曆寺僧永雲顯眞送以仁王子及源仲綱子於源義仲所、流永雲於薩摩、顯眞於土佐、(源平盛衰記)二十七日丙申、改元、(玉海、百鍊鈔、公卿補任、○平家物語爲二十四日)六月十二日辛亥、御大內避祇園神輿、十五日甲寅、還閑院、(吉記、庭槐抄、)二十八日丁卯、攝政基通罷內大臣、(玉海、公卿補任、)秋七月十一日己卯、以法皇修孔雀經法免輕囚、(吉記、一代要記、)八月

五日癸卯、卜平野吉田怪異於軒廊、(上卿故實)十四日壬子、尊準母前齋宮亮子內親王曰皇后、(吉記、一代要記、歷代皇記、)冬十月二日己亥、御大內、(玉海)遣檢非違使禁京中民毀屋鬻之、(百鍊鈔)三日庚子、以大納言平宗盛爲內大臣、(玉海、公卿補任、)二十一日戊午、御禊節旗無故折、有狂人入御膳幄、(玉海)十一月二十四日辛卯、大嘗、(百鍊鈔、一代要記、皇年代略記、)十二月二日戊戌、還閑院、(玉海)

二年癸卯、春正月十九日乙酉、修最勝光院八講、薦先帝冥福、(玉海)著爲式、(年中行事)二月二十一日丙辰、覲法皇于法住寺殿、(玉海、吉記、百鍊鈔、○源平盛衰記爲二十日、長門本平家物語三日、保曆間記二十二日、見行本平家物語正月五日、)二十七日壬戌、內大臣平宗盛罷、(公卿補任、一代要記、歷代皇紀、保曆間記、○平家物語爲二十一日、)是月法皇敕前皇太后宮大夫藤原俊成撰千載和歌集、(千載和歌集序、拾芥抄、)三月二十三日戊子、雨雹、(玉海)夏四月五日己亥、以大納言藤原實定爲內大臣、(玉海、公卿補任、)九日癸卯、奉幣伊勢以下十六社、禳兵、

禍、玉海十七日辛亥、遣右近衛中將平維盛、中宮亮平通盛、左馬頭平行盛、參河守平知度、但馬守平經正、淡路守平清房等率兵十萬討源義仲、源平盛衰記、平家物語、參取一代要記、二十六日庚申、遣參議源通親於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、玉海、伊勢公卿敕使例、二十七日辛酉、平維盛等拔燧城、復越前、一代要記、源平盛衰記、保曆間記、長門本平家物語、五月二日乙丑、平維盛與源義仲將林光明富樫家經等戰、大敗之、復加賀、保曆間記、源平盛衰記、○玉海

爲三日　三日丙寅、卜賀茂御祖社羽蟻于軒廊、玉海十一日甲戌、平維盛等與源義仲戰於礪竝山、敗績、平知度館貞康以下死者五萬餘人、參取源平盛衰記、平家物語、保曆間記、十五日戊寅、遣參議平親宗於佐保山陵、謝燒東大寺大像、二十二日乙酉、有雲如紅旗見西南、詔減服御常膳、二十九日壬辰、奏神樂於內侍所三夜、祈靖亂、玉海六月甲午朔、平維盛平通盛等與源義仲戰于篠原、敗績逃歸、玉海、源平盛衰記、○平家物語爲五

月二一日十二日乙未、藏劒於諸社、三日丙申、奉幣伊勢以下十社、禱兵有利、法皇幸日吉社、五日戊戌、還宮、吉記十一日甲辰、使祭主禱靖亂於大神宮、百鍊鈔、源平盛衰記、保曆間記、○見行本平家物語係朔、長門本平家物語係二十一日、法皇使一千僧轉讀藥師經於延曆寺、吉記、百鍊鈔、源平盛衰記、○長門本平家物語係二十一日十二日乙巳、御大內避祇園神輿、十五日戊申、還閑院、吉記十八日辛亥、肥後守平貞能定鎭西還京師、吉記、一代要記、源平盛衰記、○平家物語爲七月十四日法皇修

百座仁王講於石清水以下十社、二十一日甲寅、遣使柏原圓宗寺成菩提院安樂壽院清閑寺山陵禱亂平、吉記秋七月八日庚申、以源義仲兵入近江、中外戒嚴、百鍊鈔九日辛未、金峯山多武峯僧徒與源賴政遺黨作亂、十六日戊寅、遣薩摩守平忠度率兵赴丹波、賀茂下社祇園社樗木無故折、吉記二十一日癸未、使左近衛中將平資盛肥後守平貞能等將兵一千餘騎赴近江、玉海、○一代要記、長門本平家物語、源平

盛衰記作二千餘騎、吉記百鍊鈔三千餘騎、二十二日甲申、源義仲進據延曆寺總持院、參取玉海、百鍊鈔、一代要記、源平盛衰記、〇長門本平家物語爲十日誤權中納言平知盛、左近衞權中將平重衡將二千騎赴近江、吉記、一代要記、源平盛衰記、〇盛衰記及平家物語作三千騎、按平家物語又載越前守平通盛、能登守平教經將二千騎赴宇治、左馬頭平行盛、薩摩守平忠度二將一千騎赴淀、今據吉記玉海考之、是時忠度在丹波、故不取、聞義仲迫京師、皆引兵而還、知盛與加賀人大田兼定等戰于粟津不克、遂還京師、源平盛衰記薩摩守平忠度退次大江山、玉海

二十四日丙戌、夜從御法住寺殿、〇長門本平家物語作六波羅法皇幸延曆寺、玉海、吉記、百鍊鈔、〇一代要記作二十五日二十五日丁亥、天震石清水寶殿廊、吉記、百鍊鈔、皇擁神器赴西國、平宗盛舉族扈從、玉海、吉記、百鍊鈔、源平盛衰記、平家物語、參取愚管鈔、一代要記、歷代皇紀、八月十七日己酉、車駕至太宰府、太宰權少貳原田種直及菊池臼杵戶次松浦等營行宮衞護、源平盛衰記、長門本平家物語、〇按見行本平家物語曰、菊池隆直據城不出、九國諸將皆不至、又曰、將營宮室、然以緒方維能叛不果、或云御種直家、今竝不取、以原田種直

爲筑前守、菊池隆直爲肥前守、〇源平盛衰記長門本平家物語筑前守作肥前守、肥前守作豐前守、二十日壬子、法皇使皇孫尊成踐阼京師、玉海、百鍊鈔、九月緒方惟能叛、臼杵戶次松浦等應之、惟能犯太宰府、肥後守平貞能、菊池隆直、原田種直等防戰于博多不利、源平盛衰記、長門本平家物語、〇見行本平家物語爲季貞盛澄逆戰于高野本莊天皇御腰輿幸箱崎、公卿宮人徒步從焉、自箱崎遷藤原秀遠山鹿城、御船至柳浦、謁宇佐宮、源平盛衰記、平家物語、民部大輔紀光季

奉船百三十餘艘、遂至讚岐、〇平家物語光季作刑部大夫通資菊池胤益運阿波材、造行宮於屋島、〇平家物語、保曆間記、作成能營行宮、阿波人田口成良將一千餘騎來屬、四國將士悉應成良、以成良爲阿波守、源平盛衰記冬十月十二日癸卯、瀨尾兼康誘殺倉光兼光、據板藏、源義仲攻拔之、源平盛衰記、平家物語、月據一代要記歷代皇紀、〇本書爲閏十月事閏月壬戌朔、日有食之、玉海、源平盛衰記、先是復山陽南海十四國、平家物語是日遣左近衞中將平重衡越前守平

通盛能登守平教經將兵七千戰艦二百艘、與源義仲將足利義清高梨高信海野幸廣等戰于水島斬之、參取源平盛衰記、平家物語。○平家物語重衡作知盛十一月辛卯朔日南至、玉海、吉記、百鍊鈔、朔旦冬至記。九日己亥、平重衡將三百餘騎與惟資戰于東川走之、吉記。○惟資姓闕二十九日己未、平教盛平重衡將兵一萬與源行家戰于室山敗之、○平家物語教盛作知盛、兵一萬爲二萬復備前播磨、源平盛衰記十二月二十二日壬午、地震、吉記

三年甲辰春正月、天皇在屋島、罷朝拜諸節會、平家物語是月徙御攝津福原宮、愚管鈔、東鑑、讃岐在廳與源氏交通、中納言平教盛越前守平通盛能登守平教經擊敗之、進兵擊源義嗣源義久於淡路、斬義嗣、虜義久、擊河野通信沼田某於沼田城、虜沼田某、通信走伊豫、教經又敗安摩宗益園部重茂於吹井浦、又攻河野通信、緒方惟能、海田宗親、臼杵維高等于今木城破之、源平盛衰記、平家物語、二月五日甲子、源義經入三草山、襲左近衛中將平資盛、資盛敗走、東鑑、源平盛衰記、平家物語、七日丙寅、源範賴源義經將兵數萬犯行宮、官軍大敗、平重衡就虜、平通盛、平忠度、平知章、平師盛、平經正、平經俊、平業盛、平敦盛、平清定、平清房、平盛俊等死之、天皇御船還屋島、源平盛衰記、平家物語、○東鑑、帝王編年記、皇帝紀抄爲能登守教經戰死於此、說詳注本傳、夏四月十六日甲戌、京師改元元曆、玉海、公卿補任、吉記、百鍊鈔、冬十月、權中納言平知盛復安藝周防、源平盛衰記十二

月七日壬戌、平行盛與佐佐木盛綱戰于備前兒島敗、東鑑○源平盛衰記、平家物語竝爲九月二十六日、四年乙巳春二月十八日壬申、源義經至尼子浦、虜守將櫻間良連、進攻勝浦、○東鑑爲桂浦守將櫻間良遠棄城走、源平盛衰記十九日癸酉、源義經犯屋島、天皇浮海避之、○十八日或爲十七日、十九日或爲十八日、說見義經傳、二十日甲戌、義經放火燒民舍、行宮焚燬、○平家物語爲十八日事二十一日乙亥、天皇次志渡、源義經犯志渡、○平家物語作十九日天皇幸

引島、田口成直降義經、參取源平盛衰記、平家物語、○東鑑引島作彥島三月二十四日丁未、大戰于壇浦、田口成良降義經、前內大臣平宗盛、權大納言平時忠、右衛門督平清宗等被虜、參取玉海、東鑑、源平盛衰記、平家物語、中納言平教盛、權中納言平知盛、參議平經盛、右近衛中將平資盛、左近衛少將平有盛、左馬頭平行盛、能登守平教經等死之、源平盛衰記、平家物語、天皇崩於壇浦、年八歲、神器沈海、玉海、東鑑、源平盛衰記、平家物語、文治三年夏四月、奉

諡曰安德天皇、玉海、百鍊鈔、建久二年、敕長門建阿彌陀堂、薦天皇冥福、玉海

大日本史卷之五十三終

大日本史卷之五十四

本紀第五十四

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

後鳥羽天皇

後鳥羽天皇諱尊成、高倉帝第四子也、母七條院、增鏡、百錬鈔、皇代記、一代要記、治承四年七月十五日乙丑生、增鏡、皇胤紹運錄、歷代皇紀、○一代要記、帝王編年記、皇代記爲十四日、

壽永二年七月、平宗盛等挾養和帝及神器走西海、法皇敕源義仲源行家討之、又詔平時忠諭宗盛等還帝于京師、宗盛不奉命、於是議更立主、玉海、源平盛衰記、議者謂故三條宮子北陸宮年既長、亂離之際、宜援立以安國家、源平盛衰記、或曰、法皇宜重登阼、或曰、女主承統、非無故事、宜立八條院、長門本平家物語、法皇欲擇高倉帝諸子立之、源平盛衰記、而二宮從養和帝在西海、三宮四宮留在京師、源平盛衰記、平家物語、八月、法皇卜二皇子、三宮吉、時法皇寵姬丹後奏、妾夢四宮出遊、儀如行幸、手執松枝、法皇意動、欲違卜立之、玉海、○本書丹波、今姑據長門本平家物語、源平盛衰記、乃召見二皇孫、三宮五歲、四宮四歲、三宮見法皇怍啼不進、四宮卽據法皇膝、法皇欣然曰、是眞朕孫也、酷似故院幼時、因歔欷嗚咽、丹後從傍奬贊曰、大位當速決、弗可他議、源義仲盛稱故三條宮功、請立北陸宮、源平盛衰記、法皇患之、數遣使諭之、義仲固執前

議、法皇乃與攝政基通前關白基房左大臣藤原經宗議之、皆曰、不可、然義仲所議亦難違拒、宜再卜之、於是復卜二皇子及北陸宮、四宮大吉、三宮吉凶相半、北陸宮大凶、議乃定、法皇敕削平氏二百餘人官爵、玉海、○一代要記作百八十九人、源平盛衰記百八十人、二十日壬子、立四宮爲皇太子、立坊次第、帝王編年記、著袴於法皇宮、卽日踐阼於閑院、玉海、不傳劍璽而踐阼、古來所無也、玉海、增鏡、源平盛衰記、攝政基通左大臣藤原經宗右大

臣藤原兼實、內大臣兼左近衛大將藤原實定、權大納言兼右近衛大將藤原良通、並如故。公卿補任 九月二日甲子、法皇遣參議藤原脩範于伊勢、奉幣大神宮、祈滅平氏。祈滅平氏、據源平盛衰記。十五日丁丑、法皇幸日吉社。百錬鈔 十九日辛巳、法皇命左馬頭源義仲討平氏。玉海○源平盛衰記爲十五日。是月、法皇始修兩部大法於金剛峯寺、祈弭禍亂。高野山所藏釋如圓巡禮記 十月九日庚子、復源賴朝位。玉海、百錬鈔 十二日癸卯、源義仲攻

瀬尾兼康於板藏、破之。平家物語、源平盛衰記 十三日甲辰、雷。十四日乙巳、地震。玉海、百錬鈔 鎭星入太微。玉海 敕平氏所侵奪東海東山二道諸國貢稅及神社佛寺王臣家領莊園、各還附本主、參取百錬鈔、玉海。 閏月壬戌朔、日有食之。玉海、源平盛衰記。源義仲將足利義清・海野幸廣、與平氏戰水島、不克。義清・幸廣戰死。源平盛衰記 十五日丙子、義仲還京師。玉海、一代要記 十一月辛卯朔、日南至。羣臣表賀。玉海、吉記 八日戊戌、備前守源行家帥

兵討平氏。十八日戊申、車駕潛幸法住寺殿。戒嚴。玉海、吉記、百錬鈔、法住寺殿據百錬鈔 十九日己酉、源義仲反、舉兵犯法住寺殿、縱火燒之。攝政基通遁。玉海 官軍潰、死者百餘人、圓慧法親王及延曆寺座主明雲爲亂兵所害。玉海、百錬鈔、歷代皇紀、源平盛衰記、百餘人據吉記、百錬鈔。 天皇遷御皇母七條第。百錬鈔○歷代皇紀曰、義仲兵擁天皇入七條民舍、義仲奉車遷之閑院。源平盛衰記曰、天皇御船避兵宮池。法皇幸攝政基通五條第。玉海、吉記、百錬鈔○一代要記、歷代皇紀並曰、法皇出宮、至新日吉妙音堂。義仲迎之、遷五條東洞院攝政家。愚管

鈔曰、法皇逃于清淨光院。義仲兵士遷之六條信成家。今六條殿是也。源平盛衰記曰、法皇遷五條內裏。姑附備考。二十日庚戌、天皇御閑院。百錬鈔 二十一日辛亥、源義仲請法皇罷攝政基通、內大臣藤原實定。公卿補任、源平盛衰記。以權大納言藤原師家爲內大臣攝政。玉海、公卿補任、百錬鈔、源平盛衰記。二十八日戊午、源義仲罷法皇親臣中納言藤原朝方及文武諸司諸國守數十人。吉記、百錬鈔、源平盛衰記、文武諸司諸國守據吉記、盛衰記及玉海所載解任姓名。二十九日己未、源行家與平氏戰于室山、敗績。玉海、室山

據源平盛衰記、十二月十日庚午、法皇還御左馬權頭大江業忠六條西洞院第、吉記、源平盛衰記、大江據長門本平家物語、法皇下院宣於源義仲、討源賴朝、吉記、百錬鈔、十五日乙亥、法皇以義仲請敕藤原秀衡討源賴朝、吉記、二十二日壬午、地震、玉海、吉記、二十五日乙酉、蛙與蛇鬬於鳥羽宮南門外、蛇死、百錬鈔、是歲關東飢、玉海、元曆元年正月辛卯朔、日忌罷小朝拜院拜禮、玉海、源平盛衰記、以亂不獻腹赤贄、百錬鈔、是夜大風雷、玉海、百錬鈔、將軍塚

鳴動、百錬鈔、十日庚子、以源義仲爲征夷大將軍、東鑑、帝王編年記、○百錬鈔、源平盛衰記係十一日、按玉海、百錬鈔、征夷作征東、然東鑑載義仲履歷最詳、與盛衰記職原鈔合、故從之、二十日庚戌、先是源賴朝遣其弟範賴義經將兵討源義仲、是日戰于宇治勢多、大敗之、義仲伏誅、東鑑、源平盛衰記、二十二日壬子、攝政內大臣師家罷、復基通攝政、藤原實定內大臣、玉海、一代要記、二十三日癸丑、地震、二十六日丙辰、敕源賴朝討平氏、玉海、是日梟義仲首、百錬鈔、源平盛衰記、東鑑、己未晦、敕源賴朝搜捕義仲餘黨、玉海、遣源範賴源義經討平氏、玉海、東鑑、法皇敕範賴義經奉還神器、平家物語、二月庚申朔、先是伯耆美德山有男子自稱法皇子、聚兵寇掠伯耆美作、是日請入見法皇且擊平氏、玉海、○按本書詳載此事、曰、事情奇異、而不載朝廷處分及其結局、其他諸書無所考、七日丙寅、源範賴源義經攻平氏於一谷、大破之、玉海、歷代皇紀、東鑑、源平盛衰記、斬平通盛平忠度等、虜平重衡、殺獲甚多、平宗盛奉養和帝走讚岐、東鑑、源平盛衰記、十三日壬申、梟平

通盛等首、玉海、東鑑、源平盛衰記、十五日甲戌、敕平重衡使諭平宗盛奉還養和帝及神器、東鑑、十九日戊寅、以武士驕縱、非理徵發、侵奪神社佛寺之供、院宮諸司所領、下敕五畿七道禁遏之、○東鑑、源平盛衰記並係十八日、百錬鈔係前年十月、二十二日辛巳、敕諸國司停徵兵糧於公田莊園、玉海、三月十一日庚子、法皇幸日吉社、留七日、天台座主記、四月二日庚申、法皇幸日吉社、十一日己巳、雨水、玉海、十五日癸酉、先是法皇造崇德帝及

贈太政大臣賴長廟於春日川原、至是成、吉記、源平盛衰記、○愚管鈔係十六日、十六日甲戌、改元元暦、玉海、吉記、百錬鈔、公卿補任、一代要記、歴代皇紀、法皇移御押小路第、玉海、吉記、二十六日甲申、遣參議源通親於白河帝陵、參議藤原經房於鳥羽帝陵、參議藤原兼光於待賢門院陵、告建崇德帝廟、吉記五月四日辛卯、源賴朝將士、與源義仲黨志太義廣戰于伊勢、斬之、東鑑○源平盛衰記曰、六月三日、齋院次官親能、捕義廣于雙林寺、二十一日戊申、賀茂上社舞殿無故而壞、百錬鈔六月五日壬戌、復平賴盛及子光盛官爵、公卿補任、東鑑、二十三日庚辰、奉幣二十二社、祈神器還京師、百錬鈔是月太白犯東井、玉海七月二日戊子、大織冠像破裂、談峯略記五日辛卯、御大內、玉海、山槐記、行類鈔、是月出羽守平信兼、平田家繼、起兵于伊賀、參取山槐記、東鑑、源平盛衰記、十九日乙巳、家繼及冨田家資等入近江、佐佐木秀義戰死、大內惟義擊平之、參取玉海、東鑑、○平家物語係六月十八日二十八日甲寅、天皇卽位於太政官廳、

時年五歲、玉海、山槐記、天祚禮祀職掌錄、百錬鈔、源平盛衰記、年據帝王編年記、及增鏡、一代要記、源平盛衰記等諸書、壽永二年四歲之文、是月旱、玉海八月丁巳朔、還閑院、玉海、山槐記、十一日丁卯、源義經擊平信兼于伊勢、平之、源平盛衰記○山槐記爲十二日二十三日己卯、遣使諸山陵告卽位、山槐記是月太白歲星相犯、玉海九月二日戊子、遣參河守源範賴討平氏、百錬鈔、源平盛衰記、十五日辛丑、法皇幸日吉社、留七日、玉海、山槐記、歷代皇紀、是月月犯東井、玉海十月二十五日庚辰、御禊、玉海、百錬鈔、增鏡、源平盛衰記、是月太白辰星熒惑相犯、玉海十一月十八日癸卯、大嘗、玉海、吉記、百錬鈔、增鏡、十二月七日壬戌、源範賴將佐佐木盛綱、與平行盛戰于備前兒島、敗之、東鑑十二日丁卯、法皇幸日吉社、玉海是歲盜壞宇佐宮、竊神寶、玉海、東鑑、京師多盜、公行剽掠、入朝餉所、褫官女衣、放火法皇宮、

二年正月乙酉朔、蚩尤旗見東南、玉海○吉記作東方十日甲午、遣源義經討平氏、吉記、百錬鈔、源平盛衰記、十四日甲戌、奉幣伊勢石清水賀茂、敕諸大寺

祈平氏伏誅、神器還京師、源平盛衰記二月二日丙辰、院廳符豐後、勠力討平氏、先是鎭西多屬平氏、唯豐後不從、至是獎諭之、東鑑十三日丁卯、月犯太微、玉海十九日癸酉、源義經率兵燒牟禮高松民舍、平宗盛奉養和帝而遁、義經與平氏戰於屋島、破之、東鑑、源平盛衰記、○平家物語係十八日、破平氏、盛衰記島二十日、是日住吉社司言、去十六日夜、有鳴鏑出住吉第三神殿而西、百鍊鈔、東鑑、鎌倉本平家物語、因奉御劒寶器於住吉社、二十日甲戌、

奏神樂於內侍所、百鍊鈔二十七日辛巳、奏神樂於賀茂社、東鑑三月三日丙戌、遣使授位一級於諸社、祈滅平氏、源平盛衰記二十四日丁未、源義經大敗平氏於壇浦、玉海、東鑑、源平盛衰記養和帝投海而崩、獲神鏡神璽、迎建禮門院及二宮、東鑑、源平盛衰記、百鍊鈔虜平宗盛平時忠等、餘黨悉平、玉海、百鍊鈔、東鑑、源平盛衰記

文治元年乙巳夏四月二十五日戊寅、遣權中納言藤原經房參議藤原泰通權左中辨源兼忠、迎神鏡神璽於鳥羽、移於太政官朝所、玉海、百鍊鈔、源平盛衰記二十七日庚辰、御大內、安鏡璽於溫明殿、奏神樂三日、玉海、百鍊鈔、三日據百鍊鈔五月六日戊子、奉幣二十二社、玉海、吉記、東鑑告謝鏡璽入京、幷祈得寶劒、吉記七日己丑、遣源義經押平宗盛平清宗等赴鎌倉、玉海、吉記、東鑑、源平盛衰記十八日庚子、盜竊晝御座劒、捕獲之、東鑑二十日壬寅、流平時忠于能登、平信基于備後、平時實于周防、藤原尹明于出雲、玉海、東鑑二十六

日戊申、卜石清水平野怪異於軒廊、吉記六月十六日丁卯、還閑院、玉海二十日辛未、法皇幸日吉社、玉海、天台座主記是夜地震、連日不止、一代要記、歷代皇紀、醍醐雜事記二十一日壬申、斬平宗盛平清宗、梟首、百鍊鈔、東鑑二十三日甲戌、斬平重衡、梟首於奈良、東鑑、玉海、○百鍊鈔係二十一日秋七月九日庚寅、地大震、地圻水涌、日華門閑院西廊倒、玉海官舍佛寺多壞、玉海、吉記、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、人多壓死、吉記、醍醐雜事記、踰月不止、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、○源平盛衰

記曰、諸國皆震、然諸書無所見、轉讀大般若經于宮中三日、百錬鈔十日辛卯、卜地震於軒廊、吉記修一字金輪法於六條殿、仁和寺御傳十二日癸巳、敕源義經逮捕京師盜、吉記二十二日癸卯、移御左大臣藤原經宗大炊御門第、山槐記是月月犯熒惑、玉海八月十三日癸亥、以地震奉幣九社、百錬鈔○玉海十二日載地震、令檢山槐記、自前月地震至九月不止、故不取、十四日甲子改元、赦、玉海、吉記、公卿補任、百錬鈔、東鑑、赦據玉海、○源平盛衰記爲十七日、誤、二十五日乙亥、避方忌於鳥羽殿、百錬鈔

二十七日丁丑、法皇幸奈良、二十八日戊寅、慶東大寺大像、法皇臨焉、玉海、山槐記、百錬鈔、源平盛衰記、二十九日己卯、法皇還宮、玉海、山槐記、九月四日甲申、以開眼大像非常赦、百錬鈔○玉海爲五日但大神宮賀茂社所許者、不在赦限、是月鎮星守太微東蕃上相、歳星守右執法、玉海冬十月十五日甲子、法皇謁石清水宮、百錬鈔十七日丙寅、源頼朝遣土佐房昌俊于京師、襲源義經、玉海、百錬鈔、東鑑、義經捕斬之、東鑑十八日丁卯、法皇

賜討源頼朝院宣於源行家源義經、玉海、東鑑、○百錬鈔爲十七日十一月三日壬午、行家義經赴西國、玉海、百錬鈔、東鑑、源平盛衰記、十二日辛卯、下院宣搜捕行家義經、玉海、源平盛衰記、○東鑑云、六日下院宣于諸國、又云、十一日下院宣于畿內近國、今不取、十五日甲午、卜定潔子內親王爲齋宮、玉海、百錬鈔、貴女鈔、二十三日壬寅、月犯謁者、玉海二十五日甲辰、敕源頼朝索捕源行家源義經、東鑑是月頼朝遣北條時政護衞京師、法皇以頼朝請、置守護地頭於諸國、以備盜賊、常

賦之外、計畝課兵糧、自是兵權一歸頼朝、玉海、東鑑、源平盛衰記、十二月六日乙卯、遣使宇佐、奉御劍神馬五色絹、至明石驛、爲兵士所劫、官使脫身逃歸、百錬鈔十七日丙寅、大藏卿高階泰經、右馬頭高階經仲、越前守高階隆經、○東鑑隆作高侍從藤原能成、少內記中原信康、坐黨源行家源義經奪官、玉海、東鑑、二十日己巳、地大震、玉海、醍醐雜事記、二十五日甲戌、自大炊御門第還閑院、玉海二十八日丁丑、敕右大臣藤原兼實

内覽、玉海、公卿補任、愚管鈔、百鍊鈔、二十九日戊寅、特敕右大臣藤原兼實及内大臣藤原實定大納言藤原實房權大納言藤原宗家藤原忠親權中納言藤原實家源通親藤原經房參議藤原兼光藤原雅長十人、議奏政事、參議平親宗刑部卿藤原頼經等坐黨源行家源義經奪官、東鑑、二十九日據玉海、歷代皇紀、皇帝紀鈔、○本書係二十七日、己卯晦、流高階泰經于伊豆藤原頼經于安房、玉海○歷代皇紀皇帝紀鈔爲二十九日、東鑑二十七日、是歲春夏大旱、秋

冬、風雨洪水、諸國飢、源平盛衰記

二年丙午春正月七日丙戌、避方忌於鳥羽殿、吉部秘訓鈔十七日丙申、奉幣石清水、假藏宇佐宮神寶、後愚昧記、應安四年三月十二日庚寅、攝政基通罷、公卿補任、以右大臣藤原兼實攝政、公卿補任、百鍊鈔、歷代皇紀、夏四月七日甲寅、行幸大炊御門第、避方忌、玉海十六日癸亥、召還流人高階泰經藤原頼經、百鍊鈔五月三日庚辰、祈雨、玉海十二日己丑、北條時定襲源行家於和泉斬之、玉海、東鑑、十五日壬辰、祈雨神泉苑、有金色蛇見春日社、十八日乙未夜、春日山有光、二十一日戊戌、行幸右兵衛督藤原隆房萬里小路亭、避方忌、玉海六月二日戊申、奉幣二十二社祈雨、玉海、百鍊鈔、是日大雨、六日壬子、敕五畿七道索源義經、十四日庚申、御大内、避祇園神輿、二十六日壬申、奉幣伊勢已下十二社、祈得寶劒、二十八日甲戌、有白烏見閑院、秋七月二日丁丑、以遷宇佐神于假殿、廢朝五日、

五日庚辰、京師雨蝶、九日甲申、御大内避方忌、十七日壬辰、奉幣石清水、謝盜瀆宇佐宮、二十一日丙申、法皇幸日吉社、閏月丙午朔、遣使宇佐宮、實檢損壞、十八日癸亥、鼠齧御衣、十九日甲子占之、八月六日庚辰、祈晴丹生貴布禰、十一日乙酉、○百鍊鈔係十二日法皇幸四天王寺、留二十餘日、二十三日丁酉、大風、春日山木多僵、九月十七日庚申、卜咳疾流行於軒廊、冬十月五日戊寅、法皇幸熊野、玉海八

日辛巳、以諸國地頭妄稱恩賞、加徵課役、擾在廳官人郡司等、下官符禁除、見在謀反人故地之外、地頭進止、（東鑑）十七日庚寅、攝政兼實罷右大臣、（玉海、公卿補任、）二十一日甲午、遣使宇佐、還藏神寶、（玉海、百錬鈔、後愚昧記應安四年、）二十五日戊戌、法皇至自熊野、（玉海）二十九日壬寅、以內大臣藤原實定爲右大臣、權大納言藤原良通爲內大臣、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）十一月四日丁未、右大臣藤原實定辭左近衞大將、（一代要記）八日

辛亥、御大內、（吉部秘訓鈔）二十日癸亥、還閑院、二十五日戊辰、又敕索源義經、（玉海〇愚管鈔係二十六日）二十七日庚午、內大臣兼右近衞大將藤原良通轉左近衞大將、（公卿補任〇一代要記曰、實定辭大將日轉左、）大納言藤原實房兼右近衞大將、（玉海〇公卿補任、一代要記係二十八日、）十二月甲戌朔、始讀孝經、（玉海、百錬鈔、一代要記、增鏡、）三日丙子、盜入太皇太后宮、殺進仲賢等男女若干、（東鑑〇仲賢姓闕）二十日癸巳、遣大納言藤原實房于伊勢、奉幣大神宮、（玉海、伊勢公卿敕使例、）二十七日庚子、賀法皇壽六十、命諸寺讀經度僧、（玉海）

三年丁未春正月十九日辛酉、雷、（百錬鈔）二十四日丙寅、法皇幸四天王寺、（玉海）二十七日己巳、還宮、（一代要記）二月三日乙亥、行幸大炊御門第、避方忌、（玉海）二十八日庚子、復置記錄所、（玉海、百錬鈔〇後白河帝復記錄所、其後再廢、諸書無所見、今不可考、）三月四日丙午、法皇使議奏公卿及左大臣藤原經宗、內大臣藤原良通及守覺法親王、前太政大

臣忠雅師長等二十三人、各上意見、詔曰、朕雖夙遭帝位、猶諮詢朝政、天下泰平、靡日不思、七八年來、干戈屢起、人苦軍旅、民忘農桑、因玆諸國諸司專於課役、神事佛事多以闕乏、誠知祭祀踈而答貺遲、施供闕而効驗空、衰亂之漸、職此之由、何況連年變異、天譴荐示、乙巳之秋、地大震動、每顧畏途之區分、彌思政道之克治、近雖無事、未遑修德、化俗之道、經國之術、不能獨治、宜憑衆智、堯鼓納諫、

舜旌進善、豈可不仰慕哉、弘仁貞觀聖代延喜天曆明時、亦資衆賢、以致雍熙、古何爲淳、今何爲薄、只繇政教之得失、實致國家之治亂、在官奉公之人、盍盡諫諍之情、宜陳嘉謨、且進讜言、至若當時政務、有不利於國者、同勒條貫、以備聽覽、縱雖觸犯、勿有所隱、謀國之安、豈不在茲、十四日丙辰、雨雹、行幸大炊御門第、避方忌、玉海 夏四月三日甲戌、以法皇違豫、非常赦、玉海、東鑑、 六日丁丑、春日山鳴動、八

日己卯、占鳥羽殿蟻聚釜鳴、玉海 九日庚辰、春日山鳴、二十三日甲午、謚養和帝曰安德天皇、玉海、百錬鈔 二十六日丁酉、行幸押小路第、避方忌、五月十一日壬子、月犯心大星、二十三日甲子、公卿上意見十七道、二十四日乙丑、祈雨、六月十日庚辰、太白犯東井、十二日壬午、行幸大炊御門第、避方忌、十四日甲申、還閑院、二十五日乙未、祈雨、二十六日丙申、省試、法皇幸日吉社、玉海 二十八日戊戌、上準母

皇后號曰殷富門院、玉海、女院小傳、 秋七月十一日庚戌、祈雨神泉苑、十三日壬子、源賴朝遣前因幡守大江廣元修閑院、玉海、修閑院據東鑑 二十日己未、奉幣伊勢已下七社、祈得寶劒、玉海、百錬鈔、 遣使長門與嚴島神主安藝介佐伯景弘求寶劒於海中、百錬鈔○本書介作守、今從東鑑 二十五日甲子、行幸大炊御門第、避方忌、二十八日丁卯、法皇幸四天王寺、八月十一日己卯、御大內、避方忌、十二日庚辰、以將修閑院、徙御大炊

御門第、十八日丙戌、地震、二十五日癸巳、法皇還宮、二十六日甲午、御大內、避方忌、玉海 是月、敕源賴朝捕京師羣盜、賴朝遣千葉常胤下河邊行平詗察、東鑑 九月五日癸卯、法皇至自日吉、○幸日闕 十二日乙酉、太白犯太微右執法、十五日癸丑、卜伊勢神宮殿舍爲風所壞於軒廊、盜入法皇六條殿、竊護劒等物、玉海 二十日戊午、前皇太后宮大夫藤原俊成上千載和歌集、千載和歌集序、拾芥鈔、 冬十月十二日己卯、

地大震、玉海十一月二日己亥、大織冠像破裂、
談峯略記七日甲辰、謁石清水宮、玉海、百錬鈔、吉部秘訓鈔、鴈嶺
年代記、八日乙巳、觀法皇於鳥羽殿、是日還大
炊御門第、十三日庚戌、閑院成、徙御焉、玉海十
四日辛亥、行幸賀茂社、玉海、百錬鈔、十九日丙辰、
大風雷、百錬鈔二十二日己未、發大神寶使、玉海
二十四日辛酉、卜雷於軒廊、百錬鈔十二月十
一日戊寅、法皇幸熊野、十三日庚辰、復弓場
始儀、二十四日辛卯、以雷奉幣伊勢已下七

社、玉海是月敕天下禁殺生、東鑑
四年戊申春正月六日壬寅、法皇至自熊野、
十六日壬子、法皇幸日吉社、玉海二月二十日
丙戌、內大臣兼左近衛大將藤原良通薨、玉海、
公卿補任、二十一日丁亥、敕陸奧出羽國司使前
民部少輔藤原基成及藤原泰衡捕源義經、
玉海、東鑑、基成據東鑑、是月弗豫、修祭讀經禱之、三月
十六日壬子、敕天下每家門戶安置四天王
經仁王經等、玉海○東鑑爲宣下諸國造四天王像二十日丙
辰、法皇慶楊柳觀音般若心經於六條殿、禱
天下安靖、一代要記夏四月五日辛未、式部大輔
藤原資定坐事流於淡路、玉海、國名據東鑑、八日甲
戌、使一千僧讀經延曆寺、玉海、百錬鈔、原輕犯、玉海
十三日己卯、法皇所御六條殿火、玉海、百錬鈔、東鑑、
十九日乙酉、禁賀茂祭近衛使檢非違使車
馬僕從用金銀錦繡爲飾、玉海二十日丙戌、法
皇敕源賴朝造六條殿、東鑑五月十五日庚戌、
卜痘瘡流行于軒廊、二十一日丙辰、奉幣伊

勢已下十二社、玉海二十四日己未、大祓三所
禳痘瘡、百錬鈔先是源賴朝遣所衆藤原信房、
及天野遠景、擊鬼界島、是月降之、東鑑六月十
三日丁丑、御大內、避祇園神輿、十四日戊寅、
還閑院、二十四日戊子、白虹貫心大星、玉海秋
八月十七日庚辰、申禁殺生、東鑑九月十五日
戊申、法皇八條院幸四天王寺、玉海○還宮日闕冬
十月十二日甲戌、申敕陸奧出羽國司、捕源
義經、東鑑十四日丙子、大納言右近衛大將藤

原實房、轉左近衛大將、權大納言藤原兼雅、兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、十一月二十八日己未、左大臣藤原經宗罷、公卿補任○本書、及尊卑分脉竝云、今年辭職、而本書明年條云、大臣勞二十六年、經宗以長寬二年任右大臣、至明年爲二十六年、然今無所考、

五年己酉春正月二十日辛亥、法皇幸日吉社、玉海、二月辛酉朔、日有食之、玉海、百錬鈔、十七日丁丑、下院宣源頼朝、繕治大内、東鑑、二十二日壬午、法皇幸四天王寺、玉海、仲資王記、一代要記、二十八日戊子、前左大臣藤原經宗薨、公卿補任、仲資王記、一代要記、彗星見東方、東鑑、一代要記、三月十一日辛丑、流藤原頼經于伊豆、○東鑑作十二日十四日甲辰、地震、十八日戊申、又震、玉海、仲資王記、二十五日乙卯、以豐受宮戸鎻不開、遣權大納言藤原實家于伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、玉海、仲資王記、伊勢公卿勅使例、庚申晦、白氣貫北斗魁星、東鑑、夏四月十三日癸酉、權大納言藤原朝方、及子出雲守朝經、坐黨源義經奪官、仲資王記、百錬鈔、東鑑、坐黨義經據東鑑、

閏月八日丁酉、復藤原朝經官、仲資王記、百錬鈔、十五日甲辰、召還流人平信基及弟時實藤原尹明藤原資定等、東鑑、己未晦、藤原泰衡攻源義經殺之、東鑑、百錬鈔、五月四日癸亥、以法皇慶法華經一千部於四天王寺、非常赦、玉海、六日乙丑、法皇至自四天王寺、十日己巳、法皇幸日吉社、仲資王記、二十七日丙戌、太白犯東井、六月二日庚寅、避方忌於鳥羽南殿、三日辛卯、還閑院、十三日辛丑、行幸攝政兼實大炊御門第、避祇園神輿、十六日甲辰、還閑院、玉海、秋七月十日戊辰、以右大臣藤原實定爲左大臣、大納言藤原實房爲右大臣、權大納言藤原兼雅爲内大臣、玉海、公卿補任、十九日丁丑、勅源頼朝討藤原泰衡、東鑑、二十日戊寅、上西門院崩、仲資王記、百錬鈔、女院小傳、後宮略傳、二十一日己卯、葬上西門院、仲資王記、八月二十日丁未、大風、玉海、仲資王記、神社官舍多倒、二十六日癸丑、以討藤原泰衡、勅神祇官禱七日、仲資王記、九月三日庚申、復

藤原朝方官、（公卿補任）源賴朝擊藤原泰衡克之、
（玉海、愚管鈔、）泰衡部下斬泰衡而降、（東鑑）二十日丁
丑、法皇幸四天王寺、（仲資王記）二十八日乙酉、多
武峯鳴動、冬十月十六日壬寅、（○仲資王記係十五日）
法皇還宮、十七日癸卯、行幸押小路第、避方
忌、（玉海）二十九日乙卯、行幸春日社、（玉海、仲資王記、一代
要記、）丙辰晦、還宮、（玉海）十一月三日己未、法皇幸
日吉社、（仲資王記）十九日乙亥、以皇兄守貞惟明
爲親王、（仲資王記、吉部秘訓鈔、）十二月十四日己亥、以

兼實爲太政大臣、攝政仍舊、（玉海、仲資王記、吉部秘訓鈔、一
代要記、歷代皇紀、○公卿補任爲十七日）二十九日甲寅、右大臣
藤原實房罷左近衛大將、（一代要記、帝王編年記、）乙卯
晦、權大納言藤原良經兼左近衛大將、（公卿補任、）
（一代要記、歷代皇紀、）是月、敕源賴朝入朝、（東鑑）
建久元年庚戌春正月三日戊午、天皇加元
服於紫宸殿、（吉部秘訓鈔、百鍊鈔、）用晝御座劒代寶劒、
七日壬戌、公卿表賀、是日赦、（玉海）十六日辛未、
以從三位藤原任子爲女御、二十七日壬午、

覲法皇于六條殿、（玉海、百鍊鈔、）二月、先是藤原泰
衡將大河兼任、作亂陸奧出羽、源賴朝遣兵
擊平之、（東鑑）三月七日辛酉、法皇幸熊野、十八
日壬申、行幸押小路第、避方忌、夏四月七日
庚寅、法皇至自熊野、（玉海）十一日甲午改元、（玉海、
公卿補任、百鍊鈔、東鑑、○一代要記係十六日）十八日辛丑、卜大神
宮心柱倒于軒廊、（玉海）十九日壬寅、攝政兼實
罷太政大臣、（玉海、公卿補任、）二十二日乙巳、上所生
準三宮藤原氏號曰七條院、（玉海、女院小傳、後宮略傳、）二

十六日己酉、立女御藤原任子爲中宮、（玉海、百鍊
鈔、公卿補任、一代要記、）法皇敕源賴朝修六條殿、（東鑑）五
月七日庚申、以心柱倒、奉幣大神宮、廢朝五
日、（玉海、百鍊鈔、）六月二十六日己酉、祈雨神泉苑、
（玉海）秋七月十七日己巳、左大臣藤原實定罷、
以右大臣藤原實房爲左大臣、內大臣藤原
兼雅爲右大臣、大納言藤原兼房爲內大臣、
（公卿補任、一代要記、）二十三日乙亥、法皇幸日吉社、八
月三日乙酉、御大內、避方忌、（玉海）十四日丙申、

遣權大納言藤原賴實于伊勢、奉宸筆宣命神寶於大神宮。(玉海、伊勢公卿勅使例、神寶據玉海。)十六日戊戌、祈晴。十七日己亥、風雨洪水。是日卜占霖雨、禱于神祇官、讀仁王經於東大興福延曆等寺。二十七日己酉、伊勢神官言、神宮瑞籬門倒。二十八日庚戌、奉幣伊勢已下十社、祈晴。辛亥晦、讀經十社。(玉海)九月十日辛酉、法皇幸四天王寺。(一代要記○按本書云、二十一日當有還幸、而不記其還、今無所考。)十三日甲子、以造東大寺下院宣于五畿

七道貢苧索。(東鑑)辛巳晦、行幸押小路第、避方忌。冬十月壬午朔、始讀史記。(玉海)法皇幸日吉社、使一千僧讀經。非常赦。(玉海、百錬鈔)但伊勢后清水所訴者不在赦限。三日甲申、遣使佐保山陵、告東大寺上棟。十七日戊戌、法皇幸奈良。十九日庚子、以東大寺上梁赦。二十日辛丑、法皇還宮。(玉海)十一月九日己未、源賴朝入朝。(玉海、東鑑)二十四日甲戌、右大臣藤原兼雅罷右近衛大將。(公卿補任、一代要記)權大納言源賴朝兼

右近衛大將。(玉海、公卿補任、東鑑)二十七日丁丑、行幸平野社。(玉海)十二月四日甲申、權大納言兼右近衛大將源賴朝罷。(公卿補任、增鏡、將軍執權次第。○百錬鈔爲三日)十四日甲午、行幸大原野社。(玉海)源賴朝還鎌倉。(玉海、百錬鈔、東鑑)十八日戊戌、白虹貫月。二十一日辛丑、以明年當三合厄、奉幣二十二社。(玉海)是歲諸國旱澇、稼穀不登。(東鑑)

二年辛亥春正月二十七日丙子、避方忌於六條殿。二十九日戊寅、還閑院。二月十七日

丙申、修仁王講於清涼殿七日。二十四日癸卯、御大內避方忌。(玉海)三月六日甲寅、權大納言藤原賴實兼右近衛大將。(公卿補任、一代要記、歷代皇紀)鎌倉地震。(東鑑)二十五日癸酉、遣權大納言藤原實宗於伊勢、奉宸筆宣命神寶於大神宮。(玉海、伊勢公卿勅使例、神寶據玉海)二十八日丙子、以內大臣藤原兼房爲太政大臣、大納言藤原忠親爲內大臣。(玉海、公卿補任)夏四月十四日辛卯、避方忌於鳥羽殿。十九日丙申、法皇至自熊野。(玉海○幸

日闕二十六日癸卯、延曆寺僧徒奉日吉祇園北野神輿詣閑院、訴左兵衛尉佐佐木定重殺傷神人宮仕、（百錬鈔、參取玉海、一代要記、東鑑。○天台座主記、定重作重綱、誤、）法皇諭僧徒還山、僧徒不奉詔、（玉海）棄神輿于陣頭而去、二十七日甲辰、還祇園北野神輿于本社、權遷日吉神輿于祇園、（百錬鈔）丁未晦、流佐佐木定重於對馬、定重父定綱於薩摩、兄廣綱於隱岐、（○天台座主記作讚岐）弟定高於土佐、下其從者五人于獄、（百錬鈔、東鑑、天台座主記。○百錬鈔作三人、座主記六人、）五月戊申朔、僧徒迎日吉神輿而還、（玉海、天台座主記、）遣使奉幣三社、（玉海、百錬鈔、）法皇幸四天王寺、避方忌、十日丁巳、奉幣馬於丹生貴布禰祈雨、十四日辛酉、以旱讀經神泉苑五日、十五日壬戌、奉幣二十二社、法皇又幸四天王寺、（玉海）十六日癸亥、祈雨神祇官、（玉海、百錬鈔、）十七日甲子、修孔雀經法於醍醐寺、（玉海、祈雨孔雀經法記、）二十日丁卯、以僧徒再訴、殺流人佐佐木定重、（東鑑）二十二日己巳、避方忌於鳥

羽殿、（玉海）是日大雨、（玉海、祈雨孔雀經法記、）二十三日庚午、法皇至自四天王寺、二十七日甲戌、修如說仁王會於太政官廳、禳三合厄、（玉海）六月十日丁亥、法皇六條萱御所火、（玉海、百錬鈔、）十二日己丑、祈雨丹生貴布禰、是夜大雨、十三日庚寅、御大內避祇園神輿、十四日辛卯、還宮、二十三日庚子、祈晴丹生貴布禰、（玉海）二十六日癸卯、進準三宮覲子內親王號曰宣陽門院、（玉海、女院小傳、院號定部類記引山丞記、○百錬鈔係二十七日、帝王編年記二十五日、）秋七月四日庚戌、祈晴、九月十日丙辰、法皇幸四天王寺、二十一日丁卯、以熒惑入軒轅、閑院攖華及三合厄、奉幣石清水已下七社、法皇還宮、（玉海）冬十月九日甲申、七條朱雀女子一產三子、（百錬鈔）十一月四日己酉、熒惑犯太微上將、（玉海）十一日丙辰、八十島祭、（百錬鈔）十二月八日壬午、行幸松尾社、十三日丁亥、行幸北野社、（玉海、百錬鈔、）十六日庚寅、法住寺殿成、法皇自六條殿徙御焉、（東鑑、十六日據玉海、○本書係十七日、蓋

使賴朝修之、而其命之月日、今無所考、十七日辛卯、以攝政兼實爲關白、玉海、百錬鈔、公卿補任、歷代皇紀、二十二日丙申、鹿島宮鳴動、東鑑是月法皇違豫、閏月十六日庚申、前左大臣藤原實定薨、○公卿補任係二日、百錬鈔十七日、十八日壬戌、以法皇違豫非常赦、二十九日癸酉、奉幣崇德帝廟、奉讃岐御影堂陵戶、造佛寺於長門、薦安德帝冥福、以禱法皇疾、玉海

三年壬子春正月十二日乙酉、法皇遣中納

言源通親于伊勢、奉幣大神宮、玉海、百錬鈔、十七日庚寅、修孔雀經法于法皇宮、七日、玉海、孔雀經御修法記、癸卯晦、行幸押小路第、避方忌、玉海二月十三日丙辰、法皇修臨時祭於日吉社、玉海、百錬鈔、奉十列東遊禱疾、十八日辛酉、觀六條殿、視法皇疾、○按法皇還六條殿、日無所考、三月十三日乙酉、法皇崩、十五日丁亥、葬後白河天皇、玉海夏四月二十九日庚午、鎌倉有大流星、東鑑是月熒惑犯右執法、明月記五月二日癸酉、原輕囚、玉海

秋七月二日壬申、避方忌、吉部祕訓鈔○本書不地、今無所考、十二日壬午、以前權大納言源賴朝爲征夷大將軍、公卿補任、東鑑、九月三日壬申、熒惑犯天江、玉海冬十月十八日丁巳、修孔雀經法於閑院禳彗星、孔雀經御修法記○本書不載彗星見日及方位、他無所考、十二月十六日甲寅、大祓三所禳痘瘡、二十九日丁卯、天皇患痘瘡、百錬鈔

四年癸丑春正月己卯朔、以諒闇罷小朝拜、百錬鈔三日辛未、以天皇患痘瘡、修不空羂索

法天曹地府泰山府君祭、四日壬申、奉幣伊勢已下十二社、五日癸酉、奉幣粟田宮、八日丙子、修七佛藥師法於禁內、十五日癸未、使一千僧讀經延曆寺、原輕囚、二十日戊子、疾瘳、二十六日甲午、始覽吉書、臨除目、二月七日甲辰、修尊勝陀羅尼供養於法勝寺、八日乙巳、修八講於祇園、玉海三月九日丙子、慶佛堂於蓮華王院、歷代皇紀、帝王編年記、十三日庚辰、修曼陀羅供於六條殿、百錬鈔○本書作丙辰、今推干支訂之、夏

五月八日癸酉、御大内避方忌、（玉海）秋七月、淡路出九足馬、（東鑑）八月、敕修粟田宮祭、（帝王編年記）冬十月十一日甲辰、行幸日吉社、（玉海、百鍊鈔、吉部秘訓鈔）十一月十七日庚辰、武藏鷲宮神座前血流、（東鑑）十二月十三日丙午、遣使宇佐、（玉海、百鍊鈔、）二十二日乙卯、使一千僧讀藥師經于延曆寺、（百鍊鈔）

五年甲寅春正月六日戊辰、行幸齋院五辻第、避方忌、（玉海、仲資王記、）二月十九日辛亥、又行幸五辻第、（仲資王記）二十七日己未、置樂所、（玉海）三月十六日丁丑、鎌倉日無光、二十八日己丑、有盜入大内放火、捕獲之、（東鑑）二十九日庚寅、修法華八講於長講堂、著爲永式、（年中行事）夏四月三日甲午、行幸法金剛院、避方忌、（園太曆貞和三年）五月十九日己卯、行幸八條院、避方忌、六月五日甲午、祈晴、七日丙申、祈晴神祇官七日、（仲資王記）己未晦、後白河帝廟鳴動、（百鍊鈔）秋七月十二日辛未、行幸五辻第、避方忌、（玉海、仲資王記、）十

五日甲戌、廣田東宮鳴動、（仲資王記）十六日乙亥、修孔雀經法于神泉苑、（玉海）十九日戊寅、祈雨丹生貴布禰、（百鍊鈔）二十日己卯、宇都宮朝綱坐私占公田、流于土佐、（東鑑）二十三日壬午、遣使後白河帝廟、（百鍊鈔）奉幣廣田社、二十六日乙酉、行幸五辻第、避方忌、（仲資王記）二十八日丁亥、卜夷宮鳴動、（仲資王記、百鍊鈔、）八月三日辛卯、松尾社司言、靈木無故僵、十一日己亥、行幸五辻殿避方忌、（仲資王記）是月内大臣藤原忠親罷、（公卿補任）十七日乙巳、八條院所居火、（玉海、仲資王記、百鍊鈔、）閏月十五日壬申、以天變怪異及重戹、奉幣伊勢以下十三社、（玉海）十六日癸酉、奉幣粟田宮、二十七日甲申、地震、（玉海、仲資王記、）九月九日丙申、大雷、（百鍊鈔）二十二日己酉、以慶興福寺大赦天下、冬十月十九日丙子、行幸五辻第、避方忌、十一月二十三日庚戌、行幸押小路第、避方忌、十二月丁巳朔、祈晴、二日戊午、行幸稻荷祇園、十七日癸酉、行幸法金剛院、避

方忌、仲資王記六年乙卯春正月十七日癸卯、行幸押小路第、避方忌、玉海二月乙酉晦、御大內、玉海、百錬鈔、遣權大納言藤原良經于伊勢、告慶東大寺、玉海、伊勢公卿敕使例、告慶東大寺據百錬鈔、三月丙戌朔、日有食之、玉海、百錬鈔、四日己丑、源賴朝入朝、百錬鈔、東鑑、愚管鈔、十日乙未、行幸東大寺、玉海、百錬鈔、東鑑、十二日丁酉、慶東大寺、玉海、百錬鈔、東鑑、一代要記、前內大臣藤原忠親覽、公卿補任、皇帝紀鈔、一代要記、十三日戊戌、車駕還宮、

玉海、百錬鈔、夏六月二十五日戊寅、源賴朝還鎌倉、一代要記、愚管鈔、東鑑、秋七月九日辛卯、以中宮有身、奉幣十三社、百錬鈔九月六日丁亥、大風、成勝寺延勝寺門倒、是月太白熒惑入太微、玉海冬十月十日辛酉、奉幣十社、禳天變、三長記十一月十日辛卯、以權大納言藤原良經爲內大臣、三長記、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、十一日壬辰、避方忌、○本書不地、無所考、十九日庚子、御大內、十二月九日己未、還閑院、二十八日戊寅、行幸五辻第、

避方忌、三長記七年丙辰春三月二十二日壬寅、修千手供三十壇於蓮華王院、禳天變、二十三日癸卯、御大內、玉海是日左大臣藤原實房罷、公卿補任、尊卑分脈、愚管鈔、二十六日丙午、初觀賭射於大內、玉海○按本書還宮日闕夏五月九日戊子、避方忌、明月記、○本書不地、無所考、十一日庚寅、修大北斗法於禁中、禳天變、一代要記六月二十五日癸酉、平知忠作亂、擊平之、○長門本平家物語爲十月七日是月有物、如髡首、

見法性寺清水寺、明月記秋七月戊寅朔、修如法仁王會於法勝寺、禳天變、一代要記二十一日戊戌、造朱雀藻壁偉鑒三門、百錬鈔冬十月二十五日庚午、謁石清水宮、玉海、嶋嶺年代記、百錬鈔十一月五日庚辰、行幸賀茂社、玉海、三長記、百錬鈔、二十三日戊戌、御大內、避方忌、三長記二十五日庚子、關白兼實罷、以前攝政基通爲關白、公卿補任、百錬鈔、一代要記、二十九日甲辰、遣使宇佐、百錬鈔、三長記、十二月九日甲寅、太政大臣兼房罷、二十一日

丙寅、還閑院、(三長記)
八年丁巳春正月十日甲申、行幸蓮華王院、
避方忌、(園太暦、貞和三年○本書又曰、二月二十五日、避方忌於閑院、然據玉海前後文、是時天皇在閑院、故不取、)三月十六日庚寅、自閑院
還御齋院大炊御門第、(玉海○本書還宮日闕)是月、以
藏人橘兼仲夫妻妖言、流兼仲於隱岐、妻於
安房、因僧歡心、(皇帝紀鈔、國名據愚管鈔、)夏四月二十二
日乙丑、覲七條院、(玉海別記、百錬鈔、)閏六月二十五
日丁酉、大風、東大寺廻廊倒、(百錬鈔)是夏天下

疫疾流行、(一代要記)冬十二月十八日丙戌、以明
年元正日食、奉幣二十二社、(百錬鈔)
九年戊午春正月己亥朔、日有食之、(玉海、百錬鈔、明月記、)九日丁未、徙御大炊御門第、(玉海、三長記、明月記、)十
一日己酉、立皇子爲仁爲皇太子、(明月記)卽日
傳位於皇太子、(玉海、明月記、毘沙門堂所藏記、愚管鈔、三長記、)上尊
號曰太上天皇、(百錬鈔、皇年代略記、皇胤紹運錄、)帝在位十
五年、齡未滿二十、諸皇子尚幼、而施爲不得
如意、遂有脫屣之志、(增鏡)權大納言源通親贊

成之、帝意乃決、(愚管鈔)然聽斷機務、一如在位、
(增鏡)徙二條殿、(明月記、百錬鈔、)後御賀陽院、(明月記、百錬鈔、承久記、)或御鳥羽白河宮、又造離宮于水無瀨、極
泉石之勝、及土御門帝去位、稱本院、(增鏡)屢幸
宇治熊野四天王寺、(明月記、百錬鈔、)常惡關東之專
權、建四天王院於白河、詛源實朝、(承久記)承久
元年正月、實朝見殺、實朝母北條氏及其宰
北條義時奏請擇雅成賴仁二皇子、立爲將
軍、上皇以爲兄既登天位、而弟又專制關東、

是地有二王也、不許、(參取承久記、愚管鈔、)義時乃迎藤
原道家子賴經立之、(承久記、愚管鈔、東鑑、)朝權下移、(承久記)
上皇謂自賴朝握兵權、當時既患其難制、
今幸其嗣絶矣、義時何爲者、身爲家人、廢格
詔旨、令而不圖、王道墜地、(保暦間記)會義時收信
濃人仁科盛遠食邑、上皇敕還之、(承久記)又以
攝津長江倉橋二莊賜倡龜菊、地頭侮慢龜
菊、不以領主待之、龜菊訴之、因下敕停地頭、
義時皆不奉命、上皇蓄怒、決意討之、(承久記、參取東

鑑、三年五月、託城南寺流鏑馬、集山城大和等十四國兵士、聲罪討義時、（承久記）義時遂反、遣弟時房子泰時等、將兵十九萬犯京師、六月、官軍連敗、（承久記、東鑑、）上皇憂迫、計無所出、（承久記）自賀陽院遷四辻殿、既而泰時等陷京師、七月、上皇遷於鳥羽殿、薙髮受戒、（承久記、東鑑、）法名良然、（皇胤紹運錄、皇年代略記○按一代要記一說金剛理、然無灌頂之文、且諸書無所見、故不取、）未幾遷於隱岐海部郡苅田鄉、（承久記、東鑑、）依巖穴爲宮、茅茨松椽、僅蔽風雨、（增鏡）在

隱岐十九年矣、○（增鏡作十七年、今推前後年數訂之、）世稱隱岐院、（百鍊鈔、皇年代略記、）延應元年二月崩于隱岐、年六十、（百鍊鈔、增鏡、東鑑、一代要記、）火葬於苅田山中、（增鏡）遺詔不置國忌山陵、（百鍊鈔）故北面藤原能茂收御骨還京師、（百鍊鈔、增鏡、）藏於大原西林院、（一代要記）稱曰顯德院、（平戶記、增鏡、百鍊鈔、一代要記、）仁治二年二月、造法華堂于大原、安御骨、（一代要記）及後嵯峨帝登極、改稱後鳥羽院、（平戶記、增鏡、百鍊鈔、一代要記、紹運要略、）寶治元年四月、北條時賴建祠于鎌倉鶴岡西

北山、（東鑑）稱曰今宮、（神明鏡）帝敏慧多能、最妙和歌、（增鏡）讓位後、置和歌所於禁中、（拾芥鈔）及水無瀨宮、（清案鈔）命源通具藤原有家等、撰新古今和歌集、親臨裁定、（新古今和歌集序、明月記、增鏡、）又好講究故實、（古今著聞集）嘗與羣臣習節會除目儀、帝自爲內辨執筆、（百鍊鈔、參取古今著聞集、皇帝紀鈔、）學琵琶于藤原定輔、深造精微、（古今著聞集、參取玉蘂、）善蹴鞠、藤原泰通藤原宗長藤原雅經等嘗上表稱蹴鞠長者、（承元御鞠記、古今著聞集、）又善相劍、（增鏡）每造刀親淬

之、世謂御所鍛、多賜武人佩之、（承久記）有膂力、好武技、（參取古今著聞集、承久記、六代勝事記、）始置西面、以配北面、（愚管鈔、承久記、）命關東選貢練達射藝材力絕倫者、（承久記）先是今津有盜、遣西面捕之、盜多力、不能捕獲、帝駕船往觀、舉櫂指揮、盜乃受縛、帝問曰、健兒何輒見縛、曰、見大家執櫂如揮扇、不覺慴服、帝赦爲奴、每遊幸必從焉、（古今著聞集）帝在位日、憤王室陵替、有恢張之志、嘗作和歌曰、於久夜麻能、於杼呂我

志多毛、布美和計底、美知阿流余存斗、比斗
珥志羅世年、增鏡而志業不就、遂遭播遷之禍
矣、

大日本史卷之五十四終

大日本史卷之五十五

本紀第五十五

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保　重校

土御門天皇

土御門天皇諱爲仁、後鳥羽帝第一子也、母承明門院、[皇胤紹運錄、百錬鈔、一代要記、神皇正統記、]建久六年十二月二日壬子生、[皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、○一代要

記係十一月二日、帝王編年記十一月朔、]九年正月十一日己酉、立爲皇太子、[明月記、]即日受禪于閑院、[明月記、百錬鈔、毘沙門堂所藏記、]以關白基通攝政、[公卿補任、百錬鈔、一代要記、]右大臣藤原兼雅、內大臣兼左近衞大將藤原良經、權大納言兼右近衞大將藤原賴實竝如故、十九日丁巳、內大臣藤原良經罷左近衞大將、權中納言藤原家實兼左近衞大將、[公卿補任、歷代皇紀、]二十日戊午、尊後鳥羽帝曰太上天皇、[三長記、一代要記、歷代皇紀、○百錬鈔係十九日、]二月二十日戊子、御大內、[明月記、三長記、]三月三日庚子、天皇即位於太政官廳、時年四歲、[百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、]尊準母前齋院範子內親王曰皇后、[歷代皇紀、女院小傳、]冬十月二十七日辛卯、御禊、[繼塵記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、增鏡、]十一月十四日丁未、以右大臣藤原兼雅爲左大臣、權大納言藤原賴實爲右大臣、[公卿補任、]二十二日乙卯、大嘗、[一代要記、歷代皇紀、○百錬鈔係二十三日、]

正治元年己未春正月癸巳朔、日當食、陰雨

不見、雷、地震、[玉海、明月記、]十三日乙巳、征夷大將軍源賴朝薨、[明月記、業資王記、公卿補任、百錬鈔、鎌記將系拔萃、]十九日辛亥、山科山陵鳴動、[百錬鈔、]二十日壬子、右大臣藤原賴實罷右近衞大將、權大納言源通親兼右近衞大將、[公卿補任、明月記、]二十六日戊午、卜山陵鳴動於軒廊、[百錬鈔、]敕左近衞權中將源賴家總督諸國守護、[東鑑、]三月十九日辛亥、流僧文覺于佐渡、[百錬鈔、帝王編年記、]夏四月二十七日戊子、改元、[公卿補任、百錬鈔、業資王記、一代要記、帝王編年記、]五

月二十一日壬子、前左馬頭源隆保坐事流于土佐、明月記、百鍊鈔、帝王編年記、流僧有慶于淡路、百鍊鈔、是月京師大水、明月記六月十三日癸酉、御大內、明月記、百鍊鈔、○按此蓋避祇園神輿也、本書不載還閑院、今無所考、二十二日壬午、以人右大臣藤原賴實爲太政大臣、左大臣藤原兼雅罷、以人內大臣藤原良經爲左大臣、權大納言藤原家實爲右大臣、權大納言源通親爲內大臣、公卿補任庚寅晦、讀經神泉苑祈雨、百鍊鈔秋七月十二日壬寅、祈雨

清瀧、祈雨御讀經記十六日丙午、修金剛童子法于園城寺、東寺長者補任八月三日癸亥、讀經神泉苑祈雨、東寺長者補任、百鍊鈔、十六日丙子、遣權大納言源通資於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、業資王記、伊勢公卿敕使例、二十日庚辰、上皇幸熊野、是月越後大水、明月記九月八日丁酉、上皇還自熊野、十九日戊申、奉幣七社祈晴、業資王記○百鍊鈔爲二十日奉幣十社、二十六日乙卯、詔東大興福延曆三寺、讀仁王經祈晴、百鍊鈔冬十月二十六日乙酉、

以人明年直三合厄、使六十僧讀大般若經於紫宸殿禳之、百鍊鈔十一月二十七日乙卯、觀上皇于二條殿、玉海別記、百鍊鈔、業資王記、○按明月記三長記等書、讓位之後、仍御大炊殿、而徙二條殿、月日無所考、二十八日丙辰、發大神寶使、業資王記○百鍊鈔係二年十二月二十五日、十二月十六日甲戌、以人皇弟長仁守成爲親王、明月記、百鍊鈔、二十四日壬午、卜定肅子內親王爲齋宮、歷代皇紀、皇帝紀鈔、

二年庚申春正月戊子朔、以人日忌罷小朝拜、

玉海三月二十一日丙子、上皇幸春日社、明月記、百鍊鈔、夏四月十五日庚子、立守成親王爲皇太弟、皇胤紹運錄、百鍊鈔、一代要記、東鑑、內大臣源通親爲傳、公卿補任五月十日甲子、奉幣二十二社、祈國家安靖、百鍊鈔六月二十八日壬子、上上皇中宮號曰宜秋門院、玉海、女院小傳、歷代皇紀、院號定部類記引帥入道記及重長記、外記記、秋七月十六日庚午、前左大臣藤原兼雅甍、明月記○公卿補任係十八日、十九日癸酉、祈雨神泉苑、百鍊鈔冬十一月七日己亥、避方忌、○明月記本書

不地、無所考、二十八日庚辰、上皇幸熊野、百錬鈔○還宮日闕

建仁元年辛酉春正月二十三日甲戌、覲上皇于二條殿、玉海別記、百錬鈔、越後人城長茂率兵圍小山朝政第、不克、入二條殿、請討源頼家、上皇不聽、百錬鈔、參取東鑑、○一代要記、歷代皇紀、保暦間記竝係十三日、二月十三日甲午、改元、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、帝王編年記、東鑑、二十一日壬寅、修孔雀經法于閑院、禳辛酉厄、孔雀經御修法記 二十二日癸卯、城長茂伏誅、東鑑 二十三日甲辰、卜皇太弟疾、三長記 夏四月十九日戊戌、徙御鳥羽南殿、二十一日庚子、上皇徙御鳥羽北殿、百錬鈔 五月七日丙辰、祈雨清瀧、祈雨御讀經記 六月二十七日乙巳、使一千僧讀經法勝寺、百錬鈔 秋七月十九日丁卯、祈雨神泉苑、東寺長者補任 二十八日丙子、祈雨、八月十日丁亥、避方忌、三長記○本書不地、無所考、十一日戊子、鎌倉大風雨、鶴岡宮寺及堂塔舍宅多倒、下總葛飾郡海溢、漂没千餘人、東鑑 十

五日壬辰、祈晴、三長記 二十日丁酉、行幸春日社、一代要記 二十二日己亥、又祈晴、二十三日庚子、修太政官廳、二十八日乙巳、御大內避方忌、三長記 九月二十日丁卯、慶四天王寺塔、冬十月五日壬午、上皇幸熊野、二十六日癸卯、上皇至自熊野、十一月三日庚戌、雷、百錬鈔 十二月二日戊寅、二條殿火、園大暦文和二年 四日庚辰、遣權中納言藤原公繼于伊勢、奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例 二十二日戊戌、始讀孝經、一代要記、歷代皇紀、二十四日甲子、太皇太后藤原氏崩、公卿補任、帝王編年記、○葬闕 二十七日癸卯、卜齋宮疾於軒廊、百錬鈔

二年壬戌春正月十五日辛酉、號所生準三宮源在子曰承明門院、明月記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、二十八日甲戌、鎌倉兩日竝出、東鑑 二月六日辛巳、修孔雀經法于二條殿、禳彗星、孔雀經御修法記○按彗星見日、及方位無所考、夏五月二十三日丙寅、雨雹、大寸餘、歷代皇紀、皇年代略記、是月京師多盜、六月十

二日乙酉、御大內、明月記 十六日己丑、還閑院、明月記、百錬鈔、秋七月二十二日甲子、以左衛門督源賴家爲征夷大將軍、公卿補任、東鑑○將軍執權次第係元年七月二十三日、增鏡元年六月二十二日、冬十月十九日庚寅、京極殿成、上皇徙御焉、百錬鈔○歷代皇紀作春日殿 二十日辛卯、內大臣兼右近衛大將皇太弟傅源通親薨、公卿補任、歷代皇紀、○百錬鈔、一代要記帝王編年記並爲二十一日、閏月二十日辛酉、以大納言藤原隆忠爲內大臣、公卿補任、一代要記、十一月辛未朔、日南至、百錬鈔、皇年代

略記、歷代皇紀、公卿表賀、皇年代略記、歷代皇紀、三日癸酉、權大納言藤原忠經兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、○歷代皇紀係十月、十二月二十四日甲子、鎌倉雷、東鑑 二十五日乙丑、攝政基通罷、以左大臣藤原良經攝政、公卿補任、一代要記、帝王編年記、太政大臣賴實兼皇太弟傅、公卿補任

三年癸亥、春正月三日癸酉、雷、平戸記寬元三年 二十六日丙申、大風、雷、明月記、百錬鈔、折木發屋、二十九日己亥、避方忌、明月記○本書不地、無所考、二月十九日戊午、上皇幸日吉社、百錬鈔 三月十日己卯、上皇幸熊野、明月記、百錬鈔、十二日辛巳、御大內、明月記 夏四月己亥朔、日有食之、百錬鈔、明月記、十一日己酉、上皇還自熊野、五月二十七日甲午、太白晝見、明月記 上皇慶八萬四千塔於法勝寺、明月記、業資王記、一代要記、百錬鈔、二十八日乙未、以僧淨戒見光發聖德太子墓、流淨戒于備前、見光于周防、六月二十三日己未、祈晴六社、秋七月九日乙亥、上皇幸熊野、百錬鈔○還宮日闕 十二日戊

寅、祈雨神泉苑、東寺長者補任 二十二日戊子、大風折木發屋、明月記 八月丙申朔、延曆寺西塔釋迦堂學生與堂衆不協、築城逼堂衆、六日辛丑、堂衆率莊官攻學生、院宣喩之、堂衆解去、九月二日丁卯、北條時政殺源賴家子一幡、七日壬申、源賴家母北條氏廢賴家、立其弟實朝、東鑑 詔以實朝爲征夷大將軍、明月記、業資王記、公卿補任、東鑑、○保曆間記爲二十七日、愚管鈔十二月八日、冬十月六日辛丑、雷、九日甲辰、御大內、明月記○本書不載還閑院、十

五日庚戌、延曆寺堂衆據金子山、遣佐佐木經高佐佐木盛綱、援學生攻之、官軍多死、堂衆引去、東鑑○明月記經高作定綱二十七日壬戌、御大內、避方忌、明月記甲子晦、京師火、明月記百鍊鈔、十一月五日己巳、日吉八王子三宮火、明月記、○歷代皇紀、一代要記爲十月二十五日己丑、奉幣日吉、謝三宮火、二十六日庚寅、上皇幸春日社、百鍊鈔、明月記、甲午晦、慶東大寺、百鍊鈔、業資王記、○一代要記爲二十日、十二月二日丙申、二條殿火、明月記、百鍊鈔、一代要記、四日戊戌、上皇從宇治離宮、百鍊鈔、業資王記、十五日己酉、上皇幸日吉社、百鍊鈔、明月記、二十六日庚申、避方忌於三條殿、明月記

元久元年甲子、春正月九日癸酉、以皇弟雅成爲親王、明月記、百鍊鈔、十九日癸未、有赤氣見東北、二十一日乙酉、赤氣又見、明月記二月二十日甲寅、改元、百鍊鈔、愚管鈔、明月記、一代要記、二十五日己未、上皇幸四天王寺、明月記、東鑑、二十七日辛酉、上皇還宮、明月記三月二十二日乙酉、先是平

氏族富田基度三浦盛時等作亂伊賀伊勢、遣武藏守源朝雅討平之、東鑑○本書係二十三日、今從明月記、一代要記、仲資王記、二十五日戊子、避方忌、○本書不地、無所考、五月十日壬申、行幸安井殿、明月記六月十三日甲辰、祈雨丹生貴布禰、御大內、避祇園神輿、仲資王記二十日辛亥、祈雨清瀧、祈雨御讀經記二十三日甲寅、卜定禮子內親王爲齋院、百鍊鈔、明月記、仲資王記、歷代皇紀、秋七月二日壬戌、祈雨神泉苑、東寺長者補任十八日戊寅、北條時政殺前征夷大將軍源賴家、承久記、保曆間記、月日據愚管鈔、東鑑、○愚管鈔、增鏡、時政作義時、保曆間記係十九日、二十二日壬午、祈雨東寺、東寺長者補任八月八日戊戌、上皇從御五辻殿、明月記、仲資王記、百鍊鈔、二十三日癸丑、遣權大納言藤原公房于伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、明月記、伊勢公卿敕使例、獻御衣劒戟、是日流延曆寺堂衆、○一代要記係二十五日九月十三日壬申、覲上皇于五辻殿、明月記十七日丙子、上皇幸熊野、冬十月六日乙未、上皇至自熊野、明月記、仲資王記、是日鎌倉地震、東鑑

十一月三日辛酉、謁石清水宮、（明月記、仲資王記、百錬鈔、）十三日辛
（鳩嶺年代記、）四日壬戌、還宮、（明月記、仲資王記、）十三日辛
未、行幸賀茂社、（明月記、仲資王記、百錬鈔、）十六日甲戌、攝
政良經罷、左大臣、十二月七日乙未、太政大
臣頼實罷、十四日壬寅、以良經爲太政大臣、
攝政仍舊、右大臣藤原家實爲左大臣、内大
臣藤原隆忠爲右大臣、（公卿補任、帝王編年記、）二十七
日乙卯、御大内、（明月記、百錬鈔、皇年代略記、）地震、（仲資王記、）二
十九日丁巳、有赤氣見東方、地震、（明月記、）

二年乙丑、春正月三日辛酉、天皇加元服於
紫宸殿、（明月記、百錬鈔、毘沙門堂所藏記、一代要記、歴代皇紀、殿名據毘沙門堂所藏記、）
十九日丁丑、覲上皇于京極殿、（明月記、京極殿據百錬鈔、）
二月十一日己亥、行幸權中納言源通
光中院第、（百錬鈔、）三月二十六日癸未、新古今
和歌集成、（本書序、明月記、増鏡、）夏四月三日庚寅、御大
内、（明月記、百錬鈔、）十三日庚子、以藤原麗子爲女御、
（百錬鈔、歴代皇紀、女院小傳、）十七日甲辰、行幸中院第、六
月乙卯晦、以修閑院、遷御前太政大臣頼實
大炊御門第、（明月記、百錬鈔、修閑院據明月記、）秋七月十一
日丙寅、立女御藤原麗子爲中宮、（明月記、歴代皇紀、女
院小傳、）祈雨神泉苑、（百錬鈔○東寺長者補任係十二日、）二十二
日丁丑、祈雨東寺、（百錬鈔、東寺長者補任、）閏月三日戊
子、上皇宇治離宮火、（明月記、百錬鈔、皇年代略記、）七日壬
辰、祈雨東寺、（東寺長者補任、）二十六日辛亥、源實朝
殺武藏守源朝雅于京師、（明月記、東鑑、）甲寅晦、避
方忌、（明月記、○本書不地、無所考、）八月十三日丁卯、上皇
從水無瀨殿、二十八日壬午、天皇徙御閑院、

癸未晦、發八十島祭使、（明月記、百錬鈔、）冬十月二日
乙卯、延暦寺火、（明月記、百錬鈔、一代要記、東鑑、）二十六日己
卯、奉幣日吉、謝延暦寺火、（百錬鈔、）十一月二十
四日丙午、以大納言藤原實宗爲内大臣、（公卿
補任、一代要記、歴代皇紀、）十二月二日甲寅、上皇徙賀陽
院、（明月記、百錬鈔、）八日庚申、遣使宇佐、（百錬鈔、）二十四
日丙子、覲上皇、（明月記、）
建永元年丙寅、春正月二十二日甲辰、奉幣
十二社、禳疱瘡、（百錬鈔、）二月壬子朔、日有食之、

百鍊鈔、三長記、二十八日己卯、熊野本宮火、一代要記、帝王編年記、皇帝紀鈔、是月太白歲星熒惑相犯、愚管鈔、三月七日戊子、攝政太政大臣良經薨、公卿補任、愚管鈔、百鍊鈔、一代要記、十日辛卯、以左大臣藤原家實攝政、十三日甲午、内大臣藤原實宗罷、二十八日己酉、以大納言藤原忠經爲内大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、攝政家實罷左近衞大將、歷代皇紀、帝王編年記、夏四月二十七日戊寅、改元、編記、公卿補任、百鍊鈔、愚管鈔、詔曰、皇雄華故之文、早述初九

之道、帝鴻甲子之制、先正上元之基、爾降經都緯俗之主、朝日夕月之君、或施德化而改正朔、或因徵驗而開曆年、朕以徵恥之質、謬居皇王之尊、惠澤隔潤、四海之波未清、仁風謝聲、百姓之叢無靡、何況從去歲冬、暨今玆夏、疱疫流行、老壯夭折、誠是朕之不德、民其何辜、夙宵克己、愍慨無聊、宜替元號、以化時雍之俗、敷教令以寬秋戒之威、蓋自天降休、與物更始之義也、其改元久三年爲建永元

年、大赦天下、但常赦所不免、及神社所訴者、不在赦限、老人僧尼、給穀有差、庶灑渥恩於諸夏之露、永禳餘殃於萬極之塵、庚辰晦、祈晴、三長記、五月辛巳朔、上皇幸熊野、三長記、仲資王記、明月記、四日甲申、奉幣二十二社、三長記、仲資王記、禳疱瘡、百鍊鈔、十六日丙申、上皇還自熊野、三長記、仲資王記、六月十三日癸亥、御大内、三長記、明月記、避祇園神輿、三長記、十五日乙丑、還閑院、三長記、明月記、十六日丙寅、權中納言藤原道家兼左近衞大將、公卿補任、歷代皇紀、二十二日壬申、卜齋院疾於軒廊、

奉幣賀茂禱之、百鍊鈔、秋七月十日己丑、月犯南斗、十五日甲午、歲星犯東井鉞星、二十六日乙巳、避方忌於五辻殿、八月庚戌朔、卜占伊勢平野北野怪異、二日辛亥、祈晴、三長記、三日壬子、上皇徙御鳥羽殿、三長記、仲資王記、百鍊鈔、五日甲寅、月掩心後星、六日乙卯、熒惑犯輿鬼、三長記、二十四日癸酉、宜秋門院所居九條殿火、三長記、仲資王記、明月記、九月二日庚辰、上準母皇后號

曰坊門院、三長記、百鍊鈔、女院小傳、一代要記、歷代皇紀、院號定部類記引外記記、八日丙戌、避方忌於五辻殿、三長記十八日丙申、參議藤原公定坐事流于佐渡、三長記、仲資王記、公卿補任、二十五日癸卯、太白入太微、明月記二十六日甲辰、奉神馬於七社、仲資王記二十七日乙巳、延曆寺堂衆聚徒大津圖亂、遣兵捕斬之、明月記、仲資王記、大津據仲資王記冬十二月八日甲寅、攝政家實爲關白、公卿補任、歷代皇紀、帝王編年記、九日乙卯、上皇幸熊野、仲資王記、還宮日闕、○

承元元年丁卯、春正月二日戊寅、覲上皇于賀陽院、明月記、百鍊鈔、二十日丙申、關白家實罷左大臣、公卿補任二月十日丙辰、以右大臣藤原隆忠爲左大臣、內大臣藤原忠經爲右大臣、權大納言藤原道經爲內大臣、公卿補任、一代要記、三月二十二日丁酉、上皇幸高野、明月記、百鍊鈔、仲資王記、二十七日壬寅、上皇還自高野、仲資王記夏四月五日庚戌、前關白兼實薨、愚管鈔、明月記、仲資王記、公卿補任、京師火、九日甲寅、地震、明月記、仲資王記、十日乙卯、右大臣藤原忠經罷右近衞大將、大納言藤原公繼兼右近衞大將、公卿補任二十三日戊辰、祈雨淸瀧、祈雨御讀經記六月七日辛亥、號準三宮藤原重子曰修明門院、明月記、一代要記、十三日丁巳、御大內、明月記、仲資王記、避祇園神輿、仲資王記十四日戊午、還閑院、明月記、仲資王記、秋七月五日己卯、大風折木發屋、明月記十九日癸巳、大風、明月記、仲資王記、上皇幸日吉社、明月記、百鍊鈔、八月二十一日庚午、避方忌、明月記○本書不地、無所考、二十七日庚午、天

皇患疱瘡、九月四日丁丑雨水、明月記七日庚辰、奉幣二十二社、禱疱瘡、百鍊鈔二十日癸巳、中宮所居火、冬十月癸卯朔、上皇幸熊野、仲資王記、百鍊鈔、八日庚戌御大內、避方忌、仲資王記二十四日丙寅、上皇還自熊野、仲資王記、百鍊鈔、二十五日丁卯、改元、編記、愚管鈔、仲資王記、百鍊鈔、歷代皇紀、十二月十九日庚申、上皇幸賀茂社、百鍊鈔

二年戊辰、春二月二十八日戊辰、禁專修念佛宗、配僧源空于土佐、歷代皇紀三月五日甲戌、

行幸土御門殿、明月記 二十五日甲午、奉幣二十二社、禳三合厄、夏四月二十七日丙寅、卜鼠嚙吉田社神衣於軒廊、閏月八日丁丑、卜稻荷社神輿所無故倒於軒廊、十一日庚辰、使六十僧讀大般若經於紫宸殿、禳三合厄、百錬鈔 十五日甲申、京師火、明月記、東鑑 戊戌晦、避方忌於京極殿、明月記 五月十五日癸丑、震法勝寺九層塔災、愚管鈔、明月記、百錬鈔、一代要記 二十八日丙寅、右大臣藤原忠經罷、明月記、公卿補任、一代要記 六

月三日辛未、上皇幸熊野、明月記、百錬鈔 十三日辛巳、御大內、明月記 秋七月五日壬寅、上皇還自熊野、明月記、百錬鈔、東鑑 九日丙午、以內大臣藤原道經爲右大臣、權大納言藤原良輔爲內大臣、公卿補任、一代要記 八月戊辰朔、御大內、是日上皇幸日吉社、明月記 二日己巳、以皇弟寬成爲親王、釋家官班記 三日庚午、還閑院、明月記 八日乙亥、尊皇姊準三宮昇子內親王曰皇后、女院小傳、院號定部類記、引外記記 九月十三日庚戌、北山雪、明月記 十九日丙辰、遣權中納言藤原隆衡于伊勢、奉幣大神宮、百錬鈔、伊勢公卿勅使例 二十七日甲子、朱雀門火、明月記、百錬鈔、一代要記、東鑑 冬十月七日癸酉、以皇弟朝仁爲親王、百錬鈔 十一月二十七日癸亥、閑院火、天皇避之大內、明月記、百錬鈔 十二月丙寅朔、徙御大炊殿、百錬鈔 十七日壬午、以賴實再爲太政大臣、公卿補任、一代要記 二十二日丁亥、行幸八條殿、百錬鈔 二十三日戊子、御大內、百錬鈔 二十五日庚寅、皇太弟加元服、明月記、百錬鈔、增鏡 二十九日甲

午、行幸大炊殿、百錬鈔

三年己巳、春正月二十一日乙卯、太政大臣賴實罷、公卿補任、帝王編年記 三月六日己亥、上皇幸春日、百錬鈔 九日壬寅、還自春日、百錬鈔 二十六日己未、右大臣藤原道經罷、公卿補任、一代要記 夏四月十日癸酉、以內大臣藤原良輔爲右大臣、大納言藤原公繼爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀 二十五日戊子、上皇姊皇后號曰春華門院、百錬鈔、女院小傳、院號定部類記、引番記外記記、 六月九日癸亥、上皇謁石清

水宮、（百錬鈔）十三日乙亥、上皇幸日吉社、（百錬鈔、歴代皇紀）十八日庚辰、朱雀門無故倒、（百錬鈔○一代要記係十九日）秋七月十一日壬寅、行幸權中納言藤原隆衡冷泉萬里小路第、（百錬鈔）八月十二日癸酉、皇太后藤原氏崩、（帝王編年記○諸書葬闕）二十三日甲申、奉幣七社、祈晴、冬十一月十日庚子、從御大炊殿、（百錬鈔）

四年庚午、春正月十二日辛丑、内大臣藤原公繼罷右近衛大將、十四日癸卯、大納言藤原公房兼右近衛大將、（公卿補任）二月戊子晦、賀陽院馬場殿火、（百錬鈔、園太暦、文和二年、東鑑）三月二日庚寅、以皇弟賴仁爲親王、（百錬鈔）十九日丁未、號中宮麗子曰陰明門院、（百錬鈔、女院小傳、院號定部類記引番記外記記、）夏四月十二日己巳、坊門院崩、（百錬鈔、女院小傳、○一代要記、係十三日、歴代皇紀十一日、東鑑四日、諸書葬闕、）五月六日癸巳、獲行火盜、二十二日己酉、上皇幸熊野、六月十四日庚午、還自熊野、（百錬鈔）秋八月二十日乙亥、行幸春日社、（百錬鈔、仁和寺日次記、）九月乙

卯晦、彗星見西方、（玉蘂、一代要記、東鑑○百錬鈔爲十月二日）冬十月十三日戊辰、御大内、十六日辛未、還大炊殿、上皇幸熊野、（百錬鈔）二十五日庚辰、讀經紫宸殿、禳彗星、（玉蘂）十一月十一日乙未、彗星又見、（愚管鈔）十八日壬寅、修孔雀經法於押小路殿、（仁和寺御傳、孔雀經御修法記）二十五日己酉、天皇傳位于皇太弟、（玉蘂、毘沙門堂所藏記、愚管鈔、百錬鈔、宮槐記）上尊號曰太上天皇、（皇胤紹運錄、百錬鈔、歴代皇紀、增鏡）帝温醇淵懿、仁慈矜物、施爲不耀、後鳥羽帝深愛順德帝、使亟傳位、帝雖心不懌、而無幾微形于色、從此居閑、詠和歌自娛、（增鏡）後鳥羽帝之討北條氏、帝謂時未至矣、屢諫止之、後鳥羽帝不聽、（保暦間記）及王師敗、北條義時遷二帝於海外、帝以不預軍事、獨不及焉、然不忍留京師、（增鏡、承久記）使攝政道家諭旨鎌倉、（承久記）義時從帝于土左、世稱土左院、居一年、義時以爲尚遠、改徙于阿波、（增鏡、參取東鑑）世又稱阿波院、（皇胤紹運錄、增鏡、保暦間記、）寛喜三年十月薙髮、（一代要記）法名行源、（一代

要記、皇年代略記、十二日甲子、崩于阿波、年三十七、百錬鈔、一代要記、東鑑、增鏡係十一月十一日、○火葬送御骨于京師、藏西山金原法華堂、稱土御門院、紹運要略、西山據一代要記、初後鳥羽帝欲立長仁親王爲儲貳而未決、及將脫屣、齋戒七日、禱大神宮探籌、首得帝、意甚不樂、及上食、輟箸不御、沉吟久之曰、無如之何、無如之何、左右不知故、承明門院尚列嬪侍在傍、顧曰、往告乃父、今宮膳羞宜加意、門院悟旨、趨告其父通親、今宮卽帝也、帝遂得承大統矣、五代帝王物語

大日本史卷之五十五終

大日本史卷之五十六

本紀第五十六

權中納言從三位源光圀修
男權中納言從三位綱條校
玄孫權中納言從三位治保重校

順德天皇

順德天皇諱守成、後鳥羽帝第三子也、神皇正統記、皇帝紀鈔、皇年代略記、明月記、○百鍊鈔、一代要記、六代勝事記爲第二子、母修明門院、建久八年九月十日庚戌生、皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇代記、正治元年十二月爲親王、明月記、百錬鈔、皇胤紹運錄、一代要記、二年四月立爲皇太弟、愚管鈔、皇胤紹運錄、一代要記、皇年代略記、十一月著袴、玉海、皇年代略記、建仁三年十二月始讀孝經、三長記、明月記、承元二年十二月冠、明月記、百錬鈔、增鏡、四年十一月二十五日己酉、皇太弟受禪於押小路殿、玉蘂、毘沙門堂所藏記、關白家實、左大臣藤原隆忠、右大臣藤原良輔、內大臣藤原公繼、權大納言兼左近衛大將藤原道家、大納言兼右近衛大將藤原

公房、竝如故、公卿補任、一代要記、十二月乙卯朔、日有食之、五日己未、尊土御門帝曰太上天皇、百錬鈔、二十日甲戌、御大內、百錬鈔、仁和寺日次記、行類鈔、二十八日壬午、天皇卽位于太政官廳、百錬鈔、歷代皇紀、皇年代略記、帝王編年記、○一代要記、及百錬鈔一說係朔、時年十四、一代要記、帝王編年記、二十九日癸未、以藤原立子爲女御、百錬鈔、仁和寺日次記、○歷代皇紀、女院小傳、爲十九日誤、

建曆元年辛未、春正月乙酉朔、元會以日忌不御殿、百錬鈔、皇帝紀鈔、帝王編年記、十三日丁酉、避方忌於八條殿、仲資王記、業資王記、十九日癸卯、觀本院、業資王記、百錬鈔、○仲資王記爲十八日、二十二日丙午、立女御藤原立子爲中宮、仲資王記、業資王記、百錬鈔、女院小傳、○愚管鈔爲二十五日、二十七日辛亥、鎌倉日無光、地大震、東鑑、二十八日壬子、避方忌於大炊御門殿、仲資王記、閏月五日戊午、大雪、業資王記、百錬鈔、癸未晦、本院幸熊野、業資王記、帝王編年記、百錬鈔、二月二十三日丙午、本院還自熊野、仲資王記、三月九日辛酉、改元、玉蘂、業資王記、百錬鈔、公卿補任、夏四月二十八日己酉、發大奉

幣使、三長記、仲資王記、業資王記、百鍊鈔、五月十日辛酉、避方忌於八條殿、玉蘂、六月二日壬午、祈雨丹生貴布禰、三長記、業資王記、七日丁亥、祈雨、十四日甲午、讀經神泉苑、三長記、十七日丁酉、卜大神宮歎有穢於軒廊、玉蘂、十八日戊戌、讀經清瀧、祈雨御讀經記、二十一日辛丑、修五龍祭、百鍊鈔、二十五日乙巳、避方忌於七條殿、玉蘂、二十八日丙午、準母八條院崩、百鍊鈔、後宮略傳、秋七月三日壬子、鎌倉地大震、東鑑、六日乙卯、奉幣九社祈雨、三長記、業資王記、九日戊午、避方忌於七條殿、十二日辛酉、修孔雀經法祈雨、玉蘂○百鍊鈔係十三日、八月四日癸未、大風雨、百鍊鈔、六日乙酉、避方忌、明月記○本書不地、今無所考、九月四日癸丑、遣使宇佐、三長記、明月記、仲資王記、業資王記、百鍊鈔、二十二日辛未、左大臣藤原隆忠罷、一代要記、百鍊鈔、冬十月四日壬午、以右大臣藤原良輔爲左大臣、內大臣藤原公繼爲右大臣、權大納言藤原信清爲內大臣、公卿補任、一代要記、五日癸未、瀧口陣無故倒、明月記、東鑑、七日乙

酉、行幸藤原道家一條第、避方忌、玉蘂、十九日丁酉、御大內、二十二日庚子、御禊、是日朱雀門無故倒、明月記、三長記、業資王記、百鍊鈔、十一月己酉朔、太白犯房上將、東鑑、八日丙辰、春華門院崩、業資王記、仲資王記、百鍊鈔、十三日辛酉、避方忌、仲資王記○本書不地、今無所考、十六日甲子、葬春華門院、仲資王記、百鍊鈔、十九日丁卯、停大嘗、百鍊鈔、一代要記、仲資王記、業資王記、二十三日辛未、遷三條殿、仲資王記、百鍊鈔、戊寅晦、本院幸熊野、三長記、業資王記、百鍊鈔、帝王編年記、○仲資王記爲二十八日十二月十三日辛卯、萬機旬、始御紫宸殿、皇帝紀鈔、帝王編年記、二十三日辛丑、本院還自熊野、業資王記

二年壬申、春二月二十七日甲辰、盜入蓮華王院寶藏、取御物、百鍊鈔、三月二十二日己巳、頒新制二十一條、玉蘂、業資王記、百鍊鈔、夏四月丁丑朔、日有食之、玉蘂、百鍊鈔、五月十一日丙辰、詩歌合、帝王編年記、百鍊鈔、皇帝紀鈔、十四日己未、祈晴、業資王記、百鍊鈔、六月五日己卯、御大內、百鍊鈔、二十日甲午、

内大臣藤原信清罷、公卿補任、一代要記、○玉蘂係二十一日二十七日辛丑、修閑院、東鑑以本院修七佛藥師法、免輕繫、百錬鈔二十九日癸卯、以權大納言藤原道家爲内大臣、公卿補任、一代要記、業資王記、百錬鈔、秋八月甲戌朔、祈雨神泉苑、業資王記六日己卯、本院幸日吉社、百錬鈔、帝王編年記、七日庚辰、避方忌於七條殿、玉蘂二十四日丁酉、本院幸熊野、玉蘂、業資王記、百錬鈔、九月十五日戊午、避方忌於七條殿、玉蘂冬十月三日乙亥、月犯歲星、明月記本院還

自熊野、業資王記、仁和寺日次記、十九日辛卯、避方忌於白河殿、玉蘂二十三日乙未、觀賀陽院、明月記、玉蘂、百錬鈔、二十五日丁酉、御大内、百錬鈔二十八日庚子、御禊、玉蘂、業資王記、百錬鈔、一代要記、十一月十三日乙卯、大嘗、明月記、百錬鈔、一代要記、增鏡、十二月十四日丙戌、避方忌於賀陽院、玉蘂

建保元年癸酉、春二月二十七日戊戌、閑院成、徙御焉、百錬鈔、仁和寺日次記、帝王編年記、園太曆貞和二年、東鑑、三月十日辛亥、謁石清水宮、園太曆文和三年、鳩嶺年代記、百錬鈔還過鳥羽觀本院、明月記、百錬鈔、○園太曆觀本院係十一日、十三日甲寅、還閑院、百錬鈔、園太曆文和三年、十五日丙辰、行幸賀茂社、百錬鈔、皇帝紀鈔、仁和寺日次記、帝王編年記、夏四月八日己卯、行幸龍華口、明月記九日庚辰、觀賀陽院、百錬鈔十四日乙酉、還閑院、明月記二十六日丁酉、行幸法勝寺、觀慶九層塔、赦、明月記、百錬鈔、帝王編年記、仁和寺日次記、赦據百錬鈔、二十七日戊戌、觀賀陽院、明月記、百錬鈔、五月二十四日甲子、還閑院、明月記、仲資王記、百錬鈔、是月和田義盛攻北條義時於源

實朝第、敗死、明月記、東鑑、六月十三日壬午、觀賀陽院、明月記、百錬鈔、十六日乙酉、還閑院、百錬鈔二十九日戊戌、流星東南行、明月記秋七月七日丙午、鎌倉地大震、東鑑十六日乙卯、如三條坊門殿、十八日丁巳、還閑院、明月記、百錬鈔、二十五日甲子、遣權大納言藤原師經於伊勢、奉幣大神宮、仲資王記、皇帝紀鈔、伊勢公卿敕使例、仁和寺日次記、八月己巳朔、奉幣丹生貴布禰、讀經神泉苑、祈雨、百錬鈔三日辛未、清水寺僧徒與延曆寺僧徒爭地、築

城將戰、遣使毀城、罷兵、延暦寺僧徒不奉命、慢罵使者、官兵捕斬之、六日甲戌、延暦寺僧徒釘中堂、滅三昧堂燈、破七社簾鏡、鎖諸門逐祠官、明月記、東鑑、朝廷患之、罪行事西面解之、明月記、皇帝紀鈔、平記、百錬鈔、約以日吉祭準賀茂祭、給六月會費、學頭一人、歲任律師、僧徒乃定、明月記、一代要記、八日丙子、修請雨經法於神泉苑、明月記、一代要記、仁和寺日次記、二十五日癸巳、覲賀陽院、百錬鈔、園太暦觀應二年、九月十七日甲寅、地震有聲、百錬鈔、皇帝紀

鈔、二十八日乙丑、奉幣日吉祇園北野、謝延暦寺清水寺鬭爭、皇帝紀鈔、閏月十六日癸未、還閑院、百錬鈔、二十七日甲午、本院幸熊野、仲資王記、冬十月十四日庚戌、雷、明月記、十五日辛亥、京師大火、明月記、仲資王記、白河泉殿悲田院罹災、明月記、二十二日戊午、本院還自熊野、仲資王記、二十六日壬戌、覲賀陽院、百錬鈔、十一月十日丙子、覲賀陽院、仲資王記、百錬鈔、十七日癸未、興福寺僧徒怒清水寺割地入延暦寺、將燒延暦寺、率

二萬人奉春日神木至宇治、燒小倉、遣檢非違使遏之、明月記、參取一代要記、十八日甲申、遣權中納言藤原光親於宇治諭之、明月記、罷延暦寺座主公圓、罷僧綱、歷代皇紀、奉幣春日大原野吉田社、告興福寺僧徒擾亂、百錬鈔、是日日吉臨時祭、設東遊走馬神樂、遣使奉幣、永爲例、柱史鈔、二十日丙戌、春日神木歸座、仲資王記、歷代皇紀、○一代要記係十七日、二十八日甲午、遣使宇佐發大神寶使、明月記、仲資王記、十二月六日壬寅、改元、明月記、仲

資王記、帝王編年記、百錬鈔、九日乙巳、前内大臣藤原實宗薨、園太暦延文四年、十三日己酉、建禮門院崩、歷代皇紀、女院小傳、○後宮略傳爲建暦元年、平家物語建久二年、源平盛衰記貞應三年、及諸異本各有異同、今不盡註、諸書并闕、是月京師數火、明月記、

二年甲戌、春正月三日己巳、覲本院於賀陽院、百錬鈔、園太暦康永三年、賀陽院據百錬鈔、二月七日壬寅、鎌倉地震、東鑑、十四日己酉、行幸七條院、覲慶佛堂、百錬鈔、仁和寺日次記、二十四日己未、覲賀陽院、百錬鈔、三月二十六日辛卯、行幸春日社、百錬鈔、皇帝紀

鈔、一代要記、帝王編年記、仁和寺日次記、夏四月三日丁酉、地震、百錬鈔、皇帝紀鈔、東鑑、十五日己酉、延暦寺僧徒、怒園城寺僧徒、將奪日吉社日御供神田、屬新羅社、一代要記、行火園城寺、堂舍盡焚、一代要記、百錬鈔、帝王編年記、仁和寺日次記、東鑑、二十日甲寅、車駕還閑院、百錬鈔○本書云、自賀陽院行幸閑院、而不載觀賀陽院之日、今無所考、五月七日辛未、延暦寺六月會準御齋會、百錬鈔、皇帝紀鈔、帝王編年記、十六日庚辰、奉幣日吉社、百錬鈔六月十日癸卯、號準三宮禮子内親王曰嘉陽門院、百錬鈔、女

院小傳、歷代皇紀、院號定部類記引番記外記記、二十四日丁巳、御大内、秋七月四日丁卯、奉幣春日大原野吉田三社、祈晴、僧徒擾亂、十一日甲戌、觀賀陽院、十三日丙子、還閑院、百錬鈔八月七日己亥、興福寺僧徒將援園城寺、攻延暦寺、奉神木入京師、是日遣官兵于宇治勢多淀遏之、皇帝紀鈔、興福寺援園城寺、據一代要記、○百錬鈔、東鑑、竝係四日、要記七月二日、十日壬寅、大風破廬舍、皇帝紀鈔、百錬鈔、九月壬戌朔、日有食之、百錬鈔、東鑑、二十日辛巳、本院幸熊野、百錬

鈔○還宮日闕二十二日癸未、鎌倉地震、東鑑冬十月二十二日癸丑、謁石清水宮、鳩嶺年代記十一月十三日癸酉、和田義盛餘黨、挾故征夷大將軍源頼家子僧榮實、謀攻六波羅、大江廣元遣兵掩捕、榮實自殺、東鑑○帝王編年記爲九月事二十二日壬午、熊野新宮火、百錬鈔、皇帝紀鈔、帝王編年記、庚寅晦、新院所居大炊御門京極殿火、百錬鈔、仁和寺日次記、園太暦文和二年、

三年乙亥、春正月十日庚午、避方忌於鳥羽

殿、十七日丁丑、如大炊殿、三月十日己巳、觀賀陽院、百錬鈔十四日癸酉、卜定熙子内親王爲齋宮、百錬鈔、歷代皇紀、仁和寺日次記、十五日甲戌、園城寺僧徒燒東坂本、百錬鈔、皇帝紀鈔、夏四月二十三日壬子、行幸平野社、二十六日乙卯、行幸大原野社、百錬鈔、仁和寺日次記、五月二日庚申、奉幣丹生貴布禰、讀經清瀧、竝祈雨、百錬鈔五日癸亥、祈雨神泉苑、百錬鈔、一代要記、東寺長者補任、二十七日乙酉、卜旱軒廊、六月三日辛卯、奉幣七社祈雨、

百錬鈔六日甲午、修請雨經法于神泉苑、百錬鈔、祈雨日記、十二日庚子、修五龍祭、十四日壬寅、觀賀陽院、十五日癸卯、奉幣二十二社、祈雨、百錬鈔秋七月十二日己巳、浚神泉苑池、仁和寺日次記八月戊子朔、奉幣丹生貴布禰、祈雨、百錬鈔九月鎌倉地數震、東鑑冬十月八日癸巳、本院幸熊野、百錬鈔還宮日闕○九日甲午、右大臣藤原公繼罷、十二月十日甲午、以内大臣藤原道家爲右大臣、大納言藤原公房爲内大臣、公卿補任、一代

要記、二十二日丙午、京師火、仁和寺日次記

四年丙子、春正月七日辛酉、左獄滋野井泉殿桂宮火、仁和寺日次記二月五日戊子、盜取東寺佛舍利及寶器、詔大索天下、東寺長者補任、帝王編年記、仁和寺日次記、東鑑、二十三日丙午、遣權中納言藤原光親於伊勢、祈獲盜、帝王編年記、仁和寺日次記、東鑑、二十九日壬子、獲盜、東寺長者補任、帝王編年記、仁和寺日次記、東鑑、三月七日庚申、鎌倉海水變赤、東鑑十四日丁卯、前内大臣藤原信清薨、百錬鈔、仁和寺日次記、東鑑、夏四

月二日乙酉、準母殷富門院崩、百錬鈔、一代要記、仁和寺日次記、東鑑、○女院小傳、歷代皇紀爲朔、四日丁亥、葬殷富門院、仁和寺日次記六月二十七日己酉、觀舞樂於清涼殿、百錬鈔、帝王編年記、閏月十五日丁卯、本院幸日吉社、百錬鈔○帝王編年記係七月秋七月十日辛卯、大風紫宸殿櫻折、仁和寺日次記十七日戊戌、卜齋宮野宮棟隨於軒廊、百錬鈔八月十六日丁卯、本院修明門院幸熊野、百錬鈔、帝王編年記、仁和寺日次記、十九日庚午、卜熱田社怪於軒廊、百錬鈔二十八日己卯、

大風折木發屋、百錬鈔、一代要記、仁和寺日次記、太政官廳南門東院大炊寮門倒、祈晴二社、百錬鈔、東院據仁和寺日次記、九月八日戊子、本院修明門院至自熊野、光臺院御室傳冬十二月七日乙卯、遣使宇佐、仁和寺日次記

五年丁丑、春正月二十六日甲辰、内大臣藤原公房罷右近衛大將、二十八日丙午、權大納言源通光兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、三月二十二日己亥、以中宮有身免輕繫、二十四

日辛丑、本院幸春日社、二十五日壬寅、車駕還閑院、（百鍊鈔○本書不載所幸、今無所考、）二十八日乙巳、前太政大臣兼房薨、（公卿補任○尊卑分脈係二十六日）夏六月四日庚戌、月犯太白、秋七月丙子朔、日有食之、（百鍊鈔）十日乙酉、本院患瘧、（東鑑）十七日壬辰、以本院違豫、非常赦、二十一日丙申、卜諸社怪異於軒廊、（百鍊鈔）二十三日戊戌、奏神樂於石清水宮、禱本院疾、（鳩嶺宮寺縁事鈔）二十九日甲辰、慶春日社塔、（仁和寺日次記）八月四日己酉、本院

疾愈、（百鍊鈔）九月三日丁丑、大風雨、朱雀門左近衛府南門倒、（百鍊鈔、皇帝紀鈔、仁和寺日次記、）四日戊寅、鎌倉大風、廬舍多倒、（東鑑）甲辰晦、本院修明門院幸熊野、冬十月二十六日庚午、還自熊野、（百鍊鈔）十一月十五日己丑、如五辻殿、（明月記）十二月甲辰朔、行幸松尾社、八日辛亥、行幸北野社、（百鍊鈔、仁和寺日次記、）

六年戊寅、春二月二十六日戊辰、右大臣藤原道家罷左近衛大將、（公卿補任）三月六日丁丑、權大納言源實朝兼左近衛大將、（公卿補任、一代要記、東鑑、）十一日壬午、行幸日吉社、（百鍊鈔、仁和寺日次記、）夏四月二十一日壬戌、京師火、（○皇帝紀鈔爲二十三日）二十五日丙寅、御清涼殿、觀童舞、（仁和寺日次記）五月九日己卯、本院幸日吉社、（百鍊鈔）六月八日戊申、鎌倉白虹見、十一日辛亥、鎌倉五色虹見、二十八日戊辰、鎌倉有流星、大如月、（東鑑）秋七月庚午朔、日當食、陰雨不見、（仁和寺日次記、光臺院御室傳、）八月二日辛丑、以七條院逆修、宥福免輕繫、

九月十四日癸未、祇園社鳴動有光、（仁和寺日次記）二十日己丑、卜之軒廊、（百鍊鈔）二十一日庚寅、先是宮崎宮留守殺大山寺神人、（一代要記、仁和寺日次記、東鑑、）議罪下留守於獄、延暦寺僧徒不服、是日奉日吉祇園京極寺北野神輿詣闕、（京極寺據百鍊鈔、皇帝紀鈔、）請流管主石清水別當僧宗清、及以宮崎宮屬本寺、官兵過之、誤傷駕輿丁、僧徒棄神輿去、（東鑑）冬十月六日甲辰、奉幣七社、（業資王記、百鍊鈔、）九日丁未、以內大臣藤原公房爲

太政大臣、權大納言源實朝爲內大臣、（公卿補任、一代要記、東鑑、）十三日辛亥、神輿歸座、（百錬鈔、皇帝紀鈔、）十五日癸丑、本院幸日吉社、（帝王編年記、東鑑、）二十三日辛酉、本院幸熊野、（百錬鈔○還宮日闕、）十一月十日戊寅、左大臣藤原良輔薨、（業資王記、百錬鈔、○公卿補任、仁和寺日次記、一代要記、爲十一日、）二十一日己丑、以皇子懷成爲親王、（百錬鈔、皇帝紀鈔、增鏡、）二十六日甲午、立懷成親王爲皇太子、（業資王記、百錬鈔、愚管鈔、帝王編年記、歷代皇紀、○一代要記、爲二十三日、）以右大臣藤原道家爲傅、（公卿補任、仁和

寺日次記、）十二月二日庚子、以右大臣藤原道家爲左大臣、內大臣源實朝爲右大臣、權大納言藤原家通爲內大臣、（公卿補任、仁和寺日次記、一代要記、）二十一日己未、本院幸日吉稻荷祇園社、（百錬鈔、仁和寺日次記、）

承久元年己卯、春正月八日乙亥、雷、（平戶記、寬元三年）十五日壬午、覲本院于賀陽院、（百錬鈔、）二十七日甲午、故征夷大將軍源賴家子僧公曉殺征夷大將軍右大臣兼左近衛大將源實朝、（百錬鈔、皇帝紀鈔、增鏡、東鑑、○愚管鈔係二十八日、）閏二月二十五日辛卯、內大臣藤原家通兼左近衛大將、三月四日己亥、藤原家通轉右大臣、大納言源通光爲內大臣、（公卿補任、）六日辛丑、地震、（皇帝紀鈔、）二十二日丁巳、讀經神泉苑、祈雨、（仁和寺日次記、）二十六日辛酉、遣內大臣源通光於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、（百錬鈔、伊勢公卿敕使例、宸筆宣命據仁和寺日次記、）夏四月二日丁卯、京師大火、（百錬鈔、仁和寺日次記、）八日癸酉、修請雨經法于神泉苑、（東寺長者補任、仁和寺日

次記、）十二日丁丑、改元、（偏記、公卿補任、百錬鈔、愚管鈔、一代要記、）十六日辛巳、雨、五月十四日戊申、卜日前國懸社戶自開於軒廊、二十七日辛酉、星晝見、六月三日丙寅、北條義時請迎左大臣藤原道家子三虎而奉之、許之、（愚管鈔、承久記、保曆間記、東鑑、）七日庚午、奉幣二十二社、禳疾疫、（百錬鈔、）秋七月十三日丙午、大內守護右馬權頭源賴茂謀亂、遣官兵討之、（愚管鈔、一代要記、仁和寺日次記、）賴茂縱火仁壽殿自殺、（一代要記、愚管鈔、皇帝紀鈔、仁壽殿據東鑑、）殿舍寶物

多焚、百鍊鈔、仁和寺日次記、皇帝紀鈔、十四日丁未、以大內火、廢朝三日、百鍊鈔 讀經神泉苑、祈雨、仁和寺日次記 二十一日甲寅、大風、神祇官南廳右近馬場官舍倒、二十七日庚申、殿上百番歌合、百鍊鈔 八月十六日己卯、本院違豫、是日以熊野詣、流前左兵衞尉紀宗光於對馬島、九月十二日甲辰、修孔雀經尊星法、禱本院疾、仁和寺日次記 冬十月五日丁卯、行幸稲荷祇園社、百鍊鈔、皇帝紀鈔、十六日戊寅、本院幸熊野、百鍊鈔○還宮日闕 十一

月癸巳朔、大原野社竈神殿火、百鍊鈔、皇帝紀鈔、三日乙未、觀舞樂、百鍊鈔 十三日乙巳、大納言藤原公經兼右近衞大將、公卿補任、歷代皇紀、二十七日己未、靫負廳、延勝、成勝、最勝、三寺、證菩提院火、百鍊鈔、皇帝紀鈔、二十九日辛酉、本院幸日吉、留七日、百鍊鈔、一代要記、留七日據要記、○皇帝紀鈔係二十八日 十二月五日丁卯、遣使宇佐、九日辛未、卜大原野社火於軒廊、百鍊鈔 十八日庚辰、彗星見西北、一代要記

二年庚辰、春正月八日己亥、避方忌於大炊殿、玉蘂 十六日丁未、月入太微、東鑑 二月二十一日壬午、奉幣二十二社、禳星變、皇帝紀鈔、帝王編年記、三月五日乙未、本院幸熊野、玉蘂、帝王編年記、皇帝紀鈔、二十二日壬子、造大內、玉蘂、帝王編年記、皇帝紀鈔、東鑑、夏四月二日辛酉、本院還自熊野、九日戊辰、先是興福寺僧忠慶燒藥師寺別院、是日敕索天下、玉蘂 十三日壬申、祇園社火、玉蘂、百鍊鈔、仁和寺日次記、一代要記、帝王編年記、東鑑、二十一日庚辰、卜祇園火於

軒廊、玉蘂 二十七日丙戌、陽明門左近衞府左兵衞府門火、百鍊鈔、皇帝紀鈔、 五月十二日辛丑、行幸仁和寺、避方忌、十四日癸卯、還閑院、玉蘂 二十四日癸丑、使一千僧讀經延暦寺、禳彗星、玉蘂、東鑑、二十七日丙辰、行幸仁和寺、避方忌、玉蘂 戊午晦、觀舞樂于校書殿、玉蘂、百鍊鈔、 秋七月丁巳晦、鎌倉大風雨、冬十一月二十一日丁未、鎌倉雷、東鑑 二十七日癸丑、發八十島祭使、百鍊鈔、仁和寺日次記、

三年辛巳、春正月四日己丑、本院幸熊野、皇帝紀鈔、帝王編年記、五日庚寅、避方忌於大炊殿、玉蘂十日乙未、鎌倉雷、東鑑十七日壬寅、覲賀陽院、百鍊鈔二月十日乙丑、七條院所居三條烏丸宮火、百鍊鈔、皇帝紀鈔、東鑑、三月十日乙未、宗像社火、百鍊鈔二十日乙巳、行幸賀茂社、百鍊鈔、皇帝紀鈔、帝王編年記、夏四月二日丙辰、奉幣伊勢石清水賀茂、百鍊鈔十六日庚午、徙御大炊殿、毘沙門堂所藏記二十日甲戌、天皇讓位於皇太子、百鍊鈔、帝王編年記、歷代皇紀、

上尊號曰太上天皇、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、帝英敏開朗、好典籍、最能和歌、所親撰有八雲鈔、增鏡、禁秘鈔、仁和寺書籍目錄以修明門院有寵、特爲後鳥羽帝所鍾愛、故得蚤踐位、其討北條氏也、専參謀議、增鏡及京師陷、遷于佐渡、世稱佐渡院、仁治三年九月十二日、崩于佐渡、年四十六、增鏡、帝王編年記、寬元元年、奉安御骨於大原法華堂側、建長元年、追稱順德院、百鍊鈔、紹運要略、

大日本史卷之五十六終

大日本史卷之五十七

本紀第五十七

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

九條廢帝

九條廢帝諱懷成、順德帝第三子也、皇代記○歷代皇紀等諸書皆爲第一子、今推生年從本書、說詳皇子傳、母東一條院、建保六年十月十日戊申生、十一月爲親王、遂立爲皇太子、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、承久二年十一月著袴、玉蘂、百鍊鈔、皇年代略記、三年四月二十日甲戌、皇太子受禪于閑院、百鍊鈔、毘沙門堂所藏記、德大寺相國記、時年四歲、一代要記、帝王編年記、愚管鈔、關白家實罷、以左大臣藤原道家攝政、太政大臣公房、右大臣兼左近衛大將藤原家通、內大臣源通光、大納言兼右近衛大將藤原公經、竝如故、公卿補任、二十三日丁丑、尊順德帝曰太上天皇、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、五月甲申朔、日有食之、百鍊鈔、三日丙

戌、惟明親王薨、一代要記、十四日丁酉、本院將討北條義時、稱鳥羽城南寺流鏑馬、徵兵山城大和近江丹波美濃尾張伊賀伊勢河內和泉紀伊丹後但馬、將士來集凡一千七百餘人、承久記、拘大納言藤原公經父子于弓場殿、召京畿守護大江親廣藤原光季、光季不奉詔、東鑑、承久記、十五日戊戌、下院宣天下曰、近稱關東處置亂天下政務、將軍猶在幼稚、彼義時假言於教命、致斷於都鄙、耀己威蔑皇憲、論之政道可謂謀反、須下知五畿七道諸國、追討義時、諸國莊園守護人地頭等有上言、各宜詣院廳奏、隨狀聽斷、狩野氏所藏詔文、又竊諭關東諸將募以厚賞、承久記、東鑑、遣佐佐木高重三浦胤義等討藤原光季、承久記、光季伏誅、百鍊鈔、承久記、六角西洞院火、天皇避之賀陽院、東鑑、皇帝記鈔、召道助法親王修法、祈征討有功、十八日辛丑、太白犯熒惑、東鑑、十九日壬寅、固關、百鍊鈔、二十二日乙巳、北條義時反、發兵犯京師、遣

弟時房子泰時率十萬餘騎、由東海道、武田信光小笠原長清率五萬餘騎、由東山道、北條朝時結城朝廣佐佐木信實率四萬餘騎、由北陸道、（承久記、東鑑、）二十六日己酉、檢非違使藤原秀澄自美濃馳報急、中外失色、二十九日壬子、參議藤原信成兵河勾家賢據越後願文山、與佐佐木信實戰而敗、（東鑑、）癸丑晦、筱井高重起兵赴京師、爲北條時房所殺、（東鑑、承久記、）六月二日乙卯、（○東鑑爲三日、印本承久記爲五月晦、今姑從杉原本承久記、）分將士拒險要、遣檢非違使大内惟信、

左衞門尉筑後有長糟屋久季等二千餘騎于鵜沼、判官代朝日賴時海泉某等一千餘騎于大井戶、藏人神地賴經等一千餘騎于板橋、判官代土岐某、（○尊卑分脈有土岐光行、爲後鳥羽院西面判官代、疑卽是人、然無他書可考、姑闕之、）左衞門尉關某等一千餘騎于池瀨、（○本書或作氣瀨、訓讀相通、）能登守藤原秀康、檢非違使三浦胤義前下總守中條盛綱等一萬餘騎于大豆渡、阿波某、左衞門尉山田某（○尊卑分脈有左衞門尉山田重繼、死於承久難、疑是人、然他無所考、）等五百餘騎于食渡、（○本書或作供御瀨、音訓相通、）判官代長瀨某五百餘騎于稗島、檢非違使藤原秀澄山田重忠一千餘騎于洲股、前伊勢守加藤光員（○本書作光定、今訂之、）五百餘騎于市河、（○東鑑作市脇、）又遣宮崎定範糟屋有久仁科盛遠等于越中、塞北陸道、（○按承久之亂、東鑑所載官軍將士姓名及其守備之地、與承久記頗有異同、且不書兵數、故今書官軍之事、多從承久記、北條氏之事、多從東鑑、）五日戊午、院宣諭武田信光小笠原長清歸順、

信光斬詔使、（承久記、）進攻大井戶、守將大内惟信等大敗、（東鑑、承久記、）大妻兼澄死之、（承久記、）六日己未、北條泰時濟大豆渡、官軍敗走、洲股市河皆不守、右衞門尉鏡久綱死之、（東鑑、承久記、）本院修仁王講於法勝寺、祈兵有利、七日庚申、奉幣十一社、（百鍊鈔、）八日辛酉、宮崎定範糟谷有久仁科盛遠等率國人林石黑等、與北條朝時戰敗、林石黑降、糟谷有久死之、藤原秀康等還奏諸道失守、中外震駭、本院戎衣與

中院新院幸延暦寺、道過法印尊長宅議戰守、天皇駕婦人輿、奉神器出宮、與三院留西坂本梶井御所。○承久記、以三院行幸係九日、九日壬戌、本院欲御延暦寺、僧徒不奉命、十日癸亥、本院同天皇二院還自梶井御所居賀陽院。○東鑑、百練鈔係九日、賀陽院承久記作四辻宮、公卿建議分遣諸將、備禦要害。承久記 繹藤原公經父子、東鑑 十二日乙丑、日據東鑑 遣山田重忠延暦寺僧兵二千餘騎于勢多、藤原秀康三浦胤義大江親廣佐佐木高重、中條盛綱等一萬餘騎于食渡、前權中納言源有雅、參議藤原範茂、右衛門佐藤原朝俊、佐佐木廣綱、熊野奈良僧兵一萬餘騎于宇治橋、判官代長瀨某、左衛門尉足立親長五百餘騎于牧島、○本書一作眞木島 參議藤原信能、法印尊長一千餘騎于芋洗、大納言藤原忠信一千餘騎于淀、河野通信五百餘騎于廣瀨。○東鑑所載、差與此異、然大同小異、今不盡註、十三日丙寅、北條時房、宇都宮賴業逼勢多、山田重忠拒

郤之、北條泰時抵宇治、承久記、日據東鑑、○本書係十二日 十四日丁卯、北條泰時等壞屋縛筏、濟宇治河、源有雅藤原範茂望風潰走、藤原朝俊佐佐木氏綱、筑後知尚、萩野成時等拒戰不克死之、賊兵放火、東鑑 食渡廣瀨牧島皆不守、承久記 十五日戊辰、三浦胤義山田重忠、藤原秀康還奏諸道失守、東鑑、山田重忠據承久記、本院閉門不内、承久記 中院新院遷于賀茂貴布禰、北條泰時等陷京師、三浦胤義山田重忠自殺、東鑑、山田重忠據承久記、十六日己巳、北條泰時等入六波羅、本院遣使諭之、復義時本官、停征伐院宣、十九日壬申、本院自賀陽院移四辻殿、中院新院還京師、中院據東鑑○東鑑係二十日 下院宣討藤原秀康等、二十日癸酉、天皇還閑院、北條朝時入京師、百練鈔 二十四日丁丑、本院收前權中納言藤原光親、源有雅、藤原宗行、參議藤原範茂送于六波羅、二十五日戊寅、收權大納言藤原忠信、參議藤原信能、送于六波羅、秋七月

癸未朔、泰時押送忠信光親有雅宗行範茂信能于關東、殺之于路、忠信獨見釋、(東鑑)三日乙酉、内大臣源通光罷、(百鍊鈔〇一代要記係二日)六日戊子、北條時氏圍四辻殿、本院遷于鳥羽殿、(承久記)八日庚寅、本院薙髮、(百鍊鈔、承久記、一代要記、東鑑、)攝政左大臣道家罷、(公卿補任、攝關傳、)九日辛卯、天皇遜位于九條院、(百鍊鈔、皇年代略記、皇代略記、東鑑、)委棄神器于閑院、(神皇正統記、皇年代略記、)在位七十餘日、(帝王編年記、神皇正統記、增鏡、)文曆元年五月二十日戊午、天皇崩

于九條院、年十七、(百鍊鈔、增鏡、皇代略記、九條院據百鍊鈔、〇帝王編年記係二十一日)稱九條廢帝、(皇胤紹運錄、歷代皇紀、)又曰半帝、(帝王編年記〇按神皇正統記、在位七十七日、不可入日嗣之數、當準飯豐皇女、諸書往往不列歷代之數、惟皇紀書曰八十五代九條先帝、編年記亦曰、八十五代號後廢帝、皇年代略記、皇代記亦書廢帝繫月日、增鏡曰、承久廢帝、皇胤紹運錄曰、九條廢帝、今據之、)

大日本史卷之五十七終

大日本史卷之五十八

本紀第五十八

權中納言從三位源光圀修

男權中納言從三位綱條校

玄孫權中納言從三位治保重校

後堀河天皇

後堀河天皇諱茂仁、高倉帝孫、後高倉院第三子也、神皇正統記、帝王編年記、歷代皇紀、皇帝紀鈔、皇代記、皇年代略記、○一代要記、東鑑、爲第二子、母北白河院、百錬鈔、增鏡、建曆二年

二月十八日乙未生、一代要記、皇代記、帝王編年記、○皇代略記、皇年代略記係三月、承久三年七月、北條義時遣兵入京師、九日辛卯、天皇踐祚于閑院、百錬鈔、增鏡、閑院據一代要記、皇年代略記、東鑑、以前關白家實攝政、百錬鈔、公卿補任、歷代皇紀、一代要記、太政大臣公房、右大臣兼左近衞大將藤原家通、大納言兼右近衞大將藤原公經並如故、公卿補任、北條泰時北條時房在六波羅、鎭京師、泰時居北方、時房居南方、帝王編年記、將軍執權次第、兩六波羅是爲始、太平記、十三日

乙未、本院出居于隱岐、百錬鈔、東鑑、六代勝事記、○一代要記、係十一日、二十日壬寅、新院居于佐渡、歷代皇紀、一代要記、東鑑、六代勝事記、○百錬鈔係二十一日、承久記二十二日、二十四日丙午、遷雅成親王于但馬、二十五日丁未、遷賴仁親王于備前、百錬鈔、六代勝事記、○歷代皇紀賴仁親王係二十三日、八月十六日丁卯、尊守貞親王曰太上法皇、歷代皇紀、百錬鈔、皇年代略記、皇胤紹運錄、○一代要記係十五日、九月九日庚寅、大炊殿火、太上法皇徙居賀陽院、百錬鈔、歷代皇紀、十二日癸巳、熊野本宮火、歷代皇紀、冬閏十

月十日庚寅、中院出居於土佐、一代要記、東鑑、承久記、以右大臣藤原家通爲左大臣、前右大臣藤原公繼爲右大臣、大納言藤原公經爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀、一代要記、十八日戊戌、雷、家光記、十一月庚戌朔、日南至、百錬鈔、家光記、○百錬鈔作壬午誤、公卿表賀、百錬鈔、十二月庚辰朔、天皇卽位於太政官廳、時年十歲、一代要記、百錬鈔、帝王編年記、尊準母邦子內親王曰皇后、一代要記、百錬鈔、女院小傳、二十日己亥、太政大臣公房罷、以家實爲太政大臣、攝政仍

舊、公卿補任、歷代皇紀、後愚昧記、永德元年、戊申晦、始臨萬機、百錬鈔

貞應元年壬午、春正月庚戌朔、以日忌罷小朝拜、圜太曆、貞和五年、三日壬子、天皇加元服于閑院、百錬鈔、一代要記、二十日己巳、覲太上法皇、百錬鈔、教訓鈔、三月二十五日癸酉、上佐渡院中宮號曰東一條院、公卿補任、院號定部類記引信盛記外記記、○女院小傳爲六月、夏四月六日甲申、宣陽門院所居六條西洞院火、百錬鈔、十日戊子、攝政家實罷太政大臣、

公卿補任、○一代要記爲十一日、攝關傳十三日、十三日辛卯、改元、一代要記、帝王編年記、偏記、是月、中院自土佐遷阿波、東鑑、五月二十九日丙子、松尾竈神殿供御所寶藏火、百錬鈔、仁和寺日次記、六月十四日辛卯、避祇園神輿於賀陽院、圜太曆觀應元年、秋七月二日戊申、承明門院所居土御門萬里小路火、百錬鈔、十一日丁巳、號皇母準三宮藤原陳子曰北白川院、百錬鈔、歷代皇紀、帝王編年記、紹運要略、院號定部類記引番記及外記記、八月丙子朔、彗星見西北、百錬鈔○東鑑皇年代略記爲二日、

歷代皇紀八日、十三日戊子、以內大臣藤原公經爲太政大臣、大納言藤原師經爲內大臣、十六日辛卯、權中納言藤原實氏兼右近衞大將、公卿補任、一代要記、冬十月二十三日丁酉、御禊、十一月二十三日丁卯、大嘗、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、二十九日癸酉、松尾社火、皇年代略記、十二月八日壬午、始讀孝經、歷代皇紀、皇年代略記、十七日辛卯、以從三位藤原有子爲女御、女院小傳、五代帝王物語、百錬鈔、

二年癸未、春正月十二日乙卯、賀陽院火、百錬鈔、圜太曆文和二年、太上法皇從太政大臣公經一條第、百錬鈔、二月二十五日戊戌、立女御藤原有子爲中宮、公卿補任、歷代皇紀、女院小傳、夏四月二日甲戌、太政大臣公經罷、公卿補任、圜太曆觀應元年、五月八日庚戌、詣一條殿、視太上法皇疾、百錬鈔、十四日丙辰、太上法皇崩、百錬鈔、帝王編年記、歷代皇紀、皇年代略記、五代帝王物語、葬北白河、百錬鈔○諸書葬日闕、秋八月辛未朔、彗星見西北、一代要記、九月庚子朔、日有食之、五

日甲辰、鎌倉女子一產三子、（東鑑）二十一日庚申、卜宇佐宮屋生筍于軒廊、冬十月三日壬申、盜取鴨社神服、十一月十九日丁巳、熊野那智社火、（百鍊鈔○皇年代略記係十日）十二月十四日壬午、以攝政家實爲關白、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）元仁元年甲申、春正月戊戌朔、諒闇、罷小朝拜節會、（皇帝紀鈔、帝王編年記、）三月二十六日癸亥、盜入大學寮、裂文宣王畫像、（百鍊鈔、皇帝紀鈔、帝王編年記、）夏四月、赤班瘡流行、高麗漂民來居京師、命北條泰時等逐之、五月八日甲辰、地震、十八日甲寅、卜炎旱、讀經神泉苑、修水天供、二十五日辛酉、雨、（百鍊鈔）六月十三日己卯、前陸奧守北條義時卒、（一代要記、百鍊鈔、五代帝王物語、東鑑、）是月、北條時氏來居六波羅北方、北條時盛居南方、（將軍執權次第、參取東鑑、）是夏旱、（百鍊鈔、東鑑、）秋八月四日戊戌、上準母皇后號曰安嘉門院、（公卿補任、女院小傳、院號定部類記引外記記、）五日己亥、申禁專修念佛、（歷代皇紀）十一日乙巳、左大臣兼左近衞大將藤原家通薨、

（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）冬十月五日戊戌、流參議藤原實雅于越前、（百鍊鈔）十一月二十日壬午、改元、（一代要記、百鍊鈔、皇代略記、偏記、）十二月十七日己酉、權中納言藤原教實兼左近衞大將、二十五日丁巳、以右大臣藤原公繼爲左大臣、內大臣藤原師經爲右大臣、大納言藤原良平爲內大臣、（公卿補任）是冬、疫癘流行、踰年不已、（明月記）嘉祿元年乙酉、春正月二十一日壬午、天皇始視除目、（百鍊鈔、明月記、）二月二日癸巳、避方忌、（明月記○本書不地、今無所考、）二十六日丁巳、盜取神祇官廚子鎖及蘭林坊雜物、（百鍊鈔）三月壬戌朔、大風發屋、四日乙丑、攝津廣田海水變如血、盜入蘭林坊、縛守者、裂文宣王畫像北野神影、取寶物、（明月記）是月、太白經天、（東鑑脫漏）夏四月二十日庚戌、改元、（百鍊鈔、皇帝紀鈔、偏記、東鑑脫漏、）秋七月五日甲子、前太政大臣賴實薨、八月十七日乙巳、前左大臣藤原實房薨、（公卿補任、歷代皇紀、）九月二日庚申、延勝寺火、（皇帝紀鈔、帝王編年記、）冬十月三日庚

寅、盜入七條院所居仁和寺殿、百錬鈔傷宿直士、明月記二十七日甲寅、廣田社火、百錬鈔、皇帝紀鈔、帝王編年記、明月記、二十九日丙辰、下新制三十六條、百錬鈔十一月二十五日壬午、謁石清水宮、歷代皇紀二十六日癸未、還宮、十二月八日甲午、行幸賀茂社、明月記

二年丙戌、春正月二十五日辛巳、歲星鎭星太白相犯、東鑑脫漏二十七日癸未、以右近衛少將藤原賴經爲征夷大將軍、公卿補任、帝王編年記、東鑑脫漏、二十八日甲申、大雷、震日吉社樹、百錬鈔夏四月二十七日辛亥、鎌倉地大震、東鑑脫漏五月七日辛酉、大風發屋、明月記六月四日丁亥、盜火最勝光院、百錬鈔、皇帝紀鈔、歷代皇紀、帝王編年記、明月記、十一日甲午、日吉十禪師神體動、十三日丙申、避祇園神輿於四條壬生第、十四日丁酉、還宮、秋七月甲寅朔、以藤原長子爲女御、明月記○女院小傳爲二日十四日丁卯、大風雨、左近衛府南門倒、皇帝紀鈔、皇年代略記、二十九日壬午、改中宮爲皇

后、立女御藤原長子爲中宮、公卿補任、女院小傳、明月記、癸未晦、地震、明月記八月四日丁亥、小守勝手神人詐金剛峯寺僧燒藏王堂、奉神輿將入京、遣兵宇治防遏之、皇帝紀鈔、百錬鈔、參取明月記、○百錬鈔爲六日、十日癸巳、日吉十禪師神體又動、皇帝紀鈔、明月記、十一日甲午、月犯歲星鎭星、十五日戊戌、肥前大風、海溢、人畜多死、明月記十九日壬寅、小守勝手神輿歸座、百錬鈔十禪師神體又動、明月記二十六日己酉、太政官文殿火、累代文書列見定考具多亡、百錬鈔、皇帝紀鈔、列見定考具據明月記九月七日己未、卜十禪師神體動、百錬鈔十一日癸亥、盜取民部省文書圖帳、百錬鈔、明月記、冬十一月三日甲寅、月犯太白、東鑑脫漏四日乙卯、熒惑入月、五日丙辰、鎭星犯熒惑、熒惑犯歲星、月犯鎭星熒惑歲星、十二日癸亥、熒惑犯哭第一星、明月記十四日乙丑、歲星犯熒惑、東鑑脫漏熒惑犯哭第二星、十五日丙寅、白虹見西方、明月記二十六日丁丑、卜定利子內親王爲齋宮、

（貴女鈔、歷代皇紀、女院小傳、明月記）二十七日戊寅、太白鎮星相犯、（東鑑脫漏）十二月四日乙酉、月犯熒惑、（明月記、東鑑脫漏、）太白犯哭第一星、（○東鑑脫漏爲五日太白犯歲星）丙戌、太白犯哭第二星、七日戊子、太白犯歲星、（明月記）十二日癸巳、盜裂大學寮文宣王畫像、（百鍊鈔）二十四日乙巳、地大震、二十五日丙午、又震、二十八日己酉、又震、（明月記）

安貞元年丁亥、春正月三日癸丑、太白犯熒惑、十一日辛酉、太白熒惑相犯、（東鑑脫漏）二十三

日癸酉、左大臣藤原公繼罷、（公卿補任）庚辰晦、前左大臣藤原公繼薨、（公卿補任、歷代皇紀、明月記）是月京師多盜、二月三日癸未、大風發屋、地大震、（明月記）二十日庚子、號皇后曰安喜門院、（明月記、女院小傳、院號定部類記、引番記及外記記）三月庚戌朔、太白犯昴、七日丙辰、鎌倉地大震而裂、（東鑑脫漏）二十七日丙子、盜取內藏寮禮服寶器、（明月記○皇帝紀鈔爲二十六日）二十八日丁丑、盜燒陰陽寮庫、閏月七日丙戌、獲內藏寮盜、（皇帝紀鈔）十三日壬辰、避方忌於七條殿、（明月記）十九日戊戌、尊勝寺金堂無故而倒、（百鍊鈔）二十日己亥、相模腰越海水變如血、（東鑑脫漏）夏四月二日庚戌、右大臣藤原師經罷、（公卿補任、歷代皇紀）九日丁巳、以內大臣藤原良平爲左大臣、權大納言藤原教實爲右大臣、權大納言藤原兼經爲內大臣、（公卿補任○一代要記、歷代皇紀爲七日、）二十二日庚午、京師大火、延及大內、（帝王編年記、明月記、○歷代皇紀爲二十日、百鍊鈔二十五日、）五月丁未晦、男山鳴動、（鳩嶺宮寺緣事鈔）六月戊申朔、日有食之、（東鑑

脫漏）秋七月五日壬午、流專修念佛僧隆寬於陸奧、空阿彌陀佛於薩摩、成寬於壹岐、七日甲申、東寺食堂千手觀音像倒、卜之軒廊、（百鍊鈔）九月丁丑朔、太白熒惑相犯、（明月記）冬十一月二十九日甲辰、遣權大納言藤原實宣於伊勢、奉幣大神宮、（伊勢公卿敕使例）十二月丙午朔、大風發屋、（明月記）十日乙卯、改元、（一代要記、百鍊鈔、皇帝紀鈔、明月記、）十四日己未、行幸春日社、（歷代皇紀、明月記、）十五日庚申、還宮、二十一日丙寅、避方忌於五

辻殿、明月記

二年戊子、春正月九日甲申、大刀契失、十四日己丑、得之、三月六日己卯、震賀茂社、百錬鈔二十日癸巳、觀北白河院於持明院殿、玉蘂、公卿補任夏四月二十三日丙寅、興福寺僧徒燒多武峯坊舍、百錬鈔、一代要記、○東鑑爲十七日、歷代皇紀二十四日、皇帝紀鈔二十七日、五月二日甲戌、祈雨清瀧、祈雨御讀經記、○百錬鈔爲祈神泉苑、而不日、四日丙子、雨、六月六日丁未、延曆寺僧徒訴多武峯火、奉日吉神輿入京、遣兵

防之、九日庚戌、日吉神輿歸座、秋七月六日丁丑、卜豐後津江山獲銅鋒於軒廊、二十日辛卯、大風雨水、鴨河溢、賀茂社瑞籬、貴布禰社拜殿壞、人民漂溺、百錬鈔九月十六日丙戌、七條院崩、百錬鈔、女院小傳、後宮略傳、一代要記、歷代皇紀、○諸書葬闕二十九日己亥、盜火法勝寺寶藏、百錬鈔冬十月七日丁未、大風雨、壞廬舍、百錬鈔、皇帝紀鈔、歷代皇紀、○一代要記係十日、十二月二十四日癸亥、關白家實罷、公卿補任、○歷代皇紀係十六日以前攝政道家爲關白、百錬鈔、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、

寛喜元年己丑、春三月五日癸酉、改元、百錬鈔、公卿補任、偏記、○明月記係六日、夏四月六日癸卯、行幸四條殿、明月記十八日乙卯、號中宮曰鷹司院、女院小傳、明月記、院號定部類記引番記及外記記、是月、春日若宮社樹千株無故而折、五月二十一日戊子、避方忌、明月記、○本書不地、今無所考、六月十九日乙卯、左衛門尉三善爲清、前左兵衛尉大江貞知坐與日吉神人鬭遠竄、皇帝紀鈔、帝王編年記乙丑晦、日吉社樹無

故而僵、秋七月九日甲戌、避方忌、明月記、○本書不地、今無所考、八月五日庚子、前右大臣藤原忠經薨、明月記、公卿補任、歷代皇紀、二十五日庚申、避方忌、百錬鈔、○本書不地、今無所考、冬十一月三日丁卯、雷、明月記四日戊辰、鎌倉雷、東鑑二十二日丙戌、以藤原竴子爲女御、女院記、○女院小傳爲二十三日二十六日庚寅、觀北白河院於持明院殿、明月記二十七日辛卯、備後吉備津社火、百錬鈔、皇帝紀鈔、歷代皇紀、帝王編年記神體焚、百錬鈔十二月十七日辛亥、修孔雀經法於

閑院、禳天變、孔雀經御修法記二年庚寅、春閏正月五日戊戌、大風、七日庚子、多武峯墓淨妙寺墓鳴動、十三日丙午、地震、明月記二月十六日戊寅、立女御藤原竴子爲中宮、公卿補任、女院小傳、歷代皇紀、明月記、三月十一日癸卯、避方忌、明月記○本書不地、今無所考、是月、北條重時來居六波羅北方、帝王編年記、東鑑、北方據將軍執權次第、夏四月壬戌朔、日當食、陰雨不見、九日庚午、奉幣伊勢石清水、十七日戊寅、行幸參議藤原隆親

第、本書作別當家、今據公卿補任補之、避方忌、是月、京師多盜、明月記五月二十四日乙卯、嘉陽門院所居四條壬生火、皇帝紀鈔、明月記、四條壬生據百鍊鈔○歷代皇紀、皇年代略記作賀陽院誤、六月九日己巳、美濃蒔田莊雨雪二寸許、東鑑、二寸許據百鍊鈔、○百鍊鈔係八日、蒔田作生津、武藏金子鄉雨雪雹、東鑑十三日癸酉、行幸權大納言藤原實氏第、避祇園神輿、○還宮日闕十九日己卯、又行幸實氏第、避方忌、明月記二十四日甲申、定米價、斛錢壹貫文、百鍊鈔秋七月十六日乙巳、

鎌倉隕霜、東鑑是月、阿蘇社池無故而沸騰、明月記八月六日乙丑、關東大水、人多死、東鑑八日丁卯、大風、歷代皇紀關東大風雨傷稼、東鑑是月、園城寺僧徒放火相鬪、百鍊鈔、皇帝紀鈔、明月記、東鑑、遣兵止之、僧徒解去、明月記九月八日丙申、大風雨、明月記、皇帝紀鈔、東鑑、○皇年代略記、係九日、大神宮內外院殿舍倒、皇帝紀鈔、皇年代略記、諸國傷稼、百鍊鈔、歷代皇紀、明月記、十二日庚子、禁諸國新置莊、百鍊鈔二十一日己酉、修五壇法於禁內、明月記冬十月十六日甲戌、陸

奧芝田石隕如雨、亘二十里、東鑑二十四日壬午、右大臣藤原教實罷左近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、二十五日癸未、左大臣藤原良平兼左近衛大將、公卿補任、一代要記、二十七日乙酉、盜穿東大寺敕封庫、取寶物、皇帝紀鈔、帝王編年記、二十八日丙戌、客星見西方、百鍊鈔、歷代皇紀、西方據明月記○東鑑係十二月五日、十一月十八日乙巳、鎌倉大風雷、東鑑二十日丁未、非常赦、禳客星、百鍊鈔是月、櫻華、筍挺、麥穗、明月記十二月六日癸亥、遣使檢東大寺敕

封庫、(百鍊鈔)十三日庚午、奉幣伊勢以下十三社、禳客星、十八日乙亥、讀經紫宸殿、二十五日壬午、觀北白河院於持明院殿、(明月記)二十八日乙酉、前關白太政大臣基房薨、(百鍊鈔、明月記)三年辛卯、春正月五日壬辰、大風發屋、十九日丙午、讀大般若經於禁內、丁巳晦、以中宮有身、奉幣十二社、(百鍊鈔○百鍊鈔作十三社)二月十一日戊辰、避方忌於持明院殿、三月二日戊子、大風雨、五日辛卯、避方忌於中宮、(○按是時中宮有身、出居父道

家第、故亦行幸其第也、然今無所考、)七日癸巳、還宮、(明月記)十六日壬寅、有童子竊晝御座劒、獲之、(百鍊鈔、皇帝紀鈔、明月記)二十八日甲寅、如中宮、二十九日乙卯、還宮、(明月記)夏四月十一日丁卯、以皇子秀仁爲親王、(百鍊鈔、歷代皇紀、皇年代略記、)十八日甲戌、左大臣兼左近衛大將藤原良平罷、(公卿補任、一代要記、歷代皇紀、)二十四日庚辰、定大臣以下裾制、(百鍊鈔)二十五日辛巳、郁芳門火、(百鍊鈔、皇帝紀鈔、)二十六日壬午、以右大臣藤原教實爲左大臣、內大臣藤原

兼經爲右大臣、權大納言藤原實氏爲內大臣、乙酉晦、右大臣藤原兼經兼左近衛大將、(公卿補任、一代要記、歷代皇紀、)是月、敕諸國國分寺、轉讀最勝王經、禳風雨水旱、(東鑑)五月二十二日丁未、禁京師饑民入富家强貸錢穀、(皇帝紀鈔)秋七月五日己丑、關白道家罷、以左大臣藤原教實爲關白、(公卿補任、百鍊鈔、)八月甲寅朔、尊勝寺塔火、(明月記、百鍊鈔、)九月十九日壬寅、禁京師窮民壞屋爲薪、(百鍊鈔、)冬十月九日辛酉、遣權中納言藤

原隆親於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、(伊勢公卿敕使例、百鍊鈔、○百鍊鈔作權大納言隆範誤)十二日甲子、中院崩于阿波、(百鍊鈔、一代要記、東鑑、)二十八日庚辰、立秀仁親王爲皇太子、(百鍊鈔、歷代皇紀、皇年代略記、皇帝紀鈔、五代帝王物語、)以內大臣藤原實氏爲傅、(公卿補任)十二月辛巳晦、鎌倉雷、(東鑑)是歲大饑、(百鍊鈔、明月記、鳩嶺宮寺緣事鈔、)貞永元年壬辰、春正月壬午朔、以前年無冰、不奏冰樣、(百鍊鈔)十二日癸巳、觀北白河院於持明院殿、(東鑑)二十三日甲辰、晝御座劒失、二

月壬子朔、夜御殿鏡一枚失、百錬鈔三月二日癸未、震春日社東大寺元興寺塔、○百錬鈔係二月七日戊子、盜取大學寮影像二十一鋪、皇帝紀鈔夏四月二日壬子、改元、公卿補任一代要記、歷代皇紀編記、東鑑五月五日乙酉、石清水神殿鳴動、歷代皇紀六月庚戌朔、盜火尊勝寺寶藏、百錬鈔秋七月七日丙戌、日吉大宮神殿鳴動、歷代皇紀、皇代略記、八日丁亥、太白犯東井、東鑑閏九月八日乙卯、彗星見東方、百錬鈔、一代要記、皇代略記、十七日甲子、修孔雀經

法於閑院、孔雀經御修法記冬十月二日戊寅、權中納言藤原定家上新敕撰和歌集、本書序、增鏡、○敕撰次第、爲天福二年事、四日庚辰、天皇讓位於皇太子、百錬鈔、五代帝王物語、帝王編年記、上尊號曰太上天皇、歷代皇紀、皇年代略記、從御冷泉富小路第、百錬鈔文曆元年八月六日壬申、上皇崩於持明院殿、百錬鈔、明月記、持明院殿據一代要記、皇年代略記、年二十三、百錬鈔、五代帝王物語、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、葬于東山觀音寺、帝王編年記、一代要記稱後堀河院、一代要記、明月記、置國忌于安樂光院、仁和寺諸記鈔帝容止詳雅、增鏡喜怒不形色、明月記資性寬仁、政不苛酷、百錬鈔頗有藻鑑、好學、每召對儒臣、論談移刻、凡百玩好、未嘗留意、如遇嬪御、恩眷均一、無有濫幸、其秉心類如此、明月記

大日本史卷之五十八終

大日本史卷之五十九

本紀第五十九

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

四條天皇

四條天皇諱秀仁、後堀河帝之子也、母藻壁門院、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、寬喜三年二月十二日己巳生、明月記、皇帝紀鈔、一代要記、皇代記、皇年代略記、○百錬鈔爲十五日、歷代皇紀十一日、四月爲親王、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、十月立爲皇太子、百錬鈔、歷代皇紀、皇帝紀鈔、貞永元年十月四日庚辰著袴、平戸記寬元三年是日受禪於閑院、百錬鈔、平戸記寬元三年、以關白左大臣教實攝政、右大臣兼左近衛大將藤原兼經、內大臣兼右近衛大將藤原實氏並如故、公卿補任七日癸未、尊後堀河帝曰太上天皇、歷代皇紀、皇年代略記、增鏡、二十四日庚子、內大臣藤原實氏罷右近衛大將、權大納言藤原家嗣兼右近衛大將、

公卿補任十二月五日庚辰、天皇卽位於太政官廳、時年二歲、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、

天福元年癸巳、春正月丙午朔、以日忌罷四方拜小朝拜、帝王編年記十二日丁巳、大風發屋、二月二十八日癸卯、遣使山陵告卽位、是月京師咳嗽流行、世曰夷病、明月記三月七日辛亥、盜取安樂壽院銀塔及寶物、百錬鈔十二日丙辰、如室町殿、明月記二十九日癸酉、大風、藻壁門倒、百錬鈔、帝王編年記、春日山樹多僵、百錬鈔右大臣藤原兼經罷左近衛大將、歷代皇紀、攝關傳、○公卿補任作二十日、夏四月乙亥朔、金峯山勝手若宮神殿震動、聲如雷、神體神箭墜、三日丁丑、又動、小守社神體墜、明月記是日、上上皇中宮號曰藻壁門院、明月記、百錬鈔、五代帝王物語、五日己卯、發大奉幣使、百錬鈔八日壬午、權中納言藤原良實兼左近衛大將、公卿補任、攝關傳、十五日己丑、改元、明月記、偏記、百錬鈔、十七日辛卯、遣使宇佐、百錬鈔二十三日丁酉、興福寺僧徒燒多武峯坊舍、延曆寺僧

徒將燒清水寺、敕禁遏之、（歷代皇紀）二十七日辛丑、藏最勝王經於諸社、（百鍊鈔）二十八日壬寅、日吉雨蝶、五月七日辛亥、石清水高良社神鏡鳴、是夜冷泉有物放光、狀如巨人、十二日丙辰、高良神鏡又動、十七日辛酉、住吉社第三寶殿鳴動、二十一日乙丑、卜高良社神鏡鳴、二十三日丁卯、卜小守勝手社怪異、（明月記）癸酉晦、前攝政內大臣基通薨、（明月記、百鍊鈔、歷代皇紀）

○（明月記、是月熒惑犯三星、三星今不可考、故不取）六月二日乙亥、太

白歲星相犯、（明月記）四日丁丑、星月晝見、（帝王編年記）十一日甲申、卜住吉社怪、（明月記）十三日丙戌、讀經清瀧及醍醐寺、祈雨、（祈雨御讀經記）十七日庚寅、卜旱軒廊、（百鍊鈔）祈雨神泉苑、（明月記）二十日癸巳、尊準母前齋宮利子內親王曰皇后、（百鍊鈔、女院小傳）二十一日甲午、日吉大宮社震動、二十三日丙申、大風折木、修如意寶珠法祈雨、（明月記）二十六日己亥、讀經神泉苑、（百鍊鈔）二十七日庚子、雨、（明月記、百鍊鈔）秋七月癸卯朔、北野宮寺自倒、六日戊申、卜大宮社怪、九日辛亥、奉幣十社、二十二日甲子、鴨社獅子生銀花、八月十五日丁亥、謁石清水宮、二十日壬辰、卜鴨社北野宮寺怪異、（明月記）二十一日癸巳、始臨萬機、（明月記、百鍊鈔）九月十五日丙辰、熒惑入月、（明月記）十八日己未、藻壁門院崩、（明月記、百鍊鈔、帝王編年記）十九日庚申、以諒闇罷大嘗、辛未晦、葬藻壁門院、冬十月四日乙亥、盜燒法勝寺圓堂、發敕封取佛像、（百鍊鈔）十八日己丑、大風發

屋、（明月記）二十七日戊戌、遣使安樂壽院、告法勝寺盜、（百鍊鈔）是月、大內櫻華、十一月二十一日辛酉、讀仁王經於東寺、禳天變、（明月記）十二月三日癸酉、將軍塚鳴動、（帝王編年記）二十四日甲午、西寺塔火、（明月記、百鍊鈔、皇年代略記）二十八日戊戌、行幸今出川殿、避方忌、（百鍊鈔）

文曆元年甲午、春正月庚子朔、以諒闇罷小朝拜節會、（百鍊鈔、帝王編年記）二月八日丁丑、地大震、（歷代皇紀、皇年代略記）十四日癸未、北野社火、（百鍊鈔、帝王編

年記、歷代皇紀、皇年代略記、十七日丙戌、卜之軒廊、百錬鈔是月、奈良有鬼、書未來不三字於民家、遍千餘宇、東鑑夏五月二十日戊午、廢帝崩、百錬鈔、歷代皇紀、○諸書葬日地闕、今無所考、葬秋七月十五日壬子、上皇違豫、百錬鈔二十一日戊午、讀經清瀧及醍醐寺祈雨、祈雨御讀經記八月六日壬申、上皇崩、明月記、帝王編年記、百錬鈔、五代帝王物語、十一日丁丑、葬後堀河天皇、明月記、百錬鈔、歷代皇紀、是月、熒惑犯鉞星、海水入淀河、色殷黑、魚多死、食魚者亦死、明月記九月十

日丙午、石清水宮鳴動、十六日壬子、地大震、乙丑晦、不豫、冬十月七日壬申、客星見、十五日庚辰、白虹見東方、百錬鈔十一月五日庚子、改元、編記、百錬鈔、○公卿補任係十二月、二十八日癸亥、後山階陵鳴動、二十九日甲子、又鳴動、百錬鈔

嘉禎元年乙未、春正月九日癸卯、行幸五辻殿、明月記、玉蘂、二月十一日甲戌、卜後山階陵鳴動于軒廊、百錬鈔二十三日丙戌、避方忌於記錄所、明月記三月四日丁酉、攝政教實罷左大臣、玉蘂、公卿補任、歷代皇紀、十一日甲辰、以教實疾赦、玉蘂二十日癸丑、盜發檜隈大内陵、取寶物、百錬鈔二十八日辛酉、攝政教實薨、明月記、玉蘂、公卿補任、以前關白道家攝政、明月記、百錬鈔、公卿補任、五代帝王物語、是月、太白入五車、明月記夏四月、鎌倉地震、踰月不止、東鑑五月四日丙申、雨雹、傷禾、百錬鈔六日戊戌、行幸藤原隆親冷泉第、避方忌、參取明月記、一代要記、六月三日甲子、先是石清水神領薪莊民與春日神領大住莊民、爭水殺之、興福寺僧

徒燒薪莊、殺神人、至是敕遣兵拒之、百錬鈔、參取明月記、二十九日庚寅、卜晝御座有犬矢、百錬鈔是月、遣使檜隈大内陵、閏月七日戊戌、祈晴、十四日乙巳、春日社第一寶殿神鏡無故而墜、明月記十九日庚戌、遣使石清水、覈問神人與僧徒爭鬬之狀、神人逐使者、二十日辛亥、石清水神人移神輿于宿院、將入京訴興福寺事狀、遣使諭之、二十一日壬子、奉伊賀大内莊于石清水宮、百錬鈔、參取明月記、二十三日甲寅、遣

大納言源定通權大納言源通方于石清水、慰諭神人、神人不奉命、百鍊鈔二十七日戊午、改奉因幡於石清水宮、二十八日己未、石清水神輿歸座、百鍊鈔、明月記、秋七月十日辛未、鎌倉雨水、東鑑、二十三日甲申、延暦寺僧徒奉日吉十禪師客人八王子神輿入京、訴左衞門尉佐佐木高信傷宮仕、使右衞門尉遠政等拒之於近衞河原、○遠政姓闕、僧徒棄神輿而走、二十四日乙酉、還神輿於祇園祇陀林、百鍊鈔、參取一

代要記、東鑑、八月五日乙未、遣僧隆承諭延暦寺僧徒、十禪師客人神輿歸座、八日戊戌、流佐佐木高信于豐後、右衞門尉遠政于備後、百鍊鈔九月辛酉朔、地震、帝王編年記十九日己卯、改元、偏記、百鍊鈔、公卿補任、冬十月二日辛卯、以右大臣藤原兼經爲左大臣、內大臣藤原實氏爲右大臣、權大納言藤原良實爲內大臣、公卿補任、○明月記作三日、三日壬辰、行幸五辻殿、八日丁酉、八王子神輿歸座、明月記十四日癸卯、如太政官

廳、二十日己酉、御禊、百鍊鈔、明月記、及行禮地震、明月記、皇年代略記二十一日庚戌、還宮、二十六日乙卯、奉幣二十二社、禳疱瘡、二十七日丙辰、天皇患疱瘡、明月記二十九日戊午、奏神樂於石清水宮、鳩嶺宮寺緣事鈔十一月十七日丙子、如太政官廳、明月記二十日己卯、大嘗、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、二十六日乙酉、還宮、十二月二十二日庚戌、興福寺僧徒與春日神人、奉神木將入京、請賜薪莊、流石清水別當宗清、○宗清姓闕誅

神人交野宗成、遣兵宇治、徹橋拒之、○百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、爲二十五日、二十三日辛亥、遣左少辨藤原兼高、慰諭僧徒、藤原據公卿補任二十四日壬子、下交野宗成于獄、石清水神人斫獄奪宗成、明月記二十五日癸丑、遣藏人頭左大辨藤原爲經、重諭僧徒、百鍊鈔、明月記、僧徒不奉命、明月記是月、以神木未歸座、罷京官除目定考、是歲夏秋之交、春日山神木二千四百餘株枯、百鍊鈔

二年丙申、春正月己未朔、元會、以神木未歸

座、不御殿、徹樂、罷小朝拜、是日興福寺僧徒棄神木於宇治而去、春日神人安之平等院、百錬鈔○一代要記爲二月二日、五日癸亥、罷敍位、七日乙丑、白馬節不御殿、徹樂、百錬鈔、帝王編年記 十四日壬申、罷内論義、百錬鈔 十六日甲戌、踏歌節徹樂、帝王編年記 二月十日丁酉、雨水、歷代皇紀 釋奠罷宴、百錬鈔 十四日辛丑、北條泰時遣使諭興福寺僧徒、僧徒畏服、東鑑○按歷代皇紀係三月二日、載除石清水神領因幡及斬交野宗成、與諸書不合、姑附于此、二十一日戊申、神木歸

座、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、東鑑○歷代皇紀爲三月二日、誤、熊野社證誠殿有光如金、二十七日甲寅、以神木歸座、奉幣春日大原野吉田、百錬鈔 三月十六日癸酉、遣權大納言藤原實基於伊勢、奉幣大神宮、百錬鈔、伊勢公卿勅使例 夏四月八日甲午、大風、雨雹、大如柑、百錬鈔、一代要記 十五日辛丑、遣參議藤原爲經、檢察檜隈大内陵、百錬鈔 十八日甲辰、右大臣藤原實氏罷、六月九日甲午、以内大臣藤原良實爲右大臣、大納言源定通爲内

大臣、公卿補任、歷代皇紀 二十日乙巳、震平野社樹、秋七月二十八日癸未、興福寺僧徒以所請不允、移春日神木于金堂、百錬鈔○一代要記爲二十一日、八月八日壬辰、以北條泰時請、敕延曆寺召前年入京首惡者、僧徒不奉命、移日吉神輿於中堂、○百錬鈔爲七日、九月、興福寺僧徒築城修戰具、冬十月五日己丑、北條泰時收僧徒莊園、權置大和守護、補地頭、塞道路、禁出入、遣兵備僧徒侵軼、十七日辛丑、僧徒墮城解兵、東鑑

○百錬鈔爲十六日、十一月二日乙卯、神木歸座、百錬鈔、一代要記 十四日丁卯、北條泰時罷大和守護地頭、東鑑 二十九日壬午、敕以三位已上爲春日社使、十二月六日己丑、敕春日若宮祭宜奉官幣、竝著爲令、百錬鈔 二十一日甲辰、號準三宮諦子内親王曰明義門院、女院小傳、院號定部類記引番記、又外記、師光記

三年丁酉、春正月三日乙卯、鎌倉雷、二十二日甲戌、鎌倉又雷、東鑑○本書作二十三日、今推干支訂之、二月

癸未朔、地震、（歷代皇紀）三月十日辛酉、攝政道家罷、以左大臣藤原兼經攝政、（公卿補任、玉蘂）夏四月二十二日癸卯、日薄蝕、（東鑑）二十三日甲辰、謁石清水宮、（百鍊鈔、歷代皇紀、帝王編年記）是日日又薄蝕、月色黃、（東鑑）五月十九日己卯、讀孔雀經於清瀧、仁王經於龍穴七日、以祈雨、（夕拜至要鈔）六月庚辰朔、地震、己酉晦、下赦五畿七道國司、及命征夷大將軍藤原賴經、捕延曆寺兇徒、（百鍊鈔）秋九月二十九日丁丑、鎌倉有流星、（東鑑）是秋、

以將修閑院、徙御中納言藤原隆親萬里小路第、冬十一月十一日戊午、行幸賀茂社、（〇帝王編年記爲十七日、）十四日辛酉、行幸北山西園寺、十六日癸亥、還宮、（百鍊鈔）月犯鎮星、（東鑑）二十四日辛未、卜定昱子內親王爲齋宮、（百鍊鈔）十二月戊寅朔、日當食、陰雨不見、（百鍊鈔、東鑑、）十八日乙未、內大臣源定通罷、二十五日壬寅、以大納言藤原基家爲內大臣、（公卿補任、一代要記、）二十九日丙午、始讀孝經、（百鍊鈔〇帝王編年記係十一月、）

曆仁元年戊戌、春正月二十六日癸酉、右大臣藤原良實罷左近衞大將、（公卿補任）二月六日壬午、權大納言藤原實經兼左近衞大將、（百鍊鈔、公卿補任、歷代皇紀、）十一日丁亥、閑院成、徙御焉、（百鍊鈔、毘沙門堂所藏記、）十七日癸巳、征夷大將軍藤原賴經入朝、（百鍊鈔、玉蘂、東鑑、）閏月十三日己未、日有重暈、十五日辛酉、太白犯昴、（東鑑〇本書云、歲星犯坐星、坐星未詳、故不取、）十八日甲子、盜竊晝御座劍、（〇帝王編年記爲十九日、）乙亥晦、大風、法成寺步廊倒、（百鍊鈔）三月二

十三日戊戌、大風發屋、（東鑑）二十八日癸卯、行幸春日社、（玉蘂、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、東鑑、）二十九日甲辰、還宮、（玉蘂）夏五月五日己卯、太白犯軒轅大星、（東鑑）六月七日庚戌、內大臣藤原基家罷、十八日辛酉、攝政兼經罷左大臣、秋七月二十日癸巳、以前左大臣藤原良平爲太政大臣、右大臣藤原良實爲左大臣、權大納言藤原實親爲右大臣、權大納言藤原家嗣爲內大臣、罷右近衞大將、（公卿補任）九月九日辛巳、太白

犯太微右執法、熒惑犯軒轅、月犯歲星、有流星無數、色白赤、東鑑冬十月四日乙巳、前攝政師家薨、公卿補任、歷代皇紀十三日甲寅、藤原賴經還鎌倉、百鍊鈔、東鑑、十一月六日丁丑、權大納言藤原兼平兼右近衛大將、公卿補任○一代要記、攝關傳爲十六日、十八日己丑、以北白河院薨罷五節、百鍊鈔二十三日甲午、改元、百鍊鈔、公卿補任、皇年代略記、十二月五日丙午、修七佛藥師法於延曆寺、禳天變、百鍊鈔二十八日己巳、宜秋門院崩、一代要記、女院小傳、東鑑、

○諸書葬闕、

延應元年己亥、春正月十九日庚寅、太政大臣良平罷、公卿補任二月七日丁未、改元、偏記、百鍊鈔、帝王編年記、一代要記、十一日辛亥、日有暈、百鍊鈔、東鑑、二十二日壬戌、本院崩于隱岐、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、增鏡、二十三日癸亥、盜取宜陽殿庫服御物、夏四月二十七日丙寅、行幸法性寺、避方忌、百鍊鈔五月戊戌晦、追稱本院曰顯德院、百鍊鈔、帝王編年記、秋九月二十日丙戌、先是延曆寺僧徒奏請以四天王寺復屬延曆寺、不報、至是僧徒移神輿于中堂、百鍊鈔、一代要記、冬十月九日乙巳、鎌倉雷、東鑑十日丙午、神輿歸座、一代要記○百鍊鈔爲十一日、二十日丙申、日有兩珥、十一月丙寅朔、鎌倉雷雨大風、東鑑十二日丁丑、上準母皇后號曰式乾門院、百鍊鈔、女院小傳、院號定部類記引外記、鎌倉地大震、東鑑

仁治元年庚子、春正月四日己巳、彗星見西南、平戶記、百鍊鈔、帝王編年記、東鑑、七日壬申、彗星犯歲星、

東鑑八日癸酉、月晝見、平戶記十一日丙子、月入東井、十九日甲申、彗星入奎、東鑑三月十二日丙子、禁賀茂祭使車服奢侈、平戶記十五日己卯、遣權大納言藤原公相於伊勢、奉幣大神宮、禳彗星、百鍊鈔、禳彗星據伊勢公卿敕使例、帝王編年記、十七日辛巳、前太政大臣良平薨、百鍊鈔、公卿補任、○歷代皇紀係十日、東鑑十五日、誤、夏四月三日丁酉、以高麗牒無禮、令公卿議、百鍊鈔、帝王編年記、無禮據平戶記、十七日辛亥、隕霜、平戶記五月五日戊辰、熊野社火、百鍊鈔六月

十六日己酉、慶賀茂社塔、(百鍊鈔、帝王編年記、)祈雨醍醐寺、(祈雨御讀經記○本書爲二十一日、今據夕拜至要鈔宣旨文訂之、)二十八日辛酉、卜熊野火于軒廊、秋七月三日乙丑、修五龍祭、(百鍊鈔)八日庚午、修請雨經法、(請雨經法記)十四日丙子、祈雨十一社及室生龍穴、(百鍊鈔)十六日戊寅、改元、(編記、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、)九月二十七日丁亥、右大臣藤原實親罷、(公卿補任)冬十月九日己亥、內大臣藤原家嗣罷、二十日庚戌、以權大納言藤原實經爲右大臣、大納言藤原家良爲內大臣、(公卿補任、歷代皇紀、)有梟入清涼殿、(帝王編年記)十一月庚寅朔、日南至、(平戶記、百鍊鈔、帝王編年記、)公卿表賀、(平戶記)十七日丙午、雷、大風、(平戶記、歷代皇紀、皇年代略記、)十二月十二日辛未、大神宮外院火、(平戶記、百鍊鈔、)十四日癸酉、以兼經爲太政大臣、攝政如故、(公卿補任、平戶記、)二十四日癸未、遣參議藤原忠高於伊勢、奉宸筆宣命於大神宮、(○歷代皇紀爲十二日誤、)廢朝五日、(平戶記、百鍊鈔、宸筆宣命據百鍊鈔、)是冬京師多盜、(平戶記、東鑑、)

二年辛丑、春正月三日壬辰、避方忌於春日殿、(玉蘂)五日甲午、天皇加元服於閑院、(百鍊鈔、歷代皇紀、五代帝王物語、閑院據帝王編年記、)是夜彗星見、(歷代皇紀、皇年代略記、)八日丁酉、雷、(歷代皇紀、東鑑、)九日戊戌、流星入月、(歷代皇紀)十七日丙午、策試、(百鍊鈔)二月四日壬戌、鎌倉白赤氣見、七日乙丑、鎌倉地大震、(東鑑)八日丙寅、慶大原法華堂、奉藏顯德院御骨、(一代要記○歷代皇紀爲延應元年五月十四日、)十二日庚午、鹿島社火、(百鍊鈔、東鑑、)三月二十七日乙卯、奉幣春日大原野吉田、告鹿島火、(百鍊鈔、帝王編年記、)夏四月三日辛酉、鎌倉地大震、(東鑑)五日癸亥、內大臣藤原家良罷、(公卿補任、歷代皇紀、)十七日乙亥、以權大納言藤原兼平爲內大臣、(百鍊鈔、公卿補任、)六月八日甲子、熊野新宮火、(百鍊鈔○帝王編年記爲七日、)秋七月二十二日戊申、行幸平野社、二十六日壬子、行幸大原野社、(百鍊鈔、帝王編年記、)九月六日辛卯、檢非違使爲李坐捕賀茂氏人流于阿波、(百鍊鈔○爲李姓闕、)冬十月九日癸亥、鎌倉有大流星、(東鑑)十日甲

子、內大臣藤原兼平罷右近衞大將、（公卿補任）十三日丁卯、大納言藤原實基兼右近衞大將、（公卿補任、歷代皇紀）十七日辛丑、奉幣鹿島香取兩社、二十六日庚辰、春日社鳴動、（百錬鈔）十一月八日辛卯、右大臣藤原實經罷左近衞大將、（公卿補任）十日癸巳、權大納言藤原實有兼左近衞大將、（公卿補任、歷代皇紀）十三日丙申、大風、興福寺僧舍火、延及西寶藏、癸丑晦、以前攝政家實疾非常赦、（百錬鈔）十二月十七日庚午、以藤原彥

子爲女御、（歷代皇紀、女院記、女院小傳）二十日癸酉、攝政兼經罷太政大臣、（公卿補任）

三年壬寅、春正月五日戊子、不豫、（五代帝王物語、增鏡○百錬鈔係七日、）九日壬辰、奉幣十三社、讀經諸社、非常赦、禱疾、（百錬鈔、非常赦據後中記、○後中記十三社作十二社）是日天皇崩于閑院、年十二、（歷代皇紀、皇年代略記、○一代要記爲崩于清涼殿、）葬于泉涌寺、（一代要記、增鏡）稱四條院、（平戶記、百錬鈔、後中記、皇年代略記）帝幼沖嬉戲、宮廊塗滑石末、欲令嬪御顚仆而調笑之、反自誤倒、犬遮繞吠之、人以爲不祥、適京師怪異數見、亡幾帝崩、（五代帝王物語）

大日本史卷之五十九終

大日本史卷之六十

本紀第六十

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保　重校

後嵯峨天皇

後嵯峨天皇諱邦仁、土御門帝第七子也、一代要記○按天皇行第、諸書所載、互有異同、今以諸皇子薨年推之、尊守仁助、尊助皆於天皇爲兄、其他生年不可考、則宜以天皇爲第四、然諸書無可考證、今姑從本書說、母贈皇太后源氏、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、增鏡、承久二年二月二十六日丁亥生、皇胤紹運錄、皇年代略記、歷代皇紀○一代要記爲三日、當土御門帝之南遷、天皇年甫二歲、依外家大納言源通方、通方薨後、供奉稍怠、天皇厭之、五代帝王物語、增鏡、從承明門院所居土御門殿、五代帝王物語及長欲爲僧、五代帝王物語、增鏡、承明門院止之、天皇意未決、潛謁石清水宮、通宵默禱、夢壇上有聲曰、椿葉之影再改、天皇覺而心喜之、自是勵精學問、仁治三年正月四條

帝崩無後、時論洶洶、人懷疑惑、增鏡、修明門院及前攝政道家欲立順德帝皇子忠成王、神皇正統記、修明門院據增鏡、忠成王五代帝王物語、北條泰時意在立土御門帝後、詣鶴岡宮探籌、亦協、於是決意、遣秋田城介安達義景於京師、立天皇、謂曰、京師如立新院皇子、雖既立宜卽廢之、義景入京師、承明門院使人覘之、時羣臣造忠成王第、侍義景至、獨前內大臣源定通侍天皇于土御門殿、義景至、門庭荒蕪、闃無人跡、義景見定通、具陳泰時之意、於是百官奔赴、五代帝王物語、增鏡、二十日癸卯、冠於土御門殿、爲親王、一代要記卽夜踐阼於權大納言藤原隆親冷泉萬里小路第、後中記、百鍊鈔、五代帝王物語、增鏡、平戶記、時曠大位十二日、百鍊鈔以攝政兼經爲關白、左大臣藤原良實、右大臣藤原實經、內大臣藤原兼平、權大納言兼左近衛大將藤原實有、大納言兼右近衛大將藤原實基竝如故、公卿補任、一代要記、歷代皇紀二十五日戊申、葬四條天皇、百鍊鈔、後中記、

四條院御葬禮記、增鏡、三月癸未朔、行幸權大納言藤原公相今出川第、避方忌、百鍊鈔十八日庚子、天皇即位于太政官廳、玉葉、百鍊鈔、天祚禮祀職掌錄、平戶記時年二十三、百鍊鈔、增鏡、二十五日丁未、關白兼經罷、以左大臣藤原良實爲關白、公卿補任、五代帝王物語、增鏡、夏四月三日乙卯、御太政官廳、百鍊鈔九日辛酉、權大納言左近衛大將藤原實有罷、權大納言藤原忠家兼左近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、十二日甲子、還御冷泉萬里小路第、

平戶記二十五日丁丑、遣使山陵告即位、百鍊鈔、平戶記、五月二十八日己酉、行幸今出川第、避方忌、平戶記六月三日甲寅、洪水、歷代皇紀、皇年代略記、十日辛酉、以藤原嬉子爲女御、百鍊鈔、女院小傳、歷代皇紀、十五日丙寅、前武藏守北條泰時卒、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、平戶記、十七日戊辰、雨水、歷代皇紀、皇年代略記、是月歲星入東井、自五月雨至是月、凍寒如冬、平戶記秋七月辛巳朔、鳥羽勝光明院火、百鍊鈔、一代要記、皇年代略記、八日戊子、遣使大原法華堂、百鍊鈔

追改顯德院稱後鳥羽院、百鍊鈔、一代要記、東鑑、十一日辛卯、追尊所生源通子曰皇太后、百鍊鈔、皇年代略記、置國忌、十三日癸巳、先是金剛峯寺奧院僧徒與傳法院僧徒爭鬪、遣使禁止之、至是奧院僧徒燒傳法院、復遣兵防遏之、八月七日丁巳、以將修陣座、移內侍所於西中門廊、百鍊鈔九日己未、立女御藤原姞子爲中宮、公卿補任、女院小傳、平戶記、十四日甲子、陣座成、奉安內侍所、十九日己巳、發大奉幣使、二十二日壬申、

遣使宇佐、百鍊鈔九月十二日辛卯、新院崩于佐渡、百鍊鈔、後中記、一代要記、皇年代略記、增鏡、○平戶記作二十二日冬十月二十一日庚午、御禊、百鍊鈔、一代要記、皇年代略記、平戶記、十一月十三日辛卯、大嘗、百鍊鈔、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、平戶記、是月太白犯哭星、平戶記十二月十六日甲子、始臨萬機、百鍊鈔、平戶記二十七日乙亥、前關白家實薨、公卿補任

寬元元年癸卯、春二月二十二日己巳、以後鳥羽帝忌辰原輕囚、百鍊鈔二十三日庚午、號

準三宮藤原彥子曰宣仁門院、百鍊鈔、女院小傳、院號定部類記引外記記、二十六日癸酉、改元、百鍊鈔、公卿補任、一代要記、東鑑、三月丁丑朔、日有食之、夏五月十日乙酉、行幸前太政大臣公經今出川第、避方忌、十三日戊子、藏新院御骨於大原法華堂側、十八日癸巳、雨雹、百鍊鈔二十三日戊戌、鎌倉地大震、東鑑是月瘧瘡流行、百鍊鈔六月二十六日辛未、號準三宮覺子內親王曰正親町院、百鍊鈔、女院小傳、院號定部類記引番記、二十八日癸酉、以皇子

久仁爲親王、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、○皇年代略記作二十六日、秋七月十五日庚寅、避方忌于土御門殿、閏月二十三日丁卯、以壺切劒失、改鑄之、二十七日辛未、修熾盛光法、禳天變、百鍊鈔八月十日癸未、立久仁親王爲皇太子、百鍊鈔、一代要記、五代帝王物語、增鏡、以右大臣藤原實經爲傳、公卿補任、攝關傳、九月十八日辛酉、陰明門院崩、百鍊鈔、女院小傳、紹運要錄、○一代要記爲十一月、諸書華闕、冬十一月五日丁未、大雪、百鍊鈔十二月癸酉朔、謁石清水宮、百鍊鈔、增鏡、○歷代皇紀、係十一月、五日丁丑、行幸賀茂社、百鍊鈔、歷代皇紀、增鏡、十四日丙戌、號準三宮暉子內親王曰室町院、○女院小傳、係二十四日、十八日庚寅、慶珍皇寺、百鍊鈔辛丑晦、白虹貫日、東鑑、○歷代皇紀係二年正月朔、

二年甲辰、春正月二十七日戊辰、松尾山崩、大井川竭、○歷代皇紀作龜山崩、二十八日己巳、以皇子宗尊爲親王、百鍊鈔○歷代皇紀係二十七日、三月十一日辛亥、遣權中納言藤原顯親于伊勢、奉幣大神宮、百鍊鈔、伊勢公卿敕使例、歷代皇紀、十八日戊午、置御

書所、二十六日丙寅、卜松尾山崩大井川竭於軒廊、百鍊鈔夏四月二十八日戊戌、征夷大將軍藤原賴經辭職、以其子賴嗣爲右近衛少將征夷大將軍、公卿補任、百鍊鈔、歷代皇紀、五月六日乙巳、弗豫、二十日己未、減服御常膳、百鍊鈔六月庚午朔、關白良實罷左大臣、十三日壬午、以右大臣藤原實經爲左大臣、內大臣藤原兼平爲右大臣、權大納言藤原忠家爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、讀經神泉苑祈雨、百鍊鈔二

十六日乙未、修請雨經法、二十七日丙申、雨、請雨經法記廷議國忌廢置、秋七月二日庚子、地震有聲、五日癸卯、夜黑雲起西南五十道、十八日丙辰、置贈皇太后國忌於東寺、百錬鈔○按本書三年七月十一日條曰、定贈皇太后國忌、恐誤、二十六日甲子、遷閑院、百錬鈔、一代要記、東鑑、八月二十六日甲午、月犯軒轅女主星、熒惑犯太微右執法、百錬鈔二十九日丁酉、前太政大臣公經薨、公卿補任、百錬鈔、歷代皇紀、五代帝王物語、冬十月十日丁丑、雷、皇年代略記十七

日甲申、卜石清水別當紀兼盛等爭鬪血汚寶殿於軒廊、十九日丙戌、避方忌于土御門殿、二十五日壬辰、卜賀茂社怪於軒廊、二十六日癸巳、黑雲竟天、十一月戊戌朔、遣權中納言藤原顯親於石清水宮奉幣、謝汚寶殿、百錬鈔三日庚子、鎌倉洪水、東鑑○按本書云、十二日己酉、熒惑犯弓庫門星、弓庫門、未詳、故不取、二十日丁巳、杖議紀兼盛罪、百錬鈔二十二日己未、歲星入太微、東鑑十二月十六日壬午、卜定曦子內親王爲齋宮、百錬鈔、歷代皇紀十八日甲申、月犯歲星、東鑑二十九日乙未、行幸法性寺、避方忌、百錬鈔○一代要記、爲二十八日丙申晦、歲星犯太微右執法上將、東鑑

三年乙巳、春正月丁酉朔、鎌倉雷、東鑑、平戶記十一日丁未、雷電、百錬鈔、歷代皇紀、年代略記、東鑑、平戶記、二十一日丁巳、鎌倉雷、東鑑二十六日壬戌、客星見東南、踰月不滅、百錬鈔、歷代皇紀、平戶記、是月熒惑犯天江、二月丙寅朔、地震、平戶記九日甲戌、避方忌于土御門殿、十五日庚辰、卜大神宮東寶殿

不開石清水供御所有穢於軒廊、百錬鈔、平戶記十八日癸未、修孔雀經法、禳客星、百錬鈔、孔雀經御修法記、二十一日丙戌、卜賀茂社怪於軒廊、百錬鈔、上卿故實、二十五日庚寅、免輕囚、百錬鈔三月丙申朔、彗星見室壁間、百錬鈔、一代要記、室壁間據東鑑、五日庚子、日薄蝕、百錬鈔、平戶記、七日壬寅、修熾盛光法于禁中、禳天變、九日甲辰、地震、百錬鈔十二日丁未、奉宸筆告文于蓮華王院大原金原、告天變、百錬鈔、皇年代略記、十四日己酉、修五壇法於禁中、百錬

鈔十七日壬子、白虹見、平戸記二十日乙卯、避方忌于土御門殿、二十二日丁巳、卜稻荷熊野怪于軒廊、百錬鈔夏四月五日己巳、地震、七日辛未、又震、百錬鈔平戸記九日癸酉、奉幣二十二社、禳天變及三合厄、百錬鈔十五日己卯、北野社神鏡無故而墜、二十五日己丑、詔曰、朕聞人欲自照、必須明鏡、主欲知過、必藉忠臣、雖堯舜禹湯文武之君、諮稷契皐陶伊呂之臣、其君從諫而聖也、其臣無諂而直也、社稷因

茲安全、寰海因茲靜謐、朕以眇身謬備元首、親萬機之政、迄四廻之年、德不合天、天頻示變化、不合地、地屢有震、咎徵間至、祥瑞不聞、況亦帑藏猶空、之萬國之貢珍、邦家未治、屬百姓之凋弊、熟思治績、獨勞襟懷、輔朕之不逮、憑臣之極諫、宜令參議已上各上封事、凡厥法令之不便於事、勿有所諱、政教之爲助於化、勿有所除、當率有犯無隱之義、唯盡益國利民之謀、平戸記二十八日壬辰、地震、五月

三日丙申、避方忌于土御門殿、八日辛丑、地震、十二日乙巳、祈雨、二十三日丙辰、前左大臣藤原隆忠薨、百錬鈔○本書作乙卯、推干支訂之二十七日庚申、地震、平戸記○百錬鈔作二十六日十九日壬戌、卜吉田社怪於軒廊、百錬鈔六月十三日丙子、如土御門殿、避祇園神輿、平戸記十四日丁丑、還宮、百錬鈔平戸記二十日癸未、祈雨、二十二日乙酉、卜春日社千木銅具脫于軒廊、百錬鈔秋七月癸巳朔、日當蝕、陰雨不見、九日辛丑、奉幣祈雨、

是日雨、百錬鈔平戸記十六日戊申、修金剛童子法於禁中、百錬鈔十九日辛亥、雨雹、平戸記二十一日癸丑、避方忌于六條殿、二十六日戊午、地大震、百錬鈔平戸記流紀兼盛于伊豆、百錬鈔二十七日己未、避方忌于土御門殿、百錬鈔平戸記八月三日乙丑、祈晴、五日丁卯、又祈晴、九日辛未、卜伊勢賀茂怪于軒廊、十一日癸酉、地震、十七日己卯、卜賀茂社怪于軒廊、二十一日癸未、奉幣石清水、再謝紀兼盛汚寶殿、百錬鈔九月

六日戊戌、熒惑犯哭星、平戶記十三日乙巳、避方忌于土御門殿、二十日壬子、蘭林坊壞、百錬鈔二十三日乙卯、月犯軒轅大星、東鑑○按本書又云是日辰星犯恒星、恒星不可定爲其星、故不取冬十月壬戌朔、修七佛藥師法、禳天變、八日己巳、原輕繫、百錬鈔十九日庚辰、熒惑犯羽林、平戶記二十四日乙酉、避方忌于土御門殿、百錬鈔十一月五日丙申、鎌倉雷、東鑑十三日甲辰、發大神寶使、百錬鈔、平戶記十五日丙午、兩月竝出、平戶記二十九日庚申、

稻荷上社火、百錬鈔、皇年代略記、平戶記十二月六日丁卯、避方忌于土御門殿、百錬鈔二十日辛巳、鎌倉地震、東鑑庚寅晦、奉幣稻荷社、謝火、卜之軒廊、百錬鈔

四年丙午、春正月六日丙申、地大震、十一日辛丑、避方忌于六條殿、十五日乙巳、奉幣祈晴、十七日丁未、行幸春日社、○歷代皇紀爲二月十七日十八日戊申、還宮、百錬鈔二十八日戊午、關白良實罷、以左大臣藤原實經爲關白、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十九日己未、行幸冷泉萬里小路第、一代要記、毘沙門堂所藏記、讓位部類、讓位於皇太子、百錬鈔、公卿補任、一代要記、毘沙門堂所藏記、讓位部類、○增鏡爲二十八日、誤、二月上尊號曰太上天皇、皇胤紹運錄、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、及龜山帝立、稱上皇曰一院、一代要記、百錬鈔、東鑑、文永五年十月薙髮、法名素覺、雅言記、五代帝王物語、法名據帝王編年記、皇胤紹運錄、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、修佛事於東大寺、資後福、東大寺要略所載逆修願文六年四月、受戒東大寺、圓照上人行狀、○皇年代略記、東大寺作東寺七年十月、慶宸

筆法華經於龜山殿、修八講、宸筆御八講記、宸筆代代記、增鏡、九年二月十七日丙午、崩于龜山別院藥草院、年五十三、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、龜山別院藥草院據皇胤紹運錄、皇年代略記、火葬、○諸書地闕奉安御骨於淨金剛院、皇年代略記、五代帝王物語、遺詔稱後嵯峨院、皇年代略記十年六月、移藏御骨法華堂、吉續記帝性温柔、仁而愛物、既賴北條氏之推戴、不敢自專、朝廷大事、皆仰成鎌倉、五代帝王物語當時四方無事、逍遙遊歷、怡然自適、屢幸熊野高野、修鳥

羽殿、又造宮於嵯峨、稱龜山殿、移植芳野櫻、建藥草院如來壽院、就檀林寺故趾、造淨金剛院、置淨土宗、模四天王寺金堂、造多寶院、參取五代帝王物語、增鏡、帝研精佛宗、究盡法理、圓照上人行狀受止觀於僧經海、五代帝王物語達真言天台淨土奧旨、增鏡、圓照上人行狀屢親寫經論、五代帝王物語、增鏡、藏石清水北野、每春必謁石清水宮、齋宿七日、尤長和歌、所至吟詠、命藤原基家藤原爲家等、撰續古今和歌集、親臨裁定、增鏡相傳龍潛之

時、八月朔、近臣偶盛編土器進之、及登大位、以爲嘉瑞、每歲必御、後遂遍於天下、公事根源脫屣後、二皇子相踵臨祚、帝聽政院中殆三十年矣、神皇正統記、增鏡、特屬意龜山帝、欲使其胤子承纘大統、神皇正統記、增鏡、梅松論、吉續記正安三年、立後宇多帝居東宮、後北條時宗建議、立伏見帝爲後宇多帝太子、自是後深草龜山二帝之後迭承皇統、朝廷益弱矣、增鏡、梅松論、○按五代帝王物語云、帝將崩、賜宸筆遺詔於北條時宗曰、仁治中泰時定策、使朕踐祚、宜從例擇今上新院之後、在關東處置、與吉續記、神皇正統記、增鏡、梅松論大異、今不取、

大日本史卷之六十終

大日本史卷之六十一

本紀第六十一

權中納言從三位源光圀修

男權中納言從三位綱條校

玄孫權中納言從三位治保重校

後深草天皇

後深草天皇諱久仁、後嵯峨帝第三子也、增鏡○百鍊鈔、帝王編年記、皇代記、東鑑爲第一子、神皇正統記、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記第二子、母大宮院、寛元元年六月十日乙卯生、百鍊鈔、增鏡、五代帝王物語、一代要記、未閱月爲親王、百鍊鈔、增鏡、一代要記、皇年代略記、八月立爲皇太子、增鏡、歷代皇紀、皇年代略記、三年十月著袴、平戸記、百鍊鈔、歷代皇紀、皇年代略記、四年正月二十九日己未、皇太子受禪於前右大臣藤原實氏冷泉富小路第、百鍊鈔、東鑑、昆沙門堂所藏記、辨內侍日記、藤原定嗣記引大外記師光記、以關白左大臣實經攝政、右大臣藤原兼平內大臣兼左近衞大將、藤原忠家大納言兼右近衞大將、藤原實基竝如故、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二月七日丁卯、大

原野釜鳴、百鍊鈔十三日癸酉、自冷泉富小路第遷閑院、百鍊鈔、東鑑、一代要記、○歷代皇紀爲十一日、要記富小路作萬里小路誤、尊後嵯峨帝曰太上天皇、百鍊鈔、昆沙門堂所藏記、○一代要記十三日爲七日、歷代皇紀皇年代略記五日、三月四日癸巳、以前右大臣藤原實氏爲太政大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、園太曆觀應元年、十一日庚子、天皇卽位於太政官廳、時年四歲、百鍊鈔、辨內侍日記、天祚禮祀職掌錄、年據一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、十三日壬寅、修千日講、薦後白河後鳥羽土御門三帝冥福、葉黃記十五日甲寅、行幸冷泉殿、百鍊鈔還宮日闕○夏四月二日辛酉、地震、百鍊鈔是日寛成親王薨、葉黃記、歷代皇紀、七日丙寅、隕霜霰、十日己巳、奉幣丹生貴布禰祈晴、百鍊鈔十八日丁丑、卜霖雨于軒廊、葉黃記二十九日戊子、多武峯墓鳴、葉黃記閏月己丑朔、前武藏守北條經時卒、葉黃記、東鑑、將軍執權次第、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、二日庚寅、三條坊門火、避之冷泉第、三日辛卯、還閑院、百鍊鈔五月五日壬戌、月犯軒轅大星、東鑑十三日庚午、行幸冷泉

第避方忌、（百錬鈔）二十日丁丑、内大臣藤原忠家罷左近衞大將、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）二十八日乙酉、中納言藤原道良兼左近衞大將、（一代要記、公卿補任、○歷代皇紀爲二十六日）六月四日辛卯、發大奉幣使、是日祈雨、（百錬鈔）六日癸巳、京師火、延燒六角堂因幡堂公卿第宅數十所、八日乙未、建仁寺火、九日丙申、織部司火、（葉黃記）十四日辛丑、卜旱軒廊、讀經龍穴醍醐清瀧祈雨、（百錬鈔）十七日甲辰、占多武峯墓有光、以旱赦囚、（葉黃

記）十九日丙午、讀經神泉苑、（百錬鈔、祈雨御讀經記、）二十二日己酉、奉幣伊勢以下七社祈雨、二十七日甲寅、行幸太政大臣實氏第、避祇園神輿、（○還宮日闕）二十八日乙卯、讀經諸社祈雨、秋七月二十八日甲申、前征夷大將軍藤原賴經爲北條時賴所逐歸京師、（百錬鈔、日據東鑑、葉黃記、○百錬鈔、將軍執權次第、一代要記、帝王編年記、係二十七日、）八月十七日癸卯、以山科陵鳴、遣使謝之、（葉黃記）九月九日甲子、太白犯太微執法、（○按執法左右未詳）十六日辛未、

又犯、（東鑑）冬十月丙戌朔、熒惑鎭星歲星相犯、（百錬鈔）六日辛卯、鎌倉雷、（東鑑）十三日戊戌、北條時賴罷京師籌兵、（葉黃記）二十日乙巳、祈晴、歲星鎭星太白相犯、（百錬鈔○葉黃記係十七日）二十四日己酉、御禊、（百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）十一月九日甲子、熒惑犯房、太白犯鍵閉、（東鑑）十六日辛未、奉幣三社、二十日乙亥、如太政官廳、（百錬鈔○葉黃記係二十二日）二十四日己卯、大嘗、（葉黃記、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）二十七日壬午、鎌倉地大震、（東鑑）二

十八日癸未、還閑院、（葉黃記、百錬鈔、）十二月五日庚寅、地震、（百錬鈔）九日甲午、太政大臣實氏罷、（公卿補任、百錬鈔、歷代皇紀、○一代要記爲四日）十四日己亥、攝政實經罷左大臣、（公卿補任、百錬鈔、○一代要記爲四日、歷代皇紀二十四日）二十一日丙午、避方忌於太政官廳、（百錬鈔、辨内侍日記、）二十四日己酉、以前内大臣源通光爲太政大臣、右大臣藤原兼平爲左大臣、内大臣藤原忠家爲右大臣、大納言藤原實基爲内大臣、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）二十七日壬子、始臨萬

機、百錬鈔

寶治元年丁未、春正月十九日癸酉、攝政實經罷、以前關白兼經攝政、五代帝王物語、一代要記、○歷代皇紀、兼經攝政爲二十九日 二十五日己卯、雷、百錬鈔 二十六日庚辰、鎌倉雷、二十九日癸未、鎌倉羽蟻群飛、東鑑○百錬鈔曰、十七日螻蟈盈鶴岡、 二月六日庚寅、避方忌於記錄所、葉黃記 二十八日壬子、改元、百錬鈔、一代要記、帝王編年記、 三月十一日甲子、鎌倉海水赤如血、東鑑 十二日乙丑、有大流星、百錬鈔、東鑑、歷代皇紀、帝王編年記、 十三日丙寅、地震有聲、百錬鈔、帝王編年記、 十七日庚午、鎌倉黃蝶群集、廣丈許、長數丈、東鑑 十八日辛未、修金輪法禳天變、葉黃記 夏四月二十五日戊申、日有暈、東鑑 石清水宮有煙氣、卜之於軒廊、五月四日丙辰、避方忌于記錄所、百錬鈔 十一日癸亥、陸奥津輕郡海濱獲人魚、十八日庚午、鎌倉有光怪、自西行東、有氣如白旗、東鑑 二十六日戊寅、讀經神泉苑祈雨、百錬鈔、帝王編年記、 辛巳晦、修五龍祭、百錬鈔 六月五日丙戌、

三浦泰村等圖滅北條氏、北條時賴擊殺泰村、東鑑、五代帝王物語、歷代皇紀、 九日庚寅、修請雨經法于神泉苑、百錬鈔 又令東大寺延曆寺興福寺各會一百僧、轉讀仁王經、帝王編年記、仁王經據百錬鈔、○百錬鈔東大寺作東寺、 赦罪囚、葉黃記 十日辛卯、地震有聲、十三日甲午、行幸前太政大臣實氏富小路第、避祇園神輿、十四日乙未、還宮、百錬鈔 十五日丙申、卜旱于軒廊、又赦囚、葉黃記 十七日戊戌、修水天供、百錬鈔 二十三日甲辰、以山科山陵鳴動、遣中納言藤原良教謝之、葉黃記、百錬鈔、 二十九日庚戌、修孔雀經法于東寺、秋七月三日甲寅、大雨、葉黃記、百錬鈔、祈雨御讀經記、 八日己未、北方有赤氣、百錬鈔、歷代皇紀、 如野火、白氣數道交其中、蔽北斗、須臾滅、歷代皇紀 是月北條長時來居六波羅北方、東鑑、北方據將軍執權次第、 八月二十八日戊申、法勝寺阿彌陀堂火、葉黃記、百錬鈔、一代要記、 九月辛亥朔、鎌倉大風發屋、二日壬子、又大風、東鑑 二十四日甲戌、御記錄所、辨內侍日記 二十八日戊寅、

前内大臣源定通薨、葉黃記、百錬鈔、冬十月八日丁亥、鎌倉地大震、十一月二十六日乙亥、又震、東鑑十二月二十一日庚子、東一條院崩、百錬鈔、園太暦貞和二年、女院小傳、歴代皇紀、○諸書葬關二十四日癸卯、遣權大納言藤原隆親奉幣於宇佐、百錬鈔

二年戊申、春正月十七日丙寅、太政大臣通光罷、十八日丁卯、前太政大臣通光薨、公卿補任、歴代皇紀、園太暦觀應二年、三月九日丁己、内大臣藤原實基罷右近衛大將、公卿補任○歴代皇紀爲十日十日戊

午、權大納言源通忠兼右近衛大將、公卿補任、歴代皇紀、夏六月九日乙酉、相模河水赤如血、十五日辛卯、常陸雨雪、東鑑十八日甲午、上中宮號曰大宮院、百錬鈔、女院小傳、五代帝王物語、○一代要記或係前年、或係是年、誤、七月鎌倉微雪、東鑑秋八月七日辛己、卜伊勢及賀茂社怪於軒廊、百錬鈔八月壬午、尊前齋宮曦子内親王曰皇后、百錬鈔、公卿補任、女院小傳、一代要記、歴代皇紀、二十三日丁酉、卜伊勢怪於軒廊、左近衞府火、百錬鈔九月七日辛亥、鎌倉黃蝶群飛、東鑑八日壬子、大風雨水、春日社鳥居倒、百錬鈔十九日癸亥、鎌倉黃蝶又群飛、廣數丈、東鑑冬十月二十一日甲午、上皇幸春日社、歴代皇紀○百錬鈔作幸宇治二十二日乙未、内膳司火、庭火釜焚、百錬鈔、增鏡、十一月十九日壬戌、卜庭火釜焚於軒廊、百錬鈔閏十二月十二日乙卯、行幸今出川殿避方忌、帝王編年記二十八日辛未、改鑄庭火釜、百錬鈔○按本書是月十六日己未有天變、或云白虹貫日、或云有珥、今無所考定、

建長元年己酉、春正月十五日丁亥、長仁親王薨、百錬鈔二十三日乙未、多武峯墓鳴動、二十八日庚子、行幸攝政直廬避方忌、岡屋關白記二月癸卯朔、閑院火、天皇避之冷泉富小路第、岡屋關白記、百錬鈔、辨内侍日記、增鏡、園太暦觀應元年、二日甲辰、以閑院火廢朝三日、五日丁未、卜閑院火於軒廊、二十八日庚午、奉幣伊勢以下八社、告閑院火、○百錬鈔爲十八日三月三日乙亥、祈晴、五日丁丑、避方忌于六條殿、岡屋關白記十八日庚寅、改

元、百錬鈔、公卿補任、一代要記、歴代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、詔曰、德侔天地稱之皇、鍾五運而馭曆、明合日月謂之聖、鑑萬象以成規、朕繆以冲幼、忝受景圖、瑞露未霑、不植華平於春王之圃、惠風難扇、猶憶子育於夏畜之鄕、帝軒氏徇齊之知、四聰隔嚮、姬洛公翊周之材、萬樞委政、○此間疑有脫文、是以乾蓋之間、荐示變異、宸襟之底、彌增悚兢、宜易草氓之聽、以解木囚之寃、是則修德勝災、與物更始之義也、其改寶治三年爲

建長元年、今日昧爽以前、大辟已下罪、悉釋之、併加教戒、令得自新、但常赦所不免、并觸神社之訴者、不在赦限、寬元二年以往、調庸未進、一切免除、給穀賜物、一準恒典、庶幾施玄渙於九域、保寶祚於億齡、岡屋關白記、二十三日乙未、京師大火、延及蓮華王院、百錬鈔、增鏡、五代帝王物語、歴代皇紀、二十四日丙申、占蓮華王院火、岡屋關白記、百錬鈔、夏四月壬寅朔、日有食之、四日乙巳、卜播磨伊和社火於軒廊、百錬鈔、十七日戊午、

行幸今出川殿、避方忌、辨內侍日記、二十三日甲子、上皇奉宸筆告文於白河後白河後鳥羽三帝陵、謝天變火災、百錬鈔、帝王編年記、秋七月二日辛未、修藥師法北斗法、帝王編年記、三日壬申、卜賀茂社金花生於軒廊、六日乙亥、弗豫、百錬鈔、七日丙子、奉幣伊勢以下八社、禱病、二十日己丑、追稱佐渡院曰順德院、百錬鈔、帝王編年記、八月十四日壬子、以皇弟恒仁爲親王、百錬鈔、一代要記、歴代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、延曆寺青蓮院僧徒遷日

吉神輿於中堂、訴四天王寺別當職屬園城寺、百錬鈔、一代要記、歴代皇紀、十九日丁巳、前太政大臣公房薨、歴代皇紀、百錬鈔、尊卑分脈、○公卿補任爲十六日、二十四日壬戌、卜東大寺大佛鳴動於軒廊、百錬鈔、帝王編年記、九月四日壬申、卜吉田社鳥居倒於軒廊、百錬鈔、五日癸酉、日吉神輿歸座、歴代皇紀、○一代要記爲三日、冬十月八日乙巳、定沽價法、百錬鈔、二十一日戊午、上皇幸春日社、百錬鈔、帝王編年記、○還宮日闕、二十六日癸亥、卜大神宮戶不開於軒廊、十一月

十五日壬午、覲上皇于富小路殿、百錬鈔、還宮日闕○二年庚戌、春正月十一日丁丑、朝仁親王薨、一代要記十三日己卯、下野雨麥、二月四日庚子、御裳濯川紅一日夜、東鑑三月丁卯朔、卜豐受宮遷宮遺瑠璃壺及西寶殿汗血於軒廊、百錬鈔四日庚午、遣權中納言源通成于伊勢奉宸筆宣命於大神宮、伊勢公卿敕使例、皇年代略記、宸筆宣命據百錬鈔、十一日丁丑、上皇幸熊野、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、十三日己卯、卜賀茂別雷社戶鎖不開

于軒廊、百錬鈔夏四月二日丁酉、造閑院、四日己亥、上皇還自熊野、○百錬鈔、一代要記爲五日二十六日辛酉、避方忌于太政官直廬、岡屋關白記二十七日壬戌、內大臣藤原實基罷、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、乙丑晦、卜鼠噬吉田社神衣、及金峯山鳴動於軒廊、百錬鈔五月十七日壬午、以大納言源具實爲內大臣、公卿補任、岡屋關白記、百錬鈔、一代要記、六月五日己亥、祈晴、九日癸卯、又祈晴、岡屋關白記十日甲辰、卜霖軒廊、百錬鈔、岡屋關白記、十三日丁未、下沽價法、百錬鈔十六日庚戌、奉幣伊勢以下十社祈晴、岡屋關白記、百錬鈔、秋七月五日己巳、卜大神宮怪於軒廊、百錬鈔十三日丁丑、課試、百錬鈔、歷代皇紀、帝王編年記、十八日壬午、鎌倉地連震、東鑑八月五日戊戌、卜豐受宮犬產穢於軒廊、百錬鈔冬十月十三日乙巳、覲上皇于鳥羽殿、百錬鈔、辨內侍日記、歷代皇紀、帝王編年記、十一月二十四日乙酉、大納言兼右近衞大將源通忠薨、百錬鈔二十八日己丑、內大臣源具實罷、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、十二月

十五日丙午、以權大納言藤原道良爲內大臣、公卿補任、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、二十三日甲寅、藤原道良罷左近衞大將、公卿補任、○一代要記爲二十九日、歷代皇紀二十四日、二十四日乙卯、大納言藤原定雅兼左近衞大將、權大納言藤原公相兼右近衞大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十八日己未、卜賀茂社怪於軒廊、百錬鈔

三年辛亥、春正月二日癸亥、式乾門院崩、百錬鈔、歷代皇紀、東鑑、○諸書葬闕十九日庚辰、地震、百錬鈔二十

日辛巳、有鳥數十集諏訪社而死、（東鑑）二十七日戊子、以皇弟省仁爲親王、（○仁和寺御傳爲二十一日、一代要記十七日、）二月七日丁酉、釋奠、以式乾門院崩罷宴、（百錬鈔）十四日甲辰、熊野神倉火、（東鑑）十七日丁未、行幸今出川殿、二十四日甲寅、卜賀茂社怪於軒廊、（百錬鈔○本書作壬辰、今推干支訂之、）二十七日丁巳、熊野本宮火、（百錬鈔、歷代皇紀、帝王編年記、○一代要記爲二十六日）三月六日丙寅、卜伊勢及廣田社怪於軒廊、（百錬鈔）武藏淺草寺有物如牛、見者即死、

（東鑑）二十七日丁亥、上上皇準母皇后號曰仙華門院、（百錬鈔、公卿補任、帝王編年記、）二十八日戊子、避方忌、（百錬鈔○本書不地、今無所考、）夏四月十九日己酉、上野赤城山自焚、二十三日癸丑、鎌倉雨水、（東鑑）二十七日丁巳、卜霖軒廊、五月五日甲子、奉幣六社祈晴、十二日辛未、行幸大納言藤原隆親第避方忌、十五日甲戌、卜賀茂社羽蟻出於軒廊、十九日戊寅、大風破廬舍、奉幣八社祈晴、二十四日癸未、修不動供祈晴、六月五

日甲午、有赤雲見南方、（百錬鈔）二十七日丙辰、閑院成從御焉、（百錬鈔、經俊記、五代帝王物語、歷代皇紀、帝王編年記、東鑑、）是月鎌倉寒如冬、有冰、（東鑑）秋七月二十二日庚辰、祈晴、（岡屋關白記）八月二日庚寅、卜平野社有屍骸於軒廊、（百錬鈔）熒惑犯東井鉞星、（岡屋關白記）三日辛卯、造法勝寺阿彌陀堂、（百錬鈔、歷代皇紀、岡屋關白記、）五日癸巳、行幸大納言藤原隆親第避方忌、六日甲午、熒惑犯東井南轅第一星、九日丁酉、太白犯輿鬼、（岡屋關白記）十日戊戌、造

蓮華王院、（岡屋關白記、百錬鈔、）九月二日己未、太白犯軒轅女主星、八日乙丑、太白犯軒轅左角星、十三日庚午、月犯歲星、（岡屋關白記）七日甲戌、地震、（岡屋關白記、百錬鈔、）十八日乙亥、太白犯太微西蕃上將、二十一日戊寅、月入東井、二十五日壬午、太白犯太微右執法、閏月戊子朔、犯左執法、六日癸巳、犯東蕃上相、七日甲午、月犯牽牛中央星、九日丙申、熒惑犯輿鬼、十三日庚子、犯積尸、十四日辛丑、行幸前太政大臣實

氏一條第避方忌、（岡屋關白記）十七日甲辰、上皇幸實氏吹田別莊、（岡屋關白記、百鍊鈔、○諸書還宮日闕）冬十月二十三日己卯、鎌倉雷地震、（東鑑）十一月十三日戊戌、號準三宮䄄子內親王曰永安門院、（女院小傳、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、）十四日己亥、太白犯鎮星、（東鑑）十二月四日己未、卜吉田社怪於軒廊、九日甲子、始讀孝經、（百鍊鈔）

四年壬子、春正月十一日丙申、鎌倉雷、二十七日壬子、鎌倉海水赤如血、（東鑑）二月乙卯朔、日有食之、（百鍊鈔）五日己未、修五壇法、禱國家平安、（歷代皇紀）二十一日乙亥、前攝政道家薨、（百鍊鈔、五代帝王物語、歷代皇紀、東鑑、）二十八日壬午、鎌倉海水赤如血、（東鑑）夏四月甲寅朔、以北條時賴請、以三品宗尊親王爲征夷大將軍、（百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、五代帝王物語、東鑑、）十八日辛未、前征夷大將軍藤原賴嗣爲北條時賴所逐歸京師、（保曆間記、參取五代帝王物語、增鏡、十八日據百鍊鈔、）五月二日乙酉、奉幣祈雨、修水天供、二十七日、十八日辛丑、卜鼠噬

豐受宮御衣于軒廊、六月十三日乙丑、行幸前太政大臣實氏富小路第避祇園神輿、十四日丙寅、還宮、（百鍊鈔）秋七月二十日壬寅、右大臣藤原忠家罷、（歷代皇紀）以內大臣藤原道良爲右大臣、大納言藤原定雅爲內大臣、（一代要記、歷代皇紀、）二十三日乙巳、鎌倉地大震、（東鑑）八月癸丑朔、卜平野社蛇出于軒廊、（百鍊鈔）冬十月三日甲寅、攝政兼經罷、以左大臣藤原兼平攝政、（百鍊鈔、五代帝王物語、一代要記、歷代皇紀、）十一月三日癸未、左大臣兼平爲太政大臣、攝政仍舊、右大臣藤原道良爲左大臣、內大臣藤原定雅爲右大臣、權大納言藤原公相爲內大臣、（一代要記、參取百鍊鈔、○歷代皇紀爲十二月十三日）十八日戊戌、雷、（百鍊鈔）十二月十六日丙寅、鎌倉日有珥、（東鑑）

五年癸丑春正月三日壬午、天皇加元服于閑院、（百鍊鈔、毘沙門堂所藏記、帝王編年記、）二十六日乙巳、謁石清水宮、二十七日丙午、還御鳥羽殿、二十八日丁未、覲上皇、（百鍊鈔、歷代皇紀、帝王編年記、）二月己酉

朔、日當食、陰雨不見、百錬鈔 三日辛亥、行幸賀茂社、百錬鈔、歴代皇紀、帝王編年記、二十一日己巳、有光怪、百錬鈔 二十五日癸酉、慶石清水大塔、百錬鈔、歴代皇紀、鎌倉地大震、東鑑 三月十二日庚寅、大隅八幡宮火、帝王編年記 十三日辛卯、上皇大宮院幸四天王寺、百錬鈔、帝王編年記、二十四日壬寅、右大臣藤原定雅罷左近衛大將、歴代皇紀 夏四月八日乙卯、内大臣兼右近衛大將藤原公相轉左近衛大將、權大納言藤原公基兼右近衛大

將、一代要記 丁丑晦、卜大隅八幡宮火於軒廊、五月八日乙酉、奉幣石清水、謝大隅八幡宮火、十三日庚寅、奉幣丹生貴布禰祈雨、十四日辛卯、讀經龍穴、十六日癸巳、修水天供、二十日丁酉、避方忌于四條殿、百錬鈔 二十一日戊戌、讀經清瀧、祈雨御讀經記 延曆寺東塔五佛院實相院火、一代要記 六月四日辛亥、奉幣二十二社禳天變、百錬鈔 十日丁巳、鎌倉地大震、東鑑 十三日庚申、如上皇宮避祇園神輿、秋七月十二日戊子、下新制十八條、○東鑑爲十三條 二十三日己亥、避方忌于四條殿、八月七日癸丑、卜伊勢及賀茂怪於軒廊、十一日丁巳、祈晴、二十一日丁卯、奉幣賀茂、謝貴布禰社野牛斃、九月六日辛巳、避方忌、百錬鈔○本書不地、今無所考、 十四日己丑、鎌倉雷、十六日辛卯、鎌倉地震、東鑑 十七日壬辰、地震、冬十月十三日戊午、卜豐受宮怪於軒廊、二十一日丙寅、行幸今出川殿、避方忌、百錬鈔 十一月五日庚辰、丹生王子寶殿

火、帝王編年記 八日癸未、攝政兼平罷太政大臣、二十四日己亥、以前内大臣藤原實基爲太政大臣、百錬鈔、一代要記、歴代皇紀 十二月乙巳朔、省試、百錬鈔 二十日甲子、上皇慶法勝寺阿彌陀堂、二十二日丙寅、車駕臨幸、百錬鈔、一代要記、歴代皇紀、○帝王編年記係十一月

六年甲寅、春正月九日癸未、行幸前太政大臣實氏北山別業、避方忌、癸卯晦、卜大神宮心柱傾於軒廊、百錬鈔 二月十一日甲寅、太政

大臣實基罷、（歷代皇紀）十七日庚申、行幸內大臣藤原公相令出川第避方忌、三月壬寅晦、避方忌于記錄所、夏四月十一日癸丑、卜霖軒廊、（百錬鈔）十三日乙卯、奉幣二十二社禳三合厄、（百錬鈔、帝王編年記、）二十五日丁卯、卜大神宮怪於軒廊、（百錬鈔）閏五月十一日壬子、地大震、（歷代皇紀、皇年代略記、）二十六日丁卯、避方忌于記錄所、六月十三日癸未、行幸令出川殿避祇園神輿、十四日甲申、還宮、（百錬鈔）十七日丁亥、震東大

寺、敕封寶藏、（帝王編年記）秋七月辛丑朔、鎌倉大風壞廬舍、傷穀稼、（東鑑）五日乙巳、遣使檢東大寺寶藏、（○帝王編年記係六日）二十三日癸亥、行幸令出川第避方忌、（百錬鈔）自六月不雨至是月、（歷代皇紀、皇年代略記、）八月三日癸酉、以皇弟雅尊爲親王、（○一代要記係十四日）五日乙亥、卜賀茂社祇園社怪於軒廊、（百錬鈔）十日庚辰、鎌倉白虹見、（東鑑）十四日甲申、卜大神宮御衣破於軒廊、（百錬鈔）冬十月四日癸酉、鎌倉雷、（東鑑）九日戊寅、卜賀茂社怪於軒廊、二十九日戊戌、卜廣田社怪於軒廊、（百錬鈔）十一月十日己酉、內大臣藤原公相罷左近衛大將、十一日庚戌、右大臣藤原定雅罷、（一代要記）十二月二日庚午、以攝政兼平爲關白、（百錬鈔、歷代皇紀、）二十日戊子、行幸前太政大臣實氏冷泉第避方忌、（百錬鈔）二十五日癸巳、以內大臣藤原公相爲右大臣、權大納言藤原公基爲內大臣、（一代要記、歷代皇紀、）二十六日甲午、遣使宇佐、（百錬鈔○帝王編年記係十一月）

七年乙卯、春二月十日丁丑、三品雅成親王薨于但馬、（百錬鈔、歷代皇紀、）三月八日乙巳、上皇大宮院幸熊野、（百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、）夏四月丁卯朔、上皇大宮院至自熊野、（百錬鈔、一代要記、）十二日戊寅、內大臣右近衛大將藤原公基轉左近衛大將、權大納言藤原公親兼右近衛大將、（一代要記）二十四日庚寅、祈雨神泉苑、二十八日甲午、卜男山鳴動於軒廊、六月十三日戊寅、行幸富小路第避祇園神輿、（百錬鈔○還宮日闕）十

五日庚辰、有大流星、（歷代皇紀、皇年代略記、）自西北東北行、（歷代皇紀、）二十日乙酉、卜大神宮怪於軒廊、（百鍊鈔、）秋七月二十五日己未、有羣狼出七條堀河壞廬舍、（歷代皇紀、）八月二十八日壬辰、震法勝寺九層塔、（百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）冬十月十九日壬午、行幸春日社、（百鍊鈔、帝王編年記、○歷代皇紀爲二十九日、）二十一日甲申、還宮、（百鍊鈔、）十二月四日丁卯、內大臣藤原公基罷左近衞大將、（百鍊鈔、一代要記、）十三日丙子、權中納言藤原基平兼左近衞大將、（一代要記、歷代皇紀、）

康元元年丙辰、春正月癸巳朔、避方忌于太政官直廬、（百鍊鈔、）二月七日己巳、號準三宮體子內親王曰神仙門院、（百鍊鈔、女院小傳、帝王編年記、）二十一日癸未、北野社神體自墮有光、（歷代皇紀○皇年代略記係正月二十一日、）三月二十三日甲寅、以北野宮寺訴流檢非違使章國於越前、（百鍊鈔○章國姓闕、）夏四月八日己巳、熒惑逆行入太微、（帝王編年記、）九日庚午、奉幣北野社謝神體墮、（百鍊鈔、）是月北條時茂來居六波羅北方、（東鑑○將軍執權次第爲六月、）六月十三日壬申、行幸冷泉第避方忌、十四日癸酉、還宮、（深心院關白記、方忌據百鍊鈔、）避石清水宮鳴動、（百鍊鈔、歷代皇紀、皇年代略記、）黑雲覆社、有流星、（歷代皇紀、）鎌倉光怪晝見、初如白鷺、既而如火、後如白布、（東鑑、）戊子晦、太白犯天關、（帝王編年記、）秋七月三日辛卯、大宮殿成、上皇徙御焉、二十八日丙辰、卜平野社怪於軒廊、（百鍊鈔、）八月六日甲子、鎌倉大風雨水、山崩人死、（東鑑、）十三日辛未、卜河合

社盜於軒廊、（百鍊鈔、）十七日乙亥、盜火栗田宮、（帝王編年記、）是月赤斑瘡流行、踰月不止、九月五日壬辰、天皇患赤斑瘡、（百鍊鈔、）十二日己亥、歲星犯太微上將、熒惑犯天江、（帝王編年記、）二十四日辛亥、卜伊勢賀茂平野感神院栗田宮災異於軒廊、（百鍊鈔、）是日前征夷大將軍源賴嗣薨、（東鑑、保曆間記、）二十五日壬子、天皇疾瘳、奉幣栗田宮謝火雅尊親王薨、（百鍊鈔、）冬十月五日壬戌改元、（深心院關白記、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、）十一月十八

日乙巳、鎌倉雷、東鑑二十三日庚戌、以藤原公子爲女御、深心院關白記、百鍊鈔、女院小傳正嘉元年丁巳、春正月二十九日乙卯、立女御藤原公子爲中宮、百鍊鈔、女院小傳、歷代皇紀、○一代要記爲二十七日、五代帝王物語係二月、二月十日丙寅、太政官廳火、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、○五代帝王物語作康元元年誤二十六日壬午、卜太政官廳火於軒廊、二十八日甲申、遣使山陵告太政官廳火、百鍊鈔是日大宮殿火、百鍊鈔、園太曆文和二年、歷代皇紀、三月二日戊子、造

太政官廳、百鍊鈔十四日庚子、改元、經俊記、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、東鑑、二十日丙午、上皇幸金剛峯寺、五代帝王物語閏月二十五日庚辰、雨灰、帝王編年記夏四月十三日戊戌、三條坊門殿成、上皇徙御焉、百鍊鈔五月乙卯朔、日當蝕、陰雨不見、百鍊鈔、東鑑、十八日壬申、鎌倉地大震、東鑑六月十三日丙申、覲上皇于三條坊門殿、百鍊鈔是月旱、東大寺圓照上人行狀秋七月五日丁巳、承明門院崩、百鍊鈔、增鏡、一代要記、女院小傳、八月癸未朔、鎌倉地震、二十

三日乙巳、鎌倉地大震有聲、山崩地裂、水涌火出、東鑑九月十三日甲子、熒惑入太微、帝王編年記十九日庚午、奉幣春日社、百鍊鈔冬十月十三日甲午、鎌倉雷、東鑑十九日庚子、以皇弟貞良爲親王、百鍊鈔、一代要記、十一月八日己未、右大臣藤原公相罷、一代要記、百鍊鈔、○歷代皇紀係十月鎌倉地大震、東鑑二十六日丁丑、以内大臣藤原公基爲右大臣、權大納言藤原實雄爲内大臣、一代要記、歷代皇紀、十二月二日壬午、遣使宇佐、十五日

乙未、卜賀茂社怪於軒廊、百鍊鈔

二年戊午、春三月九日己未、行幸富小路殿、十月庚申、還宮、百鍊鈔二十日庚午、上皇幸金剛峯寺、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、夏四月十三日壬辰、上皇所居大炊御門殿火、百鍊鈔十七日丙申、延曆寺僧徒奉日吉神輿詣閑院、訴園城寺建戒壇、百鍊鈔、帝王編年記、東鑑、詣閑院據一代要記、棄神輿而去、一代要記、東鑑、五月庚戌朔、罷園城寺建戒壇、百鍊鈔日吉神輿歸座、百鍊鈔、帝王編年記、東鑑、四日癸丑、住吉

社第一寶殿鳴動、帝王編年記十日己未、奉幣日
吉祇園北野謝神輿入京、百鍊鈔、帝王編年記、六月十
三日辛卯、避祇園神輿於三條坊門殿、十五
日癸巳、卜霖雨於軒廊、百鍊鈔是月鎌倉寒如
冬、東鑑秋八月丁丑朔、大風、百鍊鈔、帝王編年記、東鑑、傷穀
稼、帝王編年記、東鑑、安嘉門倒、百鍊鈔七日癸未、立皇
弟恒仁親王爲皇太弟、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、皇年代略
記、○歷代皇紀爲正元元年二十八日甲辰、熒惑犯南斗
第五星、有大流星東南行、東鑑冬十月二十二

日丁酉、右大臣藤原公基罷、百鍊鈔、歷代皇紀、十一
月丙午朔、以內大臣藤原實雄爲右大臣、一代
要記、百鍊鈔、歷代皇紀、兼皇太弟傅、一代要記權大納言藤
原基平爲內大臣、一代要記、百鍊鈔、歷代皇紀、十二月十
二日丁亥、鎌倉雷、十六日辛卯、又雷、是年穀
稼不稔、東鑑
正元元年己未、春正月五日己酉、行幸押小
路殿、避方忌、百鍊鈔九日癸丑、行幸法勝寺觀
修正、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、太白犯熒惑、帝王編年記十

五日己未、前右大臣藤原師經薨、百鍊鈔○尊卑分脈係八月
三月五日己酉、大宮院慶大藏經于前
太政大臣實氏北山別業、天皇上皇臨焉、百鍊
鈔、增鏡、禁諸國殺生三日、帝王編年記九日癸丑、還
宮、百鍊鈔二十六日庚午、改元、百鍊鈔、五代帝王物語、是
春疫癘流行、五代帝王物語夏四月五日戊寅、令五
畿七道諸國轉讀最勝王經禳飢疫、帝王編年記
十一日甲申、日吉十禪師社火、歷代皇紀、皇年代略記、
二十七日庚子、奉幣二十二社、讀仁王經于

諸社禳飢疫、百鍊鈔五月四日丁未、前關白兼
經薨、五代帝王物語、攝關次第、一代要記、七日庚戌、修如法北
斗法于禁中、百鍊鈔二十二日乙丑、閑院火、百鍊
鈔、五代帝王物語、歷代皇紀、天皇避三條坊門殿、二十七
日庚午、上皇慶讚宸筆般若心經于嵯峨殿、
禳疫、二十八日辛未、自三條坊門殿遷御富
小路殿、百鍊鈔是月一條壬生有小尼食死人、
百鍊鈔、五代帝王物語、帝王編年記、秋七月八日庚戌、奉幣日
吉謝火、百鍊鈔八月十一日壬午、大宮殿成、上

皇從焉、（百鍊鈔、一代要記、）二十二日癸巳、覲大宮殿、（百鍊鈔）二十八日己亥、皇太弟加元服於大宮殿、（百鍊鈔、帝王編年記、皇年代略記、）辛丑晦、還御富小路殿、（百鍊鈔）九月十三日甲寅、熒惑入太微、二十三日甲子、太白犯熒惑及太微執法、（帝王編年記○執法左右未詳）冬十月二日壬申、遣參議藤原伊賴于後白河帝陵、參議藤原顯雅于後鳥羽帝陵、奉宸筆告文、禱天變弗豫、（百鍊鈔、後愚昧別記、帝王編年記、）十一月己巳朔、日南至、（百鍊鈔）八日丙子、左大臣藤原道良薨、十四日壬午、以前右大臣藤原公相爲左大臣、（百鍊鈔、一代要記、）十五日癸未、還居萬里小路殿、（百鍊鈔○一代要記爲十四日）二十六日甲午、天皇讓位於皇太弟、上尊號曰太上天皇、（百鍊鈔、皇代記、一代要記、皇年代略記、增鏡、）以後嵯峨上皇在、稱上皇曰新院、（一代要記、百鍊鈔、）及後宇多帝立、改曰本院、（一代要記）正應三年二月剃髮受戒龜山殿、法名素實、（一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、東寺長者補任、受戒據增鏡、○增鏡、異本太平記係四年、）四年十一月受戒東大寺、（略年代記、）

（歷代皇紀、）永仁二年五月受戒延暦寺、（帝王編年記○歷代皇紀爲元年十月）嘉元二年七月十六日丙寅、崩于富小路殿、年六十二、（增鏡、歷代皇紀、皇年代略記、）藏御骨於法華堂、（伏見帝御中陰記○葬地闕）稱後深草院、（增鏡、皇胤紹運錄、一代要記、歷代皇紀、）帝孝友和順、脫屣之後、每侍後嵯峨法皇、宴遊必從、愉色婉容、承意不違、法皇崩、時人皆謂萬機當出於帝、而龜山帝親決庶政、置後院別當、管院中事、帝無所預焉、及後宇多帝登祚、帝益憂鬱、北條時宗以爲上皇身居正嫡、雅無失德、宜使其胤踐天位、遂議以上皇第一皇子爲後宇多帝儲貳、於是帝意釋、伏見帝登祚、淺原爲賴謀逆、衆論喧然、以謂實龜山法皇之所使、權大納言藤原公衡勸帝遷法皇於六波羅、帝潛然曰、浮言難信、何遽至此也、先帝而有知、將謂朕何事、亦尋釋、（增鏡）

大日本史卷之六十一終

大日本史卷之六十二

本紀第六十二

權中納言從三位源光圀修
男權中納言從三位綱條校
玄孫權中納言從三位治保重校

龜山天皇

龜山天皇諱恒仁、後嵯峨帝第六子、後深草帝同母弟也、五代帝王物語○歷代皇紀、皇年代略記、一代要記、竝爲第三子、今推生年、從本書說、百鍊鈔、增鏡等諸書、爲第二者、蓋以皇后所生也、建長元年五月二十七日戊戌生於外祖前太政大臣實氏今出川第、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、實氏第據帝王編年記、八月爲親王、百鍊鈔、皇胤紹運錄、一代要記、歷代皇紀、五年十月著袴、皇胤紹運錄、皇年代略記、正嘉二年八月立爲皇太弟、百鍊鈔、增鏡、五代帝王物語、正元元年八月冠、百鍊鈔、一代要記、歷代皇紀、十一月二十六日甲午、皇太弟受禪於冷泉富小路殿、百鍊鈔、歷代皇紀、帝王編年記、冷泉富小路殿據昆沙門堂所藏記、一代要記、○五代帝王物語、爲十月六日、關白兼平、○一代要記云、是日詔爲攝政、據攝關次第、歷代皇紀、及公卿補任弘長元年四月罷關白之文、兼

平不攝政、故不取、左大臣藤原公相、右大臣藤原實雄、內大臣兼左近衛大將藤原基平、大納言兼右近衛大將藤原公親竝如故、一代要記、歷代皇紀、十二月二日庚子、尊後深草帝曰太上天皇、百鍊鈔、一代要記、昆沙門堂所藏記、增鏡、十九日丁巳、上中宮號曰東二條院、百鍊鈔、女院小傳、五代帝王物語、二十八日丙寅、天皇卽位於太政官廳、時年十一、百鍊鈔、一代要記、五代帝王物語、天祚禮祀職掌錄、是歲、自春及夏、京師諸國疾疫、饑殍盈道、歷代皇紀、

文應元年庚申、春正月四日壬申、太政官下符園城寺、許建戒壇、六日甲戌、延曆寺僧徒奉日吉神輿入京、訴建園城寺戒壇、棄神輿而去、一代要記、天台座主記、東鑑、○今出河內相府記爲五日、遷之祇園社、一代要記、天台座主記、七日乙亥、白馬節、以神輿在京徹樂、帝王編年記、十四日壬午、鎌倉雷、東鑑、十九日丁亥、追奪戒壇官符、歷代皇紀、天台座主記○一代要記、東鑑爲二十日、二十一日己丑、神輿歸座、一代要記、帝王編年記、天台座主記、○東鑑爲二十二日、二月六日甲辰、奉幣日吉北

野祇園、謝神輿動座、帝王編年記三月七日甲戌、
貞良親王薨、一代要記十四日辛巳、日色赤、十五
日壬午、又赤、東鑑二十四日辛卯、遣使山陵告
即位、帝王編年記二十五日壬辰、鎌倉地震、東鑑夏
四月十二日己酉、一院所居大炊御門殿火、
一代要記、歴代皇紀、皇年代略記、皇代略記、十三日庚戌、改元、公卿
補任、一代要記、歴代皇紀、帝王編年記、皇代記、十九日丙辰、歳星犯
天江第四星、帝王編年記六月丁酉朔、鎌倉大風
雨水、山崩人死、東鑑十五日辛亥、一院違豫、二

十日丙辰、修五壇法禱之、一代要記、天台座主記、秋七
月二十一日丁亥、仙華門院崩、○一代要記、歴代皇紀、女
院小傳爲弘長二年八月、諸書葬闕、八月五日庚子、鎌倉地震、
大風雨破屋、東鑑冬十月二十一日乙卯、御禊、
十一月十六日己卯、大嘗、一代要記、歴代皇紀、帝王編年記、皇
代記鎌倉雷、東鑑十二月二十一日甲寅、始臨萬
機、帝王編年記二十五日戊午、以藤原僖子爲女
御、後宮略傳、女院小傳、○增鏡不日、一代要記爲二十六日、
弘長元年辛酉、春正月六日戊辰、鎌倉雷、東鑑

十二日甲戌、盜裂孔廟七十二賢畫像、帝王編年
記二十三日乙酉、内大臣藤原基平罷左近
衞大將、一代要記、歴代皇紀、二月五日丁酉、權大納言
藤原基忠兼左近衞大將、公卿補任、一代要記、歴代皇紀、八
日庚子、立女御藤原佶子爲中宮、一代要記、後宮略傳、
女院小傳、○歴代皇紀爲正月、二十日壬子、改元、公卿補任、一代要記、
帝王編年記、皇代記、二十七日己未、左大臣藤原公相
罷、公卿補任、歴代皇紀、三月八日庚午、號準三宮義子
内親王曰和德門院、女院小傳、二十七日己丑、以

右大臣藤原實雄爲左大臣、内大臣藤原基
平爲右大臣、大納言藤原公親爲内大臣、公卿
補任、歴代皇紀、夏四月二十四日乙卯、關白兼平罷、
公卿補任、○歴代皇紀爲二十九日、二十八日己未、日有暈、東鑑
二十九日庚申、以前關白良實爲關白、公卿補任、
歴代皇紀、五代帝王物語、六月二十日庚戌、以藤原㻇子
爲女御、後宮略傳、女院小傳、○歴代皇紀爲十日、二十五日乙卯、
奉幣二十二社、禳辛酉厄、秋七月七日丁卯、
出雲杵築社鳴動、帝王編年記八月二十日庚戌、

政中宮爲皇后、一代要記、後宮略傳、女院小傳、○歷代皇紀、爲二十五日、立女御藤原瑄子爲中宮、歷代皇紀、後宮略傳、女院小傳、九月庚申朔、一院與大宮院東二條院俱幸興福寺、一代要記五日甲子、置赤山權現祭、歷代皇紀八日丁卯、一院還宮、一代要記二十三日壬午、內大臣藤原公親罷右近衛大將、歷代皇紀二十六日乙酉、大納言藤原冬忠兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、冬十一月七日乙丑、鎌倉雷、東鑑十二月九日丁酉、遣權中納言藤原隆行於伊

勢、奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例十五日癸卯、以前左大臣藤原公相爲太政大臣、公卿補任、歷代皇紀二十八日丙辰、熊野那智山火、帝王編年記

二年壬戌、春正月五日壬戌、宣仁門院崩、女院小傳○諸書葬闕、八日乙丑、避方忌于五條殿、帝王編年記二十日丁丑、內大臣藤原公親罷、二十六日癸未、以權大納言藤原基忠爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀、三月二十七日癸未、覲一院於鳥羽殿、一代要記、帝王編年記、園太曆康永三年、六月十三日丁酉、避祇園神輿于萬里小路殿、園太曆康永三年十四日戊戌、流左衛門尉大江賴重於太宰府、一代要記二十一日乙巳、日吉八王子社火、天台座主記○歷代皇紀爲五月、秋七月二日丙辰、太政大臣公相罷、公卿補任十三日丁卯、內大臣藤原基忠罷左近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、十六日庚午、大納言兼右近衛大將藤原冬忠轉左近衛大將、權大納言藤原通雅兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、冬十二月四日丙辰、卜定愷子內親王爲齋

宮、一代要記、類聚大補任○歷代皇紀係三年、

三年癸亥、春正月十七日戊戌、鎌倉有光如火、經日不滅、東鑑二月十三日癸亥、覲一院于龜山殿、十九日己巳、還宮、一代要記、歷代皇紀、園太曆文和三年、三月二十日庚子、左大臣藤原實雄罷、公卿補任秋七月二十七日乙巳、號準三宮綜子內親王曰月華門院、歷代皇紀、女院小傳、八月十二日己未、以前左大臣藤原實經爲左大臣、公卿補任、歷代皇紀、十四日辛酉、京師諸國大風、發屋傷稼、一代

要記、東鑑、九月十二日己丑、鎌倉雷、東鑑冬十一月二十二日己亥、前相模守北條時賴卒、歷代皇紀、東鑑、二十四日辛丑、熊野本宮火、歷代皇紀、帝王編年記、二十五日壬寅、月犯房第三星、東鑑是歲罷五節風流棚、歷代皇紀

文永元年甲子、春二月二十八日癸酉、改元、一代要記、皇年代略記、帝王編年記、公卿補任、三月二十三日戊戌、先是前權大納言藤原實藤殺延曆寺宮仕法師、僧徒請流實藤、又訴四天王寺別當職

永屬園城寺、朝議不決、至是僧徒自火講堂、四天王院、戒壇院、常行堂、法華堂等、一代要記、天台座主記、二十五日庚子、僧徒奉日吉神輿入皇居二條東洞院、及一院新院宮、官兵拒之、歷代皇紀、天台座主記、○皇紀今出河內相府記爲二十六日、今從座主記、一代要記、帝王編年記、僧徒棄神輿而走、一代要記、帝王編年記、二十六日辛丑、遷神輿於祇園社、二十七日壬寅、流藤原實藤於淡路、一代要記、天台座主記、四天王寺別當職、改屬延曆寺、歷代皇紀夏四月十三日丁巳、有羽蟻起日吉社、十五日己未、小比睿社寶殿震動、十七日辛酉、八王子寶殿震動、天台座主記十八日壬戌、神輿歸座、一代要記五月二日乙亥、延曆寺僧徒燒園城寺戒壇、堂塔房舍悉亡、一代要記、歷代皇紀、五代帝王物語、帝王編年記、天台座主記、六月二十六日己巳、彗星見東北、歷代皇紀、皇代略記、一代要記、連月不滅、五代帝王物語二十七日庚午、震金峯山藏王堂、災、帝王編年記秋七月十六日戊子、修熾盛光法於萬里小路殿、禳彗星、天台座主記二十日壬辰、

修五大虛空藏金輪法於禁中、禳天變疾疫、園太曆康永四年辛丑晦、春日山鳴動、八月六日丁未、卜春日社怪於軒廊、帝王編年記九月十日辛巳、前內大臣藤原家良薨、公卿補任冬十月二十六日丁卯、一院新院幸日吉社、二十七日戊辰、兩院還宮、一代要記、天台座主記、是歲北條時輔來居六波羅南方、將軍執權次第

二年乙丑、春正月辛未朔、日當蝕、雨不見、深心院關白記、歷代皇紀、帝王編年記、東鑑、二月十二日壬子、筑前

宮崎社火、歷代皇紀、帝王編年記、二十八日戊辰、祈晴、深心院關白記三月戊寅、鎌倉地震、東鑑夏四月十八日丁巳、關白良實罷、以左大臣藤原實經爲關白、公卿補任○一代要記、歷代皇紀竝以實經爲關白係閏月、五月七日甲辰、徙御大宮殿、帝王編年記冬十月二日丁卯、無品幸仁親王薨、皇胤紹運錄○歷代皇紀係九年五月二十日五日庚午、關白實經罷左大臣、以右大臣藤原基平爲左大臣、內大臣藤原基忠爲右大臣、大納言藤原冬忠爲內大臣、十一月藤原

冬忠罷左近衞大將、公卿補任、歷代皇紀、○冬忠罷大將日闕、八日壬寅、權大納言藤原家經兼左近衞大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、十二月十日甲戌、彗星見東方、五代帝王物語○歷代皇紀爲十一日、一代要記十二日、二十六日庚寅、續古今和歌集成、本書序、拾芥鈔、

三年丙寅、春二月乙丑朔、鎌倉雨泥、東鑑二十三日丁亥、修七佛藥師法於萬里小路殿、禳彗星、天台座主記三月五日戊戌、鎌倉雨雹、大如李、東鑑七日庚子、一院幸日吉社、歷代皇紀夏四月

二十七日庚寅、天皇一院新院幸蓮華王院、一代要記、五代帝王物語、六月十九日庚辰、召還前權大納言藤原實藤於淡路、公卿補任二十四日乙酉、鎌倉地震、秋七月三日癸巳、歲星犯五諸侯第三星、東鑑二十日庚戌、征夷大將軍宗尊親王爲北條時宗所逐、歸京師、一代要記、五代帝王物語、帝王編年記、東鑑、參取保曆間記○保曆間記爲二日、增鏡八日、歷代皇紀二十一日、二十四日甲寅、以惟康王爲征夷大將軍、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、五代帝王物語、○增鏡爲二十七日八月十八日戊

寅、大風雨、明堂陰陽寮守護社延曆寺諸堂多壞、西國被害殊甚、增鏡○本書爲四年、今從天台座主記、一代要記、冬十一月十六日甲辰、一院幸春日社、五代帝王物語○還宮日闕

四年丁卯、春正月十九日丁未、內大臣藤原冬忠罷、二月二十三日辛巳、權大納言藤原家經爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀、夏五月丁亥朔、日當蝕、雨不見、十五日辛丑、祈晴丹生貴布禰、十九日乙巳、盜入大學寮、裂孔子十哲畫像、

遣使檢之、二十三日己酉、修如法經十種供養、原輕繫、六月五日辛酉、祈晴、十三日己巳、避方忌于三條坊門殿、十七日癸酉、祈晴、秋八月四日戊午、卜吉田社怪於軒廊、吉續記十三日丁卯、卜鷺集内侍所、十九日癸酉、知仁親王薨、帝王編年記○皇胤紹運錄爲二十日薨二十七日辛巳、祈晴、吉續記九月十四日戊戌、一院幸四天王寺、帝王編年記○還宮日闕冬十月十一日甲子、免輕囚、吉續記十二日乙丑、前太政大臣公相薨、公卿補任、

帝王編年記、增鏡、十二月九日辛酉、關白實經罷、以左大臣藤原基平爲關白、公卿補任、歷代皇紀、攝關傳、

五年戊辰、春正月十四日丙申、京師大火、一代要記二月六日丁亥、北條時宗奏、蒙古因高麗求通好、高麗奉書、附使獻方物、朝議草荅書、時宗以蒙古書辭不遜、抑而不遣、却其使、五代帝王物語○一代要記爲閏正月五日、日蓮書閏正月十八日、二十五日丙午、奉幣二十二社、禱弭蒙古難、三月二十八日己卯、卜住吉社怪於軒廊、帝王編年記夏四月

十三日甲午、以蒙古難、遣權大納言藤原通雅於伊勢、奉宸筆宣命及幣大神宮、五代帝王物語、參取伊勢公卿敕使例、五月四日甲寅、地大震、六日丙辰、修天曹地府祭、禳地震、吉續記、帝王編年記、七日丁巳、修北斗法、十八日戊辰、祈晴、六月五日乙酉、震法勝寺九層塔、十三日癸巳、避祇園神輿于萬里小路殿、關白基平上意見十二條、十五日乙未、還宮、二十二日壬寅、遣使肩列池上山階大内山圓宗寺法住寺大原金原

陵、告蒙古難、吉續記二十五日乙巳、以皇子世仁爲親王、吉續記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、○增鏡爲二十六日秋七月七日丙辰、讀孔雀經于神泉苑祈雨、十七日丙寅、讀經清瀧龍穴、吉續記十八日丁卯、彗星見北方、歷代皇紀八月十五日甲午、詩歌合、吉續記二十五日甲辰、立世仁親王爲皇太子、吉續記、五代帝王物語、歷代皇紀、帝王編年記、以右大臣藤原基忠爲傳、公卿補任、攝關傳、冬十月五日壬午、一院薙髮、增鏡、雅言記、五代帝王物語、十一月九日丙辰、關白基

平辭左大臣、公卿補任十一日戊午、先是梶井門徒有所訴、不許、及一院將受戒於青蓮院、梶井門徒怒、至是襲青蓮院門徒、奪日吉聖眞子客人神輿、一代要記十九日丙寅、關白基平薨、公卿補任、五代帝王物語、○歷代皇紀係十二月、二十七日甲寅、以右大臣藤原基忠爲左大臣、內大臣藤原家經爲右大臣、權大納言藤原通雅爲內大臣、吉續記○公卿補任、一代要記、歷代皇紀爲十二月二日、十二月六日壬午、號中宮曰今出川院、一代要記、貴女鈔、女院小傳、十日

丙戌、以左大臣藤原基忠爲關白、公卿補任、攝關傳、○歷代皇紀爲二十日二十七日癸卯、北條時宗沒、梶井青蓮院兩門跡、付於天台座主慈禪、參取一代要記、天台座主記、

六年己巳、春正月十日丙辰、梶井青蓮院門徒奉八王子客人等神輿入京、訴座主慈禪、遣兵禦之、一代要記○今出河內相府記爲九日、帝王編年記十九日、十九日乙丑、內大臣藤原通雅罷右近衞大將、公卿補任、歷代皇紀、二月八日甲申、大宮院東二條院詣春日社、帝王編年記十六日壬辰、復梶井青蓮院兩門跡、二十日丙申、神輿歸座、一代要記三月丙午朔、月華門院崩、女院小傳、增鏡、○後宮略傳係六月、諸書葬闕、關白基忠罷左大臣、二十七日壬申、權大納言藤原師忠兼右近衞大將、公卿補任、歷代皇紀、攝關傳、夏四月二十三日戊戌、以右大臣藤原家經爲左大臣、內大臣藤原通雅爲右大臣、大納言源通成爲內大臣、公卿補任、一代要記、○歷代皇紀爲十二日、六月二日丙子、歲星熒惑犯太微右執法、五代

帝王物語、日據帝王編年記、七日辛巳、前太政大臣實氏薨、公卿補任、帝王編年記、一代要記、秋九月四日丁未、法皇新院大宮院東二條院幸四天王寺、帝王編年記先是蒙古使黑的殷弘奉書來求答書、對馬島拒而不納、蒙古虜島人二人而去、五代帝王物語、使者名據元史、是月令高麗送還之、關東評定傳冬十一月九日庚戌、內大臣源通成罷、公卿補任○一代要記爲十日二十八日己巳、以權大納言藤原師忠爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、攝關傳、

七年庚午、春正月二日壬寅、安藝嚴島社出雲杵築社火、参取帝王編年記、一代要記、三月十四日癸丑、行幸春日社、一代要記、歷代皇紀、夏四月二十日己丑、東寺塔火、一代要記、帝王編年記、是月天皇患瘧、宮殿多怪、五代帝王物語、五月二十六日乙丑、奉幣石清水宮、謝香椎廟火、廢朝五日、帝王編年記、○香椎廟火、月日無所考、六月十三日辛巳、避祇園神輿于萬里小路殿、十五日癸未、還宮、園太曆康永三年、秋八月十五日壬午、詩歌合、十六日癸未、卜賀茂

社怪、吉續記、二十一日戊子、五條殿火、吉續記、歷代皇紀、皇代略記、帝王編年記、天皇避之萬里小路殿、廢朝三日、吉續記、九月七日甲辰、從御二條殿、園太曆文和二年、丁卯晦、詩歌合、帝王編年記、閏月九日丙子、詩歌合、吉續記、冬十月七日癸卯、如龜山殿、臨法皇宸筆法華八講、歷代皇紀、五代帝王物語、十一月乙未晦、前關白良實薨、公卿補任、攝關傳、八年辛未、春三月十日癸酉、右大臣藤原通雅罷、公卿補任、二十七日庚寅、以内大臣藤原師忠爲右大臣、權大納言藤原師繼爲内大臣、公卿補任、一代要記、夏四月十五日戊申、大風、延曆寺常行堂法華堂火、歷代皇紀、五月七日己巳、避方忌于六條殿、園太曆康永三年、六月旱、僧日蓮書、秋八月壬辰朔、日有食之、九月二日癸亥、北條時宗奏、高麗奉書、告蒙古圖來寇、五日丙寅、熒惑犯天江星、十五日丙子、法皇幸四天王寺、○一代要記作十六日、二十一日壬午、熒惑犯天江星、吉續記、庚寅晦、法皇還宮、一代要記、冬十月二十三日

癸丑、北條時宗奏、蒙古使趙良弼與高麗使俱來求通好、寫國書進之、不報、吉續記、不報據五代帝王物語、○五代帝王物語爲九月事、十一月二十二日壬午、修熾盛光法、祈弭蒙古難、吉續記、十二月十六日丙午、遣權中納言藤原公守告蒙古難於大神宮、伊勢公卿敕使例、参取吉續記、○吉續記作十一日、十九日己酉、以皇姪滿仁爲親王、仁和寺御傳、○本書一說云、在十年、是月北條義宗來居六波羅北方、關東評定傳、五代帝王物語、九年壬申、春正月十一日庚午、法皇違豫、十

六日乙亥、以法皇疾罷國栖奏、二十六日乙酉、奉幣九社、禱法皇疾、帝王編年記二月十一日庚子、如龜山殿、視法皇疾、十三日壬寅、還宮、增鏡十五日甲辰、北條時宗殺六波羅南方北條時輔、一代要記、五代帝王物語、十七日丙午、法皇崩、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、增鏡、十九日戊申、葬後嵯峨天皇、帝王編年記、皇年代略記、秋八月九日甲午、皇后崩、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、後宮略傳、女院小傳、十三日戊戌、葬京極院、後宮略傳、一代要記、

十年癸酉、春正月乙卯朔、日有食之、吉續記十六日庚午、彗星見西方、一代要記、歷代皇紀、二月十四日丁酉、前太政大臣實基薨、公卿補任三月二十二日乙亥、客星見、歷代皇紀夏四月十二日甲午、右大臣藤原師忠罷右近衛大將、權中納言藤原家基兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、二十三日乙巳、詔曰、我朝之言聖代者、莫不歌延喜之治、稱天曆之政、然猶屈明問化、焦思於淳素之風、虛心求規、側目於守文之日、朕以不敏、謬受洪緒、譬猶欲涉淵水、未知所濟、爰彗客春見、示奇合之徵、坤儀夏震、覿厚德之應、是朕政之有闕歟、若民心之未嗛歟、況頃者陰陽失節、水旱不時、雖有帑藏之名、更無貢賦之實、庶官常乏榮辱之主、兆民併爲游惰之輩、但行帝道則帝、行王道則王、無謂澆訛之時、聚啓議之、無謂疲弊之國、勠力救之、古不云乎、天時不如地利、地利不如人和、宜令公卿大夫重官外國五位已上、職居官長、秀

才明經、課試及第、名爲儒士者、各上封事、極陳得失、凡號令之不便於時、言而無諱、政化之有益於國、犯而勿隱、庶得忠讜、以匡政術、吉續記五月五日丙辰、關白皇太子傅基忠罷、以前右大臣藤原忠家爲關白、公卿補任、歷代皇紀、攝關傳、十四日乙丑、修七佛藥師法、禳天變、天台座主記閏月十九日己亥、以左大臣藤原家經兼皇太子傅、公卿補任六月十八日戊辰、讀經神泉苑、祈雨、二十四日甲戌、讀經清瀧龍穴、秋七

月十日己丑、修請雨經法于神泉苑、十二日辛卯、避方忌于龜山殿、（吉續記還宮日闕）○自閏月不雨、至是月、（歷代皇紀、帝王編年記、）八月二日辛亥、避方忌于龜山殿、三日壬子、還宮、（吉續記）十六日乙丑、前左大臣藤原實雄薨、（公卿補任、吉續記、）冬十月十二日庚申、京師火、（一代要記、歷代皇紀、）延及六條殿六條院若宮長講堂、（一代要記、帝王編年記、）十五日癸亥、修尊星王法、禳地震、（增鏡）二十日戊辰、皇居大炊御門殿火、（一代要記、歷代皇紀、寺社雜事記、增鏡、）

十一年甲戌、春正月二十五日癸卯、遷押小路殿、（增鏡）二十六日甲辰、天皇讓位于皇太子、（歷代皇紀、帝王編年記、皇胤紹運錄、增鏡、）上尊號曰太上天皇、（皇年代略記、皇代略記、）稱新院、及伏見帝登極、改稱中院、（一代要記）正應二年九月、薙髮、（吉續記、一代要記、皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代略記、○增鏡爲三年）法名金剛眼、（御製南禪寺梁牌、法皇外紀、仁和寺諸記鈔、○增鏡、眼作覺、諸書或作源、）嘉元元年四月、受戒東大寺、（皇年代略記、興福寺略年代記、）三年九月十五日己未、法皇崩于龜山殿、年五十七、（皇胤紹運錄、龜山帝御葬禮記、一代要記、皇代略記、）火葬、分藏御骨於淨金剛院、法華堂、南禪寺、金剛峯寺、（文應皇帝外紀、法華堂據增鏡、）遺詔稱龜山院、（皇代略記、皇年代略記、）帝天資英銳、多材藝、大炊御門殿火、大宮院皇太子倉皇出宮、求門鑰不得、火已及車蓋、帝雅多力、足蹋開之、皆得無恙、禪位之後、聽政於院中者十餘年、弘安中、蒙古來寇、帝深憂之、御書願文、奉大神宮、祈以身代國難、（增鏡）伏見帝之立也、固非帝之本意、是以不樂涉日、適狂賊淺原爲賴

入犯宮闈、時論疑帝之所使、帝甚不安、賜誓書北條貞時以白焉、（增鏡、異本太平記、）帝深信佛法、最崇禪法、捨禪林寺離宮、創南禪寺、御製願文梁牌、（增鏡、普門禪師行狀、）嘗和達磨忌偈曰、江浪激奔嵩雪寒、栖栖南北不安閒、當時若得親相見、不在魏梁庸主間、（法皇外紀、）

大日本史卷之六十二終

大日本史卷之六十三

本紀第六十三

權中納言從三位源光圀修

男權中納言從三位綱條校

玄孫權中納言從三位治保重校

後宇多天皇

後宇多天皇諱世仁、龜山帝第二子也、皇年代略記、皇代略記、皇代記、五代帝王物語、○一代要記、帝王編年記、歷代皇紀爲第一子、母京極院、文永四年十二月癸丑朔生、皇胤紹運錄、歷

代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、五年六月爲親王、八月爲皇太子、一代要記、皇年代略記、皇代略記、增鏡、六年十月著袴、十年十二月始讀孝經、皇年代略記、皇代略記、十一年正月二十六日甲辰、皇太子受禪於二條殿、皇胤紹運錄、一代要記、毘沙門堂所藏記、以關白忠家攝政、左大臣兼左近衛大將藤原家經右大臣、藤原師忠、內大臣藤原師繼權大納言兼右近衛大將藤原家基竝如故、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二月二日己酉、尊龜山天皇曰太上天皇、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、三月二十六日癸卯、天皇卽位於太政官廳、時年八歲、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、太政官廳據皇年代略記、天祚禮祀職掌錄、○東寺長者補任作二十八日、興福寺略年代記二十三日、夏四月十二日戊午、關東大風殺木、關東評定傳、六月二十日甲子、攝政忠家罷、公卿補任、以左大臣藤原家經攝政、帝王編年記、公卿補任、興福寺略年代記、○一代要記、歷代皇紀作二十一日、秋七月十三日丁亥、修水天供、天台座主記、十七日辛卯、攝政家經罷左近衛大將、公卿補任、一代要記、○歷代皇紀係八月三十日、癸卯晦、前征夷

大將軍一品中務卿宗尊親王薨、皇胤紹運錄、歷代皇紀、將軍執權次第、○據長曆七月小盡、而帝王編年記作三十日、一代要記係八月朔、並誤、九月十日癸未、權大納言藤原忠教兼左近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、冬十月五日丁未、蒙古來寇對馬、一代要記、皇年代略記、保曆間記、關東評定傳、八幡愚童訓、東寺長者補任、日蓮注畫讚、○帝王編年記爲三日、興福寺略年代記六日、守護代右馬允惟宗助國死之、十四日丙辰、寇壹岐、守護代平景隆死之、八幡愚童訓、日蓮注畫讚、十九日辛酉、寇筑前、一代要記、日蓮注畫讚、掠沿海郡邑、日蓮注畫

讃、二十日壬戌、太宰府兵拒之、不利、既而賊船二百餘漂歿、餘賊宵遁、（參取歷代皇紀、一代要記、東寺長者補任、○關東評定傳爲二十四日蒙古侵太宰府敗北、日蓮注畫讃、二十九日大戰、八幡愚童訓、十一月蒙古引歸、）二十二日甲子、御禊、（皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇代記、增鏡、○皇年代略記、興福寺略年代記作二十三日誤、）十一月七日己卯、修金輪法於延曆寺、（天台座主記）奉幣十六社、十三日乙酉、奉幣三社、竝祈平蒙古難、（帝王編年記）十九日辛卯、大嘗、（皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇代記、皇年代略記、）二十日壬辰、以蒙古將復來

寇罷五節、（一代要記、增鏡、）二十二日甲午、罷清暑堂神樂、猶修迴立殿節會、（增鏡）十二月七日己酉、修七佛藥師法于延曆寺根本中堂、禳蒙古難、（天台座主記）十四日丙辰、卜賀茂社石清水宮鳴動于軒廊、（帝王編年記）前右大臣藤原公基薨、（公卿補任、一代要記、）二十九日辛丑、先是盜發柏原山陵、至此遣使檢之、（仁部記）

建治元年乙亥、春二月六日丁未、卜賀茂社鳴動於軒廊、（帝王編年記）十一日壬子、鷹司院崩、（仁部記、女院小傳、園太曆貞和二年○一代要記作文永十一年十一月十一日誤、諸書葬闕、）列見罷宴、（園太曆貞和二年）三月二十八日己亥、號準三宮藤原位子曰新陽明門院、（歷代皇紀、帝王編年記、○貴女鈔作二十四日、一代要記係四月不日、謚號雜記、前年三月二十四日、）夏四月十三日甲寅、六條殿成、新院移御焉、（歷代皇紀）十五日丙辰、遣內大臣藤原師繼於伊勢、奉幣大神宮、（伊勢公卿敕使例、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、）蒙古改國號曰元、使其臣杜世忠、何文著、撒都魯丁等、至長門室津、（關東評定傳）二十三日甲子、

慶長講堂、（歷代皇紀、帝王編年記、一代要記、）二十五日丙寅、改元、（一代要記、歷代皇紀、東寺長者補任、園太曆文和元年、）五月十六日丙戌、興福寺僧徒以訴事遷春日神木於移殿、（興福寺略年代記、移殿據一代要記、○要記作十五日）六月庚子朔、日有食之、（東寺長者補任）九日戊申、前攝政右大臣忠家薨、（公卿補任、一代要記、攝關傳、）二十二日辛酉、興福寺僧徒遷神木於金堂前、（一代要記、興福寺略年代記、）秋七月三日辛未、罷法勝寺八講、（園太曆貞和元年）八月二十日戊午、春日神木歸座、（興福寺略年代記）

二十七日乙丑、以前右大臣藤原通雅爲太政大臣、公卿補任、歷代皇紀、帝王編年記、園太曆觀應元年、九月七日甲戌、北條時宗斬元使杜世忠何文著等五人於鎌倉、○帝王編年記作六日、保曆間記係二年、減省公私用費、權停京師大番兵、選武幹士、分遣鎭西諸國、以備元寇、關東評定傳冬十月二十一日戊午、攝政左大臣家經罷、以前關白兼平攝政、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、二十七日甲子、以皇從兄熙仁爲親王、一代要記、帝王編年記、皇代記、皇代略記、○歷代皇紀、皇

年代略記爲十四日、十一月五日辛未、立熙仁親王爲皇太子、一代要記、歷代皇紀、皇胤紹運錄、帝王編年記、皇代記、○增鏡作十月五日誤以右大臣藤原師忠爲傳、公卿補任、攝關傳、二十三日己丑、遣使柏原山陵、是月北條時宗以北條實政爲筑紫探題、以備元寇、帝王編年記十二月八日甲辰、內大臣藤原師繼罷、公卿補任、一代要記、二十二日戊午、以右大臣藤原師忠爲左大臣、權大納言藤原忠教爲右大臣、權大納言藤原家基爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、是月北條時國來居六波羅南方、帝王編年記、平氏系圖、○將軍執權次第係三年

二年丙子春正月二十八日甲午、新院幸春日社、二十九日乙未、還宮、一代要記三月二十九日甲午、太政大臣通雅罷、公卿補任、園太曆觀應元年、閏月五日庚子、修孔雀經法禳元寇、孔雀經御修法記二十一日丙辰、三條坊門殿火、歷代皇紀、皇年代略記、園太曆文和二年、夏五月四日戊戌、前太政大臣通雅薨、公卿補任、一代要記、○園太曆觀應元年作八日六月十四日丁

丑、祇園御靈會神人與近衞行淸爭鬪、○行淸姓闕燒三條篝屋、棄神輿而去、上皇敕還之本社、天台座主記、參取一代要記、冬十二月十四日甲戌、以攝政兼平爲太政大臣、職仍舊、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十三日癸未、避方忌于六條殿、園太曆貞和三年

三年丁丑春正月三日癸巳、天皇加元服、一代要記、帝王編年記、皇年代略記、皇代略記、增鏡、二十二日壬子、覲新院於龜山殿、一代要記、歷代皇紀、園太曆文和三年、增鏡、泛舟大

井川放鸕鷀、增鏡二十四日甲寅、還宮、一代要記、園太曆文和三年、祈弭元寇於十二社、始自是月、月一社、興福寺略年代記二月二十一日庚辰、右大臣藤原忠教罷左近衛大將、○歷代皇紀作二十二日夏四月二十六日乙酉、攝政兼平罷太政大臣、公卿補任○一代要記作二十八日五月八日丙申、春日神木還座、興福寺略年代記、歸座闕、今無所考、○秋七月十四日辛丑、京師大火、延及六條殿、參取一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、興福寺略年代記、園太曆文和二年、十五日壬寅、常盤井殿火、一代

要記、歷代皇紀、園太曆文和二年、二十六日癸丑、震興福寺、災、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、興福寺略年代記、○皇年代略記、皇代略記係二年誤、八月戊午朔、遣左大辨藤原經長檢之、帝王編年記冬十月丙辰朔、日當食、陰雨不見、東寺長者補任十四日己巳、幸嵯峨第、○本書云準后嵯峨第、不載其名、今不可考、十六日辛未、還宮、園太曆文和三年十二月六日庚申、以自秋多疫、轉讀仁王經於法勝寺、園太曆貞和元年十九日癸酉、皇太子加元服于清涼殿、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、清涼殿據增鏡、二十九日癸

未、敕五畿七道、轉讀仁王經、禳疫、園太曆貞和元年弘安元年戊寅、春正月、北條時村來居六波羅北方、關東評定傳、將軍執權次第、二月二十五日戊寅、内大臣兼右近衛大將藤原家基轉左近衛大將、權大納言源通基兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、二十九日壬午、改元、一代要記、帝王編年記、興福寺略年代記、園太曆貞和元年、夏四月十日癸亥、觀競馬、帝王編年記五月十二日甲午、延曆寺僧徒奉日吉十禪師八王子客人三神輿、詣闕、訴園城寺

金堂準御齋會、棄神輿於省中而去、一代要記、參取歷代皇紀、帝王編年記、十五日丁酉、收園城寺宣旨、一代要記十六日戊戌、日吉神輿歸座、帝王編年記、○一代要記作十五日十八日庚子、使一百僧慶等身十一面觀音像於興福寺、禳疫、興福寺略年代記二十六日戊申、卜疫、軒廊、園太曆貞和元年二十七日己酉、以奈良僧徒訴、流前參議藤原賴親於安藝、公卿補任、○一代要記作十三日六月二十二日甲戌、奉幣二十二社、禳疫、園太曆貞和元年秋八月二十三日甲

戊、内大臣藤原家基罷左近衛大將、〔公卿補任、一代要記、○歷代皇紀作二十四日〕是月萬里小路殿成、新院徙御焉、〔增鏡〕冬十月二十一日辛未、新院幸春日社、〔一代要記、興福寺略年代記〕二十三日癸酉、還宮、〔一代要記〕閏月十三日壬辰、二條殿火、〔一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、〕天皇避之萬里小路殿、〔增鏡〕十二月七日乙酉、以攝政兼平爲關白、〔公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、〕九日丁亥、啓仁親王薨、〔皇胤紹運錄、一代要記、歷代皇紀、〕二十七日乙巳、續拾遺和歌集成、〔敕撰次第、

尊卑分脈、增鏡、拾芥鈔係二年、○〕是月禁車服僭侈、〔增鏡〕

二年己卯春正月十日戊午、權大納言藤原兼忠兼左近衛大將、〔公卿補任、一代要記、〕夏五月四日庚戌、石清水神人奉神輿入京、請罷殺神人者、遣兵禦之、棄神輿於五條東洞院而去、敕遷之東寺八幡宮、〔仁部記、帝王編年記、善法寺文書、東寺雜鈔、〕廢朝五日、〔仁部記、歷代皇紀、〕七日癸丑、以石清水訴奪檢非違使別當藤原親朝官、〔公卿補任、歷代皇紀、○一代要記作五日〕八日甲寅、石清水神輿歸座、〔仁部記、一代要記、善法寺文書、○帝王編年記係九日〕儀準放生會、〔仁部記〕二十四日庚午、奉幣石清水宮、〔善法寺文書〕六月二日戊寅、赦藤原賴親、〔公卿補任〕二十五日辛丑、斬元將夏貴范文虎使于博多、〔關東評定傳〕冬十月北條時宗遣兵筑紫備元寇、〔帝王編年記〕十二月十八日辛卯、敕京畿諸國、每年自八月一日至十五日、嚴禁殺生、神社供祭者不在制限、〔鳩嶺雜錄〕是歲造興福寺、〔一代要記、興福寺略年代記、〕

三年庚辰春三月四日乙巳、新院幸日吉社、

〔一代要記、歷代皇紀、〕五日丙午、還宮、十四日乙卯、長谷寺火、〔一代要記〕夏五月十二日壬子、行幸北白川殿、〔帝王編年記〕十六日丙辰、長谷水暴溢、漂溺居民、六月二十四日甲午、延曆寺僧徒聞慶園城寺金堂將準御齋會、率衆攻之、與衛兵戰、〔一代要記〕秋七月十一日庚戌、前内大臣藤原家基薨、〔公卿補任、一代要記、〕九月十二日辛亥、繼仁親王薨、〔歷代皇紀〕二十四日癸亥、筥碕八幡宮火、〔歷代皇紀、皇年代略記、〕冬十月二十八日丙申、鎌倉大火、〔關東

評定傳、園太暦、貞和五年、十一月六日甲辰、奉幣石清水宮、告筥碕宮火、帝王編年記二十七日乙丑、毘沙門堂火、歷代皇紀

四年辛巳、春二月十六日壬午、新院幸熊野、一代要記、帝王編年記、三月九日乙巳、還宮、一代要記夏四月九日甲戌、前内大臣藤原師繼薨、公卿補任、一代要記、五月二十一日丙辰、元兵大舉來寇、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、敕諸寺誦經禱寇平、增鏡六月四日戊辰、讀經於石清水宮、八幡愚童訓五日己巳、

元兵侵太宰府、歷代皇紀十三日丁丑、破元兵、殺獲千餘人、八幡愚童訓是日修孔雀經法、東寺長者補任十八日壬午、轉讀最勝王經百部於石清水宮、二十日甲申、新院詣石清水宮、精禱一夜、使從臣奏神樂、太宰府言、自本月六日至十三日、與元兵日夜會戰、殺千餘人、賊兵少卻、二十三日丁亥、使百僧轉讀法華經一千部於石清水宮、限十日、秋七月甲午朔、轉讀大般若經於石清水宮、及禱於七社、八幡愚童訓十

一日甲辰、新院幸春日社、十三日丙午、還宮、十九日壬子、又幸日吉社、二十日癸丑、還宮、一代要記二十六日己未、會持戒僧數百口於石清水宮、限七日夜、誦尊勝陀羅尼、一代要記、歷代皇紀、八幡愚童訓、轉讀大般若經、歷代皇紀閏月甲子朔、日當食、陰雲不見、東寺長者補任是日大風、有黑雲覆石清水宮、有白羽鳴鏑、出宮西去、增鏡二日乙丑、遣大納言藤原經任於伊勢、奉幣大神宮、祈弭元寇、伊勢公卿敕使例、一代要記、禱弭寇據帝王編年記、增鏡、四日

丁卯、使六百僧轉讀大藏經於石清水宮三日、一代要記、〇八幡愚童訓爲五日十四日丁丑、太宰府驛奏、本月朔、大風、元軍艦悉歿於肥前鷹島、參取一代要記、歷代皇紀、八幡愚童訓、皇年代略記、皇代略記、保暦間記、增鏡、十四日據皇紀、鷹島據愚童訓、及關東評定傳〇要記太宰府驛奏爲九日八月北條貞時流北條時光於佐渡、參取保暦間記、北條系圖、冬十月四日丙申、興福寺僧徒奉春日神木入京、訴石清水神人傷春日神人、歷代皇紀使兵士禦之、僧徒棄神木而去、帝王編年記、興福寺略年代記、六日戊戌、

移之法成寺、一代要記、帝王編年記、十五日丁未、金峯山僧徒奉藏王神輿入京、置之法成寺、一代要記○帝王編年記作十八日十一月十八日庚辰、以神木入京、罷五節設平座、帝王編年記

五年壬午、春正月壬戌朔、以神木入京、元會不御殿、園太暦貞和元年不奏吹笛、七日戊辰、白馬節、垂簾徹樂、十四日乙亥、罷御齋會、帝王編年記十六日丁丑、蹈歌節不御殿、園太暦貞和元年是月罷敘位、園太暦文和元年三月己丑晦、修五壇法七

日、一代要記夏大疫、園太暦貞和元年秋七月戊午朔、日有食之、東寺長者補任三日庚申、罷法成寺八講、園太暦貞和三年冬十月二十五日辛亥、延暦寺僧徒遷八王子十禪師客人三神輿於中堂、訴四天王寺別當職復屬園城寺、一代要記、歷代皇紀、十一月二十六日壬午、常盤井殿火、一代要記、歷代皇紀、園太暦文和二年、十二月十四日庚子、以興福寺訴流因幡守賴重於越後、一代要記、賴重姓闕○十六日壬寅、毘沙門堂火、歷代皇紀十九日乙巳、以興福寺訴、流權中納言源具房於安藝、前權中納言源資平於越前、公卿補任、一代要記、帝王編年記、彈正忠職直於土佐、一代要記、職直姓闕○二十日丙午、石清水神人以流源資平源具房、棄神輿於大渡、帝王編年記二十一日丁未、春日神木歸座、一代要記、歷代皇紀、皇代略記、興福寺略年代記、

六年癸未、春正月六日辛酉、延暦寺僧徒以不聽祇園赤山京極寺訴、奉祇園京極寺八王子十禪師客人神輿入京、參取帝王編年記、公卿補任、歷

代皇紀、皇代略記、園太暦觀應元年、一代要記、今出河内相府記作五日、○遣六波羅兵禦之、增鏡僧徒闖入禁闕、納諸神輿於紫宸清涼等殿、一代要記、增鏡、截御簾、破年中行事障子、一代要記天皇避之西小御所、園太暦觀應元年御腰輿幸内大臣藤原家基近衛第、歷代皇紀、帝王編年記、尋幸故内大臣源通成三條坊門第、以有狐妖、遷御萬里小路殿、增鏡遷神輿於祇園社、帝王編年記乙酉晦、以頃年疾疫、敕五畿七道社寺、轉讀仁王經三日、園太暦貞和元年是月以日吉

神輿入京罷敍位、圓太曆文和二年○本書作神木、今訂之、二月二十五日庚戌、還幸大炊御門殿、圓太曆觀應元年是月以日吉神輿入京、罷仁王會御讀經、一代要記三月十一日丙寅、召還源具房源資平、公卿補任、一代要記、夏五月壬午晦、卜霖及疫於軒廊、圓太曆貞和元年六月罷祇園會及走馬、一代要記二十日壬寅、奉幣伊勢已下五社、二十二日甲辰、轉讀大般若經於紫宸殿、以禳疫、圓太曆貞和元年秋七月三日乙卯、罷法勝寺八講、一代要記八月罷釋奠宴穩座竪義及御讀經、帝王編年記、御讀經據一代要記、九月四日乙卯、安嘉門院崩、一代要記、女院小傳、圓太曆貞和二年、○諸書葬闕冬十月二十一日辛丑、徙二條東洞院新宮、歷代皇紀、皇年代略記、○一代要記爲二十日、日吉神輿歸座、十二月七日丁亥、新院幸春日社、留七日、一代要記

七年甲申、春正月十五日乙丑、前大納言源基具準大臣、公卿補任二月二十七日丙午、廢宇治河網代、帝王編年記二十八日丁未、號準三宮

悅子內親王曰延政門院、歷代皇紀、院號定部類記引藤原經長記、三月十八日丁卯、新院幸四天王寺、二十二日辛未、還宮、帝王編年記○一代要記作二十日幸住吉社、二十五日還宮、夏四月四日壬午、相模守北條時宗卒、帝王編年記、關東評定傳、保曆間記、興福寺略年代記、秋七月十八日甲午、前關白左大臣實經薨、公卿補任、一代要記、興福寺略年代記、冬十二月、北條兼時來居六波羅南方、將軍執權次第

八年乙酉、春二月癸酉晦、車駕與大宮院臨北山第、賀準三宮藤原貞子壽九十、參取歷代皇紀、一代要記、圓太曆文和三年、增鏡、○皇年代略記作三月四日、蓋誤、三月甲戌朔、還宮、圓太曆文和三年、增鏡、十八日辛卯、松尾社火、一代要記、歷代皇紀、○皇年代略記作十一日夏四月二十五日丁卯、以前關白左大臣基忠爲太政大臣、公卿補任、歷代皇紀、帝王編年記、秋七月二十一日辛卯、慶延曆寺大講堂、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、八月十九日己未、立姈子內親王爲皇后、女院小傳、後宮略傳、冬十月十四日癸丑、新院新陽明門院幸四天王寺、

住吉社、參取帝王編年記、一代要記、二十六日乙丑、還宮、一代要記十一月十七日乙酉、北條貞時殺前陸奧守安達泰盛、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、保曆間記、

九年丙戌、春二月六日癸卯、安嘉門院崩、歷代皇紀、女院小傳、○諸書葬闕三月二十七日甲午、行幸春日社、一代要記、興福寺略年代記、至美豆頓宮、雷電雨雹、大如橘子、從官失儀、○諸書還宮日闕夏六月十二日戊申、新院幸日吉社、大風雨水、一代要記冬十月二十五日戊午、以皇子邦治爲親王、一代要記、

皇年代略記、皇代記、皇代略記、十一月十九日壬午、西大寺僧叡尊慶宇治橋、本院新院臨焉、一代要記二十七日庚寅、興福寺僧徒遷春日神木於移殿、訴造寺後期、帝王編年記

十年丁亥、春正月二日癸巳、觀新院、一代要記二十四日乙卯、奉幣大神宮、謝月讀宮壞、帝王編年記三月五日乙酉、夜有光怪、長五尺許、從西南飛向東南、夏五月霖雨洪水、以興福寺僧徒不奉命、罷最勝講、一代要記六月五日甲子、大納言源通基罷右近衛大將、征夷大將軍中納言源惟康兼右近衛大將、一代要記、歷代皇紀、公卿補任、○帝王編年記作六日誤十五日甲戌、卜大神宮心柱及感神院事、鴨社迴廊火、粟田宮樹僵於軒廊、帝王編年記秋八月十一日己巳、關白兼平罷、以左大臣藤原師忠爲關白、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、十三日辛未、太政大臣基忠罷、公卿補任、歷代皇紀、冬十月四日辛酉、以中納言兼右近衛大將源惟康爲親王、征夷大將軍如故、公卿補任、一代要記、大納

言源通基兼右近衛大將、歷代皇紀、一代要記、二十一日戊寅、天皇禪位於皇太子、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、皇代略記、皇代記、上尊號曰太上天皇、伏見院御記、皇胤紹運錄、皇年代略記、稱新院、居常磐井殿、或御大覺寺、增鏡及後二條帝登祚、稱一院、預聞政事、神皇正統記、增鏡、稱一院據繼塵記、增鏡、德治二年七月、薙髮、法名金剛性、皇胤紹運錄、一代要記、皇代記、皇年代略記、十一月受戒東大寺、一代要記、歷代皇紀、興福寺略年代記、東寺長者補任、屛絕婦女、增鏡延慶元年正月、灌頂東寺、受眞言輿秘於

仁和寺僧禪助、增鏡、仁和寺御傳、興福寺略年代記、築一堂于大覺寺側、謝絕人事、覃思密教、增鏡、躬爲大阿闍梨、神皇正統記、後使皇子性圓法親王住大覺寺、永傳眞言之流、增鏡、又徵元僧一寧、屢問禪要、及死贈國師號、親灑宸奎、贊其像、命前權大納言源有房作文祭之、濟北集、及後醍醐帝卽位、徙居恒明親王大炊御門第、增鏡、專聽萬機三年矣、神皇正統記、增鏡、以羣臣奏請、動妨薰修、遣大納言藤原定房、諭北條高時、不復預焉、

增鏡、參取諸門跡譜、正中元年六月二十五日己卯、崩于大覺寺、年五十八、皇胤紹運錄、一代要記、皇代記、○皇年代略記、作二十六日、葬於蓮華峯寺、遺詔稱後宇多院、皇年代略記、帝好學、博綜衆藝、時論謂帝文學亞於後三條帝、神皇正統記、嘗詔前權大納言藤原爲世、撰新後撰和歌集、續千載和歌集、拾芥鈔、尊卑分脈、冷泉家系圖、

大日本史卷之六十三終

大日本史卷之六十四

本紀第六十四

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

伏見天皇

伏見天皇諱熈仁、後深草帝第二子也、(歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、○一代要記、帝王編年記、神皇正統記作第一子、誤、)母玄輝門院、文永二年四月二十三日壬戌生、(歷代

皇紀、帝王編年記、皇年代略記、○一代要記、皇代記作七月十六日、)八年八月著袴、(皇年代略記、皇代略記、)建治元年十月爲親王、十一月立爲皇太子、二年六月、始讀孝經、(皇年代略記、皇代記、皇代略記、)三年十二月冠、(皇代記、皇代略記、)弘安十年十月二十一日戊寅、皇太子受禪於富小路殿、(伏見院御記、皇胤紹運錄、富小路殿據一代要記、毘沙門堂所藏記、)關白左大臣師忠、右大臣藤原忠教、內大臣藤原家基、權大納言兼左近衞大將藤原兼忠、大納言兼右近衞大將源通基、竝如故、(公卿補任、一代要記、歷代皇紀、)十一月十五日壬寅、尊後宇多天皇曰太上天皇、(伏見院御記、一代要記、歷代皇紀、)十二月二十五日辛巳、行幸于權大納言藤原實兼西園寺第、避方忌、(伏見院御記、)

正應元年戊子、春正月十一日丁酉、卜大神宮心柱蠹損、大雪壓倒寶殿門垣千木於軒廊、二月十三日戊辰、行幸于西園寺第、避方忌、(伏見院御記、)是月北條盛房來居六波羅南方、北條兼時移居北方、(將軍執權次第、)三月十五日庚

子、天皇卽位於太政官廳、(伏見院御記、一代要記、天作禮祀職掌錄、增鏡、)時年二十四、(一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、)夏四月十日甲子、敕東大寺興福寺延暦寺園城寺法勝寺轉讀金剛般若經三日、禳疫、(園太暦貞和元年、)十二日丙寅、避方忌于鳥羽殿、(一代要記、)二十日甲戌、本院幸春日社、慶宸筆唯識論、修三十講、(後深草院御願文、一代要記、興福寺略年代記、)二十六日庚辰、還宮、(一代要記、)二十八日壬午、改元、(一代要記、帝王編年記、皇年代略記、皇代略記、東寺長者補任、)六月八日辛酉、以從三位

藤原鐏子爲女御、女院記、女院小傳、 二十六日己卯、關白師忠罷左大臣、秋七月十一日甲午、以右大臣藤原忠教爲左大臣、內大臣藤原家基爲右大臣、大納言源通基爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、 二十八日辛亥、柰良大風、興福寺講堂倒、一代要記、興福寺略年代記、 八月十日癸亥、以皇子胤仁爲親王、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、 二十日癸酉、立女御藤原鐏子爲中宮、歷代皇紀、後宮略傳、增鏡、 九月二十五日丁未、本院幸春日社、留七日、一代要記、 冬十月三日乙卯、行幸權大納言藤原實兼北山第、避方忌、帝王編年記、實兼據尊卑分脈、公卿補任、 二十一日癸酉、御禊、伏見院御記、帝王編年記、皇年代略記、皇代記、 二十七日己卯、內大臣兼右近衞大將源通基罷、以權大納言藤原兼忠爲內大臣、十一月八日己丑、藤原兼忠罷左近衞大將、大納言兼右近衞大將藤原信嗣轉左近衞大將、大納言藤原實兼兼右近衞大將、一代要記、歷代皇紀、公卿補任、 十八日己亥、御太政官廳、一代要記、

二十二日癸卯、大嘗、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、 二十三日甲辰、還宮、一代要記、 十二月十六日丁卯、號所生準三宮藤原愔子曰玄輝門院、歷代皇紀、女院小傳、後宮略傳、

二年己丑、春正月六日丙戌、避方忌于玄輝門院宮、帝王編年記、 二月十九日己巳、京師火、一代要記、 三月二十三日壬寅、覲本院于鳥羽殿、二十六日乙巳、還宮、增鏡、園太曆文和三年、 夏四月十二日辛酉、覲本院于鳥羽殿、避方忌、一代要記、 十三日壬戌、關白師忠罷、以右大臣藤原家基爲關白、公卿補任、歷代皇紀、帝王編年記、 十四日癸亥、還宮、一代要記、 二十五日甲戌、立胤仁親王爲皇太子、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇代記、 以內大臣藤原兼忠爲傳、公卿補任、 二十八日丁丑、敕七大寺延曆寺轉讀大般若經七日、禳疫、五月二十六日甲辰、免輕繫、六月九日丁巳、奉幣二十二社、園太曆貞和元年、 二十七日乙亥、修孔雀經法、仁和寺御傳、一代要記、園太曆貞和元年、 秋八月十七日甲子、本院幸日

吉社、留七日、帝王編年記丙子晦、以準大臣源基具爲太政大臣、公卿補任、歷代皇紀、帝王編年記、九月七日癸未、中院薙髮、皇年代略記十三日己丑、東二條院幸春日社、帝王編年記二十八日甲辰、關白家基罷右大臣、公卿補任、歷代皇紀、帝王編年記、冬十月丁未朔、征夷大將軍惟康親王爲北條貞時所逐、歸京師、興福寺略年代記、爲貞時所逐據增鏡、○帝王編年記、保曆間記、係九月十四日、將軍執權次第十三日、蓋係發鎌倉之日也、增鏡作三年、然下文云、自文永三年至今年二十四年、則爲二年明矣、以本院皇子久明爲親王、

九日乙卯、以久明親王爲征夷大將軍、帝王編年記、將軍執權次第、○增鏡爲二十五日者、蓋係至鎌倉之日也、興福寺略年代記作十日、一代要記、保曆間記並不日、十八日甲子、以内大臣藤原兼忠爲右大臣、大納言藤原實兼爲内大臣、公卿補任、歷代皇紀、帝王編年記、十二月十日乙酉、號準三宮懌子内親王曰五條院、一代要記、歷代皇紀、十二日丁亥、行幸内大臣藤原實兼北山第、避方忌、帝王編年記、實兼據尊卑分脉、公卿補任、

三年庚寅春正月二十六日庚午、内大臣藤原實兼罷右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、二十七日辛未、新院幸春日社、留七日、帝王編年記二十九日癸酉、行幸北山第、避方忌、伏見院御記二月十一日乙酉、本院薙髮、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、興福寺略年代記、三月四日丁未、紫宸殿木獅子裂、卜之、增鏡十日癸丑、賊淺原爲賴入宮作亂、天皇避之春日殿、衞兵赴討、爲賴自殺、事定還宮、參取一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、神皇正統記、皇年代略記、皇代略記、增鏡、興福寺略年代記、○保曆間記作三日十三日丙辰、太政大臣基具罷、公卿

補任○歷代皇紀、帝王編年記係十五日、二十六日己巳、天皇始親政事、帝王編年記夏四月八日辛巳、前參議藤原實盛侍從藤原公久坐淺原爲賴事、逮捕于六波羅、歷代皇紀、尊卑分脉、二十五日戊戌、内大臣藤原實兼罷、公卿補任○歷代皇紀、帝王編年記、係二十六日、六月八日己卯、以大納言藤原信嗣爲内大臣、秋七月二十一日壬戌、藤原信嗣罷左近衛大將、權大納言藤原公守兼左近衛大將、權大納言藤原公孝兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代

皇紀、帝王編年記、八月二十五日乙未、卜石清水放生會第三神輿璽筥寶劒墜地於軒廊、善法寺文書、圓太曆貞和二年、九月九日己酉、新院幸四天王寺、十八日戊午、還宮、帝王編年記○歷代皇紀作十九日二十五日乙丑、奉幣石清水宮、善法寺文書、圓太曆貞和二年、冬十一月二十一日辛酉、權大納言兼右近衞大將藤原公孝罷權大納言藤原兼基兼右近衞大將、公卿補任、一代要記、十二月四日癸酉、謁石清水宮、八日丁丑、行幸賀茂社、帝王編年記二十日

己丑、内大臣藤原信嗣罷、公卿補任、歷代皇紀、帝王編年記、二十五日甲午、以權大納言藤原公守爲内大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、四年辛卯、春正月三日壬寅、覲本院於常盤井殿、參取歷代皇紀、帝王編年記、十七日丙辰、興福寺僧徒以訴吉田莊傳教院事、遷春日神木於金堂、十八日丁巳、敕許之、興福寺略年代記十九日戊午、興福寺僧徒訴造寺猶緩、遷神木於和泉木津、參取歷代皇紀、皇年代略記、興福寺略年代記、○帝王編年記係二十日二

月二日辛未、熱田社火、七日丙子、覲本院於常盤井殿、藤原氏公卿以神木遷座不從駕、帝王編年記二十三日壬辰、聽興福寺訴、神木歸座、歷代皇紀、帝王編年記、興福寺略年代記、三月二十三日辛酉、内大臣藤原公守罷左近衞大將、歷代皇紀、帝王編年記、二十五日癸亥、權大納言兼右近衞大將藤原兼基轉左近衞大將、權大納言藤原實重兼右近衞大將、夏五月二十七日癸亥、關白家基罷、以左大臣藤原忠教爲關白、公卿補任、

歷代皇紀、帝王編年記、六月八日甲戌、慶等身十一面觀音像於興福寺、祈雨、十五日辛巳、頓寫大般若經於興福寺、使千僧虔讃之、興福寺略年代記修水天供於東寺、東寺長者補任、是日雨、興福寺略年代記、東寺長者補任、秋七月二日丁酉、内大臣藤原公守罷、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、二十九日甲子、以權大納言藤原兼基爲内大臣、公卿補任、歷代皇紀、○一代要記爲二十日、帝王編年記二十五日、八月四日己巳、上上皇皇后號曰遊義門院、女院小傳、後宮略傳、○歷代皇紀係十一日、帝

王編年記、十二日、冬十一月二十四日戊午、本院幸春日社、興福寺略年代記、歴代皇紀、二十六日庚申、還宮、興福寺略年代記十二月二十一日乙酉、關白忠教罷左大臣、公卿補任、帝王編年記、歴代皇紀係二十二日○二十五日己丑、以前内大臣藤原實兼爲太政大臣、右大臣藤原兼忠爲左大臣、内大臣藤原兼基爲右大臣、前權大納言藤原公孝爲内大臣、公卿補任、一代要記、歴代皇紀、帝王編年記、二十七日辛卯、興福寺僧徒以訴改補大藏經檢校於龍華院、遷春日神木於移殿、參取興福寺略年代記、園太暦貞和三年、○歴代皇紀作二十八日

五年壬辰、春正月甲午朔、日有食之、園太暦貞和三年以神木遷座、元會不御殿、園太暦貞和元年二日乙未、節會不御殿、徹樂、罷小朝拜國栖奏、付諸司奏於内侍所、五日戊戌、罷敍位、七日庚子、白馬節垂簾、十一日甲辰、罷除目、園太暦貞和三年十三日丙午、興福寺僧徒訴延暦寺僧永源爲御齋會講師、遷春日神木於金堂、興福寺略年代記、歴代皇紀、○園太暦貞和三年係十四日且訴參議藤原教經、藤原冬季、藤原宗冬、藤原資高、右中辨藤原光泰、不待神木歸座與朝會、乞除五人姓氏、罷朝參、許之、公卿補任、參取興福寺略年代記、十四日丁未、罷内論義、右近衞陣饗、十六日己酉、踏歌節、垂簾不御殿、徹樂、園太暦貞和三年二月甲子朔、以興福寺僧徒訴、參議藤原冬良、藤原宗嗣、右兵衞督藤原長相、左中辨藤原俊光、權右中辨藤原顯家、左少辨藤原爲行、治部大輔藤原雅俊與朝會、除姓罷朝參、參取公卿補任、興福寺略年代記、十五日戊寅、修五壇法於禁中、帝王編年記夏四月二十一日癸未、還龍華院院務於大乘院、神木歸座、興福寺略年代記○歴代皇紀係二十二日、園太暦貞和三年二十日、二十二日甲申、教經、冬良、宗冬、宗嗣、資高、長相、俊光、顯家、爲行復姓藤原氏、許朝參、參取公卿補任、興福寺略年代記、五月十五日丙午、右大臣藤原兼基罷左近衞大將、○歴代皇紀爲三月二十三日權大納言藤原家教兼左近衞大將、權大納

言藤原實重罷右近衛大將、權大納言藤原公衡兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、閏六月十六日丙午、權大納言兼右近衛大將藤原公衡罷、權大納言兼左近衛大將藤原家教爲右近衛大將、權大納言藤原實重兼左近衛大將、秋八月八日丁酉、内大臣藤原公孝罷、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、二十一日庚戌、冬季光泰雅俊復姓、許朝參、興福寺略年代記、九月五日癸亥、前大納言源定實準大臣、公卿補任、九日丁卯、

大宮院崩、歷代皇紀、興福寺略年代記、○諸書葬闕十一日己巳、罷例幣、帝王編年記、冬十月二十四日壬子、兼良親王薨、尊卑分脈、十一月五日壬戌、以權大納言藤原實重爲内大臣、十二月二十五日壬子、藤原實重罷左近衛大將、權大納言源通雄兼左近衛大將、參取公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、是日石清水神人據神宮寺、○園太曆貞和三年、本書不載其故二十八日乙卯、太政大臣實兼罷、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、

永仁元年癸巳、春正月二十一日戊寅、内大臣藤原實重罷、公卿補任、歷代皇紀、○一代要記係二十八日二十八日乙酉、以權大納言藤原師教爲内大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、二月七日甲午、奉幣石清水宮、謝神人據宮寺、○園太曆貞和三年二十五日壬子、關白忠教罷、以前關白家基爲關白、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、三月二十日丙子、陞伊勢風社爲風宮、賽蒙古難平、參取太平記、伊勢兩神宮末社記、二十六日壬午、東二條院幸春日社、帝王

編年記、是月北條貞時以北條兼時爲筑紫探題、夏四月十三日己亥、鎌倉地大震、帝王編年記、將軍執權次第、興福寺略年代記、保曆間記、○一代要記係十二日、太平記爲是歲始置探題、誤山崩屋壞、死者二萬餘人、帝王編年記是月北條久時來居六波羅北方、將軍執權次第秋七月八日壬戌、遣權中納言藤原爲兼於伊勢、奉幣大神宮、參取伏見院御記、伊勢公卿敕使例、二十日甲戌、祈雨伊勢已下八社、是月修水天供祈雨、伏見院御記、八月五日戊子、改元、伏見院御記、公卿補任、帝王編年記、改元部類

引兼仲記、冬十月二十九日辛亥、彗星見、興福寺略年代記○帝王編年記係八月十一月十三日乙丑、以彗見五節停宴、帝王編年記、興福寺略年代記、是月一乘院僧徒與大乘院僧徒戰、一代要記、興福寺略年代記、十二月十三日甲午、前攝政左大臣家經薨、公卿補任○歷代皇紀係十一日十八日己亥、北條貞時使近畿家人護興福寺、興福寺略年代記二十二日癸卯、以彗星遣使蓮華王院大原淨金剛院三法華堂、帝王編年記、後愚昧別記應安元年、是歲中院創南禪寺、帝王編年記、南禪寺記、○普門行狀作正應二年

二年甲午、春二月七日戊子、號準三宮久子內親王曰永陽門院、一代要記、歷代皇紀、夏五月十九日己巳、本院幸延曆寺、帝王編年記○歷代皇紀係九日六月庚辰朔、北條貞時罷護興福寺兵、興福寺略年代記秋七月十三日辛酉、東大寺僧徒神人有所訴、奉本寺八幡神輿詣闕、棄神輿去、十四日壬戌、還之於東寺金堂禮堂、參取帝王編年記、一代要記、興福寺略年代記、東寺雜鈔、園太曆康永三年、八月八日丙戌、前關白太政大臣兼平薨、歷代皇紀、攝關傳、尊卑分脈、九日丁亥、以神輿在京、釋奠罷宴穩坐豎義、園太曆康永三年九月七日甲寅、本院幸日吉社、帝王編年記二十七日甲戌、罷一乘院總管僧覺昭、興福寺略年代記丁丑晦、盜開神祇官八神殿戶、帝王編年記冬十月五日壬午、興福寺僧徒遷春日神木於和泉木津、歷代皇紀、興福寺略年代記、園太曆延文元年、十日丁亥、興福寺罷維摩會、興福寺略年代記是冬以神木遷座、罷京官除目、園太曆延文元年

三年乙未、春正月丙午朔、以神木遷座、元會垂簾徹樂、罷國栖奏、五日庚戌、罷敘位、七日壬子、白馬節、垂簾不御殿、徹樂罷國栖奏、參取帝王編年記、園太曆延文二年、八日癸丑、罷御齋會、帝王編年記、興福寺略年代記、十六日辛酉、踏歌節、垂簾徹樂、參取帝王編年記、園太曆延文二年、三月改補一乘院大乘院兩總管、興福寺略年代記夏四月二十四日戊辰、雨雹、和漢合運五月四日丁丑、遣使木津諭興福寺僧徒、神木歸座、興福寺略年代記、園太曆延文元年、冬十月二十五

日丙寅、列見、以八幡神輿在京、罷宴穩座、十一月十九日己丑、罷五節、園太暦康永三年二十日庚寅、本院幸春日社、興福寺略年代記二十二日壬辰、罷節會設平座、園太暦康永三年二十三日癸巳、本院幸興福寺、二十四日甲午、幸長谷寺、二十五日乙未、幸東大寺、二十六日丙申、本院還宮、大乘院僧徒與一乘院僧徒戰於春日社、興福寺略年代記各取神木、或遷之放光院、或遷之興福寺金堂、參取歷代皇紀、興福寺略年代記、園太暦貞和三年、○園

太暦一說、作神木遷金堂天滿宮、十二月十五日乙卯、醍醐寺火、一代要記、帝王編年記、○歷代皇紀、皇年代略記、係十一月十四日、十九日己未、東大寺八幡神輿歸座、一代要記、東寺長者補任、園太暦康永三年、

四年丙申、春正月庚午朔、以神木遷座、元會、垂簾徹樂、罷小朝拜、國栖奏、七日丙子、白馬節、垂簾徹樂、罷國栖坊家奏、園太暦貞和三年八日丁丑、罷御齋會、興福寺略年代記、園太暦貞和三年、十一日庚辰、罷除目、園太暦貞和三年十三日壬午、土御門殿成、本院徙御焉、歷代皇紀十六日乙酉、蹈歌節、垂簾不御殿、徹樂、園太暦貞和三年二十二日辛卯、新陽明門院崩、歷代皇紀二月十六日乙卯、盜取大學寮孔廟杉木障子、帝王編年記三月己巳朔、三島社火、歷代皇紀二十六日甲午、觀玄輝門院於衣笠殿、夏四月二十二日庚申、盜取日吉神輿裝飾、帝王編年記六月十八日乙卯、關白家基罷、公卿補任、歷代皇紀、十九日丙辰、家基薨、一代要記、帝王編年記、公卿補任、秋七月三日庚午、以神木故罷法勝

寺八講、園太暦貞和三年二十四日辛卯、以左大臣藤原兼忠爲關白、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、八月十一日丁未、號準三宮喜子內親王曰昭慶門院、歷代皇紀二十八日甲子、內侍所臨時神樂、丙寅晦、安樂壽院法華堂火、帝王編年記九月十六日壬午、奪大乘院僧慈信檢校職、付之一乘院僧覺意、興福寺略年代記二十三日己丑、將修本殿、遷御別殿、帝王編年記冬十二月二十五日己未、關白兼忠罷、左大臣、二十七日辛酉、

以右大臣藤原兼基爲左大臣、内大臣藤原師教爲右大臣、準大臣源定實爲内大臣、公卿補任、帝王編年記、五年丁酉、春正月乙丑朔、以神木遷座、元會不御殿、徹樂、罷小朝拜、國栖奏、五日己巳、罷叙位、七日辛未、白馬節、徹樂、罷國栖、坊家奏、園太曆貞和三年興福寺僧徒以奪大乘院慈信檢校職、付于一乘院覺意、使神人毀藏人平信忠宅、興福寺略年代記八日壬申、罷御齋會、興福寺略年代記、園太曆貞和三年、十四日戊寅、罷内論義、十六日庚辰、蹈歌節、垂簾不御殿、徹樂、罷國栖奏、園太曆貞和三年二月十五日戊申、慶法金剛院、歷代皇紀興福寺罷常樂會、興福寺略年代記夏四月癸巳朔、日有食之、東寺長者補任十八日庚戌、冷泉富小路殿火、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、天皇避之春日殿、帝王編年記、歷代皇紀、是夜遷土御門東洞院殿、歷代皇紀廢朝三日、二十日壬子、罷吉田祭、帝王編年記二十八日庚申、遷御二條高倉殿、歷代皇紀五月十二日

甲戌、柰良雨雹、圍八寸許、興福寺略年代記十七日己卯、夜盜入禁中、捕獲之、歷代皇紀六月五日丙申、以禁中火奉幣十三社、帝王編年記十四日乙巳、北條貞時置地頭於一乘院領地、歷代皇紀、興福寺略年代記、十九日庚戌、多武峯神人以訴置一乘院領地地頭、奉神寶入京、皇年代略記、皇代略記、○歷代皇紀、神寶作神木、神寶歸座、今無所考、是月北條宗方來居六波羅北方、秋七月、北條宗宣來居六波羅南方、將軍執權次第八月十二日癸卯、權大納言兼右近衛大將藤原家教罷、公卿補任○歷代皇紀、帝王編年記、係十三日、二十一日壬子、春日神木歸座、興福寺略年代記、歷代皇紀、園太曆貞和三年、二十五日丙辰、大納言藤原公衡兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、冬十月十六日丙午、内大臣源定實罷、以權大納言源通雄爲内大臣、前權大納言源通頼準大臣、參取公卿補任、帝王編年記、○一代要記、作通雄五月任、誤、十八日戊申、北條貞時罷一乘院領地地頭、興福寺略年代記閏十一月己丑朔、日南至、賜宴羣臣、歷代

皇紀、皇年代略記、二十七日乙卯、造富小路殿、歷代皇紀十二月十七日乙亥、內大臣源通雄罷右近衞大將、右大臣藤原師教兼左近衞大將、公卿補任、帝王編年記、六年戊戌、春正月七日乙未、六波羅捕前權中納言藤原爲兼八幡執行聖信、白毫寺妙智房、興福寺略年代記三月十六日癸卯、六波羅流藤原爲兼于佐渡、公卿補任、一代要記、○保暦間記係二月夏四月二十九日乙酉、右大臣藤原師教罷左近

衞大將、五月二十三日戊申、權大納言藤原冬平兼左近衞大將、六月十二日丁卯、內大臣源通雄罷、二十三日戊寅、以大納言藤原公衡爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀、秋七月十九日甲辰、如衣笠殿、帝王編年記二十二日丁未、天皇讓位於皇太子、上尊號曰太上天皇、帝王編年記、皇胤紹運錄、皇代記、皇年代略記、皇代略記、從御二條高倉殿、園太暦貞和四年帝藉北條時宗力、踰次得立、增鏡後復以詭詞嚇北條貞時、由是富仁親王亦得立爲儲

貳、梅松論後伏見帝卽位、上皇聽政院中、神皇正統記及後二條帝登極、稱中院、增鏡延慶元年、富仁親王踐阼、是爲花園帝、上皇再聽政、神皇正統記、歷代皇紀、應長元年正月、徙常盤井殿、歷代皇紀正和二年十月、屬機務於後伏見上皇、增鏡、神皇正統記、移居伏見殿、幽閑度日、增鏡薙髮、法名素融、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、乾元元年三月、徙持明院、歷代皇紀文保元年九月三日丙寅、崩於持明院、伏見帝御中陰記、帝王編年記、皇代記、皇胤紹運錄、醍醐報恩院文書、年

五十三、帝王編年記、皇胤紹運錄、皇年代略記、○神皇正統記作五十誤火葬於深草、伏見帝御中陰記、皇年代略記、祔御骨於後深草帝法華堂、伏見帝御中陰記稱伏見院、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、帝善和歌、工書、增鏡命藤原爲兼選萬葉集以下和歌、伏見帝御記、增鏡、曰玉葉和歌集、增鏡、拾芥鈔、初帝爲北條時宗所援立、因與時宗子貞時謀立後伏見帝、後宇多上皇讓其違先帝詔、貞時遂議定使後深草龜山二帝之後迭立、限以十年、終馴致元弘之亂云、參取神皇正統記、梅

松論、

大日本史卷之六十四終

大日本史卷之六十五

本紀第六十五

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

後伏見天皇

後伏見天皇諱胤仁、伏見帝第一子也、母准三宮藤原氏、神皇正統記、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、正應元年三月三日戊子生、帝王編年記、一代要記、皇代記、增鏡、○皇胤紹

運錄、一本、歷代皇紀、皇年代略記作二月、爲永福門院所子養、皇胤紹運錄、帝王編年記、皇年代略記、增鏡、八月爲親王、二年四月立爲皇太子、皇胤紹運錄、一代要記、歷代皇紀、皇代記、三年十月著袴、皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代記、永仁二年六月、始讀孝經、皇年代略記、皇代記、六年七月二十二日丁未、皇太子受禪於二條富小路殿、一代要記、帝王編年記、公卿補任、增鏡、富小路殿據毘沙門堂所藏記、園太曆貞和四年、以關白兼忠攝政、左大臣藤原兼基右大臣藤原師教內大臣兼右近衞大將藤原公衡、權大納言兼左近衞大將藤原冬平、竝如故、公卿補任、一代要記、八月三日丁巳、尊伏見天皇曰太上天皇、皇胤紹運錄、帝王編年記、歷代皇紀、皇代記、十日甲子、立皇從祖兄邦治親王爲皇太子、一代要記、歷代皇紀、皇代記、增鏡、○帝王編年記作七月、誤、以左大臣藤原兼基爲傅、公卿補任、一代要記、十七日辛未、遷御二條高倉殿、園太曆貞和四年、二十一日乙亥、上上皇中宮號曰永福門院、公卿補任、女院小傳、歷代皇紀、○帝王編年記係七月誤、九月十九日癸卯、延曆寺火、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、二十一日乙巳、內大

臣藤原公衡罷右近衞大將、公卿補任、二十五日己酉、權大納言藤原內實兼右近衞大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、冬十月十三日丁卯、天皇卽位於太政官廳、時年十一、天祚禮祀職掌錄、帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、二十五日己卯、御禊、十一月二十日癸卯大嘗、帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、皇代記、十二月二十日癸酉、攝政兼忠罷、以左大臣藤原兼基攝政、公卿補任、帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、是月彗星見、興福寺略年代記

正安元年己亥、夏四月十四日甲子、攝政兼基罷左大臣、(公卿補任、帝王編年記、歷代皇紀、)二十五日乙亥、改元、(帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、皇代記、)二十六日丙子、以右大臣藤原師教爲左大臣、内大臣藤原公衡爲右大臣、權大納言藤原冬平爲内大臣、(公卿補任、一代要記、帝王編年記、○歷代皇紀作二十四日)六月二日辛亥、以前内大臣藤原公守爲太政大臣、秋八月二十九日丁丑、内大臣藤原冬平罷左近衛大將、冬十月十三日辛酉、太政

大臣公守罷、(公卿補任、帝王編年記、歷代皇紀、)十九日丁卯、行幸右大臣藤原公衡北山第、(帝王編年記)十一月二十一日戊戌、以兼基爲太政大臣、攝政仍舊、(公卿補任、一代要記、)二十七日甲辰、行幸攝政兼基二條第、(帝王編年記○歷代皇紀、本月五日玄輝門院移二條殿、據此則二條殿門院所居、與本書異、)十二月二十日丁卯、右大臣藤原公衡罷、(公卿補任、帝王編年記、○歷代皇紀作二十三日)二十七日甲戌、以前内大臣藤原公孝爲右大臣、(公卿補任、帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、)是年元僧一寧來于博多、編置伊豆、(濟北集)

二年庚子、春正月三日庚辰、天皇加元服、(歷代皇紀、皇胤紹運錄、帝王編年記、一代要記、增鏡、○公卿補任爲十三日)五日壬午、權大納言兼右近衛大將藤原内實轉左近衛大將、權大納言藤原家平兼右近衛大將、(公卿補任、帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、)十一日戊子、覲本院新院於富小路殿、(帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、)二月丁未朔、日有食之、(帝王編年記)三月八日甲申、新院所居常盤井殿火、(歷代皇紀、皇年代略記、園太暦文和二年、○一

代要記作九日)夏五月三日戊寅、攝政兼基罷太政大臣、(公卿補任、一代要記、○歷代皇紀係四月十九日、帝王編年記九月三日、)六月十日甲寅、修四隅四界祭、二十二日丙寅、奉幣伊勢以下五社、禳疾疫、(園太暦貞和元年)秋閏七月三日丙午、賜西大寺僧叡尊號興正菩薩、(東大寺尊勝院所藏敕書、帝王編年記、皇代記、)賜菩薩號始于此、(○按元亨釋書行基傳曰、賜號大菩薩、然據續日本紀、時人所稱、非出於朝、今此爲始、)冬十一月二十一日壬戌、以慶興福寺、奉幣三社、(帝王編年記)十二月十六日丁亥、以攝政兼

基爲關白、公卿補任、帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、三年辛丑、春正月壬寅朔、雨不受朝、歷代皇紀、二十一日壬戌、天皇禪位於皇太子、帝王編年記、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、公卿補任、徙御二條富小路殿、毘沙門堂所藏記、園太曆、貞和四年、上尊號曰太上天皇、帝王編年記、皇年代略記、增鏡、稱新院、及後醍醐帝即位、更稱本院、增鏡、正和二年、伏見帝薙髮、一代要記、歷代皇紀、上皇專裁政事、歷代皇紀、增鏡、初上皇在位時、北條貞時定後深草龜山兩宗迭立之策、限以十年、梅松論、至

元亨元年十月、上皇祈后清水宮、以皇子量仁親王居東宮、嘉曆元年、量仁立爲皇太子、上皇又祈賀茂社、以皇太子早承大統、後伏見帝御願書、元弘元年、後醍醐帝幸笠置山、北條高時奉皇太子踐阼、上皇御常盤井殿、增鏡、太平記、又決政事、神皇正統記、增鏡、三年三月、赤松則村奉後醍醐帝詔來攻、上皇與光嚴帝花園帝徙御六波羅、敕徵諸方兵、五月足利尊氏到京師、上皇以爲助我、既而尊氏奉後醍醐帝詔、攻六波羅、上皇大驚、突圍東出、增鏡、太平記、幸伊吹太平護國寺、留十八日、歸京師、皇年代略記、六月薙髮於持明院、法名理覺、後改行覺、皇代記、皇年代略記、延元元年四月六日壬午、法皇崩于持明院殿、年四十九、皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代記、帝王編年記、火葬於嵯峨野、奉安遺骨於深草法華堂、皇代記、皇年代略記、遺詔稱後伏見院、皇年代略記、皇代略記、

大日本史卷之六十五終

大日本史卷之六十六

本紀第六十六

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保　重校

後二條天皇

後二條天皇、諱邦治、後宇多帝第一子也、母西華門院、神皇正統記、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、弘安八年二月二日乙巳生、一代要記、皇代記、帝王編年記、○歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、皇胤紹運錄、作三月一日、九年十月、爲親王、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、永仁六年六月、冠於冷泉萬里小路殿、七月後伏見天皇登祚、八月立爲皇太子、一代要記、歷代皇紀、皇代記、皇年代略記、增鏡、冷泉萬里小路殿據皇代記、正安三年、正月二十一日壬戌、皇太子受禪於二條高倉殿、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、公卿補任、二條高倉殿據毘沙門堂所藏記、園太暦貞和四年、關白兼基左大臣藤原師教、右大臣藤原公孝、内大臣藤原冬平、權大納言兼左近衞大將藤原内實、權大納言

兼右近衞大將藤原家平、竝如故、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十八日己巳、尊後伏見天皇曰太上天皇、歷代皇紀、帝王編年記、皇年代略記、○繼塵記作二十九日二月十二日壬午、行幸前右大臣藤原公衡北山第、避方忌、行幸部類記、公衡據尊卑分脈、公卿補任、十七日丁亥、最勝光院火、帝王編年記三月十九日己未、號準三宮藤原瑛子曰昭訓門院、女院小傳、後宮略傳、院號定部類記引藤原實躬記、二十四日甲子、天皇卽位於太政官廳、時年十七、天祚禮祀職掌錄、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、夏四月五日甲戌、興福寺僧徒以與大和國民爭、遷春日神木於金堂、興福寺略年代記六月二日庚午、以前内大臣源定實爲太政大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、是月北條基時來居六波羅北方、將軍執權次第秋七月三日庚子、罷法勝寺八講、園太暦貞和三年八月十五日辛巳、以皇從祖弟富仁爲親王、一代要記、歷代皇紀、皇代記、增鏡、二十四日庚寅、立富仁親王爲皇太子、一代要記、歷代皇紀、皇代記、萬一記、增鏡、以左大臣藤原師教爲傅、公卿補任、一代要記、二十五日辛

卯、前攝政兼忠薨、(公卿補任、歷代皇紀、)九月二十日丙辰、大和國民據二上山作亂、發兵討之、賊逃走、丙寅晦、神木歸座、冬十月二十五日丁卯、大和國民掠春日四社神鏡各二、若宮神鏡十、又據二上山、官符發大和兵士及興福寺僧徒討之、賊伏誅、(興福寺略年代記、)二十八日甲午、御禊、(一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、增鏡、)十一月二十日乙卯、大嘗、(一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、吉續記、東寺長者補任、)十二月丙寅朔、索竊春日神鏡者、奉幣春日社、十日

乙亥、北條貞時奏元兵寇薩摩子數島、(吉續記、)二十七日壬辰、悉獲神鏡、還藏春日社、(興福寺略年代記、)

乾元元年壬寅、春正月二十日乙卯、號準三宮瑞子女王曰永嘉門院、(女院小傳、貴女鈔、歷代皇紀、院號定部類記引藤原實躬記、○後宮略傳係五月)三月十五日己酉、號準三宮媖子內親王曰陽德門院、(歷代皇紀、女院小傳、院號定部類記引藤原實躬記、)興福寺僧以許事遷春日神木於金堂、(參取歷代皇紀、興福寺略年代記、)二十六日庚申

中院徙御持明院、(歷代皇紀、)僧徒奉神木至泉木津、(歷代皇紀、興福寺略年代記、)夏六月十六日己卯、觀禪林寺法皇於龜山殿、(增鏡、)以皇弟尊治皇子邦良爲親王、(歷代皇紀、皇代記、皇年代略記、邦良據紹運要略、○公卿補任作十七日)二十八日辛卯、神木歸座、(歷代皇紀、興福寺略年代記、)秋七月八日庚子、大風雨水、泉木津橋長谷寺堂舍漂流、(興福寺略年代記、)二十七日己未、玄輝門院所居火、(歷代皇紀、)是月太政大臣定實罷、(公卿補任○一代要記作四月六日)金澤貞顯來居六波羅南方、

(平氏系圖、將軍執權次第、)八月二十八日己丑、以藤原忻子爲女御、(女院小傳、歷代皇紀、)冬十月五日乙丑、以北條貞時子菊壽麻呂死、不奏事七日、(吉續記、圓太曆貞和元年、)十一月二十一日庚戌、改元、(吉續記、公卿補任、一代要記、皇年代略記、皇代記、)二十二日辛亥、以右大臣藤原公孝爲太政大臣、內大臣藤原冬平爲右大臣、權大納言藤原內實爲內大臣、(吉續記、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、)十二月二十九日戊子、興福寺僧徒以許事遷春日神木於移殿、(興福寺略年代記、圓

○太曆貞和二年、吉續記係晦、

嘉元元年癸卯、春正月庚寅朔、以天皇患疱瘡、神木在京、元會不御殿、徹樂、罷小朝拜國栖奏、（吉續記、參取公卿補任、園太曆貞和三年、）五日甲午、罷敘位、（吉續記、公卿補任、園太曆文和二年、）七日丙申、白馬節不御殿、徹樂、罷國栖奏、八日丁酉、罷御齋會、十六日乙巳、蹈歌節徹樂、罷國栖奏、（園太曆貞和三年、）十九日戊申、神木歸座、（吉續記、園太曆貞和三年、興福寺略年代記、）二月二十三日壬午、日吉八王子三宮火、（今出河內

相府記、日吉叡山行幸記、）夏四月三日辛酉、禪林寺法皇幸東大寺、四日壬戌、幸春日社、遂幸興福寺、（興福寺略年代記、○還宮日闕、）十一日己巳、興福寺僧徒以訴事遷春日神木於金堂、（園太曆貞和四年、○興福寺略年代記、作十日、）閏月五日癸巳、內大臣藤原內實罷左近衛大將、權大納言兼右近衛大將藤原家平轉左近衛大將、權大納言藤原道平兼右近衛大將、（公卿補任、）十六日甲辰、神木歸座、（興福寺略年代記、）是月召還藤原爲兼、（公卿補任、冷泉家系圖、○一代要記、作二月十一日還任、）六月丙辰晦、春日社神廚火、失第四殿神鏡、（興福寺略年代記、）秋七月三日己丑、罷法勝寺八講、（園太曆貞和三年、）六日壬戌、頓寫大般若經於興福寺祈雨、十三日己巳、又祈、（興福寺略年代記、）八月五日庚寅、改元、（一代要記、皇年代略記、皇代記、東寺長者補任、將軍執權次第、）十七日壬寅、占春日社第四殿神鏡失、遣使以社庫所藏神鏡代之、十九日甲辰、興福寺僧徒遷春日神木、訴延曆寺僧侵奪河內坂田二莊稅、敕流延曆寺僧慈俊賴

俊等、九月十四日己巳、神木歸座、（興福寺略年代記、）二十四日己卯、立女御藤原忻子爲中宮、（女院小傳、歷代皇紀、○後宮略傳、公卿補任、作二十八日、）冬十二月十九日壬寅、新後撰和歌集成、（尊卑分脈、冷泉家系圖、○拾芥鈔作二年、）

二年甲辰、春正月二十一日甲戌、東二條院崩、（公卿補任、一代要記、園太曆延文二年、○諸書葬闕、）三月十三日乙丑、太政大臣公孝罷、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）夏六月六日丁亥、避祇園神輿於萬里小路殿、八日己丑、還宮、（園太曆康永三年、）二十八日己酉、興福寺

僧徒逐生駒莊地頭北條貞時流首事者、補地頭、（興福寺略年代記）秋七月三日癸丑、罷法勝寺八講、（園太曆貞和三年）十六日丙寅、本院崩、（公卿補任、東寺長者補任、石清水善法寺文書、興福寺略年代記、）十七日丁卯、葬後深草天皇、（增鏡）是月春日山木多枯、八月七日丁亥、夜大風雨、有光怪、如日者五、出自春日山向西北飛、（興福寺略年代記）二十四日甲辰、石清水神人宗永等（姓闕）據神宮寺聚衆、（石清水善法寺文書、園太曆貞和三年、）二十七日丁未、釋奠、以大喪罷宴

穩座、竪義、百度座、（園太曆貞和三年）九月十三日壬戌、石清水社務妙清捕宗永等、神人五人自殺廊內、（石清水善法寺文書、日據園太曆貞和三年、○本書作三日）二十五日甲戌、以興福寺請罷生駒莊地頭職、（參取歷代皇紀、興福寺略年代記、○略年代記作二十六日）二十八日丁丑、夜葛城山有光、（歷代皇紀○興福寺略年代記、歷代皇紀作二十九日）冬十月二十五日甲辰、遣公卿於春日社奏神樂、（興福寺略年代記）戊申晦、準大臣源通賴罷、（公卿補任）十一月北條時範來居六波羅北方、（平氏系圖）十二

月十七日乙未、內大臣藤原內實薨、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）三年乙巳、春正月十六日癸亥、禪林寺法皇幸興福寺、十九日丙寅、還宮、（興福寺略年代記）二十九日丙子、以權大納言藤原家平爲內大臣、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）二月丙午晦、禁京師沽酒、（興福寺略年代記）三月五日辛亥、覲二條殿、（○本書不曰某上皇、今無所考、蓋大覺寺上皇也、）六日壬子、聽講羣書治要、七日癸丑、蹴鞠詩歌合、八日甲寅、還宮、（園太曆康永三

年）九日乙卯、地震、（一代要記）二十三日己巳、中院幸春日社、（○還宮日闕）夏四月六日壬午、興福寺僧徒放火燒達磨寺、（興福寺略年代記）十二日戊子、關白兼基罷、以左大臣藤原師教爲關白、（公卿補任、歷代皇紀、）二十三日己亥、北條宗方矯征夷大將軍久明親王命、殺北條時村、五月四日己酉、北條貞時誅北條宗方、（參取一代要記、歷代皇紀、保曆間記、）（興福寺略年代記、園太曆觀應二年、）秋七月十二日丁巳、前太政大臣公孝薨、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）九月十五日

己未、禪林寺法皇崩、皇年代略記、龜山帝御葬禮記、公卿補任、增鏡、興福寺略年代記、○東寺長者補任作十四日誤、十七日辛酉、葬龜山天皇、龜山帝御葬禮記、增鏡、冬閏十二月十七日己未、關白師教罷左大臣、二十一日癸亥、以右大臣藤原冬平爲左大臣、内大臣藤原家平爲右大臣、準大臣藤原實家爲内大臣、公卿補任、歷代皇紀、

德治元年丙午、春三月庚子晦、前太政大臣定實薨、夏四月十四日甲寅、右大臣藤原家

平罷左近衛大將、公卿補任、權大納言兼右近衛大將藤原道平轉左近衛大將、大納言源具守兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、五月慶等身十一面觀音像於興福寺、祈雨、興福寺略年代記、六月六日乙巳、避祇園神輿於萬里小路殿、七日丙午、還宮、園太曆康永三年是月内大臣藤原實家罷、公卿補任、秋九月十二日庚辰、以龜山天皇周忌非常赦、爐塵記、冬十一月八日乙亥、熊野社火、一代要記、十二月六日壬寅、以前内大臣藤原實家爲太政大臣、權大納言藤原道平爲内大臣、公卿補任、一代要記、○歷代皇紀作二十六日、十四日庚戌、改元、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、興福寺略年代記、東寺長者補任、二十二日戊午、卜定奬子内親王爲齋宮、後宮略傳、女院小傳、關白師教罷皇太子傅、以左大臣藤原冬平兼傅、公卿補任、二十九日乙丑、二條富小路殿火、園太曆文和二年○公卿補任作二十八日

二年丁未、春正月十二日戊寅、修結緣灌頂於石清水宮、著爲式、仁和寺御傳、東寺長者補任、三月二

日丙寅、關東地大震、一代要記、夏四月三日丁酉、内大臣藤原道平罷左近衛大將、權大納言藤原經平兼左近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、六月二十二日乙卯、號準三宮馨子内親王曰章義門院、後宮略傳、院號定部類記引藤原實躬記、○歷代皇紀作四月秋七月二十四日丙戌、遊義門院崩、公卿補任、女院小傳、園太曆文和元年、○後宮略傳作二十六日、一代要記、東寺長者補任二十五日、二十六日戊子、葬遊義門院、園太曆文和元年二十七日己丑、一院薙髮、仁和寺御傳○公卿補任、一代要記、興福寺略年代記係二十十

六日、冬、十一月二十日辛巳、一院幸東大寺、歷代皇紀、東寺長者補任、○一代要記、興福寺略年代記作二十一日、二十二日癸未、幸春日社、遂幸興福寺、二十三日甲申、還宮、十二月十五日丙午、興福寺僧徒奉春日神木、訴前備中守賴綱姓闕、達磨寺僧仙海等事、遣兵宇治撤橋防之、十九日庚戌、遣前權中納言藤原雅藤、下院宣罷防禦兵、興福寺略年代記、二十日辛亥、神木入法成寺、歷代皇紀、興福寺略年代記、公卿相率奉迎、興福寺略年代記

三年戊申、春正月、以神木在京、罷敍位御齋會、歷代皇紀、參取興福寺略年代記、下宸筆敕諭興福寺僧徒、興福寺略年代記、二月三日癸巳、賜東寺故僧正益信號本覺大師、參取一代要記、東寺長者補任、仁和寺諸院家傳引德治記、秋七月十二日己巳、先是以興福寺訴流前備中守賴綱于尾張、僧仙海于參河、下院宣諭僧徒、興福寺略年代記、至是神木歸座、公卿補任、歷代皇紀、皇年代略記、興福寺略年代記、八月四日庚寅、征夷大將軍式部卿久明親王爲北條貞時所逐歸京、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、○將軍執權次第作七月十九日、蓋發鎌倉日也、十日丙申、以守邦王爲征夷大將軍、歷代皇紀、○保曆間記作二十七日二十三日己酉、日吉聖眞子客人社火、歷代皇紀、皇年代略記、是月不豫、歷代皇紀、增鏡、二十三日庚戌、大漸、增鏡二十五日辛亥、天皇崩于二條高倉殿、年二十四、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、○皇代略記、東寺長者補任、保曆間記、將軍執權次第作二十六日、葬于北白河殿、一代要記、皇代記、稱後二條院、歷代皇紀、皇胤紹運錄、公卿補任、增鏡、帝即位之日、右近衞中將藤原家定奉御劍、倒授內侍、世以爲不祥、增鏡

大日本史卷之六十六終

大日本史卷之六十七

本紀第六十七

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保重校

花園天皇

花園天皇諱富仁、伏見帝第三子也、神皇正統記〇一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、保暦間記、增鏡作第二子、蓋以立爲皇太子、越兄寬性法親王爲第二也、母顯親門院、歷代皇紀、皇胤紹運錄、興福寺略年代記、

增鏡、永仁五年七月二十五日丙戌生、歷代皇紀、皇代記、皇年代略記、〇一代要記作二十六日、後伏見帝養爲子、公卿補任、皇代略記、增鏡、正安三年八月著袴、皇年代略記、爲親王、遂立爲皇太子、皇年代略記、皇代略記、嘉元元年十二月始讀孝經、皇年代略記、德治三年八月後二條帝崩、二十六日壬子、皇太子踐阼於土御門東洞院殿、公卿補任、毘沙門堂所藏記、園太暦貞和四年、〇增鏡作踐阼於正親町殿、以關白師教攝政、太政大臣實家左大臣藤原冬平、右大臣藤原家平、内大臣藤原道平、權大納言兼左近衛大將藤原經平、大納言兼右近衛大將源具守並如故、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十八日甲寅、葬後二條天皇、皇代記、九月十九日甲辰、立皇從祖兄三品太宰帥中務卿尊治親王爲皇太子、皇代記、皇年代略記、增鏡、〇歷代皇紀或作十月、以左大臣藤原冬平爲傳、一代要記、冬十月九日甲子、改元延慶、公卿補任、一代要記、興福寺略年代記、園太暦文和元年、十九日甲戌、以征夷大將軍守邦王爲親王、歷代皇紀、二十四日己卯、以延暦寺訴罷

益信賜號、一代要記、十一月十日乙未、攝政師教罷、公卿補任、歷代皇紀、〇一代要記作九日、以左大臣藤原冬平攝政、歷代皇紀、興福寺略年代記、〇公卿補任作十一日、十六日辛丑、天皇即位於太政官廳、一代要記、歷代皇紀、興天祚禮祀職掌錄、福寺略年代記、〇增鏡作十二日、時年十二、一代要記、歷代皇紀、二十九日甲寅、前内大臣源通基薨、公卿補任、歷代皇紀、十二月丙辰朔、號上皇所生準三宮源基子曰西華門院、貴女鈔、院號定部類記引藤原實躬記、〇後宮略傳作四日、歷代皇紀二日、是月北條貞房來居六波羅北方、武家補任、

○將軍執權次第作十一月

二年己酉、春正月十三日丁酉、號準母藤原寧子曰廣義門院、女院小傳、貴女鈔、歷代皇紀、院號定部類記引藤原實躬記、二十一日乙巳、宇佐八幡宮火、歷代皇紀二月三日丁巳、號準三宮永子內親王曰章善門院、歷代皇紀、院號定部類記引藤原實躬記、癸未晦、東大寺僧徒奉八幡神輿至二條萬里小路殿、請復益信大師號、園太曆康永三年遷之東寺、歷代皇紀、園太曆延文元年、三月甲申朔、太宰府言、元兵將復入寇、歷代

皇紀十四日丁酉、攝政冬平罷左大臣、十九日壬寅、以前右大臣藤原公衡爲左大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、夏六月二十七日戊寅、號準三宮璹子內親王曰朔平門院、女院小傳、歷代皇紀、院號定部類記引藤原實躬記、秋七月二十日庚子、復益信大師號、東寺長者補任○一代要記作十九日二十八日戊申、延曆寺僧徒奉日吉神輿入京、歷代皇紀、皇年代略記、○本書不載其故、且不書歸座、蓋請罷益信大師號也、八月七日丁巳、釋奠罷宴穩座竪義、十一日辛酉、定考罷宴穩座、園太曆康永三年十五日乙丑、左大臣藤原公衡罷、歷代皇紀○公卿補任作六月九月五日乙酉、東大寺八幡神輿歸座、歷代皇紀、東寺長者補任、園太曆康永三年、冬十月六日乙卯、以北條貞時女死、不奏事五日、園太曆貞和元年十五日甲子、太政大臣實家罷、公卿補任、歷代皇紀、以前內大臣藤原信嗣爲太政大臣、右大臣藤原家平轉左大臣、內大臣藤原道平爲右大臣、權大納言藤原經平爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十一日庚午、御禊、一代要記、歷代皇紀、皇胤紹運錄、皇

年代略記、○增鏡作二十二日誤二十四日癸酉、內大臣藤原經平罷左近衛大將、大納言兼右近衛大將源具守轉左近衛大將、大納言藤原實泰兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、十一月二十四日癸卯、大嘗、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、皇胤紹運錄、○增鏡係前月御禊下誤十二月五日甲寅、延曆寺僧徒奉日吉七社神輿入京、請罷益信大師號、東寺長者補任○歷代皇紀作九日十七日丙寅、避方忌、毘沙門堂所藏記○本書不地

三年庚戌、夏四月二十四日辛未、大納言源具守罷左近衞大將、公卿補任 二十八日乙亥、前權大納言藤原兼教準大臣、大納言兼右近衞大將藤原實泰轉左近衞大將、權大納言藤原公顯兼右近衞大將、公卿補任、歷代皇紀 是月疾疫流行、五月二十七日甲辰、修四隅四界祭禳疾疫、園太曆貞和元年 六月二十八日甲戌、以皇弟吉永爲親王、釋家官班記 秋七月、北條時敦來居六波羅南方、平氏系圖、將軍執權次第、○系圖曰、後移北、然不書年月、

故不取、冬十一月甲戌朔、罷益信大師號、一代要記 六日己卯、鎌倉大火、將軍執權次第 癸卯晦、日吉神輿歸座、歷代皇紀 十二月十三日丙辰、太政大臣信嗣罷、公卿補任、歷代皇紀、 十五日戊午、以冬平爲太政大臣、攝政如舊、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、 十九日壬戌、上後二條中宮號曰長樂門院、女院小傳、後宮略傳、公卿補任、○歷代皇紀、貴女鈔作二年、 是歲金澤貞顯來居六波羅南方、將軍執權次第

應長元年辛亥、春正月三日丙子、天皇加元服于紫宸殿、一代要記、歷代皇紀、增鏡、紫宸殿據毘沙門堂所藏記 五日戊寅、大風壞屋揚沙、七日庚辰、以加元服原輕繫、毘沙門堂所藏記 十四日丁亥、中院移御常盤井殿、歷代皇紀 三月十五日丁亥、以攝政冬平爲關白、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、 二十日壬辰、前太政大臣信嗣薨、公卿補任、園太曆、 夏四月二十四日丙寅、關白冬平罷太政大臣、公卿補任、歷代皇紀、 二十五日丁卯、遣使伊勢已下九社、禳疾疫、園太曆貞和元年 二十八日庚午、改元、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、皇年代略

記、園太曆貞和元年、 秋九月二十三日辛酉、盜取鳥羽寶藏物、一代要記 二十六日甲子、相模守北條師時卒、將軍執權次第○一代要記作二十一日、 冬十月二十六日癸巳、前相模守北條貞時卒、一代要記、歷代皇紀、保曆間記、 十一月十一日戊申、宇治橋火、歷代皇紀

正和元年壬子、春二月十三日己卯、權大納言兼右近衞大將藤原公顯罷、公卿補任、歷代皇紀、○一代要記係三月、 三月二十日丙辰、改元、公卿補任、一代要記、皇年代略記、皇代略紀、 二十八日甲子、玉葉和歌集成、增鏡

〇拾芥鈔作二年八月夏四月十二日丁丑、伊豆駿河武藏下總海水赤如血、數日復故、濟北集秋八月十日癸酉、權大納言藤原公茂兼右近衛大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、二十五日戊子、興福寺僧徒以許事奉春日神木入京、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、

二年癸丑、春正月五日丙申、以神木在京罷敘位、歷代皇紀、二月四日甲子、法琳寺火、東寺長者補任、三月十七日丁未、彗星見西方、歷代皇紀、皇年代略記、

秋七月十二日庚子、關白皇太子傅冬平罷、公卿補任、一代要記、〇歷代皇紀作七日、以左大臣藤原家平爲關白、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、八月七日乙丑、大覺寺法皇幸高野、一代要記〇歷代皇紀作六日、十六日甲戌、以聽興福寺許神木歸座、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、二十日戊寅、法皇還宮、一代要記、九月十三日庚子、永嘉門院所居鷹司萬里小路第火、歷代皇紀、皇年代略記、冬十月十七日甲戌、中院薙髮、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、十一月七日癸巳、右大臣藤原道平兼皇太子傅、公卿補任、一代要記、十二月二十日乙亥、關白家平罷左大臣、公卿補任、歷代皇紀、二十六日辛巳、以右大臣藤原道平爲左大臣、內大臣藤原經平爲右大臣、前大納言源具守爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、

三年甲寅、春正月二日丁亥、覲中院新院於常盤井殿、歷代皇紀、園太曆、二月十四日戊辰、尊勝寺最勝寺火、歷代皇紀、三月十一日乙未、興福寺僧徒還春日神木於金堂、〇一代要記作十二日、歷代皇紀十

三日、十三日丁酉、以後白河帝忌辰免輕繫、園太曆、貞和四年十七日辛丑、春日神木入京、一代要記、歷代皇紀、閏月四日戊午、石清水神人以許事奉神輿至富小路殿、天皇避之常盤井殿、還神輿於東寺、廢朝、歷代皇紀、參取東寺雜鈔、夏四月十三日丙申、神輿歸座、歷代皇紀、皇年代略記、東寺雜鈔、秋八月十三日乙未、神木歸座、歷代皇紀、皇年代略記、〇一代要記作十四日、冬十二月二日壬午、內大臣源具守罷、公卿補任〇歷代皇紀、作四年三月十三日、

四年乙卯、春正月二十二日辛未、造富小路殿、圜太曆貞和二年二月二十四日壬寅、號準三宮延子內親王曰延明門院、歷代皇紀三月八日丙辰、鎌倉大火、一代要記、歷代皇紀、將軍執權次第、十三日辛酉、以大納言藤原實泰爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、○圜太曆觀應二年、作二十三日、夏四月戊寅朔、日當蝕、陰雲不見、歷代皇紀五月二十一日戊辰、祈晴丹生貴布禰社、圜太曆貞和三年秋七月十五日辛酉、前相模守北條熙時卒、將軍執權次第○歷代皇紀作十八日

二十日丙寅、內大臣藤原實泰罷左近衞大將、公卿補任、歷代皇紀、二十一日丁卯、權大納言兼右近衞大將藤原公茂轉左近衞大將、權大納言藤原家定兼右近衞大將、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、是月疾疫流行、圜太曆貞和元年八月北條維貞來居六波羅南方、平氏系圖、將軍執權次第、九月二十一日丙寅、關白家平罷、二十二日丁卯、以前關白冬平爲關白、公卿補任、一代要記、○歷代皇紀作二十一日二十五日庚午、前左大臣藤原公衡薨、歷代皇紀、圜太曆觀應二年、冬十二月十八日壬辰、東大寺僧徒奉八幡神輿至禁中、遷之東寺、二十五日己亥、列見罷宴穩座、二十六日庚子、神輿歸座、圜太曆康永三年二十八日壬寅、北條高時拘前權大納言藤原爲兼於六波羅、一代要記、歷代皇紀、

五年丙辰、春正月五日己巳、罷敍位、圜太曆文和二年○本書云、以神木入洛罷之、然前後不見神木入京之文、今不可考、十九日癸亥、前內大臣源具守薨、公卿補任二月十五日戊子、大覺寺中御所火、歷代皇紀、皇年代略記、秋八月

二十三日癸巳、關白冬平罷、以左大臣兼皇太子傅藤原道平爲關白、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、冬十月二十一日庚寅、關白道平罷左大臣、公卿補任○一代要記作二十二日二十二日辛卯、以右大臣藤原經平爲左大臣、內大臣藤原實泰爲右大臣、前權大納言藤原公顯爲內大臣、公卿補任、一代要記、歷代皇紀、閏月二十四日壬戌、盜竊玄上、歷代皇紀、皇年代略記、十一月戊辰朔、日南至、公卿表賀、朔旦冬至記引大外記良枝記

文保元年丁巳、春正月三日辛未、地大震、（一代要記、歷代皇紀、東寺長者補任、）五日癸酉、又震、九日丁丑、又震、戊戌晦、又震、（歷代皇紀）二月三日庚子、改元、（歷代皇紀、皇年代略記、公卿補任、東寺長者補任、）三月二日己巳、地震、八日乙亥、又震、丙申晦、善統親王薨、夏四月十七日癸丑、又震、（歷代皇紀）十九日乙卯、富小路殿成、自二條殿遷御焉、（一代要記、園太曆貞和二年、）五月十五日庚辰、地震、（歷代皇紀）乙未晦、以興福寺訴除大納言藤原師信姓、六月十二日丁未、復師信姓、（公卿補任）二十一日丙辰、右大臣藤原實泰罷、以內大臣藤原公顯爲右大臣、權大納言藤原公茂爲內大臣、（公卿補任、歷代皇紀、○園太曆觀應二年作二十六日）秋七月四日戊辰、地震、二十二日丙戌、又震、八月二十四日戊午、內大臣藤原公茂罷左近衛大將、（歷代皇紀）權大納言藤原內經兼左近衛大將、（公卿補任、一代要記、歷代皇紀、）九月三日丙寅、中院崩、（伏見帝御中陰記、一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、增鏡、）四日丁卯、葬伏見天皇、（伏見帝御中陰記、皇年代略記、）冬十月二

十三日丙辰、地震、（歷代皇紀）十二月十日癸卯、右大臣藤原公顯罷、（公卿補任○歷代皇紀作十三日）

二年戊午、春二月二十六日戊午、天皇禪位於皇太子、（一代要記、歷代皇紀、皇年代略記、公卿補任、增鏡、）上尊號曰太上天皇、（公卿補任、歷代皇紀、皇年代略記、皇胤紹運錄、）稱新院、與後伏見帝俱居持明院殿、情愛最厚、（增鏡）元弘三年三月、從後伏見帝徙御六波羅、五月幸伊吹太平護國寺、留十八日、還京師、（皇年代略記）建武二年十一月薙髮、法名遍行、（皇年代略記、皇胤紹運錄、）居萩原殿、稱萩原法皇、（妙心寺記、皇代記、保曆間記、）正平二年八月不豫、（園太曆）三年十一月十一日甲辰、法皇崩于萩原殿、（園太曆、皇年代略記、）年五十二、（○歷代皇紀、皇年代略記、皇胤紹運錄作五十三、誤、）葬于十樂院山上、（園太曆）遺詔稱花園院、（皇年代略記、皇代略紀、）帝好學、善詩歌、（園太曆）親撰風雅集、（風雅集序、園太曆）深好禪法、以僧妙超慧玄爲師、捨花園離宮爲妙心寺、居慧玄、創一室於方丈側、號玉鳳院、徙御之、遺像尚存焉、（妙心寺記、六祖傳）

大日本史卷之六十七終

大日本史卷之六十八

本紀第六十八

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保重校

後醍醐天皇上

後醍醐天皇諱尊治、後宇多帝第二子也、母談天門院、神皇正統記、增鏡、太平記、正應元年十一月二日癸未生、歷代皇紀、皇胤紹運錄、皇年代略記、紹運要略、龜山帝愛

其穎悟、常置左右、嘗祈其獲位于石清水宮、然以後二條帝長且無它過失也、不得越立、神皇正統記、增鏡、乾元元年六月爲親王、嘉元元年十二月冠、敘三品、歷代皇紀、皇年代略記、皇代記、皇胤紹運錄、紹運要略、二年三月爲太宰帥、德治二年五月兼中務卿、歷代皇紀、皇年代略記、皇代記、延慶元年八月花園帝踐阼、時後二條帝皇子邦良當立爲儲嗣、後宇多法皇曰、朕有所思、宜先立尊治、次及邦良、神皇正統記、九月立爲皇太子、歷代皇紀、皇年代略記、皇胤紹運錄、紹運要略、增鏡、文保二年二月二十六日戊午、皇太子受禪于冷泉萬里小路殿、園太曆、毘沙門堂所藏記、歷代皇紀、皇年代略記、法皇臨萬機、增鏡、關白道平、左大臣藤原經平、內大臣藤原公茂、權大納言兼左近衛大將藤原內經、權大納言兼右近衛大將藤原家定、竝如故、公卿補任、歷代皇紀、是日地震、三月六日丁卯又震、七日戊辰又震、歷代皇紀、九日庚午、立皇姪邦良親王爲皇太子、歷代皇紀、紹運要略、公卿補任、仍加元服、皇胤紹運錄、皇年代略記、紹運要略、左大臣

藤原經平爲傳、公卿補任、十日辛未、尊花園天皇曰太上天皇、皇年代略記、公卿補任、二十九日庚寅、天皇卽位於太政官廳、天祚禮祀職掌錄、歷代皇紀、皇代略記、公卿補任、時年三十一、歷代皇紀、皇代略記、公卿補任、夏四月七日戊戌地震、歷代皇紀、十二日癸卯、號所生準三宮藤原忠子曰談天門院、女院小傳、後宮略傳、歷代皇紀、公卿補任、二十五日丙辰、令出川院崩、女院小傳、歷代皇紀、○諸書葬闕、延曆寺僧徒燒園城寺、皇年代略記、六月二十五日甲寅、左大臣兼皇太子傅藤原經平薨、

公卿補任、歷代皇紀、○尊卑分脈係二十四日七月十五日癸酉、奉幣丹生貴布禰等社祈雨、園太曆二十八日丙戌、以藤原禧子爲女御、女院小傳、後宮略傳八月二日庚寅、大納言藤原師信兼皇太子傅、十五日癸卯、内大臣藤原公茂罷、二十四日壬子、以前内大臣藤原實重爲太政大臣、前右大臣藤原實泰爲左大臣、權大納言藤原家定爲右大臣、權大納言藤原内經爲内大臣、公卿補任、冬十月九日丙申、日吉社火、歷代皇紀、年代略記、皇二

十七日甲寅、御禊、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、皇代記、園太曆、公卿補任、十一月二十二日己卯、大嘗、皇胤紹運錄、皇代記、皇代略記、公卿補任、○皇年代略記作二十三日、增鏡二十七日、二十四日辛巳、盜殺前參議源有時於郁芳門、尊卑分脈、歷代皇紀、公卿補任、郁芳門據分脈、○增鏡作十月十七日十二月十日丁酉、右大臣藤原家定罷、右近衞大將權大納言藤原房實兼右近衞大將、丙申晦、關白道平罷、以内大臣藤原内經爲關白、公卿補任、歷代皇紀、

元應元年己未、春正月十九日乙亥、東大寺僧徒以訴事奉八幡神輿入京師、使兵拒之、僧徒棄輿走、敕權安之蓮華王院、萬一記、歷代皇紀、園太曆康永三年、東寺長者補任、大乘院文保三年記、二月丁亥朔、日有食之、歷代皇紀十一日丁酉、釋奠、以八幡神輿在京師、停宴穩座、園太曆康永三年十八日甲辰、以前權中納言源忠房爲親王、公卿補任、歷代皇紀、三月十四日庚午、石清水臨時祭、以八幡神輿在京師徹樂、園太曆康永三年二十七日癸未、尊皇姊前齋宮奬子内親王曰皇后、後宮略傳、歷代皇紀、皇姊推生年書

之、○女院小傳作二十九日、皇紀亦一作二十九日、夏四月九日甲午、右大臣藤原家定罷、公卿補任、十三日戊戌、園城寺成、遣兵防護、十八日癸卯、慶園城寺、二十五日庚戌、延曆寺僧徒又燒園城寺、大乘院文保三年記、二十八日癸丑、改元、歷代皇紀、皇年代略記、皇代記、皇代略記、公卿補任、五月六日辛酉、搜得前朝所失玄上琵琶、大乘院文保三年記、二十八日癸未、關白内經罷、左近衞大將、六月十四日戊戌、權大納言兼右近衞大將藤原房實轉左近衞大將、二十七

日辛亥、關白内經罷内大臣、二十八日壬子、以前權大納言源有房爲内大臣、秋七月二日乙卯、内大臣源有房薨、閏月二十八日庚戌、以權大納言藤原房實爲右大臣、前大納言源通重爲内大臣、公卿補任、歷代皇紀、八月五日丁巳、釋奠、以八幡神輿在京師、停宴穩座、園太曆康永三年、七日己未、立女御藤原禧子爲中宮、公卿補任、女院小傳、後宮略傳、歷代皇紀、○按太平記作文保二年八月三日、誤、十三日乙丑、行幸權大納言藤原實衡北山第、以

八幡神輿在京師、不御樂、十六日戊辰、還宮、園太曆康永三年、實衡據尊卑分脈、公卿補任、二十一日癸酉、右大臣藤原房實罷、左近衛大將大納言藤原冬氏兼左近衛大將、權大納言藤原兼季兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、九月二日癸未、冷泉萬里小路殿火、歷代皇紀、十六日丁酉、避方忌于常盤井殿、以八幡神輿在京師、不御樂、二十五日丙午、列見、以八幡神輿在京師、停宴穩座、園太曆康永三年、冬十月十八日己巳、太政大臣實

重内大臣源通重皆罷、公卿補任、以前内大臣源通雄爲太政大臣、大納言藤原師信爲内大臣、公卿補任、歷代皇紀、十一月十五日丙申、號皇妣皇后曰達智門院、○後宮略傳作十二月、是日談天門院崩、女院小傳、後宮略傳、歷代皇紀、○諸書華闕、二十日辛丑、以八幡神輿在京師、權停五節、十二月、遷八幡神輿于東寺、園太曆康永三年、

二年庚申、春三月二十六日丙午、號准三宮藤原頊子曰萬秋門院、女院小傳、後宮略傳、歷代皇紀、貴女鈔、

作二月、夏四月十二日辛酉、大納言藤原冬氏罷左近衛大將、歷代皇紀、權大納言藤原冬教兼左近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、十九日戊辰、前權大納言藤原爲世上續千載和歌集、增鏡、○拾芥鈔、冷泉家系圖作元年、秋七月七日甲申、前攝政左大臣師教薨、公卿補任、八月二十三日己巳、號准三宮嬿子内親王曰壽成門院、歷代皇紀、冬十月二十六日辛未、修宸筆八講於二條富小路殿、以薦談天門院冥福、御八講記、十二月丙午朔、以本院

皇子寧永爲親王、仁和寺御傳元亨元年辛酉、春正月元會白馬蹈歌、以八幡神輿在京師、竝徹樂、園太暦康永三年二月八日壬子、前右大臣藤原公顯薨、公卿補任、歴代皇紀、園太暦、二十三日丁卯、改元、皇代記、東寺長者補任、興福寺略年代記、公卿補任、○皇年代略記作三月夏六月癸卯朔、日有食之、歴代皇紀、東寺長者補任、八日庚戌、八幡神輿歸座、園太暦康永三年秋七月二十三日乙未、石清水神輿入京師、東寺長者補任八月十五日丙辰、歌合于安福殿、增鏡九月二日壬申、前内大臣源通重薨、公卿補任冬十一月庚午朔、内大臣兼皇太子傅藤原師信薨、公卿補任、歴代皇紀、○常樂記作十月二日十四日癸未、石清水神輿歸座、東寺長者補任是月常葉範貞來代北條時敦、居六波羅北方、鎌記、將系、拔萃、將軍執權次第、十二月九日戊申、法皇還政、歴代皇紀、皇年代略記、增鏡、是歲復記錄所、親聽訟、神皇正統記、太平記、保暦間記、廢諸新關、特存大津葛葉關、太平記二年壬戌、春正月三日辛未、覲法皇于常盤

井殿、增鏡○歴代皇紀作二日夏四月五日壬寅、右大臣藤原房實兼皇太子傅、六月二十九日乙未、以大納言藤原冬氏爲内大臣、公卿補任是夏大旱、米價踊貴、乃詔減膳、使檢非違使別當源親房喩都下富戶發糶、置場監賣、今川家本毛利家本北條家本西源院本南都本天正本太平記、源親房據公卿補任、○按見行本爲元年、東寺執行日記爲元德二年蓋誤、秋八月八日癸酉、内大臣藤原冬氏罷、○歴代皇紀作十一日十一日丙子、左大臣藤原實泰罷、以右大臣藤原房實爲左大臣、公卿補任大納言藤原兼季爲右大臣、○皇紀作十二日權大納言藤原冬教爲内大臣、二十三日戊子、右大臣藤原兼季罷右近衞大將、公卿補任、歴代皇紀、九月十日乙巳、前太政大臣實兼薨、園太暦○常樂記作十一日冬十二月二十一日甲申、行幸大納言藤原定房吉田第、避方忌、歴代皇紀

三年癸亥、春正月十一日癸卯、内大臣藤原冬教罷左近衞大將、十三日乙巳、權大納言藤原經忠兼左近衞大將、大納言藤原實衡

兼右近衛大將、三月二十九日庚申、關白內經罷、以左大臣藤原房實爲關白、公卿補任、歷代皇紀、夏五月二日癸巳、太政大臣通雄罷、公卿補任、六月十四日甲戌、關白房實罷左大臣、公卿補任、歷代皇紀、十五日乙亥、以前左大臣藤原實泰爲左大臣、秋七月右大臣藤原兼季罷、○本書日闕、九月二十八日丁巳、關白房實罷皇太子傅、內大臣藤原冬教兼皇太子傅、冬十一月九日丁酉、以前關白冬平爲太政大臣、公卿補任○本書九

日或作十九日

正中元年甲子、春正月九日丙申、前內大臣藤原公茂薨、尊卑分脈十九日丙午、宴羣臣于紫宸殿、賦詩奏樂、晴御會部類及中殿御會部類記引後照念院記三月丁亥朔、日有食之、東寺長者補任二十三日己酉、謁石清水宮、增鏡、東寺長者補任、天正本太平記、二十四日庚戌、還宮、增鏡夏四月十七日壬申、行幸賀茂社、增鏡、東寺長者補任、天正本太平記、二十七日壬午、以內大臣藤原冬教爲左大臣、權大納言藤原經忠爲

右大臣、增鏡、歷代皇紀、五月十四日己亥、前關白家平薨、尊卑分脈六月十六日庚午、觀法皇于大覺寺、二十二日丙子、還宮、園太曆貞和元年二十五日己卯、法皇崩、皇胤紹運錄、皇代記、常樂記、東寺長者補任、二十八日壬午、葬後宇多天皇、皇年代略記秋八月十七日辛未、前內大臣藤原冬氏薨、尊卑分脈○常樂記作十六日二十三日丁丑、如大覺寺、二十五日己卯、還宮、園太曆貞和元年九月十九日壬寅、先是天皇常有討北條氏

之意、中納言藤原資朝、藏人藤原俊基等參豫計議、竊徵諸國武士、土岐賴兼、多治見國長應徵先至、既而事洩、是日北條高時殺賴兼國長於京師、今出川家本毛利家本西源院本南都本太平記、參取增鏡、○見行本太平記爲元德元年、神明鏡爲十八日、保曆間記爲二十三日、二十三日丙午、六波羅兵執藤原資朝藤原俊基送于鎌倉、見行本太平記爲五月十日、今出川家本西源院本南都本竝爲正中二年、蓋皆誤、今姑据歷代皇紀藏人補任俊基罷職月日書之、二十四日丁未、天皇使中納言藤原宣房于鎌倉、賜誓

誥高時、（賜北條高時綸旨、參取增鏡、○按太平記、爲七月七日事、誤、）冬十
一月、金澤貞將來居六波羅南方、（將軍執權次第）十
二月九日辛酉改元、（皇年代略記、皇代記、皇代略記、公卿補任、）二
十七日己卯、關白房實罷、以太政大臣冬平
爲關白、（歷代皇紀）是歲大風水、（皇年代略記、皇代略記、）
二年乙丑、秋九月戊申朔、日有食之、（東寺長者補任）
冬十二月二日戊寅、前關白內大臣內經薨、
（公卿補任、○尊卑分脈、常樂記作十月朔）八日甲申、參議藤原爲
定上續後拾遺和歌集、（拾芥鈔、冷泉家系圖、○系圖一爲二月十

（八日、尊卑分脈爲十二月十八日、）是歲地大震、（皇代記）北條高
時遷藤原資朝於佐渡、（公卿補任、增鏡、太平記、）釋藤原
俊基還京師、（增鏡、太平記、）
嘉曆元年丙寅、春二月七日壬午、號準三宮
藤原季子曰顯親門院、（歷代皇紀、女院小傳、後宮略傳、）三月
二十日乙丑、皇太子薨、（歷代皇紀、皇年代略記、常樂記、公卿補任、）
（增鏡、○皇胤紹運錄作正中二年）夏四月大疫、二十六日庚
子、修四角四界祭、（園太曆貞和元年）是日改元、（皇年代略
記、皇代記、皇代略記、東寺長者補任、園太曆貞和元年、）五月二十七日

庚午、慶宸筆仁王經於祇園社、（園太曆貞和元年）秋
七月二十四日丙寅、立本院皇子量仁親王
爲皇太子、（歷代皇紀、皇胤紹運錄、皇代略記、島津家本太平記、）以右大
臣藤原經忠爲傅、（公卿補任）先是皇太子邦良薨、
天皇因欲選諸皇子立之、北條高時執兩宗
迭立之議、天皇遺中納言藤原定房于鎌倉、
依後嵯峨帝遺詔、責讓高時、高時遂不奉詔、
（參取神皇正統記、增鏡、梅松論、）九月壬寅朔、日有食之、（東寺長者
補任）冬十月二十三日甲午、內大臣兼右近衞

大將藤原實衡罷、（歷代皇紀）辛丑晦、前征夷大將
軍惟康親王薨、（常樂記）十一月壬寅朔、以權大
納言藤原基嗣爲內大臣、三日甲辰、右大臣
藤原經忠罷左近衞大將、四日乙巳、大納言
藤原季衡兼左近衞大將、大納言藤原公賢
兼右近衞大將、（公卿補任、歷代皇紀、）十八日己未、前內
大臣藤原實衡薨、（公卿補任、園太曆觀應二年、尊卑分脈、）
二年丁卯、春正月十九日己未、關白太政大
臣冬平薨、（公卿補任、歷代皇紀、尊卑分脈、）二月十二日壬午、

以前關白道平爲關白、公卿補任、歷代皇紀、三月十三日壬子、前關白左大臣房實薨、公卿補任、尊卑分脈、是春興福寺僧徒私鬪、焚諸堂宇、太平記 召僧圓觀文觀等于內、祈中宮產安、實呪咀北條高時、參取增鏡、島津家本今川家本太平記、○太平記作元亨二年 陸奧人藤原季長起兵、與族人相攻、高時遣兵討之不克、結城文書○保曆間記係元亨二年 秋七月、大納言藤原季衡罷左近衞大將、十六日癸丑、內大臣藤原基嗣兼左近衞大將、公卿補任 八月十五日辛巳、

前左大臣藤原實泰薨、公卿補任、尊卑分脈、冬十月二十六日辛酉、行幸法勝寺、臨大乘會、二十八日癸亥、還宮、園太曆貞和元年

三年戊辰秋九月十日己巳、遣前權大納言藤原宣房奉幣大神宮、伊勢公卿敕使例 冬十月十四日癸卯、前征夷大將軍久明親王薨、將軍執權次第、常樂記、 二十七日丙辰、行幸法勝寺、戊午晦、還宮、園太曆貞和元年 十二月五日癸巳、石清水神輿入京師、東寺長者補任○歸座無所考

元德元年己巳、夏六月二十六日壬子、前太政大臣實重薨、尊卑分脈 秋八月二十八日壬子、改元、公卿補任、皇年代略記、○皇代記、皇代略記、共作二十九日、 九月二十六日庚辰、內大臣藤原基嗣罷左近衞大將、權大納言源長通兼左近衞大將、冬十二月十一日癸巳、前太政大臣通雄薨、公卿補任○尊卑分脈作二十一日 二十八日庚戌、皇太子加元服於紫宸殿、皇胤紹運錄、歷代皇紀、紹運要略、公卿補任、紫宸殿據皇代略記、皇年代略記、

二年庚午、春正月九日辛酉、行幸權中納言藤原公宗第、避方忌、東寺執行日記 二十六日戊寅、關白道平罷、以右大臣藤原經忠爲關白、公卿補任、歷代皇紀、二月二十六日戊申、關白經忠罷右大臣、歷代皇紀 以內大臣藤原基嗣爲右大臣、權大納言源長通爲內大臣、公卿補任○歷代皇紀作二十二日誤 是月、行和歌會于清涼殿、太平記、新續古今和歌集、三月五日丙辰、內大臣兼左近衞大將源長通罷、大納言藤原公賢爲內大臣、權大納言藤

原經通兼左近衛大將、（公卿補任、歷代皇紀、）八日己未、行幸春日社及東大寺興福寺、（參取增鏡、東寺執行日記、）（太平記、）十一日壬戌、還宮、（東寺執行日記、）二十一日壬申、關白經忠罷皇太子傅、二十二日癸酉、右大臣藤原基嗣兼皇太子傅、內大臣藤原公賢罷右近衛大將、權大納言藤原道教兼右近衛大將、（公卿補任、）二十七日戊寅、行幸日吉社、遂臨慶延曆寺大講堂、（太平記、毛利家本太平記、園太曆貞和元年、）二十九日庚辰、還宮、（園太曆貞和元年、）是月行幸

春日社、（增鏡○本書不日、神明鏡作二月四日、）秋八月二十五日癸酉、關白經忠罷、以左大臣藤原冬教爲關白、（公卿補任、歷代皇紀、）是月北條時益來居六波羅南方、（平氏系圖○將軍執權次第爲七月、）九月十八日丙申、太宰帥世良親王薨、（常樂記、）冬十二月北條仲時來居六波羅北方、（平氏系圖、將軍執權次第、）十九日乙丑、卜定懽子內親王爲齋宮、（女院小傳、）是冬行幸北野社平野社、（增鏡、）

元弘元年辛未、春正月丙午晦、關白冬教罷左大臣、二月丁未朔、內大臣藤原公賢罷、以右大臣藤原基嗣爲左大臣、前內大臣源長通爲右大臣、前大納言藤原季衡爲內大臣、（公卿補任、歷代皇紀、）三月四日己卯、行幸權大納言藤原公宗北山莊觀花、（舞御覽記、公宗據尊卑分脈、公卿補任、）九日甲申、還宮、（增鏡、）夏四月十三日戊午、延曆寺火、（西源院南都本太平記、）是月天皇不豫、（增鏡、毛利家本天正本太平記、）五月十一日癸酉、北條高時遣兵執僧圓觀文觀忠圓、致于鎌倉、（○本書係前年、今據前後文係于此、）秋

七月三日丁丑、諸國地大震、紀伊千里濱地出二十餘町、七日辛巳、地震、富士山崩數百丈、（太平記、）十一日乙酉、六波羅兵就禁內執右中辨藤原俊基、送于鎌倉、（毛利家本天正本太平記○按辨官補任不日、增鏡不係月日、行本太平記作元德二年、）見新院亦密遣使於鎌倉告變、十三日丁亥、北條高時徙文觀于硫黃島、忠圓于越後、拘圓觀于陸奧、（太平記、）八月十日癸丑、改元、（公卿補任、皇代記、辨官補任、興福寺略年代記、）（○皇年代略記、皇代略記、將軍執權次第作八日、元弘日記裏書作九日、）二十二

日乙丑、北條高時遣二階堂貞藤等率兵三千餘至京師、二階堂貞藤據毛利家本、天正本○增鏡爲二十四日 二十四日丁卯、尊雲法親王知高時將行廢立、遽奏之、太平記 其夜天皇奉神器、駕婦人車、從陽明門出、大納言藤原師賢、中納言藤原藤房從之、至三條河原、中務卿尊良親王、及大納言藤原公敏、中納言源具行、左近衞少將源忠顯追至、敕藤原師賢著御衣、乘御輿如延曆寺、權中納言藤原隆資、左近衞中將藤

原爲明、源定平從之、揚言車駕幸延曆寺、以綴賊兵、且試僧徒向背、參取增鏡、太平記 二十五日戊辰、遲明行次古津、進御膳、至奈良、太平記 東大寺僧聖尋奉迎、御松嶺寺、毛利家本天正本太平記 北條時益北條仲時聞天皇出幸、遣兵索宮中、太平記 執大納言藤原宣房、中納言藤原公明、左衞門督藤原實世前參議平成輔、公卿補任、增鏡、光明寺藏書殘篇 二十六日己巳、車駕發奈良、次鷲峯山、興福寺略年代記、太平記○增鏡爲二十七日 二十七日庚午、

至笠置山、興福寺略年代記、增鏡、太平記 北條時益北條仲時迎本院新院及皇太子御六波羅、增鏡、太平記 二十八日辛未、北條時益北條仲時聞車駕在延曆寺、遣兵攻之、尊雲法親王尊澄法親王督僧徒破之辛崎、其夜僧徒覺非眞天子、相率離叛、藤原師賢等奔歸行在、太平記 伊賀伊勢大和河内兵多至行在、增鏡 遣中納言藤原藤房召見河内人楠正成、委以興復、○本書不日、姑係于此 二十九日壬申、尊澄法親王奔笠置、

尊雲法親王奔奈良、九月三日丙子、北條時益北條仲時遣兵犯笠置、太平記 二十日癸巳、北條高時以皇太子稱帝于京師、毘沙門堂所藏記、皇胤紹運錄、皇年代略記、歷代皇紀、○按太平記作十月十三日誤 二十三日丙申、敕金剛峯寺祈亂平、高野山金剛峯寺所藏文書 二十七日庚子、賊將大佛貞直金澤貞冬足利高氏率大軍逼笠置、元弘日記裏書 二十八日辛丑、六波羅兵陷行在、光明寺藏書殘編 判官代錦織俊政飛驒守石川義純及子義右死之、太平記、義純義

右據尊卑分脈、○本書貞直等逼笠置以下至此、竝係晦、恐誤、天皇徒步突圍而出、大納言藤原師賢、中納言藤原藤房、權中納言源具行扶行三日夜、至有王山下、賊兵追及、親王以下文武官僚悉見執、參取增鏡、太平記、是月楠正成築河內赤坂城、備後人櫻山玆俊築一宮城、竝起義兵、太平記、冬十月二日甲辰、六波羅兵奉天皇幸平等院、太平記、○今川家本、西源院本、天正本太平記爲朔、毛利家本爲四日、增鏡作九月晦、大佛貞直等請傳神器于新主、天皇使藤原藤房宣

傳曰、神器歷朝相承、親所受授、雖時或有亂臣、未聞恣相與奪、且璽鏡遺之笠置、唯有寶劒自隨、若欲強得之、朕將先親用之、貞直無復所奏、三日乙巳、又請幸六波羅、敕備鹵簿儀仗、乃逗留三日、具袞衣法駕如儀、遂幸六波羅御南方、御南方據皇年代略記、光明寺藏書殘編、○幸六波羅、本書不日、皇年代略記、歷代皇紀、皇胤紹運錄作二日、增鏡作三日、天正本四日、毛利家本六日、未知孰是、六日戊申、復請傳神器、乃授以新器、六日據元弘元年劒璽渡御記、皇胤紹運錄、皇年代略記、神明鏡、○光明寺藏書殘編作四日、

毘沙門堂所藏記五日、本書九日、按以神器爲新物、諸書所不言也、然增鏡云、帝親奉神器如隱岐、及京師收復、車駕還宮、特用藤原道平議、用巡狩還都之儀、據此則所授是新物、而非眞神器明矣、是冬、大佛貞直等圍赤坂、楠正成焚城逃、櫻山玆俊聞行在不守、自殺、太平記、

二年壬申、春正月、天皇在六波羅南方、北條高時欲諷天皇令薙髮、因獻僧衣、天皇卻之、增鏡、太平記、梅松論、左近衛中將藤原行房、左近衛少將源忠顯從之、增鏡、太平記、備前人兒島高德候車駕于

塗、將奉天皇討賊、不成、太平記、高時遷中務卿尊良親王于土佐、尊澄法親王于讚岐、增鏡、太平記、○梅松論作尊良讚岐、尊澄土佐、增鏡、正源院本太平記爲八日、北條家本、南都本十七日、恒良親王于但馬、○本書不日、姑係于此、夏四月二日辛丑、車駕至隱岐、太平記、○增鏡爲朔、以國分寺爲宮、增鏡、北條高時命佐佐木清高護衛、○清高或作貞清、誤、三日壬寅、楠正成復赤坂城、率兵徇和泉河內、太平記、二十八日丁卯、新主改元正慶、公卿補任、增鏡、○皇年代略記作二十日、五月三日辛未、高時殺足

助重範、天正本太平記二十一日己丑、楠正成與六波羅兵戰于四天王寺、大敗之、太平記二十二日庚寅、高時殺參議平成輔、公卿補任、常樂記、尋遷大納言藤原師賢于下總、前權大納言藤原公敏、參議藤原季房于下野、中納言藤原藤房于常陸、增鏡○太平記爲遷公敏于上總、季房于常陸、僧聖尋于下總、○南都本爲下野僧俊雅于長門、太平記○本書或作筑前六月二日庚子、高時殺中納言藤原資朝、公卿補任○常樂記作五月二十五日、太平記元弘元年、三日辛丑、殺右中

辨藤原俊基、常樂記○太平記作元弘元年十九日丁巳、殺權中納言源具行、公卿補任、太平記、增鏡、是冬楠正成築千劒破城、增鏡、梅松論、是冬據梅松論、尊雲法親王還俗、更名護良、梅松論築吉野城、赤松則村應護良親王令、起兵于播磨、築苔繩以絕山陽山陰兩道、太平記○護良親王築吉野城、年月不詳、姑係于此、

三年癸酉、春正月、天皇在隱岐、太平記二月北條高時遣阿曾時治圍赤坂、大佛高直圍千劒破、二階堂貞藤圍吉野、太平記、神明鏡、○按太平記曰、高直貞藤等以正月晦發京師、又曰、正月十六日、貞藤圍吉野、其說矛盾、蓋東兵以晦發京師、則圍城應在二月、且吉野吉水院眞遍言上狀、閏二月朔、道蘊陷吉野山、今從之、十二日丙午、伊豫人土居通治得能通言起義兵、與長門探題北條時直戰于伊豫星岡、大敗之、太平記十九日癸丑、北條高時遷皇子恒性于越中、守護名越時有害之、諸門跡譜是月赤坂城陷、太平記閏月乙丑朔、吉野城陷、太平記、吉野吉水院眞遍言上狀、左馬權頭村上義光及子義隆死之、護良親王走高野山、阿曾時治二階堂貞

藤遂併兵圍千劒破、楠正成拒戰數破之、赤松則村出自苔繩、徇山陽道、進屯攝津摩耶山、與六波羅兵戰敗之、○按則村出自苔繩、本書月日不詳、姑係于此、此時所在義軍竝起、兵勢大張、太平記護良親王密疏奏之行宮、增鏡北條高時懼有奪駕者、益嚴警衞、太平記而衞士稍歸心天皇、增鏡、太平記、天皇夜使侍姬賜酒中門番直衞士富士名義綱、義綱密致誠款、勸天皇潛幸出雲伯耆之間、天皇乃遣義綱往諭其族出雲守護

鹽冶高貞、二十四日戊子、曉天皇潛出宮、源忠顯從之、途闇不知所嚮、有一人負天皇、至千波港、適得商舟御之、佐佐木清高迅檝追天皇、天皇與忠顯俱隱船底、太平記、月日據皇年代略記、增鏡、元弘日記裏書、伯耆卷、○太平記爲三月二十三日誤、二十八日壬辰、至伯耆大坂港、賜名和長年宸翰、伯耆卷、○太平記大坂作名和名和長年奉迎、造行宮於船上山、聚兵衛護、○增鏡、元弘日記裏書、竝作二十六日、公卿補任爲幸大山寺竝誤、癸巳晦、佐佐木清高率兵犯船上山、名和長年拒卻之、鹽

冶高貞富士名義綱等率兵來歸、太平記乃下詔諸國、討北條高時、增鏡於是山陽山陰南海西海兵士竝起勤王、參取太平記、梅松論、三月十日癸卯、赤松則村與六波羅兵戰于瀨河、十一日甲辰、復進戰于桂河、累破之、長驅入京師、太平記十二日乙巳、本院新院新主入于六波羅、增鏡、太平記、月日據歷代皇紀、赤松則村、左衛門佐○一作督藤原忠俊、忠俊名據金勝院本○一作宗鎭與六波羅兵戰不利、太平記十三日丙午、敕左近衛中將源忠顯

帥山陽山陰二道兵援赤松則村、太平記、伯耆卷、日據伯耆卷、菊池武時起兵、討九州探題北條英時於博多、不克死之、太平記十四日丁未、禱平賊于出雲杵築社、出雲日御碕小野尊範文書十五日戊申、赤松則村以左近衛中將源定平詐稱聖護院宮、○定平本書作貞能、今據本書上文及西源院本、天正異本訂之、營于男山山崎、塞西海道、六波羅兵攻之、則村逆擊破之、二十八日辛酉、延曆寺僧徒復奉護良親王令、與六波羅兵戰于法勝寺、不利、太平

記是月天皇親修金輪法禱戰勝、但馬守護太田守延奉恒良親王、會左近衛中將源忠顯于丹波、夏四月二日乙丑、源忠顯奉恒良親王、率兵二十萬、陣于峯堂、太平記、神明鏡、三日丙寅、赤松則村與源定平僧良忠攻六波羅不利、太平記八日辛未、源忠顯與六波羅兵戰于京師、官軍敗績、太平記、神明鏡、太田守延死之、忠顯奉恒良親王、走男山、結城親光歸順、○親光歸順、本書不日、姑係于此、十六日己卯北條高時遣名越高

家足利高氏率兵入京師。二十七日庚寅，赤松則村擊名越高家于久我畷，斬之。先是，足利高氏竊納款，至是遂歸順。（太平記）五月三日乙未，下條制源忠顯曰：朕於諸院崇奉之意，無或渝易。特敕諸軍，勿敢侵暴仙洞近側及諸莊園，犯者處以重科。須北條仲時、北條時益伏誅，奉還兩院、新主於本所，嚴戒震驚。至其扈從卿士，具以名聞，至決其罪，合在後日。行軍用師，要在和調，前軍進戰，後軍不繼，罰

奪三勳。諸將雖素有仇怨，臨陣勿圖報復，務期立效。凡給糧糗，務在周均，不可私增減。建功之徒，本領外加重賞，子孫世襲。死傷者具狀申上，陣亡者擇子孫如支親，授以舊領。朝士、武人及僧徒、祠官歸順者，本領外更有推恩。若不能躬至，而有能獻策輸糧助軍國者，亦賞格準之。降服之人，一從宥貸，族其建功自效，而後錄用。凡賊軍所過，剽刧焚燒，斬艾無辜，甚爲暴逆，天討所致，專爲此故。諸軍主帥宜體朕意，軍之所在，則禁戢士卒，莫恣抄掠，非預軍機，勿得放火，勿課取粮米，以致刻虐。止伐叛亂，不擾平民，庶幾得天地神祇之祐，賴宗廟社稷之靈，以致克捷之功。其宜布四方，明使知聞。（光明寺藏書殘篇）七日己亥，源忠顯、足利高氏、赤松則村併兵攻六波羅。（太平記）北條仲時、北條時益挾本院、新院、新主東奔，時益伏誅，官軍收復京師。（太平記、梅松論）八日庚子，源忠顯得神鏡於權大納言藤原公宗北山第，

安之禁中。（皇年代略記。○按，當時帝親奉神器，此所得神鏡，疑所授新主物也。）是日，上野人新田義貞奉護良親王令，舉義兵關東，豪傑爭先響應。九日辛丑，守良親王起兵，要擊北條仲時于近江番馬，仲時伏誅，獲本院、新院、新主及所授劒璽。（守良親王，據金勝院本。）十日壬寅，大佛高直、阿曾時治、二階堂貞藤解千劒破圍，走奈良。十二日甲辰，源忠顯、足利高氏、赤松則村等馳使船上，奏收復京師。天皇召羣臣議還幸，勘解由次官藤原光守

建言、六波羅雖亡、餘黨猶熾、陛下宜暫駐驆船上、命諸將圖進取、竢關東之捷聞而後發也、天皇猶豫、乃親以周易筮之、獲師上六、吉、乃敕嚴行、新田義貞與鎌倉兵戰于久米河敗之、十五日丁未、進戰分倍、不利、十六日戊申、又戰、大敗之、（太平記○按梅松論以十七日戰爲十五日事）十七日己酉、下詔停關白冬教、左大臣藤原基嗣官、復左大臣藤原道平、權大納言左近衞大將藤原經通、權大納言右近衞大將藤原道

教官、（公卿補任）二十二日甲寅、新田義貞攻破鎌倉、北條高時伏誅、鎌倉平、（太平記、梅松論）征夷大將軍守邦親王爲僧、（皇胤紹運錄）二十三日乙卯、車駕發船上山、大和守金持景藤執旗爲左、（景藤名據金勝院本）伯耆守名和長年帶劒爲右、鹽冶高貞前驅、朝山義連後拒、（義連名據天正本）左近衞中將藤原行房、勘解由次官藤原光守文服、其餘文武百官戎衣扈從、（太平記）二十五日丁巳、詔廢新主、（歴代皇紀）二十七日己未、幸書寫山、（太平記、書寫山行幸記）以安室鄉充不斷如法經料、二十八日庚申、幸法華山、（太平記）二十九日辛酉、新田義貞獲北條高時子邦時、斬之、壬戌晦、次兵庫、赤松則村、土居通治、得能通言奉迎、（天正本太平記）是月、平泉寺僧徒發兵、誅賊將淡河時治于越前、能登越中兵攻越中守護名越時有、時有伏誅、長門探題北條時直就僧俊雅降、時車駕在途、鎌倉捷聞未至、上下猶懷危懼、六月癸亥朔、新田義貞使至兵庫、上捷書、

於是始知高時伏誅、關東悉平、衆莫不歡呼、（太平記）敕授使者三人官、（天正本太平記）二日甲子、楠正成將兵七千至兵庫、謁見、天皇勞慰之、以其衆前導、四日丙寅、還京師、御東寺、廷臣百官奉迎、（太平記、日據公卿補任、神皇正統記、皇年代略記、保曆間記○太平記作五日）時議或疑當用重祚之禮、左大臣藤原道平奏言、陛下雖在外久、然躬奉神璽、臣以爲宜用巡狩還宮之儀、制可、（增鏡）五日丁卯、車駕還宮、（皇胤紹運錄、公卿補任、保曆間記○歷代皇紀、神皇正統記作四日、皇年代略

記、太平記、增鏡六日、元弘日記裏書七日、去正慶號、悉削新主所署官爵、皇年代略記、神皇正統記、公卿補任、廢關白、特詔左大臣藤原道平右大臣藤原經忠、參輔庶政、參取增鏡、天正本太平記、○按二書月日不詳、姑係于此、七日己巳、菊池武重等驛言、北條英時伏誅、九國悉平、太平記十二日甲戌、詔復源長通右大臣、藤原公賢内大臣、公卿補任十三日乙亥、以護良親王爲征夷大將軍、日據增鏡中務卿尊良親王、尊澄法親王、中納言藤原藤房、及僧圓觀文觀忠圓等、至

自遷所、太平記○本書月日不詳、姑係于此、二十六日戊子、本院薙髮、皇代記、皇年代略記、是月詔源定平楠正成討北條高時餘黨于柰良、招宇都宮公綱降之、由是降者相踵、阿曾時治大佛高直、二階堂貞藤等剃髮出降、秋七月九日庚子、斬時治高直等十五人於阿彌陀峯、特宥貞藤、太平記○按保曆間記、梅松論竝云、建武元年、本間澀谷作亂、因命誅時治等、今不取、二十六日丁巳、詔兵革始收、民宜安堵、日者遠近士民走集闕下、徒妨農業、其禁止之、凡除賊

黨外、將士所有食田領職、一皆襲故、不須更來請、如特旨所予奪、勿得準此、藥丸氏所藏綸旨、相馬家傳、野上文書、八月三日甲子、議軍士賞、太平記五日丙寅、左兵衛督足利高氏賜名尊氏、公卿補任九月二階堂貞藤陰圖不軌伏誅、太平記冬十月十二日壬申、中宮崩、追號後京極院、女院小傳、後宮略傳、公卿補任、○按太平記作八月二日、歷代皇紀十月六日、諸書葬闕、是月以參議源顯家爲陸奥守、與上野介結城宗廣奉皇子義良出鎭陸奥出羽、前大納言源親

房輔之、顯家以任重不練戎事固辭、詔曰、古者皇子皇孫及執政大臣子、内輔朝政、外總戎旅、方今海内統一、朝野俱治、文武之道何爲二揆、其遄往守爾藩屏、參取神皇正統記、元弘日記裏書、十一月敕四大寺、寫大藏經、慶之法勝寺、以薦戰亡士卒冥福、太平記十二月七日丁卯、立珣子内親王爲中宮、女院小傳、歷代皇紀、後宮略傳、十日庚午、詔號廢主爲太上天皇、詔朕恭承帝系、叨握神符、王道難覃、謝德於姬周之賢、庸昧可

恥、宣化於夷夏之俗、而皇太子謙讓合道、惠澤普及、今避儲位於青闈之月、伴仙遊於射岫之雲、雖無準的之舊蹤、加以禮制之崇敬、宜上尊號爲太上天皇、普告遐邇、俾知朕意、〔皇年代略記〕二十八日戊子、卜定祥子内親王爲齋宮、立藤原榮子爲女御、〔歷代皇紀〕是月以成良親王爲上野太守、出鎮鎌倉、以左馬頭足利直義爲相模守輔之、〔神皇正統記〕

大日本史卷之六十八終

大日本史卷之六十九

本紀第六十九

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

後醍醐天皇下

建武元年甲戌春正月十二日辛丑、營大內、以安藝周防租賦充其料費、又徵諸國地頭所入二十分一、始用楮幣、（太平記）二十三日壬

子、立恒良親王爲皇太子、（元弘日記裏書、皇年代略記、皇代略記、○歷代皇紀作二十四日）以左大臣藤原道平爲傳、（公卿補任）戊午晦改元、（公卿補任、元弘日記裏書、皇年代略記、東寺長者補任、○太平記作元弘三年七月誤）二月十八日丙子、太白犯昴、（皇年代略記）二十二日庚辰、右大臣源長通罷、二十三日辛巳、以前關白經忠爲右大臣、（公卿補任、○歷代皇紀作二十五日）二十八日丙戌、詔曰、國家有錢尚矣、自天平寶字至天德、改鑄十次、自近古外境之貨濫布民間、國錢不行、甚違彝典、當茲庶政方始、新命官鑄、欲以濟用便民、文曰乾坤通寶、其銅楮並用、交易莫滯、（建武二年記）三月九日丁酉、北條高時餘黨本間某澀谷某反、襲鎌倉、相模守足利直義討平之、（將軍執權次第）是春、高時餘黨規矩高政絲田貞義亦起兵筑紫、僧憲法據河內飯盛山、赤橋重時據伊豫立烏帽子山、詔修安鎭法於紫宸殿、（太平記、○本書作元弘三年、今從元弘日記裏書、三善資連高野山寄進狀、毛利家本太平記）夏四月戊午朔、日有食之、（東寺長者補任）五月九日丙

申、行幸權大納言藤原公宗北山第、（行幸部類記）出雲守護鹽冶高貞進千里馬、（太平記、○本書不係日）是夏、以皇子義良爲親王、（神皇正統記）秋八月十七日壬申、有鳥人首蛇身、夜鳴紫宸殿上、藤原廣有射獲之、（太平記）二十七日壬午、地震、（皇年代略記）九月九日甲午、內大臣藤原公賢罷、（公卿補任）以準大臣藤原定房爲內大臣、（公卿補任、歷代皇紀、）二十一日丙午、謁石清水宮、（太平記、年月日據東寺長者補任、略年代記鈔、○太平記作三月十一日而年不詳、西源院本天正本係二年、保曆間記

係是歲不日、二十三日戊申、行幸東寺、東寺長者補任二十七日壬子、行幸賀茂社、略年代記鈔冬十月五日庚申、權中納言藤原藤房棄官而去、公卿補任、歷代皇紀、七日壬戌、右大臣藤原經忠罷、九日甲子、前關白冬教為右大臣、公卿補任十四日己巳、觀笠懸於北山殿、建武二年記二十二日丁丑、禁征夷大將軍護良親王於馬場殿、○保暦間記作二十九日、是月河內守楠正成攻僧憲法、是月據元弘日記裏書土肥通治、得能通言、誅赤橋重時、少貳貞

經、大友貞宗、誅規矩高政、絲田貞義、竝傳首京師、太平記○按本書日不詳、姑係于此、月十一月十五日己亥、流護良親王於鎌倉、元弘日記裏書、參取梅松論、○太平記作二年五月三日二十八日壬子、行幸南禪寺、甲寅晦、還宮、園太暦貞和元年是月津輕賊時如高景降、元弘日記裏書○二人姓闕十二月十三日丁卯、地震、皇年代略記是歲以上野太守成良親王為征夷大將軍、神皇正統記、職原鈔、○按成良為將軍、蓋在護良被幽之後、而本書不書月日、今姑係於此、置關東廂番奧州評定衆、掌治其方事、

置新決所于郁芳門側、以卿相為頭人、分治五畿七道事、其大事天皇親臨記錄所裁斷、卿相及太史外記判事、河內守楠正成伯耆守名和長年等預焉、凡聽事一月六日、上直分為三番、置武者所、以新田氏族為頭人、參取建武二年記、太平記、梅松論、○按時又置窪所、不詳何為而設、今略之、梅松論以記錄所窪所為一、不與建武記合、諸國將士悉朝京師、以參議足利尊氏為武藏常陸下總守護、相模守足利直義遠江守護、左馬助新田義貞上野播磨

守護、新田義顯越後守護、兵庫助脇屋義助駿河守護、楠正成攝津河內和泉守護、和泉據攝津兵庫廣嚴寺楠正成靈牌名和長年因幡伯耆守護、赤松則村播磨守護、尋奪則村職、授以佐用莊、以災異修治神泉苑、以禳時災、太平記

二年乙亥春正月、行和歌會于清涼殿、太平記二月二日乙卯、號準三宮懽子內親王曰宣政門院、女院小傳、歷代皇紀、四日丁巳、左大臣兼皇太子傅藤原道平薨、十六日己巳、內大臣藤原

定房罷、以右大臣藤原冬教爲左大臣、前内大臣藤原公賢爲右大臣、權大納言藤原經通爲内大臣、三月五日戊子、藤原公賢兼皇太子傅、（公卿補任）夏六月二十二日壬申、權大納言藤原公宗謀反、使左近衛中將源定平、左衛門尉結城親光、伯耆守名和長年收之、禁于定平宅鞫問、（月日據公卿補任）秋七月、北條時行嘯聚其餘孽作亂、族人名越時兼應之、（太平記、月據元弘日記裏書、）時行進攻鎌倉、相模守足利直義

使刑部大輔澀川義季、岩松恒家、下野守小山秀朝邀擊、全軍覆沒、（參取太平記、天正本太平記、梅松論、）直義出戰于井出澤、又敗、（梅松論）二十三日癸卯、直義害護良親王、奉征夷大將軍成良親王而走、（太平記、梅松論、日據天正本太平記、鎌倉理智光寺牌、）大江時古奉成良親王逃歸京師、（元弘日記裏書）二十八日戊申、北條時行入鎌倉、（保曆間記）八月二日辛亥、藤原公宗伏誅、（公卿補任、尊卑分脈、神皇正統記、月日據補任分脈、）以參議足利尊氏爲征東將軍、往討北條時

行、（尊卑分脈、吉野事書案、）尊氏不辭而發、（梅松論）三日壬子、敕令修大威德明王法于西大寺、禱平賊、鎌倉大風、大佛殿壞、賊壓死者五百餘人、（毛利家本太平記）八日丁巳、足利尊氏與北條時行兵戰于橋本、大破之、（太平記）十九日戊辰、時行戰敗逃竄、尊氏入鎌倉、（梅松論）越前人瓜生保、加賀人敷地上木山岸（○名闕）等攻名越時兼于大聖寺斬之、（太平記○本書月日不詳、姑係于此、）遣藏人頭源具光召足利尊氏還京師、尊氏不奉詔、（保曆間記、

梅松論、）冬十月、足利尊氏自署征夷將軍東國管領、據鎌倉反、以誅新田義貞爲名、（太平記）閏月十五日壬辰、行幸神護寺灌頂、十七日甲午還宮、（園太曆）十一月戊申朔、日南至、公卿表賀、（朔旦冬至記引大外記賴元記）十二日己未、以參議源顯家爲鎮守府將軍、十九日丙寅、左大臣藤原冬教罷、以前右大臣藤原經忠爲左大臣、（公卿補任）以中務卿尊良親王管領東國、賜節刀于左兵衛督新田義貞、率兵部少輔脇屋義助、

治部大輔宇都宮公綱、千葉貞胤、肥後守菊池武重、左近衞將監大友貞載、鹽冶高貞等奉尊良親王以討足利尊氏、義貞由東海道、日據元弘日記裏書、今川家本毛利家本北條家本西源院本南都本太平記、○本書作八日大智院宮、○名闕彈正尹忠房親王、權中納言藤原實世、修理亮江田行義、左京大夫大館氏明等將五千餘騎、○諸異本作六千由東山道、信濃國司藤原光繼發二千餘騎○諸異本作三千會之、詔義良親王、鎭守府將軍源顯家發陸奥出羽兵、竝與大軍會、太平記二十二日己巳、新院薙髮、皇年代略記、皇胤紹運錄、二十五日壬申、新田義貞與足利尊氏兵戰于矢矧走之、二十六日癸酉、細川定禪起兵讚岐、應尊氏、高松守將舟木賴重討之不克、賴重名據舟木系圖備前人飽浦信胤、田井信高叛據福山城、兒島高德、淺山條就討之不克、太平記、條就名據金勝院本、二十七日甲戌、詔削足利尊氏等官爵、公卿補任越中守護普門利清叛、能登國司近衞中將源定清死

之、太平記、近衞中將據天正本、十二月五日壬午、新田義貞與足利直義戰于手越河原、大破之、梅松論、太平記、十二日己丑、新田義貞進與足利直義相持箱根、脇屋義助、大友貞載、鹽冶高貞等奉尊良親王、與足利尊氏戰于竹下、敗績、左近衞中將藤原爲冬死之、貞載、高貞降尊氏、官軍大潰、退屯尾張、○梅松論曰、十一日義助戰竹下、十二日大友貞載降、未詳孰是、十九日丙申、先是赤松則村叛、丹波人久下時重、波波伯部爲光、中澤玄甫應足利尊氏、攻守護碓井盛景、盛景走攝津、於是召新田義貞還京、足利尊氏躡官軍後西上、招誘諸道兵、竝入京師、太平記延元元年丙子、春正月戊申朔、罷朝拜節會、園太曆貞和三年、太平記、七日甲寅、白馬節、徹笛、園太曆貞和三年、延曆寺僧徒拒足利尊氏於伊岐洲、大敗、太平記○梅松論作去年十二月晦使左兵衞督新田義貞守大渡、權大納言藤原公泰、兵部少輔脇屋義助、守山崎、河內守楠正成守宇治、參議源忠

顯、伯耆守名和長年、左衛門尉結城親光等守勢多、權大納言藤原師基守峯堂、太平記、參取梅松論、八日乙卯、久下時重等攻峯堂、師基敗走、時重等進據大江山、九日丙辰、兵部大輔江田行義擊久下時重等走之、尊氏攻大渡不克、○保曆間記作七日十日丁巳、細川定禪赤松範資攻山崎、官軍敗退、宇都宮公綱、大友氏泰、降于足利尊氏、新田義貞退還京師、天皇奉神器及法皇如延曆寺、御大宮彼岸所、太平記細

川定禪陷京師、放火燒宮闕、十一日戊午、足利尊氏入京師、參取太平記、梅松論、○尊氏入京師、元弘日記裏書作十日、保曆間記十三日、結城親光欲刺尊氏、不克死之、尊氏遣細川定禪據園城寺、太平記十三日庚申、鎮守府將軍源顯家奉義良親王、尾足利尊氏至近江、參取太平記、神皇正統記、日正統記、○太平記作十二日據攻佐佐木氏賴觀音寺城拔之、太平記十四日辛酉、顯家至坂本、官軍大振、神皇正統記、○元弘日記裏書作十二日、保曆間記太平記十三日、十五日壬戌、源顯家新田義

貞攻園城寺、千葉宗胤戰死、官軍繼進縱火、細川定禪敗走、將與足利尊氏軍合、義貞追擊又破之、○本書爲十四日事、元弘日記裏書、梅松論、竝作十六日、然前條顯家至坂本、神皇正統記係十四日、則其攻園城寺、爲十五日明也、十六日癸亥、進與尊氏戰、尊氏潰走、其夜義貞爲定禪所襲、引軍還坂本、尊氏又入京師、二十日丁卯、大智院宮、彈正尹忠房親王、權中納言藤原實世、信濃國司藤原光繼等師二萬自東山道、還至坂本、二十七日甲戌、藤原實世、源

顯家、新田義貞、楠正成、名和長年、前上野介結城宗廣等、擊足利尊氏走之、丁丑晦、官軍又與尊氏戰于京師、尊氏大敗、遂西走、收復京師、太平記、日據梅松論、元弘日記裏書、西源院本太平記、○本書作二十九日車駕還御成就護國院、神皇正統記、皇年代略記、二月二日己卯、移居前右大臣藤原家定華山院第、歷代皇紀、皇年代略記、太平記、○公卿補任作四日治部大輔宇都宮公綱、式部大輔武田某來降、六日癸未、源顯家、新田義貞、楠正成、追足利尊氏至攝津、與

足利直義戰于豐島、破走之、太平記先是正成遺族人左近衛將監正家于常陸、徇郡邑、是日與尊氏別將佐竹義冬戰于久慈西、斬之、參取常陸藥王院文書、常陸清音寺文書、七日甲申、義貞破直義于湊川、太平記十一日戊子、義貞破細川和氏等于瀨川、梅松論十三日庚寅、足利尊氏足利直義走筑紫、神皇正統記、元弘日記裏書、○太平記日不詳、諸異本係八日、梅松論十二日、源顯家新田義貞等振旅還京師、參取太平記、神皇正統記、○太平記作八日二十九日丙午、改元、元弘日記裏書、東寺長者補任、皇年代略記、○太平記作二十五日、公卿補任三月二日、元祕別錄三月二十九日、以義良親王爲陸奧太守、神皇正統記源顯家爲鎭守府大將軍、職原鈔○本書日不詳、姑係于此、與結城宗廣奉以歸鎭、神皇正統記、參取元弘日記裏書、○太平記係三月少貳貞經叛、菊池武敏討克之、梅松論、太平記、是月仁木賴章據高山寺城、赤松則村據白旗峯、美作人菅江見弘戶諸族據宗義能仙菩提寺等城、備前人石橋和義據甲斐川三石等城、備中人莊眞壁氏等據勢山叛、太平記

三月二日己酉、內大臣藤原經通罷左近衛大將、權大納言兼右近衛大將藤原道教轉左近衛大將、權大納言藤原師平爲右近衛大將、公卿補任菊池武敏攻足利尊氏于多多良濱、不克、阿蘇大宮司宇治惟直、筑前權守秋月種道筑前權守及種道名據秋月系圖死之、四日辛亥、詔左近衛中將新田義貞管領山陽山陰十六國、往討足利尊氏、義貞會疾、江田行義及左馬助大館氏明先發、六日癸丑、江田行義等與赤松則村兵戰于播磨室山、敗之、太平記十六日癸亥、結城宗廣與相馬光胤戰于陸奧熊野堂不利、二十二日己巳、修理亮廣橋經泰攻相馬光胤小高城、不克、相馬家傳是月新田義貞發京師、圍赤松則村於白旗城、遣右衛門佐脇屋義助略定山陽道、太平記夏四月二日戊寅、號準三宮瓚子內親王曰章德門院、女院小傳、後宮略傳、○歷代皇紀係朔六日壬午、本院崩、歷代皇紀、皇年代略記、太平記、八日甲申、葬後伏見天皇、皇代記、皇年代

略記、十八日甲午、備後守兒島範長及子高德舉兵于備前熊山、與脇屋義助約、攻船坂拔之、義助進圍三石城、江田行義進圍柰義能仙菩提寺三城、式部大輔大江田氏經進據福山城、二十六日甲辰、足利尊氏率兵東上、太平記五月六日辛亥、石清水宮鳴動、皇年代略記十六日辛酉、足利直義陷福山城、大江田氏經退走、十八日癸亥、脇屋義助解三石圍、二十日乙丑、兒島範長與赤松則村兵戰于播

磨死之、日據毛利家本○本書作十日二十三日戊辰、新田義貞解白旗圍、退屯兵庫、詔楠正成赴援、太平記、日據金勝院本、○本書作十三日二十四日己巳、源顯家討相馬光胤斬之、相馬家傳二十五日庚午、新田義貞與足利尊氏戰于兵庫不利、河内守楠正成死之、太平記、梅松論、二十七日壬申、天皇又奉神器如延曆寺、公卿補任、神皇正統記、天正本毛利家本今川家本北條家本南都本太平記、○見行本太平記作十九日、歷代皇紀、皇年代略記二十五日、廢主稱疾留京師、甲戌晦、足利尊氏陷京師、元弘日記

裏書六月二日丙子、足利尊氏遣直義犯延曆寺、太平記、直義據梅松論、○梅松論作五日三日丁丑、足利尊氏迎法皇廢主豐仁親王遷于男山、公卿補任、北條家本西源院本南都本太平記、七日辛巳、足利尊氏兵犯西坂、新田義貞、宇都宮公綱拒破之、參議源忠顯、近衛少將藤原雅忠死之、○忠顯死梅松論作五日八日壬午、足利尊氏兵犯東坂、脇屋義助、名和長年等拒破之、太平記十四日戊子、足利尊氏奉法皇廢主豐仁親王移營于東寺、參取皇年代略記、北

條家西源院南都本太平記、○公卿補任作十五日十七日辛卯、足利尊氏兵犯西坂、諸將拒破之、十八日壬辰、延曆寺僧光澄叛、導賊登山、官軍擊而殲之、二十日甲午、諸將擊破尊氏兵、虜其將高師重斬之、太平記足利直義退營于京師、梅松論甲辰晦、新田義貞與足利尊氏戰于京師、不利、梅松論、太平記、伯耆守名和長年死之、名和系圖、梅松論、常樂記、○太平記係七月十三日秋七月五日己酉、前權大納言藤原師基率北國兵至延曆寺、官軍又振、八日

壬子、藤原師基及新田義貞進戰不利、(○本書作十八日、蓋衍十字也、)十七日辛酉、延曆寺僧徒牒興福寺、戮力討賊、興福寺應之、遣權中納言藤原隆資于男山、絕川尻路、遣近衛中將源定平于宇治、絕大和路、額田爲綱奉大覺寺宮、(○按諸門跡譜、皇胤紹運錄、大覺寺宮、天皇子恒性也、然恒性以元弘三年流越中、尋見害、此所謂未知何人、)屯于長坂、絕丹波路、延曆寺僧兵守鞍馬路、愛智信樂兵扼勢多、(○按遣隆資以下、本書不日、姑係于此、)十八日壬戌、詔延曆寺永領近江國衙、增進七社九院封戶、賜僧徒輸軍粮者八百餘人邑、(日據西源院本、○本書作十七日、牒狀係六月、)二十三日丁卯、命藤原隆資新田義貞進軍、天皇親臨勞慰、剪所御紅袴以頒賜將士、隆資義貞剋期分道並進、隆資差誤先進、大敗、義貞血戰、遂不利、諸路軍並引還、(太平記、日據毛利家本、○本書係十三日、)八月十五日戊子、足利尊氏以豐仁親王稱帝于京師、是爲光明院、用建武號、(歷代皇紀、皇年代略記、公卿補任、天正本太平記、○補任用建武號、係六月十五日、蓋誤、)九月十七日

庚申、先是興福寺僧徒叛、足利高經絕北陸道、小笠原貞宗屯野路篠原、並扼延曆寺餉道、官軍大困、(太平記、)於是延曆寺僧徒攻小笠原貞宗、二十三日丙寅、復攻之、並不利、佐佐木高氏至近江、梗延曆寺糧運、(參取諸異本太平記、梅松論、○見行本太平記、曰、高氏詐降、請爲近江守護、討貞宗、聽之、高氏至近江叛、)壬申晦、脇屋義助討之、不克、(日據金勝院本、)冬十月、足利尊氏上書請降、且迎車駕于京師、天皇聽之、九日辛巳、敕新田義貞奉皇太子專勾當軍國事、往北國、更爲經略、(太平記、)十日壬午、車駕還京師、御華山院、(皇年代略記、元弘日記裏書、太平記、○按梅松論作十一月、二十二日、保曆間記係十一月、不日、)足利尊氏置兵監衛、奪公卿以下官職、拘諸將士、新田義貞與藤原實世等奉皇太子及尊良親王赴北國、尊澄法親王走遠江、式部卿懷良親王走吉野、藤原隆資走紀伊、藤原師基藤原光繼源定平走河內、準大臣源親房走伊勢、(師基光繼及親房以下、據金勝院本、)十一日癸未、皇太子至近江鹽津、土

居通繩、得能通言在後、遇敵戰沒、千葉貞胤叛降、十三日乙酉、皇太子至越前、氣比社司氣比氏治奉迎入金崎城、是月足利高經、仁木賴章、高師泰等圍金崎城、十一月二日甲辰、足利尊氏請傳神器于新主、以新造劒璽鏡授之、太平記、十一月二日據毘沙門堂所藏記、歷代皇紀、皇年代略記、○按本書係十月十日誤十四日丙辰、新主以成良親王為其太子、神皇正統記、歷代皇紀、月日據皇紀、是月左近衛少將源顯信起兵伊勢、保曆間記十二月二十一日癸

己、天皇夜奉神器出華山院、幸吉野、刑部大輔大江景繁從之、太平記、月日據元弘日記裏書、皇胤紹運錄、皇年代略記、○本書係八月二十八日、公卿補任二十四日、歷代皇紀二十二日、有赤雲燭路、二十二日甲午、至內山、吉野拾遺○按太平記曰、內山東南山上有光、終夕不滅、至賀名生、吉水院僧宗信率兵來迎入吉野、帶刀楠正行、和田正朝、眞木定觀、三輪西阿、恩地牲河志貴湯淺等率兵迎衛、太平記二十九日辛丑、詔高野山禱難平、且約幸其地、賜高野山詔書僧徒不奉詔、足利尊氏寄高野山狀是月

造行宮于吉野、神皇正統記詔新田義貞以北國兵經略京師、越前人瓜生保起兵杣山、推式部大輔脇屋義治為將、足利高經分兵攻之、瓜生保擊走之、又攻高經新善光寺城拔之、○本書以瓜生起兵為十一月之事、今據前後之文考之、宜在明年正月、然無他書取證、姑書于此、足利尊氏幽成良親王、太平記○本書不詳月日、今姑書于此、

二年丁丑、春正月癸卯朔、罷朝拜節會、七日己酉、白馬節徹笛、園太曆貞和三年八日庚戌、陸奧

賊起、鎮守府大將軍源顯家討之不利、奉義良親王保伊達郡靈山、參取太平記、結城文書、保曆間記、元弘日記裏書、月日據元弘日記裏書、十一日癸丑、伊賀守里見時成及瓜生保、僧義鑑率兵援金崎、不克死之二月五日丙子、權中納言藤原實世、左近衛中將新田義貞、右衛門佐脇屋義助、出金崎城、往杣山招援兵、太平記、日據毛利家北條家南都天正本○本書係三月五日是月足利尊氏拘前參議藤原公量、源親光、殺前參議藤原宗兼、公卿補任三月六日丁

未、金崎城陷、皇太子見執、中務卿尊良親王、左近衛中將藤原行房、越後守新田義顯、大炊助里見時義、氣比氏治、氣比齊晴等死之、（太平記、齊晴名據金勝院本、）夏五月十二日壬子、中宮崩、（女院小傳○後宮略傳爲正月十三日、按二書竝云、建武四年正月十六日、進號曰新室町院、蓋此光嚴院之所爲也、故不取、諸書葬日闕、）六月五日甲戌、有星孛于北極、（皇年代略記）十三日壬午、震東寺塔、（東寺長者補任）是夏前治部大輔宇都宮公綱至吉野、宗良親王起兵于遠江井伊城、大館氏明

起于伊豫、兵部大輔江田行義守丹波高山寺城、治部大輔金谷經氏守丹生山、北條時行遣使奏請討足利尊氏自贖、詔許之、秋八月十九日丁亥、源顯家奉義良親王率兵西上、與足利義詮兵戰利根河、破之、（奉義良親王據神皇正統記、元弘日記裏書、）冬十二月二十八日甲午、左近衛少將宇都宮公綱、新田義興、北條時行等發兵會源顯家、進攻鎌倉、克之、足利義詮出走、是冬新田義貞保杣山、與足利高經相持、（太平記）

三年戊寅春正月八日庚辰、鎭守府大將軍源顯家發鎌倉、宗良親王、熱田大宮司尾張昌能、美濃守堀口貞滿塗與顯家會、與土岐賴遠、桃井直常等戰于青野原、敗之、（太平記、宗良親王據李花集、）二十三日己未、內大臣藤原定房薨、（公卿補任）二月十四日庚申、源顯家與高師泰戰于雲津川、破之、（參取三刀屋文書、難太平記、）進屯柰良、（太平記）是月源顯家與桃井直常戰于柰良及四

天王寺、敗績、走河內、義良親王宗良親王赴吉野、（參取元弘日記裏書、太平記、李花集、）左近衛中將新田義貞拔越前府城、足利高經走保足羽城、三月源顯家出師和泉、遣左近衛少將源顯信守男山、高師直圍之、（三月據元弘日記裏書）夏四月十三日戊寅、足利尊氏弑皇太子及成良親王、五月二日丙申、新田義貞攻足羽不克、（太平記）二十二日丙辰、鎭守府大將軍源顯家、檢非違使名和義高與高師直戰于界浦、死之、（參取公卿

補任、元弘日記裏書、太平記、伯耆卷、二十八日壬戌、左近衛少將源持定、源家房等援男山、元弘日記裏書是夏手詔促新田義貞救男山、義貞遣脇屋義助率兵赴援、秋七月三日丙申、彈正少弼大井田氏經等破普門利清于越中、富樫高家于加賀、遂進與新田義貞軍合、太平記、高家名據金勝院本、六日己亥、高師直焚石清水宮、太平記、石清水回祿記、皇年代略記、八日辛丑、源持定源家房戰敗出走、院家雜雜跡文十一日甲辰、源顯信棄男山走河內、日據元弘日記裏書、院家雜雜跡文、○本書係六月二十七日脇屋義助至敦賀、聞男山陷班師、太平記十九日壬子、地大震、二十二日乙卯、又震、皇年代略記閏月二日甲子、左近衛中將新田義貞攻藤島、死之、十一日癸酉、脇屋義助收兵保越前府、太平記二十五日丁亥、遣鎭守府將軍源顯信、及前上野介結城宗廣奉義良親王往鎭陸奥、節度東北諸軍事、準大臣源親房輔之、參取神皇正統記、元弘日記裏書、太平記、宗良親王、左兵衛佐新田義興左馬權頭

北條時行經略東國、竝由海路、太平記、宗良親王據李花集、九月十一日壬申、進至伊豆崎、遇颶風、義良親王船漂至篠島、顯信從焉、參取神皇正統記、元弘日記裏書、太平記、○正統記日不詳、太平記爲十二日、源親房到常陸、遂入關城、糾合義旅、參取神皇正統記、元弘日記、關城書裏書、前上野介結城宗廣卒于安濃津、太平記是月以懷良親王爲征西大將軍、掌九州節度、阿蘇社文書○後醍院系圖係二年

四年己卯、春三月、義良親王還吉野、神皇正統記、太平記、年月據正統記、秋七月十六日癸酉、右衛門佐脇屋義助攻足利高經于黑丸城、破之、高經奔加賀、太平記八月九日乙未、不豫、吉野拾遺、太平記、日據太平記、立義良親王爲皇太子、新葉和歌集、本書不日、姑係于此、十五日辛丑、天皇讓位於皇太子、神皇正統記、吉野拾遺、十六日壬寅、崩于吉野行宮、年五十二、神皇正統記、吉野拾遺、關城書裏書、元弘日記裏書、常樂記、東寺長者補任、皇年代略記、天正本太平記、○按歷代皇紀、保曆間記、係興國二年、李花集作延元五年、太平記作延元三年竝誤遺詔稱後醍醐天皇、神皇正統記○太平記曰、帝在位、慕

延喜之風、羣臣相識奉諡、河内守楠正行等宿衞戒嚴、太平記天皇天資英毅、博涉書史、篤信釋氏、於密宗禪旨、特所研究、神皇正統記、參取太平記、又留心典故、著年中行事、建武年中行事、爲治慕延喜之風、太平記、自還闕廢關白、躬攬庶務、多所更革、曰今日舊例乃往日新制、安知朕之新制、不復爲後日之舊例、梅松論、其聽訟記錄所、亦效後三條天皇之制焉、元德中、引元僧楚俊于正殿問法、楚俊善相、退曰、天皇有亢龍之悔、然必得

再登極矣、其幽六波羅、淨席擬石灰壇、日拜大神宮、如在位時、臨崩口敕妻子珍寶及王位、及命終時不隨者、若彼穆公殉三良、始皇藏寶玉、素所不取、但逆賊不平、四海未安、惟此爲恨、太子卽位、其任賢使能、錄義貞義助之功、務成恢復、以稱朕志、朕身雖瘞南山、而神常望北闕、若有隳命者、子匪繼體、臣乖蓋忠、言訖、左把法華經、右按劒以崩、羣臣亦奉其言、不改服御、北面葬于藏王堂之塔尾、太平記、塔尾據天正本、

大日本史卷之六十九終

大日本史卷之七十

本紀第七十

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

後村上天皇

後村上天皇諱義良、初名憲良、神皇正統記 後醍醐帝第八子也、神皇正統記、太平記、○按本書一說及天正本竝作第七子誤 母新待賢門院、夢抱日有身、神皇正統記 嘉曆

三年生、○按諸書無生年、據元弘日記裏書延元四年踐阼年十二、嬀嶺雜事記正平二十三年崩年四十一之文、元弘三年十月出鎮陸奧出羽、參議陸奧守源顯家爲之輔、元弘日記裏書、神皇正統記 建武元年夏爲親王、神皇正統記 二年十月足利尊氏反、詔發兵赴難、延元元年正月帥陸奧出羽兵、躡尊氏後西上、參取神皇正統記、太平記、○按太平記不載帝事、今據正統記係之帝下、皆倣此、 二月冠於省中、敍三品、爲陸奧太守還鎮、神皇正統記、元弘日記裏書、 二年正月國人多離叛、因與鎮守府大將軍源顯家保靈山城、參取元弘日記裏書、太平記、○保曆間記云、賊陷靈山、顯家逃宇都宮、 國人聞車駕幸吉野、又歸順、八月率源顯家發陸奧、十二月進討足利義詮於鎌倉克之、三年正月赴京師、○神皇正統記作二月 至青野原、與足利尊氏兵戰走之、太平記 二月赴奈良戰不利、元弘日記裏書、太平記、遂入吉野、元弘日記裏書 五月源顯家戰没、元弘日記裏書、太平記、○保曆間記係四月 閏七月還鎮、參取神皇正統記、元弘日記裏書、太平記、密詔許爲儲貳、神皇正統記、吉野拾遺、 前大納言源親房爲之輔、元弘日記裏書

左近衛中將源顯信爲鎮守府大將軍陸奧介、東國皆受其節度、神皇正統記 九月至伊豆碕、元弘日記裏書、神皇正統記、關城書裏書、○太平記、李花集、作天龍灘、 會大風暴起、船皆飄蕩、所御幾没、既而風忽變、還至伊勢篠島、元弘日記裏書、神皇正統記、太平記、關城書裏書、篠島據新葉和歌集、○篠島太平記作神風濱、 敕遣僧賴意慰問、新葉和歌集 四年三月還吉野、神皇正統記 立爲皇太子、新葉和歌集○月日闕、然據僧賴意和歌、蓋在是月也、 八月十五日辛丑、皇太子受禪於左大臣藤原經忠第、元弘日記裏書、神皇正統

（記、關城書裏書、吉野拾遺、經忠第據吉野拾遺、○舊記殘缺、攝關三公大將無所考、）十六日壬寅、帝崩、（歷代皇紀、關城書裏書、神皇正統記、元弘日記裏書、東寺長者補任、）是月葬後醍醐天皇、（太平記、毛利家本天正本太平記、）九月足利高經陷杣山城、右衞門佐脇屋義助走美濃、保根尾城、北國諸城皆陷、畑時能守鷹巢城、（太平記）冬十月五日庚寅、天皇即位於吉野行宮、時年十二、（關城書裏書、參取元弘日記裏書、）權中納言藤原隆資、權大納言藤原實世對掌機務、（太平記）時軍國多故、行宮湫隘、諸儀不行、

（太平記、關城書裏書、）僅遣使伊勢、奉幣大神宮、告即位、且拜神器而止、二十二日丁未、畑時能與足利高經戰伊地山死之、是月土岐賴遠土岐賴康陷根尾城、脇屋義助走吉野、十二月十七日辛丑、（十七日據異本）宣遺詔勸王、是時楠正行和田正朝竝率兵警衞行宮、征東將軍中務卿宗良親王在遠江、征西大將軍式部卿懷良親王在筑紫、鎭守府大將軍源顯信、左近衞少將新田義宗、左兵衞佐新田義興、其宗族江田大館及土居得能菊池三角櫻山氏等竝據國郡、圖恢復、是歲以故征夷大將軍護良親王子陸良爲征夷大將軍、（太平記、陸良名據細細要記、）是月京師雨水銀、（如是院年代記）

興國元年庚辰春二月、高師泰陷遠江井伊城、（鶴岡社務記）三月伊豫義徒奏請將帥、適會備前人飽浦信胤歸順、道路始通、遣刑部卿脇屋義助總督四國九國諸軍、夏四月二十三日丙午、脇屋義助至伊豫、官軍大振、（太平記）二

十八日辛亥、改元、（元弘日記裏書、○關城書裏書以改元係延元四年十月五日庚寅即位之下、和漢合運亦係延元四年、）五月五日丁巳、刑部卿脇屋義助卒、（印本尊卑分脈○太平記作五月四日病、經七日卒、）十九日壬寅、鎭守府大將軍源顯信赴于鎭、（元弘日記裏書）二十七日庚戌、高師冬陷下總駒城、（元弘日記裏書、鶴岡社務記、保曆間記、）二十八日辛亥、源顯信攻駒城大敗之、高師冬燒營而逃、（結城文書）是月修理大夫金谷經氏拔鞆城、細川賴春陷河江城、經氏與賴春戰千町原敗、秋九月三日

癸丑、賴春陷世田城、左馬助大館氏明死之、(太平記)

二年辛巳春二月、准大臣源親房上職原鈔、(關城書裏書)夏六月十六日丙辰、高師冬攻源親房近衞中將源顯時於小田城、(參取關城書、結城文書、常陸税所文書、)二十三日癸亥、源親房出兵擊高師冬、敗之、(結城文書)是月大旱、(禪林諸祖傳)冬十一月、小田治久降于高師冬、源親房走保關城、源顯時走保大寶城、請援修理權大夫結城親朝

不果、(參取結城文書、關城書、)

三年壬午、春三月二十日辛卯、法勝寺火、(太平記、和漢合運、東寺長者補任、興福寺略年代記鈔出、皇年代略記、)夏五月七日丁丑、永福門院崩、(歷代皇紀、女院小傳、○諸書并闕)六月十九日己未、征西大將軍懷良親王討島津貞久於薩摩、破之、(阿蘇社文書)是歲變災荐見、疱瘡流行、(皇年代略記、和漢合運、公卿補任、)

四年癸未、秋七月旱、(祇園修行日記)是歲關大寶城陷、准大臣源親房等走至吉野、(別府文書、常陸税所文書、)結城親朝降于足利尊氏、(結城文書)

五年甲申、夏五月、河內觀心寺火、(觀心寺文書)秋九月丁亥朔、日有食之、冬十一月二十日丙午、石清水宮鳴動、(園太曆)

六年乙酉、春、伊豆三島社火、下野雨石、鎌倉有光怪、鶴岡宮鳴動、(○本書不月日、今無所考、)秋七月彗星見東北、(園太曆)八月十七日戊辰、京師地震、(皇年代略記)是歲兒島高德、荻野朝忠、迎式部大輔脇屋義治于上野、起兵、朝忠與山名時氏

戰于丹波、而敗、朝忠出降、義治高德入京師、謀討足利尊氏、事敗走信濃、(太平記)

正平元年丙戌、秋八月四日庚戌、京師有羽蟻起中御門堀河、至大宮大路、九月十三日戊子、京師大風發屋、(園太曆)是歲改元、(太平記)

二年丁亥、春正月十五日戊午、京師地震、二十日癸亥、辰星歲星相犯、(園太曆、○按本書云、二月二日乙亥太白犯星、疑有脫誤、故不取、)夏五月六日戊申、京師地大震、(園太曆、皇年代略記、)秋八月八日戊寅、太白犯軒轅

女主星、九日己卯又犯、九月庚子朔、太白犯太微右執法、熒惑入輿鬼犯積尸、十一日庚戌、太白犯大微左執法、十三日壬子、又犯東蕃上將、十四日癸丑又犯、園太曆、十七日丙辰、河內守楠正行與細川顯氏戰于譽田林敗之、太平記藤井寺戰條作明年八月十四日、住吉戰條作明年九月十七日、今從今川家本毛利家本天正本太平記、園太曆、佐佐木系圖、冬十一月二十六日甲子、楠正行邀擊山名時氏細川顯氏於瓜生野大敗之、園太曆、太平記、

三年戊子、春正月五日壬寅、高師直師泰入寇、河內守楠正行及楠正時、和田正朝、和田賢秀拒戰四條畷死之、天皇避師直兵幸穴太、太平記、日據天正本毛利家本及園太曆、○本書賀名生皇居條係明年、誤、二十五日壬戌、師直縱火吉野行宮、神社佛寺蕩盡、園太曆、太平記、日據園太曆、楠正儀與師泰相持石川、太平記、夏五月旱、園太曆、紀伊官軍與足利直冬戰敗、參取園太曆、太平記、秋八月甲午晦、太白犯房第二星、九月二日丙申、犯心前星、三日丁酉、

犯心大星、園太曆、冬十月二十七日庚寅、光明院讓位於太子興仁、是爲崇光院、園太曆、公卿補任、皇胤紹運錄、皇年代略記、十一月四日丁酉、京師雷、園太曆、十一日甲辰、花園天皇崩、園太曆、公卿補任、皇胤紹運錄、常樂記、

四年己丑、春正月客星見、二月二十六日丁亥、將軍塚鳴動、空中有兵馬聲、太平記、二十七日戊子、清水寺火、園太曆、如是院年代記、太平記、皇年代略記、夏六月十九日己卯、京師地震、皇年代略記、二十六日丙戌、太白歲星辰星相犯、○太平記作十日、

二十八日戊子、月太白歲星辰星聚于東井、園太曆、閏月三日壬辰、石清水宮鳴動、有鳴鏑聲出宮北飛、園太曆、毛利家本太平記、○見行本太平記作六月三日、誤、空中有光如電相鬬、園太曆、○太平記作五日、毛利家本太平記作二十五日、是歲畠山國清代高師泰屯石川、與楠正儀相持、太平記、

五年庚寅、春正月十六日壬申、京師雷雨雹、祇園執行日記、二月二十三日戊申、京師雨物、狀如

貝子而赤色。園太暦 夏五月二十日甲戌、京師
地大震。天正本太平記 二十三日丁丑、京師地大震、
醍醐雜錄、祇園執行日記。 二十五日己卯、又大震。二十八
日壬午、京師大水。祇園執行日記。 癸未晦、京師地震。
祇園執行日記、皇年代略記。 六月十日癸巳、又震。十一日
甲午、又震。二十日癸卯、又震。二十二日乙巳、
又大震。二十五日戊申、又震。祇園執行日記。 秋七月
二日乙卯、又震、將軍塚鳴動。皇年代略記。 八日辛
酉、京師大風。八月十一日甲午、京師火。祇園執行

日記。 十七日庚子、春日社及若宮神殿柱生金
花銀花。園太暦。 冬十一月六日丁巳、京師雷。祇園
執行日記。 十二月九日庚寅、足利直義歸順、由是
將士歸降者衆。太平記。 十三日甲午、詔左馬頭
足利直義討足利尊氏。太平記、醍醐雜錄、吉野事書案。 畠山
國清棄石川園、桃井直常起兵越中、皆應之。
太平記、園太暦。 是月、京師地震。皇年代略記。
六年辛卯、春正月七日丁巳、左馬頭足利直
義等將兵進據男山、桃井直常與直義通謀、

率北國兵至延暦寺、逼足利尊氏于京師。十
三日癸亥、上杉朝定應足利直義。朝定據園太暦。 以
備後備中安藝周防兵與高師泰戰于備中
勢山敗。太平記。 十五日乙丑、足利義詮出奔。桃
井直常入京師。義詮與足利尊氏俱還攻直
常、直常敗走。十六日丙寅、足利尊氏師潰。遂
與義詮西奔。園太暦、太平記、東寺長者補任。 桃井直常還守
京師。十七日丁卯、上杉能憲起兵上野、遂應
官軍、攻高師冬於甲斐殺之。十七日據常樂記。 二月

四日甲申、石塔賴房等駐軍光明寺、尊氏來
攻、賴房等連戰敗之。足利直義遣石塔義基
畠山國清等救賴房。十七日丁酉、石塔賴房、
畠山國清與足利尊氏戰于御影濱、敗之。太平
記。 十九日己亥、京師地大震、將軍塚鳴動。皇年
代略記。 己酉晦、足利直義畠山國清復叛。參取園太
暦、太平記、東寺長者補任。 三月十七日丙寅、京師地震。夏
四月十一日庚寅、又震。皇年代略記。 五月己酉朔、
日當食、陰雨不見。六月六日癸未、寒如冬。秋

七月伊勢神宮松樹無故而倒、賀茂社松樹數千株枯、園太曆赤松則祐歸順、請奉征夷大將軍陸良起兵討足利尊氏、聽之、太平記八月伊勢外宮鳴動、空中有聲如馬銜鳴、外宮及荒祭宮有鳴鏑聲、續神皇正統記足利尊氏請降、不聽、園太曆九月七日癸丑、賀茂御祖社震動有鳴鏑聲、冬十月足利尊氏及義詮復請降、許之、二十四日庚子、詔足利尊氏討足利直義、園太曆、太平記、二十四日據園太曆所載綸旨、○東寺長者補任作二十五日、異本太平

大日本史　卷七十　本紀　十一

記二十三日、十一月四日庚戌、足利尊氏將兵赴關東、園太曆、東寺長者補任、○見行本太平記作十四日、異本太平記二十四日、義詮留守京師、請車駕還闕、詔許之、太平記七日癸丑、足利義詮廢崇光院及太弟直仁、去觀應號、奉正平號、參取公卿補任、歷代皇紀、皇年代略記、東寺長者補任、續神皇正統記、九月乙卯、多武峯火、園太曆十三日己未、先是藤原公賢事崇光院、嘗爲太政大臣、是日任左大臣、公卿補任十九日乙丑、京師地數震、二十四日庚午、議以今年方忌定待明

年春車駕還京師、是月藤原教忠兼左近衛大將中納言源顯能兼右近衛大將、園太曆、顯能本官據吉野拾遺、祇園執行日記、○教忠本官闕、無所考、十二月二十三日戊戌、敕左近衛中將源具忠收新劍璽鏡送行宮、園太曆、皇年代略記、皇胤紹運錄、○太平記作明年閏二月二十三日、公卿補任二十五日誤、二十六日辛丑、修日吉臨時祭、○按天皇即位、軍國多故、朝廷恒典、曠廢不行、至此京師將復、諸儀僅行、例所不書、今特書、下效之、二十八日癸卯、修內侍所神祭、園太曆號准三宮藤原廉子曰新待賢門院、園太曆、女院小傳、太平記、

大日本史　卷七十　本紀　十二

號光嚴院崇光院、並曰太上天皇、歷代皇紀、皇年代略記、以前左大臣藤原師基爲關白、園太曆、公卿補任、源親房準三宮、頒賞從駕羣臣有差、太平記是月崇光院所署關白藤原良基以下公卿百僚皆詣行宮、太平記、公卿補任、敕降官爵各一等、太平記是歲疾疫流行、園太曆

七年壬辰、春正月丙午朔、修四方拜、太平記、園太曆、京師地震、五日庚戌、敍位、園太曆八日癸丑、修法眞言院、太平記十五日庚申、京師地震、園太曆

足利義詮獻黃金三千兩、馬十匹、贈金帛馬匹於後宮百僚有差、太平記二月辛亥朔、長樂門院崩、女院小傳五日乙卯、修大原野祭、十三日丁亥、釋奠于京師、二十三日丁酉、詔停課京師地子錢、園太曆二十三日庚子、車駕發賀名生至東條、百僚戎衣、園太曆、太平記先是改穴生爲賀名生、園太曆二十八日壬寅、至住吉、御神主津守國夏家、園太曆、太平記、○太平記作二十七日左衛門尉楠正儀、和田正忠、及眞木野、三輪、湯淺、山本

氏、熊野八莊司、吉野十八鄕兵七千餘人警衛、左衛門尉據園太曆甲辰晦、奉幣馬于住吉社、社前松樹無故而折、是月由良信阿兒島高德竝奉密旨赴東國、使左近衛少將新田義宗、左兵衛佐新田義興、式部大輔脇屋義治等起兵討足利尊氏、太平記閏月十五日己未、行幸四天王寺、祇園執行日記、太平記、○園太曆作十六日右近衛大將源顯能率伊賀伊勢兵至行在所、太平記、園太曆、新田義宗新田義興、脇屋義治、發兵狥上野

武藏、將士響應、太平記、日據園太曆、○本書作八日十九日癸亥、車駕至男山、園太曆、太平記、祇園執行日記、御法印定清家、以兵塞赤井大渡、太平記、園太曆、祇園執行日記、五壇法略記鈔、定清名據天正本太平記、○善法寺文書作十五日二十日甲子、源顯能自鳥羽、近衛少將源顯經自唐櫃越、楠正儀和田正忠諸將自桂川、倶入京、與細川顯氏細川賴春戰破之、斬賴春、足利義詮走近江、日據今川家本北條家本毛利家本金勝院本西源院本太平記、及園太曆、東寺長者補任、祇園修行日記、常樂記、五壇法略記鈔、○本書作二十七日、天正本太平記二十

二日、敕準三宮源親房與源顯能總決京師諸務、征東將軍宗良親王起兵信濃、會新田義興、新田義宗、脇屋義治等與足利尊氏戰於武藏金井原大破之、金井原據鶴岡社務記、喜連川系圖、○本書作小手差原二十一日乙丑、使源顯能右衛門權佐藤原光資詔左大臣藤原公賢、迎光嚴院光明院崇光院及直仁親王、抵男山行宮、二十一日據園太曆、東寺長者補任、祇園執行日記、五壇法略記鈔、○本書作二十七日、椿葉記、皇代略記作二十日、二十三日丁卯、新田義興、脇屋義

治攻鎌倉、破走足利基氏、二十三日、據北條家本南都本二十八日壬申、足利尊氏襲宗良親王新田義宗於笛吹嶺、太平記宗良義宗逆戰小手差原敗績、參取太平記、新葉和歌集、是月陸奧國司源守親將兵至白河、園太曆、姓名據新葉和歌集、結城文書、三月三日丙子、從光嚴院光明院崇光院直仁親王於東條、園太曆、皇年代略記、○皇代記、東寺長者補任三日作四日、太平記東條作賀名生、四日丁丑、新田義興、脇屋義治棄鎌倉保河村城、太平記十五日戊子、足利義詮屯東山逼男山、源顯能退軍淀河、撤橋拒之、太平記、參取皇代記、

東寺長者補任、五壇法略記鈔、天正本太平記、二十一日甲午、足利義詮據東寺、源顯能退軍男山、赤松則祐叛降于義詮、太平記、日據祇園執行日記、○本書作十七日二十四日丁酉、斯波氏經、斯波氏賴、斯波詮經塞東條路逼男山、毛利家天正本太平記二十七日庚子、楠正儀、和田正忠、與細川清氏、細川顯氏、土岐康貞戰于荒坂山、正忠斬康貞、遂退保男山、太平記、是春飢、園太曆夏四月二十一日癸亥、左兵衛督藤原康長與山名師氏戰于淀河不利、日、據園太曆二十五日丁卯、足利義詮犯男山、源顯能、楠正儀、和田正忠等防戰於園殿口、佐羅科、太平記敵縱火民舍、官軍引還、參取園太曆、太平記、二十七日己巳、宗良親王發自信濃、新田義宗自越後、桃井直常自越中、吉良滿貞、石塔義房自駿河、土居得能自伊豫、率兵勤王、太平記二十九日辛未、春日山木多枯、園太曆五月四日丙子、藤原康長夜襲細川顯氏營敗之、

楠正儀和田正忠還河內、圖集兵攘男山敵、和田正忠卒、○本書不日、姑係于此、十日壬午、矢野某湯川莊司等○祇園執行日記、湯川莊司作湯淺入道、二百餘人叛降于足利義詮、園太曆、太平記、矢野某據太平記、二百據園太曆、○太平記二作三十一日癸未夜、天皇被甲御馬、潰圍幸奈良、敵前後來逼、權大納言藤原隆資等三百餘人死之、參取園太曆、太平記、○按太平記曰、某宮及圓明院大納言、三條中納言雅賢皆死、然園太曆引藤原公泰書曰、隆資之外、更無失命之人、據此太平記蓋誤、一宮有種逼天皇、藤原康長擊踣之、至

木津川敵、又圍而射之、矢及御鎧、康長單騎防戰、忽有兵百餘來、擊敵走之、（太平記）十二日甲申、道招提寺還賀名生宮、（園太暦、太平記、細細要記、）是月、宗良親王新田義宗等聞男山陷、引兵而還、（太平記）六月二日癸卯、幽光嚴院・光明院・崇光院・直仁親王於賀名生別宮、（參取園太暦、太平記、○吉野拾遺作春）秋八月十二日壬子、蚩尤旗見于西方、（園太暦）十七日丁巳、足利義詮奉光嚴院子彌仁親王稱帝于京師、是爲後光嚴院、（園太暦、皇

胤紹運録、歷代皇紀、今川家本毛利家本太平記、○太平記作二十七日誤）九月山名時氏・山名師義起兵伯耆、徇出雲・因幡隱岐、歸順、（太平記）冬十一月、楠正儀・吉良滿貞、石塔賴房擊攝津守護代某、走之、足利直冬歸順、（園太暦○太平記作正平九年）

八年癸巳、春三月二十三日辛卯、吉良滿貞石塔賴房等與土岐賴康戰于吹田、不利、是月、鎮西諸將應右兵衛佐足利直冬、兵勢大振、伊豆守山名時氏收美作、（園太暦）夏四月五日壬寅、京師大風、眞言院壞、（東寺長者補任）五月七日癸酉、山名時氏等發伯耆、敕大納言藤原教忠・大納言藤原隆俊・左兵衛督藤原康長・左馬頭楠正儀・和泉守和田正武・彈正少弼赤松氏範等、率和泉河内大和紀伊兵會時氏、（太平記、教忠據園太暦、）六月九日乙巳、諸將與足利義詮戰於神樂岡、破走之、官軍收京師、（園太暦、太平記、東寺長者補任、常樂記、○皇年代略記作六日、今川家本北條家本南都本太平記七日、續神皇正統記二日、）十三日己酉、掃部助堀口貞祐

邀擊足利義詮于眞野浦、（太平記）斬其將佐佐木秀綱、（園太暦、太平記、）十七日癸丑、詔公卿預後光嚴院踐阼及從其東走者、一切解官沒居第、遣中納言藤原宗房・前大藏卿師治（姓闕）按撿之、（園太暦）秋七月二十四日己丑、足利義詮及赤松則祐進逼京師、（園太暦、太平記、二十四日據園太暦、）山名時氏引還伯耆、（太平記）諸軍皆退、（園太暦、太平記、東寺長者補任、○皇年代略記作二十五日）二十六日辛卯、足利義詮入京師、（園太暦）九月二十一日乙酉、足利尊氏

以後光嚴院入京師、東寺長者補任、歷代皇紀、皇年代略記、園太曆、二十四日戊子、有羽蟻起石清水宮、是月以右兵衞佐足利直冬爲總追捕使、是歲旱霖洪水、園太曆

九年甲午、夏四月十七日己酉、準三宮源親房薨、常樂記、冬十一月戊子朔日南至、園太曆、公卿補任、四日辛卯、太白犯哭星、園太曆、十二月十三日庚午、右兵衞佐足利直冬、伊豆守山名時氏、發伯耆兵討足利尊氏、足利高經與播磨

守桃井直常率北國兵應直冬、二十四日辛巳、足利直冬等進到丹波、足利尊氏以後光嚴院走近江、太平記、二十四日據歷代皇紀、皇年代略記、東寺長者補任、毛利家本天正本太平記、○本書係明年正月十二日

十年乙未、春正月十日丁酉、播磨守桃井直常至京師、園太曆○太平記作十三日、天正本太平記、東寺長者補任十六日、十六日癸卯、尾張守足利高經至京師、天正本太平記、二十二日己酉、右兵衞佐足利直冬、伊豆守山名時氏至京師、園太曆、東寺長者補任、時氏據毛利家本太平記、○見行本太平記係九年誤、足利尊氏據延曆寺、東寺長者補任、○太平記係二月四日、二月四日辛酉、足利直冬、足利高經、桃井直常等據東寺、遣大納言藤原隆俊、左兵衞督藤原康長據男山、山名時氏、右衞門佐山名師氏與足利義詮戰于神南山敗績、是月足利高經桃井直常等數戰于京師、三月十二日戊戌、諸軍與足利尊氏大戰于七條敗績、太平記、十二日據園太曆、東寺長者補任、北條家本西源院本南都本天正本太平記、○本書作十三日、十三日己亥、足利直冬

及諸將退保住吉四天王寺界浦、遂各引還、參取園太曆、東寺長者補任、太平記、二十二日戊申、足利尊氏足利義詮入京師、是月有羽蟻起興福寺金堂、夏六月十九日己酉、京師大風發屋、是月神泉苑池水涸、園太曆、秋八月八日辛酉、聽光明院還京師、園太曆、皇年代略記、是月征東將軍宗良親王起兵信濃、諏訪祝某仁科某等應之、園太曆

十一年丙申、春正月九日庚寅、京師大風雷、

足利高經叛降于足利尊氏園太曆二月十七
日戊辰震興福寺東金堂及塔災園太曆、興福寺略年
代記秋七月三日辛巳京師地大震園太曆八月
十四日壬戌京師大風皇年代略記、歷代皇紀洪水太
政官廳門倒宇治橋壞園太曆、東寺長者補任是歲京
師多盜園太曆
十二年丁酉春二月十八日癸亥聽光嚴院
崇光院直仁親王還京師參取園太曆、太平記、皇年代略記、皇
胤紹運錄秋閏七月二十二日甲午廣義門院崩

歷代皇紀、常樂記○後宮略傳作二十一日、諸書葬日闕冬十一月二十
二日壬戌太白犯哭星二十五日乙丑熒惑
犯天江第二星二十九日己巳仍犯十二月
八日戊寅太白歲星相犯園太曆是月避方忌
於前關白師基第新葉和歌集
十三年戊戌春肥前守菊池武光與一色直
氏等戰走之太平記五月二十四日壬戌京師
地大震歷代皇紀六月戊辰朔日當食陰雲不見
園太曆、東寺長者補任秋八月十九日乙酉左大臣藤

原實世薨○按正平七年藤原公賢任左大臣、而實世代任年月無所考九
月四日庚子京師地大震園太曆冬十月十日
乙亥左兵衛佐新田義興爲足利基氏所誘
殺太平記、井伊系圖
十四年己亥春正月十日甲辰京師雷園太曆
三月肥前守菊池武光擊畠山國久拔三股
六笠二城少貳賴尚阿蘇大宮司宇治惟時
叛武光攻拔其九寨太平記、年月據今川家本毛利家本北條家本
金勝院本西源院本南都本○本書作十三年十一月蓋誤夏四月二十

九日辛卯新待賢門院崩源通冬願文、女院小傳○太平記係
前年四月十八日、諸書葬日闕帝諒闇三年新葉和歌集六月春
日社鳥居前地陷可十五丈興福寺佛像左
脇流血秋七月二十三日甲寅眞木島河水
竭二十四日乙卯復舊園太曆是月征西大將
軍懷良親王率菊池武光等討少貳賴尚八
月十六日丙子大戰于大原權大納言藤原
親弘以下卿相將士多戰死菊池武光奮戰
遂大敗之賴尚走保寶萬嶽太平記冬十一月

畠山國清率關東兵入京師、月據園太曆十二月足利義詮發兵、與國清南侵、是冬、以賊將犯行宮、園太曆、太平記、車駕遷自天野、入金剛山、御觀心寺、太平記○按、先是自賀名生徙天野年月、諸書無所考、十五年庚子、春正月、左馬頭楠正儀、和泉守和田正武城赤坂福塚、其河邊某等城平石、眞木野某酒邊某等城八尾、大和河内兵城龍泉峯、大納言藤原隆俊守紀伊最初峯、二月十三日辛未、畠山國清進屯津津山、丹下股野譽田酒勾水速湯淺志貴諸氏叛降于國清、夏四月五日辛酉、藤原隆俊與畠山義深戰于龍門山、大敗之、紀伊守護代伊勢守鹽谷某戰死、十一日丁卯、藤原隆俊與畠山義深等又戰龍門山、敗績、走保阿瀨川城、十二日戊辰、住吉社鳴動、社前楠樹無故而折、祀住吉日吉神於行宮、修法百日以禳之、敕征夷大將軍陸良親王率彈正少弼赤松氏範等討畠山國清、○敕以下本書不日、而出于藤原隆俊敗之後、故係

此、二十五日辛巳、陸良親王反、焚賀名生行宮及公卿第宅、二十六日壬午、遣前關白師基討之、陸良親王赤松氏範敗走、閏月乙卯晦、土岐直氏、細川清氏、赤松範實陷龍泉城、今川範氏、佐佐木氏賴、佐佐木信詮陷平石城、八尾守將眞木野某等棄城走、五月三日戊午、畠山國清等合軍攻赤坂城、八日癸亥、和田正武夜襲敵營不利、正武楠正儀退保金剛山、秋七月、楠正儀攻杉原某水速城、拔之、恩地某牲川某攻根來僧徒于春日山城破之、阿瀨川定佛、山本某田邊別當某擊湯川莊司于鹿瀨蕪坂、走之、伊豆守山名時氏攻赤松貞範、拔其六城、仁木義長歸順、太平記九月、行幸住吉社、新葉和歌集、李花集、詔征東將軍宗良親王率兵討敵、以北道地凍不果、李花集刑部卿石塔賴房與仁木義住率伊賀伊勢兵、擊佐佐木氏賴于近江而敗、義住叛降于足利義詮、是歲旱飢、疾疫流行、道殣相望、太平記

十六年辛丑、春三月庚辰晦、京師火、太平記 夏四月辛巳朔、日當食、陰雲不見、後愚昧記 六月二十日己亥、地大震、後愚昧記、皇年代略記、○太平記作十八日 阿波雪港海溢、漂没居民廬舍一千七百餘家、太平記 二十一日庚子、京師地大震、後愚昧記 二十二日辛丑、京師雨雪、人畜凍死、太平記 二十四日癸卯、京師地大震、二十五日甲辰又震、後愚昧記 二十七日丙午、又大震、四天王寺金堂及奈良堂舍多壞、如是院年代記、歷代皇紀、皇年代略記、日據後愚昧記、

秋七月三日壬子、又大震、二十四日癸酉、又大震、後愚昧記 難波浦海溢、死者數百人、阿波鳴戶潮涸、有巨鼓見石上、是月伊豆守山名時氏降美作八城、但馬人長信綱與阿保信禪應時氏、兵勢復振、太平記 八月己卯朔、京師地震、後愚昧記 六日甲申、肥前守菊池武光與松浦黨戰于飯盛山、破走之、七日乙酉、菊池武光攻香椎營、大友氏時、少貳賴尚潰走、太平記 十九日丁酉、京師大風、歷代皇紀、○北條家本南都本太平記作十七日 二十四日壬寅、地大震、紀伊地裂、諸國堂舍多倒、修造四天王寺金堂、○按本書云、有二龍飛入四天王寺、金堂壞、敕修法禳之、今不取、據後愚昧記、金堂壞月日亦異、 九月二十八日丙子、左馬頭楠正儀、和泉守和田正武、擊佐佐木秀詮、佐佐木氏詮于攝津、斬之、太平記 冬十月細川清氏歸順、後愚昧記、太平記、冬十月據後愚昧記、 細川氏春徇淡路、松山某據攝津香下城應官軍、十一月四日辛亥、山名時氏拔倉懸城、太平記 十四日辛酉、京師地大震、月犯畢、後愚昧記 敕前關白師基、大納言藤原隆俊、中納言藤原邦光、刑部卿石塔賴房、相模守細川清

氏、楠正儀、和田正武等大舉討足利義詮、十二月三日庚辰、細川氏春率淡路兵至界浦、先是赤松範實歸順、至是率兵會官軍、藤原邦光據毛利家本、天正本太平記 八日甲申、諸將竝進、佐佐木高秀、今川貞世等望風而走、太平記 足利義詮以後光嚴院走近江、太平記、皇年代略記、東寺長者補任、 官軍入京師、○東寺長者補任爲七日 焚義詮家、右京大夫仁

木義長與土岐頼康戰于伊勢、中務少輔仁木頼夏攻仁木義住于丹波、竝敗退、山名時氏自美作引軍還伯耆、赤松範實又叛還播磨、東西路塞、諸將不至、足利義詮兵又熾、二十六日癸卯、足利義詮至勢多、赤松氏範由水路將犯行宮、前關白師基率諸將旋軍、二十九日丙午、足利義詮入京師、太平記

十七年壬寅、春正月十三日庚申、震東大寺災、興福寺年代記 十四日辛酉、相模守細川清氏至

阿波、徇伊豫土佐讃岐、二月彗星容星竝見、夏六月伊豆守山名時氏分兵徇備前備中、高師秀潰走、時氏使富田直貞略備後、○直貞今川家本作眞貞 右兵衛佐足利直冬率兵援之、與宮兼信戰于宮内、敗走、直貞引還、右衛門佐山名師義與丹波但馬兵相持、糧乏引還、播磨守桃井直常徇越中、敗走、秋七月二十四日丁卯、相模守細川清氏與細川頼之戰於讃岐白峯、敗死、伊豫土佐阿波讃岐又陷、八月

十七日庚寅、左馬頭楠正儀、和泉守和田正武與佐佐木高氏兵戰于神碕、破走之、九月十六日己丑、楠正儀、和田正武、刑部卿石塔頼房攻赤松光範多田部城、火兵庫而還、二十七日庚子、菊池武義與斯波氏經戰于長者原、破走之、遂與菊池武光進至豐後、圍大友氏時少貳頼尚等、是歲大旱、冬十一月近江湖涸、○按天正本作涸四五尺、本書作三丈餘、未知孰是、諸國大飢、太平記

十八年癸卯、秋八月十六日壬子、修法華八講於莊嚴淨土寺、新葉和歌集 是歲河野通直歸順、豫章記

十九年甲辰、春三月行幸住吉社、新葉和歌集 是春大内弘世以周防長門叛降足利義詮、肥前守菊池武光厚東某與弘世戰於豐後、破之、是歲山名時氏、山名師義、仁木義長、石塔頼房、上杉憲顯皆相繼叛、太平記、頼房憲顯據毛利家本天正本、○二書皆云、桃井直常亦降、今不取、說見本傳、

二十年乙巳、春正月二十六日乙酉、前關白師基甍、是月京師數火、疱瘡流行、（大乘院年代記）夏五月二十四日壬午、慶四天王寺金堂、（新葉和歌集○皇代記係前年）秋八月十七日癸卯、行宮火、冬十一月疾疫流行、（大乘院年代記）

二十一年丙午、春二月十七日己巳、修法華八講於莊嚴淨土寺、（新葉和歌集）夏六月十三日甲子、京師大風、眞言院壞、（皇代記、大乘院年代記）是月京師飢疫、死者盈衢、（大乘院年代記）

二十二年丁未、春三月三日己卯、北野社火、（如是院年代記）

二十三年戊申、春三月十一日辛巳、天皇崩于住吉殿、（花營三代記、嶋嶺雜事記、○按遷御住吉殿年月無所考、）年四十一、葬于觀心寺、稱後村上院、（嶋嶺雜事記○本書葬地闕、然據廟陵記、觀心寺山陵見存、）帝幼鎭東藩、入纘大統、雖偏安吉野、粗修舊典、恒以恢復爲心、親蹈艱危、將士竭力、控制強敵、臨御三十年、征戰殆無虛日矣、（參取諸書大意）

大日本史卷之七十終

大日本史卷之七十一

本紀第七十一

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

長慶天皇
後龜山天皇

長慶天皇諱寬成、後村上帝第一子也、帝王系圖不知所出、正平二十三年三月、後村上帝崩、

天皇卽位於行宮、諸書不載受禪卽位、然後村上帝崩、承統者天皇也、故書于此、其餘例當書而不書者、南遷以後、載籍不備、無所考證、以皇弟熙成親王爲皇太弟、新葉和歌集、嘉喜門院集、正平二十三年八月有東宮與門院唱和之歌、新葉集福恩寺關白與後龜山帝唱和之歌、亦有東宮之字、則其爲皇太弟可知、今從之、夏四月、彗星見東北、五月十一日庚辰、石淸水雨雹、鳩嶺雜事記秋七月、新田義宗、脇屋義治起兵越後上野、與上杉憲將等戰不克、義宗戰死、義治走出羽、喜連川系圖

正平二十四年己酉、春正月二日戊戌、楠正儀降足利義滿、花營三代記是月、石淸水雨雹、皇年代略記三月、楠氏族討正儀、後愚昧記、花營三代記夏四月十二日丙子、桃井直常拔松倉城、花營三代記秋七月二十八日庚申、京師地大震、後深心院關白記、後愚昧記、東寺長者補任九月二日甲午、大風、後愚昧記辛酉晦、桃井直常戰敗、退保松倉城、冬十月十日辛未、赤松則祐、赤松光範攻彈正少弼赤松氏範於攝津中島、氏範兵敗、走四天王寺、花營三代記十一月二十二日癸丑、雷、後深心院關白記

是歲、河野通直復伊豫、豫章記

建德元年庚戌、春正月、脇屋義治等出軍武藏上野、與上杉朝房等戰不克、走信濃、喜連川系圖三月十六日乙巳、桃井直和軍越中、與斯波義將戰于長澤、死之、餘衆潰散、花營三代記秋八月二十日丙子、駿河以東諸國大風、損禾稼、相模國洪水、漂沒飯島人家三百餘宇、後愚昧記冬十月八日癸亥、有赤氣見北方、十一月七日壬辰、有白黑氣又見北方、有光、鳩嶺雜事記

是月、和田族攻楠正儀城、花營三代記 是歲改元、和漢合運

二年辛亥、春二月、肥後守菊池武光奉征西大將軍懷良親王起兵、謀復筑紫、與今川貞世戰于鎭西、參取花營三代記、吉川家傳、 三月十九日癸卯、京師地大震、鳩嶺雜事記 二十三日丁未、又震、後愚昧記、後深心院關白記、 後光嚴院讓位於子緒仁親王、是謂後圓融院、後深心院關白記、後愚昧記、花營三代記、歷代皇紀、椿葉記、鳩嶺雜事記、 夏五月六日戊午、大水、後深心院關白記

秋七月、桃井直常戰於越中不利、八月發兵討楠正儀、細川賴元援正儀、花營三代記 九月、有赤氣見、鳩嶺雜事記 冬十一月、官軍引還、湯淺族百餘人戰死、花營三代記

文中元年壬子、春正月二十六日乙亥、熒惑歲星相犯、後愚昧記 二月、菊池武政與今川貞世戰于肥後、敗之、菊池武朝申狀○本書唯曰文中年中、不指言某年月、考花營三代記、是年二月屢有事于九州、蓋此役也、故係于此、 夏四月二十八日乙巳、敕天野山金剛峯寺祈亂平、天野山金剛寺文書 六月二十七日癸卯、京師地震、後深心院關白記 是歲改元、和漢合運

二年癸丑、春正月二十八日辛未、京師雷、後深心院關白記 三月、細川氏春來犯行宮、花營三代記 夏四月癸酉朔、地大震、後深心院關白記 五月十一日壬子、京師雨雹、後深心院關白記、和漢合運、 是夏疾疫流行、大乘院年代記 秋八月二日辛未、天皇讓位於皇太弟、遜吉野、花營三代記 徙御玉川宮、古本帝王系圖、諸門跡譜、 稱曰太上天皇、元中二年、親書願文、有禱

于高野山、高野山所藏文書 明年、猶以院宣號令紀伊將士、吉野二見氏所藏文書 薙髮、法名覺理、號長慶院法皇、皇胤紹運錄 不知其所崩處、

後龜山天皇、諱熙成、後村上帝第二子也、皇胤紹運錄 母嘉喜門院、按嘉喜門院集、新葉和歌集、後龜山帝嘉喜門院唱和數首、孝愛併見、或以姑射山祝門院、或以後村上帝崩爲圓月失半、則其爲母氏無疑、 幼觀放鷹于菜摘川、有巨石負松、顧侍臣曰、持致內廷、將以獻上、及還索之、泣且不止、侍臣釆一小石、著以松枝、舁至進之、若重不任、

帝曰、不是侍臣誑曰、向致此石、當阨不通、有修驗者過咒之、石忽變小、臣復請再咒如舊、修驗者曰、前路多阨、大乃難通、臣然其言、且持至耳、帝色解曰、憾不復喚修驗者來咒以小汝大虛言也、衆服其慧、皆謂德業可期、吉野拾遺長慶帝卽位、立爲皇太弟、嘉喜門院集、新葉和歌集、文中二年癸丑、八月二日辛未、皇太弟受禪於行宮、花營三代記尊長慶帝曰太上天皇、高野山所藏長慶帝願文以皇弟太宰帥泰成親王爲皇太弟、宗良親王千首和歌跋曰、天授二年、天皇東宮詠千首、帝王系圖以泰成爲東宮、今據之、

十日己卯、内大臣藤原隆俊屯于天野、夜襲細川氏春營、不克死之、花營三代記、内大臣據新葉和歌集、九月二日庚子、大風發屋、後深心院關白記、歷代皇紀、皇年代略記、○花營三代記作十月二日冬十月五日癸酉、賀茂柰良社火、大乘院年代記六日甲戌、伊豆三島社火、花營三代記閏月二十二日己未、京師地震、後深心院關白記、大乘院年代記、十一月丁卯朔、日南至、後深心院關白記、後愚昧記、皇年代略記、三日庚子、賀茂神宮寺災、大乘院年代記是歲

大館氏清與仁木義長戰于鈴鹿、敗之、斬仁木義信、關岡家始末

三年甲寅、春正月二十五日辛卯、彗星見、大乘院年代記○後深心院關白記爲晦、是月疱瘡流行、皇年代略記夏五月二十六日辛卯、菊池武政卒、花營三代記

天授元年乙卯、春二月九日己亥、延曆寺火、歷代皇紀夏六月二十一日庚戌、太白歲星相犯、二十六日乙卯、大織冠像破裂、秋七月己未朔、日有食之、後深心院關白記八月和泉土丸城守

將宮內少輔橋本正督降足利義滿、攻紀伊、九月二十五日壬午、橋本正督陷紀伊諸城、花營三代記是歲歌合於行宮、新葉和歌集改元、和漢合運

二年丙辰、春三月十一日乙丑、行幸如意輪寺、設法會薦後村上天皇冥福、新葉和歌集、嘉喜門院集、夏六月二十三日丙午、彗星見東北、花營三代記、鳩嶺雜事記是歲菊池武朝與今川貞世戰于鎭西、吉川家傳、阿蘇宮文書、

三年丁巳、春二月十八日丙寅、御靈社火、後愚

昧記、別記、秋七月七日癸未、七夕宴、新葉和歌集、嘉喜門院集、八月六日壬子、京師火、後愚昧記、別記、花營三代記、十二日戊午、征西大將軍懷良親王與大內義弘戰于鎮西、敗績、菊池族百餘人戰死、二十日丙寅、大風發屋、後愚昧記、別記、

四年戊午、秋七月、疾疫流行、八月十三日癸丑、大風折木、後愚昧記、九月、征西大將軍懷良親王、菊池武朝、左近衞將監清原親善、與今川貞世戰于託磨原、破之、參取菊池武朝申狀、清原親善申狀、冬

十一月二日辛未、民部大輔橋本正高起兵紀伊、正高據天野金剛寺文書、討細川業秀、參取花營三代記、關岡家始末、七日丙子、足利義滿遣將士援業秀、花營三代記、大館氏清起兵應正高、與赤松義則戰破之、關岡家始末○本書日闕、十七日丙戌、官軍敗退、花營三代記、

五年己未、春正月二十二日庚寅、山名義理、山名氏清、山名時義攻土丸城、二十三日辛卯、城陷、二月九日丁未、義理等入紀伊、陷藤波城、十一日己酉、陷石垣城、花營三代記、三月二十一日戊子、奉阿波日置莊於熊野新宮、祈亂平、熊野山新宮文書、冬十一月六日己亥、河野通直與細川頼之戰于伊豫、敗死、豫章記、十二月四日丁卯、東寺西院火、後深心院關白記、東寺長者補任、皇年代略記、是歲彗星見、天下大飢、和漢合運、

六年庚申、夏五月五日丙申、下野人小山義政起兵、鎌倉大艸子、十六日丁未、義政與宇都宮基綱戰於裳原、斬之、花營三代記、鎌倉大艸子、六月十三

日壬申、官軍與土岐某、原某等戰于伊勢、破之、秋七月十七日乙巳、民部大輔橋本正高攻山名氏清、不克、死之、八月二十三日辛巳、高野政所姓名闕、隅田某等與山名氏清戰于紀伊、敗走、九月七日甲午、山名氏清陷生地城、花營三代記○按新葉和歌集、是歲冬帝在狹城山行宮、其事不詳、他書無所考、

弘和元年辛酉、冬十月壬子朔、日有食之、後愚昧記、十二月三日甲寅、中務卿宗良親王上新葉和歌集、新葉和歌集序、是歲改元、和漢合運、

二年壬戌春正月二十四日甲辰先是楠正儀歸順至是與山名氏清戰於河內平尾敗績(參取河內通法寺文書三刀屋文書和漢合運曆)閏月二十三日癸酉春日社火(皇年代略記和漢合符)夏四月十一日庚寅後圓融院讓位於太子幹仁是爲後小松天皇(歷代皇紀皇胤紹運錄皇年代略記)十三日壬辰小山義政與足利氏滿兵戰敗死(鎌倉大草子)是歲菊池武朝討族人反者于守山平之(菊池武朝申狀)

三年癸亥夏四月十九日壬辰京師地震二

十四日丁酉地大震二十六日己亥又震二十八日辛丑又大震(後愚昧記)

元中元年甲子改元(和漢合運)

三年丙寅夏六月小山若犬丸田村莊司則義擧兵各據其城秋七月小山若犬丸田村則義與足利氏滿戰于下總古河敗死(喜連川系圖)九月二日乙卯赤松氏範與足利義滿兵戰於播磨清水而敗氏範及子氏春家則祐春季則自殺(赤松系圖)

四年丁卯春三月小田五郎擧兵常陸據宍戸男體城(喜連川系圖)是歲疾疫流行(和漢合運)

五年戊辰夏五月上杉朝宗攻陷男體城小田五郎死之(喜連川系圖)

七年庚午秋七月大雨踰月不止是歲疾疫流行(和漢合運)

八年辛未冬十月十六日己巳京師地大震(明德記)是歲大飢疾疫流行(參取常樂記和漢合符)

九年壬申冬閏十月二日己卯先是足利義

滿議講和迎天皇于京師至是天皇駕腰輿發行宮關白以下皆從羣臣多戎衣(續神皇正統記)(○按皇年代略記作駕鳳輦未知孰是)車駕至大覺寺(續神皇正統記)(歷代皇紀)五日壬午天皇傳三神器於後小松帝(續神皇正統記歷代皇紀皇年代略記東寺長者補任)應永元年二月上尊號曰太上天皇(皇年代略記)薙髮法名金剛心(古本帝王系圖)三十一年四月十二日丁巳法皇崩稱後龜山院(和漢合運○葬地無所考)嘉吉三年九月前權大納言藤原有光等起兵入禁中取神

璽寶劍擁王子萬壽寺僧金藏主者據延暦寺、金藏主有光敗死、棄寶劍於清水寺傍、參取天地根元歷代圖、續神皇正統記、護正院文書、吉野遺民奉神璽擁王子二人據吉野、圓滿院僧圓胤亦還俗更名義有、義有據薩戒記、永享九年八月八日之條起兵于紀伊、長祿元年十二月、赤松家士佯降吉野、殺二王子、取神璽歸京師云、諸門跡譜、上月記、赤松略譜、應仁外記、○按二王子名諱昭穆、今無所考、吉野高峯山福源寺有一古牌、記曰一宮自天親王、二宮忠義大禪定門、紀伊色川氏所藏文書曰、色川鄉先皇舊地、其龍孫既幸大河内行宮、宜速赴

錦幡之下、乙亥八月六日忠義、那智山實方院所藏文書亦曰、乙亥七月十八日忠義、蓋忠義所謂二宮、而乙亥康正元年、吉野不及再建元、故以甲子行乎、竝未詳、楠氏系圖正理下亦曰、此時南帝後醍醐帝四代孫也、赤松反取神器之後、十津川皇居破而崩於北山高野上高福寺、此所謂南帝指一宮乎、雖系圖脱略、不足爲據、今姑附此以備參考、

大日本史卷之七十一終

大日本史卷之七十二

本紀第七十二

權中納言從三位源光圀修

男權中納言從三位綱條校

玄孫權中納言從三位治保重校

後小松天皇上　紀首揭北朝五主紀

後小松天皇諱幹仁、皇曾祖光嚴帝諱量仁、後伏見帝第一子也、母廣義門院、皇胤紹運錄、續神皇正統記、皇年代略記、正和二年七月九日乙未、花園天

皇養爲子、八月爲親王、○歷代皇紀作九月後醍醐天皇登祚、嘉曆元年七月立爲皇太子、元德元年十二月二十八日庚戌、加元服、皇胤紹運錄、皇年代略記、元弘元年秋八月、天皇擁三神器出幸笠置山、太平記九月二十日癸巳、皇太子以花園上皇詔、踐祚于土御門殿、皇胤紹運錄、皇年代略記、○按太平記以踐祚係十月十三日、誤、今從本書及歷代皇紀、公卿補任、儀遵後鳥羽天皇故事、皇年代略記、皇代略記、仍用元德號、元弘日記裏書、將軍執權次第、關白冬教、左大臣藤原基嗣、右大臣源長通、內大臣藤原季衡、權大納言兼左近衛大將藤原經通、權大納言兼右近衛大將藤原道教、並如故、公卿補任、歷代皇紀、冬十月、天皇還自笠置山、歷代皇紀、皇年代略記、皇胤紹運錄、光明寺藏書殘篇、六日戊申、帝受劒璽鏡于天皇、太平記、日據元弘元年劒璽渡御記、皇年代略記、皇胤紹運錄、二十五日丁卯、以故皇太子邦良子康仁爲親王、歷代皇紀是日號褀子內親王曰崇明門院、女院小傳、歷代皇紀、十一月八日己卯、立康仁親王爲皇太子、歷代皇紀、皇年代略記、増鏡、○元弘日記裏書、八日作七日、蓋誤、

以右大臣源長通爲傳、公卿補任、増鏡、正慶元年三月七日丙子、遷天皇于隱岐島、増鏡、太平記、梅松論、二十二日辛卯、帝卽位于太政官廳、年二十、歷代皇紀、皇年代略記、○太平記爲年十九、今據本書正和二年七月生之文訂之、四月二十八日丁卯、改元、公卿補任、増鏡、元秘別錄、天正本太平記、五月二十日戊子、上中宮號曰禮成門院、女院小傳、歷代皇紀、七月十三日辛巳、右大臣兼皇太子傅源長通罷、公卿補任、十月十四日庚戌、內大臣藤原季衡爲右大臣、大納言藤原通

顯爲内大臣、公卿補任、歷代皇紀、二十八日甲子、御禊、歷代皇紀、皇胤紹運錄、太平記、十一月八日甲戌、前右大臣藤原兼季爲太政大臣、公卿補任、歷代皇紀、十三日己卯、大嘗、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、增鏡、太平記、二年閏二月二十八日辛卯、天皇幸伯耆船上山、後醍醐帝賜名和長年宸翰、三月十二日乙巳、赤松則村來攻六波羅、鎮將北條時益北條仲時拒之不利、帝及皇太子後伏見花園二上皇幸六波羅、帝親臨勞軍士、五月六日波羅兵與足利尊氏等戰敗、七日己亥、北條時益北條仲時奉帝及二上皇皇太子、齎劒璽及歷世寶器而東、駕太平記、宮人奉神鏡安權大納言藤原公宗北山第、皇年代略記○太平記爲帝以三器而東、誤、北條時益爲敵所射殺、有流矢及帝左肱、九日辛丑至近江番馬、守良親王出兵要駕、北條仲時及從兵悉自裁、帝與二上皇皇太子御太平護國寺、以劒璽及諸寶器出付守良親王、參取皇代記、皇代略記、神皇正統記、皇胤紹運錄、太平記、梅松論、二十二日甲寅、北條

高時與新田義貞戰于鎌倉敗死、增鏡、太平記、梅松論、二十五日丁巳、帝遜位、歷代皇紀、二十八日庚申、帝及二上皇皇太子從太平寺還京師、置兵護衛、皇年代略記、後伏見上皇勸帝薙髮、帝不敢奉命、增鏡、六月五日丁卯、天皇還宮、皇胤紹運錄、公卿補任、十二月十日庚午、尊曰太上天皇、歷代皇紀、皇胤紹運錄、延元元年四月六日壬午、後伏見上皇崩、皇胤紹運錄、帝王編年記、神皇正統記、先是足利尊氏反、軍敗西奔、是月自筑紫擁兵東上、二十七日壬申、天皇出幸延曆寺、遣檢非違使大田全職迓帝及花園法皇豐仁親王、帝至北白河不豫、停駕久之、足利尊氏迎兵至、乃與法皇及豐仁親王還幸六條殿、太平記、六月三日丁丑、幸男山、十四日戊子、幸足利尊氏東寺營、皇年代略記、諸異本太平記、○見行本太平記爲帝自還居東寺、誤、八月太弟豐仁親王踐阼、帝總攝庶務、徙居持明院、參取神皇正統記、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、天正本太平記、○見行本太平記作光嚴帝重作誤崇光院登阼、稱光明院曰新院、皇代記、續神皇

正統記、帝更稱一院、與聽政事如舊、毛利家今川家天正本太平記正平七年八月、帝在賀名生、薙髮、公卿補任、園太曆、法名勝光智、十一年去勝字爲光智、是歲赴天野行宮、明年還京師、居伏見殿、皇胤紹運錄、皇年代略記、師僧疎石究禪旨、自是益厭世故、不欲復接人間、屛居小倉山下、既而復還伏見、御光嚴院、以其密邇京師、臣僚候問不絕、乃盡屛侍從、獨從僧順覺、〇順一作道雲遊四方、而時人始莫之知也、行歷當時戰爭地、深爲生

靈悔罪多所慙慨、及抵紀伊川、有危橋不可輙渡、躊躇久之、會武人數輩踵至、訶叱排帝墜水、順覺投身、撤而出之、被服透濕、肢體毀傷、順覺掩涕、扶入野亭更衣、往至高野山、有二僧追至、拜跪謝罪、請執役自贖、蓋前日排擠帝墜水者、帝喻遣還之、固請不肯去、及夜帝遣二人汲水、與順覺急出還伏見、途過賀名生行宮、謁後村上天皇、共語及戰爭間、上爲攬淚悵然、及辭出給以廐馬、不受、已還復

居光嚴院、以來候者尙多、出至丹波山國構庵居焉、貞治三年七月己巳崩、年五十二、卽葬其地、太平記、年五十二據皇胤紹運錄、皇年代略記、藏遺骨於金剛院、安御影於大光明寺、後深心院關白記、遺命稱光嚴院、皇胤紹運錄、皇年代略記、〇諸書葬日闕、光明帝諱豐仁、光嚴同母弟也、元亨元年十二月二十三日壬戌生、二年二月爲親王、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、延元元年八月十五日戊子、加元服、踐祚于權大納言藤原良基押小路第、皇年代略記、天正本太平

記、改延元元年用建武三年、公卿補任、皇年代略記、以左大臣藤原經忠爲關白、右大臣藤原公賢、內大臣藤原經通權大納言兼左近衞大將藤原道教、權大納言兼右近衞大將藤原師平、竝如故、歷代皇紀、公卿補任、二十二日乙未、帝幸足利尊氏東寺營、十一月二日甲辰、帝受劒璽鏡于後醍醐天皇、上天皇尊號曰太上天皇、皇胤紹運錄、皇年代略記、十四日丙辰、立太上天皇第七子成良親王爲皇太子、皇年代略記、歷代皇紀、以內大

臣藤原經通爲傳、公卿補任、十二月十日壬午、幸藤原經通室町第、二十一日癸巳、太上天皇出幸吉野、皇胤紹運錄、皇年代略記、尋廢皇太子、歷代皇紀、皇年代略記、四年正月十六日戊午、號珣子內親王曰新室町院、二月七日戊寅、號壽子內親王曰徽安門院、貴女鈔、女院小傳、四月五日乙亥、關白經忠赴吉野行宮、十六日丙戌、以前左大臣基嗣爲關白、七月十二日庚戌、內大臣藤原經通遷左大臣、右大臣藤原公賢罷、權大納

言兼左近衛大將藤原道教爲右大臣、權大納言兼右近衛大將藤原師平爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀、十二月二十八日甲午、帝卽位于太政官廳、年十七、續神皇正統記、皇年代略記、毘沙門堂所藏記、曆應元年四月甲午晦、號準三宮藤原實子曰宣光門院、女院小傳〇歷代皇紀、貴女鈔、爲二十八日、五月十九日癸丑、關白基嗣罷、左大臣藤原經通爲關白、公卿補任、歷代皇紀、七月六日戊戌、石清水宮火、石清水回祿記、後愚昧記、應安四年、十七日庚戌、以石清水宮火廢朝五日、石清水回祿記、閏月二十八日庚寅、卜石清水宮火于軒廊、八月十一日癸酉、遣使于石清水、後愚昧記、應安四年、征東將軍權大納言足利尊氏爲征夷大將軍、公卿補任、喜連川系圖、十三日乙亥、立皇姪益仁親王爲皇太子、歷代皇紀、皇年代略記、皇胤紹運錄、以右大臣藤原道教爲傳、公卿補任、歷代皇紀、二十八日庚寅、改元、皇年代略記、皇代記、公卿補任、壬辰晦、右大臣藤原道教罷左近衛大將、公卿補任、十月十九日庚戌、內大臣藤原師平罷右近衛大將、以

權大納言藤原良基兼左近衛大將、大納言源具親兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、二十八日己未、御禊、歷代皇紀、皇年代略記、十一月十九日己卯、大嘗、公卿補任、歷代皇紀、皇年代略記、二年正月十六日丙子、前右大臣藤原兼季薨、尊卑分脈、園太曆、八月十六日壬寅、後醍醐天皇崩于吉野行宮、神皇正統記、皇胤紹運錄、常樂記、元弘日記裏書、十月五日庚寅、後村上天皇卽位于吉野行宮、關城書裏書、十二月二十七日辛亥、關白經通罷左大臣、右大臣藤原

道教轉左大臣、內大臣藤原師平遷右大臣、大納言源具親爲內大臣、是冬以春日神木遷座長講堂、罷京官除目、園太曆三年七月八日己未、內大臣兼右近衛大將源具親罷、十九日庚午、權大納言兼左近衛大將藤原良基爲內大臣、大納言藤原實忠兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀十月六日丙戌、佐佐木高氏放火焚妙法院、捷亮仁法親王、太平記、十月六日據金勝院本、十二月二十七日丙午、前右大臣源長通爲

太政大臣、公卿補任、歷代皇紀四年四月二十五日壬寅、流佐佐木高氏于上總、太平記八月十九日甲子、春日神木歸座、康永元年正月二十六日戊戌、關白經通罷、二十七日己亥、左大臣藤原道教爲關白、三月二十九日庚子、太政大臣長通罷、○歷代皇紀係二月十九日辛丑晦、關白道教罷皇太子傅、以內大臣藤原良基爲皇太子傅、公卿補任四月二十七日戊辰、改元、公卿補任、皇代記、毘沙門堂所藏記九月三日壬申、光嚴上皇幸伏見

殿、修伏見天皇冥福、土岐賴遠被酒犯駕、十月己亥朔、土岐賴遠伏誅、太平記、朔據常樂記、十一月己巳朔、關白道教罷左大臣、十二日庚辰、關白道教罷、○歷代皇紀道教罷關白左大臣竝係十三日十八日丙戌、右大臣藤原師平爲關白、十二月二十一日己未、內大臣藤原良基罷左近衛大將、二年三月十九日乙酉、大納言兼右近衛大將藤原實忠罷、二十七日癸巳、關白師平罷右大臣、四月十日乙巳、前右大臣藤原公賢爲

左大臣、內大臣藤原良基遷右大臣、前大納言藤原實忠爲內大臣、大納言藤原冬信兼左近衛大將、大納言藤原公清兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、○皇紀以冬信公清兼大將爲三月十九日、今從補任、三年八月十五日壬申、東大寺八幡宮神輿入京、二十日丁丑、以神輿在京、釋奠罷宴穩座、十月二十三日己卯、朝上皇于持明院、二十六日壬午、還宮、貞和元年正月丙戌朔、元會、七日壬辰、白馬、十六日辛丑、踏歌、竝徹樂、二

月二日丁巳、釋奠罷宴穩座、五日庚申、盜入東宮、取内侍局衣服、十一日丙寅、大學頭紀行親姓據康永歌合爲盜傷而死、三月七日辛卯、柰良白乳杜顛倒、二十九日癸丑、避方忌于新殿、甲寅晦、還宮、四月十二日丙寅、延暦寺中堂長明燈無故而滅、卜之、圜太暦、皇年代略記七月彗星見東北、二十六日戊申、令五畿七道轉讀仁王般若二經、禳彗星、八月壬子朔、以足利聖王卒、廢朝七日、八日己未、發使金原淨金

剛院深草等五陵、禳彗星、圜太暦、聖王名據常樂記是月足利尊氏創天龍寺、成、帝詔準敕願、以延暦寺僧徒訴罷其命、圜太暦、太平記九月八日己丑、内大臣藤原實忠罷、大納言兼左近衛大將藤原冬信爲内大臣、公卿補任、歴代皇紀十月二十一日辛未、改元、公卿補任、圜太暦、皇代記二年正月辛巳朔、罷小朝拜、國栖奏、徹笛、七日丁亥、白馬節、徹笛、二十一日辛丑、東大寺八幡宮神輿歸座、圜太暦二月十八日丁卯、内大臣兼左近衛大將

藤原冬信罷、大納言藤原公清爲内大臣、二十九日戊寅、關白師平罷、右大臣藤原良基爲關白、公卿補任、歴代皇紀五月二十五日癸卯、前右大臣藤原季衡薨、圜太暦六月十一日戊午、左大臣藤原公賢罷、公卿補任閏九月十四日己未、幸持明院、十五日庚申、幸廣義門院新殿、十六日辛酉、還宮、圜太暦十月十六日庚寅、内大臣藤原公清罷、右近衛大將權大納言藤原經教兼左近衛大將、權大納言藤原道嗣兼

右近衛大將、公卿補任、歴代皇紀、圜太暦、三年正月四日丁未、前内大臣藤原實忠薨、尊卑分脈、公卿補任二月十三日丙戌、避方忌于持明院、五月辛未晦、避方忌于長講堂、圜太暦八月十六日丙戌、内大臣藤原公清罷、九月十六日乙卯、關白右大臣良基轉左大臣、權大納言兼左近衛大將藤原經教爲右大臣、權大納言兼右近衛大將藤原道嗣爲内大臣、四年三月二十八日乙丑、右大臣藤原經教罷左近衛大將、四

月二十八日甲午、內大臣兼右近衛大將藤原道嗣轉左近衛大將、大納言藤原公重兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、五月十七日癸丑、奉幣諸社祈雨、二十八日甲子、大雨洪水、七月八日癸卯、興福寺僧徒以訴修造春日社廻廊、遷神木于移殿、園太曆、八月十二日丙子、內大臣藤原道嗣罷左近衛大將、公卿補任、九月十九日癸丑、避方忌于持明院、二十日甲寅、還宮、園太曆、十月七日庚午、大納言兼右近衛大

將藤原公重轉左近衛大將、權大納言藤原長定兼右近衛大將、二十二日乙酉、前左大臣藤原公賢爲太政大臣、公卿補任、歷代皇紀、二十七日庚寅、帝讓位皇太子、徙御土御門殿、園太曆、皇胤紹運錄、公卿補任、歷代皇紀、太平記、皇年代略記、皇代略記、土御門殿據園太曆、十一月上尊號曰太上天皇、園太曆、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、觀應二年十二月薙髮法名眞常惠、椿葉記、園太曆、皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代略記、法名據紹運錄、以下三書、文和元年與崇光院共遷于賀名生、帝臨發謂

右近衛大將源顯能曰、朕本無卽位情、特爲武人所迫爾、脫屣之後、欲速辭京師、遠追華山之蹤、然亦未能也、方今國家再造、萬物盡遂其生、朕願蒙曲恩、得披緇衣以終于窮僻、卿其爲奏之、顯能不敢奉命、後天皇聞之惻然、太平記、四年八月帝著僧服、改法名眞惠、赴天野行宮、尋還居伏見殿、研究佛旨、徙居大光明寺及保安寺、又遷深草金剛壽院、後居長谷寺、康曆二年六月崩、年六十、遺命稱光

明院、參取皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代略記、園太曆、椿葉記、太平記、○太平記、椿葉記云、帝與光嚴院同還京師、誤、諸書葬地闕、崇光帝諱興仁、初名益仁、光嚴長子也、母陽祿門院、建武元年四月二十二日己卯生、光明院卽位、曆應元年八月爲親王、十三日甲午、立爲皇太子、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、○後愚昧記立太子爲十五日、貞和四年十月二十七日庚寅、皇太子踐阼于關白左大臣良基押小路第、園太曆、公卿補任、皇年代略記、皇代略記、關白左大臣良基太政大臣、公賢右大臣藤原經教、

内大臣藤原道嗣大納言兼左近衛大將藤原公重權大納言兼右近衛大將藤原長定、竝如故。公卿補任、歷代皇紀。立花園上皇皇子直仁親王爲皇太弟、歷代皇紀、皇年代略記、園太曆。以内大臣藤原道嗣爲傳。公卿補任。十一月十一日甲辰、花園法皇崩。園太曆、皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代記、常樂記。十三日丙午、葬花園天皇。園太曆。二十五日戊午、尊光明帝曰太上天皇。園太曆、皇年代略記、皇胤紹運錄。○歷代皇紀爲二十八日。五年正月癸巳朔、以春日神木在移殿、元會

不御殿。九日辛丑、避方忌于持明院。十日壬寅、還宮。園太曆。七月六日乙丑、前關白道教薨。公卿補任。九月十三日辛未、關白良基罷左大臣、右大臣藤原經教轉左大臣、内大臣藤原道嗣爲右大臣、大納言兼左近衛大將藤原公重爲内大臣。公卿補任、歷代皇紀。十二月二十六日壬子、帝卽位于太政官廳、年十六、是歲後村上天皇正平四年也。歷代皇紀、皇年代略記、太平記。○公卿補任爲二十七日。觀應元年二月二十七日壬子、改元。園太曆、公卿補任、皇年代略記。三月十八日癸酉、太政大臣公賢罷。公卿補任、園太曆。五月十六日庚午、盜殺參議菅原在登。公卿補任、太平記、菅原系圖、祇園執行日記、常樂記。八月二十七日庚戌、左馬頭足利義詮攻土岐賴明於美濃、殺之。園太曆、祇園執行日記鈔。十一月八日己未、内大臣藤原公重罷左近衛大將。公卿補任。十二月九日庚寅、足利直義歸吉野行宮。太平記。二十三日甲辰、以足利直義兵將入京師、幸土御門殿。二十八日己酉、還宮。二年正月辛亥朔、元會不御殿、罷國栖奏小朝拜敍位諸儀、

十四日戊子、避足利直義兵、幸持明院。十六日丙寅、春日神木歸座。園太曆。二月二十七日丁酉、征夷大將軍足利尊氏誅高師直・高師泰。東寺長者補任、常樂記。○園太曆係二十五日、太平記二十六日。四月十日己丑、内大臣藤原公重罷。公卿補任、歷代皇紀。十六日乙未、權大納言藤原冬通兼左近衛大將、公卿補任。六月二十六日癸卯、大納言兼右近衛大將藤原長定爲内大臣。九月十九日乙丑、

内大臣兼右近衛大將藤原長定罷、公卿補任、歷代皇紀、十一月七日癸丑、左近衛中將足利義詮廢帝及皇太弟直仁、奉正平號、參取皇胤紹運錄、皇年代略記、十二月二十三日戊戌、帝以劒璽鏡奉後村上天皇、園太曆、二十八日癸卯、後村上天皇尊帝曰太上天皇、皇胤紹運錄、皇年代略記、椿葉記、明年帝及光嚴光明二上皇直仁親王同赴男山行營、皇年代略記、椿葉記、園太曆、東寺長者補任、時事出倉卒、無輿可乘、前太政大臣公賢進一車、四主同載一

車、近臣北面扈者僅三人耳、夜抵東寺、至旦未供食、侍姬索飯上之、駐男山、踰月幸河內東條、尋遷于賀名生、幽諸廢屋內、椽之以棘、置兵士固守、縱姬妾各一人給事之、園太曆、參取椿葉記、吉野拾遺、東寺長者補任、太平記、延文二年二月、帝還御伏見殿、皇胤紹運錄、皇年代略記、椿葉記、園太曆、續神皇正統記、明德三年十一月薙髮法名勝圓心、應永五年正月十三日辛酉崩于伏見殿、年六十五、皇胤紹運錄、皇年代略記、遺命稱崇光院、皇年代略記、椿葉記、○諸書葬地闕、帝之

在位、遭世騷亂、御禊大嘗之儀遂不行而止、皇年代略記、續神皇正統記、後光嚴帝諱彌仁、崇光同母弟也、曆應元年三月二日丁酉生、皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代記、貞和二年二月著袴、園太曆、觀應二年、崇光帝廢、外祖母藤原氏欲帝爲僧晦跡、廣義門院命北斗堂僧實算占之、得天子之兆、乃匿養右大辨藤原時光家、太平記、文和元年二月二十六日庚子、足利尊氏殺弟直義、皇年代略記、常樂記、太平記、閏月二十日甲子、右大臣藤原

道嗣罷皇太子傅、公卿補任、二十一日乙丑、光嚴光明崇光三帝及直仁親王赴賀名生、帝亦當同赴而不果、八月先是足利尊氏以京師無主、請廣義門院欲奉帝登大位、羣臣以不傳神器且無所受命難之、尊氏不聽、前太政大臣公賢議遵繼體天皇故事、從之、十七日丁巳、廣義門院命帝爲親王、加首服、園太曆、踐阼于土御門殿、園太曆、毘沙門堂所藏記、公卿補任、皇胤紹運錄、皇年代略記、關白良基左大臣藤原經教右大臣藤原

道嗣、權大納言兼左近衞大將藤原冬通竝如故、公卿補任、歷代皇紀、九月二十七日丁酉、改元、公卿補任、皇年代略記、皇代略記、園太曆、續神皇正統記、十月二十九日己巳、號準三宮藤原秀子曰陽祿門院、園太曆、女院小傳、○貴女鈔爲二十七日十一月二十七日丁酉、前權大納言藤原公秀爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀、園太曆、二年二月四日壬寅、持明院火、皇年代略記、園太曆、太平記、三月京師有尼連害小兒數十人、捕誅之、園太曆四月五日壬寅、大風、眞言院倒、東寺長者補任六

月九日乙巳、足利義詮與山名時氏戰敗、義詮奉帝幸東坂下、十三日己酉、如美濃、園太曆、太平記、七月二日丁卯、內大臣藤原公秀棄官爲僧、八月六日乙丑、前關白師平薨、二十七日壬戌、前太政大臣長通薨、公卿補任九月二十一日乙酉、帝還自美濃、御土御門殿、園太曆、皇年代略記、皇代略記、十二月十一日甲辰、盜殺前參議藤原實益、公卿補任二十七日辛酉、帝卽位于太政官廳、年十六、皇年代略記、皇代略記、三年四月八日庚子、

前關白基嗣薨、公卿補任十五日丁未、權大納言源通相兼右近衞大將、公卿補任、歷代皇紀、閏十月二十八日丙戌、御禊、十一月十六日癸卯、大嘗、皇年代略記、皇代略記、十二月二十四日辛巳、帝避足利直冬兵於近江武佐寺、皇年代略記、皇代略記、毛利家天正本太平記、四年二月八日乙丑、如延曆寺、三月二十八日甲寅、還京、御土御門殿、皇年代略記、皇代略記、園太曆、詔奪留京受吉野官署公卿封邑、七月二十六日庚戌、盜入掖庭偸衣物、園太曆八月八

日辛酉、光明院至自賀名生、皇年代略記、皇代略記、園太曆、是月以左近衞中將足利義詮請復公卿封邑、九月五日丁亥、春日神木遷座移殿、延文元年正月壬午朔、元會、以神木遷座罷小朝拜、國栖奏徹樂、十三日甲午、春日神木歸座、園太曆三月二十八日己酉、改元、公卿補任、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、園太曆、七月十三日辛卯、興福寺以訴春日社封戶遷神木于金堂、十八日丙申、東大寺僧徒奉八幡宮神輿入京、訴伊勢守護

殺神人、圓太曆○伊勢守護姓名闕二十一日己亥、權大納言兼右近衞大將源通相爲内大臣、公卿補任、二十一日歷代皇紀、八月十四日壬戌、大風洪水、二十一日己巳、奉幣諸社祈晴、十月丁未朔、盜入禁中、竊服御物、二年正月丙子朔、元會、以八幡宮神輿在京、罷小朝拜、國栖奏、徹笛、十六日辛卯、踏歌節、垂簾、徹樂、圓太曆、大風據東寺長者補任、二月十八日癸亥、光嚴院崇光院直仁親王至自賀名生、圓太曆、皇年代略記、皇胤紹運錄、直仁親王據椿葉記、太平記、三月四

日己卯、春日神木歸座、八日癸未、一乘院僧徒與大乘院僧徒戰于奈良、十月二十五日丙申、一乘院僧徒焚奈良禪定院、延燒數百餘宇、三年正月庚子朔、元會、罷小朝拜、國栖奏徹歌笛、七日丙午、白馬節、徹樂、罷國栖坊家奏、圓太曆四月戊戌晦、征夷大將軍權大納言足利尊氏薨、尊卑分脈、東寺長者補任、常樂記、足利系圖、十二月十八日壬午、以左近衞中將足利義詮爲征夷大將軍、公卿補任、太平記、二十九日癸巳、關白

良基罷、以左大臣藤原經教爲關白、公卿補任、歷代皇紀、四年正月乙未朔、元會、罷諸儀、四月二十八日庚寅、新千載和歌集成、圓太曆五年四月六日壬戌、前太政大臣公賢薨、尊卑分脈六月八日癸巳、前内大臣藤原公清薨、九月甲申晦、關白經教罷、左大臣、右大臣藤原道嗣轉左大臣、權大納言兼左近衞大將藤原冬通爲右大臣、内大臣兼右近衞大將源通相罷、權大納言藤原公忠爲内大臣、十一月十七日

庚午、右大臣藤原冬通罷左近衞大將、權大納言藤原實夏兼左近衞大將、權大納言藤原實俊兼右近衞大將、公卿補任○冬通罷大將、本書不日、今姑係十七日、康安元年三月庚辰晦、改元、公卿補任、皇年代略記、後愚昧記、太平記、六月二十八日丁未、先是京師地頻震、是日修最勝講、八月十三日辛卯、修熾盛光法、竝禳地震、後愚昧記、太平記、九月二十三日辛未、幸新熊野、是日還宮、歷代皇紀、後愚昧記、東寺長者補任、還宮據補任、十一月九日丙辰、關白經教罷、左大

臣藤原道嗣爲關白、公卿補任、歷代皇紀、十二月八日乙酉、避細川清氏兵於近江武佐寺、皇胤紹運錄、皇年代略記、太平記、貞治元年正月五日壬子、幸延曆寺、二月十一日丁亥、還自延曆寺、御權大納言藤原實俊北山第、四月二十一日丙申、御土御門殿、皇年代略記、九月二十三日乙丑改元、公卿補任、皇年代略記、十月四日丙子、關白道嗣罷、左大臣、公卿補任、歷代皇紀、十二月二十日辛卯、內大臣藤原公忠罷、歷代皇紀、後愚昧記、二十七日戊戌、

右大臣藤原冬通轉左大臣、前內大臣源通相爲右大臣、公卿補任、歷代皇紀、二年三月己亥晦、權大納言兼左近衛大將藤原實夏爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀、後愚昧記、六月十七日乙卯、石清水神輿入京、皇年代略記、後愚昧記、東寺長者補任、二十七日乙丑、關白道嗣罷、以前關白良基爲關白、公卿補任、歷代皇紀、後愚昧記、七月十七日甲申、卜伊勢大神宮井水涸、及吉田社神像失于軒廊、後愚昧記、八月二日戊戌、前內大臣藤原公秀薨、尊卑分脈、後愚昧記、二

十九日乙丑、石清水神輿歸座、後愚昧記、三年二月七日壬寅、內大臣藤原實夏罷左近衛大將、十九日甲寅、內大臣藤原實夏罷、公卿補任、三月十四日戊寅、權大納言兼右近衛大將藤原實俊爲內大臣、公卿補任、後愚昧記、二十九日癸巳、權大納言藤原師良兼左近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、七月七日己巳、光嚴帝崩、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、後愚昧記、十二月二十一日庚戌、興福寺僧徒舁春日神木入京、訴越前守護足利高經奪

春日社封戶河口莊、命移神木於長講堂、太平記、月日據歷代皇紀、四年三月十日戊辰、前關白經通薨、公卿補任、尊卑分脈、十月九日癸亥、避方忌于內大臣藤原實俊第、十一月四日丁亥、還宮、後愚昧記、五年三月十六日戊戌、東大寺八幡宮神輿歸座、歷代皇紀、八月十二日壬戌、春日神木歸座、公卿補任、皇年代略記、太平記、二十三日癸酉、以修繕內廷避方忌于六條長講堂、二十四日甲戌、還宮、後愚昧記、己卯晦、右大臣源通相爲太政大臣、內

大臣藤原實俊爲右大臣、權大納言兼左近衛大將藤原師良爲内大臣、公卿補任、後愚昧記、六年正月十六日癸巳、右大臣藤原實俊罷右近衛大將、二月十三日庚申、權大納言藤原忠基兼右近衛大將、公卿補任十四日辛酉、元主使來請禁我民侵掠彼邊境者、善隣國寶記○太平記係五年九月三月十八日甲午、幸長講堂、親誦佛經、修後白河天皇冥福三日、太平記二十六日壬寅、内大臣藤原師良罷左近衛大將、公卿補任二十

九日乙巳、清涼殿和歌會、是日天龍寺火、歷代皇紀、太平記、四月二十六日壬申、左兵衛督足利基氏薨、太平記、足利系圖、六月丙午朔、前内大臣藤原實夏薨、尊卑分脈、公卿補任、二十九日甲戌、權大納言兼右近衛大將藤原忠基轉左近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、八月十八日壬戌、詔興福延曆東大三寺修最勝講于紫宸殿、僧徒相鬪殿庭、死傷數十人、太平記、參取續神皇正統記、○皇年代略記爲七月、未知孰是、二十七日辛未、關白良基罷、左大臣藤原冬

通爲關白、九月癸卯晦、右大臣藤原實俊罷、内大臣藤原師良爲右大臣、前權大納言藤原實繼爲内大臣、公卿補任十二月七日己酉、征夷大將軍權大納言足利義詮薨、公卿補任、皇年代略記、足利系圖、應安元年二月十七日戊午、改元、公卿補任、皇代略記、三月十一日辛巳、後村上天皇崩、花營三代記、鳩嶺雜事記、二十一日辛卯、太政大臣通相罷、公卿補任四月彗星見東北、鳩嶺雜事記令五畿七道神社佛寺、讀仁王經禳彗星、建内記永享十一年○本書不

月日、今姑係于此、五月十一日庚辰、石清水雨雹、大如桃李、遣使法住寺大原淨金剛院禳災異、後愚昧別記、參取鳩嶺雜事記、八月二十八日丙申、延曆寺僧徒奉日吉神輿四基入京、請毀南禪寺山門、皇代記十二月丙申晦、左馬頭足利義滿爲征夷大將軍、後愚昧記、後深心院關白記、二年正月、石清水雨雹、大如柚子、卜之、皇年代略記三月京師萬里小路女子產子、狀如三歲兒、頭上有肉塊、大與其首等、後愚昧記四月二十日甲辰、日吉神

輿四基又入京、佐佐木氏賴衡戰、僧徒棄神輿而走、命移諸祇園社、參取歷代皇紀、皇年代略記、後愚昧記、後深心院關白記、花營三代記、七月二十八日庚申、詔毀南禪寺山門、皇代記、後愚昧記、後深心院關白記、○皇年代略記係八月八月三日乙丑、日吉神輿歸座、後愚昧記、後深心院關白記、歷代皇紀、○皇年代略記爲四日、誤、九月二日甲午、大風、太政官廳東門倒、後愚昧記十月辛卯晦、避方忌于長講堂、十一月壬辰朔、還宮、後愚昧記、後深心院關白記、四日乙未、關白左大臣冬通罷、以右大臣藤原

師良爲關白、十二月十九日庚辰、大納言藤原公直罷右近衛大將、權中納言藤原師嗣兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、三年三月十六日乙巳、關白右大臣師良轉左大臣、權大納言兼左近衛大將藤原忠基爲右大臣、內大臣藤原實繼罷、以前權大納言藤原經顯爲內大臣、公卿補任、後愚昧記、後深心院關白記、七月三日庚寅、修宸筆八講會、薦光嚴帝冥福、後愚昧記○歷代皇紀係朔八月十五日辛未、震前關白經教第、二男子

震死、後愚昧記、花營三代記、常樂記、十月十七日壬申、石清水神輿入京、皇年代略記、後愚昧記、十一月十九日甲辰、右大臣藤原忠基罷左近衛大將、權中納言兼右近衛大將藤原師嗣轉左近衛大將、權大納言藤原兼定兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、二十九日甲寅、石清水神輿歸座、皇年代略記、後愚昧記、四年三月二十一日乙巳、幸權中納言藤原忠光柳原第、後深心院關白記、後愚昧記、二十三日丁未、讓位於皇子緒仁、皇胤紹運錄、皇年代略記、後愚昧記、後深

心院關白記、閏月上尊號曰太上天皇、皇胤紹運錄、皇年代略記、後深心院關白記、稱新院、猶預決機務、參取後深心院關白記、續神皇正統記、七年正月二十九日乙未、薙髮法名光融、是日崩、年三十七、皇胤紹運錄、花營三代記、火葬泉涌寺、分藏遺骨于深草法華堂及金剛院、稱後光嚴院、後深心院關白記、參取皇年代略記、帝屢欲遣使告卽位於大神宮、以路梗不果、羣臣議取他道奉幣、亦終不果、園太曆後圓融帝諱緒仁、後光嚴第一子也、母崇賢門院、皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代

略記、續神皇正統記、延文三年十二月十三日丁丑生、皇年代略記、應安四年三月著袴、二十一日爲親王、皇年代略記、皇代略記、二十三日丁未、加元服踐阼于權中納言藤原忠光柳原第、是日遷御土御門殿、皇年代略記、皇代略記、後深心院關白記、關白左大臣師良、右大臣藤原忠基、內大臣藤原經顯、權大納言兼左近衛大將藤原師嗣、權大納言兼右近衛大將藤原兼定、竝如故、公卿補任、歷代皇紀、閏月六日己未、尊後光嚴帝曰太上天皇、皇年代略

記、後深心院關白記、五月五日丁巳、卜八幡邑人入石清水宮自盡、血污神殿于軒廊、後愚昧記、八日庚申、以石清水宮穢廢朝五日、後愚昧記、後深心院關白記、七月內大臣藤原經顯罷、○本書不日、今不可考、十四日甲子、前太政大臣通相薨、公卿補任、十二月二日辛巳、興福寺僧徒奉春日神木入京、歷代皇紀、皇年代略記、請流一乘院僧實玄大乘院僧教信三寶院僧光濟覺王院僧宋錄、參取春日神木入洛記、花營三代記、五年正月庚戌朔、元會不御殿、國栖奏徹歌笛、後愚昧記、五日甲寅、停敍位、後深心院關白記、二十二日辛未、流僧實玄於伊豆、僧教信於土佐、後愚昧記、後深心院關白記、六年正月五日戊申、前內大臣藤原經顯薨、公卿補任、歷代皇紀、後深心院關白記、夏四月二十三日乙未、卜賀茂社怪於軒廊、後深心院關白記、九月二日庚子、大風、太政官廳及土御門殿東門倒、皇年代略記、後愚昧記、後深心院關白記、太政官廳據關白記、二十八日丙寅、天龍寺火、歷代皇紀、鳩嶺雜事記、後深心院關白記、花營三代記、戊辰晦、盜入新院柳原殿、悉捕斬

之、後愚昧記、十一月十三日己卯、流赤松性準於上總、○後深心院關白記上總作下野、赤松範顯於越後、後愚昧記、花營三代記、七年正月、京師痘瘡流行、二十九日乙未、新院崩、二月二日戊戌、葬後光嚴帝、後愚昧記、後深心院關白記、花營三代記、皇年代略記、六月二十日甲寅、日吉七社神輿入京、歷代皇紀、後愚昧記、後深心院關白記、花營三代記、十二月十日辛未、流前參議平行知於美濃、○公卿補任作播磨、儀俄元奇於遠江、僧光濟於播磨、宋錄於備中、花營三代記○公卿補任作十二月九日、十七

日戊申、春日神木歸座、皇年代略記、花營三代記、二十八日己未、帝即位于太政官廳、年十七、皇年代略記、皇代略記、永和元年正月十七日戊寅、召還前參議平行知於美濃、後深心院關白記、二月九日己亥、延曆寺火、歷代皇紀、二十七日丁巳、改元、公卿補任、皇年代略記、皇代記、鳩嶺雜事記、花營三代記、十月二十八日乙卯、御禊、皇胤紹運錄、皇年代略記、永和大嘗會記、後深心院關白記、十一月十八日甲戌、關白師良罷、左大臣、右大臣藤原忠基轉左大臣、權大納言兼左近衞大將藤

原師嗣爲右大臣、權大納言藤原兼嗣爲內大臣、公卿補任、二十三日乙卯、大嘗、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、後深心院關白記、永和大嘗會記、十二月二十七日壬子、關白師良罷、左大臣藤原忠基爲關白、二年正月丙辰朔、前關白良基準三宮、六日辛酉、右大臣藤原師嗣罷左近衞大將、內大臣藤原兼嗣兼左近衞大將、公卿補任、○師嗣罷大將、本書不日、今姑係六日、三年二月十八日丙寅、柳原殿火、歷代皇紀、後愚昧記、五月二十二日己亥、內大臣藤原兼嗣

罷左近衞大將、四年四月二十七日己巳、權大納言兼右近衞大將藤原兼定轉左近衞大將、權大納言藤原實時兼右近衞大將、公卿補任、七月庚子晦、權大納言兼左近衞大將藤原兼定薨、歷代皇紀、公卿補任、後愚昧記、八月二十七日丁卯、關白忠基罷左大臣、右大臣藤原師嗣轉左大臣、內大臣藤原兼嗣爲右大臣、前權大納言藤原公直爲內大臣、權大納言兼右近衞大將藤原實時轉左近衞大將、征夷大將

軍權大納言足利義滿兼右近衞大將、公卿補任、歷代皇紀、○忠基罷大臣、二書不日、今姑係二十七日、康曆元年三月二十二日己丑、改元、公卿補任、後愚昧記、花營三代記、六月八日壬申、日吉七社神輿歸座、花營三代記、八月十四日戊寅、春日神木入京、皇年代略記、後深心院關白記、二十二日丙戌、關白忠基罷、公卿補任、二十五日己丑、左大臣藤原師嗣爲關白、公卿補任、後深心院關白記、二年六月二十四日戊子、光明帝崩、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、花營三代記、○諸書葬日闕、十二月十

五日壬申、春日神木歸座、皇年代略記、花營三代記、永德元年二月二十四日庚辰改元、皇年代略記、公卿補任、元秘別錄、七月二十三日丙午、準三宮良基爲太政大臣、內大臣藤原公直罷、○公直罷大臣、本書不日、姑係于此、征夷大將軍權大納言兼右近衞大將足利義滿爲內大臣、九月四日丙戌、前權大納言藤原兼綱準大臣、五日丁亥、準大臣藤原兼綱罷、二十六日戊申、前準大臣藤原兼綱薨、輟朝三日、公卿補任、二年四月十一日庚寅、幸

持明院北中園第、讓位于皇子幹仁、上尊號曰太上天皇、皇年代略記、號新院、歷代皇紀、後愚昧記、十一日庚寅、關白師嗣罷、公卿補任、明德四年四月二十六日辛丑、崩于故內大臣藤原經顯小川第、年三十六、火葬泉涌寺、藏遺骨于深草法華堂、遺詔稱後圓融院、皇年代略記、

後小松天皇卽後圓融帝之長子也、母通陽門院、皇胤紹運錄、皇代略記、皇年代略記、永和三年六月二十六日壬申生、皇胤紹運錄、皇年代略記、永德二年四月著袴、○皇代略記、四月三日爲親王、然皇年代略記曰、不爲親王、故今不取、十一日庚寅、踐祚于土御門殿、皇年代略記、皇代略記、以太政大臣良基攝政、征夷大將軍左大臣兼右近衞大將足利義滿、右大臣藤原兼嗣、內大臣兼左近衞大將藤原實時竝如故、公卿補任、歷代皇紀、十九日戊戌、前權大納言藤原仲房準大臣、公卿補任、二十五日甲辰、尊後圓融帝曰太上天皇、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、○皇代略記爲二十八日、十二月二十八日壬寅、天皇卽位于太政官廳、時年六歲、歷代皇紀、皇年

代略記、是歲、後龜山天皇弘和二年也、三年三月五日己酉、以石淸水宮火、遣使于宇佐、後愚昧記、四月二十五日戊戌、號準三宮藤原仲子曰崇賢門院、歷代皇紀、後愚昧記、十月二十二日壬辰、御禊、十一月十六日乙卯、大嘗、皇胤紹運錄、歷代皇紀、皇年代略記、十二月權中納言藤原爲重上新後拾遺和歌集、拾芥鈔、至德元年二月二十七日乙未改元、歷代皇紀、皇年代略記、公卿補任、三月十日戊申、左大臣足利義滿罷右近衞大將、二十三日辛

酉、內大臣藤原實時罷左近衛大將、權大納言藤原經嗣兼左近衛大將、權大納言源具通兼右近衛大將、公卿補任 二年二月十五日丁未、盜殺前權中納言藤原爲重、公卿補任、嘉慶元年正月三日乙卯、天皇加元服、皇胤紹運錄、公卿補任、皇年代略記、八日庚申、攝政太政大臣良基罷、公卿補任、歷代皇紀、○補任罷攝政月日闕、皇紀係正月不日、今據二書、罷太政大臣日、姑係于此、二月七日戊子、以右大臣藤原兼嗣攝政、公卿補任○歷代皇紀爲四日 八月二十三日甲戌、

改元、皇年代略記、公卿補任、 十二月八日甲寅、前權大納言源善成準大臣、公卿補任 二年三月二十六日庚子、攝政右大臣兼嗣薨、四月八日乙丑、以前太政大臣良基攝政、五月二十六日己亥、征夷大將軍足利義滿罷左大臣、內大臣藤原實時爲左大臣、權大納言兼右近衛大將源具通爲右大臣、權大納言兼左近衛大將藤原經嗣爲內大臣、公卿補任、歷代皇紀、六月二日甲辰、準大臣藤原仲房薨、公卿補任 十二日甲寅、

攝政良基罷、以藤原師嗣爲關白、十三日乙卯、前攝政良基薨、康應元年正月五日乙亥、右大臣源具通罷右近衛大將、歷代皇紀○公卿補任具通罷大將爲二月事 二月九日己酉、改元、公卿補任、皇年代略記、東寺長者補任、 四月二十日己未、權大納言藤原宗實兼右近衛大將、公卿補任、歷代皇紀、明德元年三月二十六日庚寅、改元、公卿補任、皇年代略記、四月癸亥朔、內大臣藤原經嗣罷左近衛大將、權大納言藤原宗實罷右近衛大將、權大納言

藤原實直兼左近衛大將、權大納言藤原通定兼右近衛大將、公卿補任 三年征夷大將軍前左大臣足利義滿使大內義弘于吉野行宮講和、應永記 十月二十八日丙子、後龜山天皇以三神器發行宮、閏月二日己卯、後龜山天皇還京師、御大覺寺、歷代皇紀、皇年代略記、續神皇正統記、

大日本史卷之七十二終

大日本史卷之七十三

本紀第七十三

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

後小松天皇下

明德三年冬閏十月五日壬午、天皇受三神器於土御門殿、歷代皇紀、皇年代略記、續神皇正統記、十二月二十六日壬寅、左大臣藤原實時罷、以征夷大將軍前左大臣足利義滿爲左大臣、公卿補任、歷代皇紀、四年癸酉、夏四月二十六日辛丑、新院崩、公卿補任、椿葉記、乙巳晦、葬後圓融帝、東寺長者補任○皇年代略記爲二十七日秋七月、自六月不雨至是月、如是院年代記八月二十二日乙未、南禪寺火、歷代皇紀、皇代略記、和漢合符、如是院年代記、是月洪水、皇代略記九月十七日己未、征夷大將軍足利義滿罷左大臣、公卿補任應永元年甲戌、春二月二十三日癸巳、尊後龜山天皇曰太上天皇、皇年代略記三月二十八

日丁卯、右大臣源具通罷、以前內大臣藤原公直爲右大臣、夏六月五日癸酉、以前左大臣藤原實時爲太政大臣、內大臣藤原經嗣爲左大臣、准大臣源善成爲內大臣、公卿補任秋七月五日癸卯、改元、公卿補任、和漢合符、元秘別錄、九月二十四日辛酉、相國寺火、皇代略記、如是院年代記、和漢合符、冬十一月六日壬寅、關白師嗣罷、以左大臣藤原經嗣爲關白、公卿補任、歷代皇紀、十二月十七日壬午、前左大臣足利義滿罷征夷大將軍、以左近衛中將足利義持爲征夷大將軍、足利家傳二十五日庚寅、太政大臣實時、右大臣藤原公直、內大臣源善成罷、以前左大臣足利義滿爲太政大臣、權大納言藤原實直爲右大臣、權大納言藤原通定爲內大臣、公卿補任
二年乙亥、春正月二十八日癸亥、右大臣藤原實直罷左近衛大將、權大納言藤原通定罷右近衛大將、權大納言藤原公定兼左近衛大將、權大納言藤原實冬兼右近衛大將、三

月二十四日戊午、右大臣藤原實直罷、以內大臣藤原通定爲右大臣、以權大納言藤原公定爲內大臣、（本書通定爲右大臣爲二十七日、今從歷代皇紀、）夏四月、關白藤原經嗣罷左大臣、七日庚午、以前右大臣藤原公直爲左大臣、（公卿補任、）二十九日壬辰、京師火、（和漢合符、）是月行幸太政大臣義滿第、（足利家傳、）六月三日乙丑、太政大臣義滿罷、以前右大臣源具通爲太政大臣、六日戊辰、左大臣藤原公直罷、二十日壬午、以前內大

臣源善成爲左大臣、○（歷代皇紀善成爲左大臣爲三日、）二十一日癸未、右大臣藤原通定罷、秋七月二日甲午、內大臣藤原公定罷左近衛大將、八月二十九日庚寅、左大臣源善成罷、九月十二日癸卯、以內大臣藤原公定爲右大臣、前權大納言藤原公豐爲內大臣、冬十一月二十八日戊子、內大臣藤原公豐罷、十二月二十七日丁巳、權大納言藤原實冬爲內大臣、轉左近衛大將、（公卿補任、）

三年丙子春二月三日辛卯、太政大臣具通罷、夏四月二十日丁未、權大納言藤原教嗣兼右近衛大將、五月十五日辛未、前右大臣藤原實直薨、（公卿補任○歷代皇紀實直薨爲六月、）秋七月二十四日己卯、號所生準三宮藤原嚴子曰通陽門院、（院號定部類記、歷代皇紀、皇年代略記、）以右大臣藤原公定爲左大臣、內大臣藤原實冬爲右大臣、前權大納言藤原嗣房爲內大臣、冬十月五日庚寅、內大臣藤原嗣房罷、二十一日丙午、

以權大納言藤原教嗣爲內大臣、十二月右大臣藤原實冬罷左近衛大將、（公卿補任、）四年丁丑春三月二十九日辛巳、內大臣藤原教嗣轉左近衛大將、權大納言藤原良嗣兼右近衛大將、（公卿補任、）冬十一月十八日丙寅、建仁寺火、（如是院年代記、）十二月六日甲申、客星見西北、（東寺長者補任、）二十日戊戌、前關白左大臣忠基薨、（公卿補任、）

五年戊寅春正月十三日辛酉、崇光帝崩、（椿葉

記、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、○諸書葬闕、三月九日丙辰、關白經嗣罷、以前關白師嗣爲關白、（公卿補任）夏五月、直仁親王薨、（椿葉記）冬十二月、左大臣藤原公定薨、（公卿補任）

六年己卯、春正月、內大臣藤原教嗣罷左近衞大將、（公卿補任）二月二十二日癸亥、以右大臣藤原實冬爲左大臣、內大臣藤原教嗣爲右大臣、權大納言藤原良嗣爲內大臣、轉左近衞大將、權大納言藤原滿基兼右近衞大將、

夏四月十七日丁巳、關白師嗣罷、十九日己未、以前關白經嗣爲關白、（公卿補任、歷代皇紀）二十二日壬戌、內大臣藤原良嗣罷左近衞大將、權大納言藤原滿基轉左近衞大將、權大納言藤原公行兼右近衞大將、（○良嗣罷大將、本書不日、今姑係于此、）六月十五日甲寅、前左大臣藤原公定薨、（公卿補任○歷代皇紀爲二十五日、）秋九月、客星見南方、冬十月十三日庚戌、大內義弘反、率兵至界浦、前太政大臣義滿遣細川賴元、京極高詮、赤松義則等拒之、十一月八日甲戌、義滿率兵至東寺、尋軍男山、二十九日乙未、義滿遣諸將擊大內義弘破之、（應永記）十二月二十一日丁巳、義滿兵攻破大內義弘於界浦、義弘自殺、（皇代略記、喜連川系圖、應永記、神明鏡、）

七年庚辰、夏四月、大和旱、（醍醐枝葉鈔）五月二十一日乙酉、前關白左大臣經教薨、冬十一月二十二日癸未、前關白左大臣師嗣薨、（公卿補任）

八年辛巳、春二月二十九日戊子、土御門殿火、

天皇避之前太政大臣義滿室町第、（歷代皇紀、寺社雜事記、○和漢合符爲二十八日、）（皇年代略記、續神皇正統記、）秋七月四日辛卯、伏見殿火、累代御記文書樂器悉亡、（椿葉記）八月三日己未、造土御門殿、（歷代皇紀、和漢合符、）

九年壬午、春正月十九日癸卯、彗星見西方、（歷代皇紀、和漢合符、）夏六月大旱、（和漢合運）四日丙辰、祈雨、（仁和寺御傳）秋八月二十二日癸酉、以左大臣藤原實冬爲太政大臣、內大臣藤原良嗣爲左

大臣、權大納言藤原公行爲內大臣、公卿補任、歷代
皇紀、九月四日甲申、前左大臣源善成薨、歷代皇紀
十七日丁酉、內大臣藤原公行罷右近衛大
將、權大納言藤原公俊兼右近衛大將、公卿補任
冬十一月十九日戊戌、土御門殿成、徙御焉、
歷代皇紀、寺社雜事記、
十年己未、秋八月十九日甲子、右大臣藤原
教嗣罷、以內大臣藤原公行爲右大臣、權大
納言藤原滿基爲內大臣、公卿補任、○按教嗣罷在是年、而諸

書月日闕、今附于此、
十一年甲申、春二月二十七日己亥、前太政
大臣實時薨、秋八月十五日甲申、前右大臣
藤原教嗣薨、公卿補任
十二年乙酉、春二月十三日己卯、若狹大風、
遠敷二宮樓門八幡宮鳥居倒、參取若州守護次第、若州
今富名領主次第、夏五月二十二日丙辰、春日山木
枯六千餘株、六月九日癸酉、洪水、和漢合運、和漢合符、
祇園社鳥居倒、壓死二十餘人、和漢合符

十三年丙戌、春正月十二日癸卯、太白犯歲
星、醍醐寺應永十三年曆裏書、十五日丙午、日吉二宮十
禪師社火、醍醐寺應永十三年曆裏書、和漢合符、二十八日己
未、雷、二十九日庚申、修懺法於禁中七日、資
後光嚴院冥福、醍醐寺應永十三年曆裏書、後崇光院御記、秋八
月、內大臣藤原滿基罷左近衛大將、十七日
甲辰、權大納言藤原公俊轉左近衛大將、權
大納言足利義持兼右近衛大將、公卿補任二十
四日辛亥、大風、北野社林木僵、拱北樓倒、和漢

合符○東寺長者補任係十四年、九月二日戊午、祈晴、仁和寺御
傳、
十四年丁亥、春正月五日庚申、地震、和漢合運二
月六日辛卯、太政大臣實冬罷、公卿補任三月五
日己未、號準三宮藤原康子曰北山院、貴女鈔、院
號定部類記、歷代皇紀、尊卑分脈、冬十一月十八日戊辰、平
岡八幡宮火、和漢合符
十五年戊子、春二月六日乙酉、有蝦蟆鬭于
權大納言足利義持第、和漢合運、和漢合符、三月八日

丁巳、行幸前太政大臣義滿北山第、（北山行幸記、東寺長者補任、和漢合運、和漢合符、）二十八日丁丑、還宮、（藤原雅緣悼鹿苑院義滿詞、東寺長者補任、）夏四月二十日戊戌、關白經嗣罷、以左大臣藤原忠嗣爲關白、（公卿補任、）五月六日甲寅、前太政大臣義滿薨、（公卿補任、椿葉記、藤原雅緣悼鹿苑院義滿詞、喜連川系圖、）六月二十二日己亥、南蠻貢黑象孔雀鸚鵡、（若州今富名領主次第、）秋七月二日戊申、熊野本宮火、（和漢合符、）

十六年己丑、春正月十九日癸亥、關白忠嗣

罷左大臣、二月二十一日甲午、關白忠嗣罷、（公卿補任、）三月四日丁未、以内大臣藤原滿基爲關白、二十一日甲子、以關白滿基爲左大臣、秋七月二十三日癸巳、以權大納言足利義持爲内大臣、（公卿補任、歷代皇紀、）

十七年庚寅、春三月十三日庚辰、有鹿入宮、（和漢合符、）冬十二月二十七日己未、關白左大臣滿基薨、（公卿補任、）壬戌晦、以前關白經嗣爲關白、（公卿補任、歷代皇紀、）

十八年辛卯、夏四月十一日辛丑、以右大臣藤原公行爲左大臣、前權大納言藤原冬家爲右大臣、（公卿補任、歷代皇紀、）五月六日丙寅、地大震、（和漢合符、）秋七月二十八日丁亥、征夷大將軍足利義持遣兵擊飛驒國司某、（和漢合運、）冬十一月戊午朔、日南至、（歷代皇紀、）二十五日壬午、以皇子躬仁爲親王、（歷代皇紀、皇年代略記、）

十九年壬辰、夏五月癸丑晦、内大臣足利義持罷右近衛大將、（參取足利系圖、公卿補任、）六月二十一

日甲戌、南蠻遣使朝貢、（若州今富名領主次第、）秋七月二十九日壬子、權大納言藤原滿教兼右近衛大將、（公卿補任、歷代皇紀、）八月壬午晦、天皇讓位于躬仁親王、（椿葉記、公卿補任、歷代皇紀、皇胤紹運錄、皇年代略記、）九月上尊號曰太上天皇、（歷代皇紀、皇代略記、）聽政院中、（後小松帝升遐記、椿葉記、續神皇正統記、）薙髮法名素行智、（皇胤紹運錄、皇年代略記、）永享五年十月二十日己未崩、（後小松帝升遐記、椿葉記、歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、）年五十七、（歷代皇紀、皇年代略記、皇代略記、皇胤紹運錄、）葬于泉涌寺、（後小松帝升遐記、椿葉記、皇代略記、）

遺詔稱後小松院、椿葉記跋、歷代皇紀、皇胤紹運錄、皇年代略記、皇代略記、初自後醍醐天皇南巡至明德三年、凡五十七年、皇統分緒、京畿阻域、及帝受神器、海內始一統、車書同文軌、世世相承、實祚無疆、續神皇正統記

大日本史卷之七十三終

大日本史　卷七十三　本紀　十一

大日本史卷之七十四

列傳第一

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

后妃一

神武媛蹈韛五十鈴媛皇后
妃吾平津媛
綏靖五十鈴依媛皇后
安寧渟名底仲媛皇后
懿德天豐津媛皇后
孝昭世襲足媛皇后
孝安押媛皇后
孝靈細媛皇后
妃倭國香媛
妃絙某弟
春日千千速眞若媛
孝元鬱色謎皇后

妃埴安媛
開化伊香色謎皇后
妃丹波竹野媛
妃姥津媛
鸇媛
崇神御間城媛皇后
妃遠津年魚眼眼妙媛
妃尾張大海媛
垂仁狹穗姬皇后
日葉酢媛皇后
妃渟葉田瓊入媛
妃眞砥野媛
妃薊瓊入媛
迦具夜媛
苅幡戶邊
弟苅幡戶邊
景行播磨稻日太郎姬皇后
八坂入媛皇后

妃水齒郎媛

妃五十河媛

妃高田媛

妃日向髮長大田根

妃襲武媛

妃御刀媛

妃五十琴姬

稻日稚郎姬

迦具漏媛

仲哀神功皇后

妃大中姬

妃弟媛

應神仲姬皇后

妃高城入媛

妃弟姬

妃宮主宅媛

妃小甂媛

妃弟姬

妃絲媛

妃日向泉長媛

妃兄媛

迦具漏媛

仁德磐之媛皇后

八田皇后

妃日向髮長媛

履中草香幡梭皇后

妃黑媛

嬪大姬郎姬　高鶴郎姬

後宮之制、其亞皇后者、曰妃、曰夫人、曰嬪、皆令之所載也、曰女御、曰更衣、曰御匣殿、皆後世所置、而女御最貴寵之所在、從而冊立、其皇后中宮並立無別者、蓋非古也、源親房既議之、詳核其實、中宮之號、古通稱大皇太后皇太后皇后三宮、而中葉以還、獨爲皇后別稱、及一條帝之立中宮、以大皇太后皇太后二宮並存、故改圓融中宮稱皇后、然是特一

時之權宜、所以別其尊稱、而皇后之號、名與實乖、尋更冊女御彰子爲中宮、改中宮稱皇后、中宮禮數、一與皇后無異、於是位號之尊、雖在皇后、而寵幸之渥、實歸中宮、爾後相沿、遂爲故事、其皇后中宮嘗院號者、亦昉于當時、其他或有非二宮而授院號、或准三宮者、蓋後世立后、必出藤原氏之門、他姓不得與焉、輔佐幼冲、秉持鈞衡、外戚之權日重、而宮闈之寵益隆、其如額田部皇后、寶皇后、鸕野

皇后、皆以皇胤臨朝、釋褘翟而被袞冕、事詳本紀、參互可見、作后妃傳、

神武媛蹈韝五十鈴媛皇后、事代主命大女也、母曰玉櫛姫、庚申歳八月、帝將立正妃、廣求華冑、時或奏以后國色之秀、帝悅、九月納爲正妃、○古事記曰、天皇求可立爲后者、大來目命薦后、后偶與羣女遊于高佐士野、大來目以歌諷天皇自擇、后立于羣女之前、天皇答歌、寓悅后之意、大來目通此意於后、后許諾、時后家于狹井河上、天皇卽往其家、一宿而還、及後入宮、天皇作歌曰、阿斯波良能、志祁去岐袁夜邇、須賀多多美、伊夜佐夜斯岐氏、和賀布多理泥斯、帝卽位元年正月、立爲皇后、生彥八井耳命、神八井耳命、綏靖帝、彥八井耳命據古事記、綏靖帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

妃吾平津媛、日向吾田小椅君妹也、小椅君據古事記、帝爲太子時、納爲妃、生手研耳命、岐須美美命、日本紀、岐須美美命據古事記

綏靖五十鈴依媛皇后、事代主命少女、皇太后媛蹈韝五十鈴媛妹也、帝二年正月、立爲皇后、○本書註載一說曰、以磯城縣主女川派媛爲皇后、或曰春日縣主大日諸女

系織媛、古事記亦曰、娶河股比賣、生安寧帝、生安寧帝、安寧帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

安寧渟名底仲媛皇后、一名渟名襲媛、事代主命孫、鴨王女也、○鴨王、舊事紀、皇胤紹運錄並作鴨玉、生息石耳命、懿德帝、磯城津彥命、帝三年正月、立爲皇后、○本書註載一說曰、以磯城縣主葉江女川津媛爲皇后、或曰、大間宿禰女系井媛、古事記曰、河股比賣之兄縣主殿延女阿久斗比賣、懿德帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

懿德天豐津媛皇后、息石耳命女也、帝二年

二月、立爲皇后、〇本書註載一說曰、以磯城縣主葉江男第猪手女泉媛爲皇后、或曰、磯城縣主太眞稚彥女飯日媛、生孝昭帝、武石彥奇友背命、孝昭帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

孝昭世襲足媛皇后、又名日置姬、天忍男命女、又名以下據舊事紀瀛津世襲妹也、帝二十九年正月、立爲皇后、〇本書註載一說曰、以磯城縣主葉江女渟名城津媛爲皇后、或曰、倭國豐秋狹太雄女大井媛、生天足彥國押人命、孝安帝、孝安帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

孝安押媛皇后、〇古事記作忍鹿比賣天足彥國押人

命女也、帝二十六年二月、立爲皇后、〇本書註載一說曰、以磯城縣主葉江女長媛爲皇后、或曰、十市縣主五十坂彥女五十坂媛、生大吉備諸進命、孝靈帝、大吉備諸進命據古事記孝靈帝卽位、尊曰皇太后、日本紀〇按舊事紀孝元紀八年二月、追贈太皇太后、自此以下、每紀必載太皇太后、而日本紀不載、故今不取、

孝靈細媛皇后、磯城縣主大目女也、〇磯城、古事記作十市、帝二年二月、立爲皇后、〇本書註載一說曰、以春日千乳早山香媛爲皇后、或曰、十市縣主等祖女眞舌媛、生孝元帝、孝元帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

妃倭國香媛、又名絙某姉、日本紀〇古事記作意富夜麻登玖邇阿禮比賣和知都美命女也、古事記生倭迹迹日百襲姬命、日子刺肩別命、彥五十狹芹彥命、倭迹迹稚屋姬命、日本紀、日子刺肩別命據古事記

妃絙某弟、倭國香媛妹也、生彥狹島命、稚武彥命、日本紀、倭國香媛妹據古事記、

春日千千速眞若媛、生千千速媛、古事記

孝元鬱色謎皇后、鬱色雄命妹也、帝七年二月、立爲皇后、生大彥命、少名日子建猪心命、

開化帝、倭迹迹姬命、少名日子建猪心命據古事記開化帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

妃埴安媛、河內青玉繫女也、生武埴安彥命、日本紀

開化伊香色謎皇后、大綜麻杵女也、〇古事記爲內色許男命女后初爲孝元帝妃、生彥太忍信命、帝烝之、生崇神帝、御眞津比賣、六年正月、立爲皇后、崇神帝卽位、尊曰皇太后、日本紀、御眞津比賣據古事記、

妃丹波竹野媛、丹波大縣主由碁理女也、生彥湯產隅命。日本紀、父名據古事記

妃姥津媛、天足彥國押人命女、姥津命妹也、生彥坐王。日本紀、父名據姓氏錄

鸇媛、葛城垂見宿禰女也、生建豐波豆羅和氣命。古事記

崇神御間城姬皇后、大彥命女也、帝未卽位時納之、生垂仁帝、彥五十狹茅命、國方姬命、千千衝倭姬命、倭彥命、五十日鶴彥命。○古事記無五十日鶴彥命、有伊賀媛。

帝元年二月、立爲皇后、垂仁帝卽位、尊曰皇太后。日本紀

妃遠津年魚眼眼妙媛、紀伊人○古事記作木國造荒河戶畔女也。○本書註載一說曰大海宿禰女八坂振天某邊生豐城入彥命、豐鍬入姬命。日本紀

妃尾張大海媛○舊事紀海作倭誤又名葛城高名姬健諸隅妹也。又名以下據舊事紀生大入杵命、八坂入彥命、渟名城入姬、十市瓊入姬命。日本紀、大入杵命據古事記

垂仁狹穗姬皇后、一名佐波遲媛、彥坐王女也。一名以下據古事記帝二年二月、立爲皇后、生譽津別命。四年、后兄狹穗彥謀反、乘間謂后曰、兄與夫孰愛。后不測其意、輒對曰、愛兄。狹穗彥誘后曰、以色事人、色衰寵弛。今天下多佳人、遞進求寵、汝豈得永恃乎。今我得志、與汝共臨天下、不亦樂乎。乃取匕首、○古事記作八鹽折之紐小刀授后、使伺帝寐刺之。后大驚懼、而計其不可輒諫、且受而著之衣中。五年、帝在來目高宮、

枕后膝而晝寢。后思狹穗彥之言、悲泣不禁、淚落帝面。○按古事記曰、后欲刺帝、擧刀三而不忍、涕落帝面、稍與本書異。帝寤告后曰、朕夢錦色小蛇繞頸、大雨起自狹穗撲朕面、是何祥也。后悚恐伏地、因奏狹穗彥之反狀、且泣曰、告則亡兄、不告則傾社稷、一懼一悲、日夜嗚咽。今陛下枕妾膝而寢、成兄之志、適在是時、妾不能違兄、亦不可背恩、是以悲而泣、蛇乃匕首、雨乃涕也。帝曰、是非汝罪。卽命八綱田急發兵衆討狹穗彥。狹

穗彥興兵距之、俄積稻爲城、堅不可破、時謂之稻城、攻之踰月不降、后泣曰、吾雖皇后、若亡兄王、何面目復立于世、乃抱譽津別、奔赴稻城、帝益兵合圍、諭城中出皇后皇子、不從、八綱田放火焚城、后使人抱皇子出城、因奏曰、妾嚮所以入城、冀以妾與皇子故免兄罪也、今不得免、乃知妾有罪、與其面縛、寧自經而死耳、妾雖死不敢忘恩、丹波道主王五女、志並貞潔、宜納掖庭以充後宮、既而后與狹

穗彥死于城中、○古事記曰、師圍狹穗彥、后奔赴其城、后時有身、帝不忍迫之、命軍緩攻、既而后生男子、奉之視城外曰、皇子新誕、宜告帝而來取、帝命軍士多力輕捷者取皇子、戒曰、併得其母來、后亦揣知帝意、慮爲所執、剃髮結而藏之、衣服及纏手玉緒、酒浸以腐壞之、既而親抱皇子、出之城外、軍士爭進取之、及執后、握髮髮斷、曳衣衣壞、纏手玉緒皆隨手而斷、竟弗能獲后、後帝思后言、納丹波道主王五女、日本紀日葉酢媛皇后、○或作日葉酢根丹波道主王長女也、因狹穗姬皇后言、以十五年二月、召后及四妹渟葉田瓊入媛、眞砥野媛、薊瓊入媛、○本書薊誤作筯、舊事紀作薊、薊與薊同、並訓阿邪美、今據古事記音讀訂之、竹野媛入宮、○古事記曰、皇后三妹曰弟比賣、次歌凝比賣、次圓野比賣、又皇后妹曰沼羽田之入日賣命、次阿邪美能伊理毗賣命、八月、日葉酢媛立爲皇后、三妹並爲妃、獨竹野媛醜、遣歸家、竹野媛意甚慙焉、行至葛野、自墮輿死、因名其地曰墮國、○古事記曰、歌凝比賣、圓野比賣以醜遣歸、圓野比賣甚愧之、往至山代國相樂、欲懸樹自盡、因名其地曰懸木、及至弟國、遂墮淵而死、故號其地曰墮國、三十二年七月、皇后崩、先是、帝禁以人殉死、至此作土物代殉、日本紀時建眞利根命獻石棺、姓氏錄

葬狹木之寺間陵、古事記皇后生五十瓊敷入彥命、景行帝、大中姬命、大中津日子命、倭姬命、稚城瓊入彥命、日本紀、大中津日子據古事記、妃渟葉田瓊入媛、生鐸石別命、膽香足姬命、日本紀妃眞砥野媛、日本紀○舊事紀載生磐撞別命、祖別命、今不取、妃薊瓊入媛、生池速別命、稚淺津姬命、日本紀○按舊事紀無稚淺津姬命、而載五十速石別命、五十日足彥命、迦具夜比賣、大筒木垂根王女也、生袁邪弁

王、古事記

苅幡戸邊、○本書作刈羽田刀弁、今從日本紀、山代大國淵女也、古事記生祖別命、五十日足彦命、膽武別命、日本紀弟苅幡戸邊、苅幡戸邊妹也、生磐衝別命、兩道入姬命、古事記○按日本紀、綺戸邊、山背大國不避女也、帝三十四年三月幸山背、時左右奏、國有佳人、曰綺戸邊、姿貌絶麗、帝意欲得之、乃執矛祝曰、朕得佳人者、路見其兆、及至行宮、大龜浮水、帝舉矛擱之、化爲白石、帝喜曰、此必有應、遂得綺戸邊、而納宮中、生磐衝別命、先是納山背苅幡戸邊、生三男、由是觀之、苅幡戸邊、綺戸邊、似爲異

族、今按苅幡與綺、訓讀相近、淵訓不遲、疑日本紀誤遲爲避、遂爲異族、且綺上脫一弟字也、今從古事記、

景行播磨稻日大郎姬皇后、稚武彦女也、古事記○按稚武彦、孝靈帝之子也、自孝靈帝崩至景行帝二年、算二百八十六年、年代邈遠、不爲無疑、今莫所攷、帝二年三月立爲皇后、○本書註載一說曰、以稻日稚郎姬爲皇后、生櫛角別王、大碓皇子、小碓尊、○本書註一說載稚倭根子命爲三子、古事記亦載稚倭根子命、及神櫛王爲五子、今並不取、五十二年五月崩、日本紀、櫛角別王據古事記、

八坂入媛皇后、八坂入彦命長女也、妹曰弟媛、帝幸美濃、聞弟媛有姿色、欲得之、幸其家、弟媛聞之、避匿不出、帝欲使之至、乃居泳宮、放鯉魚於池、朝夕戲遊、弟媛密來窺之、帝留而幸之、弟媛意不樂、白帝曰、妾性不好歡接、且形姿穢陋、不堪充掖庭、妾有姊曰八坂入媛、姿貌麗艷、志亦貞潔、宜納後宮、帝乃召八坂入媛爲妃、生成務帝、五百城入彦皇子、忍之別皇子、稚倭根子皇子、大酢別皇子、渟熨斗皇女、渟名城皇女、五百城入姬皇女、麛依

姬皇女、五十狹城彦皇子、吉備兄彦皇子、高城入姬皇女、弟姬皇女、及稻日大郎姬皇后崩、立爲皇后、成務帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

妃水齒郎媛、三尾氏磐城別妹也、生五百野皇女、日本紀

妃五十河媛、生神櫛皇子、稻背入彦皇子、日本紀

妃高田媛、阿倍氏木事女也、生武國凝別皇子、日本紀

妃日向髮長大田根、生日向襲津彥皇子、日本紀

妃襲武媛、生國乳別皇子、國背別皇子、豐戶別皇子、日本紀

妃御刀媛、居日向、帝十三年平熊襲、還在高屋宮、聞其美納爲妃、生豐國別皇子、日本紀

妃五十琴姬、物部膽咋女也、帝三十六年納爲妃、生五十功彥命、舊事紀

稻日稚郎姬、大郎姬皇后妹也、生眞若王、彥

人大兄王、古事記

迦具漏比賣、○按本書、爲日本武尊曾孫須賣伊呂大中日子王女、年期相乖、故不取、應神帝妃有迦具漏媛、此蓋日本武尊曾孫也、生大江王、古事記

仲哀神功皇后、氣長宿禰王女也、母曰葛城高額媛、幼而聰叡、容貌壯麗、宿禰王異之、帝二年正月立爲皇后、及帝崩、后親綢繆後事、督軍征三韓、外國歸化、威風大行、及生應神帝、后臨朝稱制、羣臣尊曰皇太后、攝政凡七十年矣、事詳帝紀、○按仲哀之崩、天下無主、皇后奉遺腹、以號令四海、稱爲胎中之帝、然應神既生、宜立爲天子、而立爲太子、名實不正、皇后疑乎卽眞矣、後世徒見其迹、遂列皇統世次、大失舊史之旨、古事記歷敍帝王治天下、直以應神接仲哀之後、不數皇后、至於日本紀、則特書曰攝政元年、其義亦嚴矣、且女主卽眞、如推古持統、皆稱天皇、而皇后則否、其後議定追諡、亦曰神功皇后、而不奉天皇之號、由是觀之、其不宜列于帝紀審矣、雖然、仲哀應神之際、皇后稱制、實行天子之事、故今不沒其實、備后舉動於二帝本紀、而不別作皇后紀、己丑歲崩于稚櫻宮、年一百歲、葬狹城盾列池上陵、池上二字據延喜式、應神帝追尊曰氣長足姬尊、後世諡神功皇后、日本紀

妃大中姬、彥人大兄王女也、生麛坂皇子、忍熊皇子、日本紀

妃弟媛、大酒主女也、生譽屋別皇子、日本紀

應神仲姬皇后、五百城入彥皇子之孫、品陀眞若王之女也、父名據古事記、帝二年三月立爲皇后、生荒田皇女、仁德帝、根鳥皇子、仁德帝卽位、尊曰皇太后、日本紀

妃高城入媛、皇后姊也、生額田大中彥皇子、大山守皇子、去來眞稚皇子、大原皇女、澇來田皇女、日本紀

妃弟姬、皇后妹也、生阿倍皇女、淡路御原皇女、紀莵野皇女、三野郎女、日本紀、三野郎女、據古事記、妃宮主宅媛、○古事記作宮主矢阿枝比賣、舊事紀作物部多遲麻女香室媛、或作山無媛、和珥日觸使主女也、日本紀、古事記、帝幸近淡海、至木幡村、路見媛、悅之、問曰、汝誰子、媛對以父名、帝曰、明日朕當往汝家、媛歸語父日觸、清室以待、明日帝幸焉、日觸置酒奉饗、媛把盞獻之、帝喜作歌、古事記、遂納爲妃、生皇太子莵道稚郎子、八田皇女、嶋鳥皇女、日本

紀、妃小甂媛、宅媛妹也、生莵道稚郎姬皇女、日本紀

妃弟姬、河派仲彥女也、○古事記作咋俣長日子王女、息長眞若中比賣、生稚野毛二派皇子、日本紀、妃絲媛、○古事記作絲井比賣、櫻井田部男鉏妹也、○古事記爲島垂根女、生隼總別皇子、日本紀、妃日向泉長媛、生大葉枝皇子、小葉枝皇子、幡日若郎女、日本紀、幡日若郎女、據古事記、妃兄媛、吉備武彥命女也、○本書不載父名、說見皇子傳、帝二十二年三月、幸難波、居大隅宮、適登高臺、兄媛侍焉、西望長歎、帝問曰、汝何歎、對曰、妾近思父母、故歎爾、願暫歸省、帝感其志、許之、因使淡路御原海人八十人艤舟送之、四月、發自大津、歸吉備、帝登臺遙望其舟、作歌曰、阿波旎辭摩、異椰敷多那羅弭阿豆枳辭摩、異椰敷多那羅弭豫呂辭枳辭摩之魔、儴伽多佐例阿羅智之、吉備那流伊慕塢、阿比瀰莵流慕能、九月、帝遊獵淡路島、遂幸吉備、至

葦守宮、時妃兄御友別獻食、其兄弟子孫皆爲膳夫、帝大嘉焉、因割吉備國、封其子稻速別於川島縣、仲彥於上道縣、弟彥於三野縣、其兄浦凝別於苑縣、其弟鴨別於波區藝縣、特封兄媛以織部縣、日本紀

迦具漏媛、○按景行帝妃有迦具漏媛、說見上、生川原田郎女、玉郎女、忍坂大中比賣、登富志郎女、堅石王、古事記

仁德磐之媛皇后、葛城襲津彥女也、帝二年

三月、立爲皇后、七年、帝爲定葛城部、二十二年、帝欲納八田皇女爲妃、作歌諭意于后、后答歌沮之、三十年九月、后將豐樂、（將豐樂據古事記）幸紀國熊野岬、採御綱葉、帝時其亡、召八田皇女納宮中、后還至難波、聞之大恚、投御綱葉於海、不肯下船、因名其處曰葉濟、（○古事記作御津前）帝未知其情、幸大津以迎后、后徑遡江、自山背赴倭、（○古事記曰、太后從木國還、水取司仕丁至難波大渡、遇倉人女語曰、天皇納八田若郎女、太后未之知乎、倉人女告其言、太后恚恨不肯還宮、泝堀江幸山代、按古事記稱后曰太后、蓋上世皇后太后稱謂未定、故古事記所載、凡尊天子之正嫡、概稱太后也、）帝使舍人鳥山諭后還宮、后不肯還、營宮山背筒城岡南而居焉、帝遣口持臣諭之、后默不答、口持臣日夜伏殿前、雨雪不去、其妹國依媛事后、見其狀而泣、后問其故、對曰、今伏庭俟命者妾兄也、雨雪不避、是以泣、后曰、告汝兄速還、吾意決矣、十一月、帝欲見后、幸山背至筒城宮喚后、后不出、帝作歌諭之、后使人奏曰、陛下納八田皇女爲妃、妾不

欲與妃共事、故不敢見、帝悵然還、三十五年六月、后崩于筒城宮、三十七年十一月、葬那羅山、后生履中帝、住吉仲皇子、反正帝、允恭帝、帝初悅宮人桑田玖賀媛、然憚后妬不敢召、出賜侍臣速待、玖賀媛拒速待曰、妾寡居以終、何爲君之妻、帝命使媛與速待歸桑田、媛發病道死、（日本紀）

八田皇后、（○古事記作八田若郎女）母宮主宅媛、初后母兄皇太子菟道稚郎子臨薨託帝納宮、帝二十二年、欲納之以成太子之志、問磐之媛皇后、皇后不懌、及皇后幸紀國、帝納爲妃、三十五年、磐之媛皇后崩、三十八年正月、立爲皇后、（日本紀）帝爲定八田部、（古事記）以后無子、詔侍臣物部大別連公定皇子代、賜后號爲氏、以爲氏造、改姓矢田部連公、履中帝卽位、尊曰皇太后、（舊事紀、○按古事記曰、天皇娶八田若郎女、又娶宇遲能若郎女、共無子、然諸書不載、故不取、）

妃日向髮長媛、諸縣君牛諸井女也、初應神

帝時有人奏曰、日向國有女子、名髮長媛、國色無雙、應神帝遣使召至、居之桑津邑、帝時爲皇子、見其美而悅之、應神帝知其意、欲以賜之、一日宴于後宮、召髮長媛侍席、指示帝以歌諭意、帝大悅而荅歌、既得髮長媛、寵幸殊渥、生大草香皇子、幡梭皇后、日本紀○按本書應神紀一說曰、日向諸縣君牛致仕歸鄉、進其女髮長媛、比至播磨、譽田天皇偶獵于淡路島、麋鹿數十泛海而來、天皇怪之、使人往視、則皆人也、悉被鹿皮、問之、對曰、諸縣君牛雖年老致仕、志在朝庭、故來獻其女、天皇悅之、即命上船、古事記曰、髮長比賣至自日向、泊難波津、大雀命聞其國色、謂建內宿禰曰、我欲得髮長比賣、請爲奏天皇、建內奏之、豐明宴日、天皇使髮長比賣執大御酒柏、因作歌賜之大雀命、

履中、草香幡梭皇后、一名橘姬、日本紀又名長日賣命、又名若日下命、仁德帝爲定若日下部、古事記帝納爲妃、生中蒂皇后、帝六年正月、立爲皇后、帝崩後、再爲雄略皇后、日本紀

妃黑媛、葦田宿禰女也、帝元年七月、爲皇妃、生市邊押羽皇子、御馬皇子、青海皇女、五年九月薨、時帝方獵淡路島、空中有聲曰、劒刀太子王也、又曰、鳥往來羽田之汝妹者、羽狹丹葬立往、又曰、狹名來田蔣津之命、羽狹丹葬立往也、俄而訃至、帝大驚、即日迴駕、十月葬之、○按本書、帝既除喪未即位、欲聘羽田矢代宿禰女黑媛爲妃、以住吉仲皇子爲使、仲皇子姦之、事發覺、仲皇子伏誅、元年立葦田宿禰女黑媛爲皇妃、蓋二黑媛偶同名耳、然空中有聲、所謂羽田之汝妹者、蓋近於羽田矢代之義、矢代宿禰武內子也、葦田宿禰葛城襲津彥之子、而武內之孫也、出自不遠、且水鏡以仲皇子所姦黑媛爲葦田宿禰女、疑一人也、天皇以皇妃薨爲神祟、訪求其咎、或告車持君在筑紫、悉校車持部、奪隸神戶者、

推問得實、責其罪停職、日本紀

嬪大姬郎姬、高鶴郎姬、共鯽魚磯別王女也、帝六年二月、並納爲嬪、二嬪既入宮、恒懷悲嘆、帝聞而問之曰、汝何嘆、對曰、妾兄鷲住王、爲人强力輕捷、能超八尋屋而出遊、多日不得面言、故嘆耳、帝說其强力、遣使召之者再、不肯來、恒居於住吉邑、是爲讚岐國造及阿波脚咋別二族之始祖云、日本紀○按本書景行紀云、神櫛皇子、讚岐國造之始祖也、姓氏錄亦與此合、然則鯽魚磯別王、蓋神櫛皇子之後也、而其世

次無所考、姑附于此、

大日本史卷之七十四終

大日本史卷之七十五

列傳第二

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保　重校

后妃二

反正皇夫人津野媛

弟媛

允恭忍坂大中姫皇后

衣通郎姫

安康中蒂姫皇后

雄略草香幡梭皇后

妃葛城韓媛

妃吉備稚媛

妃童女君

顯宗難波小野皇后

仁賢春日大娘皇后

糠君娘

武烈春日娘子皇后

繼體手白香皇后

妃目子媛

妃稚子媛

妃廣媛

妃麻績娘子

妃關媛

妃倭媛

妃荑媛

妃廣媛

安閑春日山田皇后

妃紗手媛

妃香香有媛

妃宅媛

宣化橘仲皇后

妃大河内稚子媛

欽明石姫皇后

妃倉稚綾姫

妃日影皇女
妃堅鹽媛
妃小姉君
妃糠子
敏達廣姫皇后
額田部皇后
夫人老女君
夫人兎名子
用明穴穗部間人皇后

嬪石寸名
廣子
崇峻妃小手子
舒明寶皇后
夫人法提郎媛
蚊屋采女
孝德間人皇后
妃小足媛
妃乳娘

天智倭姫王皇后
嬪遠智娘
嬪姪娘
嬪橘娘
嬪常陸娘
色夫古娘
黑媛娘
越道君伊羅都賣
宅子娘

帝大友妃十市皇女
耳面刀自
天武鸕野皇后
妃大田皇女
妃大江皇女
妃新田部皇女
夫人氷上娘
夫人五百重娘
夫人大蕤娘

額田姬王

尼子娘

穀媛娘

反正皇夫人津野媛、木事女也、○木事、古事記作丸邇許基登臣、帝元年八月、爲皇夫人、○皇胤紹運錄作皇后誤生香火姬皇女、圓皇女、日本紀

弟媛、津野媛妹也、生財皇女、高部皇子、日本紀

允恭忍坂大中姬皇后、稚野毛二派皇子女也、帝爲皇子時、納爲妃、生木梨輕太子、名形大娘皇女、境黑彥皇子、安康帝、輕大娘皇女、八釣白彥皇子、雄略帝、但馬橘大娘皇女、酒見皇女、反正帝崩、羣臣議奉帝卽位、帝固辭、后知羣臣憂懼、適執盥于帝前、因啓曰、大王謙遜、天位久曠、羣臣百僚不知所爲、願大王勉從羣望、帝背而不言、后惶恐不退、數刻、時方季冬烈寒、水溢凝於腕、凍寒幾死、帝顧而駭、扶起曰、嗣位重事、不得輒就、然羣臣所請、事理灼然、何終辭、后退謂羣臣曰、皇子將聽

所請、當上璽符、羣臣卽日捧璽符、再拜上之、帝遂卽位、明年二月、立爲皇后、爲定刑部、○古事記曰、爲皇后妹田井中比賣御名代、定河部、帝又使后進女弟衣通郞姬、造宮於藤原處之、后生雄略帝之夕、帝始幸之、后聞而大恨曰、妾結髮侍宮闈、今妾在蓐、死生不測、而以是夕幸藤原、何也、乃欲縱火自焚、帝聞大驚曰、朕過也、慰諭而止、及安康帝卽位、尊曰皇太后、雄略帝獵御馬瀨、大獲禽、顧謂羣臣曰、獵場之樂、使膳夫割鮮、孰與自割、羣臣不能遽對、帝怒、拔刀斬御者、促駕還宮、太后憂懼、乃使倭采女日媛迎駕獻酒、帝悅、日媛攜手入後宮、白太后曰、今日遊獵、多獲禽、欲與羣臣割鮮爲野饗、歷問羣下、莫有能對、故吾怒之、太后慰之曰、意者陛下欲因獵場置宍人部、而羣臣不曉、故難其對、今貢之、亦未晚、請以我爲始、膳臣長野善作宍膾、宜以充之、帝跪曰、善哉、鄙人所謂貴相知心、此之謂也、太后見帝有喜色、因更

薦其廚人兎田御戸部眞鋒田高天者並爲宍人部後大倭國造吾子籠貢狹穗子鳥別自是臣連伴造國造相繼而貢初后從母在家獨遊園中闘鷄國造乗馬窺籬戲曰能治園乎因求蘭一莖后采授之問其所須國造曰往山撥蟆耳后惡其侮慢曰首也吾不忘矣及貴讓其罪而欲殺之國造叩頭曰臣罪實當萬死然當時豈知皇后有今日乎后赦之貶其姓曰稻置日本紀

衣通郎姬一名弟姬皇后妹也姿容絶妙光艷徹衣時人號曰衣通郎姬帝聞其美欲納之七年十二月宴新室帝親彈琴皇后起舞時俗每宴會舞竟卽謂座長曰奉娘子以爲禮皇后悟帝强己令進弟姬舞竟故不陳禮詞帝謂皇后曰何失常禮耶皇后復起舞舞竟曰奉娘子帝問娘子爲誰皇后不獲已乃對曰妾妹名弟姬帝懽明日遣使召之時姬從母在近江坂田畏皇后不敢至使者七還猶不至更命舍人中臣烏賊津曰汝能將弟姬來朕必厚賞烏賊津至坂田姬曰妾豈拒天皇之命唯恐違皇后之意妾死不敢赴召烏賊津曰天皇命臣曰必迎得來不然將獲罪歸而不免死寧伏庭而死耳固不去初烏賊津裹糒裀中而往密餐之伏中庭七日與之飮食不受姬以爲旣不奉詔又喪忠臣是重我罪也乃與烏賊津就道至倭春日憇櫟井上自酌酒以勞烏賊津卽日入京師烏賊

津留姬於倭吾子籠家入奏其狀帝嘉歎特褒賞之后知姬至色不平帝憚之不敢納宮中造宮於藤原處之明年二月帝潛幸藤原窺之姬不之知慕帝歌曰和餓勢故餓句倍枳豫臂奈利佐瑳餓泥能區茂能於虚奈比虚豫比辭流辭毛帝感之乃歌曰佐瑳羅餓多通之枳能臂毛弘等枳舍氣帝阿麻哆絆泥受迹多儴比等用能未后聞之大怨姬益憚之願離宮遠居帝更造宮於河內茅渟使

姫從居焉、屢託遊獵幸茅渟、后曰、陛下屢幸茅渟、妾非絲髮嫉之、但恐百姓所疾苦、帝爲之遊幸稍希、初姫在藤原、帝謂大伴室屋曰、朕得美孃子、甚愛之、欲傳其名於後世、室屋承旨、課諸國造、爲定藤原部、日本紀 ○古事記曰、忍坂大中津比賣命、生輕大郎女、又名衣通郎姫、有殊色、光明徹衣、按輕皇女皇后之子、而衣通姫皇后之妹也、古事記所言、未詳其故、古事記又載皇后之妹有藤原琴節郎女、按衣通姫居藤原宮、則所謂琴節郎女者、即其人歟、姑存備考、

安康中蒂姫皇后、○蒂或作磯 一名長田大娘皇女、履中帝女也、初適大草香皇子、生眉輪王、帝元年、以根使主讒、殺大草香、納姫爲妃、二年正月、立爲皇后、日本紀

雄略草香幡梭皇后、初爲履中皇后、履中帝崩後、依母兄大草香皇子、安康帝欲爲帝再聘之、遣根使主諭旨、大草香喜奉命、以押木珠縵授根使主爲信、根使主匿珠縵不進、詐奏曰、皇子拒命、安康帝大怒、殺皇子、納中蒂姫爲妃、以后配帝、帝元年三月、立爲皇后、五

年、帝獵葛城山、后從焉、野豬突至、帝命舍人逆射且刺之、舍人懼而失色、豬躍將銜觸帝、踏殺之、獵罷、欲斬舍人、后諫曰、遠近皆謂陛下荒畋、以獸故殺人、無乃不可乎、帝欣然納其言、與后上車曰、獵者獲禽、朕獨獲善言而還、樂哉、遂赦舍人、十四年、帝命根使主饗吳人於石上高拔原、遣舍人視之、舍人還、盛稱根使主珠縵之美、帝欲觀之、命臣連不改裝飾、引見殿前、后見而歔欷、帝問其故、對曰、根使主所著者、妾兄奉穴穗天皇敕、進妾陛下時所獻也、妾不能無疑、是以不覺涕泣、帝大怒、責問之、根使主伏罪、將斬之、根使主逃至日根、搆稻城、拒官軍、官軍擊殺之、分其子孫、半爲大草香部民、隷皇后、封戶半賜茅渟縣主、以爲負囊者、根使主子小根使主竊語人曰、天皇城不堅、我父城堅、帝聞而惡之、遣人視之、果如其言、亦誅之、日本紀

妃葛城韓媛、大臣葛城圓女也、帝元年三月

爲妃、生清寧帝、稚足姫皇女、清寧帝卽位、尊爲皇太夫人、（日本紀）

妃吉備稚媛、初適吉備田狹、生兄君、弟君、帝七年、田狹入侍禁内、在同列中、盛稱其妻美曰、天下麗人、莫若吾婦、曠世罕儔、當時獨秀、帝側聽心悅之、乃拜田狹爲任那國司、奪稚媛爲妃、生磐城皇子、星川稚宮皇子、及帝崩、稚媛密勸星川皇子反、事敗、稚媛二皇子、及田狹子兄君皆焚死、（日本紀○按本書雄略帝七年紀註云、田狹臣

婦名毛媛、玉田宿禰之女也、而元年列前後所納后妃云、吉備上道臣女稚媛、註曰、一本云、吉備窪屋臣女稚媛、毛媛名旣異、而父名亦不同、故今不書爲誰女也、）

妃童女君、春日和珥深目女也、初爲采女、帝召而幸之、一宵有身、生春日大娘皇后、帝疑不以爲子、大連物部目嘗侍帝側、見皇女步庭中、顧曰、麗哉女子、是誰之女、帝曰、何故問之、對曰、臣觀女子、行步容儀、甚似陛下、帝曰、嘗見此女者、咸言如卿言、然其母一宵而娠、是以不能無疑、目曰、臣聞以褌觸體、猶且有孕、況通夕侍寢、又何生疑、帝然之、乃以女子爲皇女、童女君爲妃、（日本紀）

顯宗難波小野皇后、磐城王孫、丘稚子王女也、（日本紀註○古事記作磐城王之女）帝元年正月、立爲皇后、（日本紀）仁賢帝龍潛之日、嘗侍宴、將割瓜、帝執刀子、命后授之、后立授之、皇太子、及行酒、又立喚之、（日本紀註）仁賢帝二年九月、后懼其嘗無禮自殺、（日本紀）

仁賢春日大娘皇后、一名高橋皇女、（一名據本書

註）雄略帝女也、帝爲太子時、納爲妃、元年二月、立爲皇后、生高橋大娘皇女、朝嬬皇女、手白香皇后、樟氷皇女、橘仲皇后、武烈帝、眞稚皇女、（日本紀）

糠君娘、和珥日爪女也、（○本書註一說爲和珥日觸女大糠娘）選入後宮、生春日山田皇后、（日本紀）

武烈春日娘子皇后、不詳其父、元年三月立爲皇后、（日本紀）

繼體手白香皇后、仁賢帝女也、母春日大娘

皇后、帝元年二月、大連大伴金村奏曰、臣聞先王之治世、非維城之固、無以鎭乾坤、非掖庭之化、無以繼趺蕚、曩者白髮天皇無嗣、遣臣祖父室屋、每州置三種白髮部、以留名後世、請陛下納手白香皇女爲皇后、遣神祇伯等、禱祠皇胤、以答民望、帝納其言、三月立爲皇后、生欽明帝、欽明帝卽位、尊爲皇太后、日本紀及崩、葬大和山邊郡衾田、延喜式

妃目子媛、一名色部、尾張草香女也、帝元年

三月爲妃、生安閑帝、宣化帝、日本紀

妃稚子媛、三尾角折君妹也、帝元年三月爲妃、生太郎皇子、出雲皇女、日本紀

妃廣媛、○古事記作黑比賣坂田大跨王女也、帝元年三月爲妃、生神前皇女、茨田皇女、馬來田皇女、日本紀

妃麻績娘子、息長眞手王女也、帝元年三月爲妃、生荳角皇女、日本紀

妃關媛、茨田小望女也、○本書一說女或作妹帝元年三月爲妃、生茨田大娘皇女、白坂活日姬皇女、小野稚郎皇女、日本紀○按古事記不載關媛、以白坂小野二皇女爲黑媛所生、不載馬來田茨田大娘二皇女、

妃倭媛、三尾堅槭女也、○古事記作妹帝元年三月爲妃、生大娘子皇女、椀子皇子、耳皇子、赤姬皇女、日本紀

妃荑媛、和珥河內女也、○和珥古事記作阿倍帝元年三月爲妃、生稚綾姬皇女、圓娘皇女、厚皇子、日本紀

妃廣媛、根王女也、帝元年三月爲妃、生兎皇子、中皇子、日本紀

安閑春日山田皇后、仁賢帝女也、日本紀初稱山田大娘皇女、又赤見皇女、日本紀註帝爲太子時、納爲妃、后嘗日晏不出閤、帝異而入見之、后臥牀涕泣、問其故、對曰、飛鳥昆蟲巢樹穴地、以愛護其子、人而無子、恨孰大焉、今太子未有嗣、妾名亦且泯沒、豈得不憂慮乎、帝感惻、奏于繼體帝、詔賜匝布屯倉、以表妃名於

後世、帝元年三月、立爲皇后、四月、内膳卿膳大麻呂奉勅、遣使於伊甚、求珠、伊甚國造稚子等詣京遲緩、踰時不進、大麻呂將收治之、稚子等懼亡、匿後宮、至内寢、后見之驚走、蹟地而踣、稚子等重坐闌入、請獻伊甚屯倉于后以贖、由是定伊甚屯倉、七月、詔差使擇良田爲后置屯倉、至宣化帝崩、欽明帝使羣臣請后決政、后辭不聽、及崩合葬舊市高屋丘陵、（日本紀）

妃紗手媛、大臣許勢男人女也、帝元年三月爲妃、十月、賜小墾田屯倉及諸國田部、（日本紀）

妃香香有媛、紗手媛妹也、帝元年三月爲妃、十月、賜櫻井屯倉、（○本書註載一說曰、加賜茅渟山屯倉）及諸國田部、（日本紀）

妃宅媛、大連物部木蓮子女也、帝元年三月爲妃、十月、賜難波屯倉及諸郡钁丁、（日本紀）

宣化橘仲皇后、（○本書仁賢紀作橘皇女、宣化紀、及古事記、皇胤紹運錄、皆有仲字、今從之、）仁賢帝女也、母春日大娘皇后、帝爲皇子時、納爲妃、元年三月、立爲皇后、生石姬皇后、小石姬皇女、倉稚綾姬皇女、上殖葉皇子、及崩合葬身狹桃花鳥坂上陵、（日本紀）

妃大河内稚子媛、生火焰皇子、（日本紀）

欽明石姬皇后、宣化帝女也、帝初納爲正妃、及即位、立爲皇后、生箭田珠勝大兄皇子、敏達帝、笠縫皇女、敏達帝即位、尊爲皇太后、（日本紀）

妃倉稚綾姬、皇后同母妹也、帝二年三月入

宮、生石上皇子、（日本紀○按古事記曰、納石姬皇后妹小石姬、生石上王、而無倉稚綾姬生石上皇子之文、）

妃日影皇女、亦皇后同母妹也、帝二年三月入宮、生倉皇子、（日本紀○按古事記曰、糠子生倉皇子、而不載日影皇女、）

妃堅鹽媛、大臣蘇我稻目女也、帝二年三月入宮、生用明帝、磐隈皇女、臘嘴鳥皇子、推古帝、椀子皇子、大宅皇女、石上部皇子、山背皇子、大伴皇女、櫻井皇子、肩野皇女、橘本稚皇子、舍人皇女、後爲皇太夫人、（○舊事紀或作皇后）而薨、

推古帝二十年二月、改葬檜隈大陵、王臣以下誄於輕街、阿倍鳥承敕誄之、所奠明器明衣之屬、凡一萬五千種、諸皇子循序誄之、日本紀

妃小姉君、堅鹽媛同母妹也、○古事記爲堅鹽媛姨、生茨城皇子、葛城皇子、穴穗部間人皇后、埿部穴穗部皇子、崇峻帝、日本紀

妃糠子、春日日抓臣女也、帝二年三月入宮、生春日山田皇女、橘麻呂皇子、日本紀○按本書仁賢宮人和珥臣氏女糠君娘生春日山田皇女、與此相類、疑有一誤、

敏達廣姫皇后、息長眞手王女也、帝四年正月、立爲皇后、十一月崩、生押坂彥人大兄皇子、逆登皇女、菟道磯津貝皇女、日本紀

額田部皇后、欽明帝女也、帝五年三月、立爲皇后、生菟道貝鮹皇女、竹田皇子、小墾田皇女、鸕鷀守皇女、尾張皇子、田眼皇女、櫻井弓張皇女、及崇峻帝崩、卽天位、是爲推古帝、日本紀

夫人老女君、又名藥君娘、春日仲君之女也、帝四年正月、納爲夫人、生難波皇子、春日皇子、桑田皇女、大派皇子、日本紀

夫人兎名子、伊勢大鹿小熊女也、初以采女進、帝幸之、生太姫皇女、糠手姫皇女、四年正月爲夫人、日本紀

用明穴穗部間人皇后、○本書欽明紀作埿部穴穗部皇女、法隆寺金堂釋迦佛銘文、稱鬼前太后、欽明帝女也、日本紀欽明帝三十一年二月、帝納爲妃、聖德太子傳曆及卽位、立爲皇后、生廏戸皇子、來目皇子、殖栗皇子、茨

田皇子、日本紀推古帝二十九年十二月崩、法隆寺金堂釋迦佛銘文

嬪石寸名、○古事記作意富藝多志比賣、大臣蘇我稻目女也、帝元年正月入宮爲嬪、生田目皇子、日本紀

廣子、葛城磐村女也、○帝王編年記以廣子爲妃、而類聚國史后妃部不載廣子、故今不取、生麻呂子皇子、酢香手姫皇女、日本紀○古事記曰、當麻之倉首比呂之女、飯女之子、生當麻王、須賀志氏古郎女、按當麻王、卽麻呂子皇子、須賀志氏古郎女、卽酢香手姫皇女也、

崇峻妃小手子、大伴糠手女也、帝元年三月爲妃、生蜂子皇子、錦代皇女、日本紀○按舊事紀曰、物部尾興女布都姫、爲崇峻帝夫人、參朝政、又曰、布都姫適異母兄石上贄古、生四子、其說可疑、且本書不載、故不取、

舒明寶皇后、茅渟王女也、帝二年正月立爲皇后、生天智帝、間人皇后、天武帝、及舒明帝崩、卽天位、是爲皇極帝、日本紀

夫人法提郎媛、大臣蘇我馬子女也、生古人皇子、日本紀○皇胤紹運錄、帝王編年記並載、夫人又生布敷皇女、二書又載、粟田鈴子女香櫛娘、又名狹狹浪娘、爲夫人、生押坂錦間皇女、皇胤紹運錄、一代要記載、蘇我蝦夷女手坏娘、爲夫人、生箭田皇女、共日本紀所不載、故不取、

蚊屋采女、○一代要記爲嬪、姉子姫、未知何據、生蚊屋皇子、日本紀

孝德間人皇后、舒明帝女也、大化元年七月、立爲皇后、白雉四年、皇太子奏請遷都倭京、不許、皇太子自奉皇祖母尊及后、徙居飛鳥河行宮、天智帝乙丑歲二月崩、爲度三百三十人、丁卯歲、祔葬齊明帝小市岡上陵、日本紀

妃小足媛、左大臣阿倍倉梯麻呂女也、生有間皇子、日本紀

妃乳娘、右大臣蘇我倉山田石川麻呂女也、日本紀

天智倭姫王皇后、古人皇子女也、帝卽位、立爲皇后、日本紀

嬪遠智娘、一名造媛、○本註曰、或云、美濃津子娘、右大臣蘇我倉山田石川麻呂女也、生大田皇女、持統帝、建皇子、○本註曰、一曰、遠智娘生建皇子、大田皇女、鸕野皇女、與本文次序有異、又云、蘇我山田麻呂女茅渟娘、生大田皇女、娑羅羅皇女、大化五年、

石川麻呂被讒自經、帝使物部二田鹽斬其首、嬪聞之悲痛、從此惡斥言鹽、近侍爲呼食鹽曰幾太志、遂以憂卒、日本紀

嬪姪娘、○本註曰、或云、櫻井姫、續日本紀作宗我嬪、遠智娘娣也、生御名部内親王、元明帝、日本紀○按本書皇極紀、天智帝謀誅入鹿、欲與石川麻呂結婚勠力、納其長女爲妃、臨期爲其族身狹所偸、石川麻呂憂懼、少女請以已代、石川麻呂悅從之、所謂少女蓋爲二嬪之一、而今無所考、

嬪橘娘、左大臣阿倍倉梯麻呂女也、生飛鳥

內親王、新田部皇女。日本紀
嬪常陸娘、左大臣蘇我赤兄女也、生山邊皇女。日本紀
色夫古娘、忍海小龍女也、生大江皇女、川島皇子、泉內親王。日本紀
黑媛娘、栗隈德萬女也、生水主內親王。日本紀
越道君伊羅都賣、生春日宮天皇施基。日本紀
宅子娘、伊賀采女也、生帝大友。日本紀
帝大友妃十市皇女、天武帝女也。日本紀 生葛野皇子。懷風藻 及帝徵兵、皇女裁書告吉野。水鏡 愚管鈔 天武帝六年四月甍、葬于赤穗。日本紀
耳面刀自、內大臣藤原鎌足女也。皇胤紹運錄 帝爲皇子時、鎌足請而納焉。懷風藻 生壹志姬王、皇胤紹運錄

天武鸕野皇后、天智帝女也、帝爲皇子時納爲正妃、生岡宮天皇草壁、帝元年立爲皇后、及帝崩、遂踐天位、是爲持統帝。日本紀
妃大田皇女、天智帝女也、帝爲皇子時、納爲妃、生大伯皇女、大津皇子、甍、葬于小市岡上陵前。日本紀
妃大江皇女、天智帝女也、生長親王、弓削皇子。日本紀 賜位淨廣貳、文武帝三年十二月甍、續日本紀
妃新田部皇女、天智帝女也、生崇道盡敬皇帝舍人。日本紀 文武帝三年九月甍。續日本紀
夫人氷上娘、內大臣藤原鎌足女也、生但馬內親王、帝十年正月卒、葬于赤穗。日本紀

夫人五百重娘、氷上娘娣也、生新田部親王、日本紀
夫人大蕤娘、左大臣蘇我赤兄女也、生穗積親王、紀皇女、田形內親王。日本紀 敍正三位、益封一百戶、神龜元年七月甍、敕遣使監護葬事、就第宣詔、贈正二位、賜賻。續日本紀
額田姬王、鏡王女也、生十市皇女。日本紀
尼子娘、胸方德善女也、生高市皇子。日本紀
縠媛娘、○縠、本書作擬、今據類聚國史、宍人大麻呂女也、生

忍壁親王、磯城皇子、泊瀨部内親王、託基内親王、日本紀

大日本史卷之七十五終

大日本史卷之七十六

列傳第三

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

女孫權中納言從三位治保重校

后妃三

文武藤原皇后

嬪紀竈門娘

嬪石川刀子娘

聖武藤原皇后

夫人縣犬養廣刀自

夫人藤原氏

夫人藤原氏

夫人廣岡古那可知

廢帝後宮粟田諸姉

光仁皇后

高野皇后

夫人藤原曹子

尾張女王

縣犬養男耳

島姬

桓武藤原皇后

藤原皇后

妃酒人内親王

夫人藤原吉子

夫人多治比眞宗

夫人藤原小屎

女御紀乙魚

女御百濟教法

橘常子

橘御井子

坂上春子

紀若子

坂上又子

藤原上子

藤原河子

河上好

百濟教仁

百濟貞香

藤原東子

藤原南子

中臣豐子

橘田村子

多治比豐繼

百濟永繼

文武藤原皇后、諱宮子娘、淡海公不比等女也、帝卽位立爲夫人、生聖武帝、養老七年授從二位、尋敍正一位、聖武帝卽位、尊曰皇太夫人、天平七年皇太夫人母正四位上賀茂比賣卒、葬以散位儀、九年十二月皇太夫人就皇后宮見僧玄昉、聖武帝亦造焉、皇太夫人誕帝之後、久不與玄昉相見、沈憂廢事、是日一見、惠然開晤、適與帝相見、天下莫不慶賀、施玄昉絁綿絲布、賜中宮職官人位、（○皇后見玄昉事、舊史文義不明、元亨釋書曰、釋善珠、藤太后宮子孽子也）孝謙帝卽位後、稱太皇太后、勝寶六年七月病篤、詔曰、頃者太皇太后枕席不安、稍延旬月、百方救療、猶未平復、朕聞皇天輔德、德勝不祥、庶施慈令、奉資寶體、使寢膳如常、起居穩便、宜大赦天下、是日、度僧一百尼七人、數日崩于中宮、諡曰千尋葛藤高知天宮姬之尊、火葬于佐保山、寶字四年墓稱山陵、置國忌齋、（續日本紀）

嬪紀竈門娘、帝卽位爲嬪、（續日本紀）

嬪石川刀子娘、帝卽位、與竈門娘同日爲嬪、和銅六年十一月、與竈門娘並貶號、不得稱嬪、（續日本紀○按本書、文武帝卽位年、以藤原宮子娘爲夫人、紀竈門娘石川刀子娘爲妃、然位次不可以妃書夫人之下、今據和銅六年文定爲嬪）

聖武藤原皇后、諱光明子、淡海公不比等第三女也、（系圖作第二女、今從自製願文、）體貌姝麗、似有光耀、故名焉、（高僧傳、元亨釋書、）幼而聰慧、帝爲儲貳、納爲妃、時年十六、天資慈仁、志在濟物、攝引妾御、皆得其歡、雅閑禮訓、敦崇佛道、帝卽位、授從

三位、爲夫人、○按廢帝紀天平寶字四年后崩下書云、神龜元年授正一位爲太夫人、考聖武紀、帝即位、尊所生宮子娘曰太夫人、而不書以光明子爲夫人、蓋闕文、而崩下所載正一位、乃從三位之誤、太夫人、太字衍、今訂之、生孝謙帝及皇太子、神龜四年以皇太子生、封一千戸、尋敍正三位、天平元年八月立爲皇后、益封一千戸、二年正月十六日帝御大安殿宴五位已上、及晩幸皇后宮、百官主典已上陪從踏歌、且奏且行、引入宮中而賜酒食、書短籍以仁義禮智信五字、令取之、隨字賜物、得仁字

者絁、義絲、禮綿、智布、信段常布、盡歡而罷、既而后嬰疾、度歲不愈、五年五月敕曰、皇后枕席不安、已經年月、百方無効、未知瘳劇、思斯煩苦、忘寢與食、宜大赦天下、救濟此病、先是后母内命婦正三位縣犬養橘三千代甍、遣從四位下高安王等、監護喪事、葬儀準散一位、十二月又遣一品舍人親王、大納言藤原武智麻呂等、就宅宣詔、贈從一位、特敕莫收食封資人、續日本紀六年后爲先妣造西金堂於

山階寺、水鏡、元亨釋書、安釋迦十弟子像、元亨釋書后嘗勸帝建東大寺、創諸國國分寺、又置悲田施藥兩院、療養天下飢病、十一年二月后又病、詔大赦天下、孝謙帝受禪、爲皇太后、勝寶五年四月又病、詔曰、頃者皇太后寢膳不安、稍延旬月、雖加醫藥、猶未平復、以爲政治失宜、罹罪有徒、天遣此罰、警戒朕身、其母子之愛、貴賤皆同、犯罪之徒、豈獨無親、庶悉洗滌、救其憂苦、宜大赦天下、寶字二年七月又病、詔

曰、皇太后寢膳不安、朕思延年濟疾、莫若仁慈、宜令天下諸國、始自今日、迄今年十二月三十日、禁斷殺生、不得進猪鹿之類、八月百官及僧綱上表、上尊號曰中臺天平應眞仁正皇太后、四年三月皇太后不豫、詔祭天神地祇、令諸社祝部等各祈其祖、自太神宮禰宜内人物忌、至諸社祝部、賜爵一級、皇太后亦遣使五大寺施物、六月崩、年六十、葬于大和添上郡佐保山、葬儀如太皇太后藤原氏

故事、天下舉哀三日、服期三日、帝設七七齋於東大寺及京師諸寺、令天下諸國造阿彌陀淨土畫像、僧尼寫稱讚淨土經、各於國分金光明寺、禮拜供養、十二月、勅墓稱山陵、置國忌齋。續日本紀 后嘗在家、告父入市、教諸商賈衡稱尺、不久而流于天下、高僧傳 及長善書、屬始用自唐所得稱尺、父曰、汝當助國宣風、權文作屛風銘曰、種好田良、易以得穀、君賢臣忠、易以至豐、諂諛之語、多悅會情、正直之言、倒心逆耳、正直爲心、神明所祐、禍福無門、唯人所招、父母不愛不孝之子、明君不納不益之臣、清貧長樂、濁富恒憂、孝當竭力、忠則盡命、君臣不信、國政不安、父子不信、家閨不睦、嘗爲考妣冥福、手寫金字一切經律論、製願文書每卷後、屛風銘及願文、在東大寺寶藏、銘以兔毛織成、今見存矣、又爲帝自製願文、納珍寶玩好御帶牙笏弓箭刀劒樂器等於東大寺、以供養焉、東大寺要錄 天平初、僧玄昉還自唐、帝賜紫袈裟、以爲僧正、

安置内道場、續日本紀 后甚寵異、頗有醜聲、今昔物語 源平盛衰記、○按興福寺所藏略年代記載皇后崩而云、玄昉僧正密通之、元亨釋書曰、后建溫室、發誓親除千人垢、又曰、后聞釋實忠容貌端麗、召而見之、夢與之交、今考諸書、后之穢德、自不可掩、據舊史、玄昉榮寵日盛、稍乖沙門之行、時人惡之、蓋意有所指、而諱不明書爾、

夫人縣犬養廣刀自、讚岐守唐女也、○一代要記、唐作麻呂誤、帝爲儲貳日、納爲夫人、生安積親王、井上内親王、不破内親王、敍正三位、寶字五年遷都保良、賜稻四萬束、明年十月薨、續日本紀

夫人藤原氏、左大臣武智麻呂女也、天平九年敍正三位、二十年六月薨、續日本紀

夫人藤原氏、中衞大將房前女也、天平九年敍正三位、進從二位、寶字四年正月薨、續日本紀

夫人廣岡古那可智、正四位上橘佐爲女也、○一代要記、作諸兄女誤、天平九年敍從三位、進正二位、寶字元年改姓橘宿禰、賜廣岡朝臣、三年七月薨、續日本紀

廢帝後宮粟田諸姉、初適藤原仲麻呂子眞

從眞從卒而寡居帝爲諸王時仲麻呂以諸姉妻之居於私第帝卽位敍從五位下（續日本紀）

光仁皇后井上内親王聖武帝女也養老五年九月爲伊勢齋神龜四年九月侍于太神宮補齋宮寮官人一百二十一人（○罷齋年月闕）天平十九年敍二品寶字五年遷都保良賜稻十萬束景雲二年賜太宰綿一萬屯光仁帝爲諸王時納爲妃生廢太子他戸初有童謠曰葛城寺乃前在也豐浦寺乃西在也於志止度刀志止度櫻井爾白壁之豆久也好壁之豆久也於志止度刀志止度然爲波國曾昌由流也吾家良曾昌由流也於志止度刀志止度識者以爲井者内親王之名白壁者帝之諱蓋帝登極之徵也及稱德帝崩羣臣推帝卽位立内親王爲皇后果如讖寶龜三年三月后坐巫蠱廢尋廢皇太子后又厭蠱難波内親王四年十月内親王薨帝乃詔幽后與廢太子於大和宇智郡沒官之宅六年

四月后及廢太子同日卒（○水鏡曰藤原百川以計傾后及太子廢之事甚鄙褻今不取愚管鈔曰百川將置后於土牢后化龍蹴殺之水鏡又曰七年九月每夜有擲瓦石於京中屋上八年冬不雨井水盡涸皆后之祟所爲也）九年正月遣從四位下壹志濃王石川垣守等改葬后墳稱御墓置守冢一戸（續日本紀延喜式○按后陵在宇智郡）延曆十九年詔復后位墓稱山陵（類聚國史日本紀略）初有右兵衛佐槻本老光仁帝之舊臣也他戸在東宮驕虐遇桓武帝無禮老竭心奉帝陰有輔翼之志后與他戸聞老爲帝所昵數切責之及巫蠱事起老按驗其獄多發姦伏延曆二十二年授老三子位階賞其舊功（類聚國史）

高野皇后諱新笠本姓和氏乙繼女也（○按乙繼本官無所考）其先出自百濟武寧王子純陀太子容德淑茂帝龍潛之日聘而納焉生桓武帝崇道天皇早良能登内親王（續日本紀）酒人内親王（東大寺要錄引日本後紀）寶龜中改姓爲高野朝臣授從三位尋爲夫人桓武帝卽位尊曰皇太夫

人、置中宮職、延暦八年十二月病革、敕畿内七道諸寺、讀誦大般若經一七日、以禱其疾、數日而崩、帝服錫紵、避正殿、御西廂、率皇太子及羣臣擧哀、百官及畿内、以三十日爲服期、諸國三日、並率所部百姓擧哀、但神鄕不在此限、又七七御齋、令天下國分二寺誦經、每七日遣使諸寺誦經焉、明年正月追尊曰皇太后、諡曰天高知日之子姬尊、百濟遠祖都慕王者、河伯之女感日精而所生、皇太后卽其後也、故上諡如此、葬于大枝山陵、十一月敕曰、中宮周忌、當來月二十八日、禮制忽終、新歲須及、忌景俄臨、彌切罔極之痛、元正肇啓、何受惟新之歡、與言永悲、不能自忍、賀正之禮、宜停止焉、十二月又詔、外祖父高野朝臣、外祖母土師宿禰、並贈正一位、改土師氏爲大枝朝臣、（續日本紀）大同元年追尊曰太皇太后、（日本紀略）后姪和家麻呂仕桓武朝、歷職内外、至從三位中納言、（公卿補任）又百濟玄鏡、仁貞、

鏡仁等、以外戚故、延暦中詔加授爵位、（續日本紀）

夫人藤原曹子、（○子一作司）左大臣永手女也、頗好文筆、（一代要記、系圖）入宮敍從三位、寶龜八年八月爲夫人、延暦二年進正三位、（續日本紀、一代要記）○（夫人從三位紀宮子、歷考續日本紀、宮子寶龜中敍從四位下、至延暦五年、始爲從三位、而不書爲夫人、故不取、）十二年十一月薨、（一代要記）

尾張女王、湯原親王女、敍從四位下、（一代要記）生稗田親王、（一代要記、皇胤紹運錄、）

縣犬養男耳、初爲女孺、敍從五位下、帝龍潛之日幸之、生廣根諸勝、（姓氏錄）

島姬、縣主毛人女、生彌努摩内親王、（皇胤紹運錄）

桓武藤原皇后、諱乙牟漏、内大臣良繼女也、帝在儲宮、納爲妃、延暦二年授正三位、爲夫人、四月立爲皇后、生平城帝、嵯峨帝、高志内親王、后性柔婉、美姿容、閑於女則、有母儀之德、三年十月后母阿部古美奈卒、帝遣使監護喪事、十一月遷都長岡、后以居喪不從、皇太夫人亦留平城、帝遣使迎之、后遂從皇太

夫人、至自平城、明年夏赤雀見于皇后宮、帝以爲瑞、賜天下有位者爵、進宮司主典已上爵、九年閏三月后病革、敎度二百僧、又京畿高年鰥寡、孤獨疹疾、不能自存者、普加賑恤、崩、年三十一、帝移御近衞府、令京畿七道、自是月十八日、素服擧哀、以晦日爲限、諡曰天之高藤廣宗照姫之尊、○按高僧傳、稱后曰盛瑞應祥皇后、而舊史無所見、故不書、葬於長岡山陵、續日本紀平城帝卽位、追尊曰皇太后、贈古美奈正一位、日本紀略天安

二年詔奉荷前幣、三代實錄○按本書淸和紀、有贈太皇太后藤原氏長岡山陵之文、追上太皇太后尊號、年月無所見、據類聚國史、日本紀略、淳和帝卽位尊皇太后曰太皇太后、時無皇太后、所謂贈太皇太后、蓋此也、

藤原皇后、諱旅子、式部卿百川女也、延曆四年授從三位、明年正月爲夫人、生淳和帝、七年五月薨、年三十、遣中納言藤原小黑麻呂、參議壹志濃王等、監護喪事、中納言石川名足、參議紀古佐美、就第宣詔、贈妃正一位、續日本紀淳和帝卽位、詔曰、皇妣享年不永、早從昇天、朕在幼稚、己違慈顧、追上徽號、曰皇太后、日本紀略天長元年以皇太后忌月、詔停五月節、類聚國史

妃酒人內親王、○一代要記曰、內親王、寶字三年十一月爲齋王、又引神祇記云、寶字二年四月八日、內親王遷于春日宮、但不參大神宮、舊史無所見、故不取、寶龜元年進三品、三年爲伊勢齋、五年九月至伊勢、續日本紀年長而還、容貌姝麗、帝納之、掖庭生朝原內親王、操行不謹、而帝不加禁、至弘仁中授二品、常於東大寺、行萬燈會、天長

六年八月薨、年七十六、東大寺要錄、引日本後紀、

夫人藤原吉子、右大臣是公女也、系圖延曆二年授從三位、爲夫人、續日本紀生伊豫親王、大同二年坐伊豫親王事、幽于河原寺、仰藥而死、日本紀略承和六年九月贈從三位、詔曰、故無位藤原朝臣吉子、屬遇轗軻、墜失爵位、時移事貿、追悼營魂、宜復本班、照之寵章、十月以有祟、又贈從二位、續日本後紀

夫人多治比眞宗、參議長野女也、生葛原、佐

味、賀陽、大德四親王、因幡安濃二内親王、葛原親王、據日本紀略、文德實錄、佐味賀陽大德三親王、因幡内親王、皇胤紹運錄、帝王編年記、安濃内親王、續日本後紀、皇胤紹運錄、進正三位、爲夫人、弘仁十四年六月薨、年五十五、淳和帝詔贈正二位、及葬任葬司、四位二人、五位五人、六位已下十一人、日本紀略

夫人藤原小屎、中務大輔鷲取女也、生萬多親王、皇胤紹運錄、帝王編年記、

女御紀乙魚、叙正五位上、承和三年授從四

位下、七年五月卒、續日本後紀

女御百濟教法、叙從四位下、承和七年十一月卒、續日本後紀○按一代要記曰、藤原仲子、參議家依女、爲桓武帝女御、藤原糸圖曰、正子式部卿宇合之孫、而清成女也、爲桓武帝女御、贈皇后、皆他書所不載、故今不取、

橘常子、兵部大輔島田麻呂女也、入宮有寵、生大宅内親王、授從三位、帝崩、出家爲尼、日本紀略嵯峨帝卽位、賜新錢百貫、類聚國史弘仁八年八月薨、年三十、日本紀略

橘御井子、左中辨入居女也、生賀樂内親王、菅原内親王、皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、入居書左中辨、據橘氏系圖、叙從四位下、嘉祥二年進從三位、續日本後紀

坂上春子、大納言田村麻呂女也、叙從四位下、生葛井親王、春日内親王、文德實錄、春日内親王、據皇胤紹運錄、

紀若子、○若或作繹大納言船守女也、一代要記、皇胤紹運錄、延暦八年叙從五位上、十年進從四位下、續日本紀生明日香親王、皇胤紹運錄、帝王編年記、

坂上又子、○續日本後紀、三代實錄、又作全、按又全訓讀相近、左京大夫苅田麻呂女也、帝爲儲貳、以選入宮、授正五位上、生高津内親王、延暦九年七月卒、續日本紀

藤原上子、大納言小黑麻呂女也、授正五位下、生滋野内親王、文德實錄

藤原河子、從四位上大繼女也、以選入宮、叙從五位上、文德實錄、三代實錄、生仲野親王、安敎内親王、大井内親王、紀内親王、善原内親王、三代實錄、

安敕内親王、據文德實錄、弘仁八年進從四位下、日本紀略承和五年正月卒、續日本後紀

河上好、○皇胤紹運錄、作川上貞奴、外從五位下錦部春人女也、授從五位上、生坂本親王、一代要記

百濟教仁、從五位上武鏡女也、一代要記、○本書作從五位下、今據續日本紀訂之、敍從五位下、生太田親王、一代要記、帝王編年記、

百濟貞香、從四位下教德女也、敍從五位下、一代要記○本書、教德作教法、今從皇胤紹運錄、生駿河内親王、一代要記、皇胤紹運錄、

藤原東子、中納言種繼女也、生甘南美内親王、日本紀略、皇胤紹運錄、書東子、據紹運錄、

藤原南子、中納言乙叡女也、生伊登内親王、三代實錄、皇胤紹運錄、書南子、據紹運錄、

中臣豐子、正六位上大魚女也、生布勢内親王、皇胤紹運錄、一代要記、大魚書正六位上、據要記、

橘田村子、入居女也、生池上内親王、皇胤系圖、一代要記、帝王編年記、○皇胤紹運錄、池上内親王母同賀樂、然則田村子卽御井子乎、橘氏系圖唯有御井子、而無田村子、今從要記、編年記、又按三代實錄曰、藤原良繼室、入居女也、名曰田村子、蓋田村子初爲桓武宮人、後嫁良繩乎、

多治比豐繼、初爲女孺、生長岡岡成、一代要記、皇胤紹運錄、作多治比豐繼女、今從姓氏錄、

百濟永繼、正五位上飛鳥部奈止丸女也、公卿補任初適藤原内麻呂、生眞夏冬嗣、公卿補任、尊卑分脈、後入宮爲女孺生良峯安世、授從七位下、姓氏錄、公卿補任、○尊卑分脈作從五位上、或從五位下、

大日本史卷之七十六終

大日本史卷之七十七

列傳第四

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保重校

后妃四

平城藤原皇后

妃朝原内親王

妃大宅内親王

尚侍藤原藥子

伊勢繼子

葛井藤子

紀魚員

嵯峨橘皇后

妃高津内親王

妃多治比高子

夫人藤原產子

夫人藤原緒夏

女御大原淨子

女御百濟貴命

更衣秋篠高子

更衣山田近子

更衣飯高宅眉

尚侍百濟慶命

笠繼子

大原全子

高階河子

交野女王

文室文子

廣井氏

上毛野氏

安倍楊津

田中氏

粟田氏

惟良氏

長岡氏

布勢氏
當麻氏
紀氏
內藏氏
甘南備氏
淳和皇后
皇后
女御永原氏
女御橘氏子

尚藏緒繼女王
大中臣安子
大野鷹子
橘船子
丹墀池子
清原春子
仁明藤原皇后
藤原皇后
女御滋野繩子

女御藤原貞子
更衣紀種子
更衣三國氏
藤原賀登子
藤原小童子
高宗女王
百濟永慶
山口氏
文德藤原皇后

女御藤原古子
女御東子女王
女御藤原年子
女御藤原多可幾子
女御藤原是子
更衣紀靜子
滋野岑子
滋野奥子
藤原今子

藤原列子

伴氏

多治氏

清原氏

菅原氏

布勢氏

平城藤原皇后、諱帶子、式部卿百川女也、帝在儲宮、納爲妃、日本後紀、日本紀略、延曆十三年嬰病、遷木蓮子院、甍、日本紀略帝卽位、追贈皇后、日本後紀、

日本紀略

妃朝原內親王、延曆元年爲伊勢齋、一代要記、齋宮記、四年桓武帝親臨齋所發遣、百官送至大和界、續日本紀十五年罷歸京師、○按日本紀略是歲二月奉幣伊勢、以齋內親王退也、而不載其名、據類聚國史日本紀略、四年至是歲、無齋王卜定、明年以布施內親王爲齋、一代要記、帝王編年記、桓武朝齋王惟載朝原布施二內親王、然則是月退者爲朝原明矣敘三品、日本後紀十七年賜田二百五十町、日本紀略後進二品、○按進位爲妃、年月無所考、日本後紀類聚國史日本紀略並曰、弘仁三年四月、妃二品朝原內親王、妃四品大宅內親王辭職、許之、而不言爲何帝妃、皇胤紹運錄、歷代皇紀、一代要記並曰、爲平城妃、今據之、入宮無寵、皇胤紹運錄、歷代皇紀、弘仁三年罷、日本後紀、類聚國史、日本紀略八年甍、年三十九、嵯峨帝遣使監護喪事、日本紀略

妃大宅內親王、敘四品、與朝原內親王同時罷、日本後紀、日本紀略、類聚國史、後進三品、天長五年薙染、日本紀略嘉祥二年甍、仁明帝不視事三日、續日本後紀

尚侍藤原藥子、中納言種繼女也、適中納言

藤原繩主、生三男二女、帝爲太子時、其長女以選入宮、後藥子爲東宮宣旨、帝私焉、桓武帝惡而逐之、帝卽位、又召爲尚侍、敘正三位、恩寵隆渥、藥子善爲媚以求幸、矯託百端、帝不知其奸、所言無不聽、百司衆務、吐納自由、威福之盛、熏灼四方、帝禪位居平城、藥子與兄仲成驕恣益熾、日本後紀、日本紀略、密謀使帝再莅祚、己居后位、水鏡遂矯命將遷都平城、京師騷動、嵯峨帝震怒、收仲成、下詔暴白藥子罪狀、

奪其宮位、擯於宮外、帝怒、遂發兵與藥子同輿而東、大軍塞路、不得進、還宮薙髮、藥子仰藥而死。(日本紀略)

伊勢繼子、木工頭老人女也、(三代實錄。○老人、書木工頭、據續日本紀) 帝在儲宮納之、(日本後紀) 生廢太子高岳親王、巨勢親王、(三代實錄) 上毛野内親王、石上内親王。(皇胤紹運錄、歷代皇紀、一代要記、帝王編年記) 四年賜田十一町、(類聚國史) 尋進從四位下、弘仁三年卒、年四十一、贈從三位。(日本後紀、日本紀略)

葛井藤子、(皇胤紹運錄、葛井作番長、一代要記、藤子作藤繼、曰正五位下葛井宿禰道依女、後改番長朝臣、今從續日本後紀、) 正五位下道依女也、(一代要記。○紹運錄、一說爲良藤繼道女) 生阿保親王、仁明帝即位、敘從五位下。(續日本後紀)

紀魚員、從三位木津魚女也、敘從五位下、生叡努内親王。(續日本後紀)

嵯峨橘皇后、諱嘉智子、内舍人清友女也、后未笄時、法華寺有尼禪雲、把后臂謂曰、娘子後當爲天子皇后母、后資性寬和、風容絕異、垂手過膝、髮委於地、帝爲親王、納之、有寵、(文德實錄) 登阼進爲夫人、(文德實錄、爲弘仁初爲夫人、今據類聚國史、日本紀略、) 尋賜封一百戶、弘仁初進從三位、(日本紀略) 五年賜尾張丹羽郡田二十四町、(日本後紀) 六年七月七日、后夢著瓔珞莊嚴如佛、數日立爲皇后、正位之後、專務化導、宮闈邕穆、朝野稱之、帝敬重加隆、生仁明帝、淳和皇后、(文德實錄) 秀良親王、(帝王編年記、爲高津内親王所生、今據續日本後紀承和元年十月之文、從皇胤紹運錄、源氏系圖、一代要記、皇胤系圖) 秀子内親王、(皇胤紹運錄、皇胤系

圖、爲大原淨子所生、今從續日本後紀、) 俊子内親王、(皇胤紹運錄、皇胤系圖、爲淨子所生、今從一代要記、帝王編年記、) 繁子内親王、(皇胤紹運錄、皇胤系圖、爲文屋文子所生、今從文德實錄、) 芳子内親王、(皇胤紹運錄、皇胤系圖、爲文子所生、按續日本後紀曰、太后第五皇女、故今序于末、) 淳和帝立、尊曰皇太后、奉封一千戶、(日本紀略) 仁明帝立、尊曰大皇太后、承和三年奉平城京空閑地二百三十町、充朱雀院、明年奉近江荒田六十四町、充後院、九年遷御冷然院、(續日本後紀) 嘉祥三年、仁明帝不豫、后憂念之、遂剃髮爲尼、以求

寘救、○續日本後紀爲帝崩後依病入道三月帝崩、后以五月崩、年六十五、葬於深谷山、遺令薄葬、不營山陵、○世傳后遺令曰、不用葬儀、棄于中野、耽色欲者、見我爛穢、有少警悟也、及崩棄屍于西郊、後拾其拳以收埋、因號其所曰一拳、又曰拳宮、今不取、先是民間訛言、今茲無母子、三月三日不可以造餻母子者野草名也、時俗用以造糕、故云、識者聞而惡之、至于三月、宮車晏駕、未幾后亦崩、后篤信佛、建檀林寺、置比丘尼持律者、仁明帝施捨五百戶、以充供養、文德實錄世稱檀林皇后、皇年

代略記后嘗多造寶幡及繡文袈裟、窮盡巧妙、左右不知其意、後遣沙門慧蕚於唐、以繡文袈裟施僧伽及康僧等、以寶幡鏡奩之具、藏五臺山寺、○按元亨釋書、慧蕚齊衡初、應橘太后之詔、齎幣入唐、至杭州靈池寺、謁齊安禪師致幣、遂得義空長老而歸、世傳后嘗詠和歌曰、模呂胡志乃、夜麻能阿奈多玥、多莵玖毛波、古古玥多玖比能、計布利奈利計利、齊安聞而許可曰、東域深解之人、誠婦人而大丈夫者也、元亨釋書係齊衡、其誤不待辨證、世傳之歌、亦無確據、姑附備攷、又與弟右大臣氏公議、開學舍、名學館院、勸諸子弟、誦習經書、時人以比漢鄧皇后、文德實錄

妃高津內親王、生業良親王、三代實錄業子內親王、日本紀略、皇胤紹運錄、一代要記、皇胤系圖、踐祚初敍三品、立爲妃、日本紀略、續日本後紀、未幾而廢、承和八年薨、遣使監護喪事、續日本後紀

妃多治比高子、從五位下氏守女也、一代要記踐祚初爲夫人、封一百戶、日本紀略弘仁元年進從三位、六年爲妃、日本後紀、一代要記、十一年進從二位、一代要記天長三年薨、年三十九、就第贈從一位、日本紀略

夫人藤原產子、弘仁初入掖庭、進從三位、日本紀略後爲夫人、一代要記進從二位、天長六年薨、年六十九、日本紀略

夫人藤原緒夏、右大臣內麻呂女也、弘仁元年敍從五位上、三年進從四位下、文德實錄六年立爲夫人、日本後紀、類聚國史、文德實錄係三年誤○進從三位、日本後紀、文德實錄、齊衡二年薨、贈正二位、文德實錄

女御大原淨子、正六位上家繼女也、一代要記敍正五位下、弘仁五年進從四位下、日本後紀生仁

子內親王、皇胤紹運錄敘從三位、承和八年薨、續日本後紀

女御百濟貴命、鎭守將軍俊哲女也、貴命姿質姝麗、閑於女工、爲女御、文德實錄生基良親王、皇胤紹運錄、帝王編年記、皇胤系圖、忠良親王、文德實錄基子內親王、皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇胤系圖、弘仁十年敘從五位上、進從四位下、仁壽元年卒、文德實錄

更衣秋篠高子、更衣據續日本後紀○續日本後紀作康子、或京子、類聚國史京子、今從皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、承和九年敘從五位上、嘉祥二年授從四位下、續日本後紀後進正四位下、皇胤紹運錄、一代要記、生源清、皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、

更衣山田近子、更衣據續日本後紀○按皇胤紹運錄、一代要記、皇胤系圖、山田或作山口誤、帝晚年納之、有寵、生源啓、三代實錄源密姬、皇胤紹運錄、一代要記、皇胤系圖、承和九年授從五位上、續日本後紀

更衣飯高宅眉、源氏系圖、皇胤系圖、生源常、文德實錄源明、公卿補任、源氏系圖、

尚侍百濟慶命、鎭守將軍教俊女也、一代要記動有禮則、帝甚貴重、生源定、三代實錄貞觀五年源鎭、源氏系圖、一代要記、帝王編年記、進從三位、天長七年特賜封五十戶、日本紀略承和初帝遷御嵯峨院、是爲大院、爲築別宮、號曰小院、其寵渥如此、三代實錄三年爲尚侍、八年進從二位、嘉祥二年薨、敕贈從一位、遣使監護喪事、續日本後紀

笠繼子、生源生、公卿補任、一代要記、帝王編年記、○按皇胤紹運錄以生爲大原全子所生誤、嘉祥二年進從三位、續日本後紀

大原全子、生源融、續日本後紀、一代要記、源勤、源盈姬、皇胤紹運錄、一代要記、嘉祥二年進正五位下、續日本後紀

高階河子、○按皇胤紹運錄、帝王編年記、作阿子、皇胤系圖作阿吉、並誤、從四位上淨階女也、生宗子內親王、授從五位上、文德實錄

交野女王、從五位上山口王女也、續日本後紀、書幸姬王氏、今據一代要記、帝王編年記、皇胤系圖、生有智子內親王、續日本後紀弘仁十四年授從五位上、類聚國史

文室文子、正五位下久我麻呂女也、生緜子

内親王、（三代實錄）齊子内親王、授從五位上、（文德實錄）
廣井氏、生源信、（三代實錄）
上毛野氏、生源弘、（三代實錄）
安倍楊津、（楊津據一代要記）生源寛、（皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇胤系圖、）
田中氏、生源澄、（皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇胤系圖、）
粟田氏、生源安、（文德實錄）
惟良氏、生源勝、（三代實錄）
長岡氏、生源賢、（皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇胤系圖、）

布勢氏、生源貞姬、源端姬、（皇胤紹運錄、皇胤系圖、）
當麻氏、正六位上治田麻呂女也、生源潔姬、
源金姬、（三代實錄）
紀氏、生源更姬、（皇胤紹運錄、一代要記、皇胤系圖、）
内藏氏、（○按續日本後紀、授内藏景子從四位下、疑此人也、）生源神姬、
源容姬、源吾姬、（皇胤紹運錄、一代要記、皇胤系圖、）
甘南備氏、生源聲姬、（皇胤紹運錄、一代要記、皇胤系圖、）
淳和皇后、諱高志、初爲内親王、桓武帝最鍾愛、配帝以爲妃、敍三品、生恒世親王、（日本紀略）氏子内親王、有子内親王、（三代實錄）貞子内親王、（續日本後紀○按皇胤紹運錄爲氏子有子貞子母同恒貞、一代要記有子貞子母大中臣安子、帝王編年記貞子母大野鷹子、竝誤、）大同四年五月薨、年二十一、遣使監護喪事、贈一品、帝即位詔贈皇后、（日本紀略）改墓號石作陵、（延喜式○按類聚國史、日本紀略天長元年二年將改葬而不果、三年任改葬司、而改葬月日處所竝闕、）置國忌齋、（據三代實錄天安二年廢國忌文）天長四年敕施墾田十町於橘寺、爲春秋悔過料、修藥師悔過於東西二寺、薦冥福、（類聚國史）

皇后諱正子、嵯峨帝第二女也、（○按本書爲長女、今據日本紀略訂之、說見皇女傳、）美姿容、貞婉有禮度、嵯峨帝及橘太后鍾愛之、（三代實錄）初爲内親王、（日本紀略）帝備禮聘之、納於掖庭、后有母儀之德、中表則之、生廢太子恒貞、（三代實錄）恒統親王、（續日本後紀）基貞親王、（三代實錄○按續日本後紀、日本紀略、皇后所生、不止此三子、然或不載名、或夭殤、故不列此、）天長四年立爲皇后、（日本紀略、三代實錄）八年亢旱、帝深憂之、祈請百端、后勸帝錄囚、罷作役、不終朝澍雨、帝愈重之、（三代實錄○按類聚國史、日本紀略、）

是年穰風雨災者二、無元旱文、明年疫旱轉經修雩、據此八年疑當作九年、九年夏后幸雲林亭觀農業、賜耕種男女物、日本紀略十年帝傳位於仁明帝、敕停皇后號、廢官屬、仁明帝尊爲皇太后、三代實錄承和二年仁明帝奉封一千戶、三年奉河內荒廢田充後院、續日本紀後七年淳和帝崩、后落髮爲尼、毀容骨立、○按續日本後紀、承和九年十二月乙丑、淳和太皇后落髮、實差二年、未知孰是、齊衡元年文德帝尊爲大皇太后、貞觀二年后設大齋會於淳和院、延諸寺名僧講法華經、

裝具嚫施、傾盡財寶、清和帝及皇太夫人施新錢及米鹽醴糉等物於僧俗男女、幾三萬人、后受菩薩戒于延曆寺座主圓仁、法名良祚、十年后年六十、使六十僧講經東京宮、賜京師貧民物、十六年淳和院火、后御素車出宮、避火於松下院、清和帝遣參議藤原家宗慰問、奉絹絲布錢米鐵、尋還本院洞裏殿、元慶三年三月疾篤、命左右曰、天長天子遺命火葬、不置山陵、無園廟之可陪、吾瞑目之日、

棺用朽材、藏嵯峨山、無置守冢、不配國忌、一如先後太上天皇之制、語終而崩、年七十一、○七十一、本文脫一字、今據貞觀十年十一月辛巳條、而推年紀以訂之、葬嵯峨山、后慈仁天至、務在濟物、收東西京棄兒孤孩、給乳母、多所養育、割封戶五分之二、以充其費、貞觀中捨嵯峨舊宮爲精舍、請清和帝賜額曰大覺寺、建舍其側、療僧尼病、名曰濟治院、又以淳和院爲道場、置平日所陪侍尼、三代實錄后嘗製衲袈裟、施唐國清寺、以充僧智

顗忌齋之具、類聚國史

女御永原氏、入宮有寵、嵯峨帝以源定爲帝子、帝以女御爲之母、稱亭子女御、三代實錄

女御橘氏子、從三位永名女也、一代要記貞觀五年進從四位上、三代實錄

尚藏、○一代要記作妃誤緒繼女王、敘從二位、善作妖媚、帝殊寵幸、承和十四年薨、年六十一、遺命不受葬使、續日本後紀

大中臣安子、從四位上淵魚女也、生良貞親

王、皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇胤系圖、齊衡二年敘從五位上、文德實錄

大野鷹子、左近衛中將眞雄女也、生寬子內親王、皇胤紹運錄、一代要記、皇胤系圖、○按諸書眞雄作直雄、今據續日本後紀、

橘船子、從四位上淨野女也、生崇子內親王、續日本後紀、一代要記、帝王編年記、

丹墀池子、從五位上門成女也、○池子、皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇胤系圖作常子誤、生同子內親王、三代實錄

清原春子、右大臣夏野女也、生明子內親王、文德實錄

仁明藤原皇后、諱順子、左大臣冬嗣女也、美姿色、初在家晨盥、有氣如虹、降亘盤、卜者曰、此至貴之兆也、帝爲儲貳、入宮有寵、生文德帝、踐阼初授從四位下、爲女御、三代實錄、女御據續日本後紀、承和十一年進從三位、續日本後紀、三代實錄、文德帝即位、尊爲皇太夫人、文德實錄、三代實錄、移東五條院、儀擬乘輿、遣左右近衛將監以下宿衛、齊衡元年詔曰、人之至親、莫親於母子、故子登尊位、則貴歸於母、古先哲王、未有違之者、朕以不造、夙罹閔凶、憂深思遠、茫若無涯、當此之時、有嵯峨太皇太后淳和太后、竝存、朕以尊母之典、雖光故實、而申厭之制、存亡異禮、故以所生藤氏爲皇太夫人、冀謙損之美、以招後福、然今大皇太后山陵之事、既歷多年、而淳和太后未進徽號、所生藤氏猶稱夫人、人子之禮、何心能安、凱風自南之時、最感長養之恩、敢咨舊章、奉崇尊號、其尊皇太后爲

太皇太后、皇太夫人爲皇太后、載育萬邦、厚德無疆、俾我四瀛、永有所賴、文德實錄天安二年文德帝崩、清和帝幼沖、后依羣臣之請、與帝同輿、遷御東宮、貞觀二年夏、還東五條院、秋不豫、帝度二十人以禱之、冬大修齋會於本宮、三年臨太政大臣良房染殿第、王公以下畢會、張宴奏樂、賜衣物、詣大原野社、以藤原氏六位以下爲儀從、三代實錄大原野行啓始于此、江家次第落飾爲尼、受戒、六年尊爲大皇太后、

十三年九月崩、葬宇治郡後山階山陵、（三代實錄）置國忌於東寺、（日本紀略）稱五條后、后性和厚貞正、禮則修備、母儀少比、深信釋教、建安祥寺、年分度僧、修大乘道、（三代實錄）

藤原皇后、諱澤子、（續日本後紀○按澤一紀作淨、大鏡作障、竝誤、）紀伊守總繼女也、（續日本後紀、三代實錄、）爲女御、敍從四位下、寵冠後宮、生宗康親王、光孝帝、人康親王、新子內親王、承和六年卒、帝哀悼、遣中使贈從三位、（續日本後紀）葬於山城愛宕郡鳥戶鄉、

光孝帝卽位、追尊曰皇太后、改墓號中尾山陵、置國忌齋於東大寺、列十陵、仁和元年置守陵五戶、（三代實錄、鳥戶鄉及中尾山陵、據延喜式、）

女御滋野繩子、參議貞主女也、（女御據源氏系圖）秉心和順、進退中規、帝殊加恩幸、生本康親王、時子內親王、柔子內親王、（文德實錄、○皇胤紹運錄柔子母同成康、誤）承和三年敍正五位下、（續日本後紀）進從四位上、（三代實錄）

女御藤原貞子、右大臣三守女也、帝爲儲貳、選入宮、生成康親王、親子內親王、平子內親王、（三代實錄、按本書曰生二皇女而名闕、今據皇胤紹運錄、帝王編年記、皇胤系圖、）踐阼、初授從四位下、（三代實錄）承和六年進從三位、（續日本後紀、三代實錄、）資性婉順、（文德實錄）言必典禮、宮掖仰德、帝亦重之、（續日本後紀）雖不登后位、而寵數殊絕、終始不衰、後宮無與比者、（三代實錄）文德帝卽位、進正三位、仁明帝崩後、哀慕毀戚、殆廢飮食、枕席有涕泣處、左右見者皆悲惻焉、仁壽元年爲尼、戒行薰修、道俗稱之、（文德實錄）貞

觀六年八月薨、敕贈從一位、以仁明帝嘗有恩許、祔葬於深草山陵兆域、遣使監護葬事、（三代實錄）

更衣紀種子、正四位下名虎女也、（三代實錄、更衣據紀氏系圖、○按本書作從四位上、據續日本後紀訂之、）生常康親王、（文德實錄、皇胤紹運錄、）眞子內親王、敍正五位下、（三代實錄）

更衣三國氏、生貞登、承和初三國氏有過失、貞登坐削屬籍、（三代實錄）

藤原賀登子、肥前守福當麻呂女也、生國康

親王、皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇胤系圖、肥前守據尊卑分脈、承和九年授正六位上、續日本後紀、進從五位上、皇胤系圖作從五位下、今從一代要記、

藤原小童子、從五位下道長女也、生重子內親王、三代實錄、一代要記、授從五位上、一代要記

高宗女王、從四位上岡屋王女也、皇胤系圖、生久子內親王、一代要記、皇胤紹運錄、皇胤系圖、授從五位上、一代要記

百濟永慶、永慶據一代要記、皇胤系圖、從五位上教復女也〇按皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、復作俊、據此則鎮守府將軍教俊女、而嵯峨女御慶命妹也、未知孰是、生高子內親王、三代實錄

山口氏生源覺、三代實錄

文德藤原皇后、諱明子、太政大臣良房女也、生清和帝、三代實錄、儀子內親王、皇胤紹運錄、賁女鈔、齋院記、仁壽三年進從三位、文德實錄、天安二年超敍從一位、一代要記、清和帝卽位、尊爲皇太夫人、貞觀六年尊爲皇太后、八年冬遷新造常寧殿、明年春帝設曲宴慶之、稱觴爲壽、賜宮僚物有

差、十年冬太后年四十、敕遣使近京四十寺平城四十寺、修轉經功德、設曲宴於本殿、賜王公卿士物、進宮僚侍女位、集貧民於朱雀門賜物、十四年秋遷染殿宮、十六年春遷職院、元慶二年冬太后年五十、上皇使五十僧講法華經於清和院、王公百官畢會、六年正月陽成帝尊曰大皇太后、仁和元年二月、請減服御還女官、光孝帝不聽、三代實錄昌泰三年五月崩、年七十二、扶桑略記係正月、今從大鏡裏書、一代要記、帝王編年記、七十二、日本紀略、扶桑略記、大鏡裏書、並作七十三、今據帝王編年記及三代實錄元慶二年年五十之文、葬愛宕郡白河山陵、延喜式稱染殿后、大鏡、一代要記、古今和歌集、

女御藤原古子、左大臣冬嗣女、而五條后妹也、尊卑分脈嘉祥三年爲女御、仁壽三年進從三位、文德實錄清和帝卽位、進從一位、貞觀三年薙髮、三代實錄

女御東子女王、嘉祥三年爲女御、文德實錄敍從四位下、貞觀七年卒、三代實錄

女御藤原年子、嘉祥三年爲女御、文德實錄

女御藤原多可幾子、右大臣良相長女也、少有雅操、三代實錄嘉祥三年爲女御、三代實錄爲仁壽初入掖庭、爲女御、今從文德實錄仁壽二年敘正五位下、三代實錄齊衡元年進從四位下、文德實錄、三代實錄、天安二年卒、三代實錄

女御藤原是子、嘉祥三年爲女御、文德實錄

更衣紀靜子、正四位下名虎女也、皇胤紹運錄、一代要記、更衣據紀氏系圖、作者部類生惟喬親王、惟條親王、恬子

內親王、述子內親王、珍子內親王、皇胤紹運錄、帝王編年記、皇胤系圖天安二年敘正五位下、文德實錄後進從四位上、一代要記貞觀八年二月卒、菅家文草

滋野岑子、攝津守貞雄女也、敘從五位上、三代實錄生源本有、源載有、源淵子、三代實錄、皇胤紹運錄、○按三代實錄曰、誕二皇子二皇女、並賜源姓、而一皇女名闕、今無所考、

滋野奧子、參議貞主女也、頗有風儀、閫訓克脩、生惟彥親王、濃子內親王、勝子內親王、文德實錄

藤原今子、參議貞守女也、貞守、一代要記、皇胤系圖作守貞、今從帝王編年記、生惟恒親王、皇胤紹運錄、一代要記、帝王編年記、皇胤系圖、禮子內親王、揭子內親王、皇胤紹運錄○按帝王編年記、皇胤系圖、揭子母同惟喬、未知孰是、

藤原列子、從五位上是雄女也、三代實錄、列子據皇胤紹運錄、帝王編年記、皇胤系圖、生晏子內親王、皇胤紹運錄、帝王編年記、皇胤系圖、慧子內親王、三代實錄

伴氏生源能有、皇胤紹運錄、公卿補任、帝王編年記、皇胤系圖

多治氏生源每有、文德實錄

清原氏生源時有、文德實錄

菅原氏生源定有、皇胤紹運錄、帝王編年記、源富子、三代實錄

布勢氏生源行有、三代實錄

大日本史卷之七十七終

大日本史卷之七十八

列傳第五

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

后妃五

清和藤原皇后
女御藤原多美子
女御平寛子
女御嘉子女王
女御源濟子
女御源貞子
女御隆子女王
女御兼子女王
女御忠子女王
女御藤原賴子
女御藤原佳珠子
女御源嚴子

女御源暄子
女御源宜子
更衣藤原氏
更衣在原氏
更衣藤原氏
更衣藤原氏
更衣佐伯氏
橘氏
藤原氏
王氏
藤原氏
賀茂氏
大野氏
陽成後宮姊子女王
藤原氏
紀氏
伴氏
佐伯氏

光孝王皇后

女御藤原佳美子

女御平等子

女御藤原元善

更衣讃岐氏

王氏

布勢氏

多治氏

宇多藤原中宮

藤原皇后

女御橘義子

女御菅原衍子

女御橘房子

更衣源貞子

尚侍藤原褒子

藤原氏

王氏

藤原氏

醍醐藤原皇后

妃爲子内親王

女御源和子

女御藤原仁善子

女御藤原能子

女御藤原和香子

更衣藤原淑姫

更衣源周子

更衣藤原鮮子

更衣藤原桑子

更衣源封子

更衣滿子女王

更衣源貞子

更衣藤原氏

源氏

清和藤原皇后、諱高子、中納言長良第二女也、（愚管鈔、貴女鈔、一代要記、）初在家、后兄基經夢、后露卧庭中、頂之腹潰、氣升、屬天、成日、後以選入宮、

（○大鏡曰、后在家日、在原業平密通之、盜而夜奔、兄國經基經追取之、後以染殿后之故、出入宮掖、遂至受恩、所謂以選入宮者、蓋諱之也、）授從五位下、貞觀八年十二月爲女御、九年進正五位下、生陽成帝、貞保親王、敦子内親王、（○按齋院記、皇胤紹運錄、爲敦子母同貞平誤、）十一年進從四位下、十三年授從三位、陽成帝卽位、尊爲皇太夫人、（三代實錄）稱中宮、（大鏡、中右記、）元慶六年尊爲皇太后、去歲太后壽四十、以大喪廢慶禮、三月設宴於淸涼殿、張樂奏舞、王卿悉會、（三代實錄）寬平八年以與東光

寺僧善祐姦廢、（扶桑略記、日本紀略、）後賜封四百戶、（大鏡）（裏書）延喜十年三月薨、年六十九、（日本紀略、扶桑略記、大鏡）（裏書、）帝不視事、（日本紀略○本書不書幾日）天慶六年追復本位、（大鏡裏書、一代要記、）稱二條后、（一代要記、古今集、大鏡、）

女御藤原多美子、右大臣良相女也、性安詳、美容色、以婦德稱、貞觀五年授從四位下、帝冠、以選入宮、有專房寵、數日爲女御、授從三位、八年敕年給二分官一人、一分官一人、九年轉正三位、元慶元年進從二位、七年至正二位、仁和二年薨、多美子德行甚高、爲中表所依、帝重之、及帝薙髮、亦爲尼、持齋勤修、晏駕之後、收拾平生所賜宸筆書、以書法華經、設齋會慶之、受大乘戒、卽日薨、（三代實錄）

女御平寬子、貞觀六年爲女御、八年授正五位下、十一年進從四位下、（三代實錄）

女御嘉子女王、貞觀元年敍從四位下、九年爲女御、十年進從四位上、（三代實錄）

女御源濟子、貞觀九年爲女御、十年授從四

位上、（三代實錄）

女御源貞子、貞觀九年爲女御、十年授從四位下、十五年卒、（三代實錄）稱溫明殿女御、（一代要記）

女御隆子女王、元慶元年敍正四位下、（三代實錄）

女御兼子女王、貞觀十五年爲女御、元慶元年敍正四位下、（三代實錄）

女御忠子女王、貞觀十二年爲女御、（三代實錄）敍從四位下、（日本紀略、一代要記、）延喜四年卒、（日本紀略）

女御藤原賴子、太政大臣基經女也、爲女御、

尊卑分脈、一代要記、敍從四位下、一代要記

女御藤原佳珠子、賴子妹也、三代實錄、參取皇胤紹運錄、尊卑分脈、一代要記、貞觀十五年爲女御、三代實錄敍正五位下、一代要記生貞辰親王、三代實錄、參取皇胤紹運錄、一代要記、

女御源嚴子、右大臣能有女也、源氏系圖爲女御、敍從四位下、元慶三年卒、三代實錄稱溫明殿女御、一代要記

女御源暄子、敍正五位下、三代實錄後進正四位下、一代要記

女御源宜子、參議興基女也、貞觀十八年爲女御、三代實錄敍正五位下、一代要記

更衣藤原氏、神祇伯良近女也、生貞平親王、識子內親王、三代實錄

更衣在原氏、中納言行平女也、生貞數親王、包子內親王、三代實錄

更衣藤原氏、齋宮頭諸藤女也、生貞眞親王、三代實錄○按一代要記、諸藤作說成、誤、

更衣藤原氏、木工權大允直宗女也、生貞賴親王、三代實錄

更衣佐伯氏、信濃權介子房女也、生源長鑒、源長頼、三代實錄

橘氏、治部大輔休蔭女也、生貞固親王、三代實錄

藤原氏、參議仲統女也、生貞元親王、三代實錄

王氏、中務大輔棟貞王女也、生貞純親王、三代實錄

藤原氏、中納言諸葛女也、生孟子內親王、三代實錄

賀茂氏、越中守峯雄女也、生源長猷、源載子、按皇胤紹運錄、長猷載子母大野氏、一說載子母同貞平、並誤、今從三代實錄、

大野氏、石見守鷹取女也、生源長淵、三代實錄

陽成後宮姉子女王、敍從三位、生元長親王、元利親王、長子內親王、儼子內親王、源氏系圖、帝王編年記、

藤原氏、主殿頭遠長女也、生元良親王、元平親王、一代要記、源氏系圖、皇胤紹運錄、

紀氏、稱紀君、生源清蔭、源氏系圖、皇胤紹運錄

伴氏、生源清鑒、一代要記、帝王編年記、

佐伯氏、生源清遠、源氏系圖、皇胤紹運錄、帝王編年記、

光孝王皇后、諱班子、仲野親王女也、帝龍潛之日納之、敘從四位下、三代實錄、生是忠親王、是貞親王、一代要記、帝王編年記、宇多帝、三代實錄、帝王編年記、源元長、一代要記、忠子内親王、皇胤紹運錄、帝王編年記、簡子内親王、帝王編年記、綏子内親王、爲子内親王、皇胤系圖、帝王編年記、帝卽位、進從三位、爲女御、仁和三年進從二位、三代實錄、宇多帝卽位、尊爲皇太夫人、

寛平九年、尊爲皇太后、大鏡裏書、昌泰三年四月崩、年四十八、葬葛野郡頭陀寺側、稱洞院太后、日本紀略、扶桑略記、后初在小松宮、出市買物、及尊日、一幾帳爲買物狀、不如此則意不樂、世繼物語、

女御藤原佳美子、敘從四位下、元慶八年爲女御、仁和三年、進正四位下、三代實錄、寛平八年進從三位、一代要記、昌泰元年七月薨、日本紀略、一代要記、

女御平等子、元慶八年爲女御、仁和二年授正五位下、三代實錄、進從三位、一代要記、

女御藤原元善、中納言山陰女也、爲更衣、敘從五位上、仁和三年爲女御、三代實錄、

更衣讚岐氏、大判事永直女也、生源舊鑒、三代實錄、

王氏、參議正如王女也、生穆子内親王、皇胤紹運錄、齋院記、貴女鈔、○按公卿補任諸系圖、無正如王者、疑當作正躬王、

布勢氏、生滋水清實、三代實錄、

多治氏、生緩子、皇胤紹運錄、

宇多藤原中宮、諱温子、太政大臣基經女也、

仁和四年十月入宮、授正四位下、爲女御、一代要記、生均子内親王、一代要記、皇胤系圖、寛平五年進正三位、一代要記、醍醐帝卽位、尊爲皇太夫人、稱中宮、日本紀略、一代要記、延喜五年五月落髮、日本紀略、扶桑略記、○按一代要記爲正月、誤、七年六月崩、年三十六、一代要記作四十六、今從日本紀略、扶桑略記、中右記永久二年、稱東七條后、日本紀略、扶桑略記、

藤原皇后、諱胤子、内大臣高藤長女也、仁和四年九月爲更衣、寛平五年正月授從四位

下、爲女御、大鏡裏書生醍醐帝、日本紀略、扶桑略記、敦慶親王、敦固親王、敦實親王、柔子內親王、皇胤紹運錄、八年六月卒、大鏡裏書、一代要記、葬宇治郡小野、延喜式醍醐帝即位、追尊爲皇太后、日本紀略、大鏡裏書、置國忌、列荷前幣、延喜式延喜三年八月、帝親書法華經、薦冥福於勸修寺、日本紀略延長三年八月、修繡曼陀羅神筆法於勸修寺、日本紀略、扶桑略記、

女御橘義子、參議廣相女也、皇胤紹運錄、一代要記、寬平五年爲女御、八年授從四位上、一代要記生齊

中親王、齊世親王、齊邦親王、皇胤紹運錄、一代要記、君子內親王、皇胤紹運錄、貴女鈔、

女御菅原衍子、右大臣道眞長女也、一代要記、尊卑分脈、寬平八年爲女御、敘從四位下、一代要記

女御橘房子、爲女御、敘從四位下、寬平五年卒、一代要記

更衣源貞子、大納言昇女也、授從五位上、生依子內親王、皇胤紹運錄、一代要記、

尚侍藤原褒子、左大臣時平女也、生雅明親王、載明親王、行明親王、進從二位、稱京極御息所、皇胤紹運錄、一代要記、又稱富小路御息所、大鏡

藤原氏、大和守繼蔭女也、初侍東七條中宮、時繼蔭爲伊勢守、藤原系圖、歌仙傳、因稱伊勢、藤原系圖、長和歌、獲幸生皇子、伊勢家集、藤原系圖、歌仙傳、○按家集曰、皇子八歲大、而不載其名、今無所考、

王氏、參議十世王女也、生孚子內親王、皇胤紹運錄、一代要記、

藤原氏、參議有實女也、生誨子內親王、皇胤紹運

錄、一代要記、季子內親王、皇胤系圖

醍醐藤原皇后、諱穩子、太政大臣基經第四女也、扶桑略記、大鏡裏書、延喜元年爲女御、日本紀略、大鏡裏書、後敘從三位、大鏡裏書生文獻太子、朱雀帝、村上帝、日本紀略、大鏡裏書、扶桑略記、康子內親王、皇胤紹運錄、一代要記、延長元年四月立爲皇后、大鏡、扶桑略記、一代要記、承平元年尊爲皇太后、日本紀略、一代要記、四年三月太后年五十、帝行慶壽禮於常寧殿、修諷誦於諸寺、賜度者五十人、天慶二年十月不豫、賜度

者六十人、七年年六十、敕修諷誦於十三寺、賜京師貧民物、村上帝即位、尊爲大皇太后、日本紀略天暦八年正月崩于昭陽舍、年七十、扶桑略記葬宇治陵、列荷前幣、西宮記、江家次第、置國忌于東寺、江家次第又每歲修法華八講於法性寺、以薦冥福、永爲恒式、公事根源

妃爲子內親王、光孝帝女也、元慶八年賜姓源朝臣、三代實錄寛平三年爲內親王、一代要記帝受禪入宮、授三品爲妃、日本紀略、一代要記、生勸子內親王、皇胤紹運錄昌泰二年三月薨、帝不視事三日、遣中納言藤原國經就家宣制、贈一品、日本紀略

女御源和子、光孝帝女也、仁和元年賜姓源朝臣、三代實錄後入宮、授正三位、爲女御、稱承香殿女御、一代要記生常明親王、式明親王、有明親王、一代要記、皇胤紹運錄慶子內親王、韶子內親王、齊子內親王、皇胤紹運錄天暦元年七月薨、日本紀略

女御藤原仁善子、○一代要記無仁字、今據藤原系圖、右大臣定方女也、一代要記、藤原系圖、作者部類、授正五位下、日本紀略○一代要記作正三位、誤稱三條御息所」、藤原系圖○按日本紀略併載仁善子能子、共書爲女御、後嫁藤原實頼、事迹尤相疑似、而一代要記無仁字、則善能訓讀相同、似非二人、然紀略、要記、河海鈔、皆併載二人、則未可輒定爲一人、又按外記日記、天慶八年十二月十九日條載正五位下藤原朝臣仁善子卒、仁善子者故贈太政大臣第一女、先坊御息所王女御母也、此所謂藤原仁善子、廼左大臣時平女、而入文獻太子宮者、非定方女爲帝女御者、而姓名位階適同、頗爲可疑、今姑據諸書舊文、列于此、

女御藤原能子、亦定方女也、○按藤原系圖仁善子之妹有更衣欣子、而不載能子、河海鈔所載能子一作欣子、則系圖欣子、蓋以筆畫相近誤也、康保元年四月卒、日本紀略

女御藤原和香子、大納言定國女也、授正五位下、延喜三年爲女御、承平五年十一月卒、一代要記

更衣藤原淑姬、參議菅根女也、爲更衣、敘從四位上、公卿補任、一代要記、生長明親王、兼明親王、一代要記、皇胤紹運錄、英子內親王、源自明、皇胤紹運錄、皇胤系圖、天暦二年八月卒、公卿補任

更衣源周子、右大辨唱女也、公卿補任、皇胤紹運錄、帝王編年記、爲更衣、敘從四位下、公卿補任稱近江更衣、源氏

系圖○作者部類、近江作近衞、生時明親王、盛明親王、一代要記、皇胤紹運錄○按紹運錄、系圖、說、爲藤淑姬生盛明、未知孰是、一源高明、公卿補任、皇胤紹運錄、勤子內親王、郁子內親王、雅子內親王、源兼子、皇胤系圖承平六年卒、日本紀略、一代要記、

更衣藤原鮮子、伊豫介連永女也、爲更衣、皇胤紹運錄敘從五位上、扶桑略記生代明親王、恭子內親王、一代要記、皇胤紹運錄、婉子內親王、敏子內親王、皇胤紹運錄延喜十五年四月卒、日本紀略、扶桑略記、詔贈絹布、日本紀略

更衣藤原桑子、中納言兼輔女也、生章明親王、一代要記、皇胤紹運錄、皇胤系圖、

更衣源封子、一代要記○按皇胤系圖、封作對、未知孰是、左京大夫舊鑒女也、皇胤紹運錄、源氏系圖、生克明親王、一代要記、皇胤紹運錄、源氏系圖、○按帝王編年記爲仲野親王女生克明、蓋誤、宣子內親王、皇胤紹運錄、齋院記、靖子內親王、皇胤紹運錄、皇胤系圖、

更衣滿子女王、民部大輔輔相王女也、生修子內親王、一代要記、皇胤紹運錄、普子內親王、皇胤紹運錄、皇胤系圖、

更衣源貞子、大納言昇女也、尊卑分脈○按本書一說作和子、時光孝女和子爲女御、不應同名、蓋誤、生重明親王、一代要記、皇胤紹運錄、源氏系圖、帝王編年記、稱小八條御息所、作者部類

更衣藤原氏、參議伊衡女也、生源爲明、稱少將御息所、尊卑分脈

源氏、左兵衞佐敏相女也、生源允明、皇胤系圖、河海鈔

大日本史卷之七十八終

大日本史卷之七十九

列傳第六

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保重校

后妃六

朱雀女御熙子女王

女御藤原慶子

村上藤原皇后

女御藤原述子

女御徽子女王

女御莊子女王

女御藤原芳子

更衣源計子

更衣藤原祐姫

更衣藤原正妃

尚侍藤原登子

冷泉皇后

藤原皇后

藤原皇后

女御藤原忯子

圓融藤原皇后

藤原皇后

藤原皇后

尊子内親王

華山女御藤原忯子

女御藤原姚子

女御藤原諟子

女御婉子女王

平平子

一條藤原皇后

藤原中宮

女御藤原義子

女御藤原元子

女御藤原尊子

朱雀女御熙子女王、文獻太子女也、日本紀略、一代

要記、中右記、大治五年、授正四位下、一代要記承平七年爲女御、日本紀略、一代要記、天曆四年生昌子內親王、皇胤紹運錄、中右記大治五年、天曆四年據類聚符宣鈔、敘從三位、一代要記尋薨、稱王女御、榮華物語、○熙子薨年不詳、按昌子內親王長保元年卒、年五十、則以天曆四年生、而本書云、昌子三歲而熙子薨、據此推之、熙子蓋以天曆六年薨也、然他無明文、故不敘、

女御藤原慶子、太政大臣實賴女也、日本紀略、大鏡裏書、一代要記、授正五位下、一代要記天慶四年爲女御、日本紀略、一代要記、天曆五年十月卒、一代要記、李部王記、

村上藤原皇后、諱安子、右大臣師輔女也、日本紀略、一代要記、大鏡、帝爲親王納之、及居儲宮、以皇太弟妃授從五位上、登阼爲女御、授從四位下、累遷從三位、天曆四年進從二位、大鏡裏書引村上御記、天德元年四月置酒飛香舍、賀師輔壽五十、帝臨御宴樂、賜物有差、日本紀略二年十月爲皇后、日本紀略、一代要記、大鏡裏書引村上御記、四年以父喪出居兄伊尹第、日本紀略、扶桑略記、康保元年四月、產選子於主殿寮、數日崩、年三十八、日本紀略、大鏡裏書引村上御記、○按扶桑略記作三十五、誤、葬愛宕郡東南野、日本紀略○本書一說作神樂岡西北、稱中宇治陵、置國忌齋於西寺、列荷前幣、江家次第后生冷泉帝、圓融帝、爲平親王、承子內親王、輔子內親王、資子內親王、選子內親王、皇胤紹運錄、大鏡、榮華物語、中右記大治五年、初后生皇女、未有男子、師輔祈鹿島神、未幾生冷泉帝、左經記長元七年引九條殿記冷泉帝踐阼、贈后母從三位藤原盛子正一位、日本紀略追尊后曰皇太后、圓融帝受禪、贈太皇太后、大鏡裏書后最敦友弟、能

通下情、妃嬪婢妾皆得歡心、及崩中外哀惜、帝屢問政事、后務匡救翼贊、除人所疾苦、而慫慂其所欲、帝亦憚之、無言不聽、然性頗嫉妒、時女御藤原芳子新獲寵、居飛香舍、與后所居弘徽殿隣、后穴壁窺之、容貌絕美、妒心彌熾、碎土器自穴中擲之、帝適見之大怒、以謂是后兄弟教后爲之、因責伊尹等還家、后大怒、請帝而詣宮、乞宥伊尹等、帝不許、而起、后牽衣留之、帝不得已從之、后崩後、芳子

寵弛、帝念后、深悔遇之薄也、大鏡

女御藤原述子、太政大臣實頼第二女也、尊卑分脈○一代要記、歷代皇紀、爲三女、帝在東宮納之、及卽位爲女御、一代要記天曆元年有身、患疱瘡墮胎、卒于東三條第、年十五、日本紀略稱弘徽殿女御、日本紀略○尊卑分脈、作四條御息所、及葬、遣使贈從四位上、日本紀略、一代要記、

女御徽子女王、式部卿重明親王女也、日本紀略、一代要記、皇胤紹運錄、齋宮記、承平六年爲齋宮、日本紀略、大鏡裏書、

一代要記天慶八年遭母喪罷歸、日本紀略天曆元年納掖庭、一代要記、大鏡裏書三年爲女御、日本紀略、一代要記、五年授從四位下、應和二年進從四位上、大鏡裏書生規子內親王、榮華物語、皇胤紹運錄、又生一皇子夭、日本紀略寬和元年卒、年五十七、大鏡裏書稱齋宮女御、大鏡、皇胤紹運錄、又稱承香殿女御、大鏡女王最善和歌、皇胤紹運錄嘗居長岡別墅、帝賜歌慰問、女王奉和、時人謂有欲居坤位之意、女王恥之、乃削其稿、十訓鈔

女御莊子女王、中務卿代明親王女也、一代要記、歷代皇紀、皇胤紹運錄、授從四位上、天曆四年爲女御、一代要記生具平親王、樂子內親王、榮華物語、皇胤紹運錄、皇胤系圖、及帝崩爲尼、寬弘五年七月卒、日本紀略、一代要記、年七十八、一代要記稱麗景殿女御、榮華物語

女御藤原芳子、左大臣師尹女也、大鏡、日本紀略、尊卑分脈、天德二年爲女御、生昌平親王、永平親王、皇胤系圖、一代要記、容貌絕艷、髮鬒而長、上車其末尚委柱下、大鏡初在家學琴書、諳誦古今集、帝親

試之、以碁子爲籌、終篇無一錯誤、帝大異之、大鏡、參取枕草子、帝妙彈箏、芳子悉得指法、大鏡、榮華物語、三年敍正五位下、日本紀略、九曆後進從四位下、日本紀略帝甚寵之、爲皇后所妒媢、末年寵稍衰、大鏡康保四年七月卒、日本紀略、一代要記、山槐記治承二年、稱宣耀殿女御、大鏡、榮華物語、枕草子、

更衣源計子、中納言庶明女也、歷代皇紀、皇胤紹運錄、皇胤系圖、頗有才識、一日帝作歌曰、阿布佐加茂、波底波由岐岐能、世基母爲受、多豆爾氏斗

比古、岐奈波加陪佐餌、蓋隱語也、示諸宮人以試之、皆不能解、（榮華物語、十訓鈔、）或以爲被名、至有盛飾而進者、（榮華物語、）獨計子曉其意、獻薰衣香、帝嘉其敏慧、（榮華物語、十訓鈔、）計子勸帝、令源順等訓解萬葉集、（十訓鈔、）生理子内親王、盛子内親王、（皇胤紹運錄、榮華物語、）稱廣幡御息所、（榮華物語、十訓鈔、皇胤系圖、○按寶物集云、後出嫁左大臣藤原顯光、據一代要記、皇胤紹運錄、皇胤系圖、嫁顯光者盛子也、）

更衣藤原祐姫、大納言元方女也、（一代要記、歷代皇紀、

皇胤系圖、○按皇胤紹運錄、祐姫作元子、）爲更衣、（日本紀略、皇胤紹運錄、○按榮華物語、或稱女御、或稱御息所、）生廣平親王、（皇胤紹運錄、榮華物語、）緝子内親王、（皇胤紹運錄、）時帝未有嗣、及廣平親王生、祐姫及元方竊喜、以謂其爲儲貳、既而冷泉帝生、尋爲東宮、父子大失望、元方遂以憂死、（榮華物語、）世謂冷泉帝得狂疾、華山帝出家、三條帝失明、皆元方祟之所爲也、（神皇正統記、）及帝崩爲尼、（日本紀略、）

更衣藤原正妃、左大臣在衡女也、（一代要記、歷代皇紀、皇胤紹運錄、皇胤系圖、）授正五位下、（日本紀略、）生致平親王、昭平親王、保子内親王、（一代要記、皇胤紹運錄、皇胤系圖、榮華物語、）正妃素無殊寵、然以多子、恩遇始終不衰、（榮華物語、）康保四年七月卒、（日本紀略、）稱按察御息所、（榮華物語、）

尚侍藤原登子、皇后同母妹也、（尊卑分脈、一代要記、大鏡裏書、）初爲帝兄重明親王繼室、以皇后故、出入宮中、帝見悅之、請后私焉、后初爲掩匿、（榮華物語、大鏡、）後帝數召入宮中、后稍不懌、及親王薨、帝

心喜欲納之、然憚后不果、后崩僅踰月、帝數通書、登子憚物議、不肯應命、帝敕伊尹等促之、命内藏司給其資、遂召居登華殿、專寵幸、妃嬪希復進御、后及親王之侍女皆怨忿、謂后崩親王薨、其咒詛之所致也、帝常歡狎、至晝不出臥内、帝爲治休明、至是政事頗廢、中外惜之、藤原實賴嘆曰、帝德足垂後世、而以是壞之、惜哉、帝欲立登子爲后、然以前有子、不得策立、（榮華物語、）圓融帝受禪、敘從四位上、（日本

紀略、作從五位上、今從大鏡裏書、一代要記、爲尚侍、大鏡、榮華物語云、村上帝在日爲尚侍、今從日本紀略、大鏡裏書、天祿元年敍從三位、天延元年進從二位、大鏡裏書三年薨、日本紀略、大鏡裏書、稱貞觀殿尚侍、大鏡○按榮華物語系圖云、稱登華殿尚侍、未知孰是、

冷泉皇后、諱昌子、朱雀帝女也、日本紀略天曆四年爲内親王、時年一歲、類聚符宣鈔應和元年笄於承香殿、授三品、帝親書位記賜之、日本紀略初后幼失恃、朱雀帝唯一女、鍾愛最甚、每欲其爲后、皇女冊立、近古無例、榮華物語然以無皇子、

欲皇女遺種、臨崩作歌寓意、大鏡村上帝知之、及東宮加元服、羣貴皆冀納女、村上帝特敕爲納之、榮華物語及帝登阼、立爲皇后、日本紀略、榮華物語、帝有心疾、后多出居別宮、榮華物語天延元年爲皇太后、日本紀略、扶桑略記、榮華物語、寛和元年、后創觀音院于比叡山、自往供養、日本紀略、扶桑略記、比叡山據略記、二年爲太皇太后、日本紀略、一代要記、長保元年十二月、崩于權大進橘道貞三條家、日本紀略年五十、小右記、扶桑略記、一代要記、帝王編年記、○按日本紀略作五十五、誤、稱三條太皇太后、榮華物語又稱觀音院太后、中右記大治二年親書遺令、條具後事、一從儉薄、葬于觀音院、小右記、日本紀略、扶桑略記、

藤原皇后、諱懷子、太政大臣伊尹女也、榮華物語、大鏡、皇胤紹運錄、一代要記、安和元年入内、榮華物語康保四年爲女御、日本紀略、大鏡裏書、授從四位下、大鏡裏書天延二年進從二位、日本紀略、大鏡裏書、三年四月薨、年三十一、日本紀略作三十、今從大鏡裏書、歷代皇紀、生華山帝、宗子内親王、尊子内親王、榮華物語、皇胤紹運錄、華山帝立、

追尊曰皇太后、國忌山陵、一遵舊典、日本紀略、中右記、嘉承二年、初后薨、華山帝尚幼、后母惠子女王鞠育甚至、及卽位、敕曰、漢武卽位、臧兒遇封、眇代之恒規、前史之令典也、朕外祖母王氏、禮法在心、閨闈垂範、朕當幼日、早喪先妣、祖母視朕亦猶子、朕報祖母未如親、其授邑土三百戸、幷年爵内外官三分等、聊爲湯沐之資、兼與役從之輩、本朝文粹、

藤原皇后、諱超子、關白兼家女也、大鏡、榮華物語、皇胤

紹運錄、一代要記、安和元年入內、爲御匣殿、○按榮華物語、以入內爲帝讓位後事誤矣、與姑忯子同爲女御、日本紀略、授從四位下、大鏡裏書○日本紀略作從四位上、時兼家藏人頭、父未爲公卿、而女爲女御、自此始、一代要記、生三條帝、爲尊親王、敦道親王、光子內親王、日本紀略、皇胤紹運錄、皇胤系圖、天元五年正月、諸兄弟來會守庚申、女御憑几而睡、達旦不寤、就見則逝、榮華物語、自此其族不令女子守庚申、古事談、三條帝卽位、追尊爲皇太后、日本紀略、中右記、嘉承二年、詔曰、至

德要道之訓、孝行長存、三傳一旨之文、母儀是貴、誠知仁義之基、莫大於孝、嗚呼哀哉、朕之先妣、當少日而乖恩愛、耳悲故老之言、臨長年而知哀傷、心切疇昔之思、歲月雖舊、戀慕如新、嘗無助天下於內詔之日、令變墳松於椒房之風、其以所生藤原氏爲皇太后、國忌山陵、一如舊典、小右記、

女御藤原忯子、右大臣師輔女也、大鏡、一代要記、歷代皇紀、村上皇后同母妹也、大鏡裏書、帝在東宮、納爲御息所、大鏡、尊卑分脈、授從四位下、日本紀略、安和元年爲女御、日本紀略、大鏡裏書、進正四位下、日本紀略、天元五年爲尚侍、陞從三位、日本紀略、一代要記、寬和中至正三位、永祚元年爲尼、一代要記、

圓融藤原皇后、諱媓子、關白兼通女也、榮華物語、大鏡、一代要記、尊卑分脈、天延元年入內、榮華物語爲天祿二年、今從日本紀略、一代要記、尋爲女御、一代要記、七月立爲皇后、日本紀略、一代要記、中右記、大治五年、天元二年六月、崩于堀河院、日本紀略、榮華物語、一代要記、年三十三、日本紀略、大鏡裏書、稱堀

河中宮、后年幼不爲父所愛、后患之、時徒步詣稻荷社禱焉、後兼通欲進女、無年長於后者、因得充選、大鏡、

藤原皇后、諱遵子、關白賴忠女也、大鏡裏書、一代要記、天元元年召納掖庭、日本紀略、一代要記、大鏡裏書、○按榮華物語爲天元二年、誤、聽准女御乘輦、日本紀略、爲女御、日本紀略、大鏡裏書、一代要記、居承香殿、日本紀略、授從四位上、日本紀略、中右記、大治五年、后才姿不及東三條院、帝特以賴忠故加寵異、及堀河中宮崩、賴忠冀其踐后位、

然后無子、加以東三條院新生一條帝、憚外議不果請、帝素仁柔、欲取悅于賴忠、乃謂曰、梅壺有子、異時自得正號、宜先立公女、（榮華物語）五年三月立爲皇后、（日本紀略、一代要記、帝王編年記）稱中宮、（榮華物語、大鏡裏書、中右記大治五年）時人以其無子、呼曰素腹后、（榮華物語）正暦元年、以中宮立改稱皇后、（日本紀略、大鏡裏書、一代要記、帝王編年記）長德三年受戒爲尼、（日本紀略、大鏡裏書○一代要記、帝王編年記係四年）長保二年爲皇太后、（扶桑略記、大鏡裏書、一代要記）三條帝卽位、爲太皇太

后、寬仁元年六月崩、年六十一、（日本紀略、一代要記、大鏡裏書）稱四條宮、（大鏡、扶桑略記○按貴女鈔稱東北院、他無所見、故不取）遺令停素服舉哀、葬于般若寺、（日本紀略）

藤原皇后、諱詮子、關白兼家女也、（大鏡、皇胤紹運錄、尊卑分脈、女院小傳）天元元年入居凝華舍、（按榮華物語在遵子入內前、今從日本紀略、大鏡裏書、一代要記）授正四位下、（一代要記）爲女御、（日本紀略、一代要記）資性婉順、最得寵幸、帝雖以關白賴忠故、重四條中宮、意常屬女御、三年出就兼家第、生一條帝、帝欲臨視之、而憚賴忠、不果、時宮闈無主、兼家謂女御有子、必當冊立、及四條中宮立、意甚不懌、帝數召女御、兼家使女御辭、五年一條帝著袴、是日女御始入宮、三日乃出、終帝世、遂不得正位宮闈、（榮華物語）寬和二年進正三位、（大鏡裏書）一條帝登阼、尊爲皇太后、（扶桑略記、大鏡裏書、榮華物語）初四條中宮立、備儀入宮、中宮弟公任從焉、路過兼家東三條第、公任駐馬曰、此家女御何日得復如此、女御兼家聞而銜之、及上號入宮、公任適在

扈從、辨內侍自車中喚公任謂曰、素腹后今何如、公任大慚沮、（大鏡）永延元年正月、一條帝覲后於東三條、授宮司及兼家家司位、（榮華物語）二月敕贈后母時姬正一位、（日本紀略）初時姬少時、欲卜前途吉凶、出二條大路、聽輿人之誦、有一老婆謂時姬娘子後必榮顯、無事不濟、以廣以長、如此大路、果如其言、（大鏡）一條帝年尚幼、御禊及謁石清水賀茂、后必同乘、（日本紀略、榮華物語）正暦二年后疾、一條帝親候之、后落髮、

停皇太后宮職、號東三條院、年官年爵封戶如舊、（榮華物語爲三年、今從扶桑略記、日本紀略、）准太上皇、稱女院始此、（榮華物語、歷代皇紀、愚管鈔、）后母儀天下、崇重傾世、諸兄弟皆承奉外朝、政事多決其意、會關白道兼薨、后欲大納言道長居職、帝不聽、后流涕曰、媼所煩言者、爲國爲君、而不聽從、自今而後、媼不復言事、帝不得已聽之、后卽呼藏人頭源俊賢傳敕、以道長內覽、（愚管鈔、）長德三年后又疾、帝大赦天下救之、（日本紀略、扶桑略記、）后

創慈德寺、長保元年八月落成、准御齋會慶之、（小右記、百鍊鈔、）又創解脫寺於比叡山、（扶桑略記、）三年十月、帝與中宮幸道長上東門第、設宴賀后壽四十、又命諸寺祈后壽、閏十二月后疾劇、（○紀略曰、后落髮爲尼、然紀略正曆二年條、既載后爲尼、故今不取、）延醫視之、后不肯、帝大憂之、萬方禱祈、大赦天下、以有鬼祟、遷藤原行成第、（○榮華物語爲遷平惟仲家、）尋崩、年四十、（參取日本紀略、榮華物語、○按大鏡裏書曰、崩年四十一、誤、）葬于鳥部野、遺令不置國忌山陵、停素服舉哀、（日本紀略、）

（扶桑略記、）帝甚悲慟、水漿不入口、親寫佛經、以薦冥福、（榮華物語、）每忌日、修法華八講於慈德寺、（年中行事、）

尊子內親王、冷泉帝第二女也、康保四年爲內親王、（日本紀略、一代要記、）安和元年爲賀茂齋、天延三年遭母喪罷、（日本紀略、一代要記、齋院記、）天元三年召納麗景殿、（日本紀略、齋院記、）時年十五、（本朝文粹○按榮華物語、入內在貞元二年、前者誤、）無幾禁中火、世呼曰火宮、（大鏡、榮華物語、）四年敍二品、（日本紀略、一代要記、齋院記、）五年自截髮、

事祕無知其故者、（小右記○按本書註曰、承香殿女御、然他無所見、其說未詳、）寬和元年受戒爲尼、（本朝文粹、）五月薨、年二十、（小右記、日本紀略、一代要記、齋院記、）

華山女御藤原忯子、太政大臣爲光女也、（日本紀略、一代要記、大鏡、按諸書忯訛作低、今從尊卑分脈、）永觀二年入掖庭、（榮華物語、忯子入宮、在諸女御後、今從日本紀略、大鏡裏書、一代要記、）爲女御、居弘徽殿、（日本紀略、榮華物語、）寵傾後宮、（榮華物語、）故事女御不得宮中修法、特聽忯子於桂芳坊修之、（小右記、）諸姬皆妬忌之、私相謂曰、寵愛如此、

自古所未聞、福不可長也、既而有身、滿三月、例當出宮、帝不忍遣出、五月始出就爲光第、罹病不能食、羸瘦日甚、中使踵至、昏夜不絕、或有復命遲緩者、削殿上簡、又分命衆僧修法祈之、每羞一菓味、必賜之、帝尚思不措、召入宮中、常卧其側、或不御膳、留八日、爲光固請出之、病增劇、帝亦爲之起居不常、榮華物語寬和元年七月末、分娩而卒、日本紀略、大鏡裏書稱弘徽殿女御、小右記特贈從四位上、日本紀略、一代要記爲停

相撲節、日本紀略帝自是專心佛法、深厭世緣、嬪御少進見、榮華物語藏怟子書、常不離身、及捨身于華山寺、偶遺之途、還取之、其惑溺如此、大鏡

女御藤原姚子、左近衞大將朝光女也、日本紀略、榮華物語、一代要記、永觀二年入宮、居麗景殿、小右記、日本紀略、大鏡裏書、○按榮華物語、係寬和元年、誤、爲女御、小右記、一代要記、稱堀河女御、尊卑分脈朝光得父兼通及堀河中宮遺物珍器、悉藏其家、故姚子裝奩極饒、榮華物語入宮專恩寵、僅一月、絕不復顧、姚子意不安、出而還家、帝終不問、大鏡、榮華物語、朝光大恥、不敢入朝、時宮中妒寵竊設計、使帝不得過廊、姚子亦不得進、以故終至出宮云、榮華物語

女御藤原諟子、關白賴忠女、四條中宮同母妹也、大鏡永觀二年入居承香殿、小右記、日本紀略、榮華物語、承香殿據小右記、與姚子同日爲女御、小右記、一代要記、○按紀略、係寬和元年、誤、以賴忠故、榮貴超等、賴忠亦謂昇后位者、必我女也、帝性輕薄、嬪御有寵者、不得保終、唯諟子雖無殊寵、恩眷始終不渝、榮華

物語帝避位後、與中宮同居四條宮、長元八年六月卒、左經記

女御婉子女王、大鏡裏書作恭子女王、誤、今從一代要記、皇胤紹運錄、爲平親王女也、一代要記、榮華物語、寬和元年入宮、爲女御、按榮華物語、婉子入內、在姚子前、今從日本紀略、一代要記、大鏡裏書、初甚寵幸、既而寢疏、及怟子卒、欲復召見、婉子託疾不敢進、榮華物語帝遜位後、嫁藤原實資、大鏡長德四年七月卒、日本紀略係九月、今從小右記長保元年七月條、年二十七、日本紀略

平平子、若狹守祐忠女也、母曰中務、帝乳母女也、帝稍倦淨業、出華山而居東院、名中務幸之、榮華物語生清仁親王、皇胤紹運錄、尊卑分脈、及二皇女、榮華物語又幸平子、生昭登親王、皇胤紹運錄、尊卑分脈、及二皇女、故世稱清仁親王曰母腹宮、昭登親王曰女腹宮、帝臨崩曰、朕不欲獨死、不日必將諸女去、中務平子皆憂懼、其年諸女相踵皆夭云、榮華物語

一條藤原皇后、諱定子、關白道隆女也、日本紀略、

一代要記、尊卑分脈、正曆元年入内、尋爲女御、扶桑略記、大鏡裏書、授從四位下、大鏡裏書、一代要記、時后年十五、長於帝四歲、榮華物語作后年十六、大鏡裏書、一代要記十四、今推崩年、從大鏡、十月立爲中宮、日本紀略、外記日記、扶桑略記、大鏡裏書、公卿補任、○大鏡、榮華物語、並爲六月朔立后、蓋此時已蒙宣旨、而以兼家薨、至十月冊之也、后母高階氏起寒微、宦仕更事、后亦傚其風、抑損接下、時道隆權重、卿相家無復納女者、以故后專寵、長德二年春有身、榮華物語出居二條第、日本紀略、四月后兄伊周及隆家有罪配流、后深憂悶、榮華物語五月自截髮爲尼、六月二條第火、避之亮高階明順宅、日本紀略既而徙中納言平惟仲家、榮華物語十二月生脩子内親王、日本紀略、榮華物語、帝聞之、密遣右近内侍視之、帝切欲見皇女、數命后入宮、后不肯應敕、后外祖成忠勸后曰、吾夢吉、宜急入宮、三年六月、攜皇女入居職曹司、帝猶以爲遠、徙之別殿、每夜至焉、寵幸如舊、榮華物語長保元年又有身、八月出宮、就前但馬守平生昌家、后叔父道長與后父兄

素不相善、是日道長故邀在廷諸臣、遊宇治家、御輿將出、無造朝者、稽延經時、其遺屈如此、小右記十一月生敦康親王、按榮華物語曰、長德三年六月、后入宮有身、二閲月而出、四年三月生敦康、於是赦伊周隆家、然以敦康薨年推之不合、今從小右記、日本紀略、時帝未有嗣、大喜欲見之、而憚道長不果、榮華物語二年上東門院立爲中宮、后改號皇后、日本紀略、扶桑略記、一代要記、榮華物語、大鏡裏書、會中宮出道長第、帝時其亡、將召敦康親王見之、中宮道長亦催之、帝悅、召后及二子入宮、后曰、

妾嚮引退、無意入宮、而今應敕者、殊欲一就天日、而使今宮得託、辭氣悽惋、帝慰諭之、既而又有身、榮華物語出就生昌宅、日本紀略憂鬱成疾、伊周憂之、修法求助、一時高僧皆憚道長不肯來、榮華物語十二月生媄子内親王、數日崩、年二十五、日本紀略葬於鳥部野、榮華物語后疾作歌述懷、又書後事繫之帳、伊周一奉遺意襄事、參取今昔物語、十訓鈔、榮華物語、后母妹稱御匣殿、后託敦康親王鞠育之、及后崩、奉親王入宮、帝幸之、有

身、伊周隆家竊喜、禱徼福祉、及產不娩而卒、榮華物語

藤原中宮、諱彰子、攝政道長女也、日本紀略、大鏡、歷代皇紀、一代要記、后美晳豐艶、光澤如酸漿、髮長於身二尺許、道長撫愛、常欲其貴、榮華物語長保元年敘從三位、一代要記入内爲女御、小右記、日本紀略、扶桑略記、一代要記、居飛香舍、侍女數十人、妙選一時才色、裝奩翫好、珍奇精巧、世稱輝藤壺、帝視后草子、巨勢弘高畫、藤原行成書、戲之曰、尤物蕩心、朕幾廢政、時后年十二、帝曰、女御幼穉、朕如老翁、自顧有忸怩、帝吹笛、侍御皆聚觀、后獨不視、帝曰、女御何不視、后對曰、笛惟聽音、何視之爲、其敏慧類如此、貴寵冠後宮、東三條院亦親待有加、二年二月、出就道長土御門第、榮華物語立爲中宮、大鏡、日本紀略、一代要記、○按榮華物語、以爲中宮係三月誤、入居飛香舍、○按紀略曰、七月二十三日、中宮自土御門第、徙源則忠堀川第、與居飛香舍前後不詳、故不取、寬弘五年有身、出就土御門第、九月生後一條帝、十月帝臨幸、

奏樂盡歡、榮華物語賜后母源氏兄賴通教通及中宮司道長家司位、日本紀略道長嘗自矜曰、以后爲子、於我乎無可恥、以我爲父、后亦無可憾、然則后母得良夫、亦可爲榮耳、榮華物語十一月后與後一條帝入宮、明年十一月、生後朱雀帝於土御門第、日本紀略、榮華物語、初皇后崩、帝託敦康親王於后養之、八年帝讓位於三條帝、使後一條帝居東宮、后素知帝意在敦康親王、憚道長而止、因揣其意、密謂道長曰、親王

年長、宜爲儲貳、聖慮豈不及此、而舍彼立此、藉重外家也、今爲之計、當使親王得先立、太子尚幼、苟有天命、事不晚也、道長曰、善、然事已決於宸衷、何得可否、我桑楡景迫、及殘喘未盡、仰光髗扆、是老夫至願也、后無復言、后入宮十餘年、恩寵欵密、無纖芥之嫌、及帝崩、哀戚殊甚、出居枇杷殿、撫視敦康親王修子內親王、恩意不衰、榮華物語長和元年二月、爲皇太后、日本紀略、大鏡裏書、今鏡、一代要記、寬仁元年皇太子辭

青闈、道長欲立後朱雀帝爲皇太弟、私告后、后曰、嚮不立式部卿宮、先帝有旨不可違、在今宜推奉彼宮、然則先帝志遂、彼宮意亦得矣、道長曰、式部卿宮雖賢、無外戚援、事遂寢、榮華物語二年正月、爲太皇太后、大鏡裏書、今鏡、一代要記、十二月、敦康親王薨、后甚悲歎、賻物助喪、榮華物語萬壽三年斷髮受戒、法名清淨覺、上號曰上東門院、日本紀略、今鏡、大鏡裏書、女院小傳、門院號始此、今鏡、大鏡裏書、女院小傳、以太皇太后宮職官屬爲院別當、判

官代、主典代、年官年爵封戶、幷四時服御、內膳御菜、一如故、日本紀略、左經記、長元四年、后詣石清水、遂遊住吉社天王寺、關白已下朝臣從行、儀衛車服極華侈、小右記、日本紀略、榮華物語、長曆三年爲尼、再受戒於僧明尊、扶桑略記、大鏡裏書、嘗創一堂於法成寺東北隅、謂之東北院、長久元年、後朱雀帝覲后于東北院、扶桑略記寬德二年帝崩、后累遭大憂、欲閒居林丘、從御賴通白河別莊、以京極第與中宮、後冷泉帝卽位、崇奉

不衰、朝臣造詣、冠蓋相望、而別莊幽僻有妖、后及侍女得疾、或有死者、賴通數請徙御他所、后不聽、久之疾篤、徙居美作守某四條宅、榮華物語永承五年、帝始覲東北院、法成寺僧明尊等賜封授位、七年居六條院、違豫、帝詣而視之、大赦天下、扶桑略記是後多居東北院、稱大女院、以別陽明門院二條院、榮華物語承保元年十月、崩於法成寺阿彌陀堂、年八十七、女院小傳或作年八十六、又引爲房記作八十五、今以生年推甲子、從扶桑略記、大鏡裏書、榮華物

語、古事談、火葬大谷本院、扶桑略記、大鏡裏書、后母儀累朝、福壽兼備、後世言椒房貴盛者、以后爲稱首、沙石集

女御藤原義子、太政大臣公季女也、日本紀略、一代要記、歷代皇紀、榮華物語長德二年入掖庭、榮華物語在元年冬元子入內後、今從日本紀略、一代要記、尋爲女御、日本紀略、一代要記、長保二年授從三位、一代要記寛弘二年進從二位、法成寺攝政記、一代要記、萬壽三年爲尼、日本紀略、一代要記、天喜元年閏七月薨、年八十、一代要記、薨年據本書五十三歲爲尼文、稱弘徽殿女御、榮華物語、法成寺攝政記、

女御藤原元子、左大臣顯光女也、日本紀略、大鏡、一代要記、尊卑分脈、長德二年入居承香殿、榮華物語爲元年冬事、今從日本紀略、大鏡裏書、一代要記、爲女御、日本紀略、大鏡裏書、一代要記、稱承香殿女御、大鏡、榮華物語、法成寺攝政記、初顯光欲納之宮、以皇后故不果、及道隆薨、伊周貶、皇后居外、義子入內、元子亦預選、入宮有寵、時帝未有嗣、東三條院每曰、唯生皇子者吾重之、三年冬元子患腹脹、以爲有身、出就顯光第、乘

輦過弘徽殿前、殿中婦女推簾爭觀、簾腹膨脝、元子侍兒見之曰、唯簾有身、觀者愧之、元子還家、過期未娩、顯光使元子自詣廣隆寺祈之、留宿數日、如臨產狀、既而水出得愈、元子大愧、不復入宮、世作謠嘲之、榮華物語長保二年授從三位、法成寺攝政記、大鏡裏書、○按一代要記作長德三年、誤、寛弘二年進從二位、法成寺攝政記、大鏡裏書、一代要記、帝崩後、與參議源賴定姧、大鏡裏書、榮華物語、一代要記、顯光大怒、手髡逐之、居其乳母子僧實誓家、賴定數往來、遂蓄髮生子女、榮華物語

女御藤原尊子、關白道兼女也、道兼私帝乳母藤原繁子生尊子、大鏡、榮華物語、一代要記、不爲道兼所愛、而依母家、道兼薨後、繁子請納尊子、道長爲助資裝、榮華物語長德四年入宮、榮華物語爲二年事、今從日本紀略、大鏡裏書、一代要記、爲御匣殿別當、五年授從五位上、一代要記長保二年爲女御、日本紀略、扶桑略記、寛弘元年進從四位上、二年正三位、大鏡裏書、一代要記、七年從二位、一代要記帝崩後、爲大藏卿藤原通

任妻、榮華物語、大鏡、

大日本史卷之七十九終

大日本史卷之八十

列傳第七

權中納言從三位源光圀　修
男權中納言從三位綱條　校
玄孫權中納言從三位治保重校

后妃七

三條藤原中宮
藤原皇后
女御藤原氏
尚侍藤原綏子
後一條藤原中宮
後朱雀皇后
藤原中宮
藤原皇后
女御藤原生子
女御藤原延子
後冷泉中宮
藤原皇后

藤原皇后
後三條中宮
藤原皇后
女御藤原昭子
女御源基子
掌侍某氏
藤原氏

三條藤原中宮、諱妍子、攝政道長第二女、上東門院同母妹也、（日本紀略、大鏡裏書、榮華物語）寬弘元年授正四位下、爲尚侍、（日本紀略、大鏡裏書）尋進從三位、（日本紀略、一代要記）七年進從二位、（一代要記）時帝在東宮、納之、（大鏡裏書、今鏡、一代要記○按榮華物語係六年、誤、又按紀略三年七年條、妍子入內重出、而三年條書入東宮、七年書初入東宮、蓋三年記入內宣下日也、文義不明、故不取焉）后美姿容、髮長過身、道長辦備衣服器玩、幾十年許、華奢過於上東門院入內儀、先是宣耀殿女御專寵、及后入、恩意寢移、帝常在后所、（榮華物語）八年帝登極、爲女御、（日本紀略、大鏡裏書）時中宮冊立未決、巷議紛然、帝贈和歌于宜

耀殿女御、寓冊立不能如意之旨、帝欲立妍子爲后、數諭道長、道長奏宣耀殿女御多生皇子、宜先冊立、如臣女請緩之、帝不悅、道長又奏遽下宣旨、（榮華物語）長和元年二月、立爲中宮、（日本紀略、榮華物語、大鏡裏書、）二年有身、出就上東門第、（日本紀略、榮華物語、）中使頻至、（榮華物語）七月生陽明門院、（日本紀略、榮華物語、）明年正月后還宮、（榮華物語爲二年十一月、今從日本紀略、）踰月禁中火、后與帝避太政官朝所、（榮華物語爲避松下曹司、今從日本紀略、）遂御京極第、四年宮新成、

帝徙御、后不從、後遷一條院、既而徙枇杷第、枇杷第火、后與帝徙御高倉第、遂徙三條院、及帝崩、出居一條第、（榮華物語）寬仁二年十月、爲皇太后、（日本紀略、大鏡裏書、一代要記、）治安二年徙枇杷殿、萬壽四年三月違豫、會陽明門院將入內、后力疾辦事、疾遂篤、（榮華物語）九月截髮爲尼、卽日崩、（日本紀略、榮華物語、）年三十四、（日本紀略、扶桑略記、大鏡裏書、）火葬大峰寺前野、（日本紀略、大鏡裏書、）藏骨木幡、（榮華物語）稱枇杷太后、（今鏡、大鏡裏書、徒然草、）遺令停素服舉哀國忌山陵、（日本紀略）

藤原皇后、諱娍子、大納言濟時女也、（日本紀略、一代要記、）村上帝嘗授箏於濟時、后傳之、妙究祕曲、帝在東宮、有僧屢出入宮中、一夕語及后、帝意動、遂使僧達旨、濟時大喜而奉命、正曆二年嬪于東宮、居宣耀殿、（榮華物語）時年十九、生小一條院敦儀親王、敦平親王、師明親王、當子內親王、禔子內親王、（大鏡、榮華物語、皇胤紹運錄、）及中宮入宮、后語侍者曰、時勢如此、吾固知之、今復

何怪、但當育諸兒歸佛乘耳、然爲吾兒謀、不能無憂、（榮華物語）帝卽位、授從四位下、（日本紀略）爲女御、（日本紀略、一代要記、）稱宣耀殿女御、（大鏡、榮華物語、）又稱堀河女御、（一代要記）長和元年二月、中宮立、帝又欲立后、憚道長不敢發、后自引退、無所怨望、道長勸帝冊立、帝曰、納言之女爲后、近古無例、得無遺物議乎、道長曰、追贈濟時、何不可之有、帝善之、遣使濟時墓、追贈太政大臣、（榮華物語）四月立爲皇后、（小右記、日本紀略、榮華物語、一代要記、大鏡裏書、）道

長逼外議、勸帝冊立、而實非其意也、是日大臣以下多在中宮、帝遣使召之、無至者、帝怒、而不能如之何、（小右記）及置宮職、皆避而不就、后意甚不樂、帝憫之、（榮華物語）長和五年、帝禪位於後一條帝、以小一條院居東宮、寛仁元年帝崩、（大鏡裏書、榮華物語）三年落髮、（日本紀略、大鏡裏書、）萬壽二年三月崩、葬于西院、（日本紀略、榮華物語、）遺令停國忌山陵素服擧哀、（日本紀略）

女御藤原氏、關白道隆女、一條皇后同母妹

也、（大鏡裏書、榮華物語、）長德元年、入東宮爲尚侍、（日本紀略、）（榮華物語、）有寵、爲女御、（榮華物語）稱淑景舍女御、（日本紀略、大鏡裏書、榮華物語、）長保四年八月、歐血暴卒、世謂皇后毒之、（榮華物語）

尚侍藤原綏子、關白兼家第三女也、（大鏡裏書、榮華物語、尊卑分脈、）永觀二年爲尚侍、（大鏡裏書爲永延元年、今據大鏡爲尚侍時年十一之文、）有姿色、（榮華物語）永延元年侍東宮、（一代要記○按大鏡、榮華物語、爲帝加元服之年入宮者誤、）居麗景殿、（榮華物語○按系圖、稱麗景殿女御、誤、）有寵、帝幼與綏子狎昵、夏日

以冰授綏子曰、汝深愛我、持之待命、綏子捧持、至手色變、（大鏡）授從二位、（日本紀略、一年月無所考、○按一代要記、長保元年正月、授正二位、然如元子尊子、皆止從二位、要記恐誤、）後與參議源賴定私、（榮華物語、大鏡、一代要記、）事露、以故出宮、帝聞其有身、使攝政道長驗察之、事果實、帝雖惡之、而以兼家故、置而不問、（大鏡）寛弘元年二月薨、年三十一、（日本紀略、一代要記、大鏡裏書、）

後一條藤原中宮、諱威子、攝政道長第三女、（小右記、日本紀略、大鏡裏書、榮華物語、）上東門院同母妹也、（大

鏡裏書）長和元年、爲尚侍、敍從三位、（日本紀略、大鏡裏書、長和元年據大鏡裏書、）寛仁二年、入掖庭爲女御、（小右記、日本紀略、大鏡裏書、）居飛香舍、（左經記、今鏡、）帝尚幼、玩后匣奩諸器以爲戲、日相親昵、（榮華物語）十月立爲皇后、稱中宮、（小右記、日本紀略、榮華物語、）后兄教通請納女生子、帝心悦、然畏后不肯許、后性妒忌、齡長於帝九歲、常恐寵移、防猜甚至、以故敦康親王女嫄子、兄賴宗女延子、皆不得進、（榮華物語）萬壽三年有身出宮、十二月生章子内親王、（日本紀略、）

一代要記、榮華物語、四年正月還宮、是歲遭道長喪、復出宮、長元元年三月還宮、日本紀略 二年二月生馨子內親王、日本紀略、一代要記、 九年帝崩、后遷鷹司殿、日本紀略 九月患疱瘡、扶桑略記、榮華物語、 落髮爲尼、榮華物語 崩年三十八、扶桑略記、榮華物語、 葬圓城寺北櫻本、大鏡裏書 稱大中宮、扶桑略記

後朱雀皇后、諱禎子、三條帝女也、長和二年七月、生于上東門第、賜護身刀、皇女賜刀、是爲始、帝臨幸親抱后、遂取育宮中、榮華物語 十月

爲內親王、四年著袴、日本紀略 準三宮、日本紀略、一代要記、 給年官年爵、本封外加千戶、日本紀略 治安三年、著裳於上東門第、小右記、日本紀略、榮華物語、上東門第據小右記、 太皇太后爲親施之、太后以紀貫之書古今集、兼明親王書後撰集、小野道風書萬葉集賜之、皆圓融帝所傳一條帝物也、榮華物語 敕敘一品、小右記、日本紀略、一代要記、 賜乳母位、小右記、日本紀略、榮華物語、攝政道長最重后、臨病革、遺言戒子弟曰、我思一品宮而不忘、汝等體我意、敬事莫怠、

榮華物語 萬壽四年入東宮、小右記、日本紀略、今鏡、萬壽四年據小右記、紀略、 爲御息所、小右記、今鏡、 生後三條帝、良子內親王、娟子內親王、日本紀略、榮華物語、今鏡、 長曆元年二月、立爲中宮、三月女御藤原嫄子立爲中宮、因改曰皇后、榮華物語、一代要記、 居陽明門院、兩宮竝立、后不能平、不欲復入宮、榮華物語 既而中宮崩、帝納女御生子、故后居外四年、長久元年會生子出宮、於是后與後三條帝入宮、春記 帝崩後、薙髮爲尼、永承六年、尊曰皇太后、中右記寬治八

年 治曆四年、曰太皇太后、中右記、寬治八年、女院小傳、公卿補任、一代要記、 延久元年上號曰陽明門院、一代要記、女院小傳、○按今鏡、爲治曆二年二月事、誤、 年官年爵封戶如故、一代要記 嘉保元年正月崩、年八十二、中右記、百鍊鈔、○按扶桑略記作八十五、誤、

藤原中宮、諱嫄子、敦康親王女也、關白賴通養爲子、榮華物語、愚管鈔、今鏡、 長曆元年入居弘徽殿、扶桑略記、榮華物語、弘徽殿據今鏡、 寵傾後宮、榮華物語、今鏡、 爲女御、敘正四位下、編年殘篇、一代要記、 三月立爲中宮、扶桑略記、

榮華物語、中右記、大治五年、生祐子内親王、禖子内親王、三年八月崩、年二十四、扶桑略記、榮華物語、今鏡、○榮華物語作九月、稱弘徽殿中宮、今鏡、

藤原皇后、諱嬉子、攝政道長第四女、歷代皇紀作第五女、今鏡、一代要記、第六女、今從大鏡裏書、扶桑略記、上東門院同母妹也、大鏡裏書、榮華物語、今鏡、稟性聰慧、髮過身長、榮華物語、寛仁二年爲尚侍、三年敘從三位、大鏡裏書、一代要記、治安元年二月、入皇太子宮、稱御息所、一代要記、以道長難髮爲賴通女、居登華殿、大鏡、登華殿據榮華

物語、萬壽二年八月、生後冷泉帝、以産薨、日本紀略、大鏡裏書、榮華物語、年十九、葬於舟岡西、日本紀略、大鏡裏書、○榮華物語作石蔭、帝作和歌悼之、榮華物語、新千載和歌集、贈正一位、日本紀略、續本朝文粹、大鏡裏書、及後冷泉帝登阼、追尊曰皇太后、大鏡裏書、今鏡、中右記、置國忌、今鏡、中右記、嘉承二年、

女御藤原生子、關白教通長女也、榮華物語、一代要記、歷代皇紀、尊卑分脈、○按今鏡、爲第二女、印本分脈第三女、誤、善書及和歌、榮華物語、長暦三年入居凝華舍、爲女御、扶桑略記、一代要記、榮華物語、凝華舍據榮華物語、○按榮華物語云、未入宮、已稱御匣殿、然他書不載、無所考定、長久二年授正二位、一代要記、爲寛德元年敘從三位、永承元年進正二位、今從扶桑略記、帝欲立爲后、教通亦殊愛后、欲其爲后、然事寢不行、及帝崩、退居教通第、追慕不已、榮華物語、永承五年進從一位、一代要記、後準三宮、給年官年爵、榮華物語、天喜元年爲尼、一代要記、今鏡、五年慶三井寺眞如院、扶桑略記、僧綱補任、治暦四年薨、今鏡、年五十六、據本書治安三年年十一之文、稱梅壺女御、榮華物語、又稱弘徽殿女御、今鏡、

女御藤原延子、右大臣賴宗女也、一代要記、歷代皇紀、

榮華物語、幼爲脩子内親王所鞠、居三條宮、有姿色、善書彈箏、長久三年、内親王請納之宮、入居麗景殿、榮華物語、尋爲女御、中右記、嘉保二年、扶桑略記、榮華物語、今鏡、寛德元年敘從四位上、中右記、嘉保二年、一代要記、有身、會帝崩、出居賴宗第、生正子内親王、榮華物語、皇胤紹運録、今鏡、永承三年進從三位、五年從二位、中右記、嘉保二年、一代要記、康平三年賴宗請分其封五百戸與延子、延久五年爲尼、嘉保二年六月薨、年八十、中右記、○按本書爲尼下、註年五十四、據此則七十六、未知孰

是、稱麗景殿女御、榮華物語、今鏡、又稱高倉女御、中右記

後冷泉中宮、諱章子、後一條帝女也、萬壽三年十二月、生于中納言藤原兼隆第、日本紀略、榮華物語、○紀略一作正月、今鏡九月、誤、四年爲内親王、日本紀略特賜別封百戶、小右記帝愛后及馨子内親王、分居飛香舍東西、榮華物語長元三年十一月、著袴、加封千戶、年官年爵準三宮、授一品、日本紀略、榮華物語、九年四月、後一條帝崩、后隨母后、出居鷹司

殿、九月母后崩、十月與馨子内親王徙上東門院、初帝意禪位於後朱雀帝、以后配之、欲使后早著裳、敕藏人善清、製衣服諸器、善清姓闕朝夕親視、窮極精巧、會帝崩事寢、榮華物語長曆元年十二月、入東宮、榮華物語、扶桑略記、居飛香舍、榮華物語、○女院小傳載帝受禪爲女御、然他書無所見、上東門院以京極殿與后、永承元年七月、徙京極殿、立爲中宮、榮華物語治曆四年、改曰皇太后、今鏡、女院小傳、延久元年三月爲尼、一代要記、爲承保元年、今從歷代皇紀、帝王編年記、女院小傳、

七月尊爲太皇太后、公卿補任、一代要記、女院小傳、承保元年六月、上號曰二條院、榮華物語、一代要記、舊例非生天子者、不上院號、事異常典、以故不給受領、上東門院請讓院分、榮華物語后爲後一條帝造菩提樹院於東山陵側、安御容、奉事不怠、又造堂其側、修八講五十講、資其冥福、榮華物語、今鏡、長治二年九月崩、年八十、百鍊鈔、歷代皇紀、女院小傳、

藤原皇后、諱寬子、關白賴通女也、扶桑略記、一代要記、榮華物語、永承五年入内、尋授從四位下、爲女御、

六年二月立爲皇后、扶桑略記、中右記大治二年、與中宮竝立、恩數相埒、正月大饗、兩宮間歲更行、榮華物語天喜元年五月、遭母喪出宮、九月還宮、二年追贈后母源祇子從二位、扶桑略記治曆四年四月、改曰中宮、公卿補任、今鏡、一代要記、是月帝崩、十二月爲尼、今鏡、帝王編年記、延久元年尊爲皇太后、公卿補任、一代要記、承保元年六月、爲太皇太后、中右記大治二年、榮華物語、應德元年九月、詣住吉社四天王寺、扶桑略記、榮華物語、大治二年八月、崩于宇治別業、年

九十二、稱四條宮、中右記、一代要記、帝王編年記、歷代皇紀、○按台記爲大治元年崩、誤、

藤原皇后、諱歡子、關白教通第三女也、榮華物語、一代要記、歷代皇紀、今鏡、○按尊卑分脈爲長女、誤、姿色豐艷、善琵琶、工畫圖、榮華物語永承二年入內、扶桑略記、榮華物語、一代要記、三年爲女御、一代要記五年關白賴通女新入宮、尋爲皇后、歡子恚之、出居教通第、帝召而不入、遂寓兄僧靜圓小野山房、覃思佛乘、榮華物語六年準三宮、給年官年爵封千戶、扶桑略記、一代要記、

治曆四年立爲皇后、扶桑略記、帝王編年記、中右記大治五年、嘗居於二條東洞院亭、書最勝王經、雷震其室、至衣裳皆焦、后瞑目危坐無恙、自此益歸佛乘、參取古事談、十訓鈔、今鏡、承保元年、尊爲皇太后、榮華物語、一代要記、帝王編年記、尋落髮爲尼、一代要記、帝王編年記、以宮爲寺、號常壽院、門葉記、元亨釋書、延僧慶曜、講眞言止觀、又親寫五部大乘經、元亨釋書后之在小野也、一日天大雪、白河帝出觀雪、近侍謂帝或幸小野、竊馳而告之、后從容陳設供具、帝果至、觀雪車上、近侍奉后命、就而供杯酒、左右疑帝不入、帝曰、朕觀雪耳、何必須入、遣使奉美濃莊園、以謝其草率所設、參取今鏡、古今著聞集、十訓鈔、康和四年八月崩、年八十二、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、稱小野皇太后、古今著聞集、十訓鈔、古事談、東齋隨筆、

後三條中宮、諱馨子、後一條帝女也、長元四年爲內親王、授二品、爲賀茂齋、准三宮、加封千戶、任人賜爵、日本紀略后天資溫順、帝與母后深愛重之、每侍臣進見、必問至齋院否、或言

未至者、則爲之憮然、帝崩罷職、與母后居、母后崩、徙上東門院、榮華物語永承六年、上東門院納后于東宮、賴通教通等奉事備至、榮華物語、永承六年據編年殘篇、○按扶桑略記後三條紀書女御馨子內親王、榮華物語、本文皆稱齋院、目錄標女御、然年月無所考、后誕皇子皇女、皆夭、扶桑略記、榮華物語、延久元年七月、立爲中宮、扶桑略記、爲六月、今從公卿補任、中右記、大治五年、三年新宮成、后居弘徽登華兩殿、五年帝薙髮、后亦爲尼、承保元年、改曰皇后、榮華物語寬治七年九月崩、年六十五、一代要記、帝王編年記、

記、○按扶桑略記作六十二、誤、爲尼後居西院、榮華物語稱西院皇后、一代要記

藤原皇后、諱茂子、中納言公成女也、后姑夫大納言藤原能信愛后子養之、有姿色、帝在東宮、納爲御息所、參取尊卑分脈、榮華物語、生白河帝、扶桑略記、百錬鈔、中右記、大治四年、聰子俊子佳子篤子四内親王、榮華物語、尊卑分脈、○皇胤系圖爲基子所生、誤、康平五年六月薨、扶桑略記、榮華物語、帝甚悼之、榮華物語、葬於宇治、江家次第、拾芥鈔、稱滋野井女御、榮華物語、延久三年贈從二位、扶桑略記、今鏡、白河帝即位、追尊曰皇太后、中右記、嘉承二年、扶桑略記、置國忌山陵、扶桑略記、江家次第、陵稱今宇治、江家次第、贈能信太政大臣正一位、妻祉子正一位、扶桑略記、古事談、

女御藤原昭子、右大臣賴宗第三女也、一代要記、歷代皇紀、○按尊卑分脈一說、爲藤原能信女、誤、治曆二年入東宮、爲女御、榮華物語目錄、延久三年新宮成、居承香殿、帝崩後爲尼、居堀河院、始稱承香殿女御、後稱堀河女御、榮華物語、

女御源基子、參議基平女也、扶桑略記、榮華物語、皇胤紹運錄、初爲聰子内親王侍女、帝一見幸之、恩眷優厚、榮華物語、爲御息所、授從五位下、扶桑略記、禮數埒内親王、基子夢紫雲起、既而有身、出而就藤原經平家、帝屢遣使問慰、親臣出入聰子家者、必命候基子、臨產危篤、帝及内親王憂之、使者相繼、延久三年生實仁親王、帝大喜、進爲女御、時宮中私相謂、基子不過爲更衣、及命下、聞者皆駭、或謂基子小一條院孫、賴

宗外孫、故帝特貴重之、而不問父之官爵、如後冷泉帝憚賴通、則必不爲此舉也、基子入居凝華舍、稱梅壺女御、榮華物語、四年帝禪位於白河帝、以實仁爲皇太弟、於是基子準三宮、給年官年爵、封五百戶、五年生輔仁親王、扶桑略記、榮華物語、封戶據扶桑略記、及帝崩爲尼、榮華物語、長承三年七月薨、年八十八、中右記、○長秋記爲八十六、

掌侍某氏、美濃守經國女也、稱侍從内侍、生藤原有佐、尊卑分脈、今鏡、

藤原氏、近江守實經女也、帝在東宮幸之、生皇子夭、榮華物語

大日本史卷之八十終

大日本史卷之八十一

列傳第八

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保重校

后妃八

白河藤原中宮

女御藤原道子

典侍藤原經子

源師子

藤原氏

源氏

藤原氏

源氏

源氏

祇園女御

堀河中宮

女御藤原苡子

王氏

藤原氏

藤原氏

鳥羽藤原中宮

藤原皇后

藤原皇后

橘氏

藤原氏

藤原氏

藤原氏

紀氏

崇德藤原中宮

源氏

藤原氏

近衛藤原皇后

藤原中宮

後白河藤原中宮

平皇后

女御源懿子

女御藤原琮子

藤原氏

高階榮子

藤原成子

坊門局

紀氏

源氏

白河藤原中宮、諱賢子、右大臣源顯房女也、關白師實養爲子、延久三年入東宮、扶桑略記、一代要記、今鏡、榮華物語、爲御息所、今鏡、居麗景殿、榮華物語、帝即位爲女御、敍從四位下、一代要記、今鏡、承保元年六月、立爲中宮、扶桑略記、一代要記、今鏡、榮華物語、生敦文親王、堀河帝、郁芳門院、令子内親王、禛子内親王、皇胤系圖、皇胤紹運錄、應德元年九月疾篤、扶桑略記、榮華物語、帝不許出宮、崩于宮中、年二十八、帝哀慟抱屍不去、權中納言源俊明奏曰、王者不近死者、宜移別宮、帝曰、自朕爲始、古事談、年二十八據扶桑略記、

一代要記、殯於備後守經成四條高倉第、中右記、永久二年、備後守據今鏡、○經成姓闕十月火葬于鳥部野、今鏡、建圓光院於醍醐山藏骨、百鍊鈔、古事談、廢朝三日、今鏡、帝悲哀殆絶寢食、扶桑略記、榮華物語、自是不復視諸節會、百鍊鈔、榮華物語、廢務期年、扶桑略記、每月作佛像、扶桑略記、榮華物語、建圓德院勝樂院常行堂慶之、一代要記、今鏡、堀河帝即位、追尊曰皇太后、一代要記、今鏡、中右記、

女御藤原道子、内大臣能長女也、一代要記、中右記、榮華物語、延久元年入東宮、扶桑略記、一代要記、爲御息所、今鏡、五年爲女御、一代要記、今鏡、敍從四位下、一代要記、居承香殿、今鏡、生善子内親王、出居家、不復入宮、一代要記、今鏡、承保二年準三宮、一代要記、及善子内親王爲伊勢齋、同輿赴齋宮、一代要記、今鏡、長承元年八月薨、年九十一、中右記、稱承香殿女御、中右記、今鏡、

典侍藤原經子、從三位經平女也、中右記、生覺行法親王、皇胤紹運錄、仁和寺御傳、中右記、

源師子、中宮賢子同母妹也、尊卑分脈、侍上東門

院、帝竊幸之、榮華物語生覺法法親王、皇胤紹運錄、仁和寺御傳、今鏡、榮華物語、

藤原氏、參議師兼女也、一代要記、歷代皇紀、生聖慧法親王、一代要記、歷代皇紀、皇胤紹運錄、今鏡、

源氏、陸奧守有宗女也、陸奧守據今鏡、有宗姓據尊卑分脈、稱備前、侍郁芳門院、中右記帝幸之、生僧圓行、中右記、今鏡、

藤原氏、木工權頭季實女也、生恂子內親王、皇胤紹運錄、今鏡、中右記、季實姓據尊卑分脈、

源氏、備中守政長女也、生僧行慶、皇胤紹運錄、今鏡、

源氏、參河守賴綱女也、生官子內親王、台記久安二年、今鏡、中右記、

祇園女御、不詳姓氏、中宮崩、後庭無當意者、女御在宮掖甚卑微、帝見而悅之、寵傾後宮、鞠育待賢門院、居祇園、故雖不賜宣旨、世稱祇園女御、又稱白河殿、今鏡又稱東御方、仁和寺諸堂記或云藏人源仲宗妻、帝脫屣後、入宮有寵、流仲宗於隱岐、東鑑、藏人據尊卑分脈、○分脈隱岐作讚岐或云女御在祇園、帝屢微行、及女御娠、賜平忠盛、平家物語女御嘗創堂於仁和寺、安佛像百軀、仁和寺諸堂記

賀茂女御亦起於微賤、姊曰宇禮志岐、妹曰伊波比遠、賀茂縣主重助二女也、俱入宮有寵、世稱賀茂女御、今鏡

堀河中宮、諱篤子、後三條帝第四女也、皇胤紹運錄、一代要記、貴女鈔、中右記、永久二年、○齋院記爲第七女陽明門院養爲子、治曆四年爲內親王、延久元年敘三品、中右記五年爲賀茂齋、中右記、齋院記、貴女鈔、一代要記、○今鏡係延久元年後三條帝崩罷職、中右記、一代要記、承曆三年

準三宮、中右記、扶桑略記、給陽明門院封邑千戶、兵範記仁安二年、扶桑略記、寬治五年爲女御、一代要記、歷代皇紀、中右記、七年二月立爲中宮、扶桑略記、中右記、以關白師實爲假父、扶桑略記饗於賀陽院三日、扶桑略記、後二條關白記、時年三十四、長於帝十九歲、中右記、今鏡、長治元年遷堀河院、百鍊鈔嘉承二年薙髮爲尼、一代要記、中右記、○要記一作三年誤永久二年十月崩于堀河院、年五十五、中右記、百鍊鈔、一代要記、帝王編年記、後拾遺往生傳、殯

於雲林院掌侍堂、廢朝五日、遺令用常所御車就殯所、宮司數人從之、停舉哀素服賻贈國忌山陵、中右記 中宮篤信佛法、誦阿彌陀經四十餘年矣、至崩不怠、後拾遺往生傳 每日供養法華經、中右記 建證菩提院、中右記、一代要記、百鍊鈔、

女御藤原茨子、大納言實季女也、一代要記、貴女鈔、承德二年爲女御、本朝世紀、一代要記、三年敍從四位上、一代要記 生鳥羽帝、初女御有身、其母詣賀茂社祈生男、夢神降其衣袂告曰、所生是男、有

物在閒木、當取之、驚而寤、摸索得銀龍、後上之鳥羽帝、建祠于四條坊門、祭神所降衣、又有一女子、來告女御侍女曰、所孕皇子也、貴不可言、右臂當有黑痣、侍女告后兄公實、公實欲見之、忽失其所在、及生果如其言、台記康治元年、續古事談、康和五年正月卒、年二十八、百鍊鈔、一代要記、卒年據本朝世紀、贈從二位、本朝世紀、一代要記、中右記、鳥羽帝即位、贈皇太后、天仁元年七月、敕置國忌於轉輪院、中右記、百鍊鈔、

王氏、神祇伯康資王女也、皇胤紹運錄、貴女鈔、齋院記、侍後冷泉藤原皇后、今鏡 帝幸之、生悰子內親王、皇胤紹運錄、貴女鈔、齋院記、

藤原氏、伊勢守時經女也、生最雲法親王、一代要記、今鏡、○皇胤紹運錄、時經作時綱、

藤原氏、近江守隆宗女也、生僧寬曉、皇胤紹運錄、今鏡、隆宗姓據尊卑分脈、○紹運錄一說大納言源師忠女、未詳孰是、

鳥羽藤原中宮、諱璋子、大納言公實女也、尊卑分脈、一代要記、貴女鈔、女院小傳、白河帝子養於宮中、既長

將嫁藤原忠通、有故不適、時白河帝爲帝擇配、敕忠通父忠實納女、忠實固辭、白河帝不平之、乃變約以后配帝、愚管鈔、永久五年敍從三位、爲女御、女院小傳、元永元年正月爲中宮、愚管鈔、女院小傳、寬平以後、大納言之女爲后者、唯三條藤原皇后與后耳、二年有身就家、五月生崇德帝、將娩赦輕囚、中右記 詔曰、答彼高禖之禮、臨其降誕之期、書不云乎、一人有慶、兆民賴之、宜緩罪科於殷綱、以望聖瑞於堯門、朝野

羣載、又命僧寬助修孔雀經法於西對、(中右記)尋生禧子內親王、(中右記、長承元年、歷代皇紀、帝王編年記、)上西門院、(一代要記、女院小傳、貴女鈔、)大治二年、又有身就家、白河帝幸白河伊豆堂、慶佛像二百餘、修法於仁和寺禱之、(中右記)九月生後白河帝、將娩赦囚、(源平盛衰記)道仁親王、君仁親王、本仁親王、皆其所生也、(皇胤紹運錄、百鍊鈔、)凡開院家得顯達者、皆階緣于后也、(愚管鈔、今鏡、)崇德帝即位、上號曰待賢門院、(帝王編年記、女院小傳、貴女鈔、今鏡、)后篤信佛法、創法金剛院、圓勝寺、建佛堂于興福寺、塔于圓德院泉殿賀茂數所、又置金泥大藏經於法金剛院、(百鍊鈔)屢從帝及崇德帝詣熊野、(中右記)康治元年、薙髮于法金剛院、(古記、百鍊鈔、一代要記、)法名眞如法、(一代要記、女院小傳、)帝及崇德帝臨焉、(古記)稱仁和寺女院、后幼時、白河帝鍾愛、置之懷抱、(今鏡)及稍長遂私之、爲中宮猶有醜聲、帝頗知之、遂不愛崇德帝、至謂之爲叔父子、(古事談)白河帝崩後、寵遂衰、時美福門院新得寵、(今鏡)有散

位源盛行、其妻津守島子后侍女也、以故盛行受后旨、召廣田社巫朱雀、咒詛美福門院、事覺、遣檢非違使捕盛行等、竝得銀筥於西宮神殿、盛行處流、(古記、百鍊鈔、津守據百鍊鈔、)后乳母子僧信朝、亦咒詛于日吉社、捕付檢非違使、時以爲后之所爲、由是后遂薙髮、與崇德帝同居三條高倉殿、久安元年四月違豫、自知不起、逆修冥福、八月帝臨視、即崩、(古記)年四十五、(一代要記、女院小傳、)帝擊磬哭泣、遵遺令、葬於石窟、(古記)廢朝五日、(園太曆)帝造佛像三軀、寫金泥五部大乘經法華經、又聚其平生手書、用金泥親寫阿彌陀經于紙背、崇德帝亦畫彌勒像、親書彌勒經、近衞帝供養百僧於圓勝寺、帝及崇德帝臨之、薦其冥福、(古記)

藤原皇后諱泰子、初名勳子、關白忠實女也、(中右記、貴女鈔、女院小傳、)帝踐阼初、白河帝命忠實納之、忠實辭而止、及帝遜位、猶欲納之、(愚管鈔、)至長承二年、遂入帝宮、時年三十九、(愚管鈔、一代要記、年三十

九（據女院小傳、）三年敍從四位下、準三宮、敕曰、有功必酬、遺彝範於竹帛、積德餘慶、傳嘉猷於枝葉、從四位下藤原勲子、三朝輔弼之長女、四德淑美之哲媛、令將分恩輝於茅土之貢、準徽譽於椒庭之儀、宜授邑五百戸、竝年爵内外官三分、（中右記、）尋立爲皇后、（中右記、今鏡、）及美福門院進、寵稍衰、（今鏡、）保延五年、上號曰賀陽院、（一代要記、帝王編年記、貴女鈔、）永治元年、薙髮于宇治小松、（歷代皇紀、）法名清淨理、（女院小傳、）仁平二年、與美福門

院從帝遊天王寺、（百錬鈔、）久壽二年嬰疾、十二月崩于土御門第、年六十一、（台記、女院小傳、土御門第據百錬鈔、）葬于福勝院護摩堂、（台記、百錬鈔、）

藤原皇后諱得子、中納言長實女也、（尊卑分脈、一代要記、女院小傳、今鏡、）帝薙髮後聞其美納之、大有寵、（今鏡、）保延二年敍從三位、（一代要記、女院小傳、）生叡子内親王、八條院、近衞帝、高松院、（今鏡、）五年爲女御、（一代要記、歷代皇紀、女院小傳、）永治元年準三宮、（女院小傳、）近衞帝即位、尊爲皇后、（一代要記、女院小傳、今鏡、）久安五年上號曰美福門院、（一代要記、女院小傳、）二條帝生、未幾失恃、后取鞠之、（今鏡、）近衞帝不豫、后以爲崇德帝及藤原頼長咒詛之所致、由是怨崇德帝、近衞帝崩、時人屬望於崇德皇子重仁親王、后以前怨不欲立之、勸帝立後白河帝、（保元物語、）以故後白河帝母事之、（玉蘂嘉禎元年、今鏡、）崇德帝大失望、保元之亂實起于后矣、保元元年、鳥羽帝違豫、后薙髮于鳥羽成菩提院、（保元物語、）法名眞性定、（女院小傳○本書曰、一作眞淨空、）帝臨崩憂念後事、使北

面士十人奉誓書於后、（愚管鈔○本書載源爲義平清盛等十人、與保元物語不合、未知孰是、）以鳥羽宮事一從后處分、（今鏡、）及亂作徵兵、源義朝等十人皆奉命、后又矯遺詔召平清盛、亂尋平、（保元物語、）后嘗創觀喜光院、金剛勝院、（百錬鈔、帝王編年記、）慶金泥大藏經於法勝寺、（台記、百錬鈔、）永曆元年十一月、崩于押小路殿、（山槐記、）年四十四、（百錬鈔、女院小傳、）廢朝三日、（山槐記、）初帝爲后造塔鳥羽東殿、爲藏骨之所、（百錬鈔、山槐記、）而后竊營堂於高野山、遺令藏骨、至是后

弟備後守時通往高野山藏之、（今鏡、）

橘氏、修理大夫俊綱女也、稱藤壺女御、生僧眞譽、（撰集鈔○本書姓闕、今據尊卑分脈補之、）

藤原氏、左大臣實能女也、（台記、山槐記、今鏡、）事美福門院、稱春日局、（台記、山槐記、）帝寵之、生頌子内親王、（台記、山槐記、今鏡、）

藤原氏、中納言實衡女也、生高松宮、（參取皇胤紹運錄、帝王編年記、今鏡、○按紹運錄載一女爲實衡女所生而無稱號、編年記今鏡有高松宮、而不記母氏、考尊卑分脈、實衡父及弟號高松、則高松宮者實衡女所生、因其母家之

稱也、）

藤原氏、參議家政女也、（尊卑分脈、一代要記、皇胤紹運錄、今鏡、）稱三條局、侍待賢門院、（百錬鈔、今鏡、）帝幸之、生姸子内親王、（一代要記、皇胤紹運錄、今鏡、）保延四年、爲河内守俊賢子成賢所殺于普賢堂、（參取百錬鈔、一代要記、今鏡、○俊賢姓闕、）俊賢坐擯于京外、（今鏡、）

紀氏、石清水別當光清女也、（皇胤紹運錄、紀氏系圖、今鏡、）稱美濃局、（皇胤紹運錄、紀氏系圖、）初侍白河帝、（今鏡、）鳥羽帝幸之、生道慧法親王、覺快法親王、雙林寺宮、（紀氏系圖、今鏡、○皇胤紹運錄一本高松院爲紀氏所生、誤、）

崇德藤原中宮諱聖子、關白忠通女也、大治三年、叙從三位、（一代要記、女院小傳、）四年爲女御、五年二月立爲中宮、（長秋記、女院小傳、）後冷泉四條后後、執政之女無爲后者、蓋八十年矣、后之立、時人以爲藤氏中興焉、（中右記）后患腹脹、以爲有身、及産月修法禱之、旣而水出復常、（續古事談）遂無子、鞠養近衞帝、（今鏡）近衞帝卽位、尊爲皇太后、（一代要記、女院小傳、今鏡、）久安六年、上號曰皇嘉門院、

（台記、一代要記、女院小傳、）帝徙讚岐、后憂戚斷髮爲尼、（百錬鈔、一代要記、女院小傳、今鏡、）法名清淨慧、（女院小傳○貴女鈔作蓮覺）養和元年嬰疾、自知不起、每日受戒於僧湛敎、及疾篤、後白河帝遣書問所欲言、后唯託姪良通而已、（玉海）十二月崩於九條殿、（一代要記、歷代皇紀、）年六十一、（一代要記、歷代皇紀、保曆間記、○百錬鈔、帝王編年記、女院小傳作年六十、）葬于最勝金剛院、后豫造石浮圖、手書銘、及葬建焉、遺令葬儀及修冥福之式皆從省約、（玉海）

源氏、參河權守師經女也、生僧元性、皇胤紹運錄、今鏡、

藤原氏、法勝寺執行信縁女也、台記、尊卑分脈、稱兵衞佐局、侍中宮、帝嬖之、寵傾中壼、然以僧之女、名位卑微、時大藏卿源行宗以善和歌爲帝近習、藤原氏父事之、及信縁死、父無所依、既而生重仁親王、恩幸倍渥、後從帝于讚岐、帝崩還京薙髮、今鏡・

近衞藤原皇后諱多子、右大臣公能女也、姑

夫左大臣藤原頼長子養之、百錬鈔、一代要記、歷代皇紀、今鏡、聽慧善書畫、曉音律、工箏琵琶、今鏡久安四年敍從三位、六年正月爲女御、台記、別記、三月立爲皇后、台記、別記、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、久壽二年帝崩、保元元年、以頼長故幽居近衞河原、源平盛衰記是歲後白河帝立、尊爲皇太后、帝王編年記三年爲太皇太后、公卿補任二條帝聞其美、諭旨公能納之宮、羣臣皆以爲不可、後白河法皇亦數爲言、帝不聽曰、天子無父母、何不任朕意、永曆元年遂入宮、時人謂之二代后、治承末還都福原、后留居近衞河原、后兄實定歸自福原、月夜訪之、平家物語、源平盛衰記、后擁琵琶彈秋風樂、實定吹笛、侍女小侍從彈箏、哀音悽切、左右皆垂泣、源平盛衰記建仁元年十二月崩、年六十二、帝王編年記○本書作年六十三、今據台記別記久安四年九歲及本書六年十一歲之文訂之、

藤原中宮諱呈子、太政大臣伊通女也、台記、一代要記、歷代皇紀、女院小傳、尊卑分脈、今鏡、初爲美福門院所子養、

台記鳥羽法皇欲使帝納之、時忠通攝政其妻后姑也、以故法皇使忠通子之、以入內、台記、今鏡、久安六年、敍從三位、爲女御、台記、女院小傳、尊卑分脈、尋爲中宮、一代要記、歷代皇紀、女院小傳、尊卑分脈、及帝崩薙髮、法名清淨觀、女院小傳、尊卑分脈、後白河帝卽位、尊爲皇后、保元三年、爲皇太后、帝王編年記、女院小傳、尊卑分脈、仁安三年、上號曰九條院、玉海、女院小傳、尊卑分脈、安元二年九月崩、玉海、百錬鈔、顯廣王記、年四十六、百錬鈔、顯廣王記、○女院小傳、後宮略傳作年四十二、

後白河藤原中宮諱忻子、右大臣公能女、近衛皇后姊也、一代要記、歷代皇紀、今鏡、久壽二年入内、台記、帝王編年記、○爲女御闕、今無所考、保元元年十月立爲中宮、居承香殿、今鏡平治元年改爲皇后、帝王編年記、今鏡、承安二年爲皇太后、玉海、帝王編年記、承元三年八月崩、年七十六、帝王編年記

平皇后諱滋子、兵部少輔時信女也、女院小傳、平氏系圖、初稱小辨、愚管鈔、古今著聞集、後稱東御方、玉海有殊寵、愚管鈔、古今著聞集、仁安元年敘從三位、女院小傳二年

爲女御、玉海、百鍊鈔、女院小傳、生高倉帝、高倉帝卽位、尊爲皇太后、帝王編年記、女院小傳、今鏡、古今著聞集明年上號曰建春門院、公卿補任、一代要記、貴女鈔、高倉帝覲其宮、隔簾拜之、宮人盛稱其榮、后曰、前生之因、吾不預焉、聞者稱之、古今著聞集后嘗從帝幸安藝嚴島有馬溫泉、玉海、百鍊鈔、篤信佛法、創最勝光院、百鍊鈔、元亨釋書、安元元年詣熊野賽宿禱、著鞋徒步、歷四十日至本宮、親舞胡飲酒於社前、大雨俄至、衣裳悉沾、不顧而竟舞、長門本平家物語明年六月違豫、詔大赦天下、常赦所不免者悉赦、吉記、百鍊鈔、后自知不起、辭院號年官爵封戶、玉海、吉記、薙髮受戒、吉記七月崩于法住寺殿、年三十五、一代要記嘗創法華三昧堂於蓮華王院側、及崩堂成、卽葬焉、玉海、百鍊鈔、詔天下舉哀禁殺生、長門本平家物語高倉帝親寫法華經、修其冥福、百鍊鈔

女御源懿子、大納言藤原經實女也、左大臣源有仁養爲子、尊卑分脈、今鏡、帝龍潛日納之、今鏡爲

女御、一代要記、尊卑分脈、康治二年六月生二條帝、數日卒、二條帝卽位、追尊爲皇太后、今鏡平治元年置國忌、年中行事

女御藤原琮子、内大臣公教女也、尊卑分脈、一代要記、歷代皇紀、今鏡、○要記一說、皇胤紹運錄作公能女誤、爲女御、居凝華舍、稱梅壺女御、今鏡後薙染爲尼、一代要記

藤原氏、右大臣公能女、中宮同母妹也、今鏡生惇子内親王、皇胤紹運錄、皇胤系圖、

高階榮子、僧章尋女也、帝王編年記初爲相模守

平業房妻、尊卑分脈、女院小傳、入宮稱丹後局、王海、女院小傳、○王海曰、丹波初爲娼入宮、號六條殿、又曰、帝賜淨土寺扁額於丹波、又曰、幸丹後淨土寺家、據此丹波丹後似是同人、本書壽永以前書丹波、文治以後書丹後、壽永亂、帝卜當立者、寵姬奏以夢中語、王海作丹波、帝王編年記、東鑑、平家物語、源平盛衰記等諸書皆作丹後、則榮子初稱丹波、後改丹後、亦不可知、而山槐記曰、承仁母娼、入宮號丹波、歷代皇紀裏書亦曰、承仁母六條殿、則稱丹波及六條者、承仁之母、而非榮子、今無取決、附以備考、敍從三位、王海進從二位、生宣陽門院、王海、皇胤紹運錄、女院小傳、○帝王編年記云、殷富門院母榮子、宣陽門院○母成子、按宣陽門院與帝同居六條殿、而榮子亦號六條殿、故今從王海等說爲榮子所生、帝大寵之、

以其宅在淨土寺、爲賜扁額、王海世稱淨土寺二位、愚管鈔、源平盛衰記、帝崩後、薙髮爲尼、東鑑榮子與承仁法親王親昵、頗有醜聲、及後鳥羽帝時、屢出入宮掖、爲人巧媚、善逢人主之意、又希源頼朝旨、每竊報朝廷消息于鎌倉、彼此阿順以取容、愚管鈔建久六年賴朝入朝、居六波羅、招榮子厚遇之、贈砂金三百兩、東鑑

藤原成子、大納言季成女也、敍從三位、稱高倉三位局、仁和寺御傳生守覺法親王、以仁王、殷富門院、式子内親王、好子内親王、休子内親王、皇胤紹運錄、○帝王編年記爲生宣陽門院

坊門局、兵衛尉信業女也、皇胤紹運錄、諸門跡譜、○信業姓闕、皇胤系圖作信重、生圓慧法親王、定慧法親王、靜慧法親王、僧恆慧、皇胤紹運錄○一代要記云、定慧恆慧母備中守大江信忠女、靜慧母丹波、皇胤系圖亦云、靜慧母同承仁、歷代皇紀云、定慧承仁之母兄、未知孰是、

紀氏、内膳司孝資女也、初爲娼、召入宮、生承仁法親王、天台座主記○皇胤紹運錄曰、母仁操女丹波、而不載其爲娼、山槐

記曰、母娼丹波局、歷代皇紀裏書曰、母六條殿、而並不載其爲仁操女、據王海則丹波又稱六條、即淨土寺二位榮子也、諸說紛紜、今不可考、故姑從座主記、

源氏、延暦寺僧仁操女也、皇胤紹運錄、山槐記、稱三條局、生道法法親王、僧眞禎、皇胤紹運錄○本書曰、承仁母仁操女丹波、而山槐記則曰、承仁母娼丹波、王海曰、娼丹波號六條、並不載其爲仁操女、按仁和寺御傳曰、仁操左大臣源有仁弟、尊卑分脈曰、有仁後三條帝皇子輔仁子、則仁操者帝之曾孫、有仁之姪也、其女不當爲娼、且藤原皇后懿子爲有仁養女、仁操女於后亦爲姪、則其爲娼亦可疑、今無所考、

大日本史卷之八十一終

大日本史卷之八十二

列傳第九

權中納言從三位源光圀　修

男權中納言從三位綱條　校

玄孫權中納言從三位治保重校

后妃九

二條中宮

藤原中宮

伊岐氏

某氏

中原氏

高倉平中宮

掌侍平氏

典侍藤原殖子

典侍藤原氏

藤原氏

藤原氏

葵前

後鳥羽藤原中宮

典侍某氏

藤原重子

源在子

藤原氏

藤原氏

源氏

尾張局

丹波局

土御門藤原中宮

典侍源通子

掌侍高階氏

掌侍源氏

源氏

藤原氏

源氏

藤原氏

源氏

某氏

某氏

某氏

丹波局

某氏

順德藤原中宮

藤原氏

藤原氏

藤原氏

宰相局

九條廢帝後宮某氏

後堀河藤原皇后

藤原中宮

藤原中宮

典侍藤原氏

典侍藤原氏

四條女御藤原彥子

二條中宮諱姝子、鳥羽帝女也、皇胤紹運錄、今鏡、○女院小傳爲第四女、一代要記、百鍊鈔第五女、紹運錄第六女、今無所考定、永治元年十一月生於六條殿、今鏡世稱乙姬宮、台記久安二年久壽元年爲内親王、女院小傳○一代要記爲入宮時事保元元年入東宮、百鍊鈔、女院小傳、居昭陽舍、今鏡二年準三宮、一代要記、女院小傳、後宮略傳、平治元年爲中宮、山槐記后無子、鞠養僧尊慧、吉記承安四年永曆元年因疾薙髮受戒、百鍊鈔、帝王編年記、女院小傳、法名實相覺、女院小傳○貴女鈔覺作觀應保二年進號高松院、貴女鈔、後宮略傳、安元二年六月崩於押小路殿、年三十六、

歷代皇紀葬於雲林院、顯廣王記○百鍊鈔作香隆寺

藤原中宮諱育子、左大臣實能女也、關白忠通養爲子、尊卑分脈應保元年爲女御、歷代皇紀、尊卑分脈、二年爲中宮、帝王編年記后無子、及六條帝生取育之、今鏡、皇胤紹運錄、愚管鈔、尊卑分脈、○今鏡以育子爲忠通女、六條帝爲實能女所生、誤、仁安三年薙髮、百鍊鈔承安二年歿曰皇后、玉海、皇帝記鈔、一代要記、帝王編年記、三年八月崩、年二十八、玉海、一代要記、皇帝記鈔、○尊卑分脈年二十七

伊岐氏、大藏大輔致遠女也、生六條帝、參取顯廣

王記、愚管鈔、○源平盛衰記作紀氏、誤、致遠皇胤紹運錄、皇年代略記並作善盛、神皇正統記兼盛、某氏、右馬助光成女也、○一代要記作右馬助光盛女生僧尊慧、皇胤紹運錄中原氏、大外記師元女也、一代要記、皇胤紹運錄、貴女鈔、齋院記、稱春日局、吉記生僐子內親王、一代要記、皇胤紹運錄、治承四年六月卒、吉記養和元年

高倉平中宮諱德子、太政大臣清盛女也、後白河法皇子養之、玉海、百錬鈔、源平盛衰記、承安元年敘

從三位爲女御、玉海、女院小傳、○後宮略傳一本爲治承元年二月入內、誤、明年爲中宮、玉海、源平盛衰記、清盛月詣嚴島、禱后生皇子、源平盛衰記、平家物語、治承二年后有身、出居重盛第、重盛第據歷代皇紀帝遣使四十一社七十四寺、召入僧及陰陽博士於禁中以禱產安、山槐記、源平盛衰記、免輕囚流人七十三人、○玉海作十五人、山槐記十三人、及產甚艱、或言藤原成親西光法師僧俊寬爲祟、清盛憂見於色、源平盛衰記后亦遣使石清水平野日吉禱之、山槐記中使接路、冠蓋相望、法皇臨產室、親誦千手經禱之、既生皇子、是爲安德帝、故事皇子生、升屋投甑、男南女北、是時誤投北、人皆異之、平家物語、源平盛衰記、養和元年上號曰建禮門院、壽永二年赴西海、玉海初后產難、母時子憂之、親往一條反橋駐車、聽輿人之誦以卜之、有童子十二人渡橋、拍手同唱曰、榻何榻、國王榻、八重潮路波寄榻、時子還告兄時忠、時忠曰、波寄榻未知爲何義、然國王榻蓋皇子之兆也、源平盛衰記及

安德帝崩海上、果如輿誦所言、后亦投海、以鐵撘鉤之、奉還京師、寓吉田僧房、薙髮受戒、平家物語、源平盛衰記、法名眞如覺、女院小傳、後宮略傳、徙居華山帝野河山莊、長門本平家物語家族滅後、自嫌近輦下、又徙大原寂光院旁、艸廬竹牀、僅蔽風日、帥典侍阿波內侍等皆爲尼、供薪水、法皇欲往唁之、而憚源賴朝不果、文治二年託幸補陀洛寺至其居、相泣敘往事、后具說軍中窘厄、橫受汚辱、嗚咽不禁、平家物語、源平盛衰記、建保

元年十二月崩于大原、（大原、據平家物語、源平盛衰記、）年五十七、（歷代皇紀○源平盛衰記作六十八、紹運要略五十八、女院小傳五十九、今據后爲中宮十六之文訂之、）后親糊安德帝宸翰及所手書故紙造其像、見在寂光院、

掌侍平氏、宮内少輔義範女也、（山槐記、皇胤紹運錄、）稱少將内侍、（一代要記）生惟明親王、（一代要記、皇胤紹運錄、）

典侍藤原殖子、修理大夫信隆女也、（皇胤紹運錄、百鍊鈔、女院小傳、）初事建禮門院、稱兵衛督、帝幸之、（增鏡）尋爲典侍、至從三位、（一代要記、女院小傳、）生後高倉院、

後鳥羽帝、（皇胤紹運錄、女院小傳、參取增鏡、）建久三年準三宮、（玉海、百鍊鈔、○一代要記作建久三年、誤、）進號曰七條院、（百鍊鈔）元久二年薙髮、（明月記、百鍊鈔、歷代皇紀、帝王編年記、女院小傳、○後宮略傳爲元久四年）法名眞如智、（女院小傳、後宮略傳、）及北條泰時等陷京師、遷後鳥羽帝於鳥羽殿、逼令薙髮、帝使藤原信實寫眞容、遺之七條院、七條院與修明門院同車往鳥羽殿謁帝、帝揭簾熟視、掉手令速去、女院皆悲泣、不得入宮而還、帝遂遷隱岐、（參取東鑑、承久記、）安貞二年九月薨、（百鍊鈔、一代要記、女院小傳、）年七十二、（一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、）

典侍藤原氏、參議賴定女也、稱按察典侍、生潔子内親王、（參取山槐記、貴女鈔、）

藤原氏、右近衞少將公重女也、稱帥局、生功子内親王、（參取玉海、山槐記、皇胤紹運錄、）治承三年正月卒、（玉海、山槐記、皇帝紀鈔、）

藤原氏、權中納言成範女也、（皇胤紹運錄、）稱小督局、（山槐記、平家物語、源平盛衰記、○長門本平家物語曰、藤原通憲季女、居三條小河、故號小河殿、）善彈箏琵琶、入宮大有寵、由是建禮

門院寵稍弛、（參取長門本平家物語、源平盛衰記、○平家物語曰、葵前卒、帝甚哀慟、中宮納小督慰之、未知孰是、）初小督在家、與藤原隆房私通、及入宮、隆房眷戀不已、隆房者清盛女婿、清盛以爲中宮寵衰、隆房憂鬱、皆由小督、因欲殺之、小督潛出宮、匿嵯峨民舍、帝悲憤、殆廢寢膳、清盛知其情、怒迎建禮門院、居于已第、使宮人不得進御、其意蓋欲窘帝也、廷臣亦憚清盛、入直者少、帝獨坐便殿、召侍臣無應者、久之彈正大弼源仲國、遙聞其聲而

進、帝曰、聞小督在嵯峨、汝爲朕覓之、乃裁書賜之、仲國駕寮馬而出、遍索無所得、行過龜山民舍、有彈箏者、聽之則小督也、仲國善笛、數侍内宴、熟小督指法、乃入門致書、具說帝旨、小督泣曰、聞清盛深憾妾、如在宮中而遭其毒螫、爲君王之累也、是以脫身至此、而此亦不可久栖止、明日將往大原事佛、仲國慰諭固止之、馳還奏之、帝悅、明夜密迎入宮、寵幸愈渥、生坊門院、清盛聞而益怒、使人收小

督、押送清閑寺、截髮逐之、時年二十三、（平家物語、參取源平盛衰記、○按長門本平家物語曰、清盛入宮、曳出小督、視其美心動、耳語曰、汝肯事我乎、小督曰、妾忝侍宮闈、曒日在天、豈敢有二、清盛大怒、髡首截耳鼻而放之、帝憂憤發病而崩、）帝臨崩、遺詔葬清閑寺、小督遂居大原、（源平盛衰記）不知所終、

葵前、中宮之婢也、帝嬖幸之、寵傾後宮、宮中呼曰葵女御、帝愧其聲、不復進御、關白基房察帝意、承間請養爲己子、以充嬪御、帝不聽曰、如所請、去位之後、間或爲之、朕在位而傚之、後人其謂之何、然是後帝眷念不已、書古歌賜葵前、葵前持歸家、遂成疾而死、（平家物語○源平盛衰記亦載此事、而葵作宿禰、基房作忠通、）

後鳥羽藤原中宮諱任子、攝政兼實女也、（一代要記、女院小傳、後宮略傳、紹運要略、）文治五年敍從三位、（玉海、仲資王記、女院小傳、後宮略傳、）建久元年爲女御、尋立爲中宮、年十八、長於帝七歲、（玉海、一代要記、帝王編年記、○女院小傳作年十七、）生春華門院、（一代要記、帝王編年記、愚管鈔、）建久七年出居八條院、初權大納言源通親傾巧阿世、與

帝乳母亂、欲納其所生女於宮、上皇宮人高階榮子亦與通親謀、窺伺帝舉動、陽以賴朝意勸帝勤政事、省遊豫、而密告賴朝以帝意不懌、因設詭辭、離間中宮及兼實、由是中宮寵衰、遂出宮、（愚管鈔）正治二年上號曰宜秋門院、（玉海、一代要記、）建仁元年爲尼、法名清淨智、（一代要記、帝王編年記、法名據女院小傳、○歷代皇紀爲建保元年、）建曆二年辭院號年官年爵、（皇帝紀鈔、帝王編年記、女院小傳、）曆仁元年十二月崩、（歷代皇紀）年六十六、（據玉海爲中宮年十八文○歷代皇紀女

院小傳作六十五、誤、
典侍某氏稱少納言典侍、生僧道守、一代要記、皇胤紹運錄、

藤原重子、式部少輔範季女也、參取皇胤紹運錄、尊卑分脈、女院小傳、○百錬鈔承元元年重子作親子生順德帝、仲資王記、女院小傳、歷代皇紀、雅成親王、一代要記、帝王編年記、皇胤紹運錄、寬成親王、仲資王記、百錬鈔、皇胤紹運錄、諸門跡譜、初源在子甚幸於帝、既而愛弛、由是重子得寵、愚管鈔建久九年敍從三位、尋進從二位、女院小傳稱二條君、增鏡承元元

年準三宮、進號脩明門院、歷代皇紀、院號定部類記引外記賴平記、帝嘗集羣臣於水無瀨殿賭射、遣近習乞賭物於門院以試之、門院乃與之韓櫃甚重、啓視之錢也、使者意鄙之、帝笑曰、門院知故事、殿上賭射、賭以錢、是故事也、顧汝曹不之知而已、增鏡承久三年北條泰時逼帝薙髮、門院亦爲尼、百錬鈔、光臺院御室傳、法名法性覺、十一月辭院號、年官年爵封戸諸司例給等、女院小傳屏居岡碕、參取明月記、平戸記、後有盜闌入焉、門院畏避之四辻、平戸記文永元年八月薨、年八十三、歷代皇紀、女院小傳、

源在子、法勝寺執行能圓女也、尊卑分脈、五代帝王物語、增鏡、壽永之亂、能圓奔西海、在子與母藤原氏在京師、母與參議源通親姦、愚管鈔、藤原氏據尊卑分脈、通親視在子如己子、入宮稱宰相君、生土御門帝、增鏡、帝王編年記、○女院小傳作內大臣通親女皇女某、明月記寬喜二年帝將禪位、時儲貳未定、帝意在爲仁長仁二皇子而疑所立、齋戒登石灰壇、拜大神

宮者七日、探籌卜之得爲仁、帝雅意屬長仁、以卜不從頗不樂、及上食輟箸不御、沉吟久之曰、無如之何、無如之何、左右不知故、時在子陪膳、帝顧曰、往語通親、今宮膳羞宜加意、在子悟其意、喜不自持、走告通親、通親亦大喜、爲仁親王遂踐大位、是爲土御門帝、在子本姓藤原、以僧女不可爲國母、因以通親爲父、冒源姓、五代帝王物語後及母死、在子與通親亂、由是寵漸弛、愚管鈔土御門帝即位、敍從三位、

准三宮、業資王記、百錬鈔、女院小傳、建仁二年進號曰承明門院、一代要記、女院小傳、院號定記、部類記引帥入道記外記記、建暦元年爲尼、法名眞如妙、女院小傳、後嵯峨帝龍潛日、從門院居土御門殿、及卽位、屢如土御門殿、世以爲榮、增鏡、正嘉元年七月薨、年八十七、增鏡、歷代皇紀、帝王編年記、女院小傳、○百錬鈔作八十六、一代要記八十八、廢朝三日、園太暦貞和二年、

藤原氏、內大臣信清女也、帝王編年記、皇胤紹運錄、諸門跡譜、一代要記、○女院小傳作信隆女、稱西御方、帝王編年記、平戸記寬元三年、又稱坊門局、帝王編年記、仲資王記元久元年、一代要記、生長仁親王、帝王編年記、皇胤紹運錄、諸門跡譜、賴仁親王、帝王編年記、平戸記寬元三年、○一代要記爲少納言典侍所生、誤、嘉陽門院、皇胤紹運錄、女院小傳、從帝隱岐、帝崩歸京師、平戸記寬元三年、

藤原氏、大納言定能女也、稱大宮局、生尊圓法親王、僧行超、一代要記、皇胤紹運錄、

源氏、少納言信康女也、一代要記、帝王編年記、尊卑分脉、稱兵衛督局、歷代皇紀○皇胤紹運錄作丹波局、生肅子內親王、皇帝紀鈔

尾張局、法眼顯清女也、生朝仁親王、皇胤紹運錄、諸門跡譜、代要記、

丹波局名石、父織簾爲業、以舞女入宮有寵、明月記、後稱右衛門督、生熙子內親王、皇胤紹運錄、

瀧、姬法師亦並以舞女入宮、瀧生覺仁法親王、一代要記、皇胤紹運錄、○要記稱丹波局、今不取、姬法師生僧覺譽、一代要記、皇胤紹運錄、諸門跡譜、僧道伊、僧道緣、皇胤紹運錄

土御門藤原中宮諱麗子、太政大臣實賴女也、歷代皇紀、一代要記、女院小傳、元久二年敍從三位、皇帝紀鈔、百錬鈔、女院小傳、爲女御、一代要記、百錬鈔、女院小傳、七月立爲中宮、皇帝紀鈔○一代要記作四月、承元四年進號陰明門院、歷代皇紀、女院小傳、諡號雜記、承久三年爲尼、帝王編年記、女院小傳、紹運要略、○歷代皇紀爲二年事、寬元元年九月崩、年五十九、百錬鈔、歷代皇紀、女院小傳、

典侍源通子、參議通宗女也、生後嵯峨帝、皇胤紹運錄、貴女鈔、仁助法親王、靜仁法親王、一代要記、帝王編年記、皇胤紹運錄、○諸門跡譜靜仁爲治部卿局所生、正親町院、歷代皇紀、皇胤紹運錄、仁治三年七月追尊曰皇太后、置山陵、

國忌齋、百錬鈔、皇太后據神皇正統記、一代要記、

掌侍高階氏、大舍人頭仲資女也、一代要記、帝王編年記、記、皇胤紹運錄、大舍人頭據高階系圖、稱美作掌侍、皇胤紹運錄、諸門跡譜、生道仁法親王、帝王編年記、諸門跡譜、皇女某、一代要記、

掌侍源氏、貞光女也、生秀子、參取一代要記、皇胤紹運錄、

源氏、贈皇太后同母妹也、生春子、參取一代要記、皇胤紹運錄、

藤原氏、中納言範光女也、稱宮內卿局、生知子、參取一代要記、皇胤紹運錄、承元元年五月卒、明月記、

源氏、權中納言有雅女也、生仙華門院、歷代皇紀、

藤原氏、法印定勝女也、一代要記、藤原氏據尊卑分脈、稱治部卿局、一代要記、皇胤紹運錄、諸門跡譜、生道圓法親王、諸門跡譜、信子、參取一代要記、皇胤紹運錄、

源氏、僧都證遍女也、稱左京大夫局、參取一代要記、尊卑分脈、生諱子內親王、一代要記、

某氏、法眼覺亮女也、生尊守法親王、帝王編年記○皇胤紹運錄、諸門跡譜、法眼作法橋、一代要記亮作宴、

某氏、法眼圓譽女也、○一代要記作律師兼尊女、帝王編年記譽作基、生最仁法親王、一代要記、帝王編年記、皇胤紹運錄、諸門跡譜、

某氏、法印尋慧女也、生尊助法親王、一代要記、帝王編年記、皇胤紹運錄、

丹波局、法橋雲顯女也、生是子、參取一代要記、皇胤紹運錄、

某氏、律師兼尊女也、生僧增仁、一代要記、

順德藤原中宮諱立子、攝政良經女也、一代要記、歷代皇紀、皇胤紹運錄、女院小傳、承元三年入東宮、玉蘂、百錬鈔、一代要記、○歷代皇紀爲四年事誤、四年敘從三位、皇帝紀鈔、女院小傳、

爲女御、皇帝紀鈔、歷代皇紀、女院小傳、○一代要記係五年、建曆元年準三宮、業資王記、立爲中宮、皇帝紀鈔、一代要記、歷代皇紀、帝王編年記、生九條廢帝、帝王編年記、明義門院、歷代皇紀、貴女鈔、女院小傳、○一代要記義作喜、爲藤原信清女所生誤、后天資莊重寡言、善和歌及箏、承久亂後、屏居山莊、居常悽然、詠和歌以寓懷、增鏡、及後堀河帝卽位、上號曰東一條院、帝王編年記、紹運要略、諡號雜記、嘉祿二年爲尼、歷代皇紀、紹運要略、法名清淨觀、女院小傳、寶治元年十二月崩、年五十七、歷代皇紀、女院小傳、

藤原氏、內大臣信清女也、生永安門院、皇胤紹運錄、

藤原氏、權中納言範光女也、生彥成王、善統親王、尊卑分脈、

藤原氏、從三位清季女也、生忠成王、皇胤紹運錄、尊卑分脈、尊覺法親王、覺慧法親王、諸門跡譜、尊卑分脈、

宰相局、法印公雅女也、生皇子某、仁和寺日次記、建保五年、

九條廢帝後宮某氏、法印性慶女也、稱右京大夫、歷代皇紀、女院小傳、性慶女據皇胤紹運錄、生和德門院、皇胤紹運錄、

後堀河藤原皇后諱有子、太政大臣公房女也、一代要記、歷代皇紀、女院小傳、貞應元年敘從三位、爲女御、女院記、女院小傳、二年立爲中宮、嘉祿二年改曰皇后、一代要記、歷代皇紀、時中宮父關白家實專權、以故不得在宮、出居淨土寺、后固有寵、帝愛念不輟、書問相踵、增鏡、安貞元年進號安喜門院、一代要記、歷代皇紀、紹運要略、謚號雜記、寬元四年爲尼、法名眞清淨、女院小傳、弘安九年二月崩、年八十、歷代皇紀、女院小傳、

藤原中宮諱長子、關白家實女也、一代要記、女院小傳、嘉祿二年敘從三位、爲女御、女院小傳、尋爲中宮、年九歲、一代要記、女院小傳、五代帝王物語、無寵、會家實罷職、前攝政道家爲關白、道家欲納女、后出居別宮、增鏡、寬喜元年進號鷹司院、明月記、一代要記、歷代皇紀、爲四條帝準母、玉蘂、嘉禎三年、百鍊鈔、寬元四年爲尼、百鍊鈔、女院小傳、法名蓮華性、女院小傳、建治元年二月崩、年五十八、帝王編年記、女院小傳、

藤原中宮諱竴子、關白道家女也、一代要記、歷代皇紀、皇胤紹運錄、女院小傳、寬喜元年敘從三位、尋爲女御、二年爲中宮、明月記、女院小傳、生四條帝、皇胤紹運錄、天福元年上號曰藻壁門院、一代要記、院號定部類記引番記、及外記、初後鳥羽中宮加院號也、議者以藻壁門擬之、兼實以爲不吉、改爲宜秋門院、至是宜秋門院謂左右曰、前日以爲不吉、而今乃吉歟、蓋譏道家不知祖父之所議也、方議院

號、藻璧門倒、世以爲不祥、明月記九月生皇子、皇子殤、而后亦崩、年二十五、明月記、百錬鈔、歴代皇紀、女院小傳、后容貌姝艷、寵遇無比、先是帝弗豫、會后崩、悼思不已、遂至不諱云、増鏡

典侍藤原氏、權中納言家行女也、一代要記、歴代皇紀、女院小傳、稱別當典侍、一代要記生室町院、神仙門院、女院小傳○皇胤紹運錄、爲藻璧門院所生

典侍藤原氏、權大納言兼良女也、稱大納言局、明月記寛喜三年、尊卑分脈、生昰子内親王、明月記、皇胤紹運錄、

四條女御藤原彦子、攝政教實女也、歴代皇紀、女院小傳、仁治二年敘從三位、百錬鈔、女院小傳、爲女御、年九歳、増鏡○百錬鈔爲年十四、女院小傳十五、三年準三宮、歴代皇紀、女院小傳、寛元元年進號宣仁門院、百錬鈔、歴代皇紀、女院小傳、四年爲尼、女院小傳、紹運要略、法名清淨阿、女院小傳弘長二年正月薨、歴代皇紀、女院小傳、年三十、據増鏡仁治二年九歳文○歴代皇紀爲二十、女院小傳三十六、

大日本史卷之八十二終

日本漢文史籍叢刊

紀傳體

第一輯

[General Information]
书名=14664005
SS号=14664005